

木古内町

釜谷10遺跡

－ 高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 －

平成29年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

木古内町

釜谷
10
遺跡

公益財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書

第344集

平成29年度

木古内町

釜谷10遺跡

－高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書－

平成29年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



1 遺構群完掘状況 (NE →)



2-1 南側から見た調査区 (SW →)



2-2 遺構群調査状況 (E →)

例 言

- 1 本書は高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事に伴い、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成28年度に実施した木古内町釜谷10遺跡の埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 調査及び報告書の作成は第1調査部第4調査課（平成28年度）、第3調査課（平成29年度）が担当した。
- 3 本書の作成にあたっては、遺構調査を藤井浩、直江康雄が分担し、遺物整理を藤井が担当した。編集・総括は藤井が行なった。分担項目のある第4章及び第7章においては直江担当分のみ文末に文責を付した。
- 4 写真の撮影は現地調査時には藤井、直江が担当し、出土遺物の撮影及び写真図版の編集は第1調査部第1調査課中山昭大の協力を得た。
- 5 各種分析・鑑定は下記に委託した。

放射性炭素年代（AMS）測定	（株）加速器分析研究所
炭化種実同定	パレオ・ラボ（佐々木由香・バンダリ スダルシャン）
炭化材の樹種同定	パレオ・ラボ（黒沼保子）
黒曜石製遺物の原材産地分析	有限会社 遺物材料研究所
- 6 石器の石材鑑定については第2調査部第3調査課立田理の協力を得た。
- 7 調査終了後の出土資料は、木古内町教育委員会で保管活用される。
- 8 調査にあたっては下記の諸機関および人々のご協力をいただいた（順不同、敬称略）

北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課、木古内町教育委員会、北斗市教育委員会
知内町教育委員会

（以下、順不同）

木古内町教育委員会 木元豊、北斗市教育委員会 森靖裕、知内町教育委員会 竹田聡・高橋豊彦
厚沢部町教育委員会 石井淳平、今金町教育委員会 宮本雅通、今金町役場 寺崎康史
上ノ国町教育委員会 斉藤邦典・塚田直哉、七飯町教育委員会 山田央
江差町教育委員会 奥山さとみ・尾山徹、檜山考古学研究会 松崎水穂
松前町教育委員会 前田正憲、佐藤雄生、森町教育委員会 高橋毅
八雲町郷土資料館 柴田信一・大谷茂之、特定非営利活動法人函館市埋蔵文化財事業団
市立函館博物館 田原良信・佐藤智雄・野村雄一、函館市教育委員会 福田裕二・吉田力
北海道考古学研究所 横山英介、木古内町役場 鈴木慎也
熊本大学大学院人文社会科学部 小畑弘己

記号等の説明

- 1 遺構については、以下の略号とともに確認順に番号を付けた。
H 住居跡 P 土坑 F 焼土 HP 住居内の柱穴・土坑
- 2 グリッド名及び遺構名の標記については下記の通り区分した。
グリッド P10 遺構名 P-10 (土坑P-10)
- 3 掲載した実測図の縮尺は原則として以下のとおりである。個々にスケールを付した。
遺構 1 : 40 遺構図一部拡大 出土状況図 1 : 20
復元土器 1 : 3 土器拓影 1 : 3 土製品・石製品 1 : 2
剥片石器 1 : 2 礫石器 1 : 3 遺構に伴う加工痕のある大型礫 1 : 4
- 4 遺構平面図内及び土層断面図に標記した数字は、標高(単位m)を示している。
- 5 層位については基本土層をローマ数字、その他の層をアラビア数字により表した。
- 6 遺物実測図中で記されたV-Vはたたき石等のたたき痕、I-Iはすり石などのすり痕を表現し、自然面はドット、節理面は斜めの実線と破線の繰り返しで表現した。また、使用によると思われる光沢の範囲は灰色、アスファルトなどの付着は黒塗りで表現した。
- 7 遺構の図面のうち、遺物出土状況を表したものの一部に以下のシンボルマークを使用した。
土器○、剥片石器、土・石製品：☆ 礫石器△、剥片：□、礫：◎
- 8 遺構の規模、土器、石器等の大きさの表現において、部分や破損を伴うものについては()を付して記した。

目 次

口絵	
例言	
記号等の説明	
目次	
挿図目次	
表目次	
図版目次	
第1章 調査の概要	1
第2章 遺跡と環境	4
第3章 発掘調査及び整理の方法	8
1 調査区の設定	8
2 発掘調査の方法	8
3 整理作業の方法	11
第4章 遺構	14
1 遺構の概要	14
2 遺構	17
(1) 竪穴住居跡	17
(2) 土坑	23
(3) 焼土	49
(4) 遺物集中出土地区	62
(一覧表)	64
第5章 遺物	75
1 遺物の概要	75
2 土器	75
3 石器	88
4 礫	90
5 土製品・石製品	106
6 石器接合資料	106
(一覧表)	109
第6章 分析の成果	
1 試料採取及び分析内容について	136
2 釜谷10遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定) (株) 加速器分析研究所	136
3 木古内町釜谷10遺跡から出土した炭化種実 佐々木由香・バンダリ スダルシャン (パレオ・ラボ)	144
4 釜谷10遺跡出土炭化材の樹種同定 黒沼保子 (パレオ・ラボ)	146
5 木古内町釜谷10遺跡出土黒曜石製遺物の原材産地分析 有限会社 遺物材料研究所	151
6 釜谷10遺跡出土土器の圧痕調査報告 熊本大学大学院人文社会科学部 小畑弘己	162
第7章 調査の成果	165

1 遺構群について	165
2 土器群について	167
3 石器群について	167
4 接合作業の成果	168
5 遺跡周辺の石材環境	172
引用参考文献	184
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

図1-1 遺跡の位置	2	図4-20 土坑 P-9・13・17 土器	41
図2-1 遺跡の位置と周辺遺跡	5	図4-21 土坑 P-10・12 土器	42
図2-2 遺跡周辺地形概要図	7	図4-22 土坑 P-3・8・9・12・13・17 石器	43
図3-1 土壌群の生成と堆積の概要	8	図4-23 土坑 P-9 石器	44
図3-2 調査区の設定	9	図4-24 土坑 P-12・17 石器(石核)	45
図3-3 基本土層及び調査区地形断面図	10	図4-25 土坑 P-1 石器(加工痕のある礫)	46
図4-1 遺構等位置図	15	図4-26 土坑 P-2・4・17 石器(礫石器)	47
図4-2 遺構群要図	16	図4-27 土坑 P-9・10・18 石器(礫石器)	48
図4-3 竪穴住居跡 H-1	18	図4-28 焼土 F-1・24・26	50
図4-4 竪穴住居跡 H-1 土器(1)	19	図4-29 焼土 F-2・3・9・28	51
図4-5 竪穴住居跡 H-1 土器(2)	20	図4-30 焼土 F-4・10・11・17・19	53
図4-6 竪穴住居跡 H-1 石器	21	図4-31 焼土 F-6・7・8・22・25・27	55
図4-7 竪穴住居跡 H-2 焼土 F-23	22	図4-32 焼土 F-12・16・18	58
図4-8 土坑 P-1・6・8・13	24	図4-33 焼土 F-2・3・4・6・12・16・25・26	63
図4-9 土坑 P-2 焼土 F-20	25	土器・石器	
図4-10 土坑 P-3	27	図5-1 土器(1) 貼付帯及び折返口縁を特徴とする土器	78
図4-11 土坑 P-4・5・7 焼土 F-5・13・14・15	29	図5-2 土器(2) 縄線文を特徴とする土器	79
図4-12 土坑 P-9	31	図5-3 土器(3) 縄文を特徴とする土器(1)	80
図4-13 土坑 P-10	33	図5-4 土器(4) 縄文を特徴とする土器(2)	81
図4-14 土坑 P-11 M22・O22遺物集中出土地区	35	図5-5 土器(5) 撚糸文を特徴とする土器	82
図4-15 土坑 P-12	36		
図4-16 土坑 P-15	37		
図4-17 土坑 P-17	38		
図4-18 土坑 P-18	39		
図4-19 土坑 P-3・4・5・7・11 土器	40		

図5-6 土器(6) 蛇行沈線及び無文を特徴とする土器	83
図5-7 土器(7) 沈線文を特徴とする土器(1)	84
図5-8 土器(8) 沈線文を特徴とする土器(2)	85
図5-9 土器(9) 沈線文を特徴とする土器(3) ほか	86
図5-10 土器(10) 特徴のある土器底部	87
図5-11 石器(1) 石鏃・石錐(1)	91
図5-12 石器(2) 石錐(2)・つまみ付きナイフ・スクレイパー(1)	92
図5-13 石器(3) スクレイパー(2)	93
図5-14 石器(4) スクレイパー(3)	94
図5-15 石器(5) スクレイパー(4)	95
図5-16 石器(6) スクレイパー(5)	96
図5-17 石器(7) 篋状石器	97
図5-18 石器(8) 両面調整石器・Rフレイク	98
図5-19 石器(9) 石核(1)	99
図5-20 石器(10) 石核(2)	100
図5-21 石器(11) 石核(3)	101
図5-22 石器(12) 石斧	102
図5-23 石器(13) たたき石(1)	103
図5-24 石器(14) たたき石(2)	104
図5-25 石器(15) たたき石(3)・扁平打製石器・すり石・土製品・石製品	105
図6-2-1 暦年較正年代グラフ(参考)	141
図6-2-2 暦年較正年代グラフ(マルチプロット図)	143
図6-5-1 日本・朝鮮半島・極東ロシア・アラスカ州における表6-5-1使用の石器原材伝播図	159
図6-5-2 黒曜石原産地	159
図7-1 主な分析同定特定結果及び対象遺構位置図	166
図7-2 特徴的な遺物接合関係図	169
図7-3 石材の調査地点	174
図7-4 発掘区出土遺物分布(1)	179
図7-5 発掘区出土遺物分布(2)	180

図7-6 発掘区出土遺物分布(3)	181
図7-7 発掘区出土遺物分布(4)	182
図7-8 発掘区出土遺物分布(5)	183

表目次

表1-1 出土遺構一覧(時期別)	3
表1-2 出土遺物概要一覧	3
表2-1 釜谷地区の遺跡一覧	4
表2-2 釜谷8遺跡との調査成果比較一覧	7
表4-1 遺構一覧	64
表4-2 遺構別出土遺物一覧	66
表4-3 掲載土器一覧(遺構)	67
表4-4 掲載石器一覧(遺構)	73
表5-1 包含層出土遺物一覧	109
表5-2 掲載土器一覧(包含層)	111
表5-3 掲載石器等一覧(包含層)	121
表5-4 接合資料一覧	125
表6-1-1 分析内容及び結果概要一覧	137
表6-2-1 放射性炭素年代測定結果	139
表6-2-2 放射性炭素年代測定結果(1)	140
表6-2-2 放射性炭素年代測定結果(2)	141
表6-3-1 木古内町釜谷10遺跡から出土した炭化種実	144
表6-4-1 樹種同定結果	147
表6-5-1 黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差値	160
表6-5-2 湧別川河口域の河床から採取した247個の黒曜石円礫の分類結果	158
表6-5-3 常呂川(中ノ島～北見大橋)から採取した661個の黒曜石円礫の分類結果	158
表6-5-4 サナブチ川から採取した80個の黒曜石円礫の分類結果	161
表6-5-5 金華地区から採取した20個の黒曜石円礫の分類結果	161
表6-5-6 生田原川支流支線川から採取した19個の黒曜石円礫の分類結果	161
表6-5-7 生田原川支流大黒沢川から採取した5個の黒曜石円礫の分類結果	161

表6-5-8 木古内町釜谷10遺跡出土黒曜石フレイク・チップの元素比分析結果……………	161
表6-5-9 木古内町釜谷10遺跡出土黒曜石フレイク・チップの産地分析結果……………	161
表6-6-1 釜谷10遺跡から検出した圧痕の属性……………	164
表7-1 特徴的な接合関係一覧……………	170
表7-2 石材の産出量と形状の状況……………	174

図版目次

口絵1 遺構群完掘状況 (NE→)	
口絵2-1 南側から見た調査区 (SW→)	
口絵2-2 遺構群調査状況 (E→)	
図版6-3-1 木古内町釜谷10遺跡から出土した炭化種実……………	145
図版6-4-1 釜谷10遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(1)……………	149
図版6-4-2 釜谷10遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(2)……………	150
図版6-6-1 釜谷10遺跡土器圧痕 レプリカ SEM画像1……………	163
図版6-6-2 釜谷10遺跡土器圧痕 レプリカ SEM画像2……………	164
図版7-1 石材の産出量と形状の状況(1) ……	175
図版7-2 石材の産出量と形状の状況(2) ……	176
図版7-3 石材の産出量と形状の状況(3) ……	177
図版7-4 石材の産出量と形状の状況(4) ……	178
(写真図版)	
図版4-1 竪穴住居跡H-1	
1 覆土中遺物出土状況 (SW→)	
2 土層断面 (A-B) (SW→)	
3 土層断面 (C-D) (NW→)	
図版4-2 竪穴住居跡H-1(2)	
1 完掘状況 (SW→)	
2 床面上遺物出土状況 (SW→)	
3 HP-1土層断面 (SE→)	
4 HP-3土層断面 (SE→)	
5 HP-4土層断面 (SE→)	

図版4-3 竪穴住居跡H-2	
1 完掘状況 (S→)	
2 F-23 (H-2炉跡) 確認状況 (SW→)	
3 F-23 (H-2炉跡) 土層断面 (S→)	
4 HP-3土層断面 (NE→)	
5 HP-5土層断面 (SE→)	
6 HP-7土層断面 (SE→)	
7 HP-10土層断面 (E→)	
図版4-4 土坑(1) P-1 P-5	
1 土坑P-1土層断面及び遺物出土状況 (SE→)	
2 土坑P-1確認状況 (W→)	
3 土坑P-1完掘状況 (S→)	
4 土坑P-5土層断面 (SE→)	
5 土坑P-5完掘状況 (SE→)	
図版4-5 土坑(2) P-2 P-7	
1 土坑P-2確認状況 (SW→)	
2 土坑P-2遺物出土状況 (W→)	
3 土坑P-2完掘状況 (SW→)	
4 土坑P-7遺物出土状況 (SE→)	
5 土坑P-7完掘状況 (SE→)	
図版4-6 土坑(3) P-3	
1 覆土上層遺物出土状況 (SE→)	
2 土層断面、遺物出土状況 (N→)	
3 焼土及び土層断面 (NE→)	
4 覆土中層遺物出土状況 (NE→)	
5 完掘状況 (NW→)	
図版4-7 土坑(4) P-4 P-11	
1 土坑P-4確認状況 (NE→)	
2 土坑P-4完掘状況 (SE→)	
3 土坑P-4遺物出土状況及び土層断面 (NE→)	
4 土坑P-11土層断面 (NE→)	
5 土坑P-11完掘状況 (NE→)	
図版4-8 土坑(5) P-9	
1 確認状況 (NE→)	
2 確認面石斧出土状況 (S→)	
3 覆土上層遺物出土状況 (SW→)	
4 覆土下層遺物出土状況 (SW→)	
5 土層断面 (SW→)	

- 6 完掘状況 (W→)
- 図版4-9 土坑(6) P-10
- 1 遺物出土状況(1) (NE→)
 - 2 遺物出土状況(2) (SE→)
 - 3 土層断面 (NE→)
 - 4 遺物出土状況 (NW→)
 - 5 完掘状況 (E→)
- 図版4-10 土坑(7) P-12
- 1 確認状況 (NE→)
 - 2 土層及び遺物出土状況 (NE→)
 - 3 覆土上層遺物出土状況 (NE→)
 - 4 覆土下層遺物出土状況 (NE→)
 - 5 土層断面及び遺物出土状況 (NE→)
 - 6 完掘状況 (SW→)
- 図版4-11 土坑(8) P-6 P-13 P-15
- 1 土坑P-6確認面遺物出土状況 (W→)
 - 2 土坑P-6遺物出土及び土層断面 (SW→)
 - 3 土坑P-6完掘状況 (NW→)
 - 4 土坑P-13遺物出土状況及び完掘状況 (SE→)
 - 5 土坑P-15土層断面 (S→)
 - 6 土坑P-15完掘状況 (SE→)
- 図版4-12 土坑(9) P-17
- 1 完掘状況 (SE→)
 - 2 土層断面 (SE→)
 - 3 土層断面 (SW→)
 - 4 坑底遺物出土状況 (S→)
 - 5 坑底遺物出土状況 (詳細) (S→)
- 図版4-13 土坑(10) P-8 P-18ほか
- 1 土坑P-8 P-1土層断面 (S→)
 - 2 土坑P-18完掘 (SE→)
 - 3 N24 (旧土坑P-14)遺物出土状況 (NE→)
 - 4 土坑P-9・10・11調査状況 (S→)
- 図版4-14 焼土(1) F-1・2・3・4・6・7・8
- 1 焼土F-1確認状況 (NE→)
 - 2 焼土F-2・3確認状況 (E→)
 - 3 焼土F-2土層断面 (NE→)
 - 4 焼土F-3土層断面 (E→)
 - 5 焼土F-4土層断面 (SE→)
 - 6 焼土F-6土層断面 (SE→)
- 7 焼土F-7土層断面 (S→)
- 8 焼土F-8土層断面 (SE→)
- 図版4-15 焼土(2) F-5・9・10・11・12・13・19
- 1 焼土F-9土層断面 (N→)
 - 2 焼土F-10確認状況 (SE→)
 - 3 焼土F-11確認状況 (NE→)
 - 4 焼土F-19土層断面 (SW→)
 - 5 焼土F-12確認状況 (W→)
 - 6 焼土F-12土層断面 (W→)
 - 7 焼土F-5確認状況 (SE→)
 - 8 焼土F-13確認状況 (SE→)
- 図版4-16 焼土(3) F-14・15・16・17・18・20・22
- 1 焼土F-14確認状況 (SE→)
 - 2 焼土F-15確認状況 (SE→)
 - 3 焼土F-16確認状況 (W→)
 - 4 焼土F-16土層断面 (SE→)
 - 5 焼土F-17確認状況 (SE→)
 - 6 焼土F-18確認状況 (NE→)
 - 7 焼土F-20確認状況 (SW→)
 - 8 焼土F-22土層断面 (S→)
- 図版4-17 焼土(4) F-24・25・26・27・28
- 1 焼土F-24(1)確認状況 (W→)
 - 2 焼土F-24(2)確認状況 (N→)
 - 3 焼土F-25確認状況 (NW→)
 - 4 焼土F-26確認状況 (SE→)
 - 5 焼土F-27土層断面 (S→)
 - 6 焼土F-28確認状況 (S→)
 - 7 焼土F-28土層断面 (SE→)
- 図版4-18 遺物出土状況(1)
- 1 一括土器 (図5-9-19) 出土状況上層 (E→)
 - 2 一括土器 (図5-9-19) 出土状況下層 (E→)
 - 3 両面調整石器 (図5-18-1) 出土状況 (W→)
 - 4 Q23剥片集中 (図4-30) 出土状況 (NW→)
 - 5 一括土器 (図5-8-1) 出土状況 (SE→)
 - 6 礫群 (図4-30) 出土状況 (NW→)
- 図版4-19 遺物出土状況(2)
- 1 P・Q22遺物出土状況 (NE→)
 - 2 N24剥片等出土状況 (N→)

- 3 O23剥片等出土状況 (NW→)
- 4 O22剥片等出土状況 (NW→)
- 5 M22剥片等出土状況 (S→)
- 図版4-20 基本土層堆積状況
- 1 南西斜面部分 (N→)
- 2 中央部分 (W→)
- 3 北東低地部分 (W→)
- 4 北東斜面部分 (N→)
- 5 Q22調査区壁土層 (SE→)
- 6 O24ベルト土層 (N→)
- 図版4-21 完掘状況
- 1 南西斜面部分 (S→)
- 2 中央部分 (SE→)
- 3 北東斜面～低地部分 (E→)
- 図版4-22 遺構の遺物(1)
 竪穴住居跡H-1出土の土器
- 図版4-23 遺構の遺物(2)
 土坑 (P-3・4・5・7・9・11) 出土の土器
- 図版4-24 遺構の遺物(3)
 土坑 (P-9・13・17) 出土の土器
- 図版4-25 遺構の遺物(4)
 土坑 (P-10・12) 出土の土器、焼土出土の遺物
- 図版4-26 遺構の遺物(5)
 竪穴住居跡、土坑出土の石器(1)
- 図版4-27 遺構の遺物(6)
 土坑出土の石器(2)
- 図版5-1 包含層の遺物(1)
 貼付帯及び折返口縁を特徴とする土器
 縄線文を特徴とする土器(1)
- 図版5-2 包含層の遺物(2)
 縄線文を特徴とする土器(2)
 縄文を特徴とする土器(1)
- 図版5-3 包含層の遺物(3)
 縄文を特徴とする土器(2)
- 図版5-4 包含層の遺物(4)
 縄文を特徴とする土器(3)
 撚糸文を特徴とする土器
- 図版5-5 包含層の遺物(5)
 蛇行沈線及び無文を特徴とする土器
 沈線文を特徴とする土器(1)
- 図版5-6 包含層の遺物(6)
 沈線文を特徴とする土器(2)
- 図版5-7 包含層の遺物(7)
 沈線文を特徴とする土器(3)ほか
- 図版5-8 包含層の遺物(8)
 特徴のある土器底部
 石器(1) 石鏃
- 図版5-9 包含層の遺物(9)
 石器(2) 石錐・つまみ付きナイフ・スクレイパー(1)
- 図版5-10 包含層の遺物(10)
 石器(3) スクレイパー(2)・篋状石器(1)
- 図版5-11 包含層の遺物 (11)
 石器(4) 篋状石器(2)・両面調整石器・Rフレイク・石核(1)
- 図版5-12 包含層の遺物 (12)
 石器(5) 石核(2)・石斧
- 図版5-13 包含層の遺物 (13)
 石器(6) たたき石・すり石・扁平打製石器
- 図版5-14 包含層の遺物 (14) 石器接合資料(1)
 土・石製品 母岩A・母岩F
- 図版5-15 石器接合資料(2)
 母岩B
- 図版5-16 石器接合資料(3)
 母岩B・母岩C・母岩D
- 図版5-17 石器接合資料(4)
 母岩C・母岩E
- 図版5-18 石器接合資料(5)
 母岩G・母岩L
- 図版5-19 石器接合資料(6)
 母岩H・母岩J
- 図版5-20 石器接合資料(7)
 母岩M・母岩O・母岩P
- 図版5-21 石器接合資料(8)
 母岩K・母岩N

第1章 調査の概要

1 調査要項

事業名：高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査（泉沢6遺跡外）

委託者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

所在地：上磯郡木古内町字釜谷260-43番地

調査面積：1,430㎡

調査期間：平成28年5月12日～10月28日

遺跡名：木古内町 釜谷10遺跡（B-05-58）

2 調査体制

公益財団法人北海道埋蔵文化財センター

理事長 越田賢一郎

常務理事兼第1調査部長 長沼 孝

第1調査部第4調査課（平成28年度） 第1調査部第3調査課（平成29年度）

課長 皆川洋一（発掘担当者）

主査 藤井 浩（発掘担当者）

主査 直江康雄（発掘担当者）

3 調査に至る経緯

本調査は高規格幹線道路函館・江差自動車道建設に伴って行われたものである。函館・江差自動車道は平成24年3月に函館から北斗茂辺地ICまでが開通し、現在、木古内IC（仮称）までの開通を目指して茂辺地木古内道路として事業が進められている。この事業に伴う埋蔵文化財発掘調査はこれまでに数多く行われ、平成23、24年度には本遺跡に隣接する釜谷8遺跡でおこなわれた。また、本遺跡を調査した平成28年度には札苺7遺跡、泉沢6遺跡、幸連4遺跡、幸連5遺跡の5カ所で発掘調査が行われた。

釜谷8遺跡をはじめ、自動車道本体建設に伴う調査が多い中、釜谷10遺跡の調査は自動車道建設に伴い分断される生活道路の機能を補償するための「機能補償道路」建設に伴うものであった。本線により分断される東と西は、本線下に埋設されるボックスカルバートと呼ばれるトンネルによって結ばれ、これに通じる新設道路部分が今回の調査を要する対象となった。なお、本遺跡の範囲確認調査は道教委により平成26年7月に行われ、包含層の残りが良好かつ多量の土器、石器が出土したことから発掘を要する結果になった。

4 調査結果の概要

調査区は南北に細長い形状で、その中央部分が最も高く、北側、南側にかけて緩斜面となっている。尾根筋上にあたるこの中央部分を中心に数多くの遺構、遺物が出土した。

遺構は竪穴住居跡（H）2軒、土坑（P）16基、焼土（F）27か所の計45か所で確認した。

竪穴住居跡はH-1が縄文時代後期前葉のもので、H-2は炉跡と柱穴列のみの検出であるが縄文晩期の時期と考えられた。



図1-1 遺跡の位置 (国土地理院地形図を使用 図の上が北を示す)

土坑はすべて縄文時代後期前葉のものである。16基のうち3基はフラスコ状ピットと呼ばれ、断面がフラスコ形をした縄文後期に特有な土坑である。その他には径1.5m以上の大型土坑が2か所、径約1mの中型土坑が2か所、直径1m以下の小型土坑が6か所、径約50cm以下の柱穴状小ピットは3か所確認された。

焼土は27か所で、大きさや形状、分布状況も様々であるが、竪穴住居跡の炉跡の可能性のあるものが1か所、石組炉に伴うものが2か所、その他単独の焼土が24か所である。炭素年代測定や出土土器の結果から、時期は縄文時代中期末から縄文時代晩期にわたることが明らかになった。中でも縄文時代後期前葉が最も多く認められた。

遺物は土器・石器・礫等が約50,250点出土した。土器は33,107点、石器、礫等が17,143点を数えた。

土器は、そのほとんどが縄文時代後期前葉のもので、他に縄文時代後期末から晩期の土器が少数見られた。後期前葉の土器には横走縄文、貼付帯、縄線文、蛇行沈線文、入組沈線文など、この時期を特徴づける天祐寺式、涌元式、トリサキ式などの土器型式に見られる文様構成が見受けられた。

石器は石鏃、石錘、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石斧、すり石、たたき石、台石・石皿などがある。特に、スクレイパーとたたき石は数が多い。また、遺構に伴う石器が多く、大型の礫石器や加工痕のある礫などが目立つ。中には般入品の可能性が考えられるものも出土した。

石器・礫については接合作業を行い、数多くの接合資料を得ることができた。本遺跡周辺が石材として頁岩を産出する地域でもあり、豊富な素材を背景にここで石器が製作されていたことが考えられる。

表1-1 出土遺構一覧（時期別）

	竪穴住居跡	土坑	焼土	合計	(遺物集中)
縄文時代中期末			1	1	
縄文時代後期前葉	1	16	25	42	(6)
縄文時代後期後葉			1	1	
縄文時代晩期	1			1	
合計	2	16	27	45	(6)

表1-2 出土遺物概要一覧

	土器類						石器・礫類																			石器・礫類 集計	総計			
	土器					土器類 集計	石器															石器・石製品 集計	礫							
	IVa	IVc	V	土器 集計	土製品		石鏃	石槍	石錐	つまみ付きナイフ	スクレイパー	両面調整石器	筒状石器	Rフレイク	Uフレイク	剥片	石核	原石	石斧	たたき石	すり石			扁平打製石器	台石・石皿			砥石	加工痕のある礫	
遺構	4131			4131	43	4174	8			7	3		26	82	814	3	11	10	14	7		13	3	1001		1001	867	1868	6042	
包含層	28495	139	5	28639	294	28933	28	1	15	4	96	9	7	314	542	9205	34	98	22	109	17	3	28	1	10533	3	10536	4739	15275	44208
総計	32626	139	5	32770	337	33107	36	1	15	4	103	12	7	340	624	10019	37	109	32	123	24	3	41	3	11534	3	11537	5606	17143	50250

第2章 遺跡と環境

1 遺跡の位置 (図1-1、2-1・2)

遺跡は木古内町の釜谷地区に位置する。釜谷地区は木古内町の北東端に位置し、北斗市との境にも近い。その範囲は南北に細長く、南を津軽海峡に面し、北は北東に丸山(482m)、北西に伊勢鉢山(265.5m)を背景にして、渡島山地に連なる。海岸から山地に至るまでは海岸段丘が階段状に発達している。

遺跡が立地するのは標高約80~90mの海岸段丘と山地・丘陵地との地形界上にあたり、伊勢鉢山から東方向にのびる尾根筋部分にあたる。

2 周辺の遺跡 (図2-1 表2-1)

遺跡周辺の環境については北埋調報305集「釜谷8遺跡」に詳述されている。ここでは釜谷地区の遺跡を概観し、釜谷8遺跡の調査成果を比較した。

【木古内町「釜谷地区」の遺跡】

木古内町には62か所の埋蔵文化財包蔵地が確認されており、「釜谷」を冠した遺跡は大釜谷を含めると13遺跡である。大釜谷川を挟んで右岸が「釜谷」地区、左岸が「大釜谷」地区で、「釜谷」地区が西に木古内町「亀川」地区と接し、「大釜谷」地区が東に北斗市と隣接する。

遺跡の立地で最も多いのが海岸沿いである。釜谷遺跡、釜谷2・4・5・6・7遺跡と大釜谷2・3遺跡の8遺跡が津軽海峡に直面した海岸段丘上に立地する。これは現在の広域農道ルート上にあたる。さらに一段高い標高30~60mの段丘上には釜谷3遺跡、大釜谷遺跡の2遺跡が立地する。丘陵・山地との境界にあたる標高約80~90mの最も高い段丘には、釜谷8・9・10遺跡の3遺跡が確認されている。釜谷地区で最も標高の高い遺跡は釜谷9遺跡で標高約100mである。釜谷10遺跡はこの9遺

表2-1 釜谷地区の遺跡一覧

遺跡名	種別	時代	所在地		掲載報告書
釜谷遺跡	集落跡	縄文(早期)、縄文(前期)、縄文(中期)、縄文(後期)、縄文(晩期)、撥文	標高15~25m	字釜谷10~15、17~24、26~35、37、55、56、57-1・2、58~64、65-1、66、67、69、70、72~78、80~2、93-1~6、94~97、99~102、104、106、107、108-1・2、109、111-1・2、112~114、116~118	『釜谷遺跡』：木古内町(南渡島地区広域営農団地農道整備事業に伴う発掘調査報告書、6)木古内町教育委員会、1999.3
釜谷2遺跡	遺物包含地	縄文	標高15~25m	字釜谷154-1・2、155、157、158、160、161、162-1、163-1、260-10	
釜谷3遺跡	遺物包含地	縄文(後期)	標高50~60m	字釜谷260-4・30~32・37	
釜谷4遺跡	遺物包含地	旧石器、縄文(早期)、縄文(前期)、縄文(中期)、縄文(後期)	標高20~25m	字釜谷38-1・3、40-1、41~44、49~51、53-1・2・10、149	『釜谷4遺跡』木古内町(南渡島地区広域営農団地農道整備事業に伴う発掘調査報告書6)木古内町教育委員会1991
釜谷5遺跡	集落跡	縄文(早期)、縄文(前期)、縄文(中期)、縄文(後期)、縄文(晩期)	標高20m	字釜谷210、212-1~5、214~217、226~229、235~237、238-1・4~10、239、241、243、245、246、249、250	釜谷5遺跡(南渡島地区広域営農団地農道整備事業に伴う発掘調査報告書、2)木古内町教育委員会、1995.3
釜谷6遺跡	遺物包含地	縄文	標高15m	字釜谷198-1・2、205、207-1・2、208、209、260-1	
釜谷7遺跡	遺物包含地	縄文	標高20m	字釜谷179、180	
釜谷8遺跡	遺物包含地	縄文(早期)、縄文(後期前葉)	標高80~90m	字釜谷260-33	『釜谷8遺跡』-高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書-北埋調報305 公益財団法人北海道埋蔵文化財センター2014
釜谷9遺跡	遺物包含地	縄文	標高95~105m	字釜谷260-26	
釜谷10遺跡	遺物包含地	縄文(後期)	標高80~90m	字釜谷260-43	本報告
大釜谷遺跡	遺物包含地	縄文(中期)、縄文(後期)	標高50~60m	字大釜谷59-1~16、60-1~5、61-1~4、116-1・4~8・12~16	
大釜谷2遺跡	遺物包含地	縄文(前期)、縄文(中期)	標高20~25m	字大釜谷16-2、18、22、23-1・2、24-1	
大釜谷3遺跡	集落跡	縄文(前期)、縄文(中期)、縄文(後期)、縄文(晩期)	標高30~35m	字大釜谷44-8、45-1・2、56、59-1	『大釜谷3遺跡』(南渡島地区広域営農団地農道整備事業に伴う発掘調査報告書、2)木古内町教育委員会2003

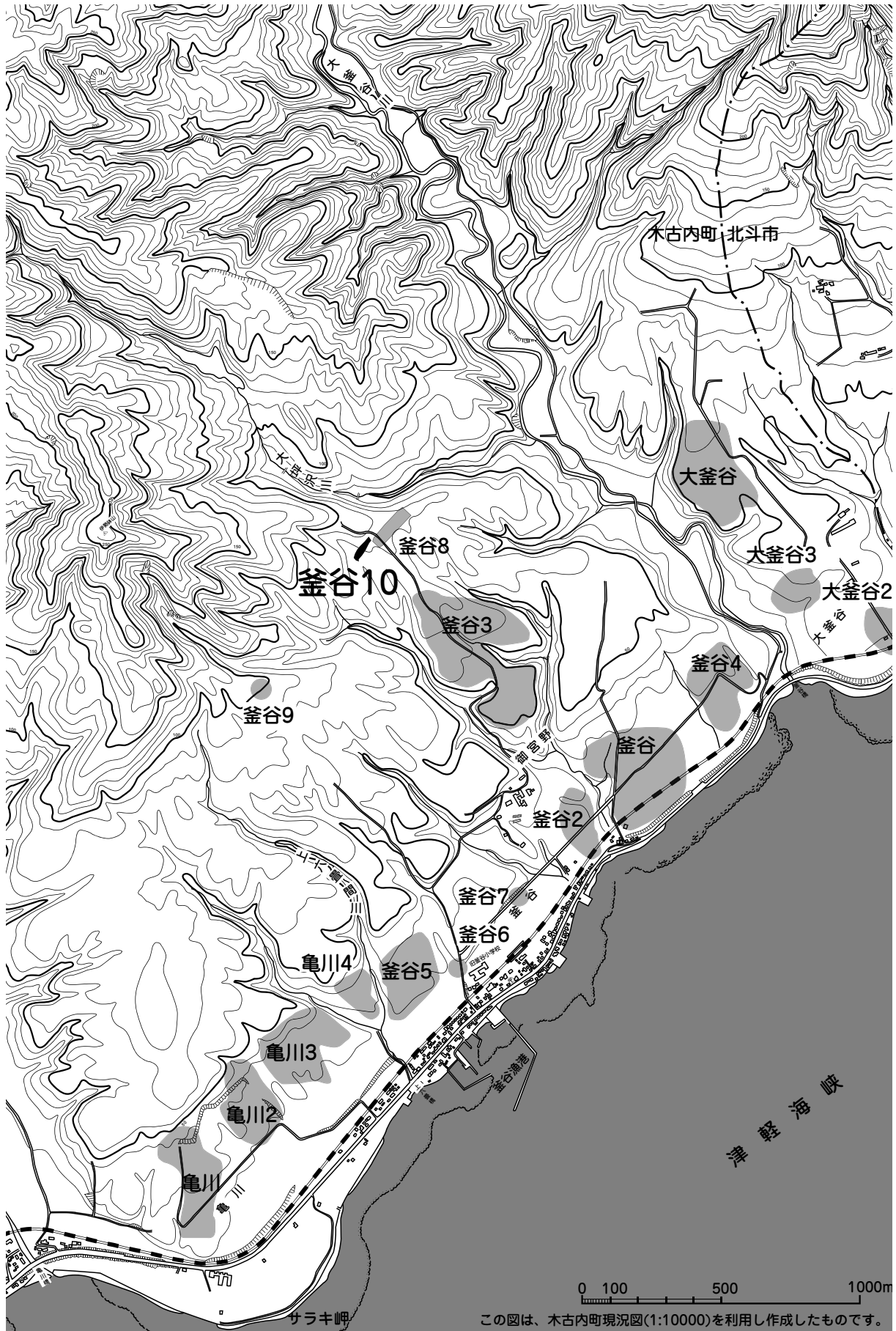


図2-1 遺跡の位置と周辺遺跡 (図の上が北を示す)

跡に次いで標高の高い遺跡になる。

これまでに本格的な発掘調査がされたのは釜谷遺跡、釜谷4、5、8遺跡、大釜谷遺跡、大釜谷3遺跡、そして今回の釜谷10遺跡の7遺跡である。木古内町教育委員会により広域農道建設工事に伴って調査されたのが釜谷遺跡、釜谷4、5遺跡、大釜谷3遺跡である。釜谷遺跡は縄文（早～晩期）、擦文文化期の集落遺跡である。釜谷4遺跡は縄文時代早期～後期の遺跡である。釜谷5遺跡は縄文時代早期～晩期の集落遺跡である。大釜谷3遺跡は縄文時代前期から晩期にまで至る集落遺跡である。

【釜谷8遺跡と釜谷10遺跡】（表2-2）

釜谷地区で当センターにより調査されたのは釜谷8遺跡と本遺跡のみである。両遺跡はミヤノ沢を挟んで隣接しており、調査区間の最短距離は約10mと近接している。

釜谷8遺跡は平成23・24年の2年間で発掘調査が行われ、その面積は平成23年が786㎡、24年が7,628㎡である。出土した遺構は竪穴住居跡2軒、土坑21基、Tピット3基、柱穴状小ピット15カ所、焼土64カ所、フレイクチップ集中域が36カ所である。

遺物は61,116点出土し、内訳は土器が8,659点、石器等が52,456点である。土器は縄文時代早期貝殻文土器と縄文時代後期前葉天祐寺式土器、縄文時代前期と後期を主体とした遺構、遺物が出土した。

遺跡の特徴の一つとしては、「トランシェ様石器」と呼ばれる素材剥片の縁辺をそのまま刃部とする筧状石器が数多く出土したことである。この石器は縄文時代早期に伴うものと考えられる。

釜谷8遺跡と本遺跡は近接し、ほぼ同様の環境にあると思われた。共通する特徴は下記の3点である。

(1) 立地として褐色森林土地域にあたること

両遺跡ともに標高80～90mの段丘面上に立地し、褐色森林土地域に相当する（第3章）。この地域においては包含層と基盤土との色調に明瞭な変化が見られないことが特徴である。黒色土を主体とする腐植土が発達しないため、調査においては層界及び遺構の輪郭の把握が困難であったことも共通の特徴として挙げられる。

(2) 縄文時代後期前葉の集落であること

同時期の竪穴住居跡や土坑、焼土などの遺構の組み合わせからなる集落であること。

(3) 遺跡周辺に石材原産地を控えた石器製作地遺跡であること

両遺跡ともに、多数の頁岩製剥片が出土したこと及び接合資料を得たことによって明らかである。

遺跡の内容については下記のような差も明らかになった。

(1) 土器と石器の点数比が大きく異なること

釜谷8遺跡は土器に対して圧倒的に石器・礫が多いのに比べ、10遺跡では土器が石器・礫よりも多い。

(2) 釜谷10遺跡には縄文時代前期の様相が見られないこと。

「トランシェ様石器」など釜谷8遺跡に見られた縄文早期中葉の遺構・遺物が10遺跡では全く見られなかった。8遺跡の縄文前期の集落は沢を挟んだ10遺跡の範囲には及ばなかったものと考えられる。

表2-2 釜谷8遺跡との調査成果比較一覧

対比項目		釜谷8遺跡	釜谷10遺跡
調査面積		8,414m ²	1,430m ²
主な時期		縄文時代早期中葉 縄文時代後期前葉	縄文時代後期前葉
遺物点数	総計	61,116点	50,250点
	土器	8,659点	33,107点
	石器・礫	52,456点	17,143点
遺構数	竪穴住居跡	2軒（縄文時代後期前葉）	2軒（縄文時代後期前葉・晩期）
	土坑	21基 （縄文時代後期前葉11カ所） （縄文時代早期中葉8カ所）	16基（縄文時代後期前葉）
	Tピット	3基（縄文時代後期前葉）	0
	柱穴状小ピット	15カ所	（3カ所）※土坑に含めた
	焼土	64カ所 （縄文時代後期前葉24カ所） （縄文時代早期中葉23カ所）	27カ所 （縄文時代中期末1カ所） （縄文時代後期前葉24カ所） （縄文時代後期後半1カ所） （縄文時代晩期1カ所）
	フレイク集中	36カ所	（4カ所）

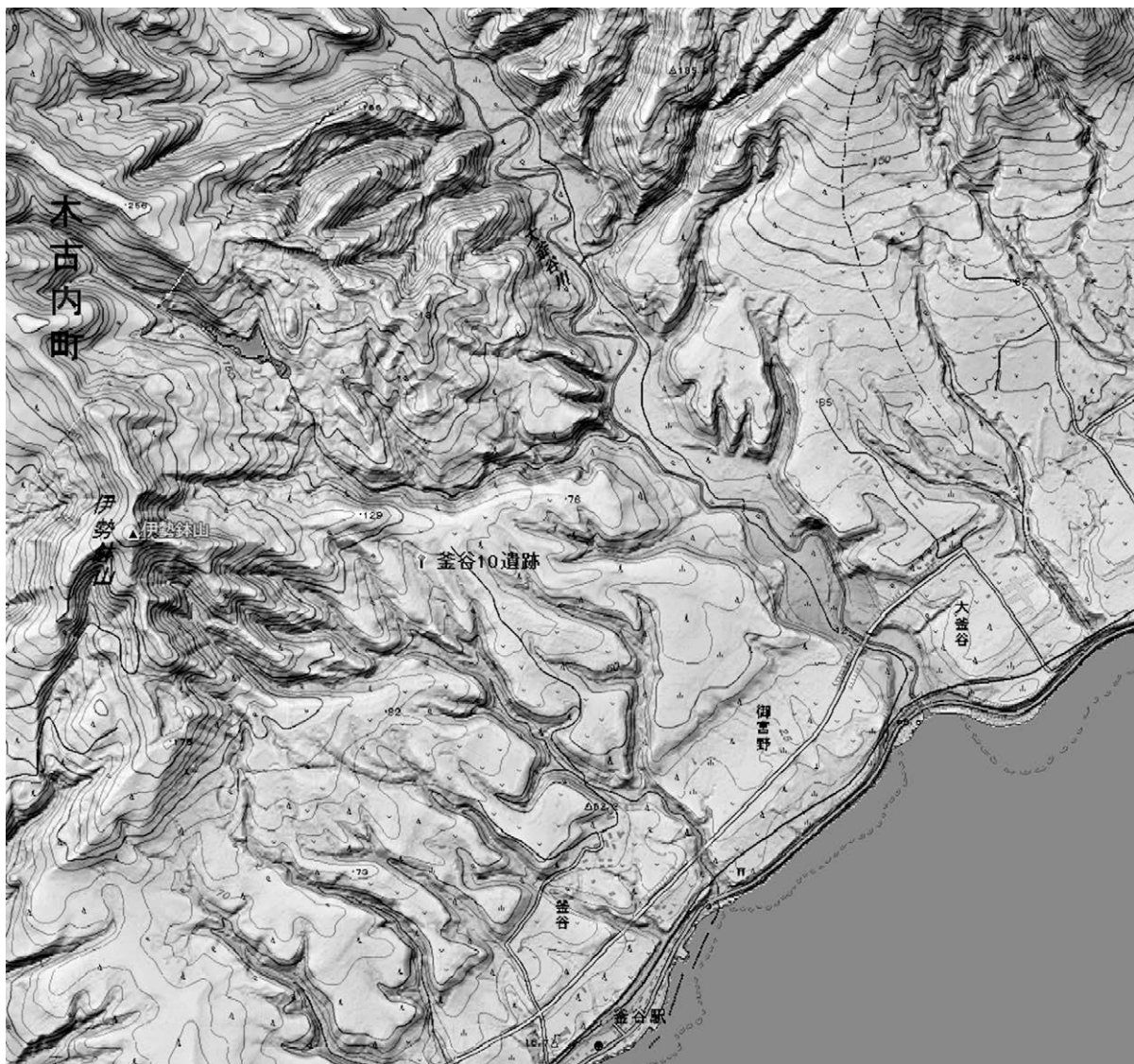


図2-2 遺跡周辺地形概要図（カシミール3D及び国土地理院「地理院地図」を用いて作成）

第3章 発掘調査及び整理の方法

1 調査区の設定 (図3-2)

発掘調査を要する範囲及び調査区設定にあたっては、函館江差自動車道木古内町大坪沢改良外一連工事における「No 8機能補償道路平面図」を基に作成した。

測量の基準となるグリッドについては、道路本線の中央線上の基点であるSTA24700 (G1) とSTA24800 (G26) を直線で結んだ線を基本に4m間隔で作成した。これにより本遺跡の調査区は横軸 (アルファベット) がK~Q、縦軸 (アラビア数字) が9~33の範囲に収まることになった。

なお、このSTA24700及びSTA24800の2点については世界測地系に基づく座標値が付されており、STA24700がX = -252573.935 Y = 23397.643、STA24800がX = -252651.083 Y = 23334.018である。図1-2、図4-1遺構等位置図には世界測地系座標に基づくメッシュを重ねた。

2 発掘調査の方法

(1) 表土除去

調査前の現地はかつて牧草地として利用され、背の低い草で覆われたまま、疎らに灌木が混じるといった状況であった。

重機による表土除去では、南北に細長い調査区内で排土場所を確保するため、調査区の南半分を先に着手し、北半分を排土場所とした。この北半分については9月1日に重機による排土及び表土除去作業に着手した。当初、調査を終えた南半分を排土場所として埋め戻しを行う予定であったが、新たに調査区外に排土場所を確保することができたため、調査区全体を広げることができた。

(2) 測量

重機による表土除去後に調査区南半分について、グリッド杭の設置と水準測量を行った。北半分については同じく表土除去後の9月5日に行った。

(3) 基本土層 (図3-3)

基本土層はI層：表土、II層：黒色土層、III層：褐色土層、IV層：明褐色土層、V層：褐色土層 (漸移層)、VI層：褐色ローム質土層とした。III層内には灰褐色の駒ヶ岳d火山灰 (Ko-d、1640年降下) や黄褐色の白頭山-苫小牧火山灰 (B Tm、10世紀降下) の堆積も見られたがごく一部であった。

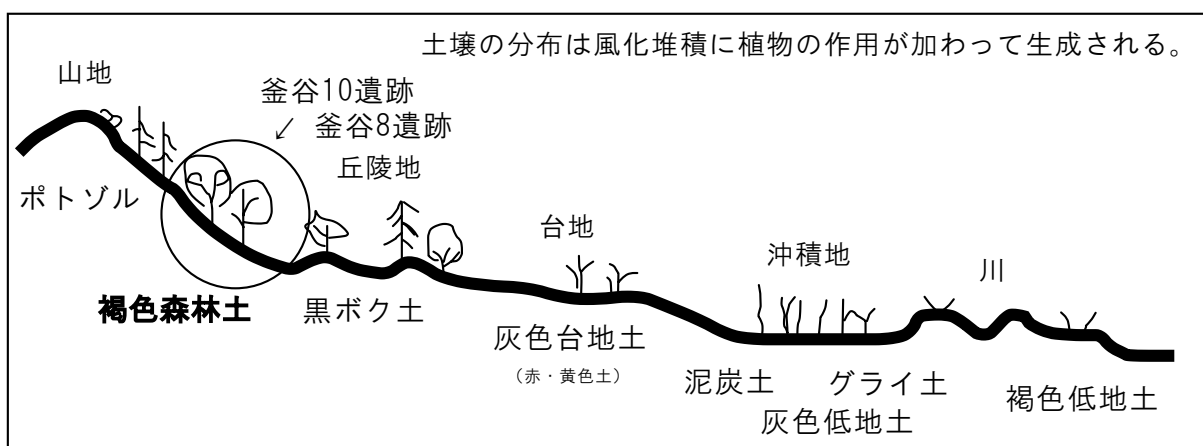


図3-1 土壌群の生成と堆積の概要 ※註1

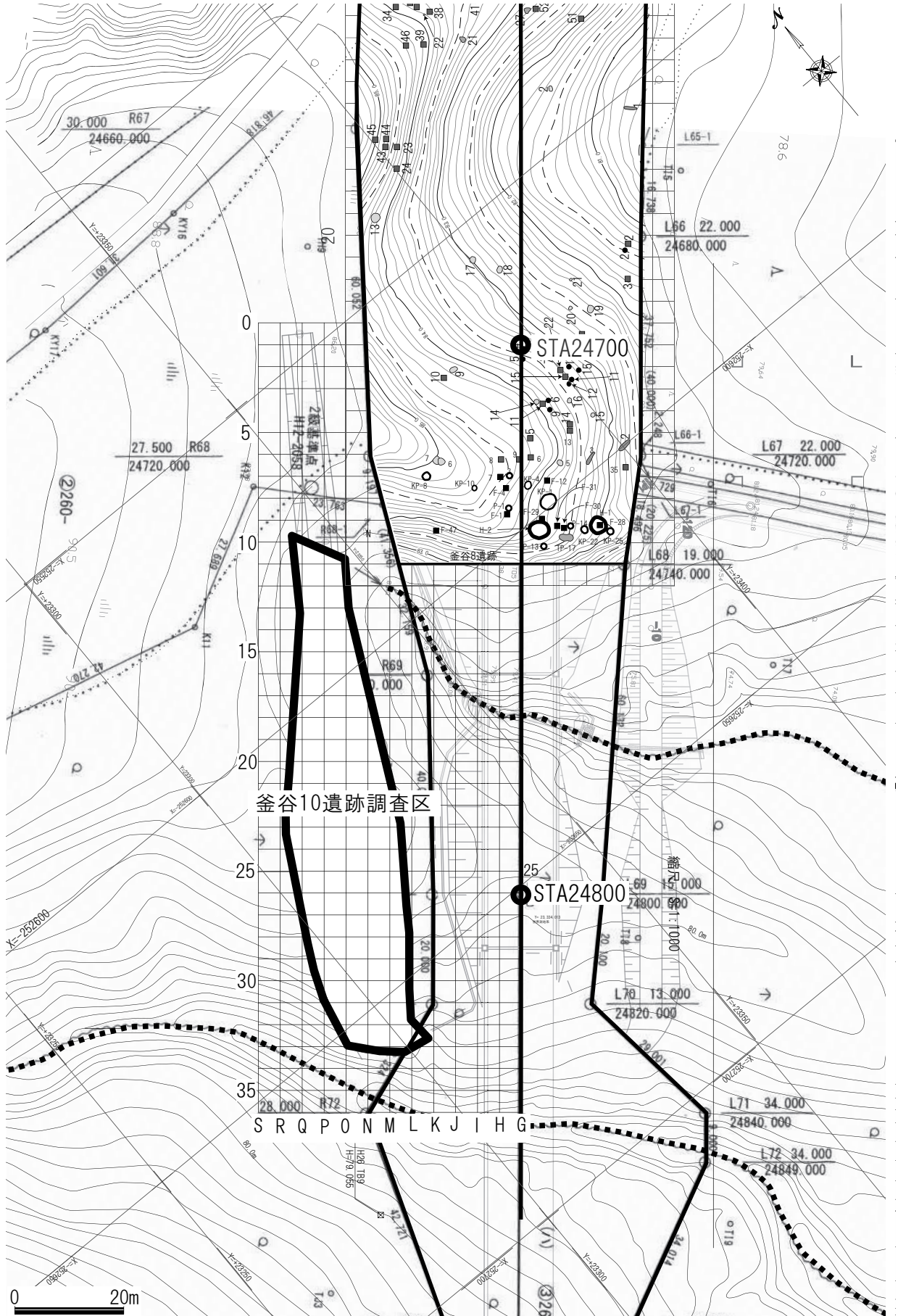
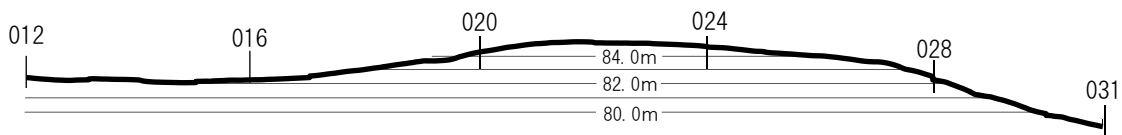
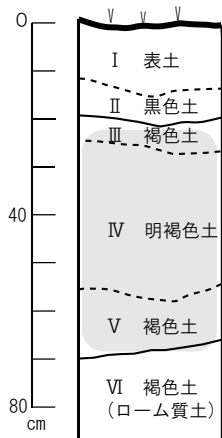
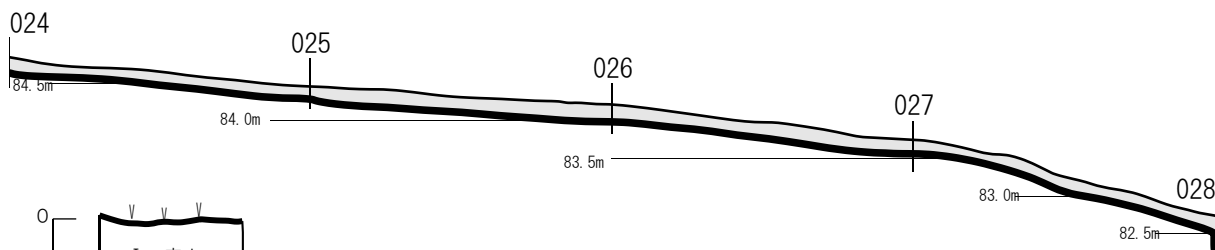
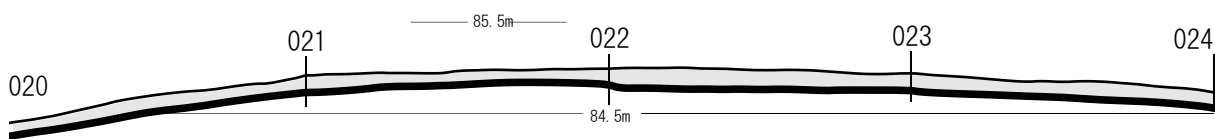
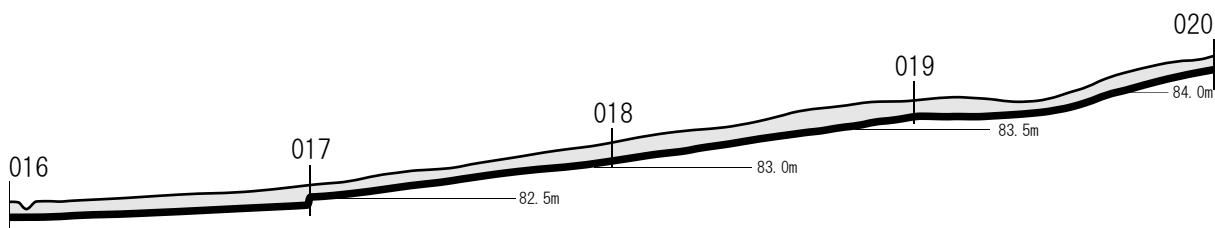
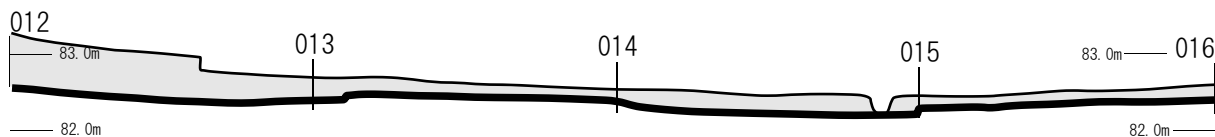


図3-2 調査区の設定



調査区地形断面概要図（グリッド0列）



基本土層模式図（Q23 調査区壁）

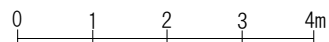
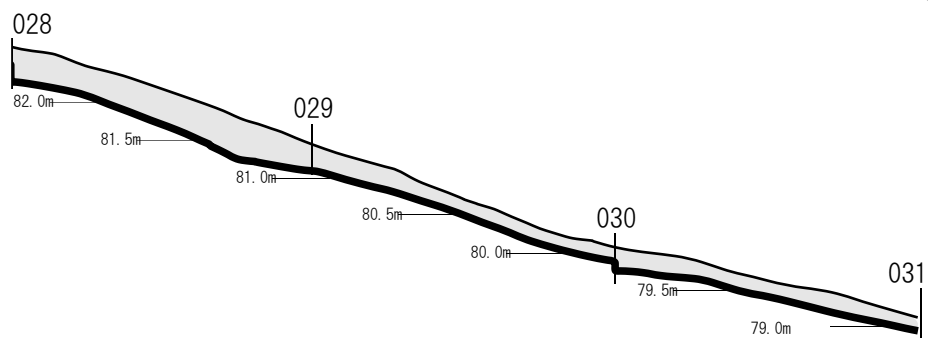


図3-3 基本土層及び調査区地形断面図

調査区内南北両側の斜面部ではV層以下より礫層が見られた。遺物包含層はⅢ～V層にあたり、大半はIV層から出土した。腐植の進まない褐色土の堆積がほとんどのため、各層界には不明瞭なところも多い。

この褐色土の由来については、遺跡周辺が標高100mに近い森林地帯に位置することから、ベースとなる土壌の特徴として褐色森林土の発達によるものと考えられる(図3-1)。褐色森林土は急峻なまたは緩やかな尾根状の斜面に発達し、褐色から黄褐色土主体のものである。

遺構の覆土及び基本土層との対比については標準土色帳を用いて表現した。基本的には色調、土性、粘土、堅さ、混入の度合いなどを確認し、各層の特徴を表現した。

(4) 包含層調査

重機による表土除去後は、基本的に人力による掘り下げを行った。遺物の出土が少なかった南側斜面部については25%調査ののち、重機で土を掘り上げて遺物回収を行った部分がある。

人力による作業についてはグリッド毎に、1回に深さ約5cmを基本にし、土質や遺物の出土状況に応じてスコップ、ジョレン、移植ごてを用いて行った。遺物は各回に出土状況を確認したうえで取り上げを行った。出土遺物の層位に見られる「1回目」などの記述については包含層表面から5cmずつ掘り下げた回数を意味する。

(5) 遺構調査

遺構については、IV層下部またはV層において精査し、検出作業を行った。範囲確認を行った後には基本的に移植ごてを用いて底面及び壁面の検出作業を行った。土層断面の記録を作成したのち完掘した。遺物は出土状況を考慮し、一部位置を記録して取り上げたものもあるが、それ以外は層位のみの記録により取り上げている。

また、現地では土坑や焼土などの遺構について任意に土壌サンプルを採取した。そのほとんどについてフローテーション作業を行い、炭化物、土器、石器など微細遺物を回収した。方法及び内容についての詳細は6章に記載した。

なお、遺物集中としたものについては、遺物の範囲を把握することが難しかったため、今回の調査では遺構としてではなく、包含層出土遺物として扱った。

(6) 調査最終面・地形測量

明瞭なVI層の上面を調査最終面として、その上面の標高の単点測量を行った。南側斜面部においては礫層が含まれ、明瞭なVI層の判別がつかないため、遺物出土が見られなくなった面を最終面としたところもある。測量成果を基にVI層上面の地形図を作成した(図4-1)。

3 整理作業の方法

(1) 現地調査の記録(図面・写真)

現地調査においては平面図や土層断面図を含む遺構図、特徴ある遺物の出土状況図、最終面測量図などを作成した。これらは20分の1が基本であるが、遺物の出土状況図などには10分の1で作成した微細図も含まれる。これらはすべてパソコン内に取り込み、JPEG及びTIFF形式のデータ化を行ったうえで、adobe社のソフトillustratorを用いて素図の作成および報告書印刷の版下作成を行った。

現地での写真撮影は、ブローニーサイズのカメラを主にデジタルカメラを整理用に併用して行った。撮影に用いた機材はMamiya社製のRZ67PRO IIとデジタル一眼レフカメラNIKON D5500である。

(2) 出土遺物の整理

【一次整理作業】

取り上げた遺物については、現地で水洗と計数を行い、「遺物取上台帳」を作成し、乾燥後に袋詰めまでを行った。当センターの整理作業所へ移動してから分類を行い、遺物番号を付した「遺物台帳」を作成した。注記作業は「遺物台帳」により、下記の要領で行った。

遺構出土遺物	遺跡名	遺構名	遺物番号	層位
	カ10	H-1	10	フク土
包含層出土遺物	遺跡名	グリッド	遺物番号	層位
	カ10	P20	10	1

【二次整理作業】

土器については注記後、接合作業を行った。この内、全体の器形がうかがえるものや特徴的な文様などを伴うものを抽出して復元作業を行った。

接合作業を終えた段階で土器片の中から文様等に特徴のあるものを抽出し、拓本作業と断面実測を行った。拓影と実測図はパソコン内に取り込みJPEG及びTIFF形式のデータ化を行い、adobe社のソフトillustrator上で図を作成し、版下作成の基礎とした。

全体の器形が明らかになった復元土器についてはすべて実測図を作成した。トレース後に拓本と同様にTIFF形式のデータ化を行い、図版作成の基礎とした。

接合及び復元した土器片についてはすべてに接合番号を付して「遺物台帳」に追記した。

石器、礫については、まず石器と礫に分類した。石器については器種ごとに形態分類し、遺跡の特徴や傾向を知るうえで代表的な遺物を抽出し、実測及び写真撮影を行った。実測図は土器と同様にトレース後にTIFF形式のデータ化を行い、版下作成の基礎とした。

石器については遺物集中地区を中心に接合作業を行い、多くの接合資料を得ることができた。剥離工程を明らかにする図化はできなかったが、母岩別に分類するなど、接合関係をデータ化して「遺物台帳」に追記した。本報告では写真掲載（図版5-14～21）と接合関係一覧表（表5-4）のかたちで報告した。

礫については、礫片と完形の礫とに分類した。礫片については5cm以下を細礫片、5～10cmが小礫片、10～15cmは中礫片、15cm～30cmは大礫片、30cm以上を巨礫片と大きさごとに分類したうえで注記し、接合作業を行った。接合成果及び抽出結果については「遺物台帳」に追記した。完形の礫については、計測を行い、特に礫石器の素材として注目した扁平楕円礫を抽出した。

【遺物の分類】

遺物については当センターの分類基準をもとに、地域性を考慮して、隣接する釜谷8遺跡及びほぼ同時期にあたる北斗市押上遺跡などの分類を参照して行った。

土器については、下記の通り道内標準として用いられる当センターの分類基準を用いた。

- I 群 縄文時代早期の土器群（出土なし）
- II 群 縄文時代前期の土器群（出土なし）
- III 群 縄文時代中期の土器群（出土なし）
- IV 群 縄文時代後期の土器群
 - a 類 天祐寺式、涌元Ⅰ、Ⅱ式、トリサキ式、入江式、白坂3式に相当するもの
 - b 類 ウサクマイC式、手稲式に相当するもの
 - c 類 堂林式、三ツ谷式、湯の里3式に相当するもの

V群 縄文時代晩期の土器群

VI群 続縄文時代の土器群（出土なし）

VII群 擦文文化期の土器群（出土なし）

石器・礫類については、先ず石器と礫に分類した。石器は剥片石器類、礫石器類とに分類した。礫は有意なものを抜き出したのち、形状と石材により分類した

剥片石器は石鏃、石錐、つまみ付きナイフ、筥状石器、スクレイパー、Rフレイク、Uフレイク、剥片、石核、原石に分類した。特に、筥状石器、スクレイパー、両面調整石器、Rフレイク、Uフレイク、石核の分類については下記の点に留意した。

筥状石器：両面が調整された石器で一端に直線状または弧状の刃部が作出されたもの。

スクレイパー：素材の一辺に連続的な剥離を加え、刃部とするもの。

削器：剥離が素材の長辺に連続的に加えられたもの。

鋸歯縁石器：抉りを連続的に作出することで、鋸歯状の刃部としたもの。

抉入石器：抉入した刃部が細部調整で作出されたもの。

両面調整石器：剥離が両面に施されるが、粗い調整で、明瞭な尖頭形ではないもの。

Rフレイク：剥片を素材とする、不規則で散漫な剥離を加えた不定形なもの。

Uフレイク：剥片を素材とする、使用痕跡と考える、微細剥離や潰れ痕、光沢があるもの。

石核：剥片、もしくは礫を素材とする、石器の素材となりえる大きさ、形状の剥片を剥離した痕跡が複数あるもの。

礫石器については磨製石斧、たたき石、すり石、扁平打製石器、台石・石皿、砥石、加工痕のある礫に分類した。特にたたき石、加工痕のある礫の分類については下記の点に留意した。

たたき石：礫に敲打痕があるもののうち、能動的と考えられるもの

加工痕のある礫：不定形であるが何らかの加工を受けた礫

礫については礫、礫片に分類し、礫に関しては石器素材の可能性を考慮して、扁平楕円礫を中心に「礫（円礫）」として区別した。礫片は接合作業に向けて細礫片、小礫片など大きさごとに分類した。

【遺物の撮影】

掲載遺物の撮影については、室内写場にてデジタルカメラを用いて行った。カメラはSigma sd Quattro H、レンズはSigma 50mm F1.4 artを使用した。

(3) 記録類・遺物の収納保管

現地で作成した測量図、実測図などは図面番号を付して、一覧を作成し図面ケースにまとめた。

遺物については、報告書掲載遺物とその他の遺物に分けて収納した。

掲載遺物については、個別に掲載番号と掲載図を付して、復元土器個体、拓影土器及び石器類は59×39×15cmプラスチックコンテナ（サンボックス製36-2B）に収納した。その他の遺物については報告書名、分類内容を明記し同コンテナに収納した。コンテナには遺跡名、報告書名、分類名、収納番号を記したラベルを貼り、収納台帳を作成した。

これらの遺物は報告書刊行後に木古内町に移送し、木古内町教育委員会所有、保管となる。また、写真、図面などの記録類については北海道立埋蔵文化財センター所有、保管となる。

第4章 遺 構

1 遺構の概要 (図4-1・2 表4-1)

遺構は竪穴住居跡2軒、土坑16基、焼土27か所を確認した。また、包含層出土の扱いとしたが遺物集中区を6か所とした。下記により各遺構について掲載図版毎に整理した。

竪穴住居跡H-1 (図4-3) は調査区中央部のO23・24、P23・24に位置し、床面及び覆土中から縄文時代後期前葉の土器 (図4-4・5)、石器 (図4-6) が出土した。

竪穴住居跡H-2 (図4-7) はH-1から離れた調査区北側の標高約83mのO15・16、P15・16に位置する。また、焼土F-23 (図4-7) はH-2の炉跡に相当するものと考えられる。

土坑P-1・6・8・13 (図4-8) はP22に位置する。P-1は全長90cmに及ぶ大型の加工痕のある礫 (図4-25) が出土している。P-13からは土器 (図4-20-10・11) が出土している。

土坑P-2 (図4-9) はQ24に位置し、土坑に埋設された台石・石皿と隣接して埋められた加工痕のある礫 (図4-26-1・2・3) が出土している。焼土F-20 (図4-9) がP-2に近接している。

土坑P-3 (図4-10) はO23・24に位置し、竪穴住居跡H-1 (図4-3) の床面内にある。縄文時代後期前葉の土器 (図4-19-1~8)、石器 (図4-22-1・7) が出土した。

土坑P-4・5・7 (図4-11) はP-4がQ21、P-5がQ20、P-7がO・P-20に位置する。P-4は縄文時代後期前葉の土器 (図4-19-9~11)、台石・石皿 (図4-26-5) が出土している。P-5は縄文時代後期前葉の土器 (図4-19-4) が出土した。P-7は土坑に埋設された大型深鉢形土器 (図4-19-15) が出土した。

土坑P-9 (図4-12) はN22に位置し、倒立や横転など人為的に埋められた土器 (図4-20-1~9)、直立した石斧や円錐台形の加工痕ある礫などの石器 (図4-22-3・5・6、4-23-1~7、4-27-1) が出土した。

土坑P-10 (図4-13) はM21に位置し、覆土中から縄文時代後期前葉の土器 (図4-21-1~10)、台石・石皿 (図4-27-2) が出土した。

土坑P-11 (図4-14) はM22に位置し、覆土中から縄文時代後期前葉の土器 (図4-19-12・13) が出土した。

土坑P-12 (図4-15) はL・M24に位置し、覆土中から縄文時代後期前葉の土器 (図4-21-11~23)、石器 (図4-22-2・3・7・8・4-24-1) が出土した。

土坑P-15 (図4-16) は調査区中央部やや西寄りのP24に位置し、竪穴住居跡H-1と重複する。

土坑P-17 (図4-17) は調査区中央部南寄りのN25・26に位置し、縄文時代後期前葉の土器 (図4-20-10~13)、石器 (図4-22-11、24-2、26-5) が出土した。

土坑P-18 (図4-18) は調査区中央部西寄りのQ23に位置し、台石・石皿 (図4-27-3) が出土した。

焼土F-5・13・14・15 (図4-11) は、F-5がQ20、F-13、14がQ21、F-15がP21に位置する。

焼土F-1・24・26 (図4-28) は調査区中央部南側にあたる。F-1がM・N26、F-24がN25、F-26がL26に位置する。F-24は土坑P-17の覆土中に出土した。F-26からは撚糸文を特徴とする土器胴部片 (図4-33-7) が出土した。

焼土F-2・3・9・28 (図4-29) は調査区中央部、竪穴住居跡H-1周辺にあたる。F-2・3はO23で竪穴住居跡H-1と重複する。F-9はP23、F-28はN24に位置する。F-2は縄文時代後期前葉の土器 (図4-23-1)、F-3も土器 (図4-33-2・3)、石器 (図4-33-8・9) が出土した。

焼土F-4・10・11・17・19 (図4-30) は調査区中央部西寄りにあたり、土坑P-1・6・8・13や礫群

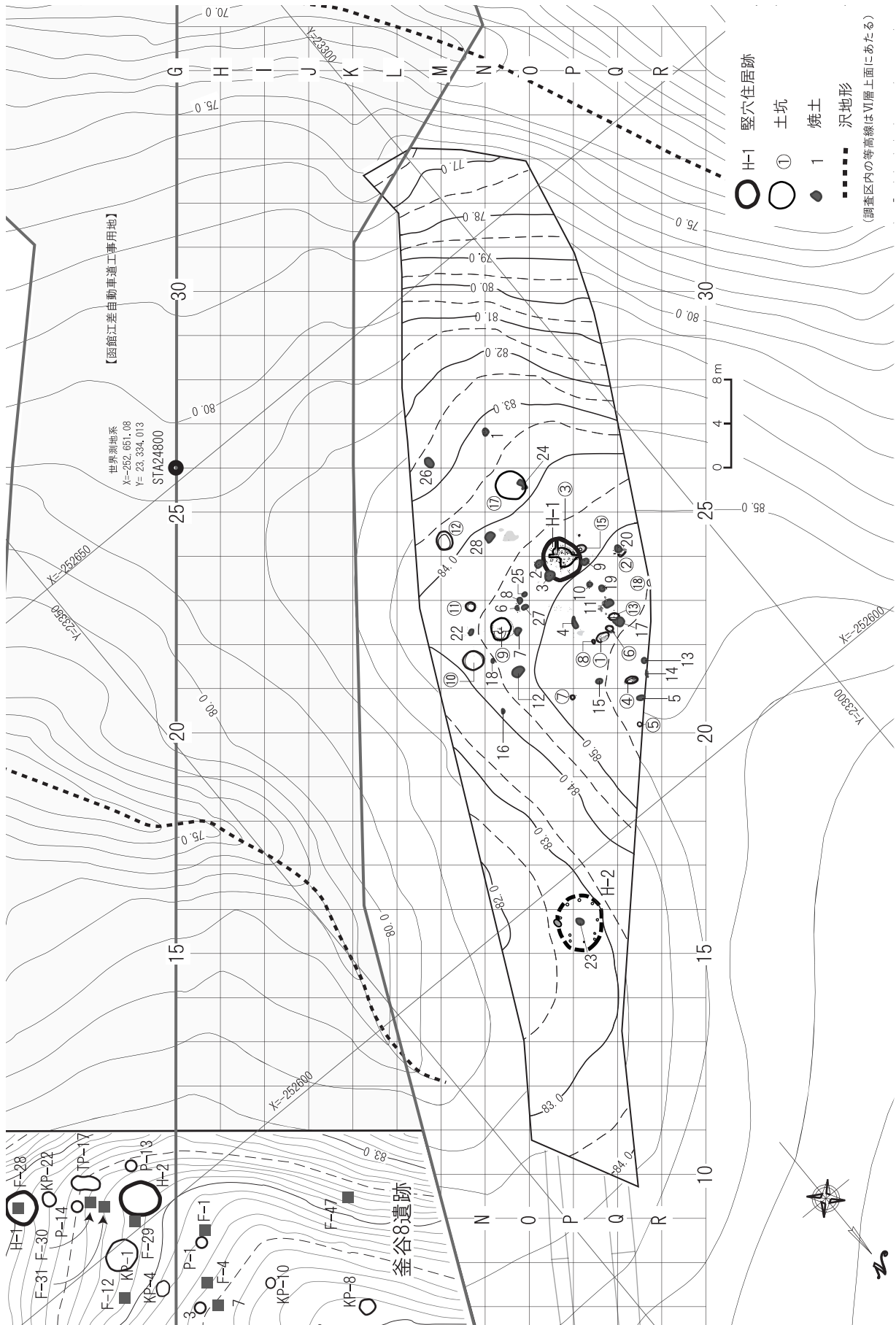


図4-1 遺構等位置図 (1 : 500)

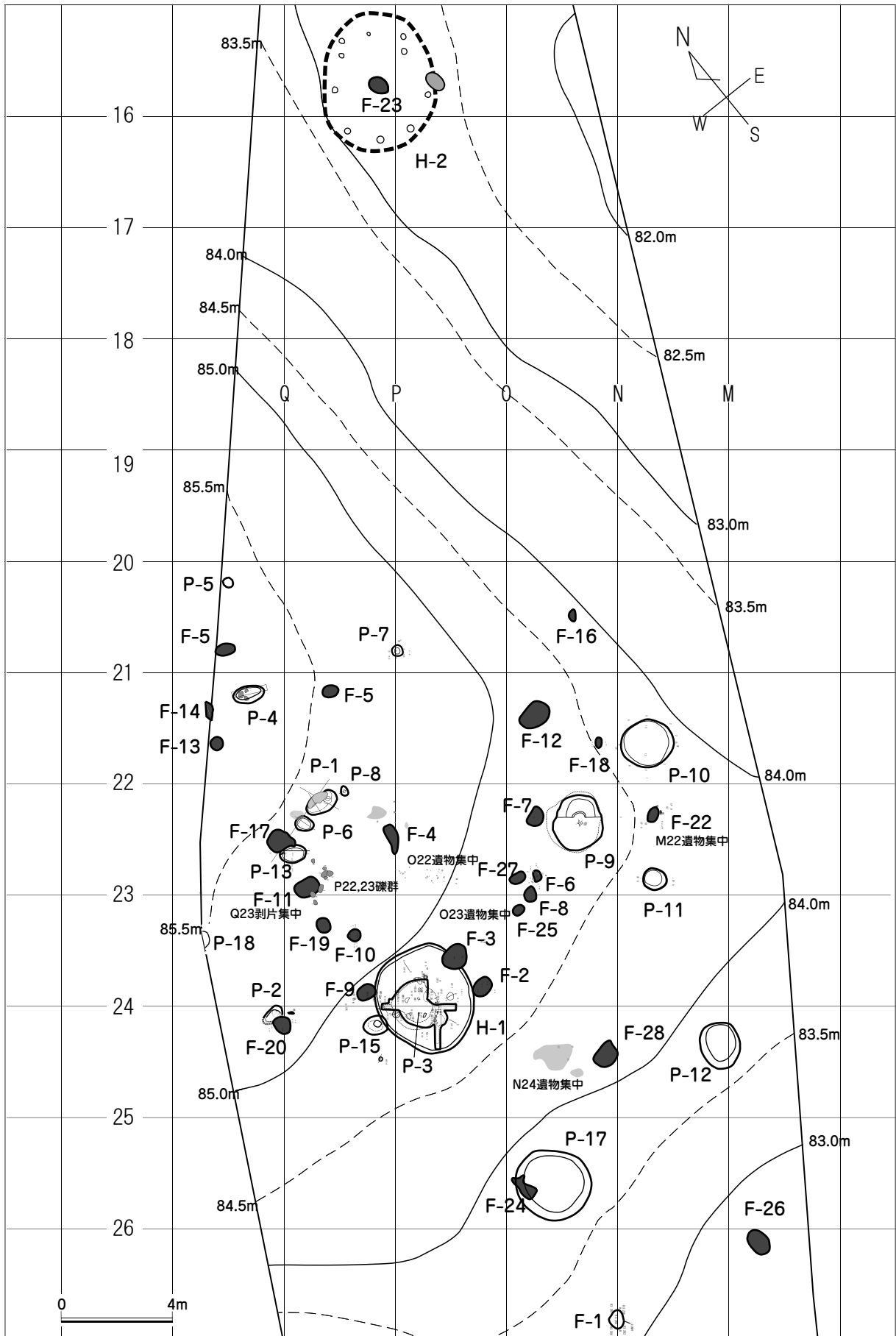


図4-2 遺構群要図

もある小規模遺構の集中域である。F-4はO・P-22、F-10、19はP23、F-11はP22・23、F-17はP・Q22に位置する。F-4からは石鏃（図4-33-10）が出土した。

焼土F-6・7・8・22・25・27（図4-31）は調査区中央部の中心部にあたり、土坑P-9に近接して小規模な焼土が集中する。特にF-6・27はN22、F-25がN23、F-8がN22・23に位置し、狭い範囲に集中している。F-7はN22、F-22がM22に位置する。F-6からは羽状縄文の施された土器口縁部片（図4-33-4）が出土し、F-25からはスクレイパー（図4-33-11）が出土した。

焼土F-12・16・18（図4-32）は調査区中央部の北東寄りで、緩やかな斜面上にあたる。F-12、18はN21、F-16はN20に位置する。F-12からは無文地の土器胴部片（図4-33-5）、F-16からは底部片（図4-33-6）が出土した。

2 遺構

(1) 竪穴住居跡

H-1（図4-3 表4-1 図版4-1・2）

位置 O23・24、P23・24 調査区中央部、標高84.5m付近の平坦面に立地。土坑P-3、焼土F-2・3と重複しF-9に近接、P-15を切る。

規模 確認面 4.00×3.50m 底面 3.72×3.36m 最大深さ 0.48m **平面形態** 不整円形

特徴 [確認] IV層下層において、褐色土のなかに円形の輪郭をした黒褐色土の範囲を確認した。この範囲内に遺物が集中したことも確認した。[調査] 規模の大きさから、直交するベルトを残して4か所を掘り下げたところ、さらに遺物の出土が増え、焼土や炭化物などの堆積を確認したため、竪穴住居跡とした。[堆積] 覆土の堆積は灰黄褐色土が主体で、炭化物、ロームブロックなどとの混土である。床面に至るまで色調に大きな変化は見られなかった。[床面] 床面は明瞭ではなかったがVI層褐色土を掘り込んでつくられている面を明らかにすることができた。概して平坦ではあるが、北東から南西に緩やかに下がる傾斜が見られる。

付属遺構 床面上には炭化物や焼土ブロックなどが散在していたが、明確な炉跡を確認することはできなかった。柱穴と思われる褐色の覆土を伴う小ピット5ヶ所（HP-1～4、7）は明瞭に確認することができた。いずれも深さ15～20cm、径20～30cmである。HP-2、HP-3は遺物も出土した。竪穴の外にも柱穴状のピットを確認しHP-6としたが、1か所のみで竪穴に付属するものかを判断することができなかった。また、床面中央に径1.5mの円形の褐色土の輪郭が見られ、住居跡構築以前の遺構として、土坑P-3とした。

遺物出土状況 土器1877点、土製品16点、石器331点、礫324点、合計2548点の遺物が出土した。遺構の中で最も多い出土である。床面出土としたものは58点で、土器が49点を数えた。主に確認面上及び覆土上層中の土器片、石器片が数多く、覆土下層から床面付近では一括での土器出土と単独での礫出土が目立った。

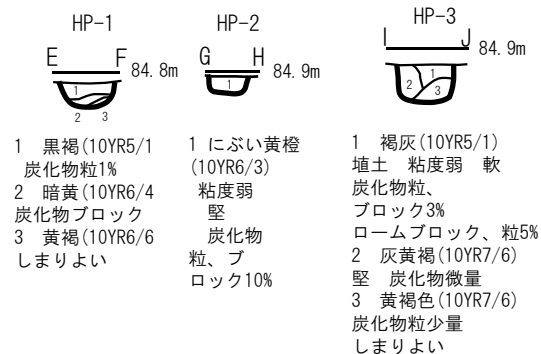
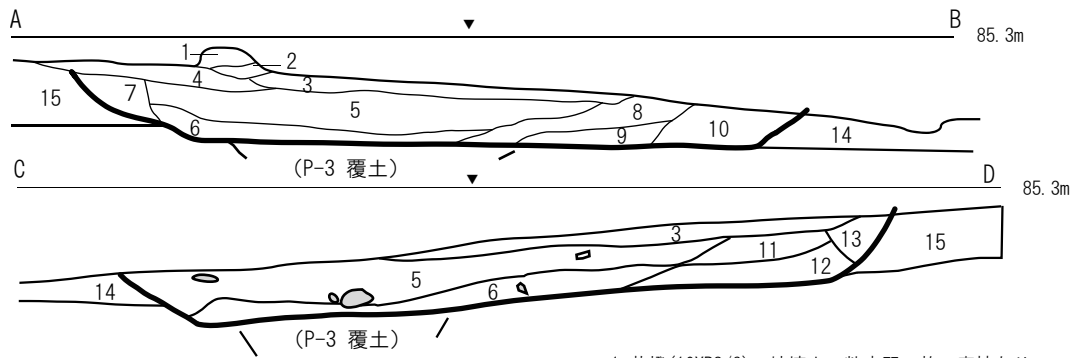
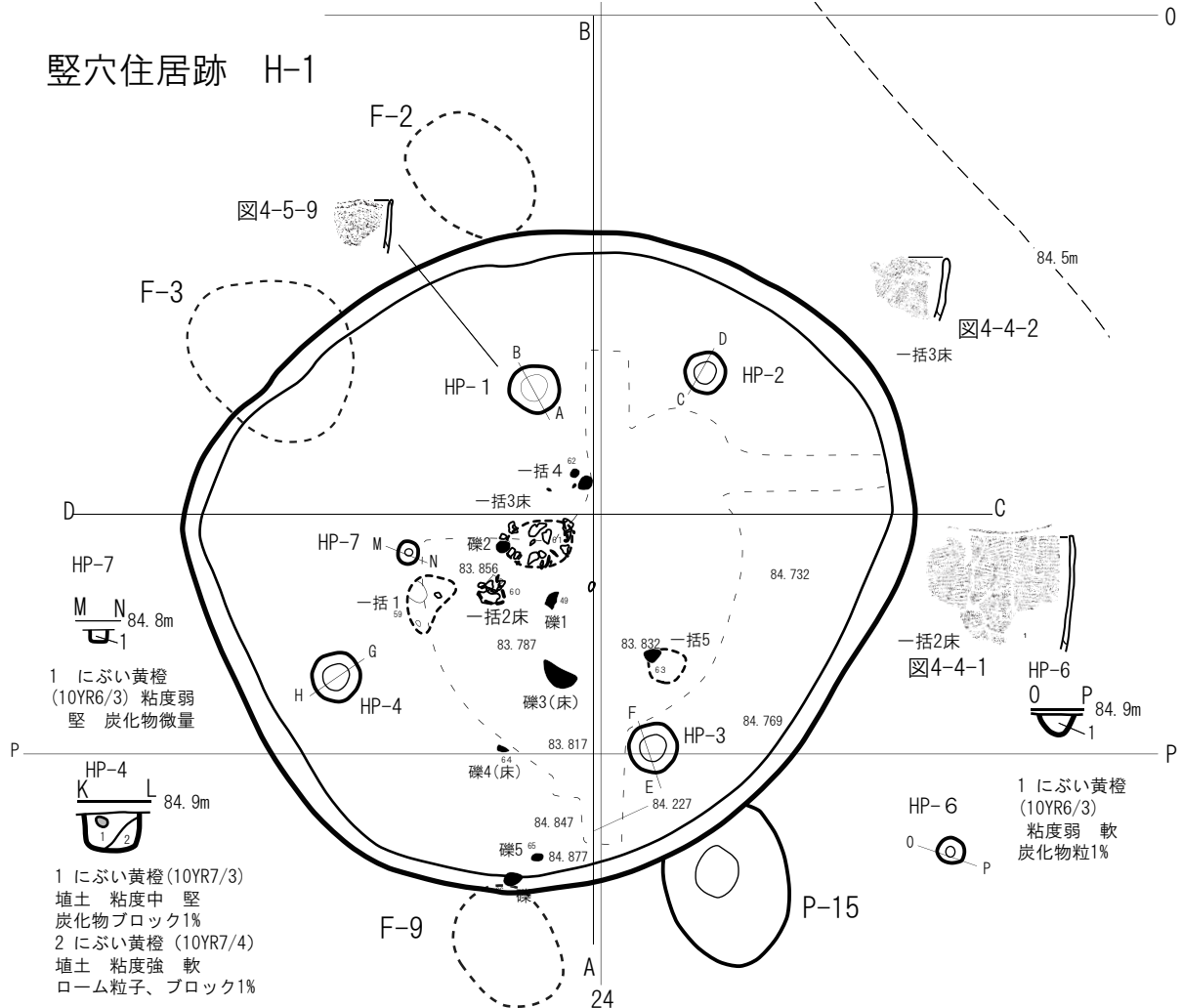
時期 出土遺物から縄文時代後期前葉のものと考えられる。

掲載遺物（図4-4・5・6 表4-3・4 図版4-22・26）

土器は図4-4・5の24点を掲載した。4-1・2は床面上出土遺物で、いずれも縄文地のものである。1はH-1覆土から床及びP-3覆土出土片が接合した口縁部破片で、LR原体による横走縄文を特徴とする。口唇にも同じ原体により縄文が施されている。2は厚手の土器で斜行縄文を地文とする。

4-3～15、5-1～8は覆土中出土のものである。4-3は折返口縁を特徴とする。4-4～6は縄線文を特徴とする口縁部破片である。4-7～12は縄文を地文とするもので、7～9は横走縄文、10は口縁の無文帯

竪穴住居跡 H-1



- 1 黄橙(10YR8/6) 埴壤土 粘度弱 軟 腐植あり
- 2 褐灰(10YR4/1) 埴壤土 粘度弱 軟 腐植が進む
- 3 にぶい黄橙(10YR7/4) 埴壤土 粘度弱 軟 人為堆積土
- 4 にぶい黄橙(10YR7/2) 埴土 粘度強 堅
- 5 灰黄褐(10YR6/2) 埴土 粘土中、堅 ローム粒、炭化物粒3%
- 6 灰黄褐(10YR5/2) 埴土 粘土中、堅 炭化物粒が2%
- 7 にぶい黄橙(10YR7/4) 埴土 粘度弱 軟 炭化物粒5%
- 8 にぶい黄橙(10YR6/3) 埴土 粘度弱 軟 炭化物粒5%、焼土粒1%
- 9 にぶい黄橙(10YR7/4) 埴土 粘度弱 軟 炭化物3%
- 10 にぶい黄橙(10YR7/2) 埴土 粘度弱 軟 炭化物粒5%
- 11 灰黄褐(10YR6/2) 埴土 粘度弱 軟 焼土粒、炭化物粒1%
- 12 にぶい黄橙(10YR7/2) 埴土 粘度弱 軟 炭化物1%
- 13 灰黄褐(10YR5/2) 埴壤土 粘度弱 軟
- 14 明黄褐(10YR7/6) 埴土 粘度弱 堅 混入なし (IV層)
- 15 黄橙(10YR8/6) 埴土 粘度弱 堅 混入なし (IV層)

図4-3 竪穴住居跡 H-1

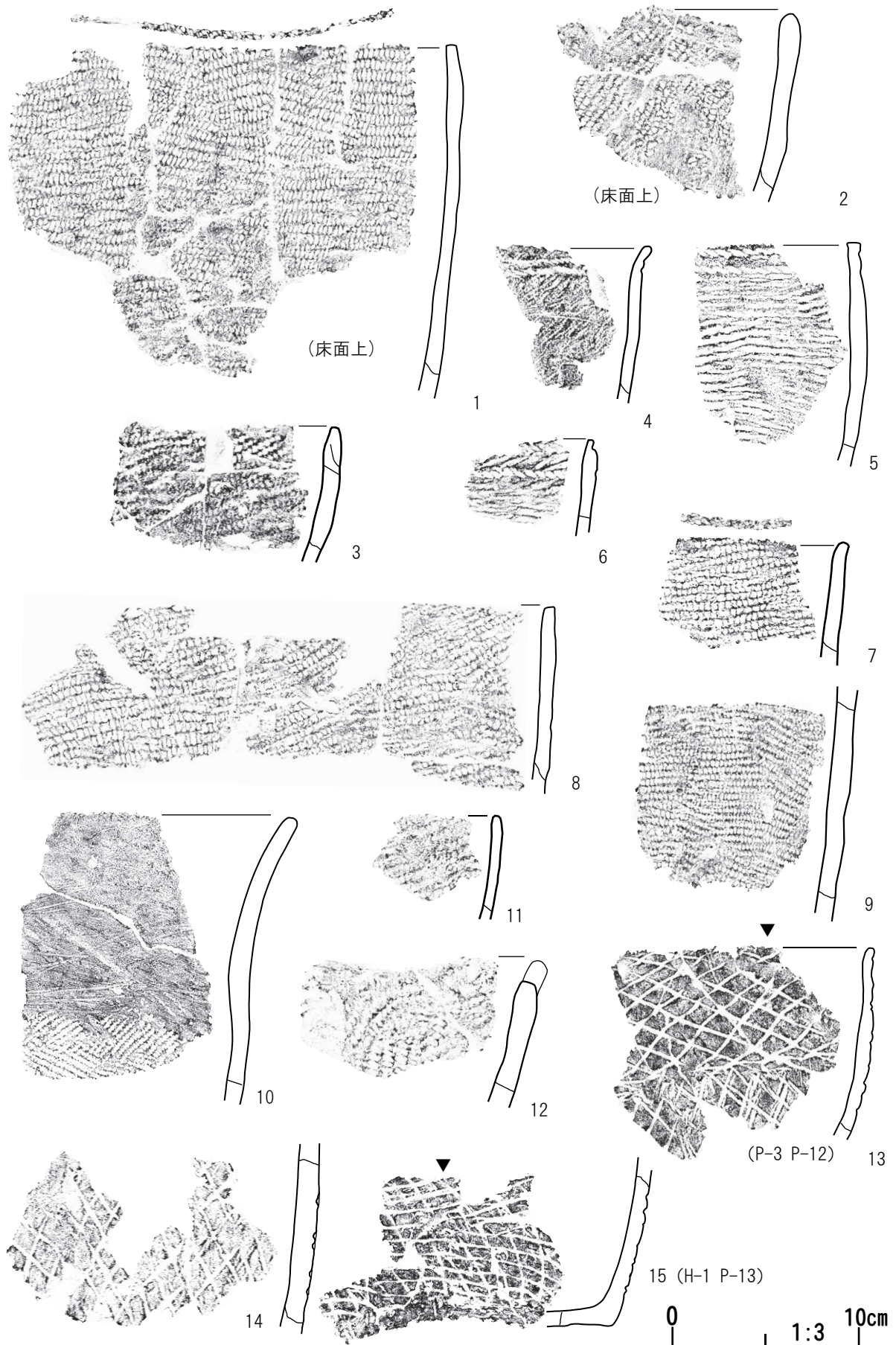


图4-4 豎穴住居跡 H-1 土器(1)

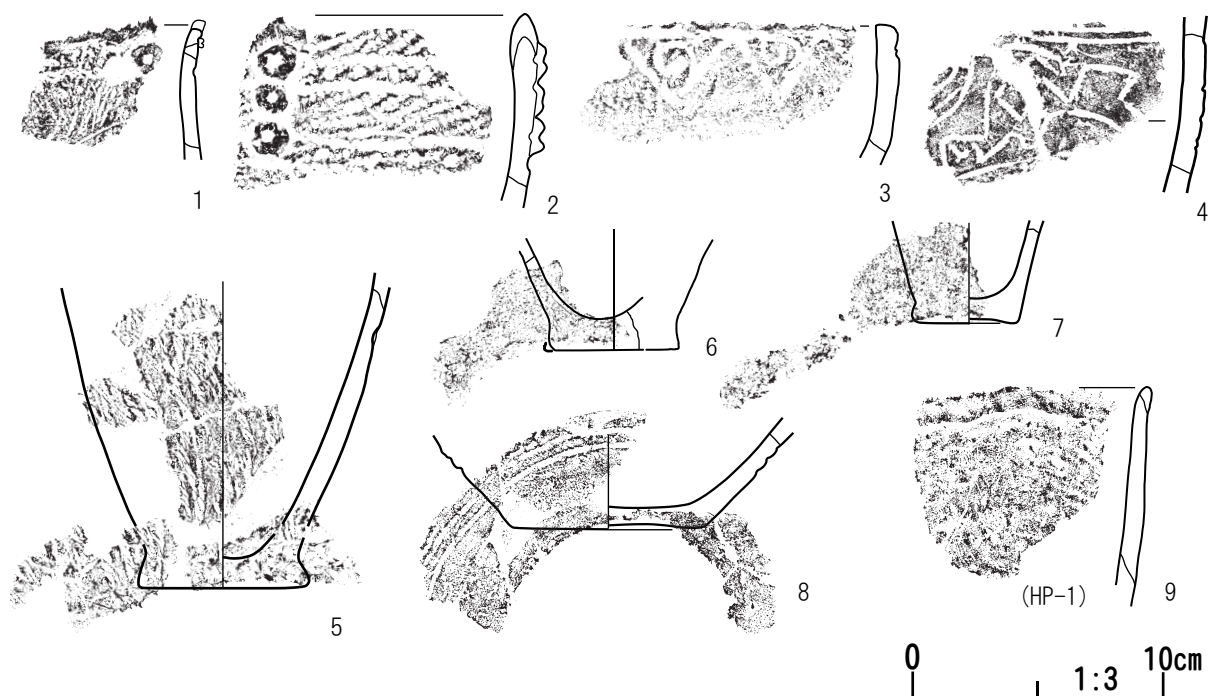


図4-5 竪穴住居跡 H-1 土器(2)

と羽状縄文の組み合わせ、11、12は斜行縄文を特徴とする。12は厚手の土器である。13~15は網目状撚糸文を特徴とするもので、口縁部、胴部、底部の順である。いずれもRL原体の右巻き、左巻きによるものである。13はP-3、P-12出土土器片との接合によるものである。5-1、2は円形の貼付文を特徴とし、2は縄線文と円形刺突文との組み合わせになる。3、4は幾何学的な沈線文を特徴とし、3は渦巻きと三角文の組み合わせ、4は直線的な入組文である。5~8は底部片で、5は縦位の撚糸文を特徴とする。6、7は無文で、8は浅鉢形土器の底部で無文地に横走沈線が巡る。

5-9は柱穴HP-1出土のもので、無文地で折返口縁を特徴とする小型深鉢形土器の口縁部破片である。

石器は図4-6-1~10の10点を掲載した。1、2、3は石鎌である。いずれも覆土上層出土のもので、基部のアスファルトが明瞭である。4、5はスクレイパーで、4は削器で刃部に使用光沢が見られる。5は撥形で鋸歯縁を特徴とする。6は両面調整石器の一部分で背面左側縁の一部に細かな調整が見られる。刃部のある石器の未成品とも考えられる。7~9は石斧である。7は撥形で未成品、8は完形で体部に丸みのある撥形である。9は基部上端のみの破片である。10は台石・石皿で、P-3及び包含層O24、Q22との接合による。

H-2・焼土F-23 (図4-7 表4-1 図版4-3)

位置 O15・16、P15・16 調査区北東部、ミヤノ沢に合流する沢頭付近、標高82.3mの緩斜面に立地。

規模 確認面 (4.14×4.08) m **平面形態** 円形

特徴 [確認] IV層を掘削中に赤褐色の焼土を検出した (F-23、HF-1)。[調査] 検出面を精査し、焼土を台状に残して掘り下げた。周辺をVI層上面まで掘り下げた時点で、焼土を中心として直径4m程の円形にめぐる柱穴状の小ピット群 (HP-1~8・10・11) を検出したため、焼土を地床炉、小ピット群を柱穴とする掘り込みのない(浅い?)住居跡と認定した。記録類を作成したのちHF-1の土壤

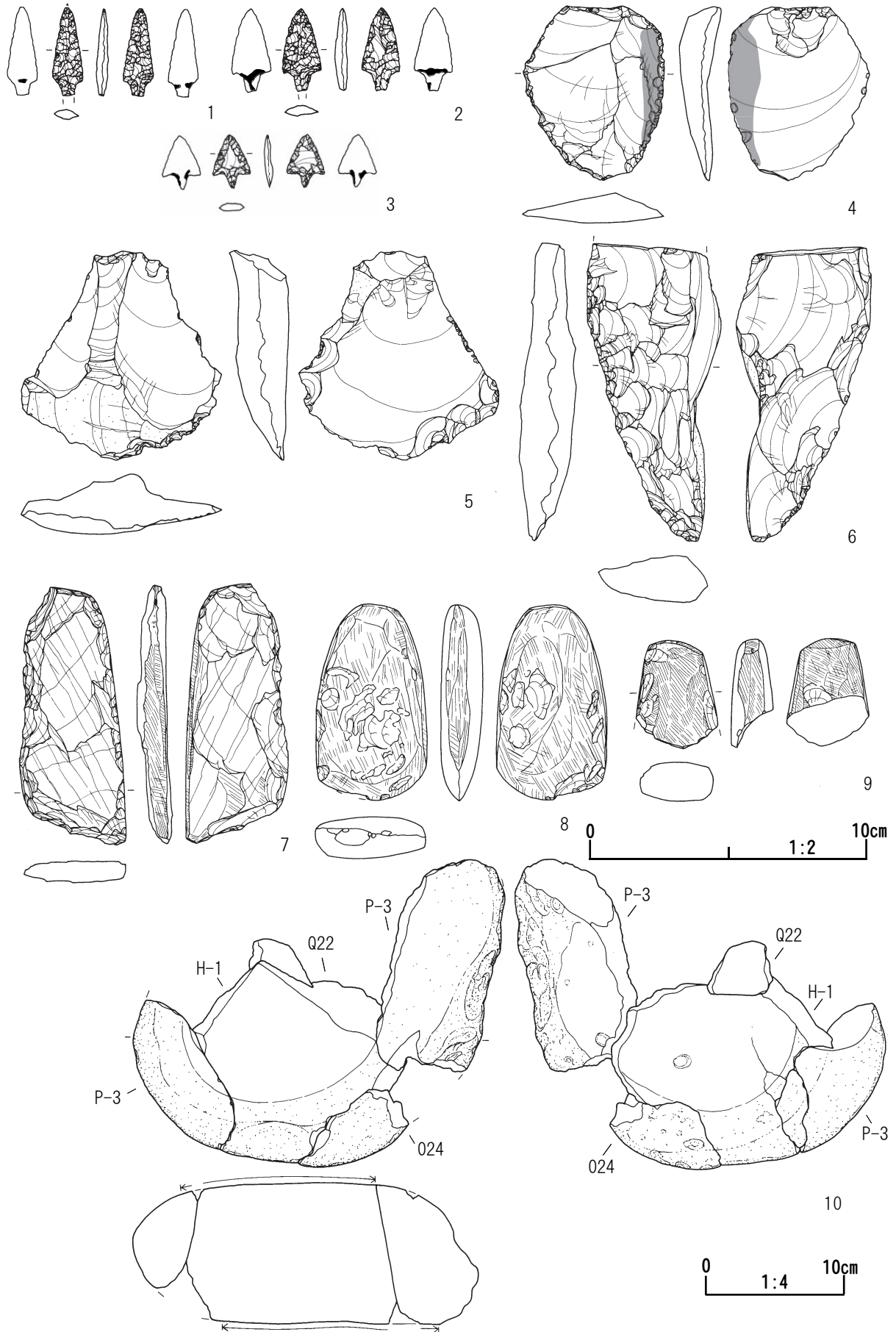
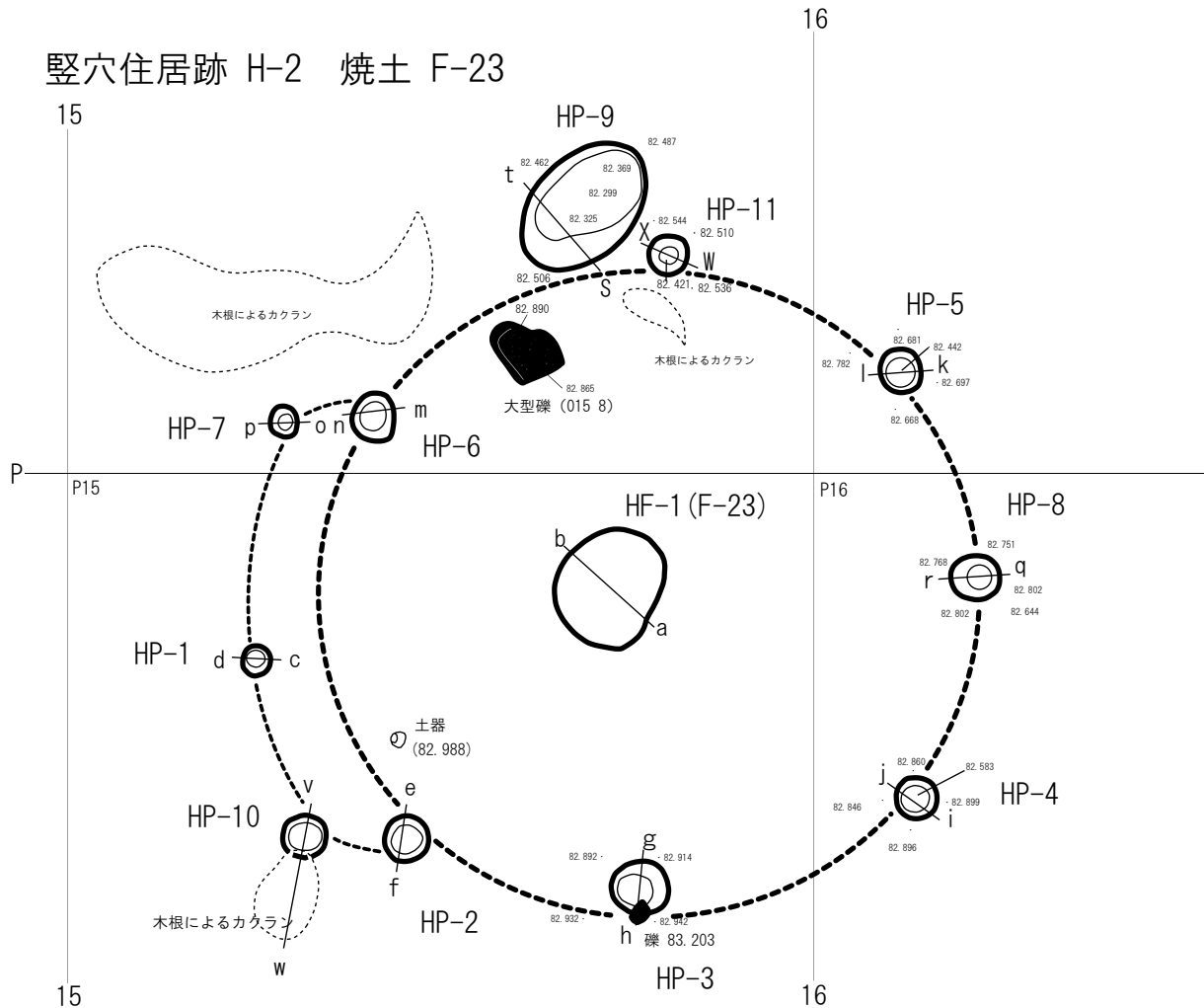


图4-6 豎穴住居跡 H-1 石器

竪穴住居跡 H-2 焼土 F-23



<p>HF-1 (F-23)</p> <p>a b 83.10m</p>	<p>1 赤褐(5YR4/6) 埴土 粘度強 軟 炭化物粒1%</p> <p>2 にぶい黄褐(10YR5/3) 砂壤土 粘度なし 堅 何らかの火山灰の可能性あり</p>	<p>HP-6</p> <p>m n 82.70m</p>	<p>1 暗褐(10YR3/4) 埴壤土 粘度強 堅 VI層が少量、 斑状に混じる</p>
<p>HP-1</p> <p>c d 82.80m</p>	<p>1 暗褐(10YR4/3) 埴壤土 粘度強、堅 ~5mmの地山 礫10%</p>	<p>HP-7</p> <p>o p 82.70m</p>	<p>1 暗褐(10YR3/4) 埴壤土 粘度強 堅 VII層が少量、 斑状に混じる</p>
<p>HP-2</p> <p>e f 82.90m</p>	<p>1 暗褐(10YR3/4) 埴壤土 粘度強 軟 地山礫 2mmの ローム粒2%</p> <p>2 黄褐(10YR5/6) 埴壤土 粘度強 堅 IVとVI層が斑状、 VI層主体</p>	<p>HP-8</p> <p>q r 82.90m</p>	<p>1 暗褐(10YR3/4) 埴土 粘度強 堅 IV、VI層が斑状、 IV層が主体</p>
<p>HP-3</p> <p>g h 83.00m</p>	<p>1 暗褐(10YR3/4) 埴壤土 粘度強 堅 地山小礫、 炭化物粒、ローム粒2%</p> <p>2 明黄褐(10YR6/6) 埴壤土 粘度強</p> <p>3 暗褐(10YR3/4) 埴壤土 粘度強 軟 2mmのローム粒2%</p>	<p>HP-9</p> <p>s t 82.60m</p>	<p>1 黒褐(10YR2/3) 埴壤土 粘度強 堅 IV、VI層が 斑状、IV層が主体</p>
<p>HP-4</p> <p>i j 83.00m</p>	<p>1 黒褐(10YR2/2) 埴土 粘度強 堅 炭化物粒</p>	<p>HP-10</p> <p>u v 83.00m</p>	<p>1 黒褐(10YR2/3) 埴土 粘度強 堅 IV、VI層が斑状、 IV層が主体</p>
<p>HP-5</p> <p>k l 82.80m</p>	<p>1 黒褐(10YR2/3) 埴壤土 粘度強 堅 炭化物粒、 2mmのローム粒2%</p>	<p>HP-11</p> <p>w x 82.60m</p>	<p>1 褐(10YR4/6) 埴土 粘度中 堅</p>

図4-7 竪穴住居跡 H-2 焼土 F-23

サンプルを採取して調査を終了した。小ピット群の配置から、平面形は円形を呈するものと思われる。**付属遺構** 住居中央に楕円形のHF-1があり、HF-1の周囲に直径約4mの範囲で径20cm程の柱穴（HP-2～6・8・11）が7基配置されている。それぞれの柱穴の間隔は1.2～1.6mだが、北東側のHP-2・6間は約2.3mと広い。HP-1・2・6のさらに北東側には約50cmの間隔をおいてHP-7・10があり、両者は並列している。また、中間にやや小規模なHP-1が存在する。これらのことからHP-1・2・6・7・10に囲まれた範囲は住居の出入り口の可能性がある。また、住居の南東側に浅い皿状の土坑（HP-9）を検出した。HF-1（F-23）から出土した炭化物の放射性炭素年代は $2,640 \pm 20 \text{yrBP}$ （IAAA-162322）であった。

遺物出土状況 柱穴状小ピットの範囲内かつHF-1と同一レベルで1197点の遺物が出土している。土器が177点、石器が409点、礫が611点である。中には台石・石皿状の大型の礫がHP-6と9の間に出土した。

時期 炉跡とした焼土（F-23）の年代測定結果から縄文時代晩期のものと考えられる。（直江）

(2) 土坑

P-1（図4-8 表4-1 図版4-4-1～3）

位置 P22 調査区中央部、標高85.5mの平坦面に立地。土坑P-6、8に近接する。

規模 確認面 1.20×0.75m 底面 0.96×0.36m 最大深 0.52m **平面形態** 長楕円形

特徴 [確認] 包含層上層調査時に長径1mに及ぶ大型礫の一部を発見した。礫周辺を精査し、不明瞭ではあったが楕円形の褐色土の範囲を確認し、土坑として調査した。[調査] 礫を土層断面上に残して掘り下げ、掘り込みを確認した。皿状の底面の一部に小ピット状の部分が見られた。その覆土中層で炭化物ブロックを検出し、サンプルとして採取した。[坑底・壁] 坑底は皿状の部分に凹凸があり、ピット部分は尖底である。[堆積] 覆土は混入の少ない黄褐色土の堆積が主体である。小ピット部分の覆土中には炭化物集中が見られ、年代測定を行った。

遺物出土状況 土器は20点、石器は29点、礫が11点出土したが、大型の加工痕のある礫1点がほぼ土坑全体を占める。礫は斜めに倒れたような状態で土坑を覆うように出土した。礫の直下にはUフレイクが1点、剥片が3点出土した。

時期 縄文時代後期前葉 覆土中出土の炭化物について年代測定を行なったところ $3,480 \pm 20 \text{yrBP}$ （測定番号IAAA-162316）の結果がでた。

掲載遺物（図4-25 表4-4 図版4-27）

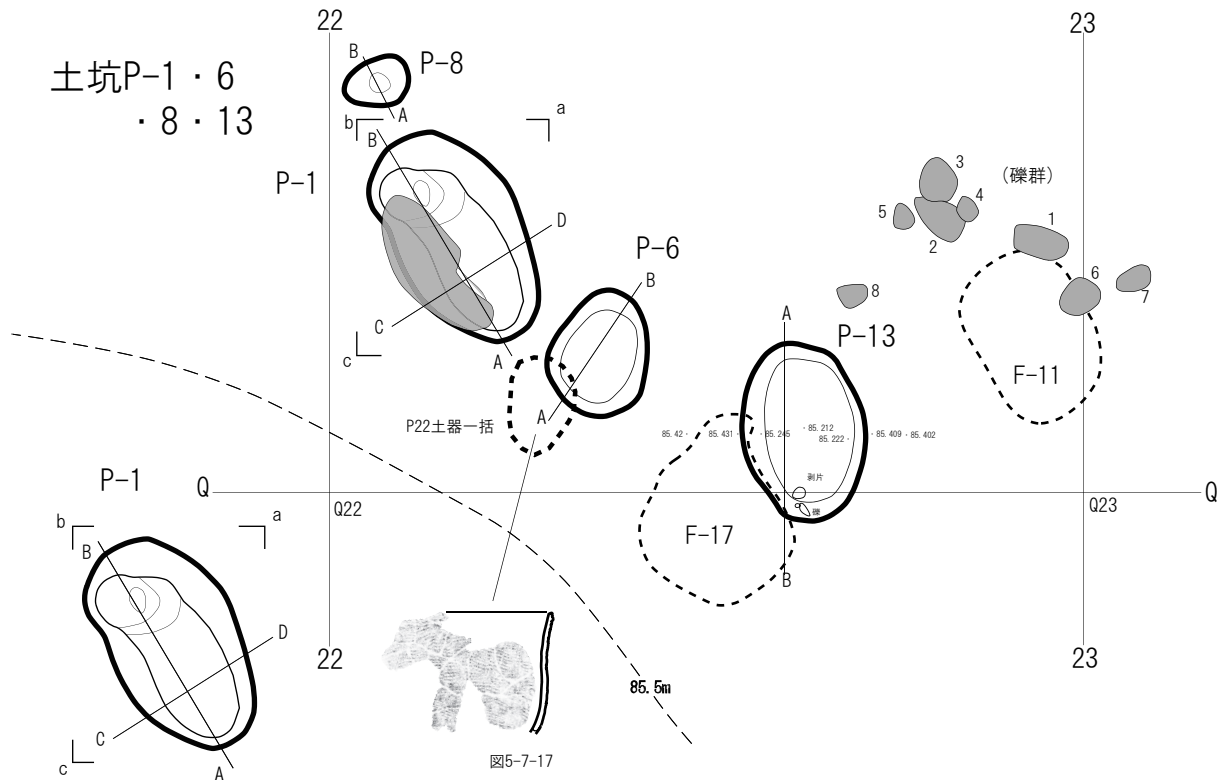
石器は図4-25-1、1点を掲載した。全長約90.9cm、幅33.9cm、厚さ16cm、重さ71kgの加工痕のある礫である。形状は長楕円形の扁平礫で、正面右側縁下部が欠けた状態である。断面が磨かれ、人為的に加工した可能性も考えられる。表面、裏面ともに中央部の平坦面は平滑であり、磨かれたものと考えられる。石材は花崗閃緑岩である。

P-2（図4-9 表4-1 図版4-5-1～3）

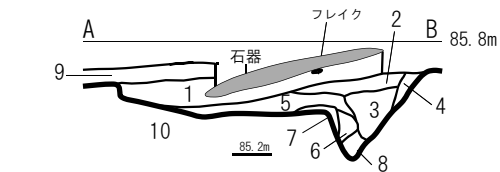
位置 Q24 調査区中央部、標高85.0mの平坦面上に立地。焼土F-20に近接する。

規模 確認面 0.84×0.48m 底面 0.56×0.28m 最大深 0.24m **平面形態** 楕円形

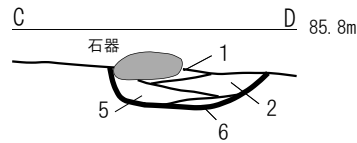
特徴 [確認] Q24の包含層調査にてIV層5回目の掘り下げで、焼土と褐色土の範囲を確認した。褐色土は輪郭が不明瞭であったため、トレンチを設定し土層断面を確認したところ、二つ重なる礫が出土した。これを中心に褐色土の掘り込みを確認できたため、土坑とした。[調査] 覆土を掘り下げ



P-1

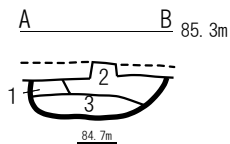


- 1 にぶい黄橙(10YR7/3) 埴土
- 2 にぶい黄橙(10YR7/4) 埴土
- 3 灰黄褐(10YR6/2) 埴土 炭化物ブロック、粒5%、ローム粒1%
- 4 明黄褐(10YR6/2) ややしまり弱い
- 5 暗黄褐(10YR6/2) ロームブロック1%



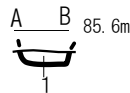
- 6 明黄褐(10YR6/2) 埴土ややしまりない
- 7 灰黄褐(10YR6/2) ロームブロック (掘りすぎ)
- 8 暗黄褐色粘土(10YR6/2) ロームブロック
- 9 灰黄褐(10YR6/2) 埴土 しまり弱い
- 10 灰黄褐(10YR6/2) VI層

P-6



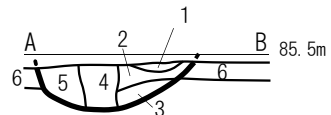
- 1 灰黄褐(10YR6/2) 埴土
炭化物粒多量
焼土粒子少量 しまり良い
- 2 灰黄褐(10YR4/2) 埴土
炭化物粒少量
焼土粒子微量 しまりややよい
- 3 にぶい黄橙(10YR7/4)
埴土 炭化物粒少量
しまりよい

P-8



- 1 灰褐(5YR6/2) 埴土
炭化物 ローム粒子少量
全体に分布、堅密度堅

P-13



- 1 暗茶褐色(10YR6/2) 埴土
炭化物粒多量 焼土粒子を多く含む
- 2 暗黄褐色(10YR7/4) 埴土 炭化物粒を多く含む
- 3 暗茶褐色(10YR6/4) 埴土 炭化物粒を多く含む
- 4 暗茶褐色(10YR5/2) 埴土 しまりわるい
炭化物粒を多く含む
- 5 明黄褐色(10YR8/4) 埴土 しまりわるい
- 6 明黄褐色土(10YR8/6) しまりよい (V層)

図4-8 土坑 P-1・6・8・13

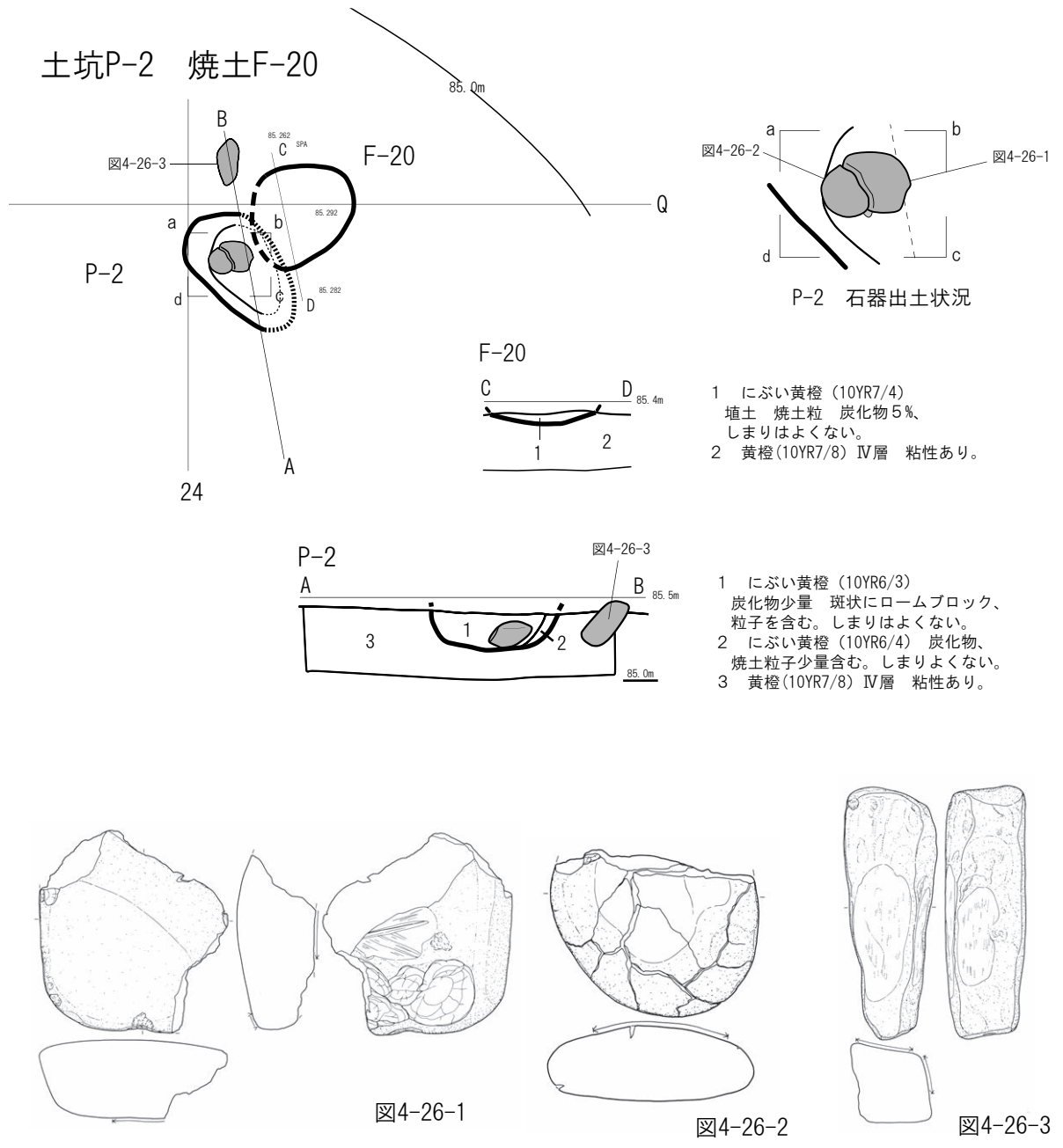


図4-9 土坑P-2 焼土F-20

ると、トレンチで確認した礫が2点重なるように出土した。あらためて周囲を精査すると土坑の範囲はほとんどこの礫の範囲であり、礫を埋設するためのものと考えられた。同じトレンチ内で礫から50cmほど離れたところに角柱状の礫が出土した。この角柱礫は直接土坑に伴うものではないことが明らかになったが、関連性のあるものとしてP-2でとりあげた。[堆積] 覆土の堆積は単純で褐色土層のみである。[坑底・壁] 坑底は丸底である。壁は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は23点出土した。土器が12点、石器が9点、礫が2点である。土坑底面上に2つの礫が重なるように直立した状態で出土した。礫はいずれも台石・石皿片であった。また、礫間に挟まれるように小土器片も出土した。同じトレンチ内出土の角柱状の礫（加工痕のある礫）はやや斜めに出土し、直立していた可能性もうかがわれた。

時期 縄文時代後期前葉と思われる。本遺跡に多く見られる横走縄文を特徴とする出土土器を根拠とした。

掲載遺物（図4-26-1・2・3 表4-4 図版4-27）

石器について図4-26-1～3の3点を掲載した。1は台石・石皿片である。被熱部分も見られるが、すり面はあまり明瞭ではない。2も台石・石皿片で半分片である。扁平楕円礫を素材としたもので、一面に明瞭なすり面が見られる。接合作業により土坑P-17出土の半分片（図4-26-5）と接合して整形となった。3は土坑に伴うものではないが、直立していた可能性もあり、P-2に関連あるものとして掲載した。角柱状の礫で2面に平滑な面が見られたため、加工痕のある礫とした。

P-3（図4-10 表4-1 図版4-6）

位置 O23・24 P23・24 調査区中央部やや西寄り、標高84.5mの平坦面に立地。竪穴住居跡H-1と重複。

規模 確認面 1.76×1.02m 底面 1.60×1.60m 最大深 0.95m **平面形態** 楕円形

特徴 [確認] 竪穴住居跡H-1の床面部分を検出の際に、明瞭な茶褐色土の範囲を確認することができた。当初はH-1の付属遺構と考えたが、範囲が竪穴の1/2以上に及んだことで、遺構の重複と判断した。[調査] H-1の覆土土層断面ではP-3の掘り込みが見られなかったため、P-3はH-1より古いと判断し、H-1と同じトレンチで掘り下げた。覆土上層から多数の遺物が見られ、H-1床面10cm下では炉跡と思うほどしっかりした焼土のまとまりが出土した。焼土下からも連続して土器、石器、礫が出土し、底面付近にまで及んだ。トレンチの土層断面を確認できた段階でこの土坑がフラスコ状ピットであることが明らかになった。掘り下げ時に北側部分を崩落により失ってしまったため、全体を検出することができなかった。[堆積] 竪穴住居跡H-1が不明瞭で単純な堆積であったのに比較して、きわめて明瞭で人為性の強い堆積となった。竪穴床面下に厚く焼土が堆積し、この焼土より下は黄褐色の混土と混入の少ない灰褐色土の互層となって底面まで続いていた。各層に含まれる遺物も多く、一括土器や大型の礫なども見られた。[坑底・壁] 坑底は明瞭で平坦である。壁の立ち上がりは底面が大きく張出すフラスコ状である。

遺物出土状況 遺物は616点出土した。土器が482点、土製品が4点、石器が64点、礫が66点出土した。覆土中に上層と中層の2面で土器、石器の一括出土が見られた。また、上層の焼土中からクリの炭化種実、炭化材片とコナラ節の炭化材片が出土した。

時期 縄文時代後期前葉と思われる。出土土器と年代測定結果を根拠にした。重複する竪穴住居跡H-1が後期前葉の土器においても古いものから新しいものまで幅の広い時期のものが出土するのに比べて、P-3は貼付帯や縄線文などの古い時期の特徴を示すものが多いのが特徴である。年代測定結果

土坑 P-3

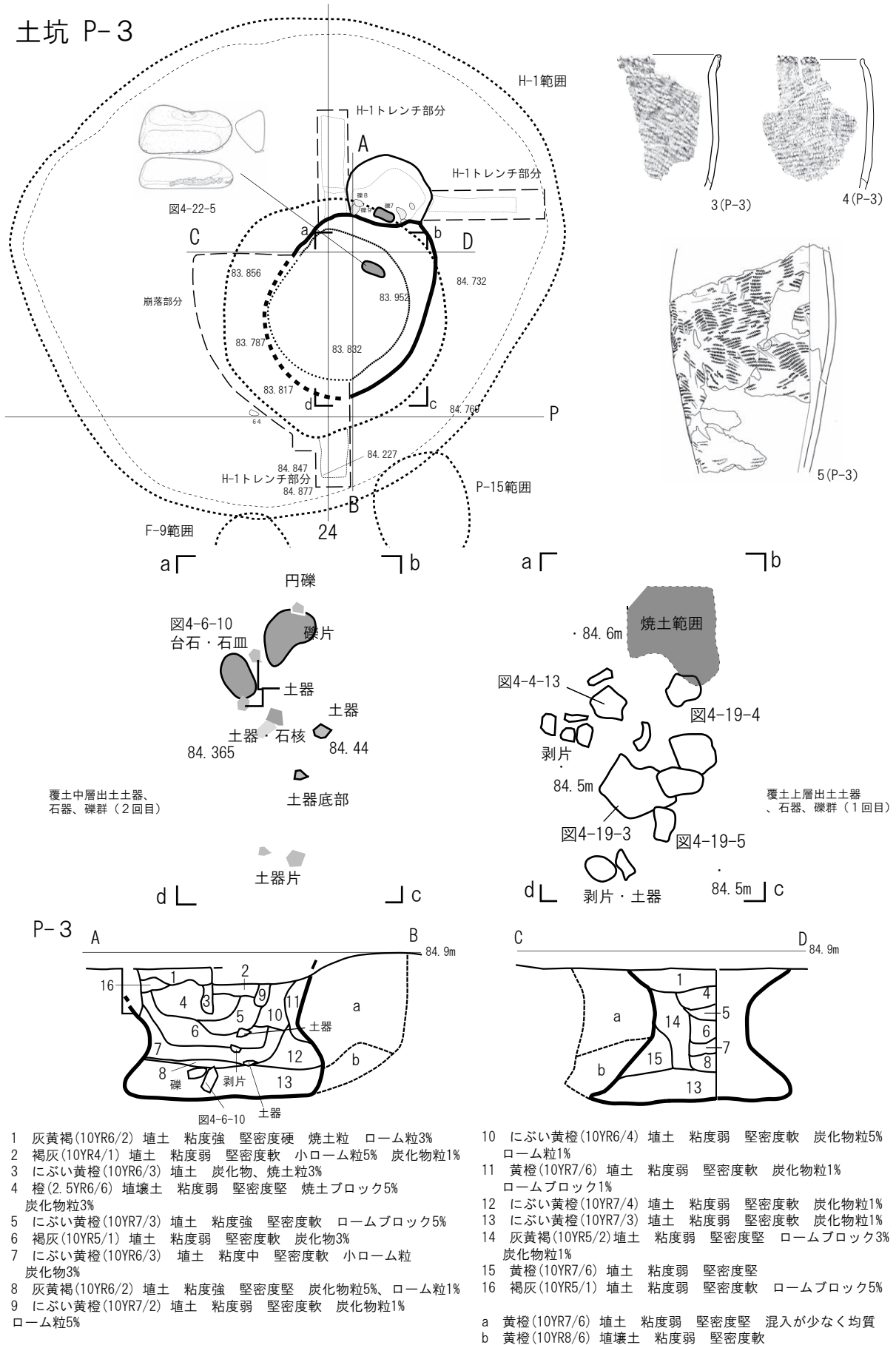


図4-10 土坑 P-3

では土坑内の焼土(4層)サンプルから3,690±30 yrBP(測定番号IAAA-162317)の結果が出ている。

掲載遺物 (図4-19-1~8 4-22-1・7 表4-3・4 図版4-23・26)

土器は図4-19-1~8の8点を掲載した。1は貼付帯を特徴とするもの、2、3、4は縄線文を特徴とするものである。3、4は覆土上層で出土した。5~8は縄文を地文とするもので、5は胴部のみの復原個体、覆土上層で一括出土した破片33点が接合したものである。6は横走縄文、7、8は底部片である。

石器は図4-22-1・7の2点を掲載した。1は覆土出土の石鏃である。6は床面直上出土のたたき石である。三角柱状で被熱している。

P-4 (図4-11 表4-1 図版4-7-1・2・3)

位置 Q21 調査区中央部西寄り 標高85.5mの平坦面に立地。焼土F-5、13、14、15に近接する。

規模 確認面 1.14×0.64m 底面 0.91×0.39m 最大深 0.31m **平面形態** 楕円形

特徴 [確認] 包含層調査IV層3回目で礫を中心にした遺物のまとまりがあり、精査の段階に暗褐色土で楕円形の輪郭を確認した。[調査] 礫を中心に、ほぼ東西に土層断面を残して北側を掘り下げた。土坑内に遺物が集中して出土した。[堆積] 覆土の堆積は単純で3層を確認した。いずれも混入の少ない堆積であった。[坑底・壁] 底面は平坦であるが、西から東に緩やかに下る。遺物の集中した西側部分はテラス状となり、壁は緩やかに立ち上がる。全体的には浅皿状になる。

遺物出土状況 79点の遺物が出土した。土器が最も多くIV群a類が66点、石器は7点、礫が5点である。確認面から底面に至るまで、土坑の西側部分に集中して出土した。

時期 縄文時代後期前葉と思われる。出土土器を根拠にした。土器に沈線文を特徴とするものが多く含まれることから後期前葉においてもやや新しい時期の可能性が考えられる。

掲載遺物 (図4-19-9~11、4-26-4 表4-3・4 図版4-23・27)

土器は図4-19-9~11の3点である。9は斜行縄文地に直線的な沈線文を特徴とする。10は台石・石皿(図4-26-4)上に出土したもので、胴部片である。曲線主体の沈線文が複雑に配されるのが特徴である。11は台石・石皿の周囲にまとまって出土した土器片を中心に、31点接合して復元された無文地の深鉢形土器である。接合片の中にはIV層1、3、4回目の土器も含まれることから、検出されたものよりもっと深く掘りこまれた土坑であったことが考えられた。石器は図4-26-4の1点で台石・石皿である。

P-5 (図4-11 表4-1 図版4-4-4・5)

位置 Q20 調査区中央部西寄り、標高85.5mの平坦面に立地。焼土F-5が2.5m南西にある。

規模 確認面 0.40×0.36m 底面 0.28×0.20m 最大深 0.13m **平面形態** 円形

特徴 [確認] 包含層調査IV層4回目で明瞭な褐色土の小さい円形範囲を確認した。[調査] 南北に土層断面を残して東側を掘り下げた。[堆積] 覆土1層を確認した、底面との境は明瞭であった。[坑底・壁] 底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁面も明瞭であった。

遺物出土状況 土器片1点が底面から出土した。

時期 縄文時代後期前葉と思われる。出土土器を根拠にした。

掲載遺物 (図4-19-14 表4-3 図版4-23)

図4-19-14の土器1点を掲載した。網目状撚糸文を特徴とする土器の口縁部破片である。

P-6 (図4-8 表4-1 図版4-11-1・2・3)

位置 P22 調査区中央部西寄り、標高85.0mの平坦面に立地。土坑P-1・13、焼土F-17に近接する。

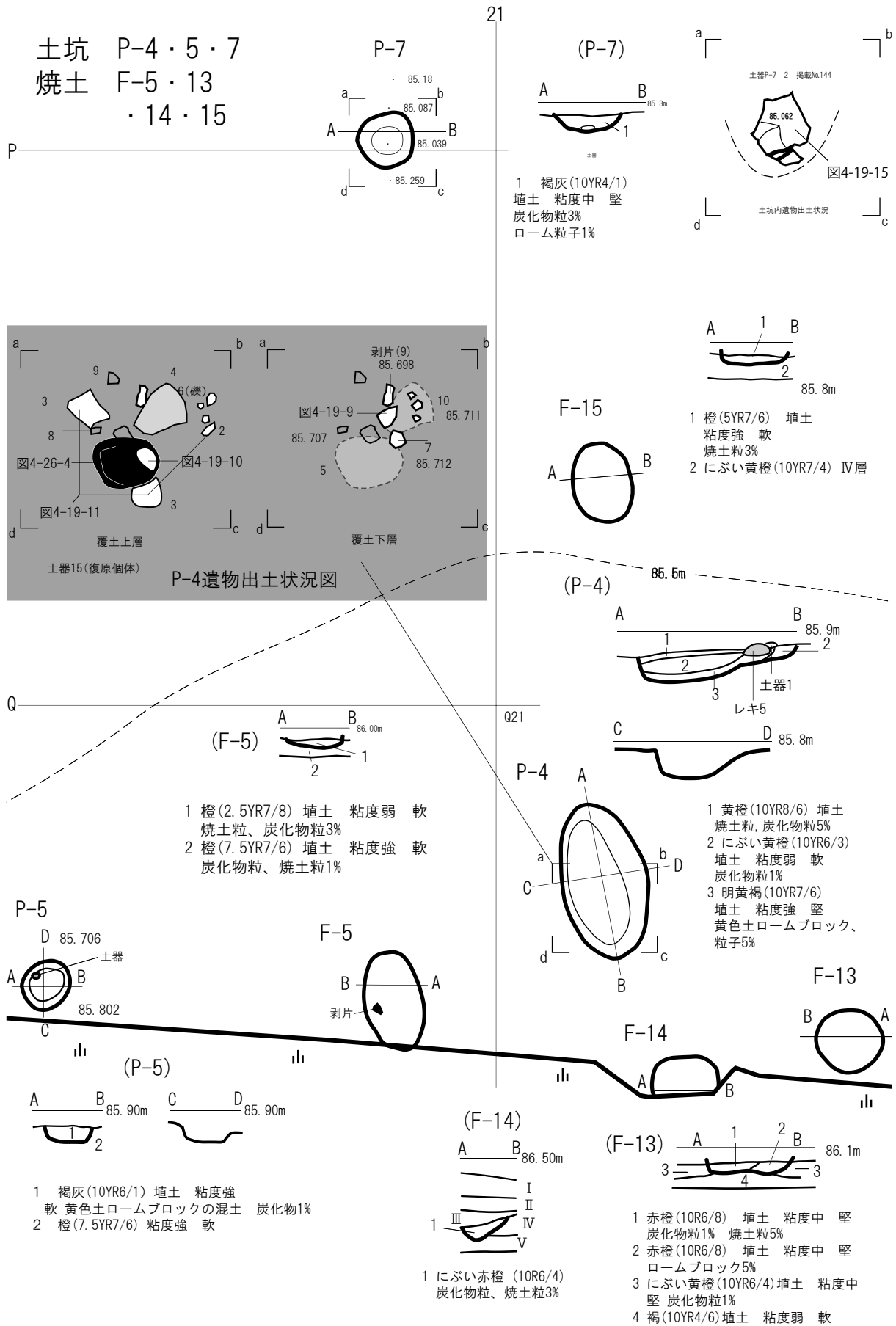


図4-11 土坑 P-4・5・7 焼土 F-5・13・14・15

規模 確認面 0.60×0.56m 底面 0.48×0.36m 最大深さ 0.29m **平面形態** 楕円形
特徴 [確認] 包含層調査Ⅳ層1回目で確認された一括土器(図5-7-13)取り上げ後の精査で確認した。不明瞭ではあったが楕円形の暗褐色土範囲を確認した。[調査] 北西から南東方向に土層断面を残して南側を掘り下げた。[堆積] 覆土3層を確認した。いずれも焼土、炭化物との混土である。
[坑底・壁] 底面は丸底で、壁の立ち上がりは緩やかである。
遺物出土状況 14点が出土した。土器は6点、礫が7点、Uフレイクが1点出土した。礫は円礫が多く見られた。いずれも覆土上層から出土した。
時期 縄文時代後期前葉と思われる。出土土器を根拠とした。

P-7 (図4-11 表4-1 図版4-5-4・5)

位置 0・P20 調査区中央部、標高85.0mの平坦面に立地。2.5m離れた焼土F-12・15が最も近い。
規模 確認面 0.43×0.40m 底面 0.20×0.16m 最大深さ 0.12m **平面形態** 円形
特徴 [確認] 包含層調査Ⅳ層5回目で褐色土の円形の輪郭を確認した。[調査] 南北に土層断面を残して東側を掘り下げたところ土器個体が一括で出土した。土坑の範囲全体におさまるかたちで出土したため、土器埋設のための土坑と考えられた。[堆積] 覆土は炭化物とローム土との混土で単純な1層の堆積である。[坑底・壁] 底面は円形で、壁は緩やかに立ち上がる。丸底に近い。
遺物出土状況 37点が出土した。土器は35点で、28点が接合した。石器は剥片が2点出土した。土坑のほぼ全体を土器が占め、内面を開いた状態で出土した。
時期 縄文時代後期前葉と思われる。出土土器を根拠とした。

掲載遺物 (図4-19-15 表4-3 図版4-23)

図4-19-15の土器1点を掲載した。わずかに口縁部が残る大型深鉢形土器である。全体の6分の1程度の残存と思われる、無文地に口縁部には2条の横走沈線が見られる。

P-8 (図4-8 表4-1 図版4-13-1)

位置 P22 調査区中央部西寄り、標高85.0mの平坦面上に立地。土坑P-1に隣接する。
規模 確認面 0.37×0.27m 底面 0.12×0.10m 最大深さ 0.12m **平面形態** 楕円形
特徴 [確認] 土坑P-1精査中に小規模ながら明瞭な楕円形の暗黄褐色土範囲を確認した。P-1に伴うものとして精査したが、単独の土坑とした。[調査] 東西に土層断面を残して、南側を掘り下げた。[堆積] 炭化物とローム粒との混土が1層見られた。底面、壁面との層界は明瞭であった。[坑底・壁] 底面は平坦で、壁は急な立ち上がりである。
遺物出土状況 遺物は出土していない。
時期 縄文時代後期前葉と思われる。周辺の出土遺物及び隣接する土坑P-1との関連を根拠とした。

P-9 (図4-12 表4-1 図版4-8)

位置 N22 調査区中央部やや東寄り、標高84.5mの平坦面上に立地。焼土F-7が近接する。
規模 確認面 1.80×1.48m 底面 2.20×1.80m 最大深 1.20m **平面形態** 円形
特徴 [確認] N22の包含層調査Ⅳ層5回目の掘り下げで、遺物のまとまった出土を確認した。この中に石斧が直立に近い状態で3点出土したことから周辺を精査したが、遺構の輪郭を確認することができなかった。[調査] 石斧の出土状況を人為的なものと判断し、トレンチを設定し、掘り下げた。土器、石器、大型の礫などの遺物が数多く出土したが、遺構の輪郭、形状もはっきりしなかった。遺

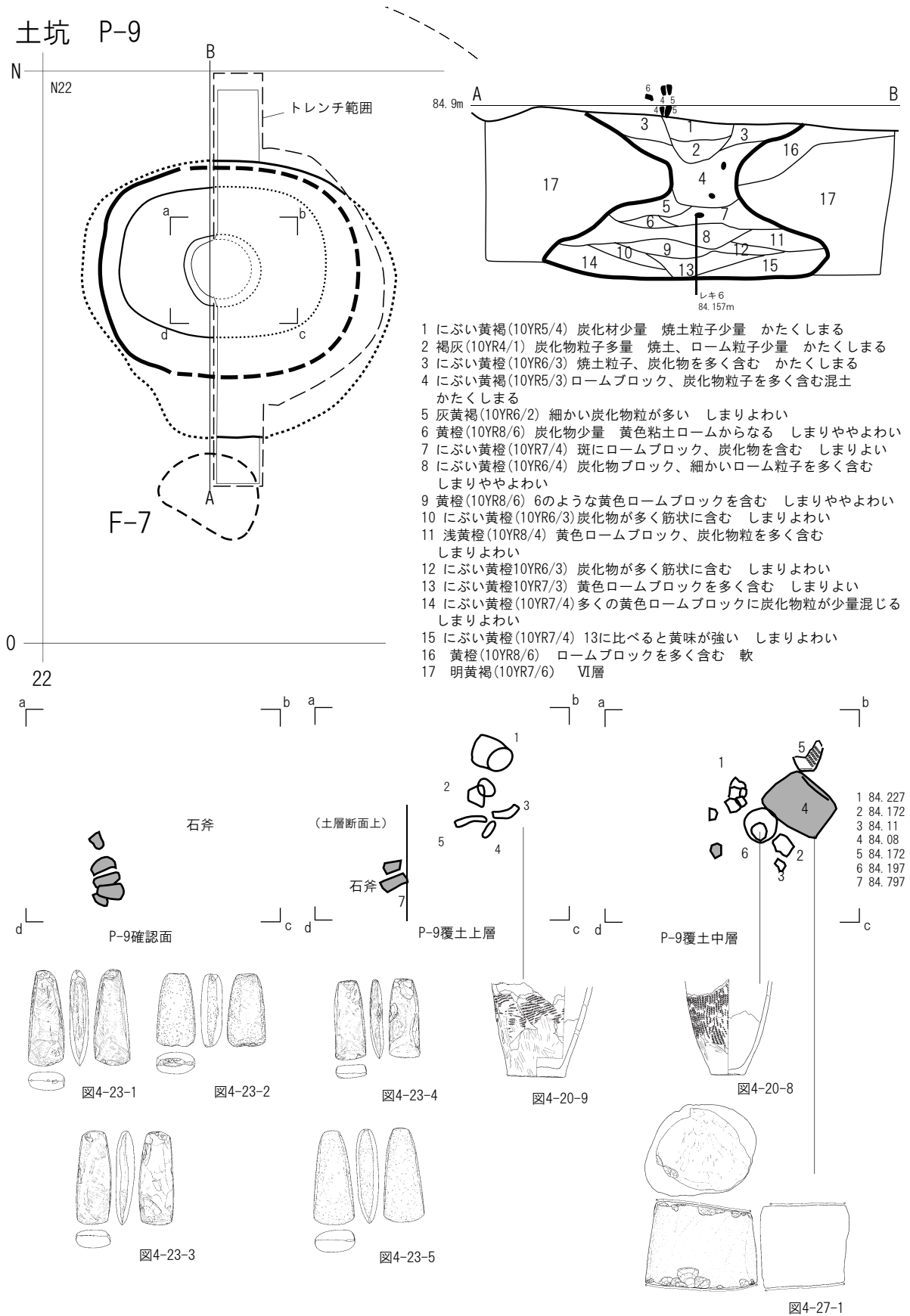


図4-12 土坑 P-9

物を取りあげて精査した後に、ようやく堅いⅥ層を掘り込んだ底面を検出することができた。トレンチの断面と底面の立ち上がりから、この土坑がフラスコ状ピットであることが明らかになった。[覆土] 覆土の堆積は上層が黒褐色土主体、中層が暗褐色土主体の混土で、下層は黄色土ロームと黒褐色土との互層堆積が見られた。[坑底・壁] 坑底は平坦で、壁は大きく張り出してから内傾し、幅5～60cmまでの括れた部を経て大きく外側に広がる形状であった。首の狭いフラスコ状となった。

遺物出土状況 遺物は520点出土した。土器はⅣ群a類が314点、石器が88点、礫が107点である。確認面上ではほぼ直立状態の石斧3点(図4-23-1・2・3)がまとまって出土したが、ほぼその直下でさらに石斧2点(図4-23-4・5)が出土した。覆土上層からはフラスコの狭い首部分を中心に土器片、石器片が一括して出土した。特に大型深鉢形土器の底部分が横倒しの状態で出土した(図4-20-9)。覆土中層から下層にかけては上層同様に数多くの遺物が出土した。特に円錐台形の大型礫(図4-27-1)が投げこまれたようなかたちで出土、また土器の底部片(図4-20-8)が倒立状態で出土した。

時期 縄文時代後期前葉の時期と思われる。出土土器を根拠にした。

掲載遺物 (図4-20-1～9 図4-22-3・5・6、4-23-1～7、4-27-1 表4-3・4 図版4-24～27)

土器は図4-20-1～9の9点を掲載した。1は縄文地の口縁部破片である。2、3は縄文地に蛇行沈線の特徴とするもので、3は焼土F-8出土土器片とも接合している。4～7は沈線文を特徴とする土器で、4は無文地に横走沈線、5は矢羽根状沈線、6は縄文地に直線的な入組文の沈線の特徴とする口縁部破片である。7は無文地に細沈線で渦巻文が描かれた胴部破片である。8、9は胴～底部を復元した個体である。いずれも縄文地で8は縦位、9が横走である。8は覆土中層で倒立状態、9は覆土上層で横倒し状態の出土である。

石器は図4-22-3、5、6、4-23-1～7、4-27-1の11点を掲載した。22-3は尖基の石鏃、5、6はスクレイパーで5は覆土中層出土、6は削器で縦型のものである。23-1～6は石斧で、1～3は遺構確認面上に直立状態でまとまって出土した。4～5は1～3の直下で出土した覆土上層出土のものである。6は覆土中層出土の石斧基部破片である。7はたたき石で底面から出土した。扁平円礫の側縁と表面の中央に叩き痕が残る。27-1は覆土中層出土の加工痕のある礫である。フラスコ状の細い首部分の途中で投げ込まれた状態で出土した。花崗閃緑岩製である。円錐台形で上底と下底の平坦な面にすり面が残る。側面も磨かれ、上底、下底付近には敲打痕が見られた。台石・石皿として利用されたとも考えられる。

P-10 (図4-13 表4-1 図版4-9)

位置 M21 調査区中央部やや東寄り、標高84.0mのやや傾斜のある面に立地。焼土F-18、22に近接する。

規模 確認面 1.92×1.72m 底面 1.60×1.56m 最大深さ 0.84m **平面形態** 円形

特徴 [確認] 包含層調査Ⅳ層3回目で円形の褐灰色から黄橙色土の輪郭を確認した。[調査] 南東～北西方向に土層断面を残して北東側を掘り下げた。遺物の出土や炭化物の集中などが見られたものの、底面、壁面の検出は困難であった。円形の土坑として掘り下げたが、フラスコ状ピットであった可能性も考えられる。[堆積] 覆土は上層が縦位、中層以下より横位の堆積となる。横位の堆積は炭化物、焼土粒などを多く含む混土が主体で、底面に至るまで黄褐色土との互層となる。上層と中層の間には炭化物を含む黒色土の範囲が楕円状に広がり、剥片をはじめ多くの遺物を含む。[坑底・壁] 底面は平坦である。壁の立ち上がりは直立であるが、土層断面からもフラスコ状の頸部を掘りすぎた可能性も考えられる。

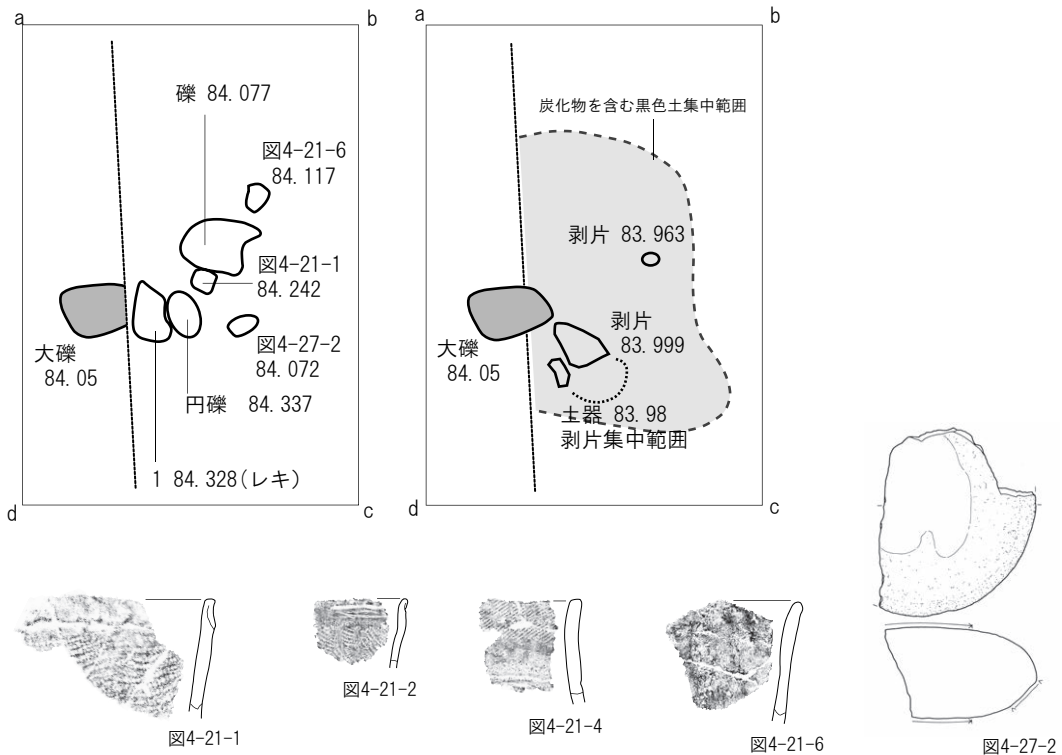
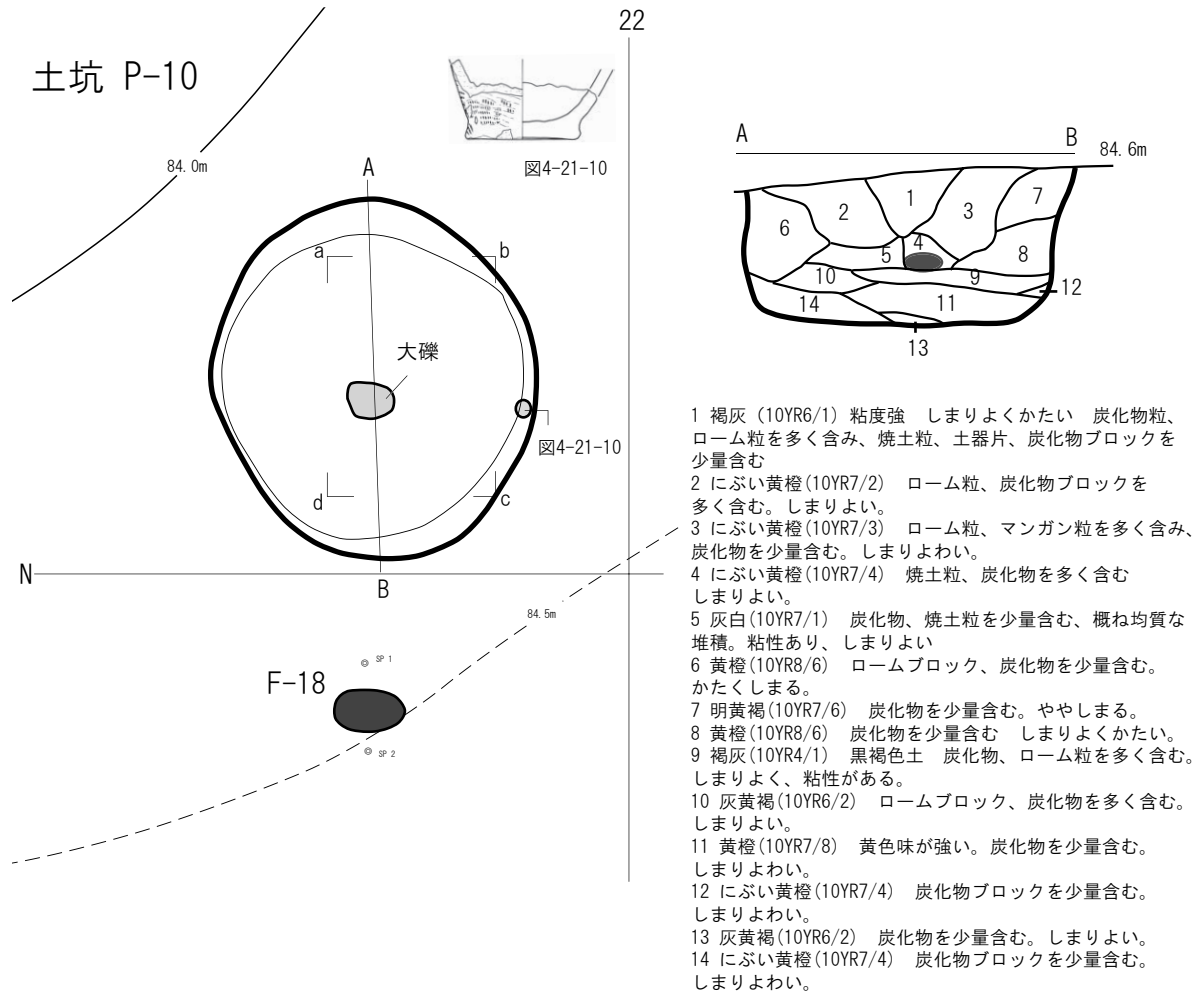


図4-13 土坑 P-10

遺物出土状況 372点の遺物が出土した。土器はⅣ群a類が210点、石器は147点、礫が15点である。覆土上層から遺物は多く、特に、覆土上層から中層の間に広がる炭化物を含む黒色土の範囲には全長20cmほどの安山岩礫を中心に頁岩の剥片が集中して出土した。剥片は140点で、他の土坑に比較しても圧倒的に多く、小片が多いのが特徴である。接合作業により母岩Cの接合資料1-1（図版5-17）を得ている。底面付近は遺物が少なく、風化した頁岩の小剥片が認められたのみである。

時期 縄文時代後期前葉と思われる。出土土器を根拠にした。土器片からは後期前葉においてもやや古い時期の可能性が考えられる。

掲載遺物（図4-21-1～10、4-27-2 表4-3・4 図版4-25・27）

土器は図4-21-1～10の10点を掲載した。1～5は縄文地で、1～3は折返口縁を特徴とし、3は縄線文を伴う。6～9は無文地で、6・7は無文の口縁部片、8・9は直線的な沈線文を特徴とする。10は横走縄文を特徴とする底部片で、少し張出があり、器壁はやや開き気味に立ち上がる。

石器は図4-27-2に覆土出土の台石・石皿片を掲載した。扁平で円形の安山岩礫を素材に、表面と裏面にすり面が残る。表のすり面はやや膨らみがあり、裏面は平坦である。側面の一部には敲打痕も見られる。

P-11（図4-14 表4-1 図版4-7-4・5）

位置 M22 調査区中央部やや西寄り、標高84.0mの緩やかな斜面上に立地。土坑P-9、焼土F-22に近接する。

規模 確認面 0.84×0.76m 底面 0.64×0.60m 最大深さ 0.65m **平面形態** 円形

特徴 [確認] 包含層調査Ⅳ層3回目で遺物集中の取り上げた後に暗褐色土の円形の範囲を確認した。[調査] 北西から南東方向に土層断面を残して北東側を掘り下げた。[堆積] 炭化物とロームブロックを含む混土の堆積を確認した。[坑底・壁] 底面、壁面ともに明瞭で、底面は平坦、壁面は急な立ち上がりであった。

遺物出土状況 86点の遺物が出土した。土器はⅣ群a類が46点、石器は剥片が30点、礫が7点である。覆土中からまとまって出土した。

時期 縄文時代後期前葉と思われる。出土土器を根拠とした。

掲載遺物（図4-19-12・13 表4-3 図版4-23）

図4-19-12・13の2点の土器を掲載した。12は壺形土器の胴部片で、縄文を充填した並行沈線により工字文が描かれる。13は円形刺突文を特徴とする口縁部片である。

P-12（図4-15 表4-1 図版4-10）

位置 L・M24 調査区中央部東寄り、標高83.5mの平坦面に立地。最も近い遺構が焼土F-28である。

規模 確認面 1.68×1.48m 底面 1.28×1.04m 最大深 0.72m **平面形態** 楕円形

特徴 [確認] L・M24包含層調査Ⅳ層3～4回目に遺物の集中出土を確認し、楕円形の褐色土範囲内にあることが明らかになった。[調査] 南東～北西方向に土層断面を残し、北東側を掘り下げた。覆土上層に遺物が多く、中間層にはさらに集中が見られた。底面も壁面も明瞭であった。[堆積] 炭化物、焼土粒子を含む混土が主体で、いくつもの皿が重なるような堆積が特徴である。中間の6層上には土器や石器が集中して出土した。また坑底には礫が出土した。[坑底・壁] 底面は概ね平坦で、壁の立ち上がりは東に直立、西に緩やかである。

遺物出土状況 643点の遺物が出土した。土器はⅣ群a類が474点で、石器は50点、礫が116点である。

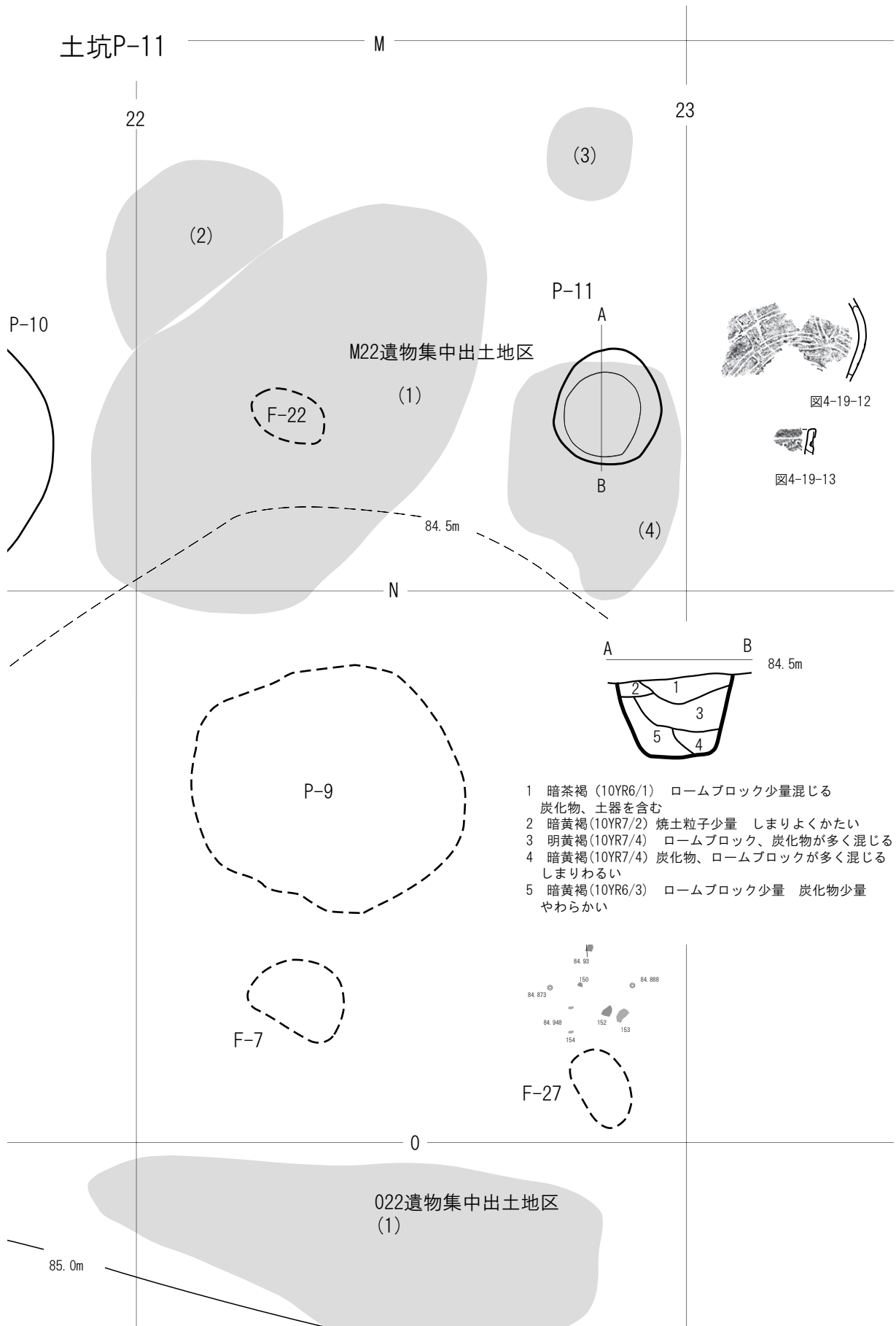


図4-14 土坑 P-11 M22・O22遺物集中出土地区

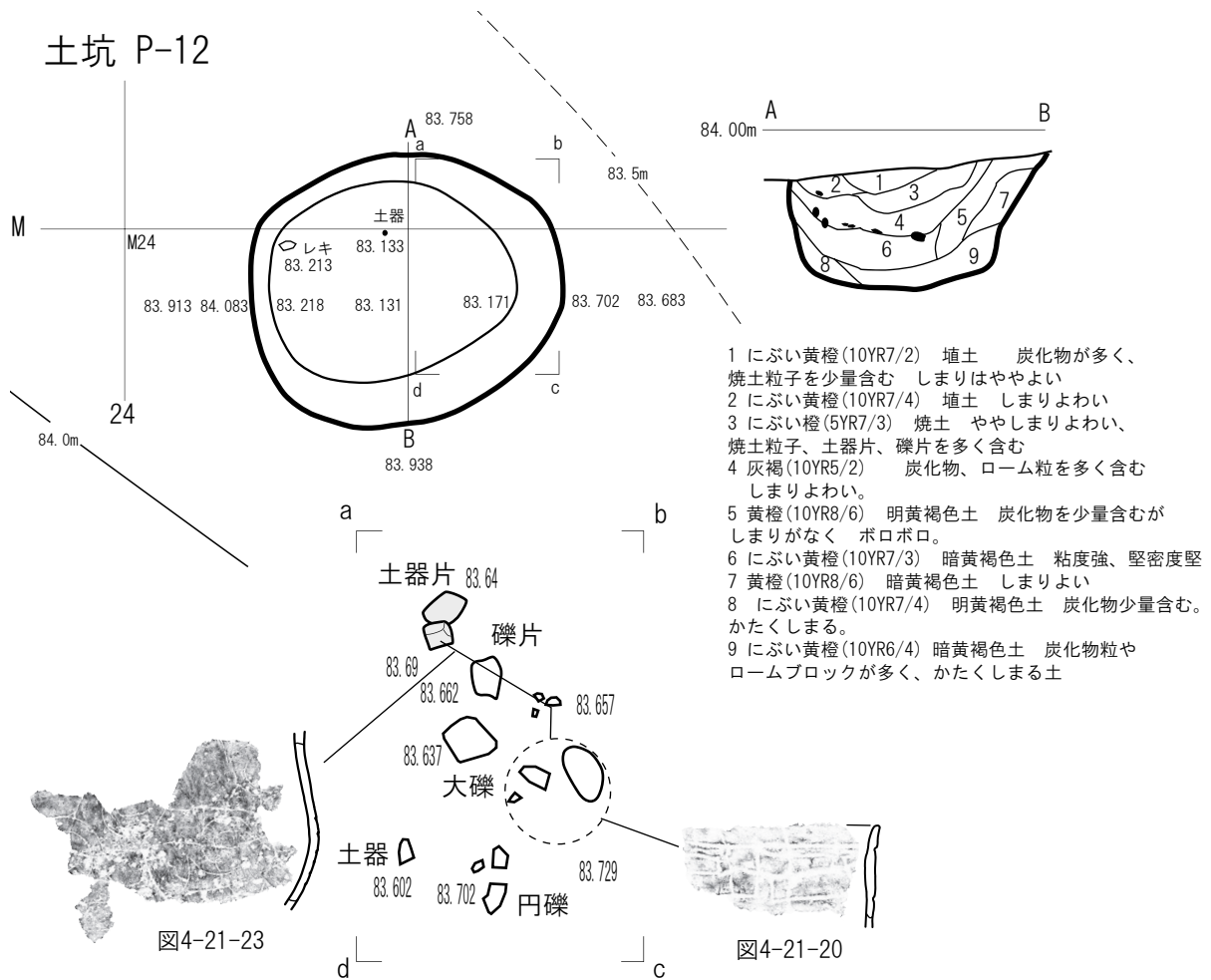


図4-15 土坑 P-12

覆土中の中間層に遺物の集中が見られた。

時期 縄文時代後期前葉と思われる。出土土器を根拠にした。

掲載遺物 (図4-21-11~23 図4-22-2・4・8・9、図4-24-1 表4-3・4 図版4-25~27)

土器は図4-21-11~23の13点を掲載した。11~19は縄文地である。11は2条の貼付帯を伴う口縁部破片、13は1条の貼付帯上に1条の縄線文を施した口縁部破片である。14は縄文地の折返口縁を特徴とする口縁部破片である。15~18は斜行縄文の口縁部破片である。19は底部片で、底面にも縄文が施され、やや開き気味に立ち上がる。20~23は無文地である。20は直線主体の沈線文、21は縄文を充填した並行沈線で文様が描かれる壺形土器の破片である。22、23は同一個体と思われる壺形土器の破片で、22が口頸部、23が胴部である。特に23は遺構上付近にあたるグリッドM24、25の包含層出土破片と接合した。細い沈線文が特徴で、口頸部には並行する横走沈線、胴部には渦巻状の入組文が施される。

石器は図4-22-2・4・8・9、4-24-1の5点を掲載した。2は遺構確認面出土の石鏃である。アスファルトの付着がある。4は縦型のスクレイパーで、背面右側縁の調整剥離による刃部が外湾する形状である。8、9はたたき石であるが、8は覆土下層から出土したもの、9は覆土中層から出土した。9は形態から石錘の可能性も考えられる。24-1は覆土下層から出土した石核である。

P-13 (図4-8 表4-1 図版4-11-4)

位置 P22 調査区中央部西寄り、標高85.0mの平坦面に立地。焼土F-17と一部重複、土坑P-6、焼土F-11に近接する。

規模 確認面 0.94×0.65m 底面 0.76×0.44m 最大深 0.26m **平面形態** 楕円形

特徴 [確認] 焼土F-17調査の際に設けたトレンチにより掘り込みを確認した。[調査] 北西から南東方向のトレンチ土層断面とともに上層で確認した遺物を残したまま南西側を掘り下げた。底面及び壁面は明瞭であった。[堆積] 覆土は炭化物を含む混土が主体の堆積である。[坑底・壁] 坑底は丸底に近く、壁は緩やかな立ち上がりである。

遺物出土状況 69点の遺物が出土した。土器はIV群a類が40点、石器は13点、礫が14点である。石器には剥片のほかUフレイク、すり石、たたき石が見られた。

時期 縄文時代後期前葉と思われる。出土土器を根拠にした。

掲載遺物 (図4-20-10・11、4-22-10 表4-2・3 図版4-24・26)

土器は図4-20-10・11の2点を掲載した。10・11はいずれも縄線文を特徴とする口縁部破片で、10は捺糸文、11はLR原体による横走縄文を地文とする。

石器は図4-22-10の1点を掲載した。10は確認面上で出土した。たたき石で円礫の端面を広範囲に敲打している。

P-15 (図4-16 表4-1 図版4-11-5・6)

位置 P24 調査区中央部西寄り、標高84.5mの平坦面に立地。竪穴住居跡H-1と重複する。

規模 確認面 0.88×0.65m 底面 0.28×0.20m 最大深 0.36m **平面形態** 楕円形

特徴 [確認] 住居跡H-1の覆土を掘り下げた際、西側に広がる部分を確認したため、周囲を再精査したところ、遺物の集中とともに黒褐色土の楕円形をした輪郭を確認することができた。[調査] 長軸南側を半分掘り下げたところ、浅鉢状の掘り込みが明らかになったため、土坑とした。[堆積] 覆土は炭化物ブロックを含むローム土との混土が主体の堆積である。[坑底・壁] 坑底は緩やかな丸底で、壁は外側に広がる。

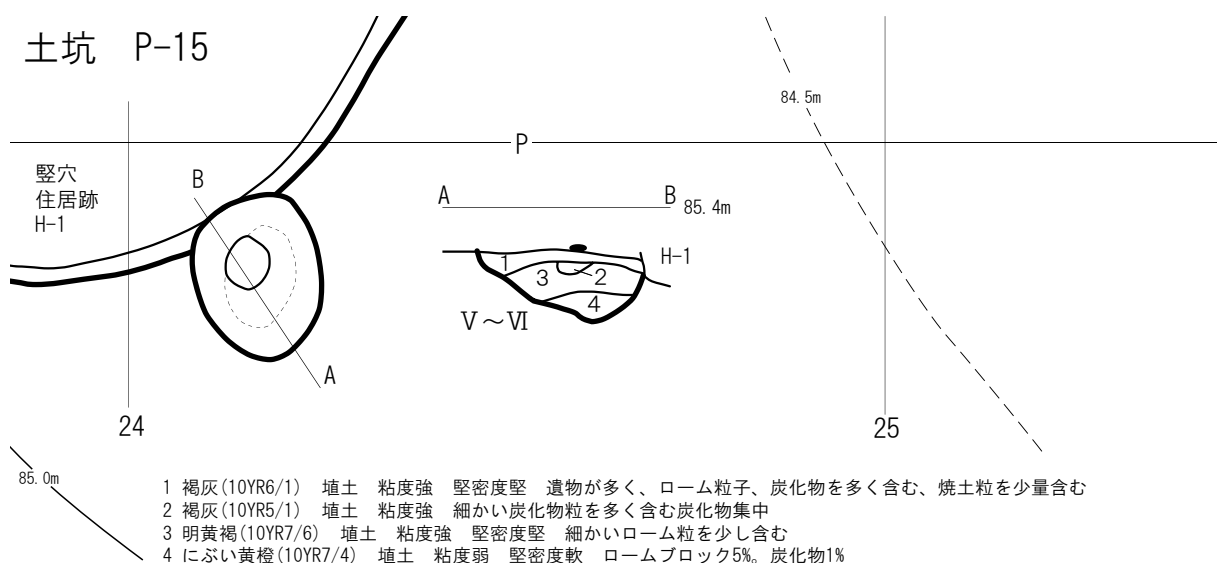
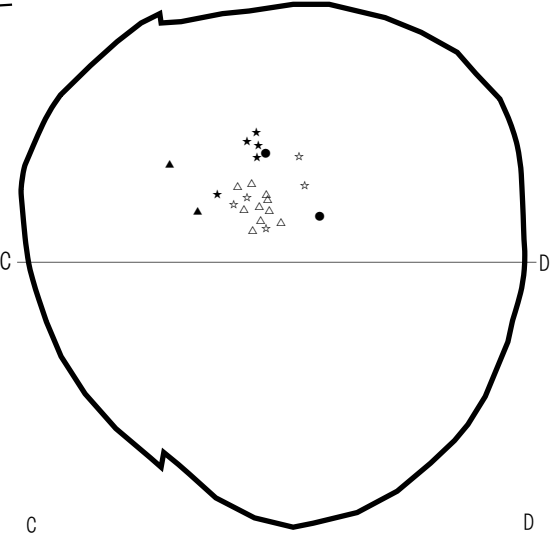
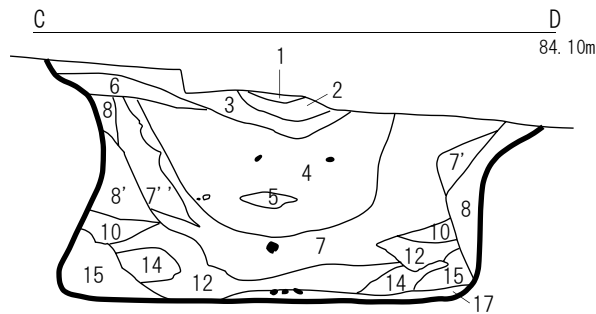
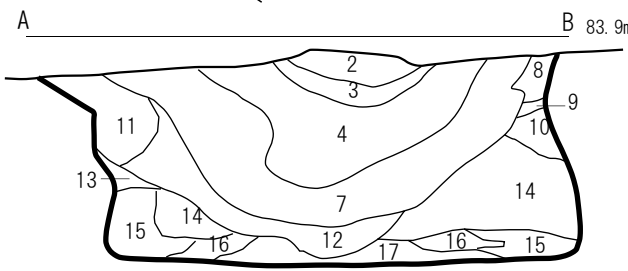
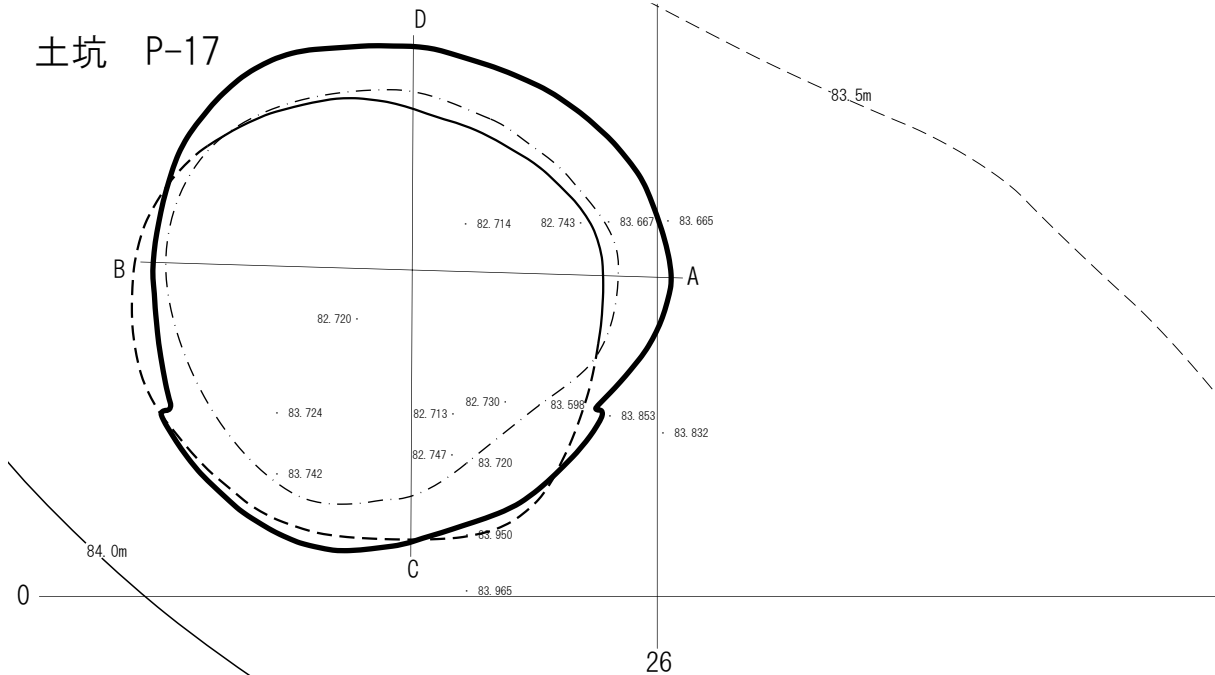


図4-16 土坑 P-15

土坑 P-17



- 1 褐(7.5YR4/6) 埴土 粘度強 堅密度堅 ko-dを含む
- 2 褐(10YR4/4) 埴土 粘度中 堅密度堅 2-3mmのローム粒2%
- 3 褐(10YR4/4) 埴土 粘度中 堅密度堅 炭化物粒、2mmのローム粒30%
- 4 褐(10YR4/6) 埴壤土 強 堅密度堅 炭化物粒、2-5mmのローム粒、焼土粒5%(焼土粒は北側のみに散在)
- 5 暗褐(10YR3/4) 埴土 粘度中 堅 炭化物粒1% ロームブロックが斑状
- 6 暗赤褐(5YR5/6) 埴土 粘度中 すこぶる堅 炭化物粒2% F-24本体部分
- 7 暗褐(10YR3/4) 埴土 粘度強 堅 炭化物粒、2-5mmのローム粒、焼土粒7%
- 7' 明褐(7.5YR5/6) 埴土 粘度強 堅 7層にロームブロックが多く混じる
- 7'' にぶい赤褐(10YR3/4) 埴土 粘度強 堅 7層と6層が斑状、6層が主体
- 8 明褐(7.5YR5/6) 埴土 粘度強 堅
- 8' 明褐(7.5YR5/6) 埴土 粘度強 堅 8層に6層が少量、斑状に混じる
- 9 黒褐(10YR2/3) 埴土 粘度強 堅 ローム粒、炭化物粒3%
- 10 褐(7.5YR4/6) 埴土 粘度強 軟~堅 IVとVIが斑状、IVが主体
- 11 明褐(7.5YR5/6) 埴土 粘度中 堅 炭化物粒1%
- 12 明褐(7.5YR5/8) 埴壤土 粘度強 軟~堅 IVとVIが同量斑状
- 13 褐(7.5YR4/6) 埴土 強 堅 炭化物粒1%
- 14 橙(7.5YR6/8) 埴土 強 すこぶる堅 ロームブロック主体層
- 15 明褐(7.5YR5/8) 埴土 強 堅 IVとVIが斑状、VIが主体
- 16 明褐(7.5YR5/8) 埴壤土 強 堅 炭化物粒1%
- 17 黄褐(10YR5/6) 埴壤土 強 堅 炭化物粒3-5% IVとVIが斑状、IVがやや多い

○ 土器 ☆ 剥片石器 △ 礫石器、礫
※ 黒塗りは床面出土

図4-17 土坑 P-17

遺物出土状況 IV層下層から周辺で遺物の集中出土が見られ、覆土上層にまで至った。覆土中から出土した遺物は21点、IV群a類と思われる土器が8点、石器は剥片が9点、礫が4点である。土器は小片である。掲載遺物はない。

時期 縄文時代後期前葉と考えられる。出土土器を根拠とした。また、住居跡H-1に切られたかたちで確認されたため、後期前葉のH-1より古いと考えられ、土坑P-3と同時期の可能性も考えられる。

P-17 (図4-17 表4-1 図版4-12)

位置 N25・26 調査区中央部やや南西寄り、標高83.7mの尾根筋状の平坦面に立地。焼土F-24と重複する。

規模 確認面 2.74×2.66m 底面 2.50×2.33m 最大深 1.22m **平面形態** 円形

特徴 [確認] IV層を掘削中にKo-dを含む褐色～暗褐色土の落ち込みを検出した。[調査] 大型の土坑であることが想定されたため、落ち込みの中心を通るように十字ベルトを設定して褐色土を掘り下げた。北東側の傾斜の緩い部分で焼土(F-24)も検出された。平坦な坑底面とオーバーハングする壁面を検出しフラスコ状土坑と認定した。[堆積] 覆土は大きく17層に分層した。最下層に炭化物粒を含む黄褐色土(17層)があり、8層までは壁面の崩落と自然堆積を繰り返している。7層より上位は自然堆積によるものと思われる。なお、6層は焼土層でF-24と認定した。その下位にみられた4・7・8層はF-24の焼土粒を含んでおり、壁面の崩落によって落ち込むような形状となっている。

遺物出土状況 土器はIV群a類が285点、石器103点、礫102点、計491点出土している。この内土器2点、石器5点、礫2点が中央付近の坑底面から出土している。

時期 縄文時代後期前葉と考えられる。出土土器を根拠とした。

掲載遺物 (図4-20-12～15、図4-22-11、24-2、26-5 表4-3・4 図版4-24・26・27)

土器は図4-20-12～15の4点である。12～14は口縁部破片、15は4分の3が残る鉢形土器である。12は斜行縄文地に縄線文、13は円形貼付文、14は無文地を特徴とする。15は覆土中出土のもので、縄文地に太い沈線で、カニのはさみ状、方形入組文が描かれる。口縁部の一部には欠損があり、人為的な打ち欠きによるものと思われる。

石器は図4-22-11、24-2、26-5の3点を掲載した。22-11はたたき石である。長礫の表面及び端面に敲打痕が見られる。24-2はサイコロ状の石核である。26-5は扁平円礫素材の台石・石皿片である。土

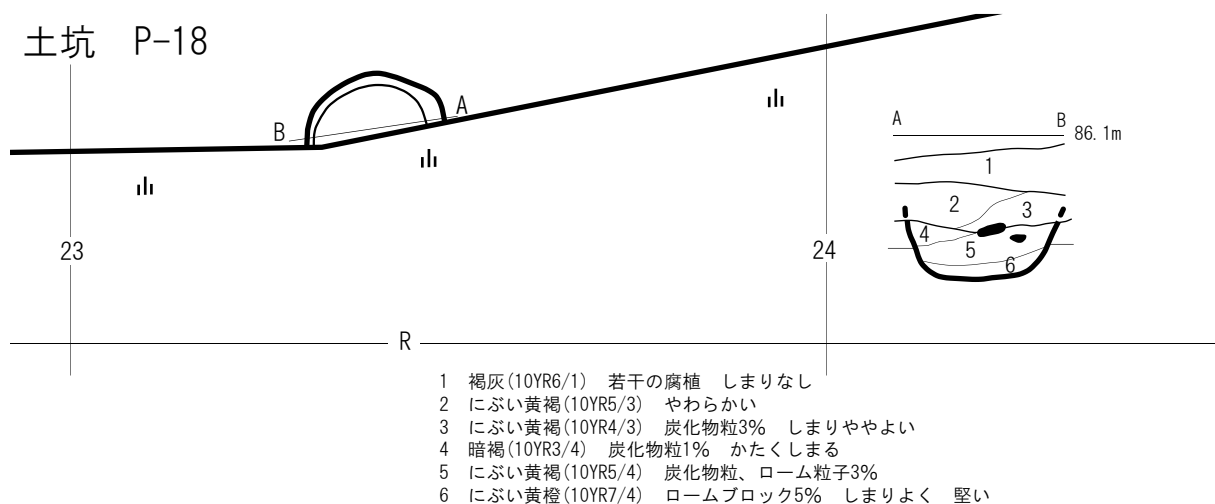


図4-18 土坑 P-18

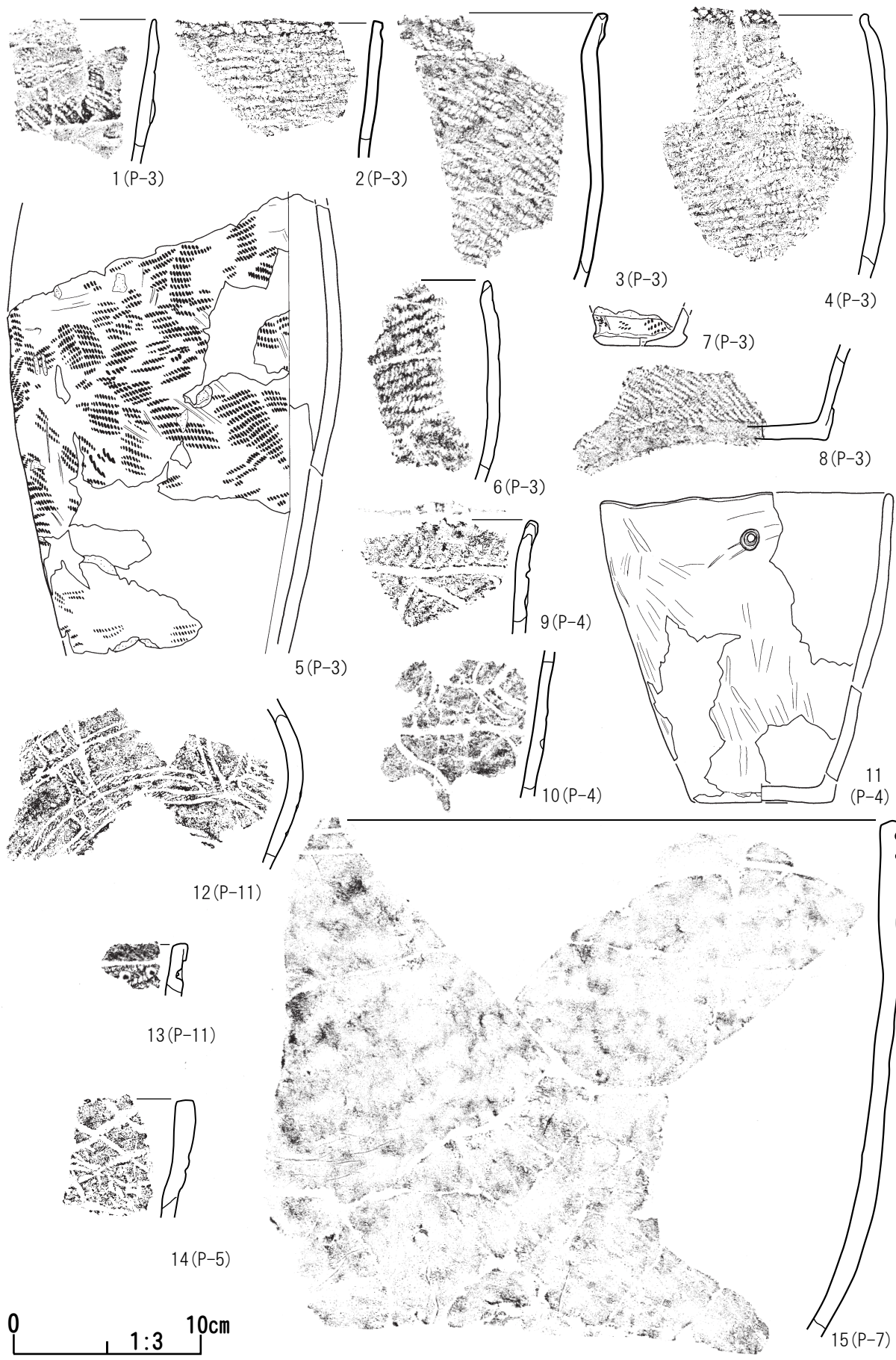


图4-19 土坑 P-3·4·5·7·11 土器

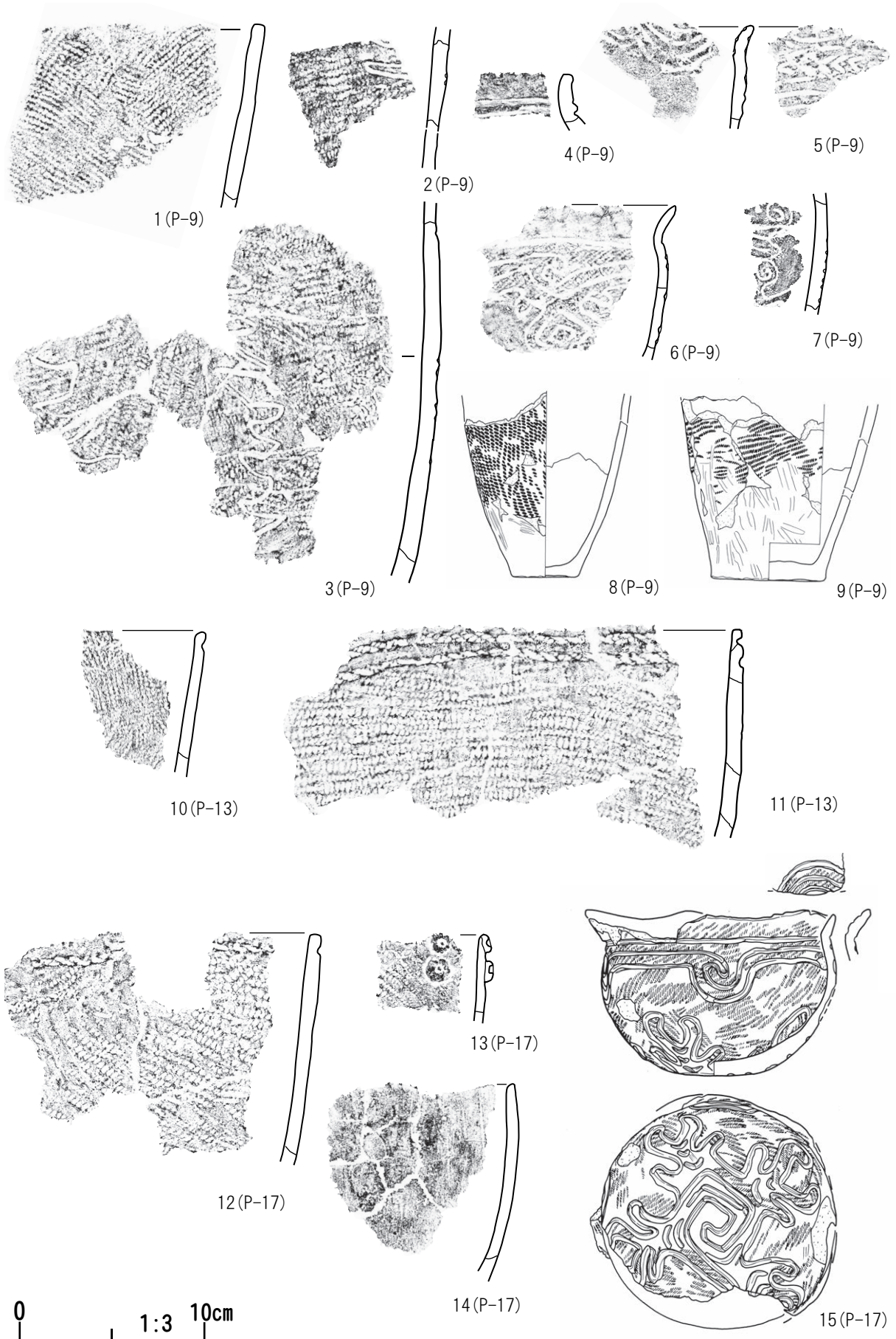


图4-20 土坑 P-9·13·17 土器

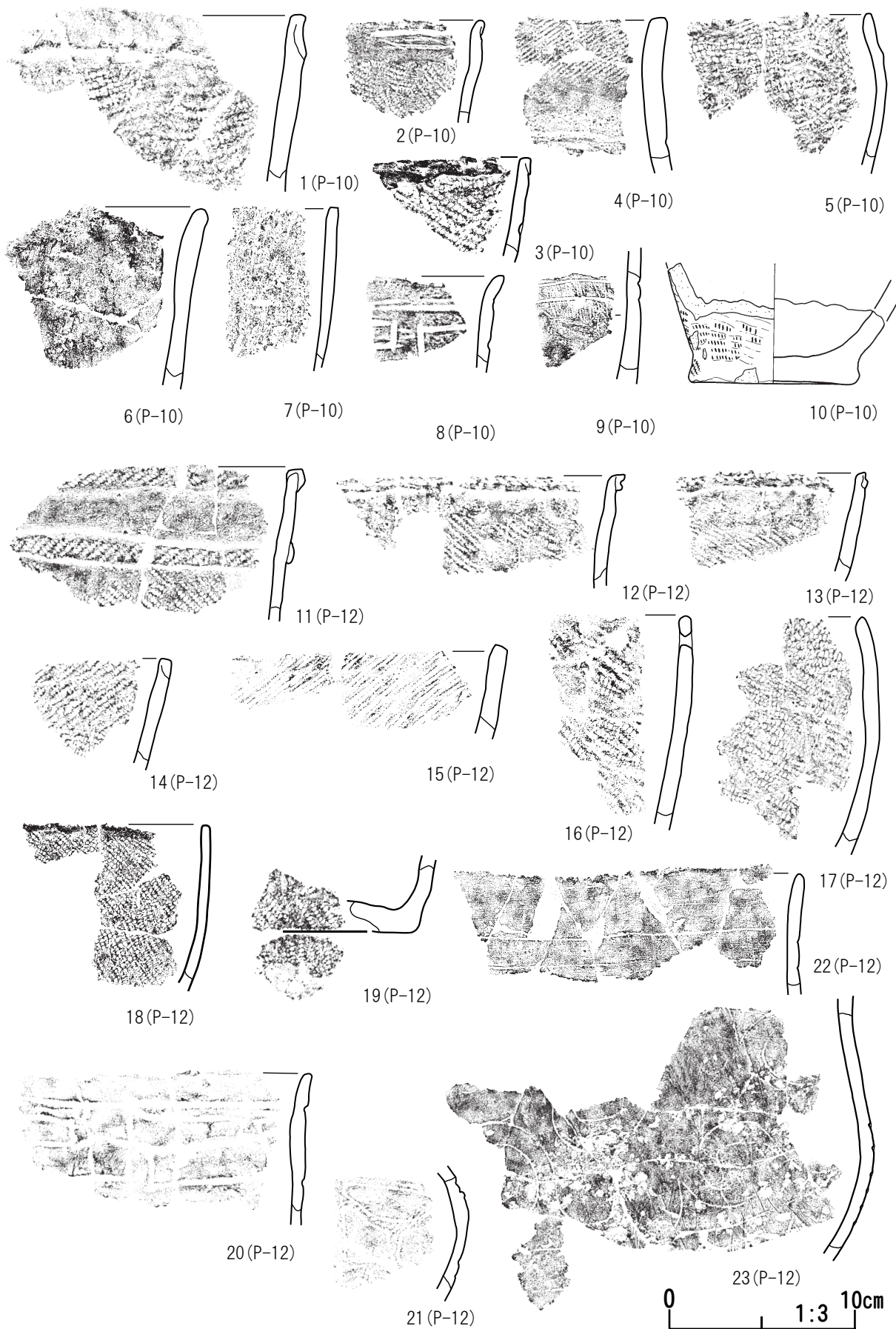


图4-21 土坑 P-10·12 土器

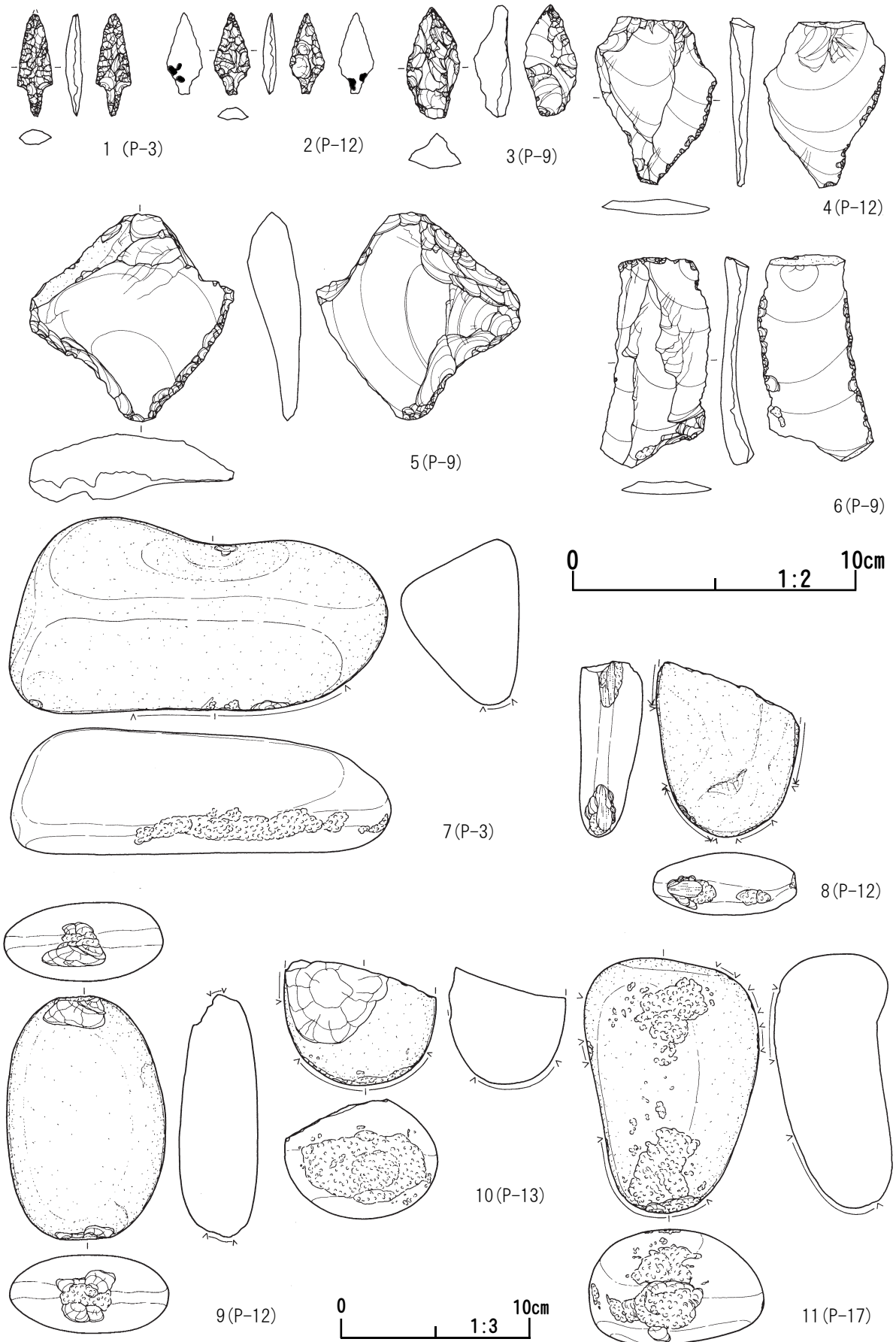
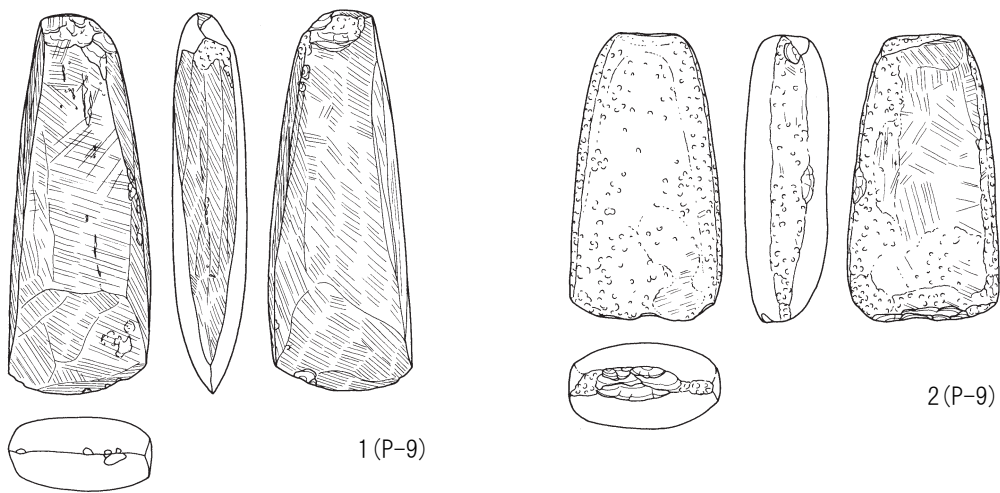
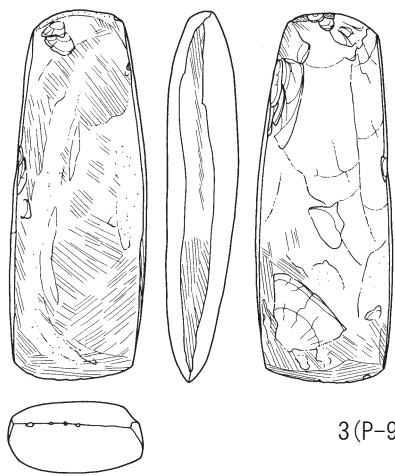


图4-22 土坑 P-3·8·9·12·13·17 石器

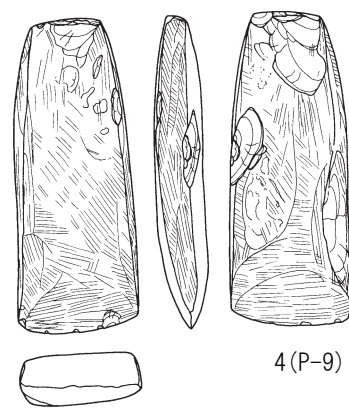


1 (P-9)

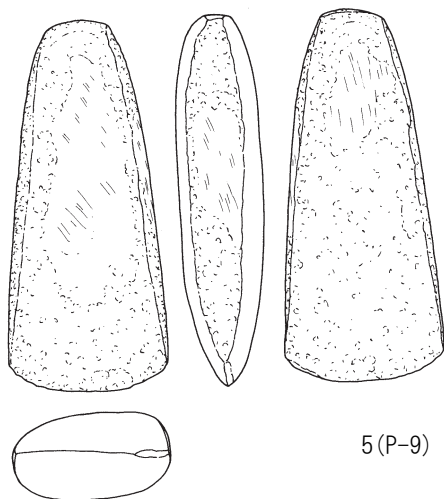
2 (P-9)



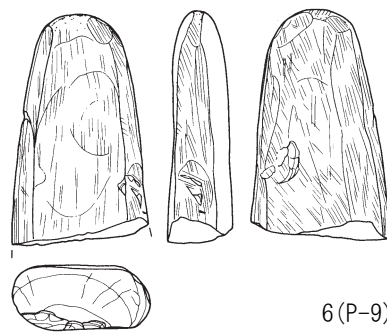
3 (P-9)



4 (P-9)



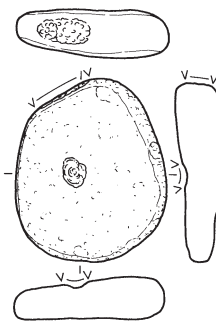
5 (P-9)



6 (P-9)

0 1:2 10cm

0 1:3 10cm



7 (P-9)

图4-23 土坑 P-9 石器

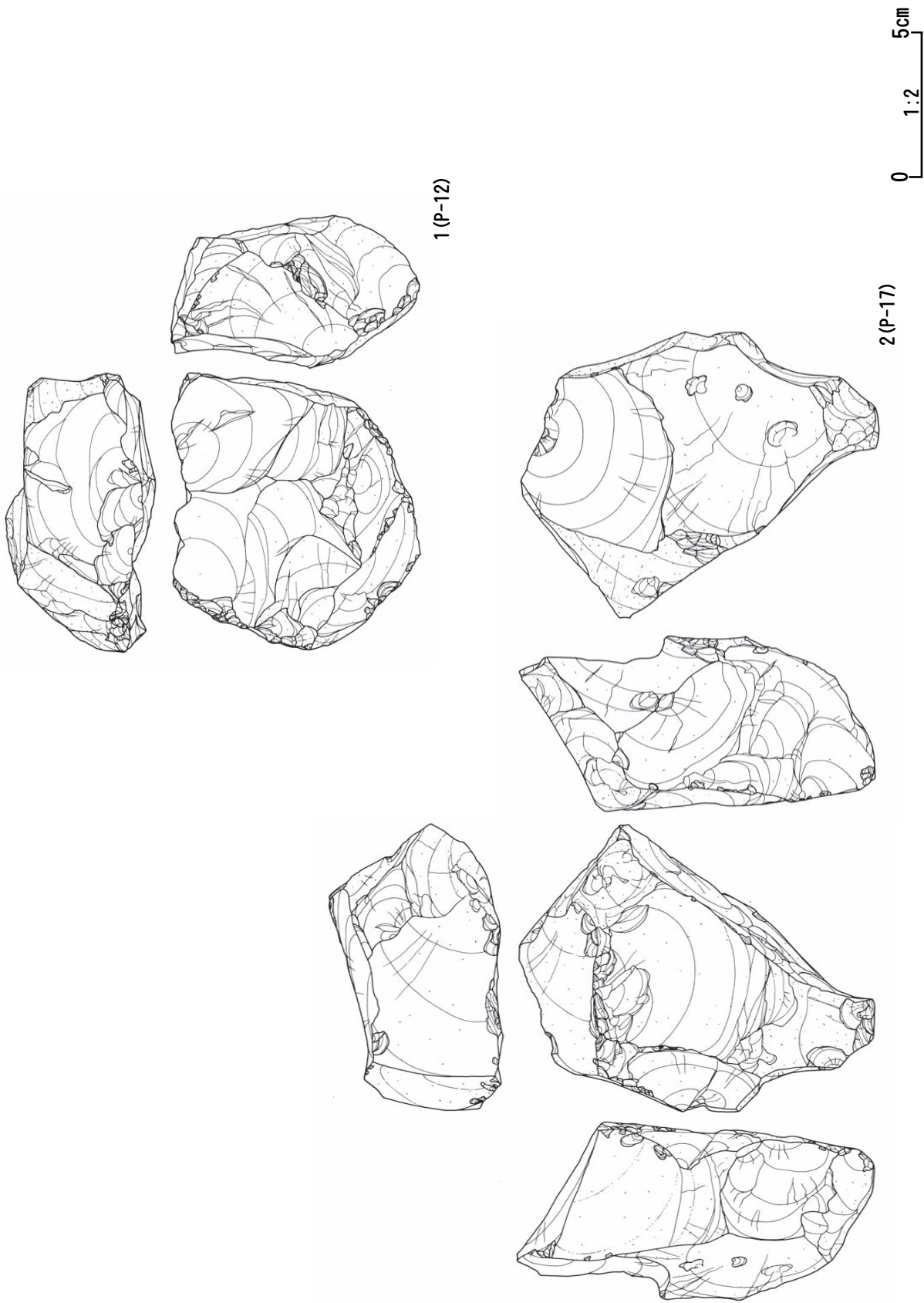


图4-24 土坑 P-12·17 石器(石核)

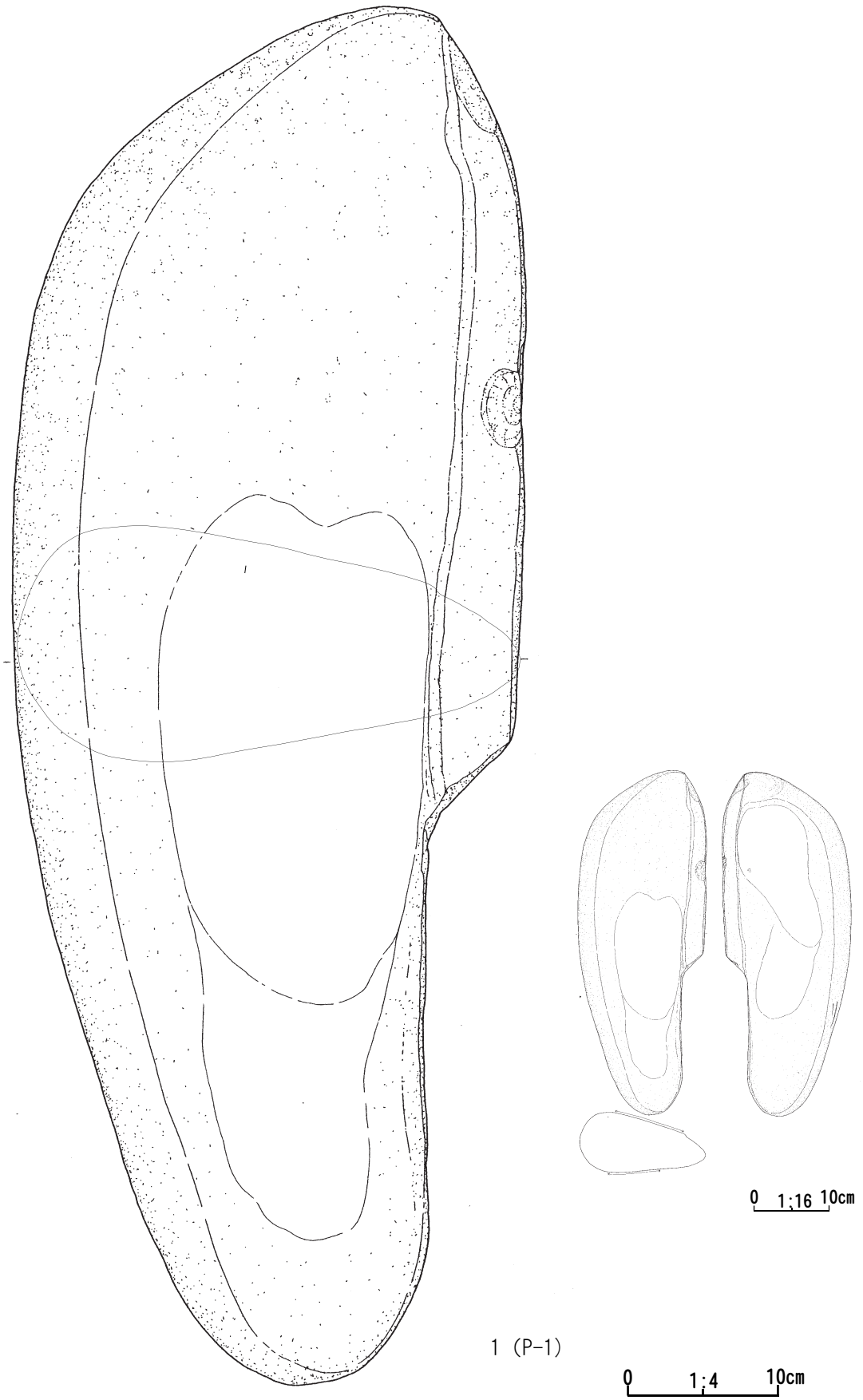


図4-25 土坑 P-1 石器 (加工痕のある礫)

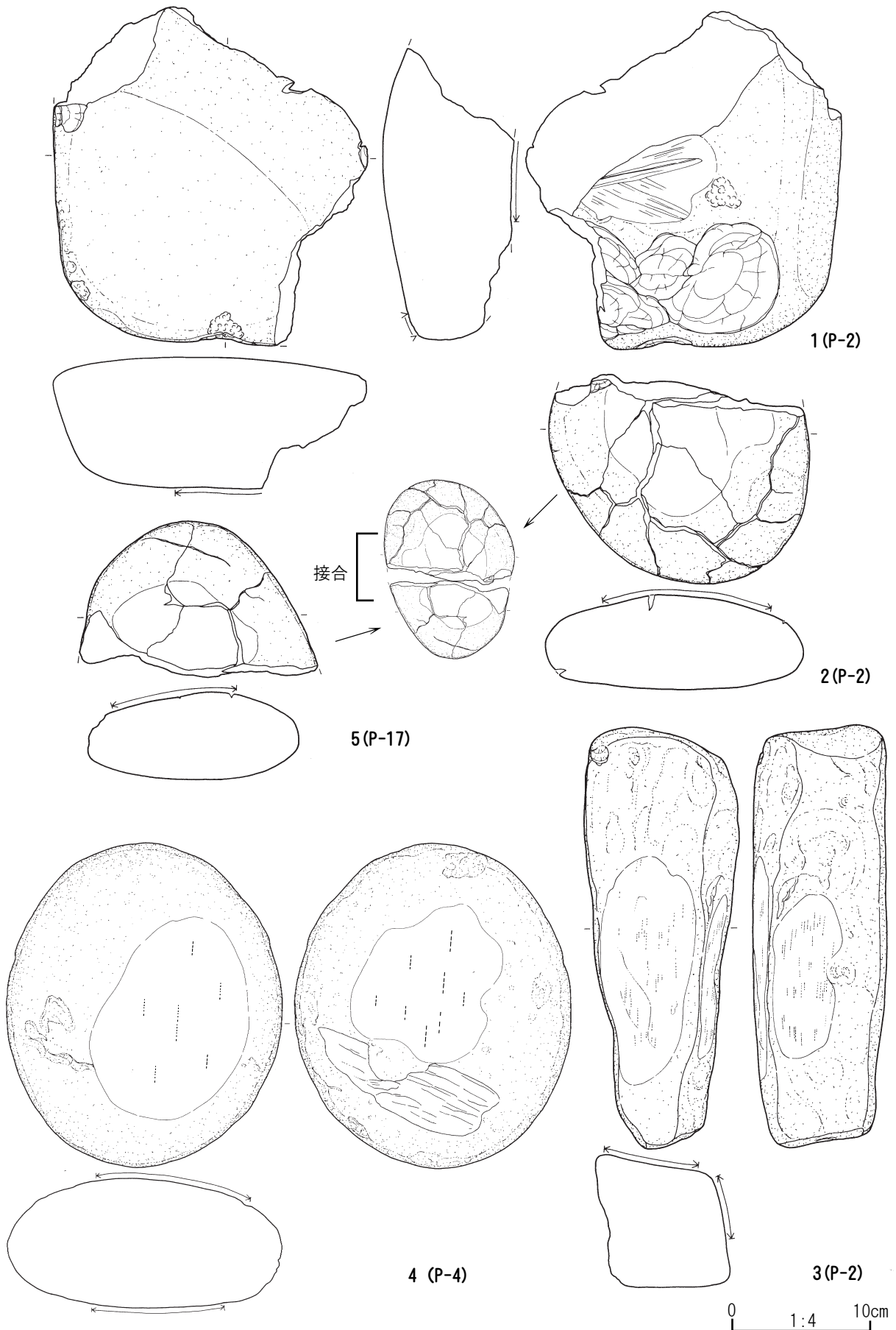
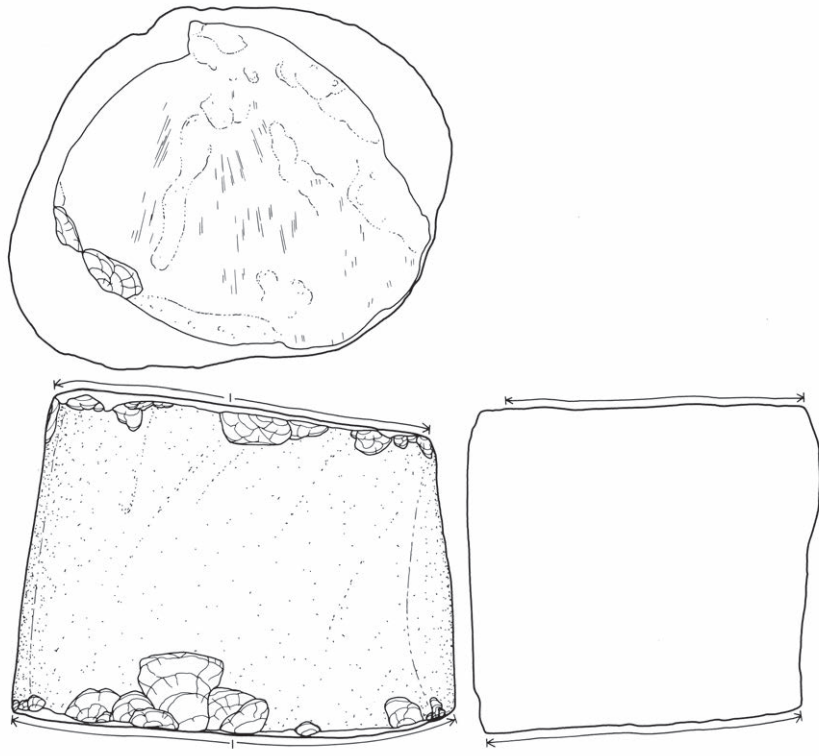
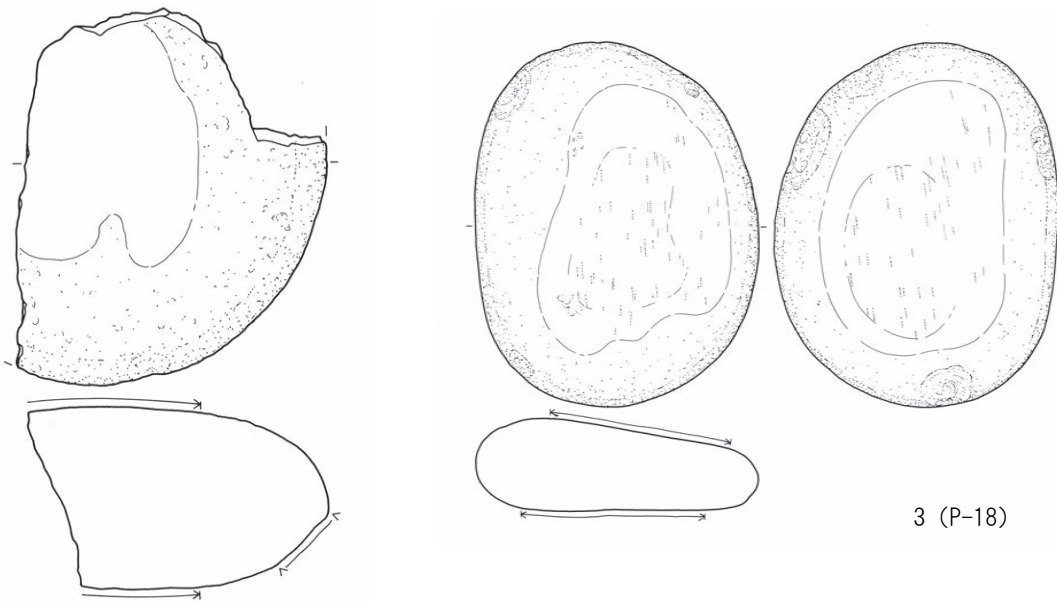


图4-26 土坑 P-2·4·17 石器 (礫石器)



1 (P-9)



2 (P-10)

3 (P-18)

0 1:4 10cm

图4-27 土坑 P-9·10·18 石器 (礫石器)

坑P-2出土の台石・石皿片と接合し、完形となった。

P-18 (図4-18 表4-1 図版4-13-2)

位置 Q23 調査区中央西寄りの壁際、出土遺構の中で最も高い標高85.5mの平坦面に立地。

規模 確認面 0.72×(0.36)m 底面 0.56×(0.28)m 最大深 0.32m **平面形態** 円形(推定)

特徴 [確認] Q23包含層調査にて、IV層5回目の掘り下げ時に壁際から半円形の褐色土の輪郭を確認した。[調査] 調査区壁際のため、南北方向に土層断面を残して東側部分を掘り下げて完掘した。底面は明瞭であったが、壁面は不明瞭であった。遺物の伴出と浅鉢状の掘り込みが明らかになったため、土坑とした。[堆積] 覆土の堆積は炭化物ブロックと焼土粒を含むローム土との混土である。[坑底・壁] 坑底は平坦で、壁は外側に広がる。

遺物出土状況 遺物は石器のみで、覆土中から5点出土した。壁面覆土中層からほぼ完形の台石・石皿が1点出土した。

時期 縄文時代後期前葉と思われる。土器出土がなかったので周辺の出土遺物を根拠とした。

掲載遺物 (図4-27-3 表4-4 図版4-27)

図4-27-3に台石・石皿を掲載した。扁平で楕円形の安山岩礫を素材に、表、裏面に平坦なすり面が見られる。また側面には3か所の敲打痕も見られる。

(3) 焼土

F-1 (図4-28 表4-1 図版4-14-1)

位置 M・N26 調査区中央部南東寄り、標高83.0mの緩斜面上に立地。

規模 確認面 0.73×0.55m 厚さ 0.12m **平面形態** 楕円形

特徴 [確認] M26包含層調査時にN26との断差で赤褐色の焼土堆積を確認した。[調査] グリッドにあわせて北東から南西方向を土層断面として残し、南東側を掘り下げた。[堆積] 1層ではあるが、焼土粒、ロームブロック、炭化物を含む混土が厚く堆積する。IV層中に被熱が見られた。

遺物出土状況 10点の遺物が出土した。土器はIV群a類が7点、石器は1点、礫は2点である。

時期 縄文時代後期前葉と思われる。出土土器を根拠とした。

F-2 (図4-29 表4-1 図版4-14-2・3)

位置 O23 調査区中央部、標高84.5mの平坦面に立地。竪穴住居跡H-1と重複、F-3に近接する。

規模 確認面 0.75×0.55m 厚さ 0.13m **平面形態** 楕円形

特徴 [確認] O23包含層調査IV層2回目で赤褐色の焼土範囲を確認した。[調査] 精査後に竪穴住居跡H-1が確認されたため、H-1のトレンチにあわせて北西から南東方向に土層断面を残して南西側を掘り下げた。層界は明瞭であった。[堆積] 炭化物を含む橙褐色の焼土が堆積する。周辺に被熱が見られたのでその場で焼成されたものと思われる。

遺物出土状況 127点の遺物が出土した。土器はIV群a類が72点、石器25点、礫30点である。石器は最も多い剥片のほかUフレイク、原石、すり石が出土している。また、焼土中からはクリとブナ属、エゴノキ属、コシアブラの炭化材片が出土した(第6章-5)。

時期 縄文時代後期前葉と考えられる。出土土器及び年代測定結果を根拠とした。焼土中の炭化物についての測定結果は3,550±30yrBPで縄文時代後期前～中葉に相当する(測定番号IAAA-162318)。

掲載遺物 (図4-33-1 表4-3 図版4-25)

焼土 F-1・24・26

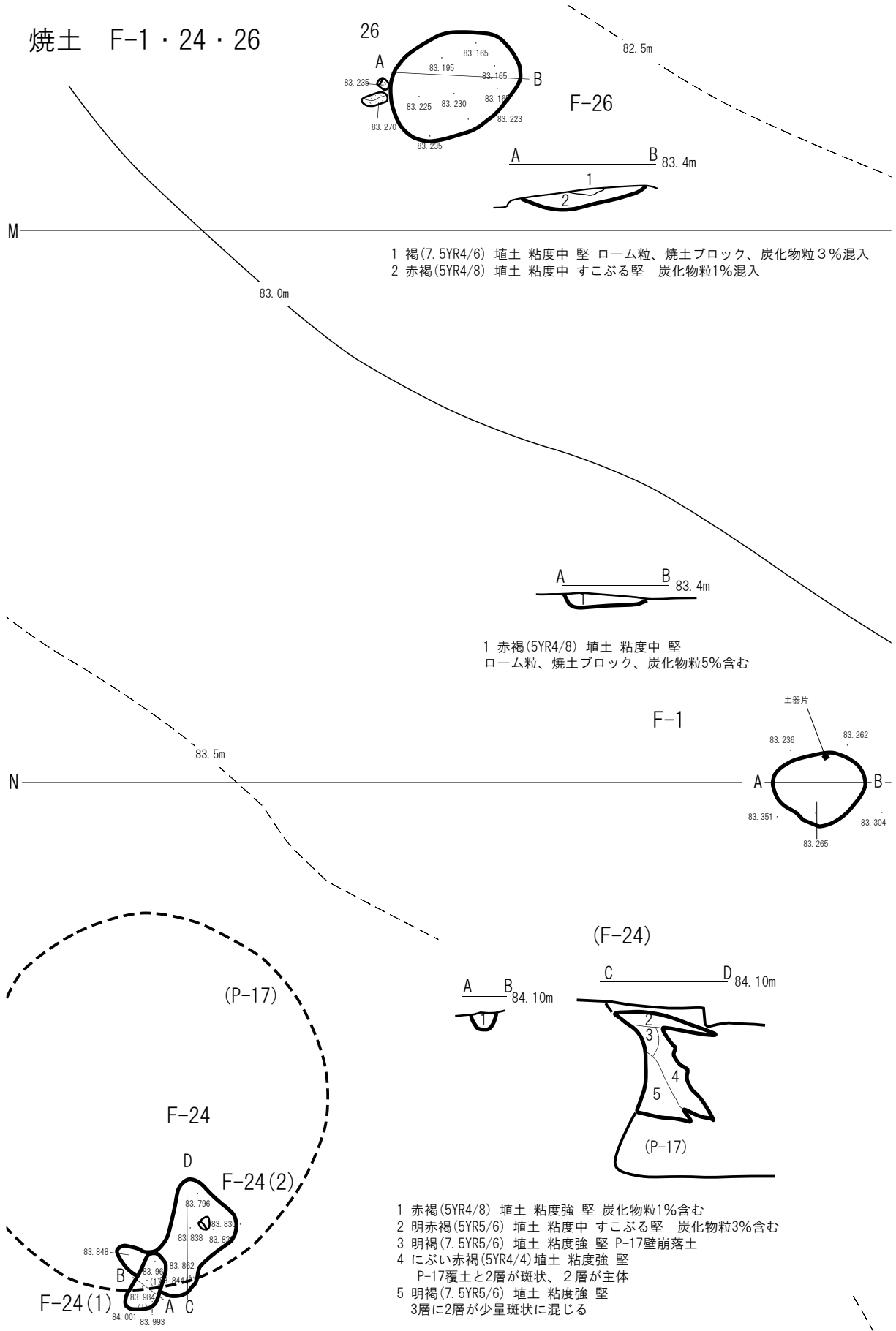


図4-28 焼土 F-1・24・26

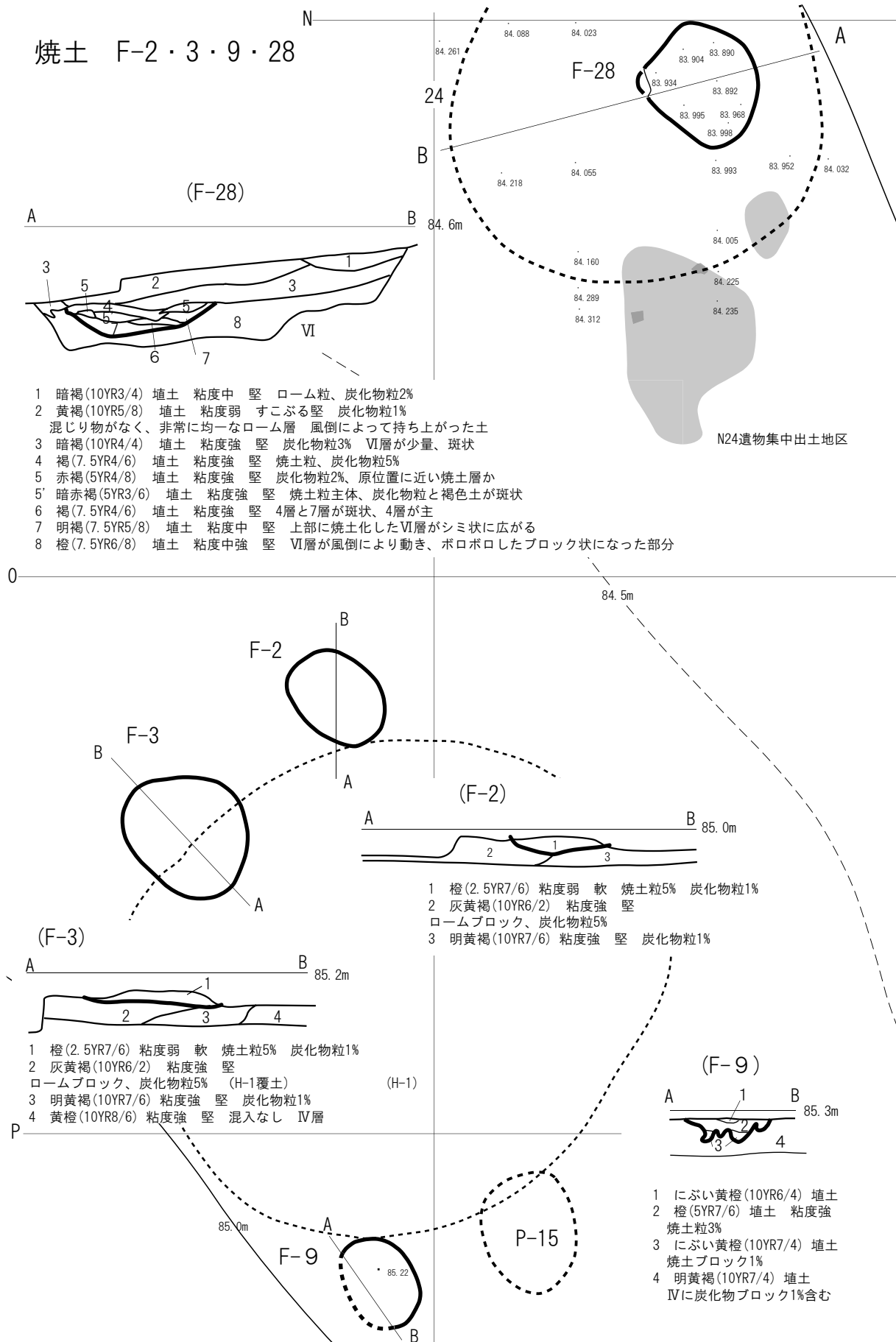


図4-33-1に土器1点を掲載した。折返口縁に縄線を伴う、横走縄文を地文とする口縁部破片である。

F-3 (図4-29 表4-1 図版4-14-2・4)

位置 O23 調査区中央部、標高84.5mの平坦面に立地。竪穴住居跡H-1と重複する。

規模 確認面 1.00×0.80m 厚さ 0.08m **平面形態** 不整円形

特徴 [確認] O23包含層調査IV層2回目で赤褐色の焼土範囲を確認した。[調査] 精査後に竪穴住居跡H-1が確認されたため、H-1のサブトレンチにあわせて東西方向に土層断面を残して南側を掘り下げた。層界は明瞭であった。[堆積] 炭化物を含む橙褐色の焼土が堆積する。周辺に被熱が見られたのでその場で焼成されたものと思われる。

遺物出土状況 150点の遺物が出土した。土器はIV群a類が81点、石器が57点、礫が11点である。石器は石鏃、両面調整石器、Uフレイク、たたき石、剥片が出土した。

時期 縄文時代後期前葉と考えられる。出土土器を根拠とした。

掲載遺物 (図4-33-2・3・8・9 表4-3・4 図版4-25)

土器は図4-33-2・3の2点を掲載した。2、3は口縁部破片で、2は無文地の折返口縁を特徴とし、3は縄文地の蛇行沈線を特徴とする。

石器は図4-33-8・9の2点を掲載した。8は凸基有茎の石鏃で、尖端部、茎部の一部を欠している。9は両面調整石器片で、腹面に広く剥離面を残している。

F-4 (図4-30 表4-2・3 図版4-14-5)

位置 0・P22 調査区中央部、標高85.0mの平坦面に立地。土坑P-1、P-8に近接する。

規模 確認面 1.04×0.4m 厚さ 0.16m **平面形態** 不整長円形

特徴 [確認] 包含層調査IV層1回目で細長い赤褐色の焼土範囲を確認した。周辺は遺物が集中して出土した。[調査] 南北に土層断面を残して東側を掘り下げた。周辺に比較すると遺物は少なかった。[堆積] 焼土粒や炭化物を含む黄橙の焼土が厚く堆積し、底面には不明瞭であるがIV層の被熱も認められた。この場で用いられたと考えられる。

遺物出土状況 20点の遺物が出土した。土器はIV群a類が10点、石器は7点、礫が3点である。石器には石鏃、Uフレイク、剥片が含まれる。

時期 縄文時代後期前葉と思われる。出土土器を根拠とした。

掲載遺物 (図4-33-10 表4-3 図版4-25)

図4-33-10の石器1点を掲載した。10は平基有茎の石鏃で完形である。

F-5 (図4-11 表4-1 図版4-15-7)

位置 Q20 調査区中央部西寄り、標高85.5mの平坦面に立地。調査区壁際で土坑P-4、焼土F-14に近い。

規模 確認面 (0.72)×0.44m 厚さ 0.06m **平面形態** 楕円形

特徴 [確認] 包含層調査IV層5回目に楕円形をした赤褐色土の範囲を確認した。[調査] 北東から南西方向に土層断面を残して南東側を掘り下げた。厚さ6cmほどの焼土粒を多く含む赤褐色土の堆積を確認した。被熱部分などが見られず、その場で利用されたものではなく、持ち込まれたものと考えられる。

遺物出土状況 遺物は2点出土した。石器は剥片1点が確認面上で出土した。土器は胴部縄文の土器

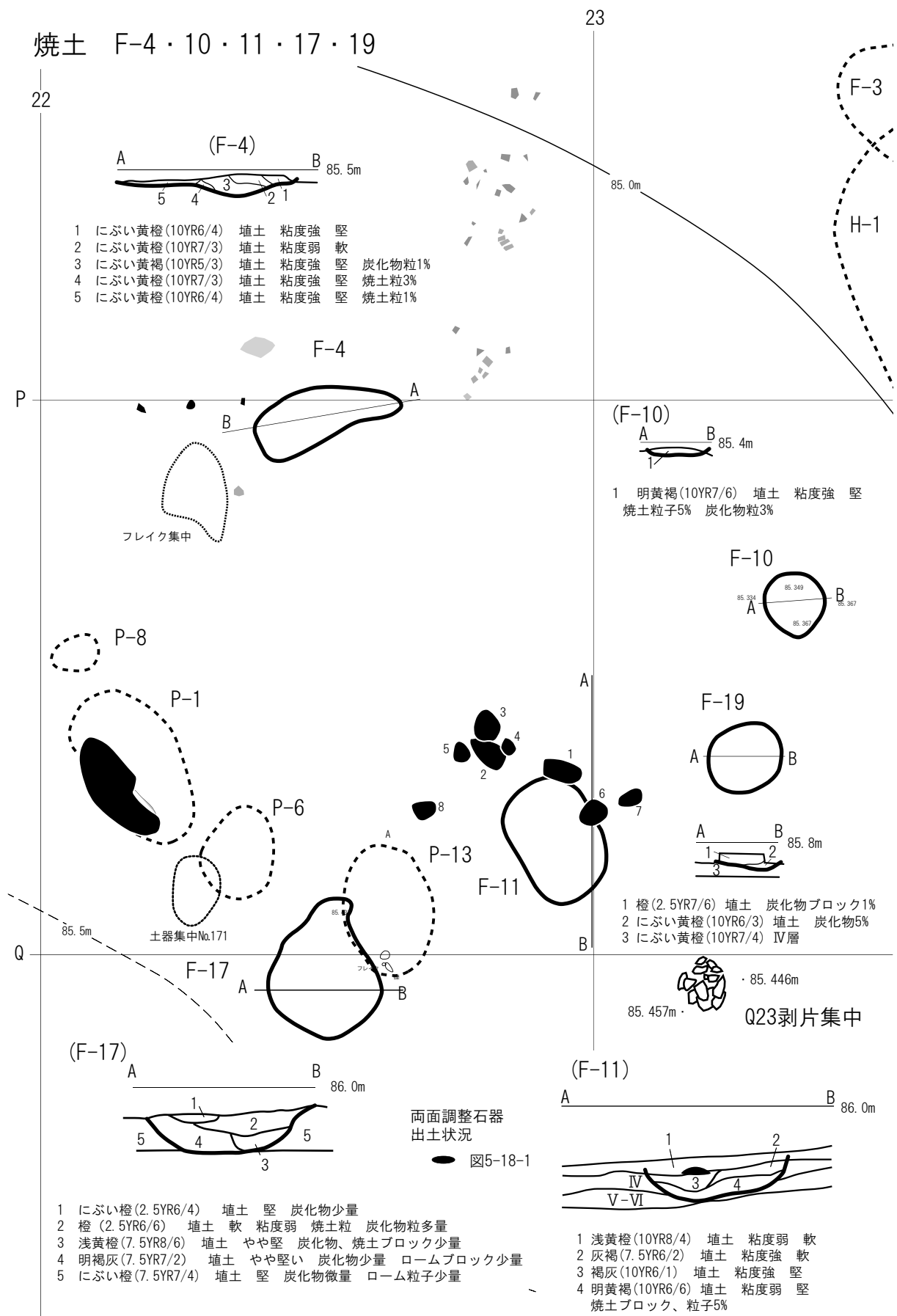


図4-30 焼土 F-4・10・11・17・19

片1点である。

時期 縄文時代後期前葉と考えられる。周辺の出土土器も含めて根拠とした。

F-6 (図4-31 表4-1 図版4-14-6)

位置 N22 標高84.5mの平坦面上に立地、焼土F-8、25、27に近接し、焼土群を構成する。

規模 確認面 0.43×0.25m 厚さ0.09m **平面形態** 楕円形

特徴 [確認] IV層調査中に楕円形の赤褐色土の広がりを確認した。[調査] 北東-南西方向に土層断面を残して南西部分を掘り下げた。[覆土] 堆積は炭化物を多く含む皿状の赤褐色土である。

遺物出土状況 遺物は9点出土した。土器はIV群a類が6点、石器は3点である。土器は1点を掲載した。石器は剥片2点、原石1点である。

時期 縄文時代後期前葉と考えられる。出土土器を根拠にした。

掲載遺物 (図4-33-4 表4-3 図版4-25)

土器片を図4-33-4に掲載した。羽状縄文を特徴とする口縁部片である。縄文原体の横回転と縦回転の組み合わせからなる羽状縄文である(手法B)。

F-7 (図4-31 表4-1 図版4-14-7)

位置 N22 調査区中央、尾根筋上の標高84.5mの平坦面上に立地。P-9に近接する。

規模 確認面 0.69×0.60m 厚さ0.07m **平面形態** 不整円形

特徴 [確認] IV層を掘削中に赤褐色土の広がりを検出した。[調査・堆積] 検出面を精査して南側を半截し、焼土層(1層)およびその下位に炭化物粒、焼土粒を含む土層(2層)を確認した。記録類を作成したのち土壌サンプルを採取し、完掘して調査を終了した。

遺物出土状況 出土していない。

時期 時期を特定できる遺物の出土はないが、周囲で出土する遺物から縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。(直江)

F-8 (図4-31 表4-1 図版4-14-8)

位置 N22・23 調査区中央、尾根筋上の平坦面、標高84.8m付近に位置する。F-6・25・28と近接する。

規模 確認面 (0.65×0.34) m 厚さ 0.10m **平面形態** 隅丸方形に近いと思われる。

特徴 [確認] 土層観察用のベルトを掘削中、IV層において赤褐色土の広がりを検出した。[調査] 検出面を精査したところ、焼土の約半分が残存していることが判明し、南東側の段差で比較的明瞭に焼成する断面を確認した。また、F-8は北側に焼土ブロックや炭化物粒が散在する土壌を挟んでF-27と近接する。記録類を作成したのち土壌サンプルを採取し、完掘して調査を終了した。なお、出土した炭化物の放射性炭素年代は3,980±20 yrBP(測定番号IAAA-162319)であった。

遺物出土状況 20点の遺物が出土した。土器はIV群a類が17点、石器1点、礫2点である。石器は頁岩の剥片である。

時期 出土遺物にはIV群a類の土器が含まれるが、年代測定結果から縄文時代中期末の可能性が考えられる。(直江)

F-9 (図4-29 表4-1 図版4-15-1)

位置 P23 調査区中央部、標高84.5mの平坦面上に立地。竪穴住居跡H-1に近接する。

焼土 F-6・7・8・22・25・27

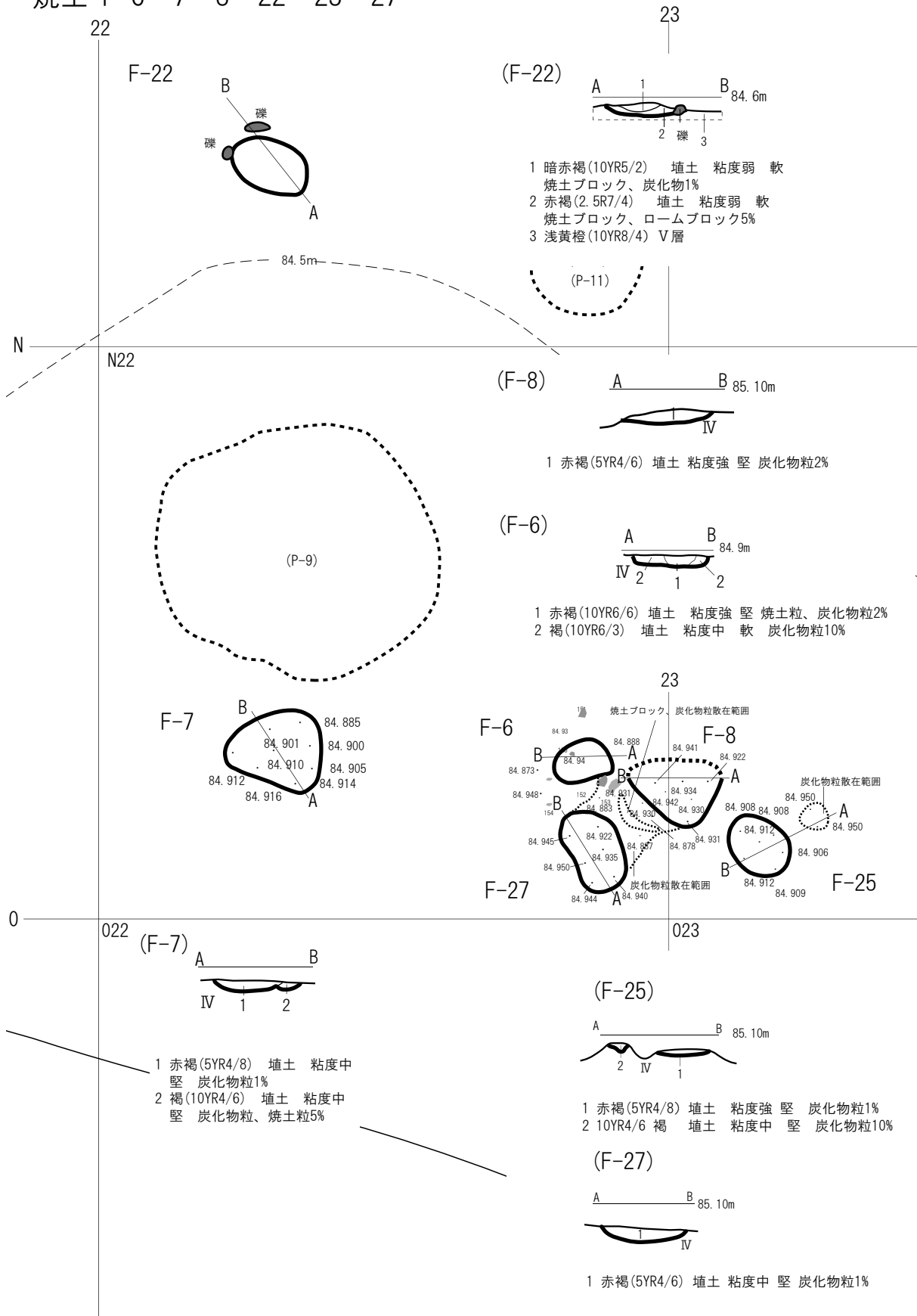


図4-31 焼土 F-6・7・8・22・25・27

規模 確認面 0.68×(0.50) m 最大深 0.16m **平面形態** 楕円形

特徴 [確認] 竪穴住居跡H-1精査の際に赤褐色土の焼土範囲を確認した。[調査・堆積] H-1調査のトレンチを延長して掘り下げて断面を確認したところ、H-1とは重複しないことと、凹凸のある複雑な堆積が明らかになった。結果、持ち込まれたものではなく、その場で利用されたものであると考えられた。

遺物出土状況 5点の遺物が出土した。確認面上で剥片2点が出土し、覆土中からUフレイク1点と剥片2点が出土した。

時期 縄文時代後期前葉と考えられる。時期を特定できる遺物の出土はなかったが、周辺出土の遺物の時期を根拠とした。

F-10 (図4-30 表4-1 図版4-15-2)

位置 P23 調査区中央部やや西寄り、標高85.0mの平坦面上に立地。F-19、H-1に近接する。

規模 確認面 0.48×0.42m 厚さ 0.08m **平面形態** 円形

特徴 [確認] P23包含層調査IV層3回目で円形の焼土範囲を確認した。[調査] 北東から南西方向に土層断面を残して南東側を掘り下げた。[堆積] 焼土粒、炭化物を含む黄褐色主体の混土が堆積、持ち込まれたものと考えられる。

遺物出土状況 IV群a類の土器2点が焼土中から出土した。

時期 縄文時代後期前葉のものと考えられる。出土土器を根拠とした。

F-11 (図4-30 表4-1 図版4-15-3)

位置 P22・23 調査区中央部やや西寄り、標高85.0mの平坦面に立地。焼土F-19、土坑P-13に近接する。

規模 確認面 0.92×0.60m 厚さ 0.25m **平面形態** 隅丸方形

特徴 [確認] 包含層調査IV層2回目で赤褐色の焼土範囲を確認した。[調査] 焼土範囲の周囲に礫群も認められていたため、石組炉の可能性を考慮し、グリッド23ラインに沿って北西から南東方向に断面を残して北東側のトレンチを掘り下げた。石組の大半は焼土範囲とは異なったことから、石組炉が壊れたか、または石組炉ではない可能性が考えられた。[堆積] 焼土ブロックや炭化物を含む混土が厚く堆積し、周辺に被熱も見られたのでその場で焼成されたものと考えられる。

遺物出土状況 7点の遺物が出土した。土器はIV群a類が4点、石器は2点、礫が1点である。石器は頁岩製のUフレイクと剥片である。

時期 縄文時代後期前葉と考えられる。出土土器を根拠にした。

F-12 (図4-32 表4-1 図版4-15-5・6)

位置 N21 調査区中央、尾根筋上の平坦面、標高84.8m付近に立地する。

規模 確認面 0.84×0.72m 厚さ 0.12m **平面形態** 東西方向に長い不整な楕円形

特徴 [確認] IV層を掘削中に暗赤褐色土の広がり周囲に分布する4個体の礫を検出した。[調査] 検出面を精査したところ、西側は礫が廻っていないものの、炭化物を多く含む土壌(2層)と10cm程度の不整形なIV層の範囲を確認し、石組み炉と認定した。前述の不整形なIV層の範囲は礫の抜き取り痕の可能性がある。[堆積] 西側を半截し、焼土層(3層)およびその上位に焼土粒・炭化物粒を含む土層(1層)を確認した。また、礫の外側にも1・2層が広がってみられた。記録類を作成

したのち土壌サンプルを採取し、完掘して調査を終了した。なお、出土した炭化物の放射性炭素年代は $3,490 \pm 30$ yrBP（測定番号IAAA-162320）であった。

遺物出土状況 35点の遺物が出土した。土器はIV群a類が20点、石器は2点、礫が13点（石組み炉の礫を含む）である。また、焼土中からはクリとコナラ節の炭化材片が出土した（第6章-4）。

時期 縄文時代後期前葉のものと考えられる。出土遺物と年代測定結果を根拠とした。

掲載遺物（図4-33-5 表4-3 図版4-25）

図4-33-5に土器1点を掲載した。深鉢の胴部片で、焼土中出土の2点と上層の包含層出土土器片1点と接合したものである。無文地でIV群a類のものと思われる。（直江）

F-13（図4-11 表4-1 図版4-15-8）

位置 Q21 調査区中央部やや東寄り、標高85.5mの平坦面に立地。調査区壁際で、焼土F-14に近接する。

規模 確認面 0.52×0.48m 厚さ 0.07m **平面形態** 円形

特徴 [確認] 包含層IV層3回目の調査で円形をした赤褐色土の範囲を確認した。[調査] 北東-南西方向に土層断面を残して南東側を掘り下げた。[堆積] 断面の堆積は焼土、炭化物、ロームブロックなどの混土で、持ち込まれたものと考えられた。

遺物出土状況 遺物は土器片5点が出土した。無文の胴部破片である。

時期 遺物少数であるが出土土器から縄文時代後期前葉の時期と考えられる。

F-14（図4-11 表4-1 図版4-16-1）

位置 Q21 調査区中央部やや東寄り、標高85.5mの平坦面に立地。調査区壁際で、焼土F-13に近接する。

規模 確認面 0.48×(0.24) m 厚さ 0.07m **平面形態** 円形（部分）

特徴 [確認] 包含層IV層3回目の調査で調査区壁に沿って半円形の焼土範囲を確認した。[調査] 調査区壁に沿った北東-南西方向に土層断面を残して南東側を掘り下げた。[堆積] 断面の堆積は焼土、炭化物、ロームブロックなどの混土で、持ち込まれたものと考えられた。

遺物 遺物は出土しなかった。

時期 縄文時代後期前葉の可能性はある。周辺出土の遺物を根拠とした。

F-15（図4-11 表4-1 図版4-16-2）

位置 P21 調査区中央部、標高85.5mの平坦面に立地する。土坑P-7、P-4に近い。

規模 確認面 0.60×0.43m 厚さ 0.06m **平面形態** 楕円形

特徴 [確認] P21包含層調査IV層1回目で橙色の焼土範囲を確認した。[調査] 北東から南西方向に土層断面を残して南東側を掘り下げた。[堆積] 焼土粒を含む橙褐色土の堆積である。移動したものの可能性が考えられる。

遺物 2点の遺物が出土した。1点はIV群a類の土器片、1点は礫片である。

時期 縄文時代後期前葉と考えられる。出土土器を根拠にした。

F-16（図4-32 表4-1 図版4-16-3・4）

位置 N20 調査区中央、尾根筋上の平坦面の縁に近い、標高84.0m付近に立地する。

焼土 F-12・16・18

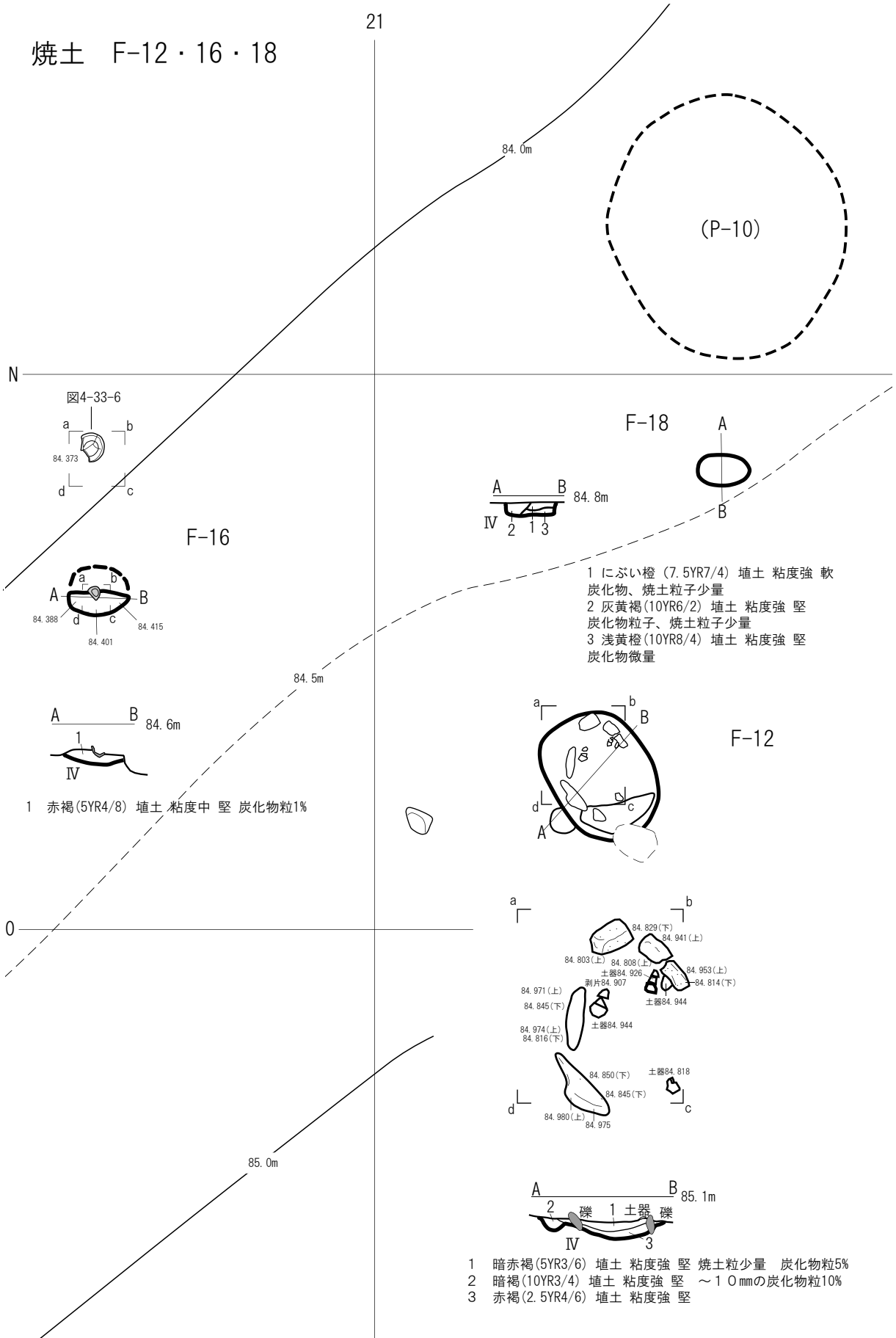


図4-32 焼土 F-12・16・18

規模 確認面 (0.44×0.16) m 厚さ 0.10m **平面形態** 不整な円形

特徴 [確認] IV層を掘削中に赤褐色土の広がりを検出した。[調査] 周辺に比較的多くの遺物の分布も認められたことから、浅い堅穴住居跡を想定し、焼土を中心として十字トレンチを設定して土層の堆積状況を確認した。その結果、周囲に掘り込みや柱穴などが確認できなかったため、単体の焼土として認定した。[堆積] その後、焼土を台状に残し周囲を掘り下げ、南東側のトレンチで比較的明瞭に焼成する断面を確認した。記録類を作成したのち土壤サンプルを採取し、完掘して調査を終了した。なお、出土した炭化物の放射性炭素年代は $3,510 \pm 20$ yrBP (IAAA-162321) であった。

遺物出土状況 17点の遺物が出土した。土器はIV群a類が15点、礫が2点である。

時期 出土遺物と年代測定結果から縄文時代後期前葉のものと考えられる。

掲載遺物 (図4-33-6 表4-3 図版4-25)

図4-33-6に土器1点を掲載した。6は底部片で、側面、底面ともに無文である。器壁の立ち上がりがほぼ直立に近い。(直江)

F-17 (図4-30 表4-1 図版4-16-5)

位置 P・Q22 調査区中央部西寄り、標高85.0mの平坦面上に立地。土坑P-13に重複、P-6、F-11に近接する。

規模 確認面 1.00×0.80m 厚さ 0.25m **平面形態** 不整楕円形

特徴 [確認] Q22包含層調査IV層3回目で赤褐色土の範囲を確認した。[調査] 北東から南西に土層断面を残して幅20cmのトレンチを掘り下げた。[堆積] 焼土粒、炭化物を含む橙褐色土の混土の厚い堆積が見られた。底面に被熱が見られたため、その場で炉跡として使われた可能性も考えられた。

遺物出土状況 5点の遺物が出土した。IV群a類の土器が2点、石器剥片が2点、礫が1点出土した。

時期 縄文時代後期前葉と考えられる。出土土器を根拠にした。

F-18 (図4-32 表4-1 図版4-16-6)

位置 N21 調査区中央部やや東寄り、標高84.5mの緩斜面上に立地する。土坑P-10に近接する。

規模 確認面 0.39×0.24m 厚さ 0.10m **平面形態** 楕円形

特徴 [確認] N21包含層調査IV層4回目で焼土範囲を確認した。[調査] 北西から南東方向に土層断面を残して北東側を掘り下げた。[堆積] 炭化物、焼土粒を含む赤褐色土の堆積で、持ち込まれたものの可能性が考えられた。

遺物出土状況 4点の遺物が出土した。すべて土器の小片でIV群a類と思われる。

時期 縄文時代後期前葉と考えられる。出土土器を根拠にした。

F-19 (図4-30 表4-1 図版4-15-4)

位置 P23 標高85.0mの平坦面に立地。焼土F-10、F-11の間に位置し、礫群に近接する。

規模 確認面 0.72×0.70m 厚さ 0.12m **平面形態** 円形

特徴 [確認] P23包含層調査IV層3回目の掘り下げ時に円形の焼土範囲を確認した。[調査] 北東から南西方向に土層断面を残し、南東側を掘り下げた。断面から焼土粒と炭化物ブロックを含む堆積と炭化物のみを含む堆積を確認した。持ち込まれたものの可能性が考えられる。

遺物出土状況 遺物は焼土下層から頁岩の剥片1点が出土した。

時期 縄文時代後期前葉の可能性はある。周辺の出土遺物を根拠にした。

F-20 (図4-9 表4-1 図版4-16-7)

位置 P・Q24 標高85.0mの平坦面に立地。土坑P-2に近接している。

規模 確認面 0.64×0.56m 厚さ 0.12 m **平面形態** 不整形

特徴 [確認] 土坑P-2トレンチ調査時に土層断面で確認し、周辺精査により平面形を確認した。

[調査] トレンチの土層断面により、浅皿状の焼土の堆積が確認した。焼土、炭化物、ロ-ムブロックの混土でその場で焼成されたものと考えられた。

遺物 出土していない。

時期 縄文時代後期前葉の可能性がある。周辺の出土遺物を根拠にした。

F-22 (図4-31 表4-1 図版4-16-8)

位置 M22 調査区中央東寄り、標高84.0mの平坦面に立地。土坑P-9、11の間に位置する。

規模 確認面 0.55×0.36m 厚さ 0.12m **平面形態** 楕円形

特徴 [確認] IV層5回目の包含層調査時に礫2点を伴う円形の焼土範囲を確認した。[調査] 東西に土層断面を残し、南側を掘り下げた。[堆積] 焼土ブロック、炭化物ブロックを含む赤褐色土が浅皿状に堆積することが明らかになった。長く使用された痕跡はないが、焔跡の可能性も考えられる。

遺物 遺物は3点出土した。土器小片1点と確認面上に突き出た礫片2点である。

時期 土器片は小片であるが縄文時代後期前葉のものと考えられる。 (直江)

F-23 (図4-7 表4-1 図版4-3-2・3)

(竪穴住居跡H-2にHF-1として記載)

F-24 (図4-28 表4-1 図版4-17-1・2)

位置 N25 調査区中央、尾根筋上の平坦面、標高83.8m付近に立地。P-17覆土内に位置する。

規模 ①0.44×0.22/0.12m ②0.78×0.60/0.10m **平面形態** 南北方向に長い不整形

特徴 [確認] P-17を調査中に覆土の上部で赤褐色土の小規模な広がりを検出した①。[調査・堆積] 検出面を精査して南側を半截し、比較的明瞭に焼成する焼土層(1層)を確認した。[確認] その後、さらに下位からより広範囲に明赤褐色土(2層)を検出した②。[調査・堆積] P-17の土層との関連性を観察したところ、P-17覆土の下位に向かって焼土粒が斑状に流れ込む様子が確認できた(4・5層)。これらのことからF-24はP-17埋没後に形成され、壁面の崩落に伴い下部の形状が崩れたものと考えられる。記録類を作成したのち土壌サンプルを採取し、完掘して調査を終了した。なお、出土した炭化物の放射性炭素年代は $3,730 \pm 30\text{yrBP}$ (IAAA-162323)であった。

遺物出土状況 礫片が1点出土した。

時期 時期を特定できる遺物の出土はないが、周囲で出土する遺物と年代測定結果から縄文時代後期前葉のものと考えられる。 (直江)

F-25 (図4-31 表4-1 図版4-17-3)

位置 N23 調査区中央、尾根筋上の平坦面、標高84.8m付近に立地する。

規模 確認面 0.48×0.30m 厚さ 0.05m **平面形態** 東西方向に長い不整形な楕円形

特徴 [確認] IV層を掘削中に赤褐色土の広がりを検出した。[調査・堆積] 検出面を精査して東側を半截し、比較的明瞭に焼成する焼土層(1層)とその南側に炭化物粒を多く含む範囲(2層)を

確認した。記録類を作成したのち土壌サンプルを採取し、完掘して調査を終了した。なお、出土した炭化物の放射性炭素年代は $3,550 \pm 20$ yrBP (IAAA-162324)であった。

遺物出土状況 石器が2点出土した。焼土中からクリとエゴノキ属の炭化材片が出土した。

時期 時期を特定できる遺物の出土はないが、周囲で出土する遺物と年代測定結果から縄文時代後期前葉のものと考えられる。

掲載遺物 (図4-33-11 表4-4 図版4-25)

図4-33-11の石器1点を掲載した。11はスクレイパーである。腹面左側縁に剥離調整を加えて刃部にしている。背面には原石面が広く残る。(直江)

F-26 (図4-28 表4-1 図版4-17-4)

位置 L26 調査区中央、尾根筋上の平坦面、標高82.6m付近に位置する。

規模 確認面 0.97×0.72 m 厚さ 0.13m **平面形状** 楕円形

特徴 [確認] IV層を掘削中に赤褐色土の広がりを検出した。[調査・堆積] 検出面を精査して南東側を半截し、比較的明瞭に焼成する焼土(2層)とその上位に焼土ブロック、炭化物粒を含む土層(1層)を確認した。記録類を作成したのち土壌サンプルを採取し、完掘して調査を終了した。平面形は東西方向に長い不整な楕円形を呈する。なお、出土した炭化物の放射性炭素年代は $3,810 \pm 20$ yrBP (IAAA-162325)であった。

遺物出土状況 19点出土した。土器はIV群a類が7点、土製品1点、石器4点、礫7点出土した。

時期 出土遺物と年代測定結果から縄文時代後期前葉のものと考えられる。

掲載遺物 (図4-33-7 表4-3 図版4-25)

図4-33-7に土器1点を掲載した。7は縦位の撚糸文を特徴とする胴部片である。(直江)

F-27 (図4-31 表4-1 図版4-17-5)

位置 N22 調査区中央、尾根筋上の平坦面、標高84.8m付近に位置し、焼土F-6、8、25に近接する。

規模 確認面 0.60×0.36 m 厚さ 0.08m **平面形態** 東西方向に長い不整な楕円形

特徴 [確認] IV層を掘削中に赤褐色土の広がりを検出した。[調査] 検出面を精査して南側を半截し、比較的明瞭に焼成する断面を確認した。また、F-27は南側に焼土ブロックや炭化物粒が散在する土壌を挟んでF-8と近接する。記録類を作成したのち土壌サンプルを採取し、完掘して調査を終了した。平面形は呈する。なお、出土した炭化物の放射性炭素年代は $3,220 \pm 20$ yrBP (IAAA-162326)であった。

遺物出土状況 焼土中からクリの炭化種実、炭化材片が出土した(第6章-4・5)。

時期 時期を特定できる遺物の出土はないが、年代測定結果から縄文時代後期後半のものと考えられる。(直江)

F-28 (図4-29 表4-1 図版4-17-6・7)

位置 N24 調査区中央、尾根筋上の平坦面、標高84.1m付近に立地する。

規模 確認面 $0.92 \times (0.81)$ m 厚さ 0.24m **平面形態** 不整な円形

特徴 [確認] IV層を掘削中に暗褐色土の落ち込みと遺物の集中を検出した。[調査] 広範囲な遺物の集中出土から竪穴住居跡などを想定して北東-南西方向にトレンチを入れ、土層を確認した。

[堆積] VI層の直上には凸凹があり面的に不安定でしまりのないVI層起源の土がみられ、その上位に分断された土層（3・5層）がみられた。また、分断された5層の間には斑状に焼土と褐色土が入り込む土層（5'層）も存在する。これらのことから落ち込みを風倒木痕、赤褐色土を含む土層を単体の焼土と認定した。記録類を作成したのち土壌サンプルを採取し、完掘して調査を終了した。なお、出土した炭化物の放射性炭素年代は $3,680 \pm 30\text{yrBP}$ （IAAA-162327）であった。

遺物出土状況 出土していない。

時期 時期を特定できる遺物の出土はないが、周囲で出土する遺物と年代測定結果から縄文時代後期前葉のものと考えられる。（直江）

(4) 遺物集中出土地区（図版4-18・19）

包含層調査において、剥片や土器片などの遺物がまとまった状態で出土する場所が見られた。遺構に伴う可能性を考慮して仮に遺物集中出土地区として取り上げたが、遺構に伴うこともなく、集中としても明確な範囲を把握することが出来なかった。

そのため、現地調査時にはこれらを遺構として扱わず、包含層出土として整理したが、土器や石器の接合作業が進むにつれて、これらの集中が接合状況と深く関わる可能性がでてきた。特に接合と関連の深い遺物集中地区6カ所を下記に挙げた。

1 M22遺物集中出土地区（図4-14 図版4-19-5）

包含層IV層1回目で4か所のまとまりとして確認された。

出土遺物は330点で、土器はIV群a類が188点、石器は98点、礫が44点である。接合作業では母岩Nと母岩K（図版5-21）の接合資料が得られている。縄文時代後期前葉の時期である。

2 N24遺物集中出土地区（図4-29 図版4-19-2）

包含層IV層1回目で2か所のまとまりとして確認された。出土遺物は188点で、大半を占める剥片が168点、IV群a類の土器が17点、礫が3点であった。剥片群からは母岩K（図版5-21）の接合資料が得られた。縄文時代後期前葉の時期と考えられる。

3 O23遺物集中出土地区（図版4-19-3）

包含層IV層1回目で1か所のまとまりとして確認された。焼土F-2の範囲と重複することから、これに伴う遺物の可能性が考えられる。縄文時代後期前葉の時期と考えられる。

4 O22遺物集中出土地区（図4-14・30 図版4-19-4）

包含層IV層1・2回目で2か所のまとまりとして確認された。出土遺物は110点で、土器はIV群a類が68点、石器は38点、礫が3点である。縄文時代後期前葉の時期と考えられる。

5 Q23剥片集中出土地区（図4-30 図版4-18-4）

包含層IV層3回目でブロック状のまとまりとして確認された。石器15点のまとまりで、Rフレイク2点、Uフレイク2点、剥片11点である。頁岩製で、母岩Dの接合資料1（図版5-16）が得られた。縄文時代後期前葉の時期と考えられる。

6 P22・23礫群（図4-30 図版4-18-1・19-1）

P22・23出土の8点の礫からなる礫群である。石組炉として焼土F-11に伴う可能性がある。周辺に土坑や焼土などが集中することから、これらの遺構群との関わりも考えられる。

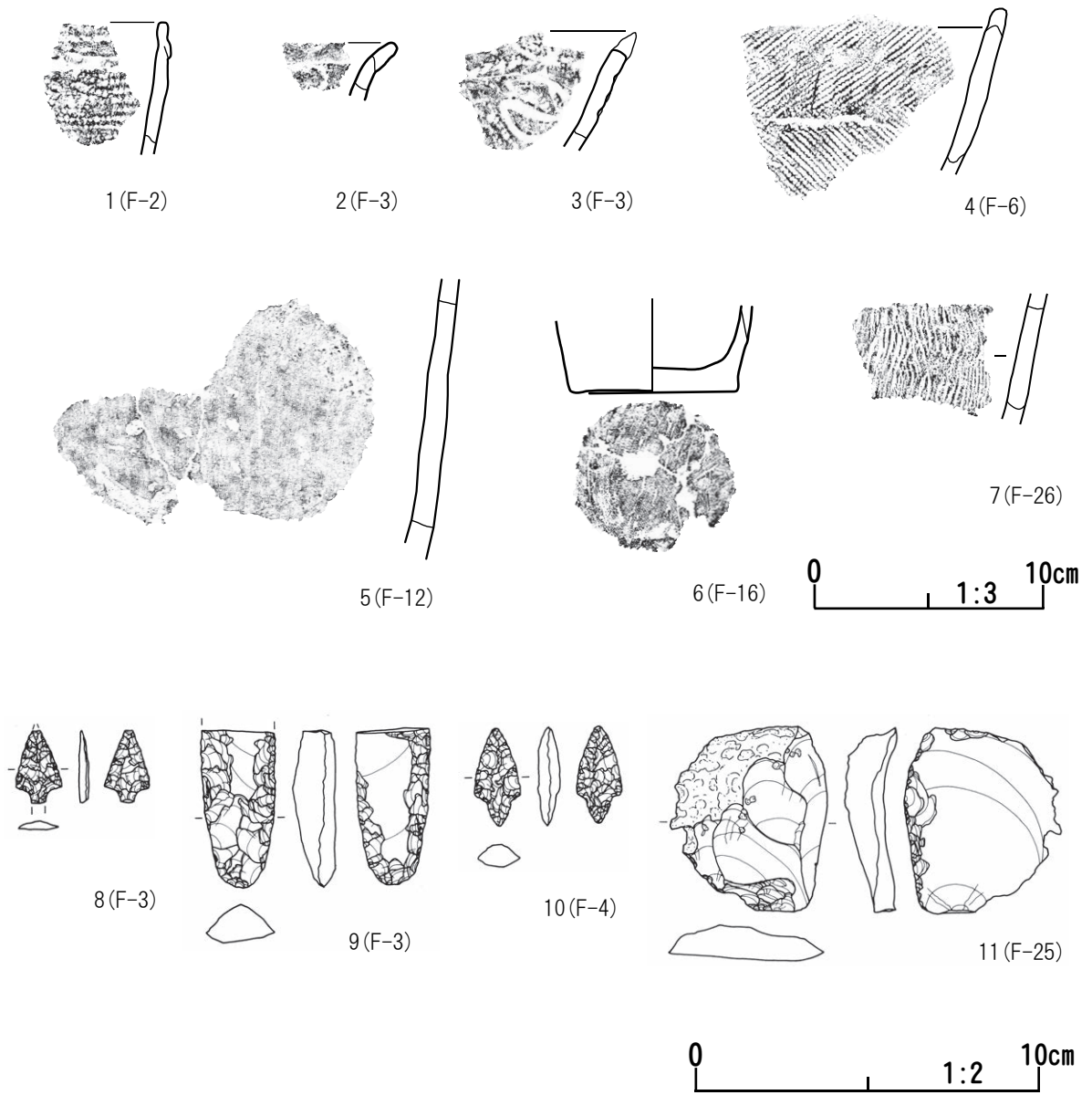


図4-33 焼土 F-2・3・4・6・12・16・25・26 土器・石器

表4-1 遺構一覧(1)

	掲載 図	図版	位置			平面形	規模 (m)			特徴	遺物					時期		
			グリッド	標高 ランク (m)	特記		確認面	床面または 底面	最大 深さ		土器	土 製 品	石 器	礎	合 計			
竪穴住居跡	H-1	4-3	4-1-2	O・P23・24	84.5	床面から P-3	不整形	4.00×3.50	3.72×3.36	0.48	浅皿状の掘り 込み	1877	16	331	324	2548	縄文時代後期 前葉	
	H-2	4-7	4-3	O・P15・16	82.5		円形	4.14×4.08	×	×	炉跡と柱穴列 のみ						縄文時代晩期	
土坑	P-1	4-8	4-4-1・ 2-3	P22	85.0		長楕円 形	1.20×0.75	0.96×0.36	0.52	大型加工礫埋 設の中型土坑	20		29	11	60	縄文時代後期 前葉	
	P-2	4-9	4-5- 1-2-3	Q24	85.0		楕円形	0.84×0.48	0.56×0.28	0.24	礫石器埋設の 小型土坑	12		9	2	23	縄文時代後期 前葉	
	P-3	4-10	4-6	O23-24	84.5	H-1内に て検出	楕円形	1.76×1.02	1.60×1.60	0.95	フラスコ状 ビット	482	4	64	66	616	縄文時代後期 前葉	
	P-4	4-11	4-7- 1-2-3	Q21	85.5		楕円形	1.14×0.64	0.91×0.39	0.31	中型土坑 土 坑墓の可能性	66	1	7	5	79	縄文時代後期 前葉	
	P-5	4-11	4-4-4-5	Q20	85.5		円形	0.40×0.36	0.28×0.20	0.13	柱穴状小ビッ ト	1				1	縄文時代後期 前葉	
	P-6	4-8	4-11- 1-2-3	P22	85.0		楕円形	0.60×0.56	0.48×0.36	0.29	小型土坑	6		1	7	14	縄文時代後期 前葉	
	P-7	4-11	4-5-4-5	O・P20	85.0		円形	0.43×0.40	0.20×0.16	0.12	埋設土器 小 ビット	35		2		37	縄文時代後期 前葉	
	P-8	4-8	4-13-1	P22	85.0		楕円形	0.37×0.27	0.12×0.10	0.12	柱穴状 小ビット						縄文時代後期 前葉	
	P-9	4-12	4-8	N22	84.5		円形	1.80×1.48	2.20×1.80	1.20	フラスコ状 ビット	314	11	88	107	520	縄文時代後期 前葉	
	P-10	4-13	4-9	M21	84.0		円形	1.92×1.72	1.60×1.56	0.84	大型土坑	210		147	15	372	縄文時代後期 前葉	
	P-11	4-14	4-7-4-5	M22	84.0		円形	0.84×0.76	0.64×0.60	0.65	小型土坑	46	3	30	7	86	縄文時代後期 前葉	
	P-12	4-15	4-10	L・M24	83.5		楕円形	1.68×1.48	1.28×1.04	0.72	大型土坑	474	3	50	116	643	縄文時代後期 前葉	
	P-13	4-8	4-11-4	P22	85.0		楕円形	0.94×0.65	0.76×0.44	0.26	小型土坑	40	2	13	14	69	縄文時代後期 前葉	
	(P-14)	-	4-13-3	N24	84.0	包含層に 変更												
	P-15	4-16	4-11-5-6	P24	84.5	H-1に切 られる	楕円形	0.88×0.65	0.28×0.20	0.36	小型土坑	8		9	4	21	縄文時代後期 前葉	
	(P-16)	-	-	L・M23	84.0	包含層に 変更												
	P-17	4-17	4-12	N25-26	83.5	F-24に 重複	円形	2.74×2.66	2.50×2.33	1.22	フラスコ状 ビット	285	1	103	102	491	縄文時代後期 前葉	
	P-18	4-18	4-13-2	Q23	85.5	調査区壁 際	円形	0.72× (0.36)	0.56×0.28	0.32	小型土坑			5		5	縄文時代後期 前葉	
焼土	F-1	4-28	4-14-1	M・N26	83.0		南北に 長い楕 円形	0.73×0.55	×	0.12	IV層被熱	7		1	2	10	縄文時代後期 前葉	
	F-2	4-29	4-14-2-3	O23	84.5	H-1に重 複	楕円形	0.75×0.55	×	0.13	その場で焼成	72		25	30	127	縄文時代後期 前葉	
	F-3	4-29	4-14-2-4	O23	84.5	H-1に重 複	楕円形	1.00×0.80	×	0.08	その場で焼成	81	1	57	11	150	縄文時代後期 前葉	
	F-4	4-30	4-14-5	O・P22	85.0		不整形 円形	1.04×0.4	×	0.16	その場で焼成	10		7	3	20	縄文時代後期 前葉	
	F-5	4-11	4-15-7	Q20	85.5	調査区壁 際	楕円形	0.72×0.44	×	0.06	移動したもの の可能性	1		1		2	縄文時代後期 前葉	
	F-6	4-31	4-14-6	N22	84.5		楕円形	0.43×0.25	×	0.09	その場で焼成	6		3		9	縄文時代後期 前葉	
	F-7	4-31	4-14-7	N22	84.5		不整形 円形	0.69×0.60	×	0.07	その場で焼成						縄文時代後期 前葉	
	F-8	4-31	4-14-8	N22-23	84.5		隅丸方 形	(0.65×0.34)	×	0.10	その場で焼成	17		1	2	20	縄文時代中期 末	
	F-9	4-29	4-15-1	P23	84.5	H-1に隣 接	楕円形	0.68×(0.50)	×	0.16	その場で焼成			5		5	縄文時代後期 前葉	
	F-10	4-30	4-15-2	P23	85.0		円形	0.48×0.42	×	0.08	移動したもの の可能性	2				2	縄文時代後期 前葉	
	F-11	4-30	4-15-3	P22-23	85.0		隅丸方 形	0.92×0.60	×	0.25	その場で焼成	4		2	1	7	縄文時代後期 前葉	
	F-12	4-32	4-15-5,6	N21	84.5		楕円形	0.84×0.72	×	0.12	石組炉 その 場で焼成	20		2	13	35	縄文時代後期 前葉	
	F-13	4-11	4-15-8	Q21	85.5	調査区壁 際	円形	0.52×0.48	×	0.07	移動したもの の可能性	5				5	縄文時代後期 前葉	
	F-14	4-11	4-16-1	Q21	85.5	調査区壁 際(部分)	円形 (部分)	0.48× (0.24)	×	0.07	移動したもの の可能性						縄文時代後期 前葉	
	F-15	4-11	4-16-2	P21	85.5		楕円形	0.60×0.43	×	0.06	移動したもの の可能性	1			1	2	縄文時代後期 前葉	

表4-1 遺構一覧(2)

	掲載 図	図版	位置			平面形	規模 (m)			特徴	遺物					時期	
			グリッド	標高 ランク (m)	特記		確認面	床面または 底面	最大 深さ		土器	土 製 品	石 器	磔	合計		
	F-16	4-32	4-16-3・4	N20	84.0		円形 (0.44× 0.16)	×	0.10	その場で焼成	15			2	17	縄文時代後期 前葉	
	F-17	4-30	4-16-5	P・Q22	85.0		不整形 円形	1.00×0.80	×	0.25	炉跡の可能性 その場で焼成	2		2	1	5	縄文時代後期 前葉
	F-18	4-32	4-16-6	N21	84.5		楕円形	0.39×0.24	×	0.10	移動したもの の可能性	4				4	縄文時代後期 前葉
	F-19	4-30	4-15-4	P23	85.0		円形	0.72×0.70	×	0.12	移動したもの の可能性			1		1	縄文時代後期 前葉
	F-20	4-9	4-16-7	P・Q24	85.0	P-2と重 複	不整形 円形	0.64×0.56	×	0.12	その場で焼成						縄文時代後期 前葉
	F-21	-	-	O23	85.0	包含層に 変更											
	F-22	4-31	4-16-8	M22	84.0		楕円形	0.55×0.36	×	0.12	炉跡の可能性 その場で焼成	1			2	3	縄文時代後期 前葉
	F-23	4-7	4-3-2・3	P15	82.5	H-2範囲 内炉跡に 相当	楕円形	0.61×0.50	×	0.12	H-2炉跡				11	11	縄文時代晩期
	F-24	4-28	4-17-1・2	N25	83.5	P-17覆 土内	①台形 様不整形 ②不整形	① 0.44 × 0.22 ② 0.78 × 0.60	×	① 0.12 ② 0.10	その場で焼成				1	1	縄文時代後期 前葉
	F-25	4-31	4-17-3	N23	84.5		楕円形	0.48×0.30	×	0.05	その場で焼成			2		2	縄文時代後期 前葉
	F-26	4-28	4-17-4	L26	82.5	調査区中 央部南寄 り	楕円形	0.97×0.72	×	0.13	その場で焼成	7	1	4	7	19	縄文時代後期 前葉
	F-27	4-31	4-17-5	N22	84.5		長楕円 形	0.60×0.36	×	0.08	その場で焼成						縄文時代後期 後半
	F-28	4-29	4-17-6・7	N24	84.0		不整形 円形	0.92×(0.81)	×	0.24	その場で焼成						縄文時代後期 前葉

表4-2 遺構別出土遺物一覧

	土器類				石器・礫類																	石器・礫類 集計	総計				
	土器 IVa	土器 集計	土製品 焼成粘土塊	土製品 集計	土器類 集計	石器											石器 集計	小礫	大礫	礫片	礫 (円礫)			礫 集計			
						石鏃	スクレイパー	両面調整石器	Rフレイク	Uフレイク	剥片	石核	原石	石斧	たたき石	すり石									台石・石皿	加工痕のある礫	
H-1	1877	1877	16	16	1893	3	2	2	7	20	283	1	4	4	2	2	1		331	6	1	156	161	324	655	2548	
P-01	20	20			20					2	26							1	29			4	7	11	40	60	
P-02	12	12			12						6								9			1	1	2	11	23	
P-03	482	482	4	4	486	1			2	12	41				4	1	3		64		1	37	28	66	130	616	
P-04	66	66	1	1	67					1	5								7	1	1		3	5	12	79	
P-05	1	1			1																					1	
P-06	6	6			6					1									1		1		6	7	8	14	
P-07	35	35			35						2								2							2	37
P-09	314	314	11	11	325	1	2		1	11	63			6	2	1		1	88			51	56	107	195	520	
P-10	210	210			210				2	4	140							1	147		2	11	2	15	162	372	
P-11	46	46	3	3	49						30								30			6	1	7	37	86	
P-12	474	474	3	3	477	1	1		7	5	31	1				3	1		50	1	1	63	51	116	166	643	
P-13	40	40	2	2	42					3	8						1	1	13			9	5	14	27	69	
P-15	8	8			8						9								9			4		4	13	21	
P-17	285	285	1	1	286		1		8	15	72	1	4				1		103			71	31	102	205	491	
P-18											1							4	5							5	5
F-01	7	7			7						1								1			1	1	2	3	10	
F-02	72	72			72					1	22		1				1		25			18	12	30	55	127	
F-03	81	81	1	1	82	1		1	3	51									57	1		1	9	11	68	150	
F-04	10	10			10	1				1	5								7			1	2	3	10	20	
F-05	1	1			1						1								1						1	2	
F-06	6	6			6						2		1						3						3	9	
F-08	17	17			17						1								1			1	1	2	3	20	
F-09										1	4								5							5	5
F-10	2	2			2																					2	
F-11	4	4			4					1	1								2			1		1	3	7	
F-12	20	20			20					1	1								2		8	5		13	15	35	
F-13	5	5			5																					5	
F-15	1	1			1																		1	1	1	2	
F-16	15	15			15																	2		2	2	17	
F-17	2	2			2						2								2			1		1	3	5	
F-18	4	4			4																					4	
F-19											1								1							1	1
F-22	1	1			1																1	1		2	2	3	
F-23																						11		11	11	11	
F-24																						1		1	1	1	
F-25							1												2							2	
F-26	7	7	1	1	8						4								4			3	4	7	11	19	
総計	4131	4131	43	43	4174	8	7	3	27	82	814	3	11	10	14	7	13	3	1001	9	16	460	382	867	1868	6042	

表4-3 掲載土器一覧 [遺構] (1)

掲載図号	図版	接合関係					諸特徴									
		グリッド 遺構名	通 層名	層位	掘り下げ 回数	グリッド 点数	分類	器形	残存 部位	形状	特徴(表面)	表面色調	特徴(内面)	内面色調	重量g	
4-4	1	H-1	9	覆土		O24	1	IVa	深鉢形土器	口縁～ 胴部上 半 全径の 1/3	口縁は平縁で、 口唇断面はやや 角張る。	地文:縄文 LR原体の 縦回転による横走縄文 を半部に炭化物の付着 がある 口唇に同一原体による 縄文が施される。	黒褐10YR3/2 に ぶい 橙 7.5YR7/4	たて、斜め方 向のナデ調整 が見られる	黒褐 10YR3/2 に ぶい 黒 7.5YR6/3	280
		H-1	28	床		O23	9	IVa								
		H-1	37	覆土上層		O23	1	IVa								
		P-03	1	覆土上層		P23	2	IVa								
		P-03	2	覆土		P23	1	IVa								
	2	H-1	27	覆土		O23	1	IVa	深鉢形土器	口縁部 のみ	口縁には台形状の 小突起を伴う。口 唇断面は角形で口 唇には平坦面がある。	地文:縄文 RL原体の 縦回転による斜行縄文。 口唇部は無文である。 補修孔が見られる。	に ぶい 黄 橙 10YR6/4 褐 灰 10YR5/1	口縁上部は横 ナデ調整 下部に斜め方 向の調整が見 られる	に ぶい 黄 橙 10YR7/4 灰 黄 褐 10YR5/2	105
		H-1	30	床		O23	3	IVa								
	3	H-1	5	覆土		O23	1	IVa	深鉢形土器	口縁部 のみ	折返口縁 口唇断面はやや細 くなる	地文:縄文 LR原体の 横回転による横走～斜 行縄文。口唇断面は やや尖る。折返と思 われる痕跡が見ら れる。	橙7.5YR7/6 灰 黄 褐 10YR5/2	斜め方向のナ デ調整が全面 に見られる	に ぶい 黄 橙 10YR6/4 褐 灰 10YR3/1	82
	4	H-1	41	覆土上層	H-1(P-3)	O23	1	IVa	小型深鉢形土器	口縁部 のみ	口縁は平縁で、外 反する。口唇には 丸みがある。	地文:縄文 LR原体の 横回転による斜行縄文。 口縁直下には同一原 体による縄線文が2 条近接して巡る。部 分的に炭化物の付着 がある。	黄 橙 10YR8/6 灰 黄 褐 10YR5/2	縦方向のナデ 調整が全面に 見られる。	に ぶい 黄 橙 10YR7/2 灰 黄 褐 10YR4/2	32
	5	H-1	12	覆土上層		P23	1	IVa	深鉢形土器	口縁～ 胴部上 半	口縁は平縁で、口 唇断面はやや角形 で平坦面がある。	地文:縄文 LR原体の 縦回転による横走縄 文で、筋がナデ消さ れている。口縁直下 にはLR原体による 縄線文が2条近接 して巡る。部分的 に炭化物の付着が ある。	浅 黄 橙 10YR8/3 褐 灰 10YR4/1	横方向のナデ 調整が一部見 られるが胎土 の小石粒が目 立つ。	浅 黄 橙 10YR8/3 褐 灰 10YR5/1	90
	6	H-1	4	覆土		P24	1	IVa	小型深鉢形土器	口縁部 のみ	口縁は平縁で、口 唇断面が細く、 丸みがある。	地文:縄文 LR横回 転による斜行～横走 縄文で、筋が不明 瞭である。口縁下 には2条のLR原 体による縄線文が 2条巡る。縄線間 には1cmほどの 間隔がある。	に ぶい 橙 7.5YR7/4 褐 灰 10YR5/1	縦方向のナデ 調整が見ら れる。胎土 の小石粒が目 立つ	に ぶい 黄 橙 10YR6/4 褐 灰 10YR4/1	22
	7	H-1	24	覆土		O23	1	IVa	深鉢形土器	口縁部 のみ	口縁は平縁で、口 唇はやや角形で ある。	地文:縄文 LR縦回 転による斜行～横 走縄文である。 口唇にも不明瞭 であるが同一原 体によると思われる 縄文が施される。	浅 黄 橙 10YR8/4 褐 灰 10YR4/1	縦方向のナデ 調整が全面に 見られる。	浅 黄 橙 10 YR8/3 褐 灰 7.5YR5/1	45
	8	H-1	2	覆土		O23	2	IVa	深鉢形土器 (推定口 径20cm)	口縁部 のみ	口縁は平縁で、口 唇断面はやや角 形である。	地文:縄文 LR原 体の横回転による 斜行～横走縄文 である。	に ぶい 黄 橙 10YR6/3 褐 灰 10YR3/1	縦方向のナデ 調整が全面に 見られる。	に ぶい 黄 橙 10YR7/4 黒 褐 10YR3/2	219
		H-1	9	覆土		O24	1	IVa								
		H-1	23	覆土		O23	1	IVa								
H-1		27	覆土		O23	1	IVa									
9	H-1	14	覆土上層		O23	1	IVa	深鉢形土器	胴下半 部	緩やかに立ち上 がる胴部破片で ある。	地文:縄文 LR原 体の横回転による 横走縄文である。 胎土中の小石 粒が多く、目立 つ。	に ぶい 橙 7.5YR7/3 褐 灰 7.5YR5/1	縦方向のナデ 調整が主体で、 横方向のナデ と一部重なる。	に ぶい 橙 7.5YR7/4	141	
10	H-1	41	覆土上層	H-1(P-3)	O23	1	IVa	大型深鉢形土器	口縁～ 胴上半 部	口縁部が緩やかに 外反する。口唇断 面は内面側が緩 やかで表側がやや 角ばる。	地文:縄文 口縁部 は幅広の無文帯で、 胴上半部からLR 原体の横回転と縦 回転の組み合わせ による羽状縄文が 施される。(手法B) 炭化物の付着が見 られる。	に ぶい 黄 橙 10YR7/4 灰 黄 褐 10YR5/2	縦方向のナデ が主体で、口 縁部上部と胴 上半部の一部 に横ナデ調整 が見られる。	浅 黄 橙 10YR8/4 灰 黄 褐 10YR6/6	211	
	N23	17	IV	1	N23	1	IVa									
11	H-1	7	覆土		O23	1	IVa	小型深鉢形土器	口縁部 のみ	口縁部は平縁で、 口唇断面は細く 尖った形状であ る。	地文:縄文 LR原 体の横回転による 粗い斜行縄文で、 折返か粘土接合 部を撫でた痕跡が 残る	浅 黄 橙 10YR8/4 灰 黄 褐 10YR4/2	口縁直下は粘 土接合部をナ デ消すための 縦の調整を行 い、その下を 横ナデ調整を 施している。	浅 黄 橙 10YR8/4 灰 黄 褐 10YR5/2	20	
12	H-1	41	覆土上層	H-1(P-3)	O23	1	IVa	深鉢形土器	口縁部 のみ	口縁は緩やかな山 形突起を伴う。口 唇断面は丸みあ る。	地文:縄文 LR原 体の横、斜行回転 による斜行～縦 走縄文である。 突起部は無文 である。	浅 黄 橙 7.5YR8/4 褐 灰 7.5YR6/1	横ナデ調整が 全面的に施さ れる。	黄 橙 7.5YR8/6 褐 灰 10YR5/1	79	
13	H-1	12	覆土上層		P23	1	IVa	深鉢形土器	口縁～ 胴上半 部	口縁は平縁で口唇 断面はやや角形 である。	RL原体の右巻きと 左巻き糸条体によ る網目状捻糸文が 全面に施される。 網目の間隔は約 1cmである。	浅 黄 橙 10YR8/4 褐 灰 7.5YR4/1	斜め方向のナ デ調整が全面 に見られる	浅 黄 橙 7.5YR8/4 黒 褐 10YR3/1	132	
	P-03	3	覆土		P23	1	IVa									
	P-03	10	覆土		P23	1	IVa									
	P-12	3	覆土上層		M24	2	IVa									
	M25	12	IV	4	M25	1	IVa									
	M25	14	IV	6	M25	1	IVa									
	N24	3	IV	1	N24	1	IVa									
N26	4	IV	2	N26	1	IVa										
14	H-1	26	覆土		O23	1	IVa	深鉢形土器	胴下半 部	緩やかに立ち上 がる胴部破片で ある。	RL原体の右巻きと 左巻き糸条体によ る網目状捻糸文が 全面に施される。 網目の間隔は約 1.5cmである。	黄 灰 2.5Y4/1 黒 7.5Y2/1	縦方向のナデ 調整が全面に 見られる。	に ぶい 黄 褐 10YR5/3	161	
	N25	9	IV	1	N25	1	IVa									
	O24	10	IV	4	O24	3	IVa									
15	H-1	9	覆土		O24	3	IVa	深鉢形土器	胴下半 部～底 部	底面平坦 緩やかな立ち上 がり	RL原体の右巻きと 左巻き糸条体によ る網目状捻糸文が 全面に施される。 網目の間隔は縦 0.5cm横1.5cm である。	に ぶい 黄 橙 10YR7/4 褐 灰 10YR5/1	底部付近は横 ナデ、胴部上 方に向かって 縦方向のナデ 調整が見られ る。底部付近 で胎土中の小 石粒が目立つ。	に ぶい 黄 橙 10YR6/3 黒 褐 10YR3/1	125	
	P-13	2	覆土		P22	3	IVa									

表4-3 掲載土器一覧 [遺構] (2)

掲載挿入番号	図版	接合関係						諸特徴																										
		挿入番号	遺構名	層位	掘り下げ回数	グリッド	点数	分類	器形	残存部位	形状	特徴(表面)	表面色調	特徴(内面)	内面色調	重量g																		
4-5	4-22	1	H-1	覆土		O23	1	IVa	小型深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口縁部やや外反。口唇丸形	地文:縄文 RL原体の右巻きと左巻き給糸体による燃糸文である。口縁直下にはRL原体による縄線文が2条巡り、縄線文間に円形の貼付が施される。貼り付けに接して補修孔も見られる。	にぶい橙 7.5YR7/4 褐灰 10YR4/1	縦方向のナデ調整が見られる。	にぶい黄橙 10YR7/3 褐灰 10YR4/1	17																		
		2	H-1	覆土上層		O23	2	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で、三角形の小突起を伴う。口唇断面は尖ったかたちである。	地文:LR原体の横回転による斜行縄文同一原体による縄線文が4条並行にめぐり、上下2条間に円形刺突列が巡る。小突起下には円形の貼り付けが3点垂直に並ぶ。	橙7.5YR7/6 黒褐 10YR3/2	横方向のナデ調整が全体に見られる。	にぶい橙 7.5YR6/4 褐灰 10YR4/1	80																		
		3	H-1	覆土上層		P23	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で、口唇断面は不整形である。	地文:無文 LR原体と思われる縄線が口縁下に1条巡り、円形、三角形の文様を描いている。	にぶい橙 7.5YR6/4 褐灰 10YR5/1	縦、横、斜め方向のナデ調整が見られる。	にぶい橙 7.5YR7/4 褐灰 7.5YR6/2	65																		
		4	H-1	覆土上層		O23	1	IVa	深鉢形土器	胴上半部	口縁付近の胴部破片である。	地文:無文 上部で2条の横走す沈線下で、幾何学状に入り組んだ沈線文が描かれる。	橙7.5YR7/6 灰黄褐 10YR5/2	横方向のナデ調整が見られる。	にぶい橙 7.5YR6/4	52																		
		5	H-1 3 覆土 O24 3 IVa	H-1 23 覆土 O23 1 IVa	N24 16 IV 1 N24 1 IVa	N24 17 IV 2 N24 1 IVa	O24 10 IV 4 O24 1 IVa	P25 6 IV 4 P25 3 IVa	Q23 2 IV 2 Q23 1 IVa	深鉢形土器	底部～胴下半部	底部底面は平坦で、胴部の立ち上がりは緩やかに広がる。	底部底面は無文である。胴部はRL原体右巻きの給糸体による縦位燃糸文である。	にぶい橙 7.5YR7/3 にぶい褐 7.5YR6/3	縦方向のナデ調整が見られる。	にぶい橙 7.5YR7/3 褐灰 10YR4/1	157																	
																		6	H-1	覆土中層		O23	1	IVa	小型深鉢形土器	底部～胴下半部	底部底面は平坦である。底部が少し張り出し、括れから胴部が緩やかに広がる。	底部底面、胴部ともに無文である。	浅黄橙 10YR8/4 褐灰 10YR6/1	横方向のナデ調整が見られる。底部にかけてすり鉢状になる。	浅黄橙 10YR8/4 灰黄褐 10YR6/2	35		
																		7	H-1 26 覆土 O23 1 IVa	P23 3 IV 2 P23 1 IVa	小型深鉢形土器	底部～胴下半部	底部底面はわずかに上げ底で、底部はわずかに張り出す。小さな括れから胴部が直立する。	底部底面は無文である。胴部は無文で、縦方向のナデ調整が見られる。	浅黄橙 7.5YR8/4 灰褐 7.5YR6/2	横方向のナデ調整が見られる。	にぶい黄橙 10YR7/2	34						
																													8	H-1 1 覆土 O24 1 IVa	H-1 9 覆土 O24 1 IVa	H-1 14 覆土上層 O23 1 IVa	H-1 41 覆土上層 H-1(P-3) O23 4 IVa	H-1 9 覆土 O24 1 IVa
																		9	H-1 9 覆土 O24 1 IVa	H-1 36 覆土 H-1HP-1 O23 1 IVa	P-03 2 覆土 P23 1 IVa	P-03 8 覆土 P23 1 IVa	小型鉢形土器	口縁～胴部	口縁は平縁で、胴部はほぼ直立する。口唇断面は折り返し口縁による丸みがある。	地文には斜行縄文の痕跡が残るが、ナデ消され、無文が主体である。口縁は1cm弱の幅で折返口縁となっている。	にぶい黄橙 10YR7/4 褐灰 10YR4/1	縦方向のナデ調整が見られる。	浅黄橙 7.5YR8/4 褐灰 10YR4/1	75				
																															1	P-03 8 覆土 P23 1 IVa	O24 4 IV 1 O24 1 IVa	O24 9 IV 3 O24 1 IVa
		2	P-03 8 覆土 P23 1 IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で、口唇断面は丸くなる。	地文:縄文 LR原体の縦回転による横走縄文である。口縁直下に同一原体による縄線文が1条施される。	浅黄橙 7.5YR8/4 褐灰 10YR5/1	縦、横方向のナデ調整が認められる。	浅黄橙 7.5YR8/4 にぶい黄橙 10YR7/2	41																							
												3	P-03 4 覆土 P23 3 IVa	深鉢形土器	口縁～胴上半部	口縁は平縁で山形の突起を伴う。突起には刻みがある。口縁部は2cmの幅で大きく外反する。胴部は緩やかに膨らむ器形である。口唇断面は細く尖る。	地文:縄文 不明瞭ではあるが、LR原体の縦回転による斜行縄文である。外反する口縁部上にはLR原体の粗い縄線文が2条見られる。	浅黄橙 7.5YR8/4 褐灰 7.5YR5/1	口唇付近が横方向、胴部に向かって縦方向のナデ調整が見られる。	浅黄橙 7.5YR8/4	78													
		4	P-03 1 覆土上層 P23 2 IVa	深鉢形土器	口縁～胴下半部	口縁は平縁で、胴部が緩やかに膨らむ器形である。口唇断面は丸形である。	地文:縄文 LR原体の横回転による斜行～横走縄文である。口縁直下にはLR原体による粗い縄線文が1条見られる。	にぶい橙 7.5YR7/4 褐灰 7.5YR4/1	ほぼ全面に縦方向のナデ調整が認められる。	にぶい黄橙 10YR7/4 褐灰 10YR4/1	95																							
												5	P-03 1 覆土上層 P23 1 IVa	筒形深鉢形	胴下半部のみほぼ筒状に立ち上がる	地文:縄文 LR原体及びRL原体の縦、横回転の組み合わせによる斜行～横走縄文	にぶい橙 7.5YR6/4 褐7.5YR4/3	縦方向、斜方向のナデ調整による	にぶい橙 7.5YR7/4 にぶい褐 7.5YR5/3	980														
		6	P-03 3 覆土 P23 10 IVa	P-03 4 覆土 P23 22 IVa	小型鉢形土器	口縁～胴下半部	口縁は平縁で、山形小突起を伴う。胴部はほぼ直立する	地文:縄文 LR原体の横回転による斜行縄文	にぶい橙 7.5YR7/3 褐灰 10YR4/1	縦方向のナデ調整による口縁部に輪積み痕	黒褐 10YR3/2	41																						

表4-3 掲載土器一覧 [遺構] (3)

掲載挿入番号	図版	接合関係						諸特徴								
		挿入番号	グリッド遺構名	遺構層位	掘り下げ回数	グリッド	点数	分類	器形	残存部位	形状	特徴(表面)	表面色調	特徴(内面)	内面色調	重量g
4-19	4-23	7	P-03	2	覆土	P23	1	IVa	小型鉢形土器	底部	底部底面は平坦で、わずかな張り出しがある。わずかな括れから胴部が緩やかに広がり立ち上がる。	LR原体の横回転による斜行縄文がわずかに残る。指頭圧痕が見られる。	にぶい橙 7.5YR7/4 灰褐 7.5YR5/2	縦方向と横方向によるナデ調整が施される。	にぶい橙 7.5YR7/4 にぶい黄橙 10YR6/3	14
		8	P-03	9	覆土	P23	1	IVa	深鉢形土器	底部から胴下半部	底部底面は平坦である。胴部への立ち上がりは接合部が外側にわずかに張り出す形となっている。	底部底面は無文である。地文:縄文 RL原体の横回転による斜行縄文底面との接合部は幅1cm程の無文帯となっている。	にぶい黄橙 10YR7/3 褐灰 10YR4/1	縦方向のナデ調整が認められる。接合部は直立している。	にぶい黄橙 10YR7/3 褐灰 10YR4/1	50
		9	P-04	11	覆土	Q21	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	口縁には緩やかな山形突起が見られる。突起には2か所の刻みを伴う。口縁はわずかに外反し、口唇断面は丸形である。	無文地に横走する沈線と鋸歯状と思われる沈線の一部が見られる。	にぶい黄橙 10YR7/4 褐灰 10YR4/1	口唇付近は横方向のナデ調整、胴部に向かって縦方向のナデ調整が施される。	にぶい黄橙 10YR7/3 褐灰 10YR5/1	30
		10	P-04	5	覆土	Q21	17	IVa	深鉢形土器	胴部	直立する	無文地に曲線を主とする沈線文	褐灰10YR4/1 にぶい黄橙 10YR7/3	縦方向のナデ調整による	にぶい黄橙 10YR6/4	390
		11	P-04	1	覆土上層	Q21	3	IVa	深鉢形土器	口縁~底部	口縁は平緑で、口唇断面はやや細い丸形である。	全体に無文である。縦方向のナデ調整が認められる。口縁部付近に炭化物の付着が見られる。補修孔が2か所見られる。	にぶい橙 5YR7/4	横方向のナデ調整が全体に認められる。	褐灰 10YR5/2	500
			P-04	4	覆土	Q21	1	IVa								
			P-04	6	覆土	Q21	1	IVa								
			P-04	7	覆土	Q21	7	IVa								
			Q21	2	IV	1	Q21	3			IVa					
			Q21	5	IV	3	Q21	7			IVa					
		12	P-11	1	覆土	M22	2	IVa	壺形土器	胴部上半	大きく張り出した胴部上半の一部分	2本1組の沈線で工字文を描き、沈線間にはLR原体の縦横回転による羽状縄文を残す磨消縄文が見られる。	浅黄橙 10YR8/3 にぶい黄橙 10YR7/4	横方向のナデ調整が見られる	にぶい黄橙 10YR7/3	77
			P-11	3	覆土	M22	2	IVa								
			N22	3	IV	2	N22	2								
		13	P-11	1	覆土	M22	1	IVa	鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平緑で、口唇断面は角形である。	折返口縁で折返部分は無文である。地文はLR原体の横回転による斜行縄文で、竹管状の円形刺突文が横列で2か所見られる。	にぶい黄橙 10YR7/4 褐灰 10YR5/1	横方向のナデ調整が見られる	にぶい黄橙 10YR7/4	7
		14	P-05	1	覆土	Q20	1	IVa	深鉢形土器	口縁部小片	口縁は平緑で、口唇断面は細く尖る。輪積みの擬口縁の可能性もある。	RL原体の右巻き、左巻きの筋条体による網目状断糸文が地文である。	にぶい黄橙 10YR7/3 橙7.5YR7/6	横方向のナデ調整に、赤色顔料の付着が見られる。	浅黄橙 10YR8/3 明黄褐 10R6/6	32
15	P-07	2	覆土	0	O20	28	大型深鉢形土器	口縁~胴部下半	口縁はわずかで、平緑と思われる。胴部が緩やかに張り出す器形である。	全体に無文地である。口縁下を2本の横走沈線が巡る。口縁部周辺は横ナデ、胴部は横ナデと縦ナデの調整が組み合わされる。	浅黄橙 10YR8/4 褐灰 10YR4/1	全体に縦方向のナデ調整が見られる。	にぶい黄橙 10YR7/2 褐灰 10YR4/1	743		
	O20	8	IV	4	O20	1									IVa	
	O20	9	IV	5	O20	1									IVa	
1	2	P-09	5	覆土	N22	1	IVa	深鉢形土器	口縁~胴部上半	口縁は平緑で、口唇断面は角形~丸形である。	明瞭な縄文地で、LR原体の横回転と縦回転を組み合わせた斜行縄文である。羽状にはならない。	浅黄橙 10YR8/4 褐灰 10YR4/1	口縁直下が横方向、全体に縦方向のナデ調整が見られる	にぶい黄橙 10YR7/3 灰黄褐 10YR5/2	101	
		N22	4	IV	2	N22	1	IVa								
2	2	P-09	26	覆土中層	0	N22	1	IVa	深鉢形土器	胴部	やや開き気味の胴部片	LR原体の横回転による斜行縄文が地文である。縦位と思われる蛇行沈線の一部が残る。	褐灰 7.5YR4/1	縦方向のナデ調整が見られる。	灰白 10YR8/2 褐灰 10YR5/1	35
		P-09	28	底面付近	0	N22	1	IVa								
3	2	P-09	20	覆土中層		N22	1	IVa	大型深鉢形土器	胴部上半~下半	胴部は緩やかに膨らむ	縄文地で、LR原体の横回転による横走または斜行縄文である。蛇行する沈線が縦位に描かれ、2か所で見られる。	浅黄橙 10YR8/3 にぶい赤褐 5YR5/4	全体に縦方向のナデ調整が見られる。一部炭化物の付着がある。	浅黄橙 10YR8/4 黒 10YR2/1	286
		F-08	2	IV	上面	N22	2	IVa								
		M22	1	IV		M22	1	IVa								
		N22	3	IV	2	N22	1	IVa								
		N22	14	IV	4	N22	1	IVa								
		N22	15	IV		N22	1	IVa								
		N23	12	IV	2	N23	1	IVa								
4	2	P-09	22	IV	0	N23	1	IVa								
		P-09	1	覆土	N22	1	IVa	深鉢形土器	口縁部小片	口縁は平緑で、外反する。口唇断面は丸形である。	無文地に横走沈線が2条巡る。	褐灰10YR5/1 褐灰10YR4/1	横方向のナデ調整に輪積み痕が見られる。	褐灰 10YR5/1	12	
5	4-24	P-09	3	覆土	N22	3	IVa	鉢形土器	口縁部小片	口縁は山形口縁で、やや外反する。口唇断面は細く尖る。	沈線文が主体で、山形口縁にはモール状の沈線、その下には矢羽根状や横走の沈線が見られる。	にぶい黄橙 10YR7/4 褐灰 10YR5/1	山形口縁部にも表面同様のモール状沈線が見られる。	にぶい黄橙 10YR7/4 黒褐 10YR3/1	18	
6	P-09	1	覆土	N22	5	IVa	小型深鉢形土器	口縁~胴部上半	口縁は緩やかな液状口縁で、口唇断面は細く、丸形である。口縁が外反し、胴部上半が張り出す器形である。	外反する口縁部は無文帯で、横走沈線を挟んで、以下LR原体の横回転による斜行縄文地に渦巻き状を主体とする沈線文が描かれる。	にぶい黄橙 10YR7/3 褐灰 10YR5/1	横方向のナデ調整が見られる	にぶい黄橙 10YR7/3 黒 10YR2/1	46		
7	P-09	18	覆土下層	N22	1	IVa	鉢形土器	胴部小片	緩やかに立ち上がる胴部破片である。	無文地に細い沈線で入組み文、渦巻きが描かれる。	灰白10YR8/2	横方向のナデ調整が見られる	黒 10YR2/1	16		

表4-3 掲載土器一覧 [遺構] (4)

挿図	番号	図版	接合関係					諸特徴								
			グリッド 遺構名	遺物 層位	掘り下げ 回数	グリッド	点数	分類	器形	残存 部位	形状	特徴 (表面)	表面色調	特徴 (内面)	内面色調	重量 g
4-20	8	P-09	30	覆土中層	0	N22	22	IVa	深鉢形土器	胴下半部～底部底面	底面はわずかに上げ底である。底部から胴部はやや開き気味の立ち上がりである。	LR原体斜行回転による縦縄文である。底部底面は無文である。	黄橙 10YR8/6 灰黄褐 10YR5/2	縦方向のナデ調整が見られる。	にぶい黄橙 10YR6/3 褐灰 10YR4/1	350
			5	覆土		N22	1	IVa	深鉢形土器	胴下半部～底部	底部底面は平坦で、胴部の立ち上がりはやや直立し、105～110度で広がる器形である。	縄文地:LR原体の横回転による斜行縄文である。部分的に炭化物が付着する。底面は無文である。	浅黄橙 10YR8/4 灰黄褐 10YR4/2	縦方向のナデ調整が施されている。底部を除く内壁には炭化物の付着が見られる。	にぶい黄橙 10YR7/2 灰黄褐 10YR5/2	690
	8	覆土		N22	8	IVa										
	9	覆土		N22	3	IVa										
	10	覆土		N22	1	IVa										
	11	覆土		N22	2	IVa										
	24	覆土中層	0	N22	1	IVa										
	10	P-13	2	覆土		P22	1	IVa	深鉢形土器	口縁～胴部上半	口縁は平緑で、口唇断面は切出し形である。胴部は直立に近い。	縄文地:LR原体左巻きの絡糸体による縦位の捺糸文である。口縁下には同じ原体による縄線文が見られる。	にぶい黄橙 10YR7/3 褐灰 10YR4/1	縦方向のナデ調整が施されている。	にぶい黄橙 10YR6/3 褐灰 10YR4/1	23
	11	P-13	2	覆土		P22	3	IVa	大型深鉢形土器	口縁～胴部上半	口縁は平緑で、口唇断面はやや角形である。胴部は直立に近い。	縄文地:LR原体の斜行回転による横走縄文である。口縁直下には同じ原体による縄線文が2条並行して走る。	にぶい黄橙 10YR7/3 褐灰 10YR4/1	縦方向のナデ調整が施される。	浅黄橙 10YR8/4 褐灰 10YR5/1	255
		N24	23	IV	7	N24	2	IVa								
		N24	57	覆土上層	IHP-14	N24	3	IVa								
	12	P-17	4	覆土		N25	1	IVa	深鉢形土器	口縁～胴部上半	口縁は平緑で、口唇断面は丸形である。胴部は緩やかに立ち上がる。	縄文地 口縁部付近はLR原体の横回転による斜行縄文、胴部上半は同原体の縦回転による斜行縄文が見られる。口縁直下にはLR原体による縄線文が1条走り、並行して部分的にもう一条見られる。	灰褐 7.5YR6/2 褐灰 7.5YR4/1	口縁部は横方向のナデ調整が施されている。	浅黄橙 10YR8/4 褐灰 10YR4/1	161
		P-17	5	覆土		N25	1	IVa								
	13	P-17	5	覆土		N25	2	IVa	深鉢形土器	口縁部小片	口縁は平緑で、刻みのある山形小突起を伴う。	縄文地 LR原体の縦回転による斜行縄文が残る。突起部には円形の貼付文が縦に2つ並ぶ。	浅黄橙 10YR8/3 橙5YR6/6	縦方向のナデ調整が見られる。	浅黄橙 10YR8/4 7.5YR5/6	13
		P-17	2	覆土		N25	2	IVa								
	14	P-17	3	覆土		N25	2	IVa	小型深鉢形土器	口縁～胴部下半	口縁はわずかな液状が見られるがほぼ平緑である。口唇断面は丸形である。	無文地 縄文が縦方向のナデ調整により消されているように見える。	にぶい橙 7.5YR7/4 褐灰 7.5YR4/1	口縁部が横方向、胴部から縦方向のナデ調整が見られる。	にぶい黄橙 10YR7/3 褐灰 10YR4/1	49
		N25	12	IV	4	N25	3	IVa								
		N25	23	IV	0	N25	1	IVa								
	15	P-17	1	覆土		N25	2	IVa	鉢形土器	口縁～底部3/4が残存	口縁は平緑で緩やかな山形の突起が5単位と推定される(現存は4分所)。口縁部は外反し、胴部が張り出す形である。底部との境はなく、丸みのある底面となっている。	縄文地:無節縄文(L)地に、口頭部に並行沈線による渦巻文と口縁内面には無節縄文(L)に並行沈線が施される。胴部から底部にかけてカニのさきみ状沈線文、底面にはクラック状沈線文が施される。打ち欠きによる欠損部に加えて、円形に敲打した部分も認められる。表面全体に炭化物の付着が見られる。	にぶい黄橙 10YR7/3 褐灰 10YR5/1	口縁突起部にモールド状の並行沈線文のある部分に一部炭化物の付着が見られる。湾曲部の一部に炭化物の付着が見られる。	褐灰 10YR4/1 黄橙 10YR8/6	228
		P-17	3	覆土		N25	1	IVa								
P-17		5	覆土		N25	2	IVa									
4-21	1	P-10	7	覆土中層		M21	1	IVa	大型深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平緑で、口唇断面は丸形である。折返口縁である。	縄文地 LR原体の横回転による斜行縄文である。折返口縁上には斜行縄文の一部と指頭痕が見られる。	浅黄橙 10YR8/3 灰黄褐 10YR5/2	口縁部が横方向、胴部に向けて縦方向のナデ調整が見られる。	にぶい橙 7.5YR7/3 褐灰 7.5YR4/1	111
		P-10	8	覆土		M21	3	IVa								
	2	P-10	14	覆土中層		M21	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平緑で、やや外反する。口唇断面は細く尖る。折返口縁である。	縄文地 RL原体の横回転による斜行縄文である。折返口縁上とその下は無文で、部分的な沈線が見られる。	にぶい橙 7.5YR7/4 灰褐 7.5YR5/2	横方向のナデ調整が施される。	にぶい橙 7.5YR6/4 灰褐 7.5YR5/2	26
	3	P-10	1	IV	4	M21	1	IVa	深鉢形土器	口縁部小片	口縁は平緑で、折返口縁である。口唇断面は角形である。	縄文地でLR原体の縦横回転による斜行縄文である。折返口縁上は無文で、口縁から逆三角形に同原体による縄線文が施される。	灰白10YR8/2	横方向のナデ調整が施される。	浅黄橙 10YR8/3	26
	4	P-10	18	覆土下層		M21	3	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は緩やかな液状の一部で、わずかに外反する。口唇断面は角形である。厚手で重い。	縄文地 LR原体の横回転による斜行縄文である。胴部付近には横走沈線も見られる。	にぶい橙 7.5YR7/4 褐灰 10YR4/1	横方向のナデ調整が施される。	橙 7.5YR7/6 灰褐 7.5YR5/2	69
	5	P-10	4	覆土上層		M21	2	IVa	小型深鉢形土器	口縁～胴部上半	口縁は平緑である。口唇断面は丸形である。胴部は緩やかに膨らむ器形である。	縄文地でLR原体の横回転による斜行～横走縄文である。表面は凸凹している。	褐灰 7.5YR5/1 黒褐 10YR3/1	縦方向のナデ調整が施される。輪積み痕跡が残る。	にぶい黄橙 10YR7/4 褐灰 10YR4/1	36
		P-10	7	覆土中層		M21	1	IVa								
6	P-10	10	覆土中層		M21	3		大型深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は山形口縁で、緩やかに外反する。口唇断面は丸形である。厚手で重い。	無文地で縦方向のナデ調整が見られる。	にぶい橙 7.5YR7/4 褐灰 10YR4/1	横方向のナデ調整が施される。	浅黄橙 10YR8/4 褐灰 7.5YR4/1	73	
7	P-10	12	覆土上層		M21	1	IVa	小型深鉢形土器	口縁～胴部上半	口縁は平緑で、口唇断面は丸形である。胴部は直立する。	無文地で縦方向のナデ調整が見られる。	にぶい黄橙 10YR6/3 褐灰 10YR4/1	横方向のナデ調整が施される。	にぶい黄橙 10YR7/3 褐灰 10YR4/1	29	

表4-3 掲載土器一覧 [遺構] (5)

掲載挿入図番号	図版	接合関係					諸特徴										
		挿入図番号	遺物番号	層位	掘り下げ回数	グリッド	点数	分類	器形	残存部位	形状	特徴(表面)	表面色調	特徴(内面)	内面色調	重量g	
4-21	4-25	8	P-10	1	IV	4	M21	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で外反する。口唇断面は丸形である。	無文地で横走沈線と直線の沈線により、直角やクランクが描かれる。	にぶい黄橙 10YR7/3 褐灰 10YR4/1	横方向のナデ調整が施される	にぶい黄橙 10YR7/3 黒褐 10YR3/2	20
		9	P-10	1	IV	4	M21	1	IVa	深鉢形土器	胴部	胴部はほぼ直立する。	縦方向の条線に横走沈線が2条巡る。	浅黄橙10YR8/3 褐灰10YR5/1	横方向のナデ調整が施される	褐灰 10YR4/1	17
		10	P-10	20	覆土下層		M21	1	IVa	深鉢形土器	底部底面	底面は平坦で、少し張り出す。胴部は括れを経て、70度で立ち上がる。	RL原体の縦回転による斜行縄文が底面付近まで施される。底面は無文である。	浅黄橙7.5YR8/4 褐灰7.5YR5/1	横方向のナデ調整が施される	浅黄橙 10YR8/4 灰黄褐 10YR4/2	258
		11	P-12	3	覆土上層		M24	4	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で、口唇断面は角形である。	口縁に2条の細い貼付帯、その間は無文。貼付帯上はRL原体の縦回転、地文は横回転の斜行縄文で、羽状を構成(手法A)。	浅黄橙 10YR8/4 褐灰 10YR4/1	縦方向のナデ調整と思われる	浅黄橙 10YR8/4	97
		12	P-12	2	IV	5	M24	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で、直下に細い貼付帯が巡る。口唇断面は角形である。	縄文地はLR原体縦回転の斜行縄文である。口縁の貼付帯は1条で、貼付帯上にはLR原体の縄線文が巡る。	にぶい黄橙 10YR7/3 褐灰 10YR4/1	横方向のナデ調整が見られる	浅黄橙 10YR8/3 灰黄褐 10YR4/1	65
			P-12	3	覆土上層		M24	2	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で、直下に細い貼付帯が巡る。口唇断面はやや角形である。	縄文地はLR原体縦回転の斜行縄文である。口縁の貼付帯は1条で、貼付帯上にはLR原体の縄線文が巡る。	にぶい黄橙 10YR7/3	横方向のナデ調整が見られる	灰白 10YR8/2 灰黄褐 10YR6/2	43
		14	P-12	3	覆土上層		M24	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で、折返口縁上も含めてLR原体の横回転による斜行縄文である。下部は横走。	折返口縁上も含めてLR原体の横回転による斜行縄文である。下部は横走。	にぶい黄橙 10YR7/4	横方向のナデ調整が施される	浅黄橙 10YR8/4 灰黄褐 10YR5/2	27
		15	P-12	3	覆土上層		M24	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で、口唇断面は角形である。	LR原体の横回転による斜行縄文について、条に沿って筋を磨り消して沈線状にしている。	浅黄橙 10YR8/4 褐灰 10YR5/1	横方向のナデ調整が施される	黄橙 10YR8/6 褐灰 10YR4/1	59
			P-12	18	覆土中層		M24	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で、口唇断面は丸形である。胴部は直立に近い。補修孔が見られる。	RL原体の横回転による斜行縄文。	にぶい黄橙 10YR7/4 黒褐 10YR3/2	横方向のナデ調整が施される	にぶい黄橙 10YR7/4	48
		17	P-12	2	IV	5	M24	7	IVa	小型深鉢形土器	口縁～胴部下	口縁は平縁で、口唇断面は丸形である。胴部は緩やかに膨らみがある。	縄文地で、LR原体の縦回転による斜行縄文である。	にぶい黄橙 10YR7/4 褐灰 10YR4/1	横方向のナデ調整が施される	浅黄橙 10YR8/3 褐灰 10YR4/1	61
		18	P-12	2	IV	5	M24	2	IVa	小型深鉢形土器	口縁～胴部下	口縁は平縁で、口唇断面は丸形である。	縄文地でRL原体の横回転による斜行縄文である。	褐灰 10YR6/1 灰白 2.5Y7/1	縦方向のナデ調整が施される	淡黄 2.5Y8/3 灰黄褐 10YR6/2	38
			P-12	3	覆土上層		M24	1	IVa	小型深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で、口唇断面は丸形である。	縄文地でRL原体の横回転による斜行縄文である。	にぶい黄橙 7.5YR7/4 浅黄橙10YR8/4	横方向のナデ調整が施される	淡黄 2.5Y8/4	31
			P-12	4	覆土上層		M24	1	IVa	深鉢形土器	底部	底面は平坦で、胴部の立ち上がりは直立に近い。	RL原体の横回転による斜行縄文が胴部から底面にまで及ぶ。	にぶい黄橙 7.5YR7/4 浅黄橙10YR8/4	横方向のナデ調整が施される	淡黄 2.5Y8/4	31
		20	P-12	7	覆土上層		M24	1	IVa	大型深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で、少し外反する。口唇断面は丸形である。厚みはないが折返口縁である。	無文地上に直線主体の沈線文が横走及びクランク状に描かれる。	浅黄橙 10YR8/4	横方向のナデ調整が施される	浅黄橙 10YR8/4	90
			P-12	9	覆土上層		M24	8	IVa	大型深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で、口唇断面は丸形である。厚みはないが折返口縁である。	無文地上に直線主体の沈線文が横走及びクランク状に描かれる。	浅黄橙 10YR8/4	横方向のナデ調整が施される	浅黄橙 10YR8/4	90
		21	P-12	3	覆土上層		M24	2	IVa	壺形土器	胴部	大きく膨らむ器形の胴部破片である。	LR原体の横回転による斜行縄文を地文とし、2本1組の沈線により工字状文を描く、磨消縄文である。	橙5YR6/6 褐灰10YR4/1	横方向のナデ調整が施される	にぶい黄橙 10YR7/4 灰黄褐 10YR5/2	35
		22	P-12	2	IV	5	M24	1	IVa	壺形または深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で、口唇断面はやや角形である。口縁以下はほぼ直立する。	無文地で、細い横走沈線が2条巡る。	橙7.5YR7/6	縦方向のナデ調整が施される	明褐 7.5YR5/6	85
			P-12	3	覆土上層		M24	1	IVa								
			P-12	18	覆土中層		M24	2	IVa								
			M24	4	IV	2	M24	2	IVa								
M24	6		IV	5	M24	2	IVa										
23	M25	4	IV	3	M25	1	IVa	壺形土器	胴部	大きく膨らむ壺形土器の胴部破片である。	無文地で、曲線主体の細い沈線が渦巻き状を描く。器面上は小さな剥落が多く見られ、二次焼成も考えられる。	浅黄橙 10YR8/4 褐灰 10YR5/1	縦方向のナデ調整による。表面同様に小さな剥落が見られる。	橙 7.5YR6/6	180		
	P-12	9	覆土上層		M24	9	IVa										
	P-12	10	覆土上層		M24	3	IVa										
	P-12	11	覆土上層		M24	3	IVa										
	P-12	18	覆土中層		M24	2	IVa										
	M25	12	IV	4	M25	1	IVa										
M26	7	IV	5	M26	1	IVa											
4-33		1	F-02	2	覆土		O23	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で、折返口縁である。口唇断面は丸形である。	折返口縁上とその直下に1条ずつ、LR原体による2条の縄線文が施される。地文はLR原体の斜行回転による横走縄文である。	にぶい黄橙 7.5YR7/4	横方向のナデ調整による	にぶい黄橙 7.5YR7/4	15
		2	F-03	1	覆土上面		O23	1	IVa	深鉢形土器	口縁部小片	口縁は平縁で折返口縁である。外反する。口唇断面は丸形である。	折返口縁上には貼り付け状のものも見られる。地文は無文である。	にぶい黄橙 7.5YR7/4	横方向のナデ調整による	浅黄橙 10YR8/3 褐灰 10YR5/1	6
		3	F-03	2	覆土		O23	2	IVa	小型深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で、小突起を伴う。口唇断面は丸形である。	RL横回転による斜行縄文を地文とし、縦位の蛇行沈線が施される。	にぶい黄橙 7.5YR7/3 褐灰 10YR5/1	横方向のナデ調整による	にぶい黄橙 10YR7/3 褐灰 10YR5/1	22
		3	F-03	3	覆土		O23	1	IVa	小型深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で、小突起を伴う。口唇断面は丸形である。	RL横回転による斜行縄文を地文とし、縦位の蛇行沈線が施される。	にぶい黄橙 7.5YR7/3 褐灰 10YR5/1	横方向のナデ調整による	にぶい黄橙 10YR7/3 褐灰 10YR5/1	22

表4-3 掲載土器一覧 [遺構] (6)

掲載挿図番号	図版	接合関係							諸特徴								
		挿図番号	グリッド遺構名	遺物番号	層位	掘り下げ回数	グリッド	点数	分類	器形	残存部位	形状	特徴(表面)	表面色調	特徴(内面)	内面色調	重量g
4-33	4-25	4	F-06	1	上層		N22	3	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で小さな山形突起を伴う。口唇断面はやや細く尖る。	地文は口縁部付近がLR原体の横回転による斜行縄文、下部がLR原体縦回転による斜行縄文で、幅の広い羽状を構成(手法B)	浅黄橙10YR8/3 灰黄褐10YR6/2	横方向のナデ調整による	にふい黄橙10YR7/4	69
		5	F-12	2	覆土上面		N21	2	IVa	深鉢形土器	胴部	急な立ち上がりの胴部片	地文は無文で、縦方向のナデ調整が見られる。	にふい黄橙10YR7/4 にふい赤褐5YR5/4	縦方向のナデ調整による	橙5YR6/6 褐灰7.5YR4/1	127
		6	N21	8	IV	2	N21	1	IVa	深鉢形土器	胴部	急な立ち上がりの胴部片	地文は無文で、縦方向のナデ調整が見られる。	にふい黄橙10YR7/4 にふい赤褐5YR5/4	縦方向のナデ調整による	橙5YR6/6 褐灰7.5YR4/1	127
		7	F-16	2	覆土上面		N20	11	IVa	深鉢形土器	底部	底面は平坦である。側面の立ち上がりは直立に近い	底面、側面ともに無文である。底面には調整痕が残る。	にふい黄橙10YR7/4 褐灰10YR5/1	横方向のナデ調整による	灰黄褐10YR6/2 褐灰10YR4/1	109
7	F-26	3	覆土		L25	1	IVa	深鉢形土器	胴部	平坦な側面で直立に近い。	RL原体の左巻き絡糸体による縦位の燃糸文である。	浅黄橙10YR8/4 褐灰10YR5/1	縦横方向のナデ調整が見られる	灰白10YR8/2 褐灰10YR5/1	28		

※「手法A・B」については、北埋調報312集『押上1遺跡』の分類に倣ったものである。

手法A：口縁部などに貼付帯が横環し、貼付帯上の縄文と胴部地文の縄文とが羽状縄文を構成する施文方法

手法B：口縁部で原体が横回転、胴部では同じ原体が縦回転するなどして、羽状縄文が構成される施文方法

表4-4 掲載石器一覧（遺構）(1)

掲載 挿図番号	図版	器種	グリッド 遺構名	遺物番号 (石器-種)	層位	グリッド	内訳 点数	部位・石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状態	諸特徴		
4-6		石鏃	H-1	1	1	覆土	O23	1	頁岩2	(3.13)	1.04	0.40	(1.0)	部分欠損	凸基有茎鏃 両面剥離 側縁直線 基部にアスファルト付着	
		石鏃	H-1	6	1	覆土	O23	1	頁岩2	(2.90)	1.37	0.46	(1.4)	部分欠損	凸基有茎鏃 両面剥離 側縁直線 基部にアスファルト付着	
		石鏃	H-1	46	1	覆土	O23	1	頁岩4	1.86	1.30	0.27	0.5	完存	平基有茎鏃 側縁直線 両面剥離 両 面広い剥離面 基部にアスファルト付 着	
		スクレイパー	H-1	46	2	覆土	O23	1	頁岩1	6.23	5.05	1.45	30.0	完存	削器 刃部外湾 背面縁辺調整 刃部 に使用光沢	
		スクレイパー	H-1	24	1	覆土上層	O23	1	頁岩1	7.50	7.12	2.15	75.0	完存	撥形 鋸歯縁 腹面縁辺調整 背面端 部部分調整	
		両面調整石器	H-1	50	1	覆土	O23	1	頁岩2	(10.60)	4.85	2.00	(80.0)	部分欠損	紡錘形 未成品の可能性あり 背面に 調整が多い	
		石斧	H-1	43		覆土	O23	1	凝灰岩	9.30	3.75	1.20	50.0	完存	石斧未成品 扁平な凝灰岩を剥離 基部端及び側面のみ研磨	
		石斧	H-1	51	1	覆土	O23	1	緑色泥岩	6.98	3.95	1.50	70.0	完存	撥形 全面研磨 表裏面一部敲打痕 弧状の刃部 一部剥落 断面楕円形	
		石斧	H-1	3	1	覆土	O24	1	緑色泥岩	(3.85)	(2.94)	(1.50)	(20.0)	部分	撥形 基部破片 全面研磨	
		10		台石・石皿	H-1	88		覆土中層	H-1(P-3)	O23	1	安山岩	(22.20)	(26.60)	(10.40)	(5160.0)
P-03	8					覆土	P23	2								
P-03	21					覆土中層	P23	1								
Q22	17				1	IV	0	Q22	1							
O24	29					IV	4	O24	1							
4-22	4-26	石鏃	P-03	5		覆土	P23	1	頁岩2	(3.56)	1.20	0.60	(1.9)	先端部分 欠損	平基有茎鏃 両面剥離 側縁直線	
		石鏃	P-12	3	1	IV	5	M24	1	頁岩2	2.81	1.22	0.40	1.1	完存	凸基有茎鏃 両面剥離 側縁直線 腹 面剥落
		石鏃	P-09	8	1	覆土上層	N22	1	頁岩2(青灰色)	3.85	1.84	1.25	5.0	完存	尖基 両面剥離 側縁外湾 腹面に大 きな剥離面	
		スクレイパー	P-12	3	2	IV	5	M24	1	頁岩2	5.90	4.30	0.85	15.0	完存	削器 刃部外湾 腹面右辺 背面右辺 を調整
		スクレイパー	P-09	20		覆土中層	N22	1	頁岩2	7.30	7.15	2.40	75.0	完存	削器 刃部直線～内湾 背面右辺 腹 面右辺端部に調整 原石面残る	
		スクレイパー	P-09	1	1	覆土	N22	1	頁岩1	7.35	3.90	1.10	25.0	完存	削器 刃部直線的 腹面左右片調整	
		たたき石	P-03	26		覆土下層	P23	1	安山岩	10.30	19.80	6.70	1760.0	完存	三角柱状鏃側縁1か所に敲打痕 断面 三角形 側面被熱	
		たたき石	P-12	10	1	覆土下層	M24	1	砂岩	(9.20)	7.50	3.28	255.0	部分	扁平な楕円鏃側縁2か所、末端縁2か所に 敲打痕	
		たたき石 石鏃	P-12	21	1	覆土中層	M24	1	安山岩	12.70	8.30	4.10	635.0	完存	扁平な楕円鏃の小口両端に打ち欠き 打ち欠き部を敲打	
		たたき石	P-13	6	1	IV	P22	1	砂岩	(6.60)	7.94	6.25	405.0	部分	短冊角広範囲に敲打痕1か所 被熱あ り	
		たたき石	P-17	10	1	覆土Ⅲ層	N25	1	砂岩	13.35	9.15	6.05	1045.0	完存	長鏃末端の広範囲1か所 正面広範囲2 か所 側縁小範囲4か所に敲打痕	
4-23		石斧	P-09	12	1	覆土上層	N22	1	黒色片岩	10.04	3.70	1.95	130.0	完存	撥形 両刃 弧状の刃部 上部部剥落	
		石斧	P-09	12	2	覆土上層	N22	1	緑色泥岩	7.60	4.00	2.25	190.0	完存	未成品 撥形 全面に敲打痕 裏面の 一部と上端面に研磨面 刃部剥落	
		石斧	P-09	12	3	覆土上層	N22	1	緑色泥岩	9.76	3.60	1.90	105.0	完存	短冊形 全面に研磨 断面隅丸長方形 両刃 刃部偏刃	
		石斧	P-09	39		覆土上面	N22	1	緑色片岩	8.30	3.12	1.30	65.0	完存	撥形 両刃 弧状の刃部 全面研磨 断面隅丸長方形	
		石斧	P-09	40		覆土上面	N22	1	砂岩	9.80	4.21	2.25	145.0	完存	撥形 両刃 弧状の刃部 全面に敲打 痕、表裏一部に研磨 断面隅丸長方形	
		石斧	P-09	29	1	覆土中層	N22	1	緑色泥岩	(6.10)	(3.60)	(1.70)	(60.0)	部分	撥形 基部破片 全面研磨 断面楕円 形	
		たたき石	P-09	51		底面付近	N22	1	安山岩	7.25	5.93	1.94	105.0	完存	扁平な楕円鏃側縁2か所、正面1か所に敲 打痕	
4-24	4-27	石核	P-12	9	5	覆土下層	M24	1	頁岩1	8.48	9.50	5.15	455.0	-	サイコロ状 打面・作業面を入れ替え た剥離面	

表4-4 掲載石器一覧（遺構）(2)

掲載 挿図番号	図版	器種	グリッド 遺構名	遺物番号 (石器種)	層位	グリッド	内訳 点数	部位・石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状態	諸特徴		
4-24	2	石核	P-17	9	7	覆土Ⅲ層	N25	1	頁岩2	12.30	9.80	6.00	605.0	-	サイコロ状 脩面・作業面を入れ替えた剥離面	
4-25	1	加工痕のある礫	P-01	11		Ⅳ	P22	1	花崗閃緑岩	90.9	33.9	16	71000.0	完存	大型の扁平長礫 嵌入部に沿った剥落状の部分あり 表裏に平滑面(すり面)あり 土坑を特徴づける出土状況	
4-26	1	台石・石皿	P-02	2		覆土	Q24	1	安山岩	(24.20)	(22.60)	(9.60)	(5795.0)	部分	大型扁平礫片 土坑埋設礫 明確なすり面はわずか、土坑を特徴づける出土状況 被熱あり	
	2	台石・石皿	P-02	1		覆土	Q24	1	砂岩	(14.90)	(18.70)	(6.80)	(2375.0)	半分片	扁平円礫半分片 正面中央にすり面出土状況 P-17-10-2と接合して完形	
	3	加工痕のある礫	P-02	5		覆土	Q24	1	安山岩	30.20	11.15	9.65	4420.0	完存	遺構に関連があると思われる角柱状の礫 正面、側面に2か所の平滑面あり	
	4	台石・石皿	P-04	5		覆土	Q21	1	安山岩	23.20	19.80	9.30	5705.0	完存	扁平円礫正面、裏面中央に平滑面 土坑を特徴づける出土状況	
	5	4-27	台石・石皿	P-17	10	2	覆土Ⅲ層	N25	1	安山岩	(11.30)	(17.00)	(6.32)	(1310.0)	半分片	扁平円礫半分片 正面中央にすり面出土状況 P-2-1と接合して完形
4-27	1	加工痕のある礫	P-09	49		覆土中層	N22	1	花崗閃緑岩	18.45	23.30	19.15	13460.0	完存	円錐台形の大型礫 上底と下底に平滑面、すり面の可能性 側面の角部に剥離痕 土坑内に放り込まれた状態で出土	
	2	台石・石皿	P-10	16		覆土	M21	1	安山岩	(19.86)	(16.40)	(9.70)	3625.0	部分	扁平円礫片 正面、裏面中央に平滑面	
	3	台石・石皿	P-18	1	1	覆土	Q23	2	安山岩	25.60	20.10	6.80	5110.0	完存	扁平円礫正面、裏面中央に平滑面	
4-33	8	石鏃	F-03	1	1	覆土上面	O23	1	頁岩3	(2.07)	1.29	0.30	(0.6)	部分欠損	平基有茎鏃 先端部欠損 両面剥離 側縁直線	
	9	4-25	両面調整石器	F-03	1	2	覆土上面	O23	1	頁岩2	(4.56)	2.12	1.20	(10.0)	部分	背面全面及び腹面周縁に剥離調整 直線的な刃縁から石楯の一部の可能性あり 腹背面の一部に炭化物付着
	10	石鏃	F-04	1	1	覆土上層	O22	1	メノウ質頁岩	2.80	1.30	0.60	1.7	完存	平基有茎鏃 両面剥離 側縁やや外湾	
	11	スクレイパー	F-25	1		覆土	N23	1	頁岩1	5.34	4.54	1.50	25.0	完存	削器 刃部直線的 腹面左辺に調整 原石面残る	

※石材の頁岩については、北埋調報305集『釜谷8遺跡』の分類に倣い、一部細分を記載したところがある。

頁岩1 灰色～黒を基調とし、稲妻を思わせる白い筋状の線を伴うもの。もしくは灰色単色のもの。

頁岩2 灰色～チョコレート色の2色以上の色彩を持つもの。もしくは灰色単色のもの。

頁岩3 黒色を呈し、他の色が混じらないもの。

頁岩4 キャラメル色もしくは白色の単色を基調とするもの。

また、その他、「水墨」「オリーブ」など色調表現を追記したものもある。

第5章 遺物

1 遺物の概要 (表1-2 表5-1)

本遺跡から出土した遺物は50,250点である。遺構出土の遺物が6,042点、包含層出土の遺物が44,208点である。遺構から出土した遺物については第4章に掲載した。本章では遺物包含層出土の土器、石器群を掲載した。

土器・土製品は33,107点出土した。この内、遺構出土は4,174点、包含層出土は28,933点である。時期別ではIV群a類が圧倒的で32,626点であり、遺構出土は全てIV群a類である。その他IV群c類が139点で、V群が5点である。土製品は337点で、ほとんどが焼成粘土塊である。

石器は11,534点で、遺構が1,001点、包含層が10,533点である。石製品は包含層から3点出土したのみである。礫は5,606点で、遺構が867点、包含層が4,739点である。

石器は剥片石器では石鏃、石錐、つまみ付きナイフ、篋状石器、スクレイパー、両面調整石器、Rフレイク、Uフレイク、剥片、石核、原石が出土した。礫石器では石斧、たたき石、すり石、扁平打製石器、砥石が出土した。遺構出土のみではあるが、花崗閃緑岩製の加工痕のある石器も出土した。

器種別ではスクレイパーとたたき石、石核が多く出土した。また、剥片等については接合作業を行い、964点の剥片石器類が接合した。

礫は石材及び完形の礫と礫片とに分類した。石材には頁岩、泥岩、安山岩などが多く見られた。完形の礫の中には扁平楕円礫が多く、石器素材として利用された可能性が考えられた。また礫片については大きさで分類した。最大長10cmを超えるものについて接合作業を行い、接合資料を得ることができた。

2 土器 (図5-1～10 表5-2)

(1) IV群a類 (図5-1～10 表5-2 図版5-1～8)

この時期の土器に特徴的な文様構成に基づいて分類し代表的なものを掲載した。貼付帯を特徴とするもの、折返口縁を特徴とするもの、縄線文を特徴とするもの、横走縄文など縄文を特徴とするもの、網目状撚糸文など撚糸文を特徴とするもの、蛇行沈線文を特徴とするもの、無文を特徴とするもの、入組文など直線や曲線による沈線文を特徴とするもの、円形貼付文、刺突文を特徴とするものなどである。また、底部片が多く出土したことから特徴あるものを抜き出して掲載した。

【貼付帯を特徴とする土器】 (図5-1-1～10 表5-2 図版5-1)

図5-1-1～10は口縁部に貼付帯のある土器群である。並行する2条の貼付帯が横走し、貼付帯間は無文になるという特徴がある。1～4は貼付帯上に斜行縄文が施され、胴部の斜行縄文と羽状縄文を構成する(手法A※註1)。5は並行する2条の貼付帯を斜位の貼付帯によって結ぶ。6は貼付帯上に網目状撚糸文が施されている。7～10は貼付帯上に縄線文が施されるものである。10は横走する貼付帯間を縦位の貼付帯によって結ぶ。

【折返口縁を特徴とする土器】 (図5-1-11～22 表5-2 図版5-1)

図5-1-11～22は折返口縁を主な特徴とする土器群の口縁部破片である。

11～19は折返口縁上が無文である。11～14は斜行縄文。15、16は縦位撚糸文、17、18は沈線文、19は無文が地文である。20は斜行縄文地に折返口縁上にも斜行縄文が施されるものである。21、22は折返口縁状に輪積み痕を残したと考えられるもので、21は羽状縄文地に2段分の輪積みを無文帯にして

いる。22は無文地の深鉢形土器で、折返口縁をそのまま無文帯にしているのが特徴である。

【縄線文を特徴とする土器】(図5-2 表5-2 図版5-1・2)

図5-2-1～28は縄線文を主な特徴とする土器片である。1～5は口縁下に1条の縄線を巡らす口縁部破片である。1、4、5は羽状縄文、3は横走縄文、2は無文を地文とする。6～15は複数の縄線を伴う口縁部破片である。12は3条の縄線で、11、12、15は横走縄文を地文とする。16は1条の縄線が見られる胴部破片である。17は折返口縁に縄線を伴う口縁部破片である。18～26は縦位または斜位の縄線を伴う口縁部破片である。18は縦位、19～21は斜位の縄線が2条並行に施される。22～24は口縁直下に横走する縄線を伴わない、モール状の縄線文を特徴とする口縁部破片である。25、26は横走する縄線とモール状の縄線が組み合わされ、複雑な文様になるものである。27は並行する2条の縄線間に円形刺突列を施した口縁部破片で、この組み合わせが上下2か所見られる。28は胴部破片で横走縄文地に沈線文のように縄線を縦横に展開しているのが特徴である。

【縄文を特徴とする土器】(図5-3・4 表5-2 図版5-2・3・4)

図5-3-1～12、5-4-1～13は縄文を主体とする土器群である。3-1～10は平縁の口縁部破片で口縁直下の斜行縄文と胴部辺の斜行縄文の条が逆行することで羽状縄文を構成するものである(手法B※註2)。5、6、7は胴部の斜行縄文が横走縄文である。11は口縁部が幅の広い無文帯となっているが、無文帯下にあたる胴部では、手法Bによる羽状縄文が見られる。また、この土器はN20、N24、O20、P25、Q24の広範囲なグリッド上層出土片8点で復元されたものである。12は胴～底部片の復原個体で、条の方向が同じものの胴上半部が撚糸文、下半部が斜行縄文という組み合わせが特徴である。また、この土器はN26とO21という離れたグリッド出土の土器片16点が接合したものである。4-1～12は口縁部に斜行縄文を特徴とする土器である。1は横走で山形の突起が見られる。2はN24出土の土器片11点が接合した復原個体である。口縁～底部までを復元できた、数少ない内の一つである。3は口唇上にも縄文が見られる。5は縦位縄文との組み合わせ、7は口唇上に縄文が見られ、9は山形の突起が見られる。12は縦位の縄文が施される。13は胴下半部～底部に至る復原個体である。N24、O25出土の44点が接合したものである。

【撚糸文を特徴とする土器】(図5-5 表5-2 図版5-4)

図5-5-1～16は撚糸文を特徴とする土器群である。1～13は網目状撚糸文を特徴とするものである。1、2は同一個体と思われる。1、3は網目状撚糸文を地文とする折返口縁である。1は折返部にも撚糸文、3は折返部が無文である。4は横走沈線を伴う口縁部で網目状撚糸文を地文としている。6～8は口縁直下から網目状撚糸文が施されるものである。8～12は網目が乱雑なもので菱形の格子目が崩れている。8、9、10は同一個体と思われ、8は口縁部、9、10は胴部である。11は口縁部で折返状の無文帯である。12は胴部片である。13は底部片で粗い網目状撚糸文が地文である。

14～16は縦位の撚糸文を特徴とするものである。14は底部から胴部下半の復原個体で、L23、M22、M23出土片が接合したものである。胴部から底部に至るまで縦位の撚糸文が施される。15は胴部片、16は口縁部片である。

【蛇行沈線を特徴とする土器】(図5-6 表5-2 図版5-5)

図5-6-1～5は蛇行沈線を主な特徴とするものである。1、2は口縁部破片で、地文は横走縄文で、縦位の蛇行沈線が垂下する。2は口縁にU字状の突起を伴うもので、口唇上にも縄文が施される。3、4は横走縄文を地文とする胴部片である。5は無文地で口縁の幅の広い無文帯下に1条の横走沈線から3本1組の蛇行沈線が垂下する。

【無文を特徴とする土器】(図5-6 表5-2 図版5-5)

図5-6-6～10は無文地を特徴とする土器群である。6、7は口縁部が大きく外反するもので、7は頸部に横走沈線も見られる。8は輪積痕を明瞭に残す口縁部片である。9は小型深鉢形土器で、O23、P23出土土器片16点が接合した復原個体である。底部が失われている。10は胴部片で橋状把手を特徴とする。

【沈線文を特徴とする土器】(図5-7・8・9 表5-2 図版5-5・6・7)

図5-7は曲線等の沈線文を特徴とする土器群である。7-1～11は無文地に曲線主体の沈線文が描かれるものである。1～6は横走沈線に曲線主体の入組文などが加えられたものである。1、2は口縁が外反する器形である。7～10は三角形主体の曲線的な沈線文を特徴とするもので、7は山形の口縁に細かい沈線、8～10は太い沈線で三角形が重複して描かれたものである。11は胴部片で渦巻文が描かれたものである。12～16は縄文を地文に曲線的な沈線文が描かれるものである。12は横走沈線に半円状の沈線がモール状に描かれるもので、口縁が大きく外反する器形である。13は細い沈線によって2本1組で幾重にも弧が描かれるものである。小突起を伴う口縁に沿って2条の縄線文も見られる。14は横走縄文地に曲線的な入組文が描かれたものである。口縁は幅の狭い無文帯で、やや外反する。15、16は山形の突起のある口縁部破片で横走沈線に、曲線主体の沈線が加えられるものである。

図5-8は直線主体の沈線文を特徴とする土器群である。1～7はクランクまたは方形入組文と呼ばれる文様が主体である。1は大型の深鉢形土器で、P21IV層上層でまとまって出土したものである。2、3、7は口縁部に乙字状または波状の沈線を伴う。4は深鉢形土器の口縁部破片で、口縁付近では並行して2条の沈線が横走するが、胴部付近にクランク状に入り組んだ沈線が見られる。

8～13は乙字状の沈線が主体のもので、8、9は縄文地、10～13は無文地である。10、11は曲線主体の入組文との組み合わせ、12、13は横走沈線との組み合わせである。

14～18は「く」字状または不等号(><)状が組み合う沈線文である。15は並行沈線間の縄文地に描かれたもの、16～18は菱形状の組み合わせで、16は山形口縁に沿ったもの、17、18は並行沈線間に並ぶものである。19は鋸歯状文で並行沈線間に配される。20は底部片で、多重の横走沈線が巡る。

図5-9-1～6は帯縄文と呼ばれる並行する沈線間に充填された縄文を特徴とする土器群である。1～4は口縁部破片で、1は方形文、2はカニのはさみ状の文様、3は工字文、4は横走する並行沈線文である。5は胴部破片で、曲線主体の入組文が描かれる。6は底部片で胴部から底面にまで曲線主体の沈線文様が描かれている。

【円形貼付文を特徴とする土器】(図5-9-7～14 表5-2 図版5-7)

図5-9-7～14は円形の刺突及び貼付を特徴とする土器群である。7～9は円形刺突文を特徴とするもので、8は口唇上にも施される。10は縄端圧痕を横走沈線間に配列するものである。11から13は円形の貼付に円形の刺突が加えられるものである。11は縦に3列、13は2列ならぶ。12はさらに縄線文、口唇縄文に円形刺突文が加えられる。14は貼瘤文で、円形の貼付に縦の刻みが加えられる。

【ミニチュア土器】(図5-9-15～17 表5-2 図版5-7)

図5-15～17はミニチュア土器の一部と考えられるものである。15は壺形土器の口縁部片、16は鉢形土器の口縁～胴部片、17は土器の装飾の一部とも思われる。

【IV群a類以外の土器】(図5-9-18～21 表5-2 図版5-7)

図5-9-18～21はIV群a類以外の土器である。18、19はIV群c類で、縄文時代後期末のものである。19は大型の壺形土器で約4分の1の残存であるが、調査区北東部のO12、包含層からの一括出土である。20、21は並行する多重の沈線が特徴でV群、縄文時代晩期のもと思われる。

【特徴のある土器底部】(図5-10 表5-2 図版5-8)

特徴のある土器の底部破片を抽出して掲載した。

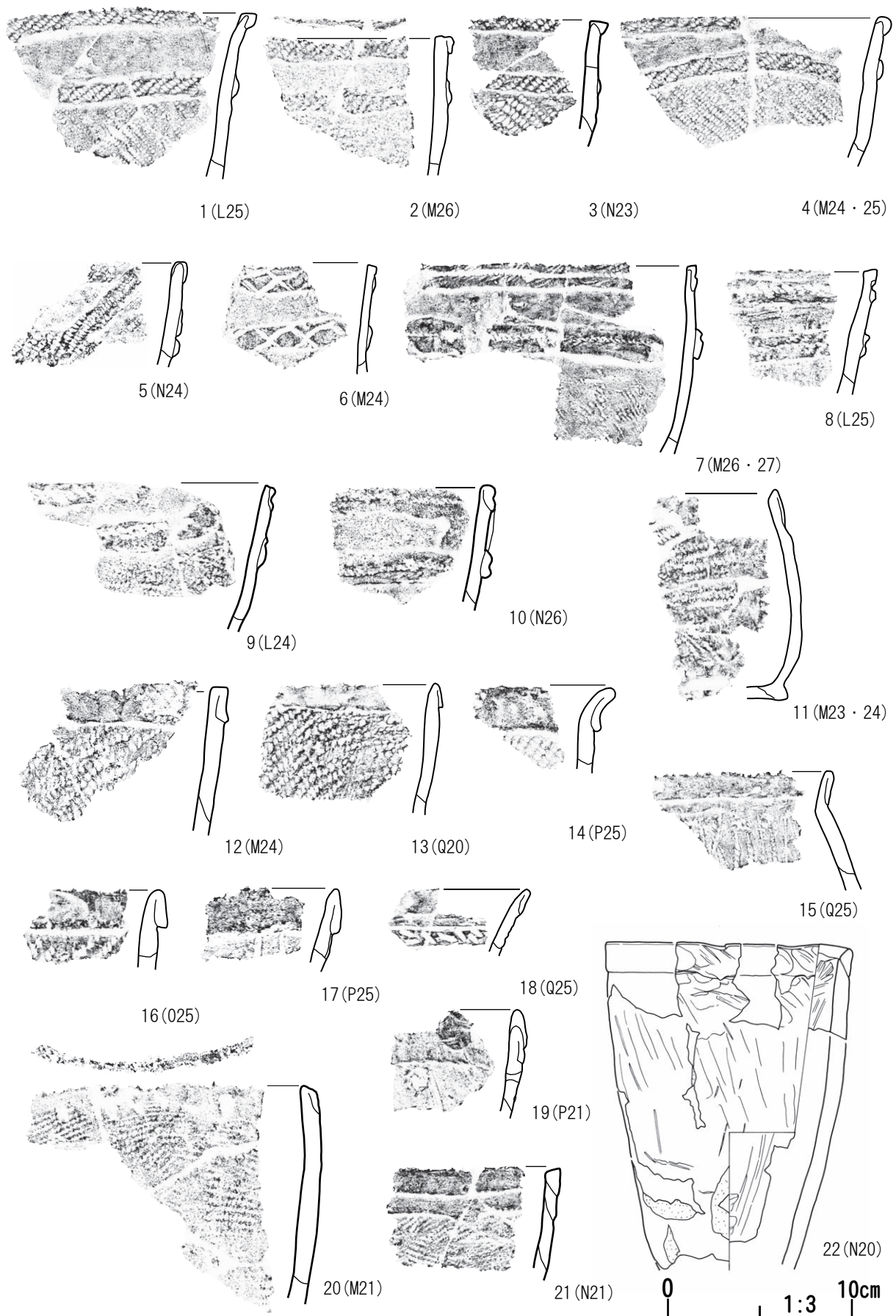


図5-1 土器(1) 貼付帯及び折返口縁を特徴とする土器

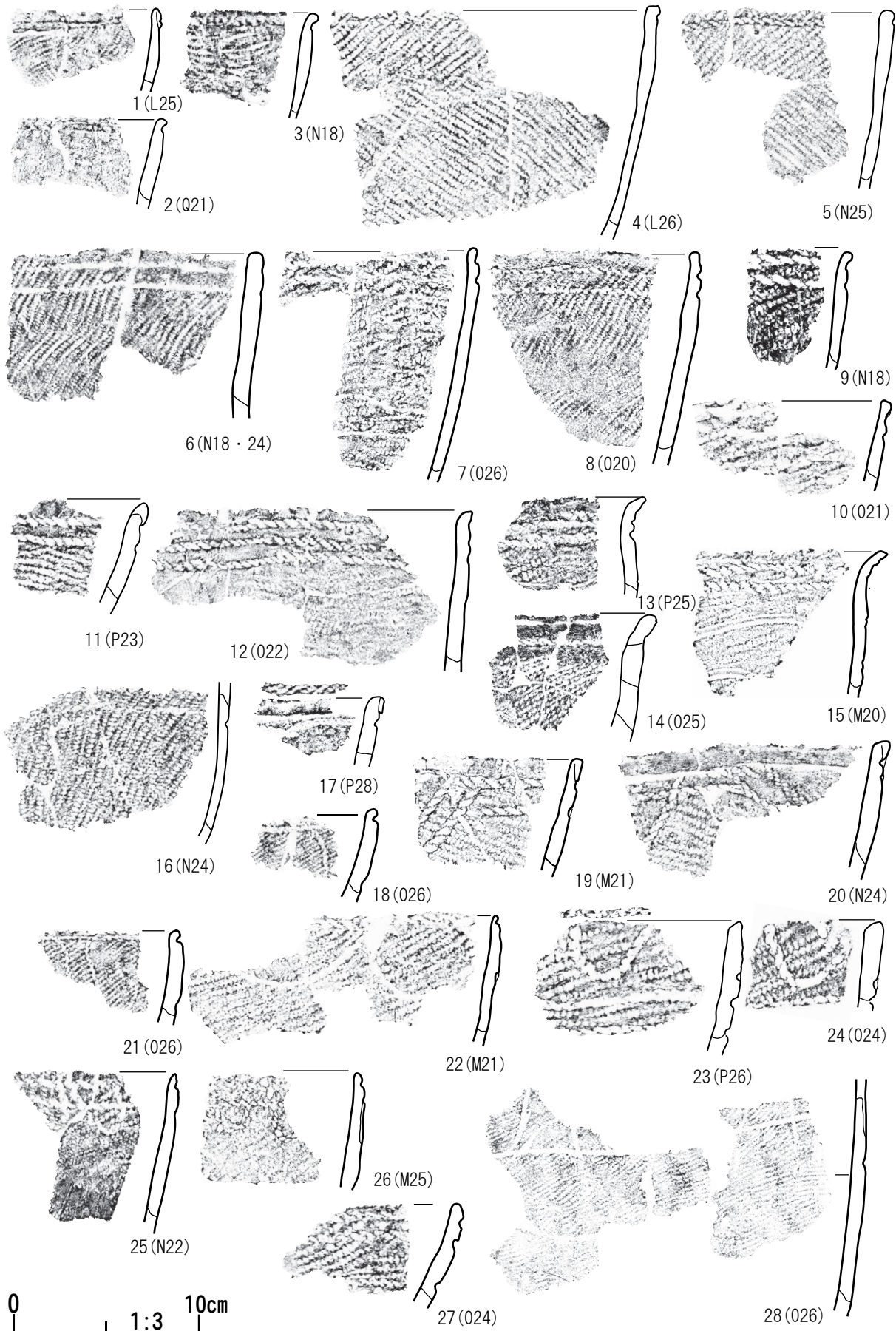


図5-2 土器(2) 縄線文を特徴とする土器

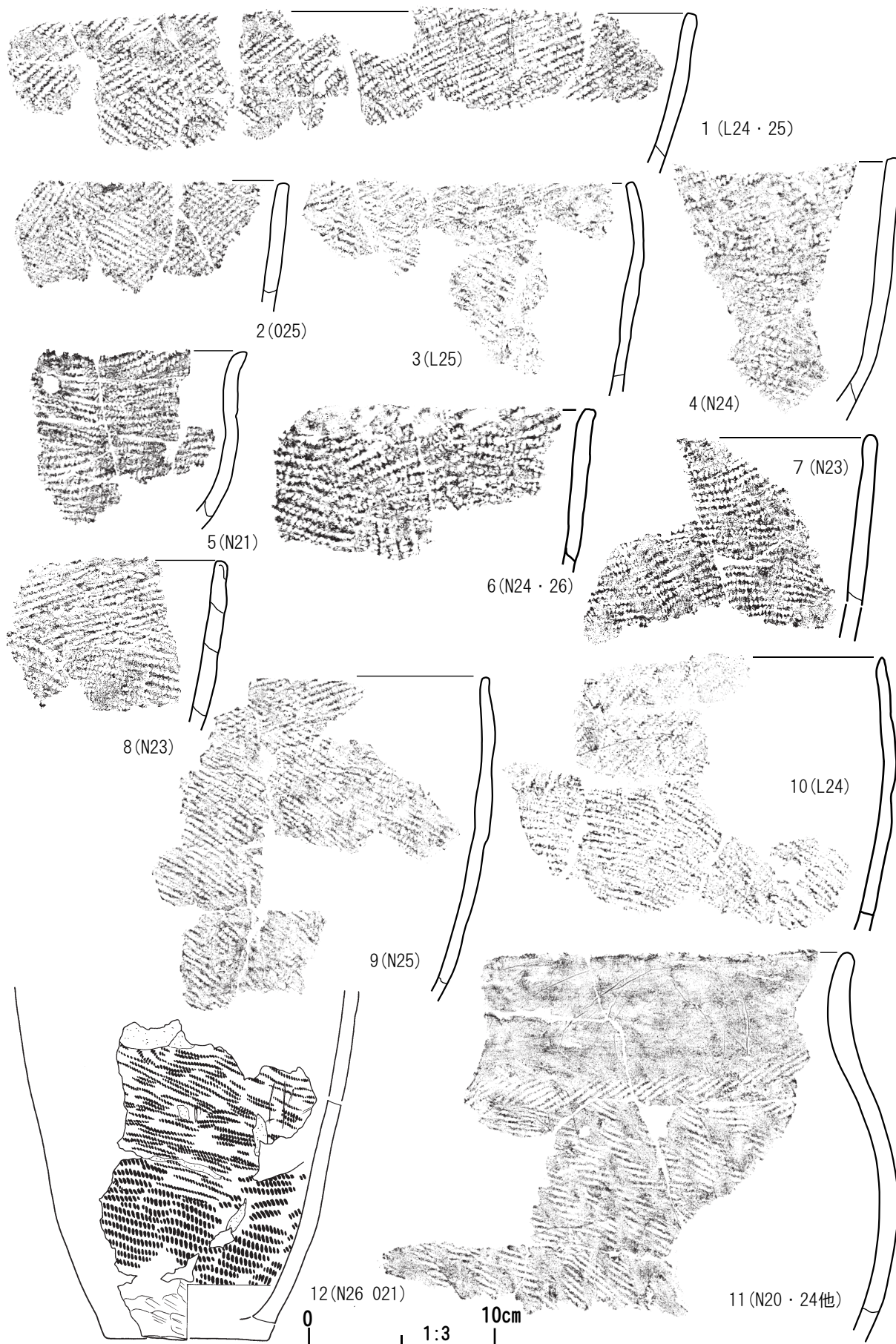


図5-3 土器(3) 縄文を特徴とする土器(1)

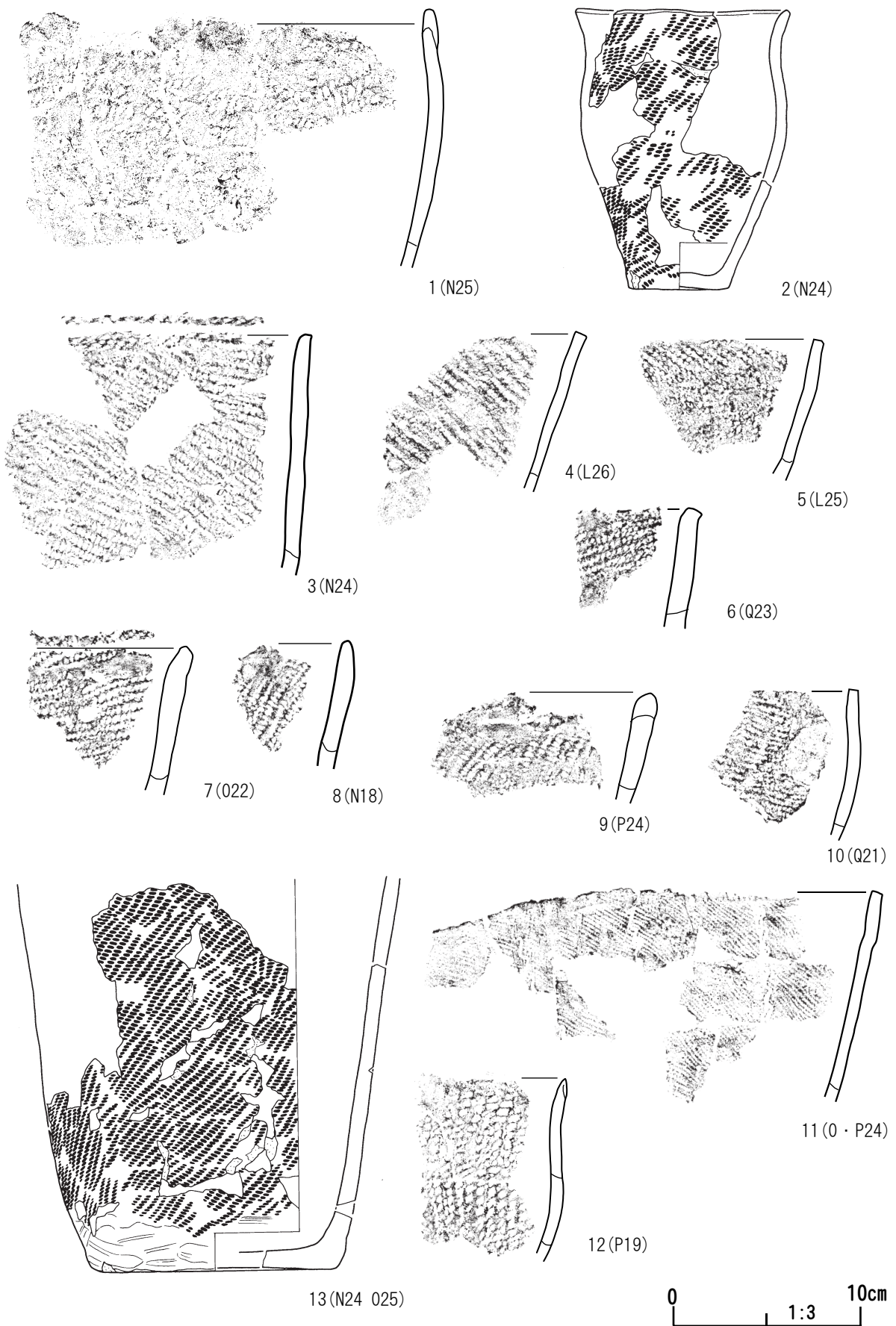


図5-4 土器(4) 縄文を特徴とする土器(2)

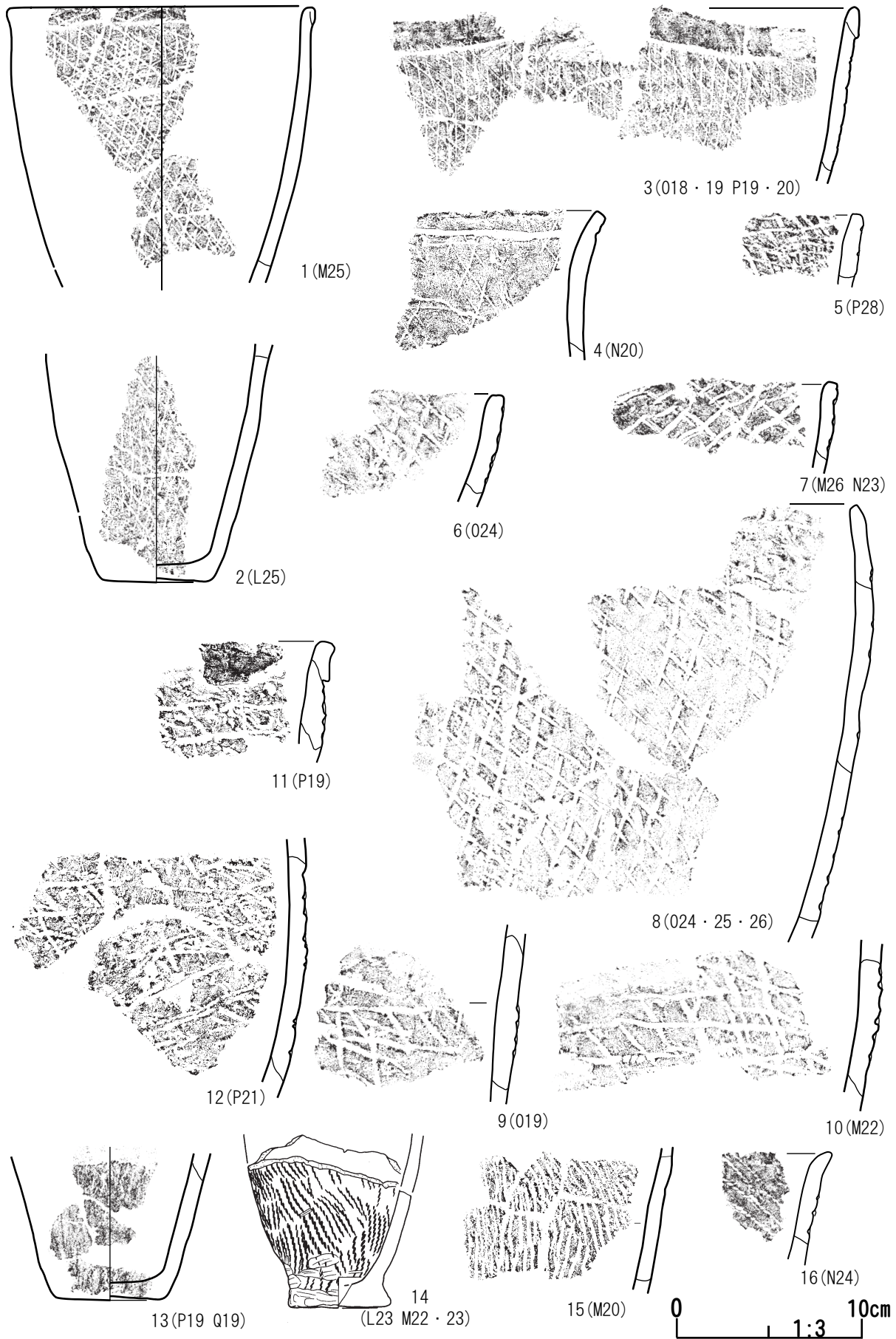


図5-5 土器(5) 燃糸文を特徴とする土器

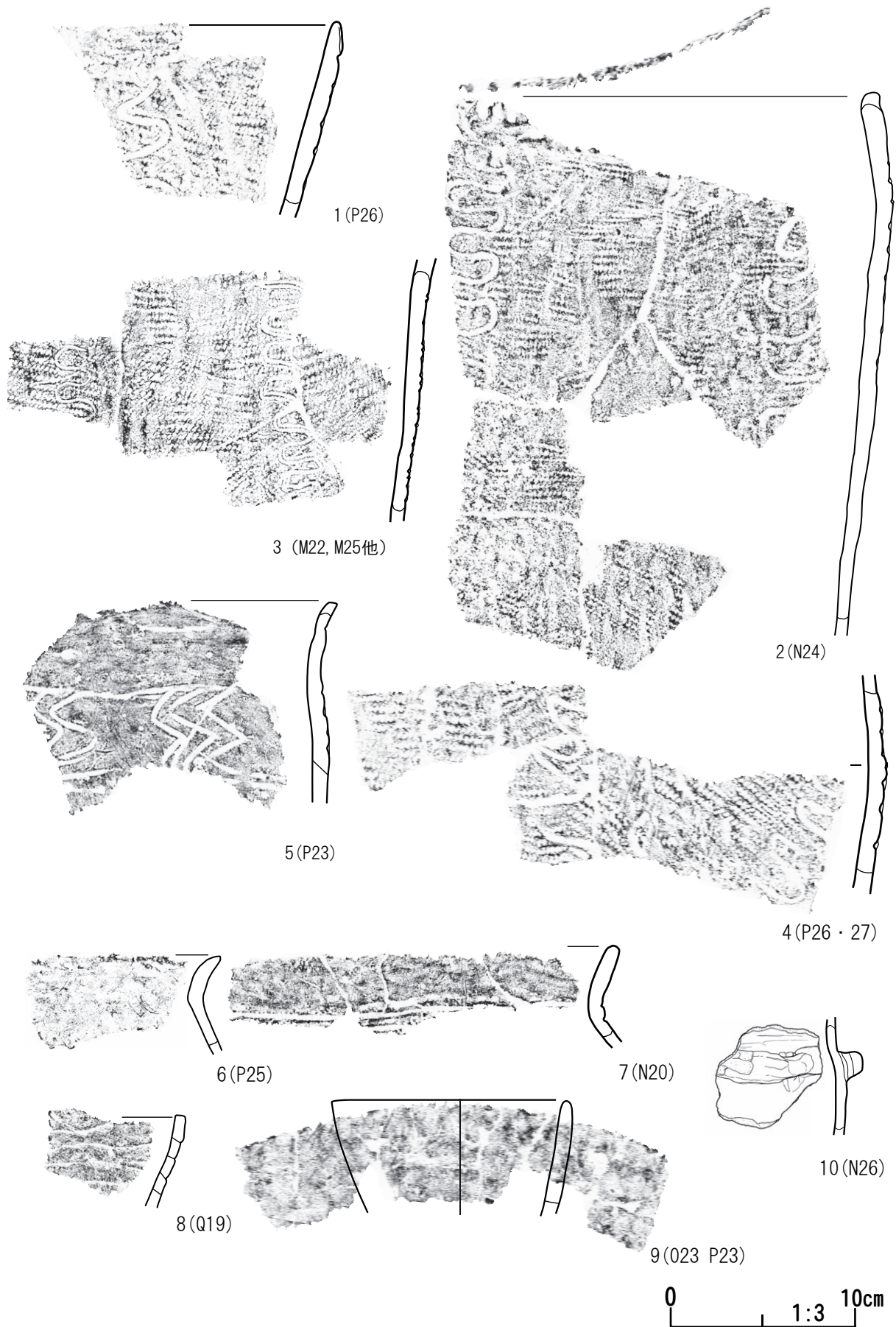


図5-6 土器(6) 蛇行沈線及び無文を特徴とする土器

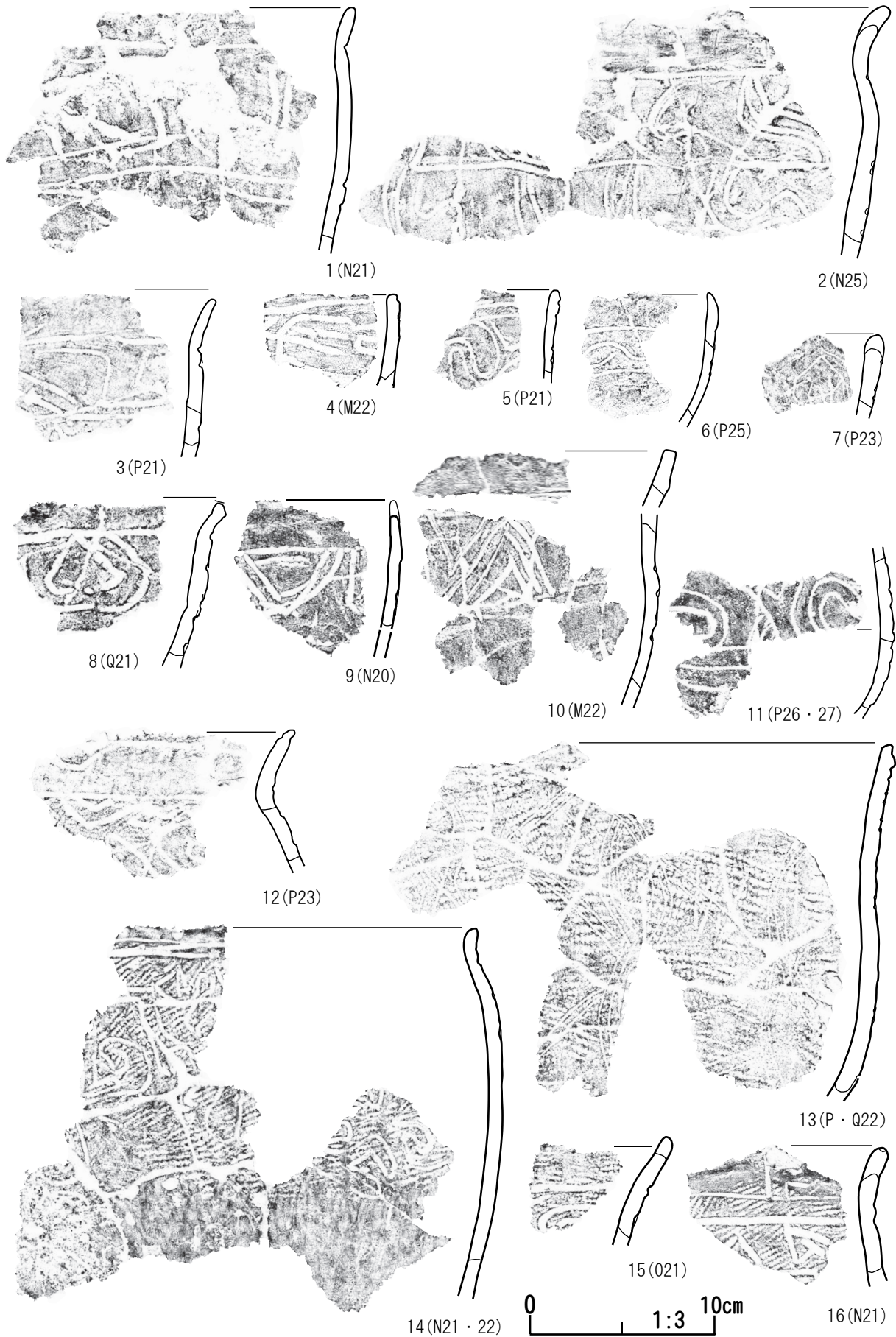


図5-7 土器(7) 沈線文を特徴とする土器(1)

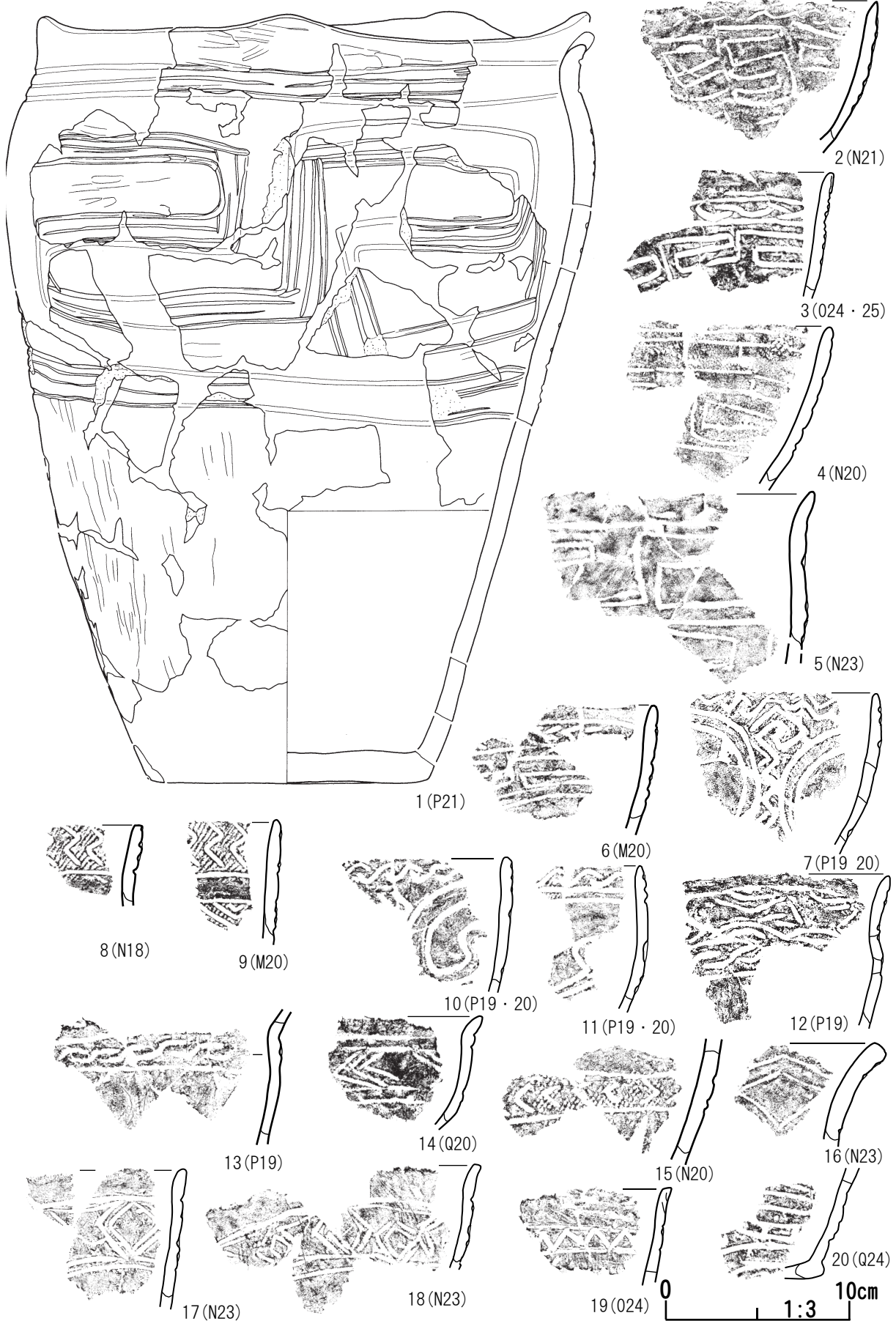


図5-8 土器(8) 沈線文を特徴とする土器(2)

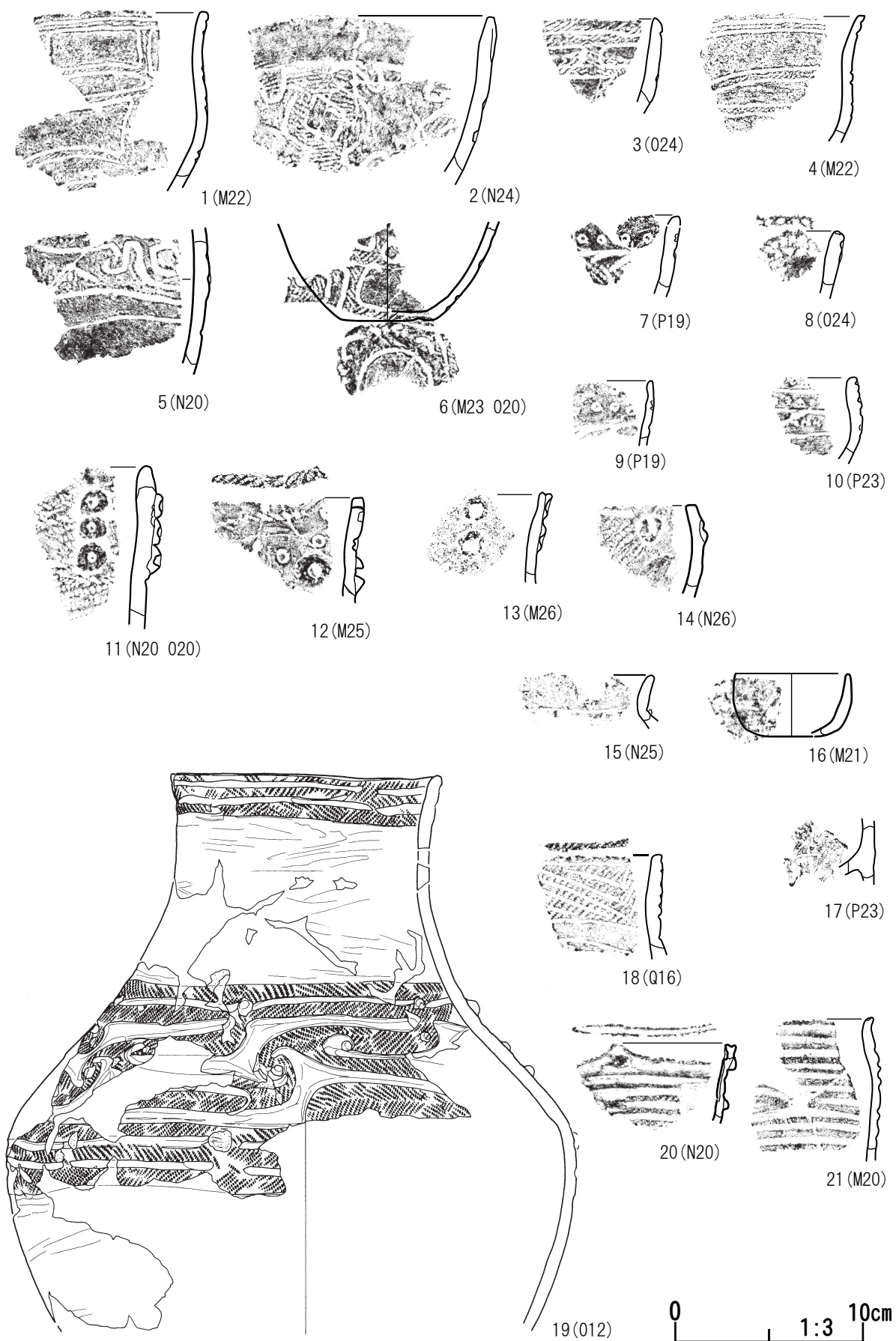


図5-9 土器(9) 沈線文を特徴とする土器(3)ほか

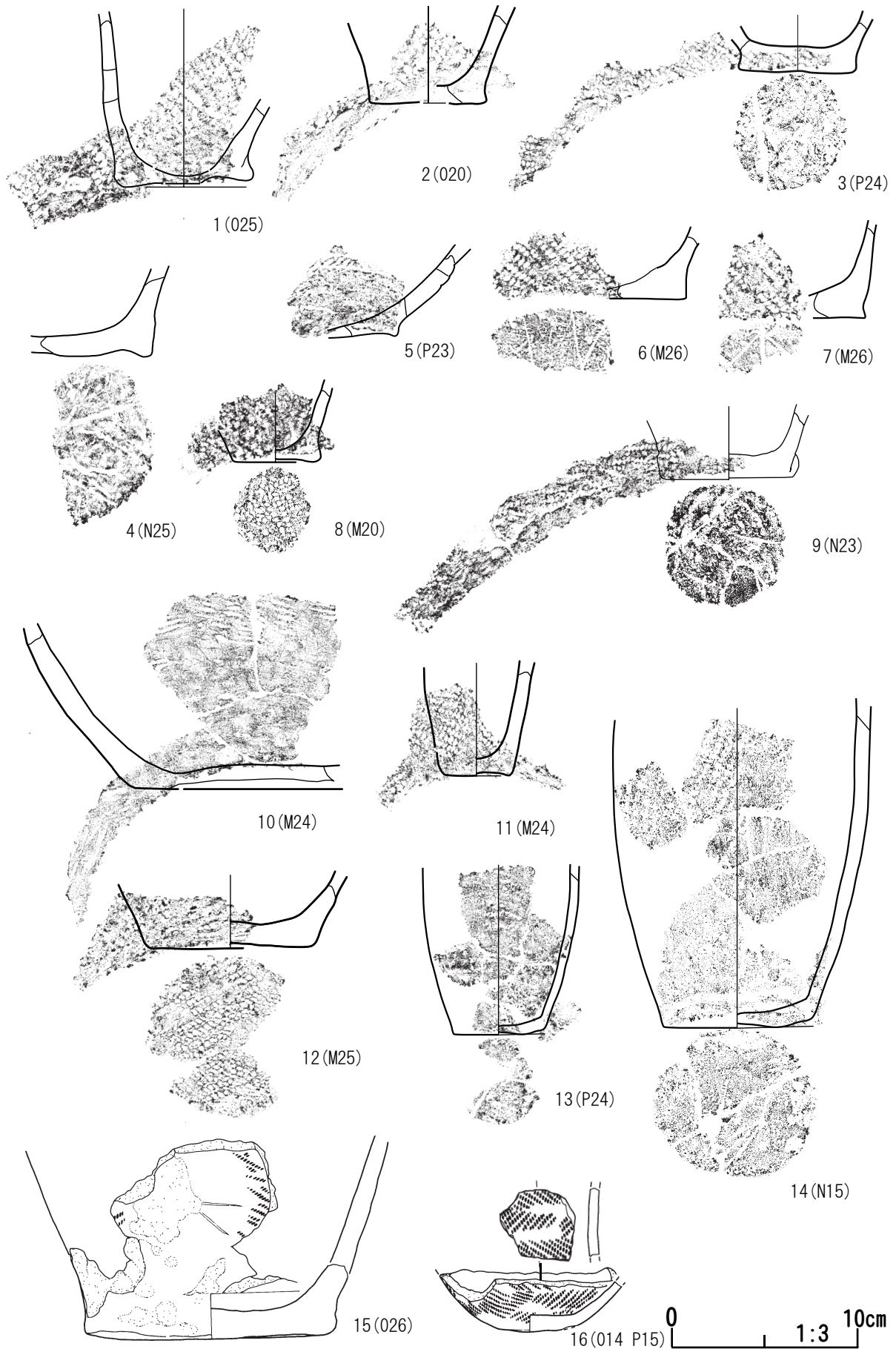


図5-10 土器(10) 特徴のある土器底部

図5-10-1～9は底部底面が張り出す器形のものである。4、6、7は底部底面に葉脈状の圧痕が見られる。8は底面に縄文が見られる。

10～14は底面が張り出すことなく、胴部が立ち上がるものである。10、12は器壁の立ち上がりが大きく広がるもの、11、13、14は器壁がほぼ垂直に立ち上がるものである。12は底面に斜行縄文が施される。

15は大型深鉢形土器の底部と思われる。器壁の立ち上がりが底面から短い垂直部分を経て、やや広がるものである。底面と粘土紐との接合部を見ることができる。

16は縄文時代後期後葉のもので、ほぼ丸底である。打ち欠きと思われる人為的な割れ口が残り、胴部片1点が接合した。

3 石器 (図5-11～25 表5-3 図版5-8～14)

石鏃 (図5-11-1～24 表5-3 図版5-8)

石鏃は36点出土した。遺構出土が8点で、包含層出土が28点である。出土分布はほぼ調査区中央部分に集中している。

図5-11-1～14は凸基有茎鏃で最も数が多い。15～20は平基有茎鏃である。21、22は尖基である。23は円基のものである。24は凹基無茎鏃である。1、13、16、20、21、24にはアスファルトの付着が見られた。

石錐 (図5-11-25～33、5-12-1～4 表5-3 図版5-9)

石錐は12点出土した。すべて包含層出土のもので、出土分布は調査区中央部分に集中している。10点について、石鏃から転用されたもの、体部と機能部を調整したもの、機能部のみ調整したものに分類して掲載した。

図5-11-25～30は石鏃から転用されたと考えられるものである。有茎鏃からの転用で、先端部が摩耗し丸みを帯びている。25、26の基部、茎部にはアスファルトと思われる付着が見られる。25～29は頁岩製で、30のみ黒曜石製である。

31～33は体部と機能部を調整したものである。31、32は紡錘形、33は両面調整石器素材のものとも考えられる。

図5-12-1～4は機能部のみを調整したもので、刃部が内湾するスクレイパーを素材に機能部を作出したものと考えられる。

つまみ付きナイフ (図5-12-5～7 表5-3 図版5-9)

つまみ付きナイフは4点出土した。包含層出土のもののみで出土分布は疎らである。その内3点を図示した。すべて頁岩製のものである。

図5-12-5は縦型で、腹面の縁辺に不連続な剥離が見られ、つまみ部分の挟りも緩やかである。6、7は斜め型とされるもので、6は長さ1.6cmの小型のものである。7はナイフ両端の形状から石錐としての使用も考えられる。いずれも背腹両面に細かな剥離調整が施されている。

篋状石器 (図5-17-1～8 表5-3 図版5-10・11)

篋状石器は7点出土した。包含層のみの出土で、すべてを掲載した。すべて頁岩製のものである。

図5-17-1～5は撥形で三角形である。4は腹背両面ともにほとんど剥片素材のままであり、縁辺に不連続な剥離が施されるのみである。未成品またはスクレイパーとして利用された可能性も考えられる。6は撥形で洋梨形である。形状から石槍などから転用されたものと考えられる。全面に細かな剥離調整が施されている。石器下部の撥が広がる部分を中心に強い使用光沢が見られる。7、8は撥形で短冊形である

スクレイパー (図5-12-8~13、図5-13~16 表5-3 図版5-9・10)

スクレイパーは103点出土した。定形石器では最も多い。遺構出土が7点、包含層が96点である。北東部を含めた調査区全体に分布するが、最も多いM25の16点を中心に同心円状に分布する傾向がある。円形のもの、刃部が外湾するもの、刃部が直線的なもの、横長剥片を素材としているものの4種に分けて掲載した。

図5-12-8~13の6点は円形のスクレイパーである。8、9は長さ3cmに満たない小型のもので縦長のものである。10~13は長さ3~4cmで、横長のものである。

図5-13-1~10、図5-14-1~7は削器で、刃部が外湾するものである。13-1~10は楕円形の素材、14-1-7は縦長の素材によるものである。5-13-4、14-1・3には使用光沢が見られる。

図5-14-7~11、5-15-1~3は刃部が直線的なものである。14-7には外湾する刃部もある。14-7~11は縦長、15-1~4は末端が尖る素材である。5-14-9、10には腹背両面に光沢が見られる。15-4は刃部が外湾する側縁と内湾する側縁がある。

図5-15-5は鋸歯縁石器である。背面の両側縁、腹面の左側縁の一部に鋸歯状の大きな剥離調整が施されている。図5-15-6~8、16-1~5は下端部に刃部がある搔器状のものである。16-4、5は横長剥片を素材にしたものである。

両面調整石器 (図5-18-1~6 表5-3 図版5-11)

両面調整石器は12点出土した。遺構出土は3点で、包含層が9点である。北東部を含めて分布は疎らである。この内6点を掲載した。

図5-18-1は長さ20cmを超える大型のもの。2、3は5cm程度、4、5は10cm以下のもので、いずれも紡錘形である。6は短冊形で両面の粗い剥離調整が特徴である。

Rフレイク・Uフレイク (図5-18-7、8 表5-3 図版5-11)

Rフレイクが340点、Uフレイクが624点出土した。この内、包含層はRフレイクが314点、Uフレイクが542点である。Rフレイクの分布は北東部を含めた全体に分布しているが、M25とN21を頂点にした同心円状の集中が見られる。M25に遺構などはなく、N21には焼土F-12・18が見られるのみである。UフレイクはM25とM20を頂点にした集中が見られる。特にM25は周辺にも広範囲に出土点数が多い。

図5-18-7はRフレイクで、背面右側縁に散漫な剥離調整、腹面右側縁上部にも粗い剥離調整が見られる。刃部が外湾するスクレイパーとして利用された、または未成品とも考えられる。本調査では多くの剥片に見られる典型で、Rフレイク、Uフレイクのほとんどはスクレイパーの未成品である可能性が高い。18-8はRフレイクで、本遺跡では稀少な黒曜石製である。背面左側縁両面に細かい剥離調整が見られる。

石核 (図5-19・20・21 表5-3 図版5-11・12)

石核は37点出土した。2点は遺構、土坑P-12、17から各1点出土した。包含層出土のものは北東部を含めた全体に分布するが、その中心は中央部と北東部に大きく分けることが出来る。包含層出土の10点を掲載した。

図5-19-1はサイコロ状で、打面を固定して周辺を剥離したもの、2は盤状で剥片素材のもの、3は礫から剥片剥離したもの、4はサイコロ状で、一面に剥離が集中したものである。図5-20-1、2は盤状のものである。1は打面、作業面入れ替えて複数方向から剥離している。母岩Dの接合資料に含まれる石核である。2は原石から剥片剥離したものである。図5-20-3、4はサイコロ状のもので、打面を固定して主にその周縁を剥離したものである。図5-21-1、2は盤状のもので、剥片素材である。1

が母岩Aの接合資料5、2が母岩Aの接合資料2の石核になっている。

石斧 (図5-22-1~8 表5-3 図版5-12)

石斧は32点出土した。遺構出土のものが10点で、竪穴住居跡H-1出土が4点、土坑P-9出土が6点である。包含層出土は22点であった。分布は調査区中央部に集中しているが、北東部のP13に3点まとまった出土が見られた。遺構に伴っていた可能性も考えられる。完形で出土するものも少ない。

図5-22-1・2・3は包含層P13でまとまって出土したものである。いずれも弧状の刃部で、1は短冊形で薄い小型のものである。2は基部が膨らむ短冊形で、3は基部の一部を欠している。4、5は撥形の完形のもので、4は偏刃、5は弧状の刃部である。6、7、8は基部のみの破片である。6は割れ口に敲打痕が見られ、たたき石に使用されたとみられる。

たたき石 (図5-23・24・25-1~4 表5-3 図版5-13)

たたき石は123点出土した。遺構出土のものが14点、包含層出土のものが109点出土した。出土分布は北東部を含めて全体的に広く分布し、中央部においても均等な分布が認められた。29点を掲載した。

掲載にあたり長礫と短礫の素材で大別し、敲打痕の位置と組み合わせにより分類した。敲打痕の位置には礫末端、長礫長辺側面、長礫正面(最大面)、短礫端部、短礫角、長礫角がある。また最大長により5~6cm程度を小、7~10cm程度を中、10cm以上を大と分類した。

図5-23-1~9は長礫の上下両端部の端面に敲打痕が残るものである。素材には棒状礫や扁平楕円礫、楕円礫がある。1~5は扁平長楕円礫、6、7は長楕円礫、8、9は楕円礫を素材とする。

23-9~11、24-1~7は長礫の上下両端に加えて側縁部に敲打痕が見られるものである。24-8~12は端部や側縁だけでなく体部正面にも敲き痕が見られるものである。25-1~3は三角柱状礫の側縁に敲打痕が見られるものである。25-4は短礫の角部に敲打痕が見られるものである。

砥石 (図5-25-5 表5-3 図版5-13)

砥石は1点のみの出土である。図5-25-5は表面が溝状、裏面が石皿状の小型のものである。

扁平打製石器 (図5-25-6・7 表5-3 図版5-13)

扁平打製石器は3点出土した。いずれも包含層出土のもので2点を掲載した。図5-25-6は長方形、7は長方~台形状である。いずれも上辺と下辺に剥離調整が見られ、すり面は平坦である。

すり石 (図5-25-8 表5-3 図版5-13)

すり石は24点出土した。土坑出土のものが4点(P-3・9・12・13)で、包含層出土が20点である。包含層では調査区中央部やや南寄りに集中が見られる。その内の1点を掲載した。図5-25-8は扁平な砂岩礫の側面2面にすり面が見られるものである。

台石・石皿

台石・石皿は41点出土した。遺構(H-1、P-2・3・4・10・17・18)出土が13点で、包含層出土が28点である。包含層出土のものは小破片のみのため、掲載は遺構出土のもののみである。

4 礫

礫は5,606点出土した。このうち遺構出土のものは867点で、包含層出土のものは4,739点である。石材は頁岩が1594点で最も多く、泥岩が1466点、安山岩が689点、砂岩が221点などである。

出土状況については、北東部を含めて全体的に分布しているが、中でも北東部O16が突出している。また、中央部分ではN・O23・24に集中が見られる。いずれの集中にも竪穴住居跡が所在していることは注目される。

礫の中で扁平円礫が特に多いのも特徴の一つである。たたき石またはすり石の素材として用意され

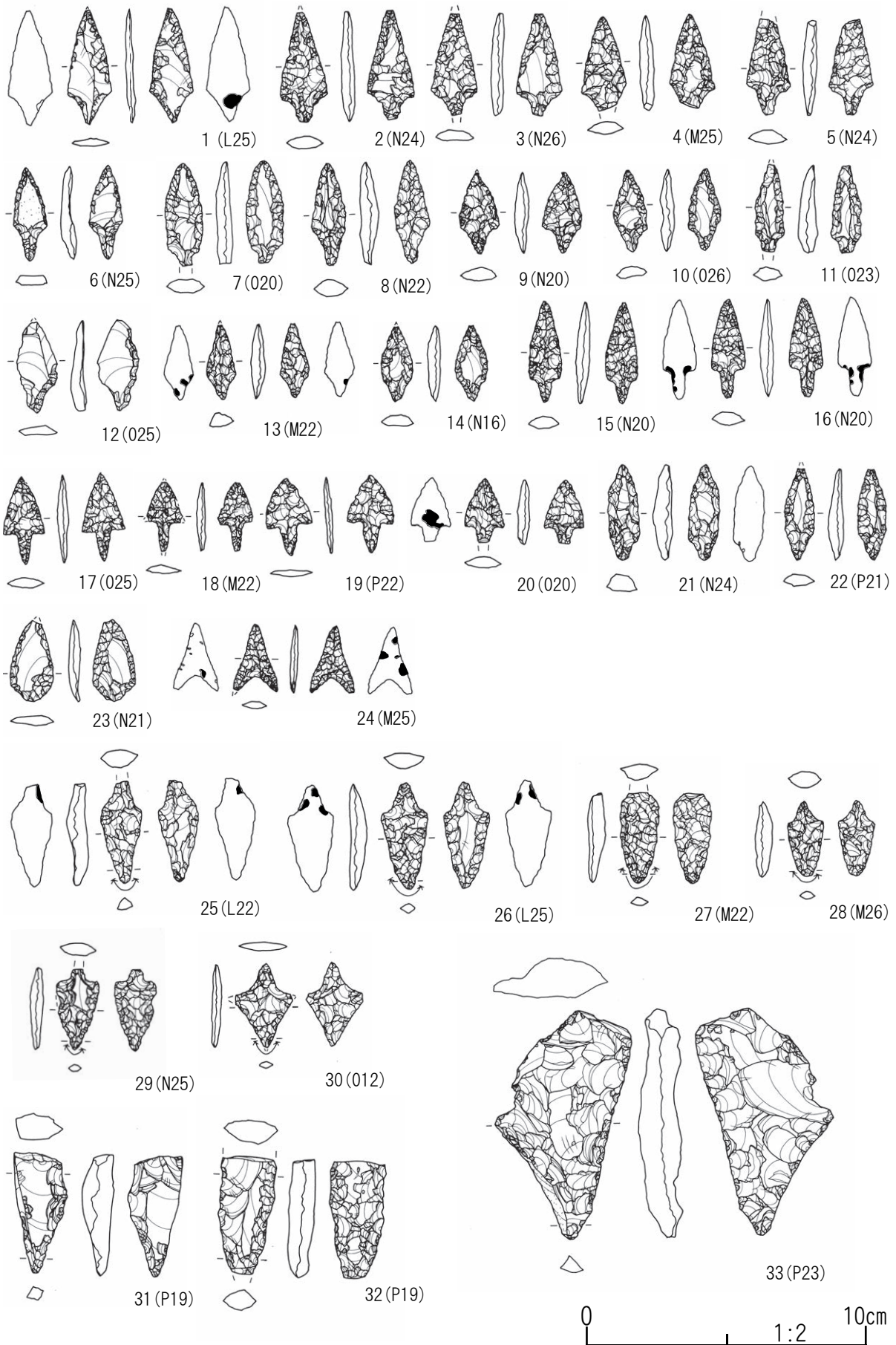


图5-11 石器(1) 石鏃·石錐(1)

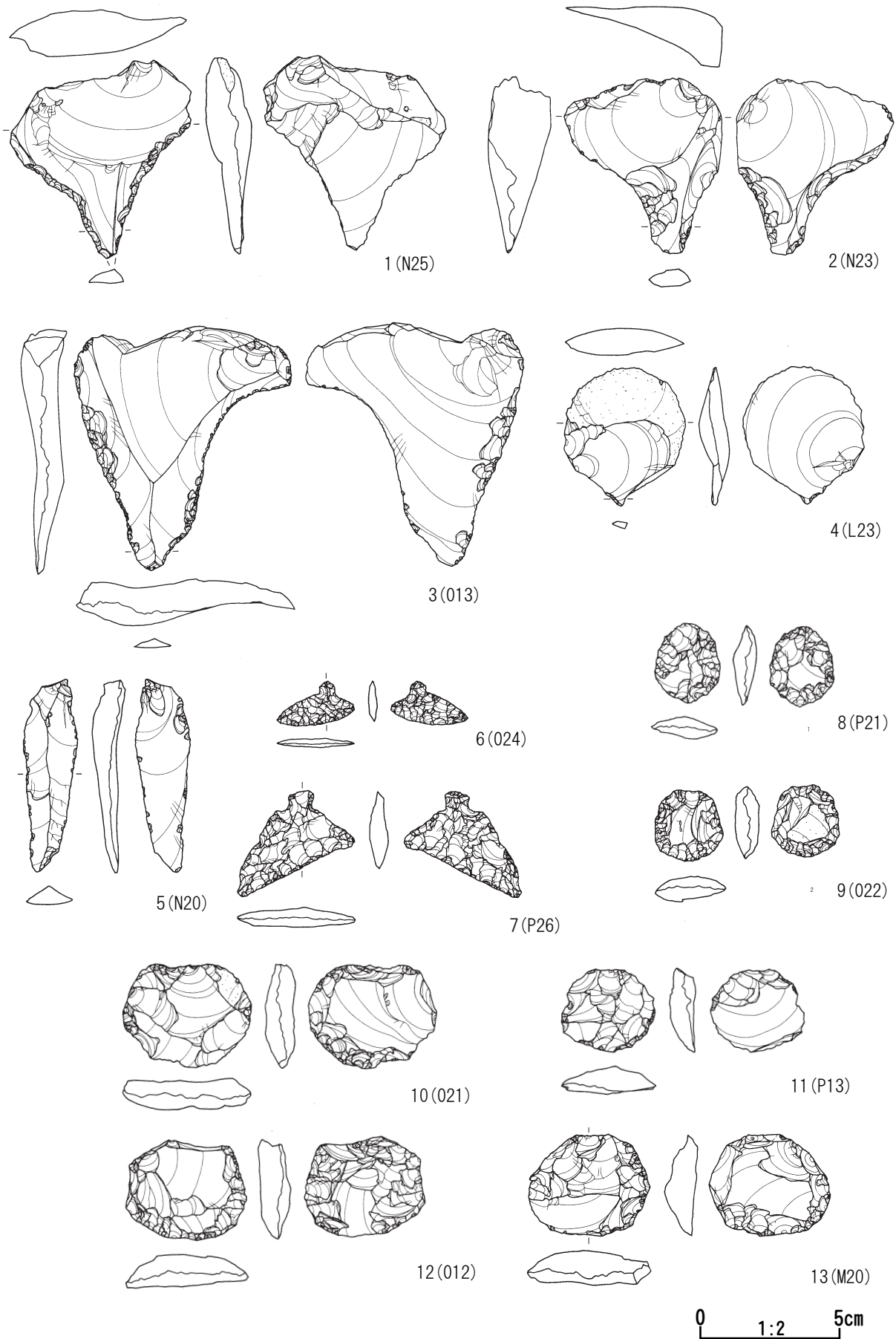


図5-12 石器(2) 石錐(2)・つまみ付きナイフ・スクレイパー(1)

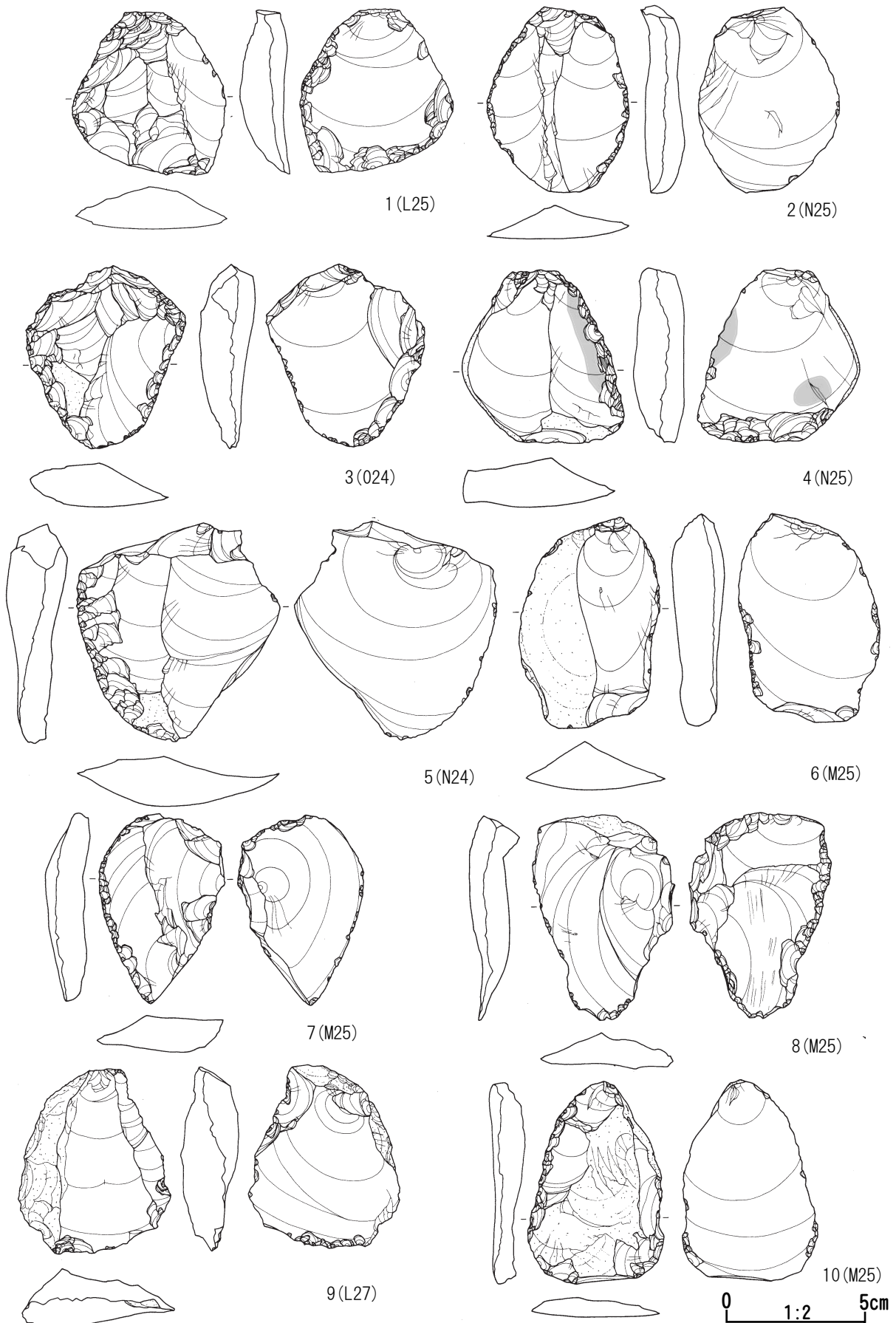


図5-13 石器(3) スクレイパー(2)

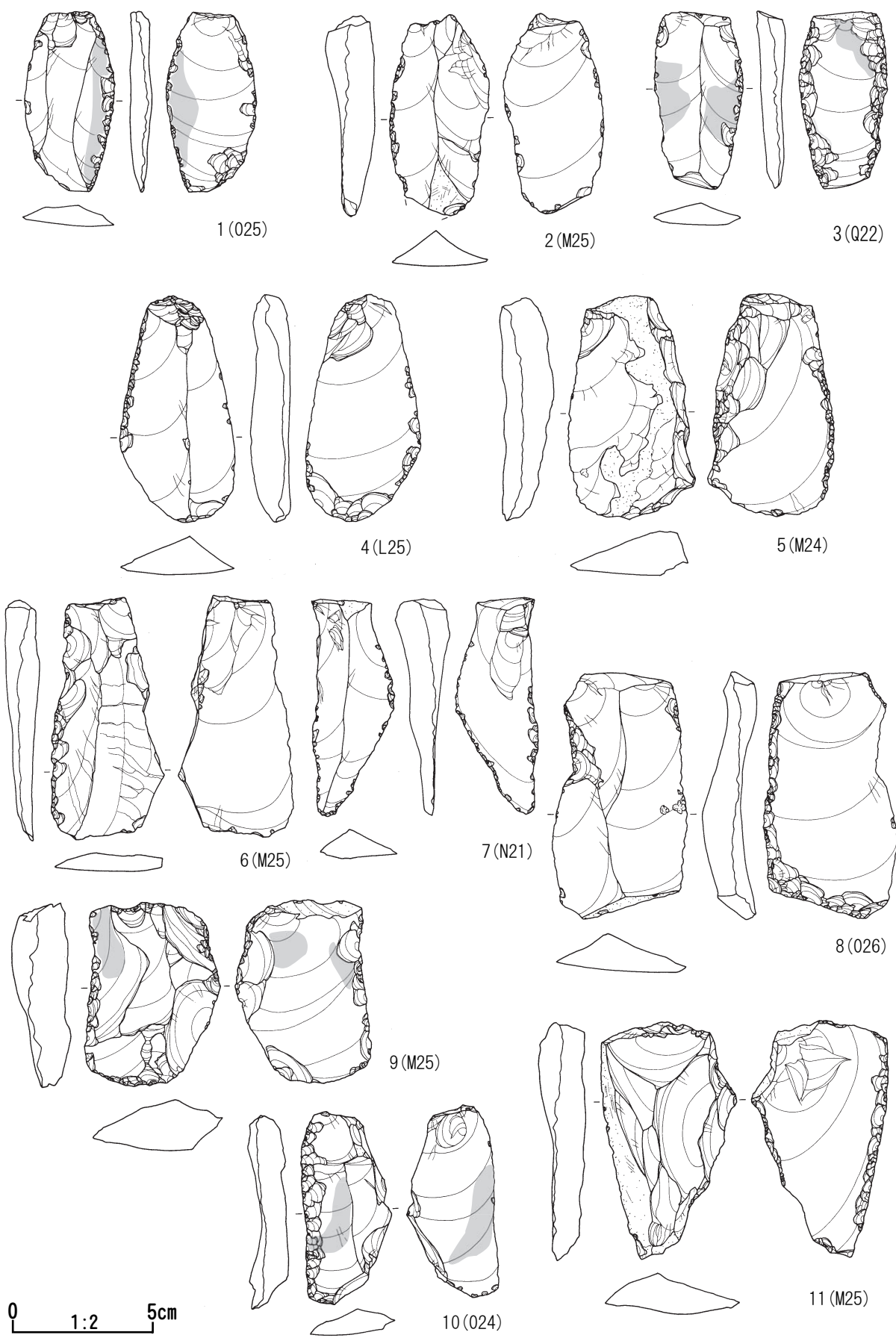


図5-14 石器(4) スクレイパー(3)

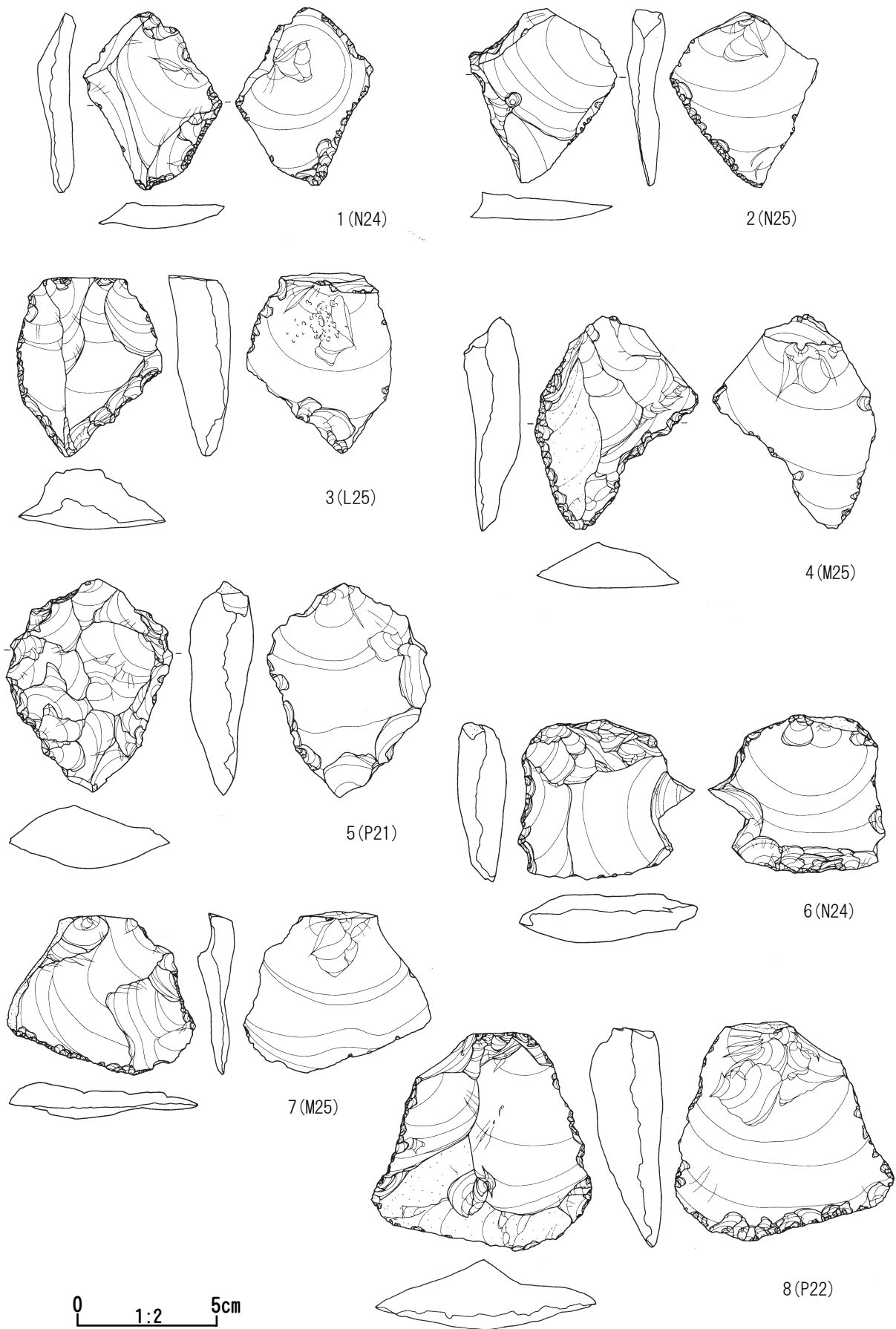


図5-15 石器(5) スクレイパー(4)

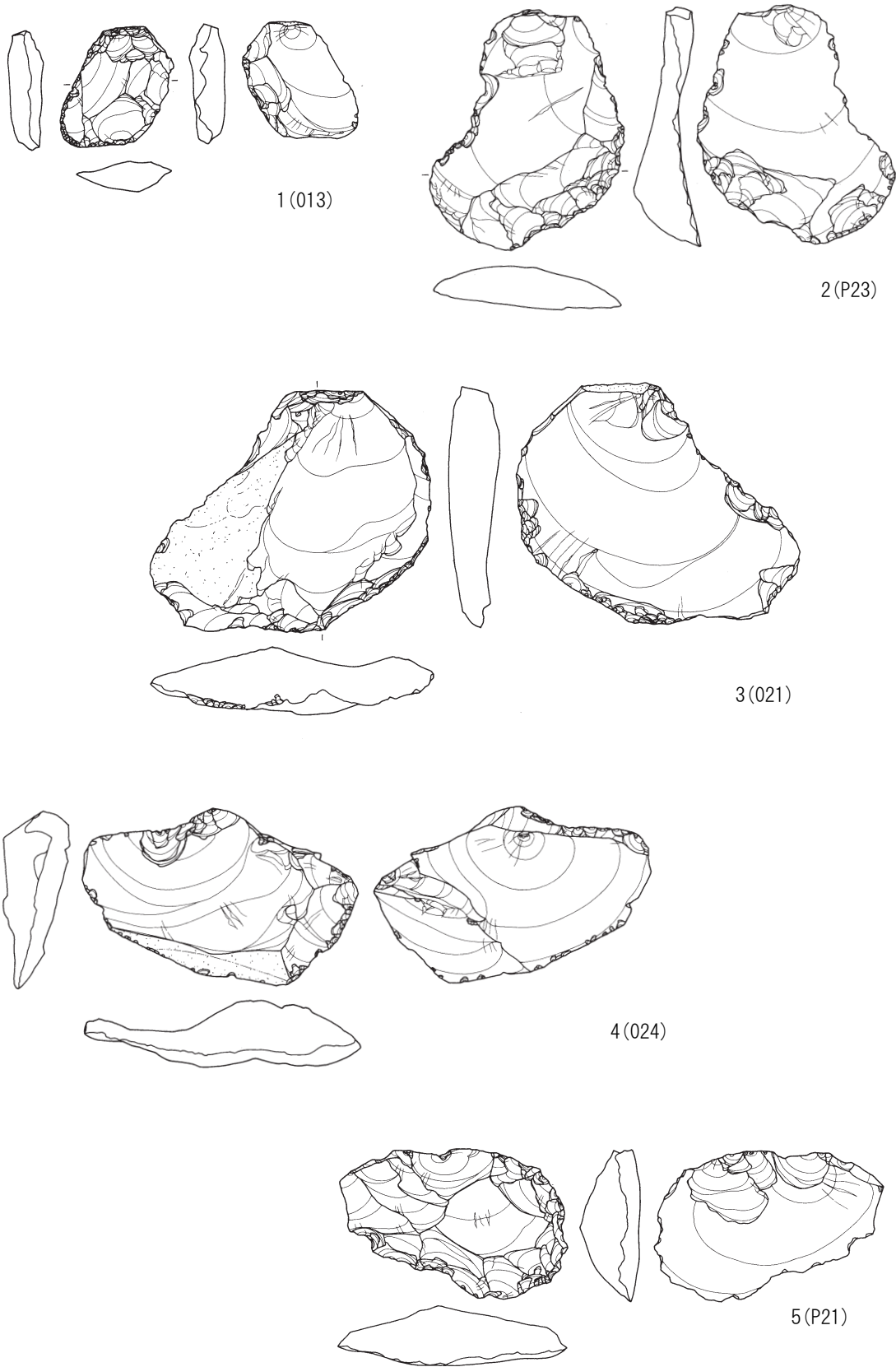


図 5 - 16 石器(6) スクレイパー(5)

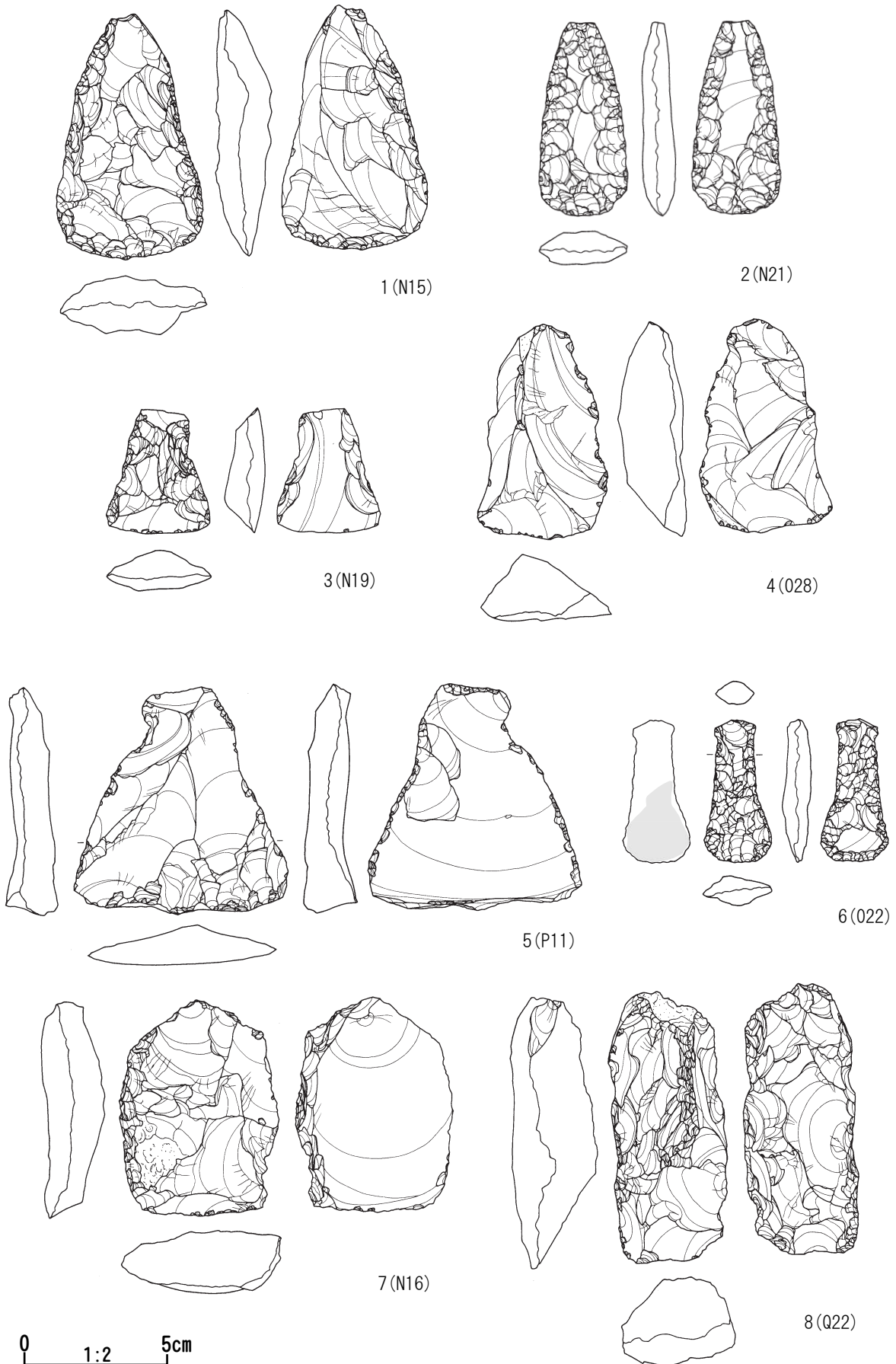


图5-17 石器(7) 篋状石器

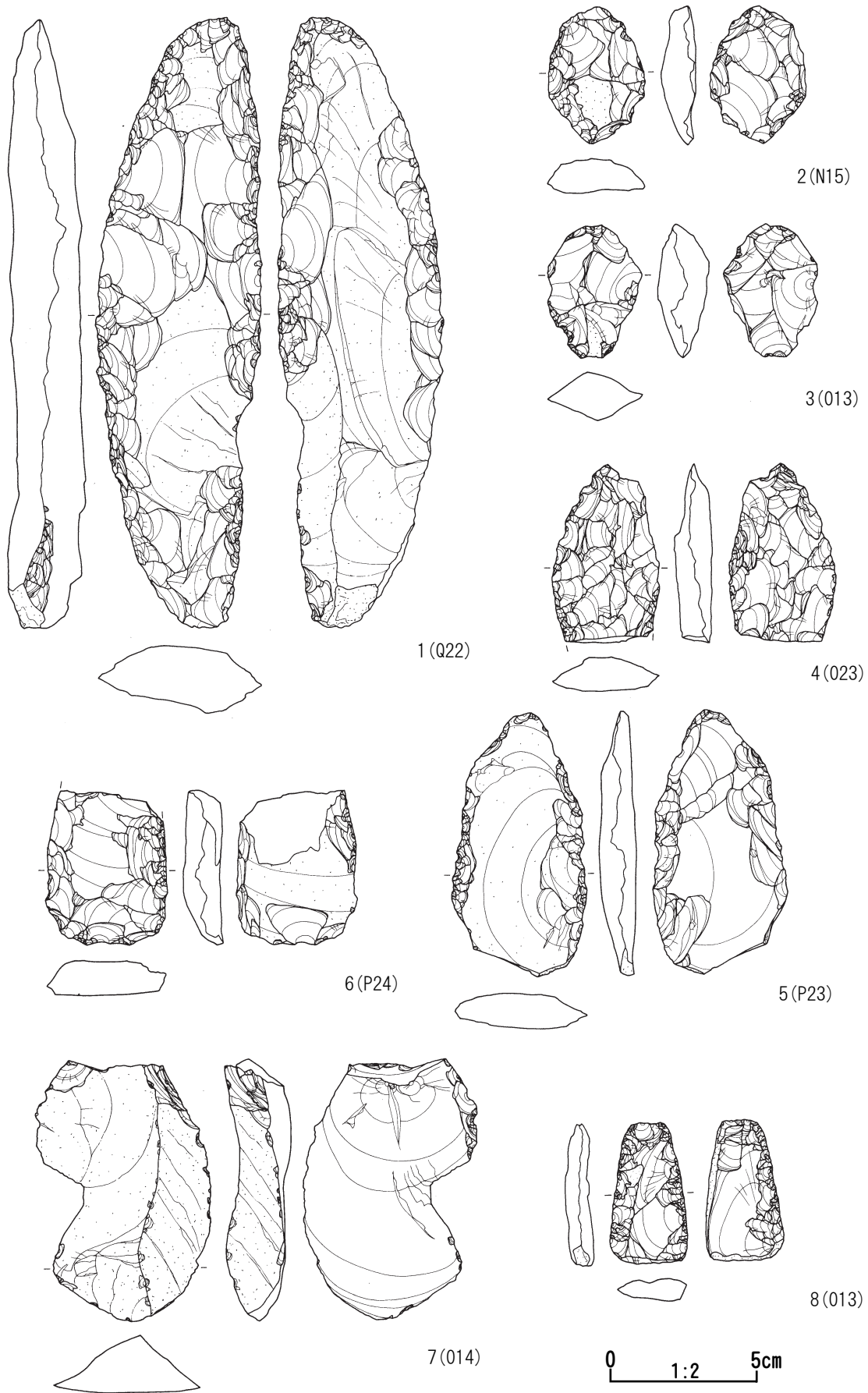


図5-18 石器(8) 両面調整石器・Rフレイク

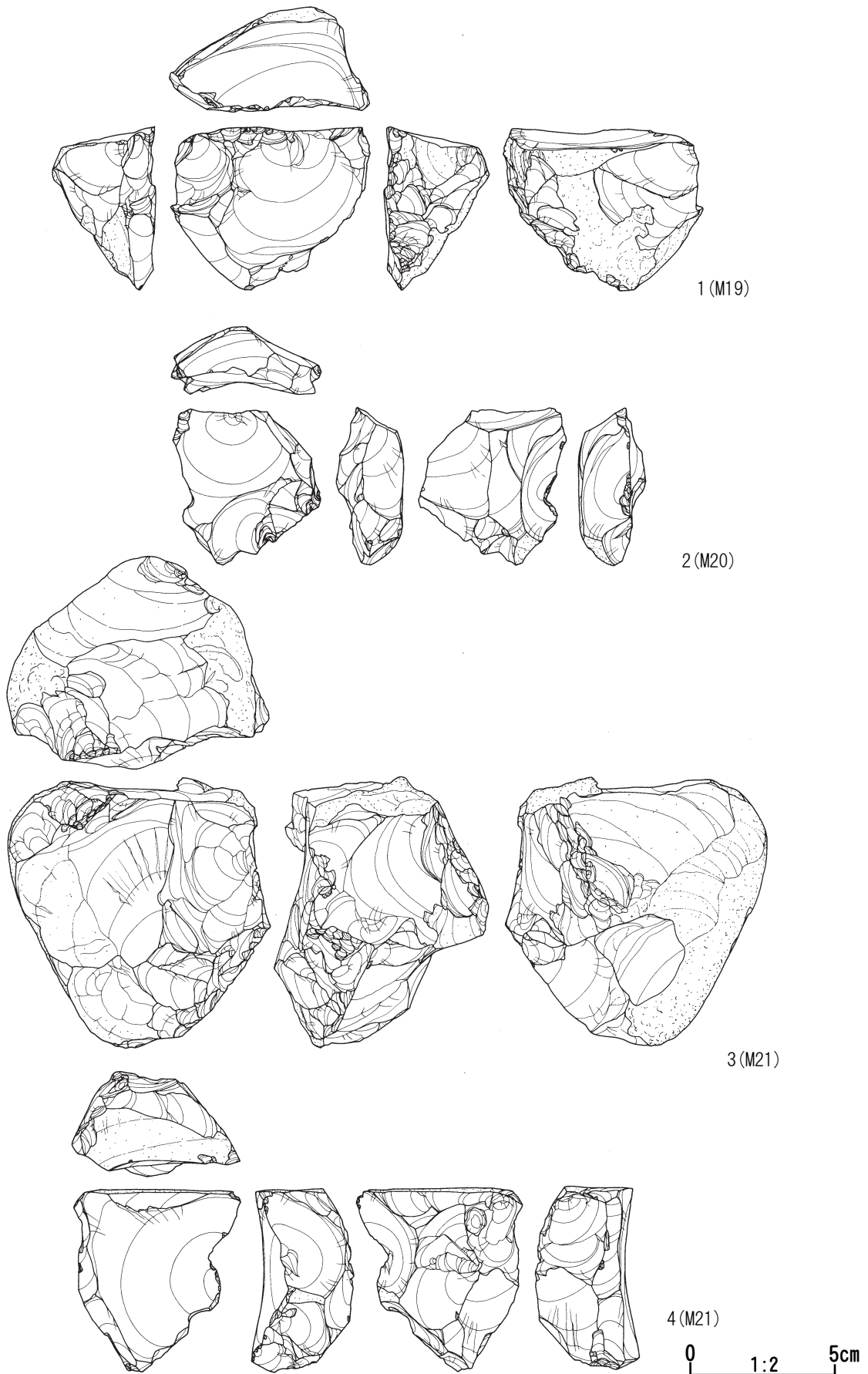


图5-19 石器(9) 石核(1)

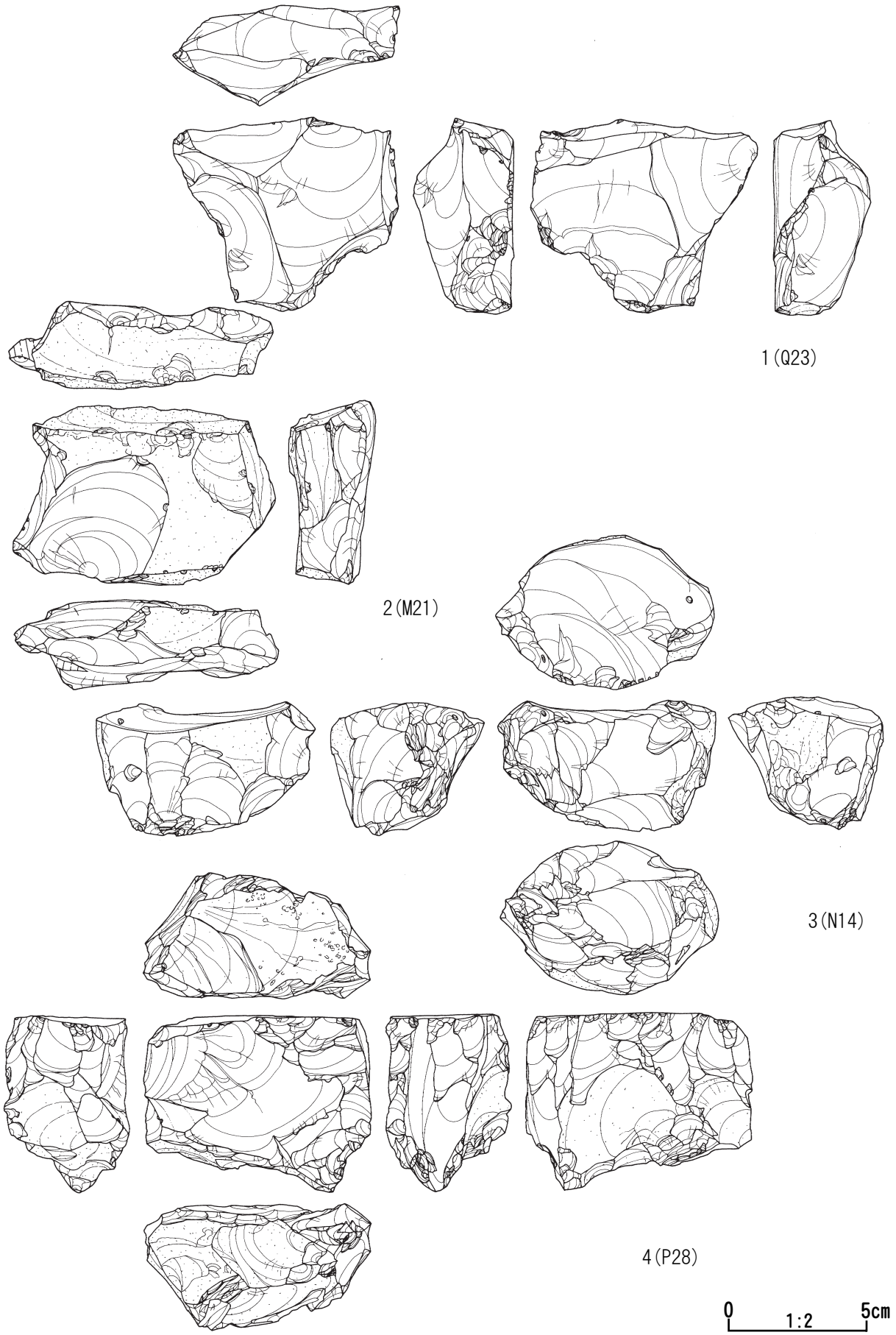


图5-20 石器(10) 石核(2)

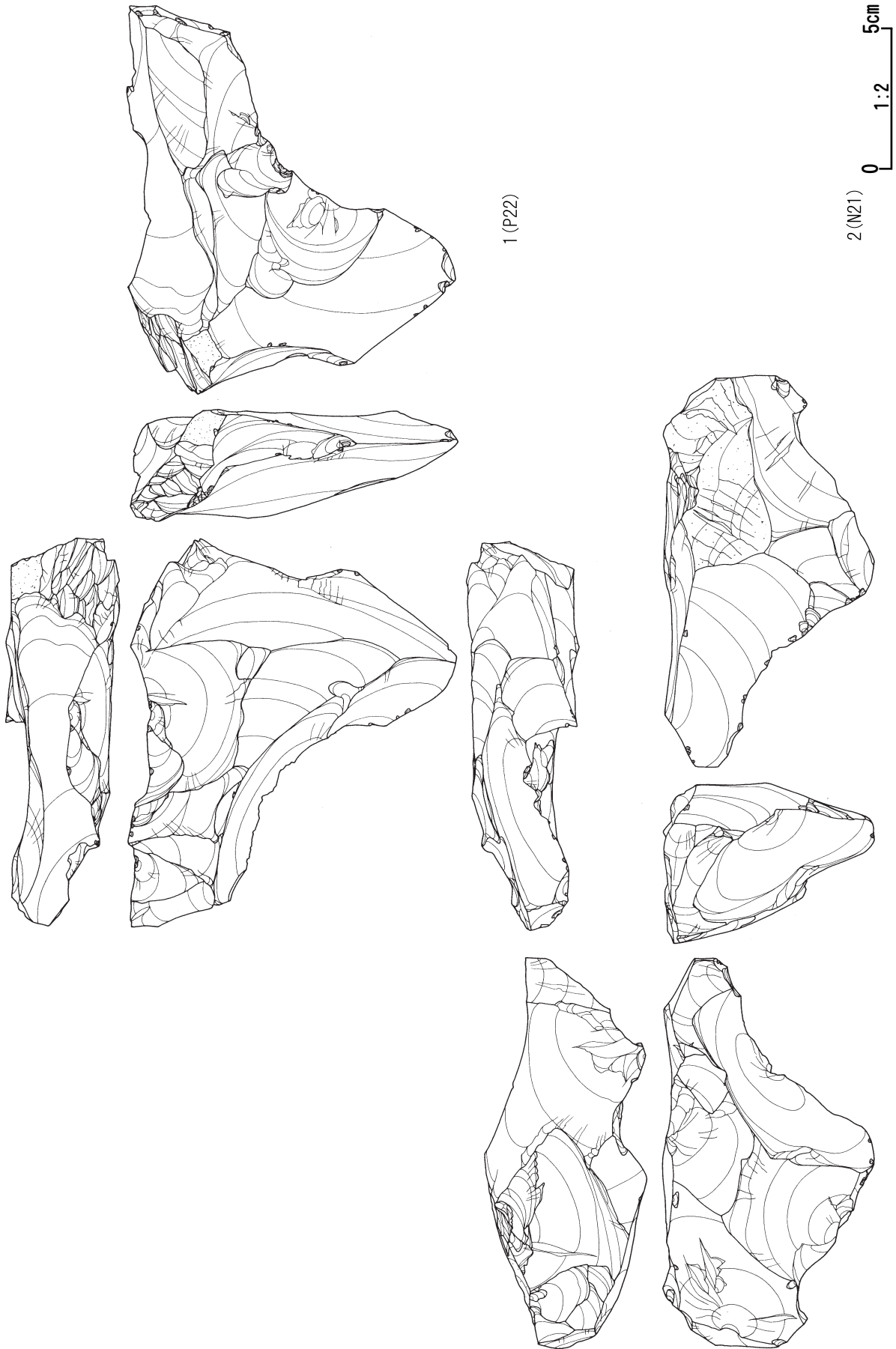


图5-21 石器(1) 石核(3)

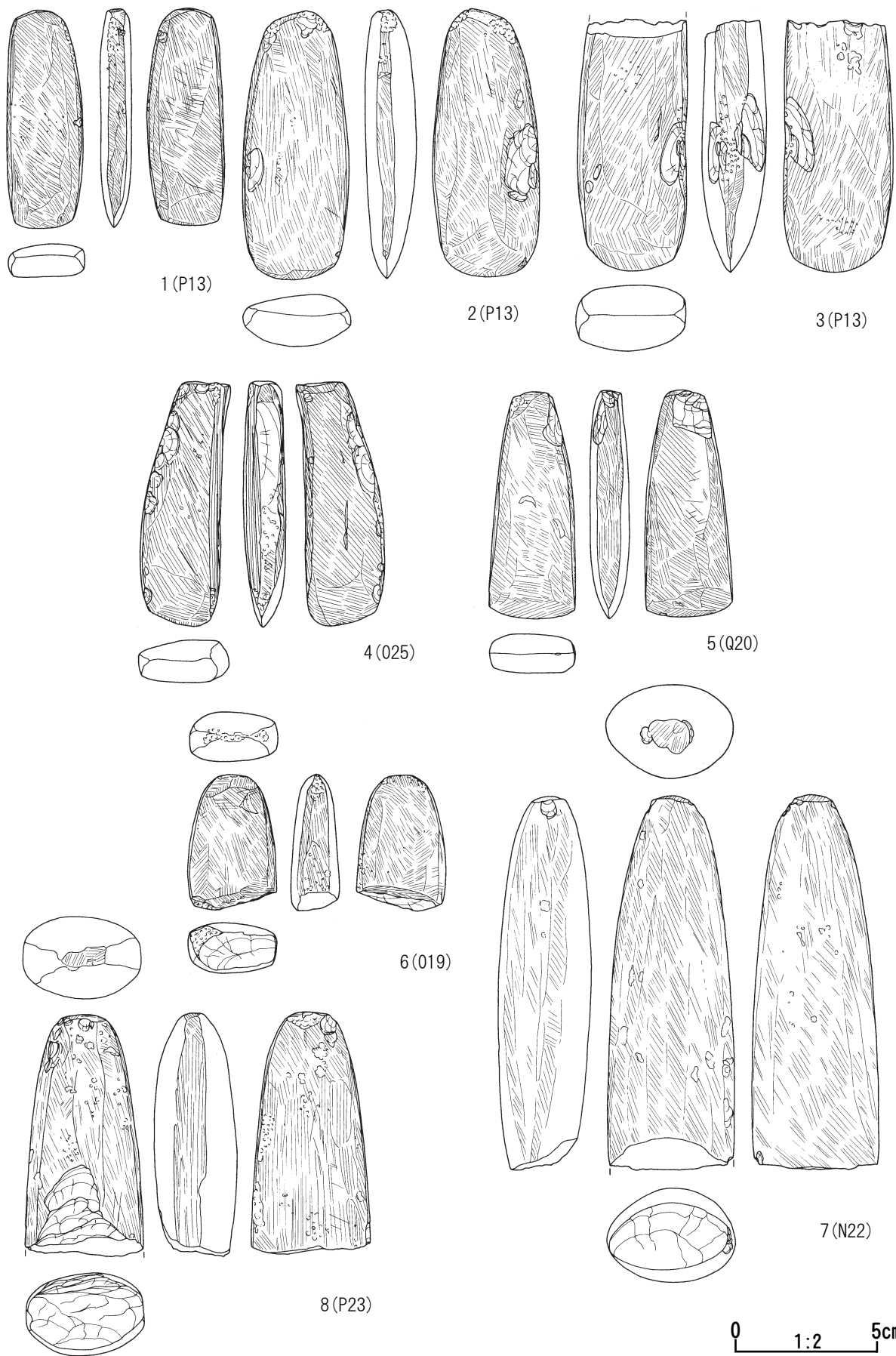


图5-22 石器(12) 石斧

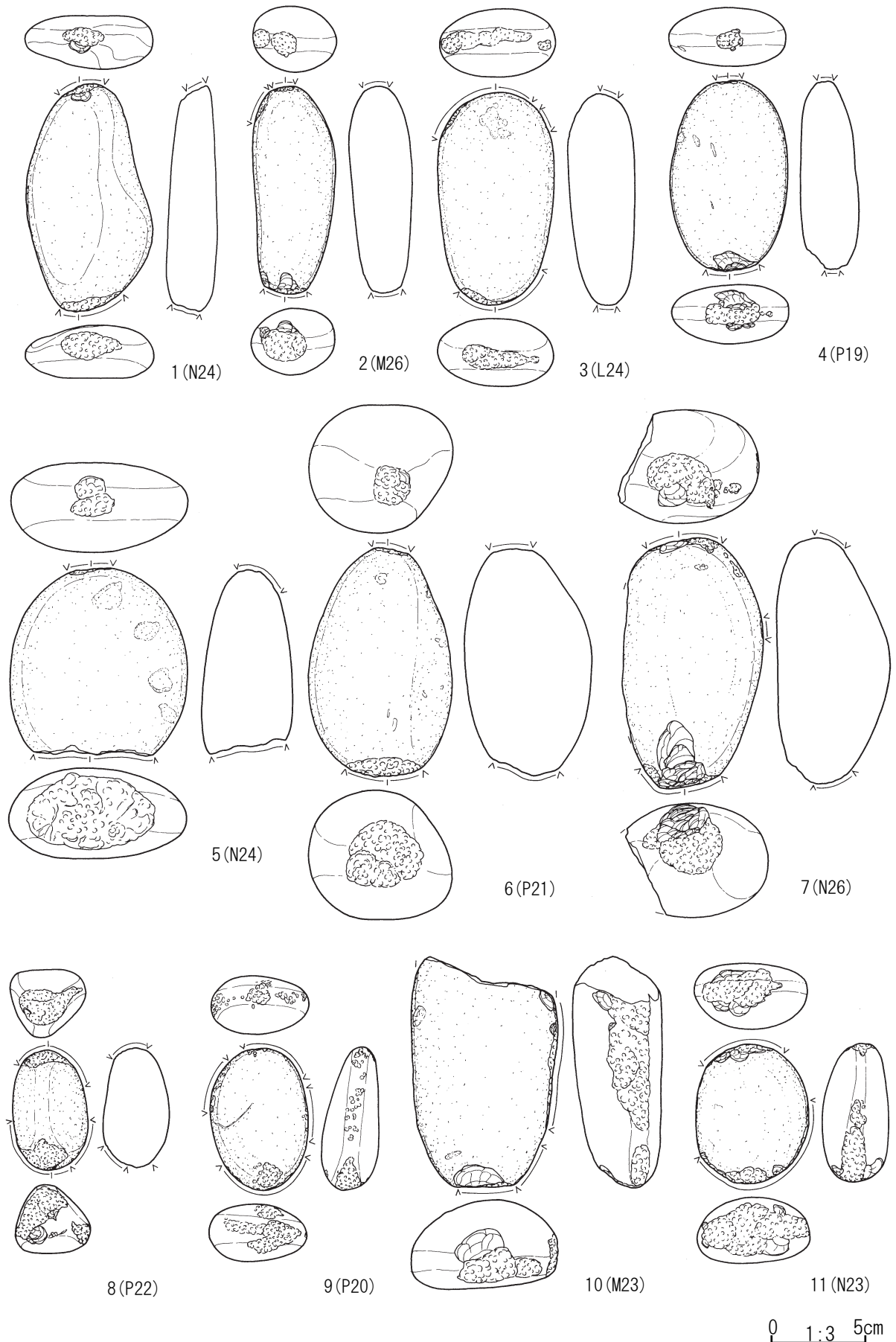


図5-23 石器(13) たたき石(1)

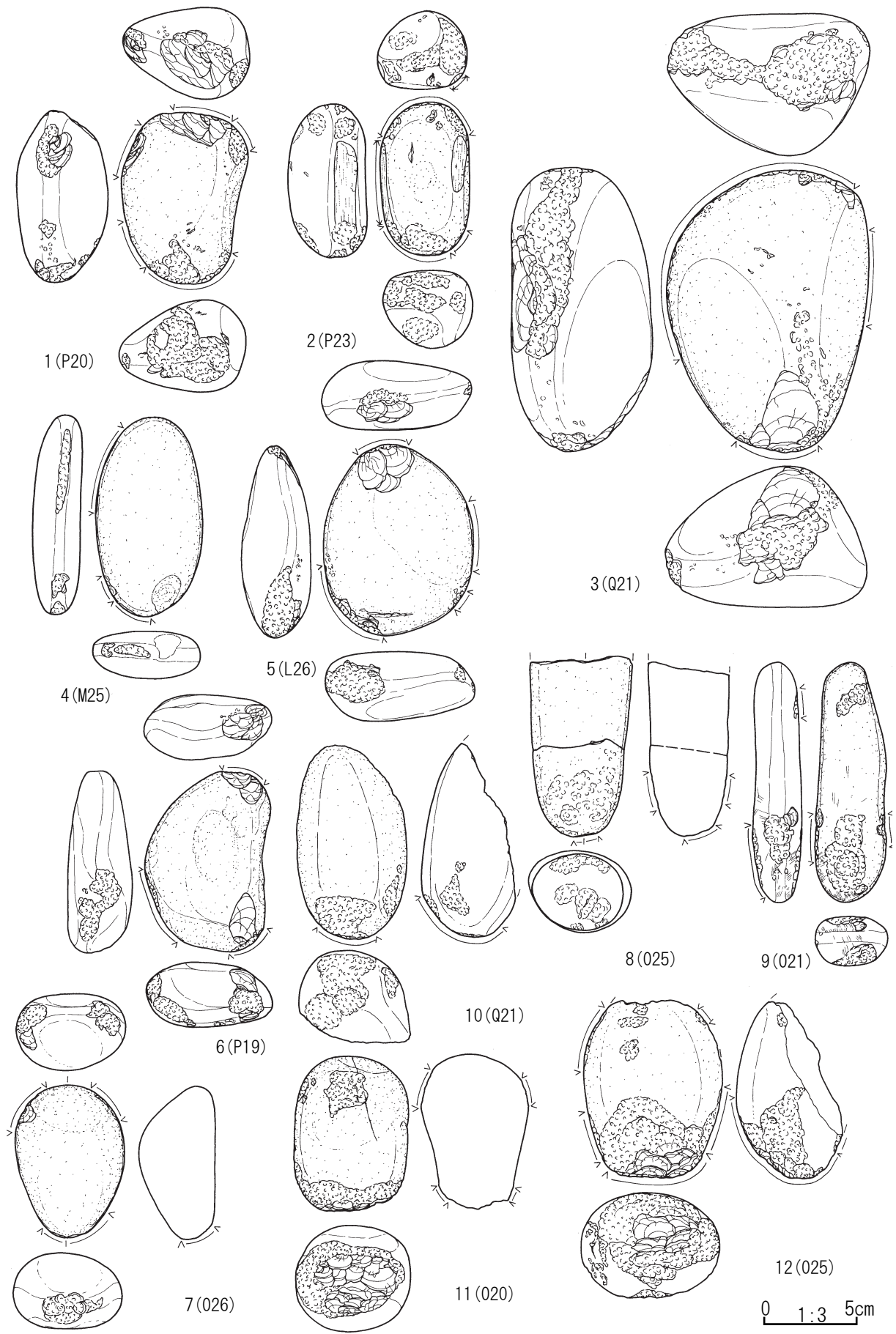


図5-24 石器(14) たたき石(2)

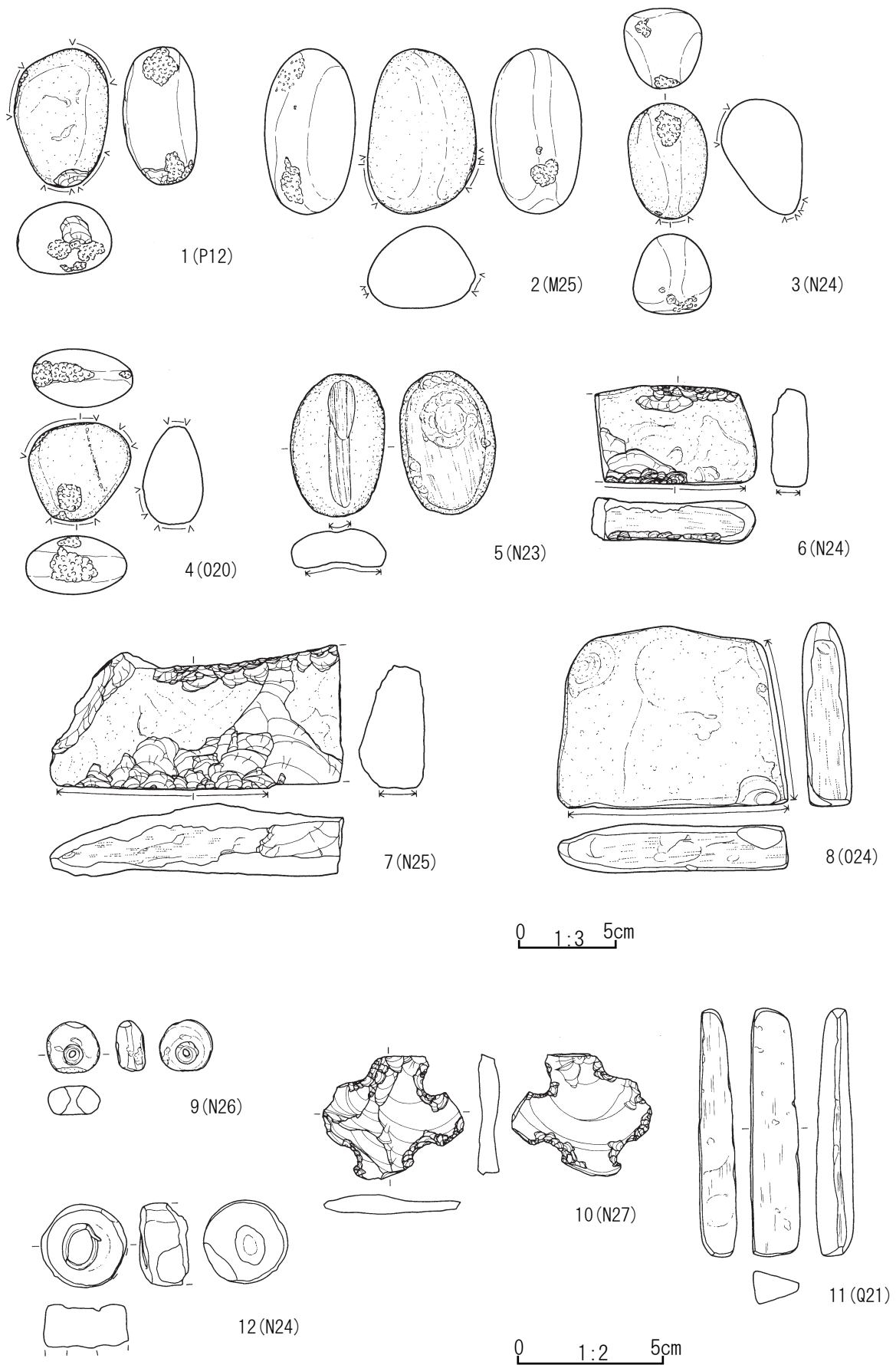


図5-25 石器(15) たたき石(3)・扁平打製石器・すり石・土製品・石製品

た可能性も考えられる。

礫片については接合作業を行った(表7-4)。遺構、包含層を含めて51点の礫片が接合し、15個体を得た。この内同一遺構及び地点内での接合を除くと、6個体が異なるグリッドまたは遺構間で接合したものであることが明らかになった。特に、接合礫1は土坑P-10、焼土F-12覆土出土の礫と包含層M20出土の安山岩礫片3点が接合したものである。また接合礫2は包含層M19とO25出土の安山岩礫片2点が接合したものである。

5 土製品・石製品 (図5-25-9~12 表5-3)

土製品・石製品は340点出土した。そのほとんどが土製品の焼成粘土塊335点である。遺構出土は43点ですべてが焼成粘土塊であった。そのほか土製品が2点、石製品が3点である。この内土製品1点、石製品3点を掲載した。なおミニチュア土器は土器として扱った。

石製品は図5-25-9・10・11に掲載した3点である。9は凝灰岩製の玉、10は頁岩製の異形石器、11は閃緑岩製の三角柱状石製品である。

土製品は図5-25-12に掲載した1点である。12は耳栓で、臼形で正面は円形のくぼみをつくり、これを沈線で縁取る。裏面はほぼ全体が剥落している。

6 石器接合資料 (表5-4 図版5-14~21)

剥片が遺構、包含層併せて10,019点出土した。遺物・剥片集中出土地区から出土した剥片を中心に接合を行ったところ、対象範囲は結果的にほぼ調査区全域に及んだ。

接合した石器は964点で、折れ面接合と判断したものが65点、剥離面接合が899点である。この内、母岩と判断できるまとまりをA~Pの16に分けることができた。接合した点数は621点、総重量は23,414gである。

なお、今回の整理作業においては出土遺物の位置的な接合関係を知るために石器接合作業を行ったため、実測図等の作成には至らなかった。接合作業の成果については接合関係一覧表(表5-4)及び母岩別接合資料について写真図版(図版5-14~21)を作成した。

母岩別接合資料 (表5-4 図版5-14~21)

【母岩A接合資料】(表5-4 図版5-14)

母岩Aの接合資料は21点で、石材は褐灰~灰白色(10YR6/1~7/1)主体の頁岩である。関係遺構は主にP22の礫群(フレイク集中)で、総重量は2754g、接合器種が石核1点、Uフレイク2点、剥片を含めた総点数は88点になった。

接合資料1はP22主体で13点接合し、631gである。2はN21、P22から石核を含めた10点が接合し、562gである。石核は図5-21-2に掲載した。3はO22、P22主体でUフレイクを含めた14点が接合し、105gである。4はM20、P22、P23の剥片5点が接合し、224gである。5はP22の石核1点、剥片3点が接合し、513gである。石核は図5-21-1に掲載した。6はP22の剥片が4点接合で29g、7はN21、P22の剥片が4点接合で49g、8はN22、P22の剥片3点接合で292g、9はP21、P22の3点接合で52gである。10はP21、P22のUフレイク1点と剥片1点が接合で40gである。11はP22の2点接合で41gである。12はP22の2点接合で64g、13はP22の2点接合で24g、14はO21の2点接合で11g、15はP22の2点接合で7g、16はP22の2点接合で8g、17はP22の2点接合で4g、18はP22、P23の3点、折れ面接合で、110gである。19はP22の2点接合で4gである。20はP22の2点接合で6g、折れ面接合である。21はM20の2点接合で7g、折れ面接合である。

【母岩B接合資料】(表5-4 図版5-15・16)

母岩Bの接合資料は2点で、石材は白色筋の縞模様が特徴的な灰白(5Y7/1)～灰黄(5Y7/2)色の頁岩である。関係遺構は竪穴住居跡H-1、土坑P-9、P-12である。M・N・O20・21の剥片が主体で、総重量は2078g、接合器種がUフレイク7点で、剥片を含めた総点数は49点になった。

接合資料1の総計は47点、2,054gである。2は2点接合の24gで折れ面接合である。未接合石器はUフレイク2点、剥片が6点である。

【母岩C接合資料】(表5-4 図版5-16・17)

母岩Cの接合資料は3点で、石材は黒褐(2.5Y3/1)～灰白(2.5Y7/1)主体の頁岩である。関係遺構は竪穴住居跡H-1、土坑P-3、P-10で土坑P-10出土遺物の占める割合が大きいのも特徴である。総重量は2035gで、接合器種はUフレイク4点で剥片を含めた総点数は97点である。

接合資料1は92点で2,025g、接合資料2は3点で8g、3は2点で2gである。未接合資料にRフレイク1点と剥片52点がある。

【母岩D接合資料】(表5-4 図版5-16)

母岩Dの接合資料は1点が得られた。石材は黒褐色(2.5Y3/1)～明黄褐(2.5Y7/6)色主体の頁岩である。関係遺構にはQ23の遺物集中があるが、主体はP22の包含層出土遺物である。

接合資料1はQ23を中心にP22、N20などから10点が接合した。675gである。

【母岩E接合資料】(表5-4 図版5-17)

母岩Eの接合資料は2点である。石材は黒(5Y2/1)～灰白(5Y8/1)色主体の頁岩で大きく原石面を残している。M・N・O24・25の出土剥片11点からなり、総重量は771gである。

接合資料1はほぼ原石に近い状態となった。M24、M25、N24、N25、O23、O24出土の剥片9点で769gである。接合資料2はO24出土の2点、2gで折れ面接合である。

【母岩F接合資料】(表5-4 図版5-14)

母岩Fの接合資料は1点である。石材は表面が灰オリーブ(5Y6/2)、内面がオリーブ黒(5Y3/1)の頁岩である。M25出土の剥片のみの接合である。接合点数は24点で、総重量は1,030gになる。

【母岩G接合資料】(表5-4 図版5-18)

母岩Gの接合資料は3点得られた。石材は淡黄～灰黄色(2.5Y8/3～6/2)の頁岩で、風化が進んでいる。関連遺構には土坑P-4があるが、P・Q20・22が主である。総重量は2,488gで、接合器種は剥片のみで33点である。

接合資料1は土坑P-4、P22、Q22から23点が接合し2,310gである。2はP20の5点で88g、3はP22、Q22の3点で84gである。

【母岩H接合資料】(表5-4 図版5-19)

母岩Hの接合資料は11点得られた。石材は灰白(2.5Y3/1)～黒(2.5Y7/1)の頁岩である。関連遺構にはN24遺物集中があるが、M・N24の包含層が主体である。総重量は2032gで、接合器種は剥片のみで45点である。

接合資料1はM23、24を中心に22点の剥片が接合し、1050gになった。2はN24のみで6点416g、3はN24で4点50g、4はN24で3点115g、5はN24で2点103g、6はN24で2点65g、7はN24で2点11g、8はN24で2点8gである。9はN24で2点、158g、10はO23、24で2点32g、11はN24で2点24gである。未接合資料は石核1点、剥片が52点ある。

本資料については人為的な剥離作業を認めるのが難しく、自然に割れた可能性も考えられる。

【母岩I接合資料】(表5-4)

母岩Iの接合資料は30点得られた。石材は表面が灰白色（2.5Y8/1）で内面がオリーブ褐（2.5Y4/3）の頁岩である。関連遺構はN24遺物集中で、周辺の包含層出土遺物が主体である。総重量は791g、接合器種は剥片のみで、総点数は97点である。少数の剥片が接合するのみである。

接合資料1は7点113g、2は8点48g、3は5点、90g、4は9点75g、5は8点68g、6は5点75g、7は5点12g、8は3点65g、9は3点7g、10は3点8g、11は3点12g、12は2点18g、13は2点31g、14は2点39g、15は2点28g、16は2点3g、17は2点15g、18は2点6g、19は2点15g、20は2点7g、21は2点3g、22は2点2g、23は2点2g、24は2点7g、25は2点4g、26は2点8g、27は2点14g、28は2点2g、29は2点8gで折れ面接合である。30は2点6gで折れ面接合である。

【母岩J接合資料】（表5-4 図版5-19）

母岩Jの接合資料は2点得られた。石材は灰白～灰黄褐（10YR8/2～6/2）で白い筋の入る原石で、原石面がごつごつしている。総重量は1526gで、点数は21点になった。

接合資料1はO11出土の剥片19点からなり、総重量は1460gになる。人為的な剥片剥離よりも節理面の剥落が目立つ。2はO11出土の2点で66gである。

【母岩K接合資料】（表5-4 図版5-21）

母岩Kの接合資料は9点得られた。石材は原石面が褐灰（10YR4/1）、剥離面は灰白（2.5Y8/2）の頁岩で白色透明な筋がはいる。関連遺構には土坑P-10、N24遺物集中がある。総重量は3429gで、接合器種は剥片のみで総点数は99点である。

接合資料1は52点の剥片が接合した。総重量は1950gになる。一面に白い原石面が残る。出土の主なグリッドはN24で、L25、M20、M22、M24、O19、Q20出土の剥片が少数接合した。接合資料2は14点487g、3はIVa 2点500g、4は6点95g、5は6点136g、6は4点87g、7は3点56g、8は2点106g、9は2点12gである。

【母岩L接合資料】（表5-4 図版5-18）

母岩Lの接合資料は1点得られた。石材は灰白（2.5Y8/1）と黒褐（2.5Y3/1）の境がはっきりした、固化の進んだ頁岩である。関連遺構は竪穴住居跡H-1で、接合器種は石核1点を含む。接合資料1はH-1とO25出土の剥片4点で427gである。

【母岩M接合資料】（表5-4 図版5-20）

母岩Mの接合資料は1点得られた。石材は灰黄（2.5Y7/2～6/2）色主体の頁岩である、接合資料1はM23、N20、N21、N22出土の剥片7点で158gである。

【母岩N接合資料】（表5-4 図版5-21）

母岩Nの接合資料は4点得られた。石材は灰白～淡黄（2.5Y8/2～8/3）の頁岩である。関連遺構はP22礫群（フレイク集中を含む）である。総重量は1159gで、接合器種は剥片のみの20点である。

接合資料1はP22出土の11点、888gである。2はP22出土の4点で77gである。3はN21、O24出土の3点173g、4はP22出土の2点21gで折れ面接合である。

【母岩O接合資料】（表5-4 図版5-20）

母岩Oの接合資料は1点得られた。石材は明黄褐～灰白（10YR6/6～7/1）の頁岩である。接合資料1はO13出土の剥片6点で1480gである。

【母岩P接合資料】（表5-4 図版5-20）

母岩Pの接合資料は1点得られた。ほぼ原石の形を復元することができた。石材は原石面が淡黄色～オリーブ褐色で、剥離面は黒褐色である。Q22出土の石核1点に剥片9点が接合した。合計点数10点で総重量は587gになる。

表5-1 包含層出土遺物一覧(1)

	土器類							石器・礫類																				石器・礫類 集計	総計							
	土器			土製品				石器													礫				石製品											
	IVa	IVc	V	土器 集計	土製品 集計	土製品 集計	土製品 集計	石 楯	石 錐	つまみ付ナイフ	スクレイパー	両面調整石器	筒状石器	R フレイク	U フレイク	剥片	石 核	原 石	石 斧	た た き 石	す り 石	扁平打製石器	台石・石皿	砥石	石器 集計	礫				礫 集計	石製品 集計	異形石器	玉			
																										小礫	大礫							礫片	礫 (円礫)	
L21	16			16											1	4									6	2	4	1	7					13	29	
L22	37			37				1							4	16									21									21	58	
L23	38			38				1							4	14									19			7	7					26	64	
L24	332			332										2	8	31					1				42	1	7	38	46					88	420	
L25	628			628				1	1	3				5	42	75			1	3	1			132	1	2	14	40	57					189	817	
L26	250			250										4	18	34			2		2			60			38	9	47					107	357	
L27	52			52						1					1	12					1			15		1	3	5	9					24	76	
L28																								2										2	2	
M17	2			2																															2	
M18	17			17										1		1								2			2	1	3					5	22	
M19	58			58										2	4	5	1							12			4	3	7					19	77	
M20	543	4		547		2	2	549			1			4	28	85	1		2	3				124			64	15	79					203	752	
M21	525			525		15	15	540			2			5	16	179	5	6		1				214			73	22	95					309	849	
M22	639			639		2	2	641	2	1		1		3	7	172		5		4				195	1		61	13	75					270	911	
M23	621			621		5	5	626						1	7	82				1				91			36	28	64					155	781	
M24	732			732				732			2			11	20	69		1	1	1	1		2	108			30	16	46					154	886	
M25	2077			2077		1	1	2078	3		16			29	49	268		2		5			7	379	2	1	73	83	159					538	2616	
M26	1195			1195		233	233	1428			1	4		8	35	156		2	1	1	1	1		210			30	55	85					295	1723	
M27	164			164		3	3	167			1				10	25		1		1			39			2	17	19	1	1			59	226		
M28	13			13				13								7							7											7	20	
M30	2			2				2						1	1	4							6			1		1						7	9	
M32	1			1				1							3	16							19											19	20	
N13	2			2				2							2	6		3					11					2	2					13	15	
N14	16			16				16			1			1	7	28	2	2					41			14	12	26						67	83	
N15	114			114				114			1	1	3	3	3	26		3		1			39			31	1	32						71	185	
N16	51			51				51	1			1	2	3	72					1			80			27	2	29						109	160	
N17	12			12				12							3	10							13			6		6						19	31	
N18	72			72				72								15				4		1	21	1		28	42	71						92	164	
N19	69			69				69				1		1	22		2						26			8	6	14						40	109	
N20	838	1		839				839	3		1			7	6	225	1	1		5	1	1	251			52	60	112						363	1202	
N21	787			787	1	7	8	795	1		1	1	15	10	217	1	1		1				248	1		29	62	92						340	1135	
N22	346			346				346	2					5	4	151			1	2			166			29	36	65						231	577	
N23	1550			1550		1	1	1551			2	4		6	17	307		4		5	1		347	1		129	135	265						612	2163	
N24	2578			2578	1	4	5	2583	4		4			15	31	1813	1	3	3	8	2	1	1889	3		183	204	390						2279	4862	
N25	1157	2		1159		2	2	1161	1	2	6			17	13	236	2			3	1	1	284			53	91	144						428	1589	
N26	508			508				508	1					9	1	92		1	1	1	2	1	109	1		9	81	91		1	1			201	709	
N27	58			58				58						4	2	4	1			1			13			8	3	11						24	82	
N28	1			1				1								1							1												1	2
N29	57			57				57							2	1	31						34				5	5							39	96
N31																1							1												1	1
O10	3			3				3								3							3												3	6
O11	24			24				24						2	2	96		11		1			112			21		21						133	157	
O12	20	131		151				151			1	1		3	1	51				2			59			28	1	29						88	239	
O13	35			35				35				3	1	4	4	54		2					68	1		4	20	25						93	128	
O14	22	2		24				24				1		8	2	21	1	5					38			6		6						44	68	
O15	42	1		43				43							1	55		3					60			16	13	29						89	132	
O16	74			74				74				1			1	308		3					313			503		503						816	890	
O17	22			22				22								4							4			5	41	46						50	72	
O18	73			73				73							4	29					1		34	1		19	5	25						59	132	
O19	153			153				153							4	55					5		64	1		11	21	33						97	250	

表5-1 包含層出土遺物一覽(2)

	土器類										石器・礫類																				石器・礫類 集計	総計							
	土器			土製品			土器 集計	石器															礫		石製品														
	IVa	IVc	V	土製品 集計	土製品 集計	土製品 集計		石 楯	石 錐	つまみ付ナイフ	スクレイパー	両面調整石器	筒状石器	Rフレイク	Uフレイク	剥片	石核	原石	石斧	たなき石	すり石	扁平打製石器	台石・石皿	砥石	石器 集計	小礫	大礫	礫片	礫 (円礫)	礫 集計			石製品 集計	異形石器	玉	石製品 集計			
																																					土器 集計	土製品 集計	土製品 集計
O20	796			796																				259	1	10	74	85						344	1140				
O21	345			345																				210	3	27	19	49						259	604				
O22	573			573		1	1																	124	1	35	6	42						166	740				
O23	739			739																				247	2	28	76	106						353	1092				
O24	1872			1872		4	4																	392	22	52	162	236						628	2504				
O25	909			909		1	1																	235	4	5	75	87						322	1232				
O26	449			449		1	1																	81		11	36	47						128	578				
O27	23			23																				10		7		7						17	40				
O28	26			26																				58		2		2						60	86				
O29	15			15																				16		1		1						17	32				
O30	3			3																				25		4		4						29	32				
P10	15			15																				18		2		2						20	35				
P11	8			8																				86		37	2	39						125	133				
P12	17			17																				79	1	14	3	18						97	114				
P13	3			3																				10		3		3						13	16				
P14	5			5																				9		12		12						21	26				
P15	21	1		22																				21	1	40	2	43						64	86				
P16	38			38																				15	1	20	4	25						40	78				
P17	16			16																				5		1		1						6	22				
P18	82	1		83																				10		16	3	19						29	112				
P19	575			575																				214		44	57	101						315	890				
P20	655			655		1	1																	179	1	66	34	101						280	936				
P21	530			530		1	1																	153	3	1	29	22	55					208	739				
P22	375			375																				483	2	6	25	31	64					547	922				
P23	561			561																				189	1	54	33	88						277	838				
P24	657			657																				273	1	58	43	102						375	1032				
P25	384			384		1	1																	151	1	2	20	24	47					198	583				
P26	377			377																				92		171	22	193						285	662				
P27	112			112																				29		32	21	53						82	194				
P28	12			12																				10		13		13						23	35				
P29	9			9																				4		2		2						6	15				
P30																								17										17	17				
Q10	7			7																				7		3	2	5						12	19				
Q11	14			14																				8		3		3						11	25				
Q12																								6			1	1						7	7				
Q15																								5										5	5				
Q16	5			5																				2		5	3	8						10	15				
Q17	5			5																				2		1		1						3	8				
Q18	6			6																				1		1		1						2	8				
Q19	224			224																				34		3	10	13						47	271				
Q20	188			188																				69		14	6	20						89	277				
Q21	194			194		3	3																	73	1	4	17	22	1		1			96	293				
Q22	335			335		1	1																	196		39	10	49						245	581				
Q23	396			396		1	1																	135		14	13	27						162	559				
Q24	187			187																				72		21	13	34						106	293				
Q25	81			81																				41		3	4	7						48	129				
Q26	24			24		2	2																	4		3	13	16						20	46				
不明	1			1																				142		6	1	7						149	150				
総計	28495	139	5	28639	1	1	292	294	28933	28	1	15	4	96	9	7	314	542	9089	34	98	22	109	17	3	28	1	10533	48	29	2614	2039	4739	1	1	1	3	15275	44208

表5-2 掲載土器一覧（包含層）(1)

掲載図番号	図版	接合関係						諸特徴								
		挿入番号	遺物番号	層位+掘り下げ回数	点数	分類	器形	残存部位	形状	特徴(表面)	表面色調	特徴(内面)	内面色調	重量g		
5-1	5-1	1	L25	11	IV	2	4	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で、口唇断面は角形である。	口縁直下とその3cm下に横帯貼付帯。貼付帯上にRL原体の縦回転による斜行縄文、地文:LR原体の縦回転による斜行縄文。貼付帯と地文により羽状縄文。貼付帯間は無文(手法A)	にぶい黄橙10YR7/4 灰黄褐 10YR4/2	横方向のナデ調整による	にぶい橙7.5YR7/4	78
		2	M26	3	IV	2	2	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で、口唇断面は丸形である。	口縁直下と2cm下に貼付帯が巡る。貼付帯上にはLR原体の縦回転による斜行縄文、地文は不明瞭である。貼付帯間は無文帯となる。	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄橙10YR6/3	縦方向のナデ調整による	褐灰10YR6/1 にぶい黄橙10YR7/4	49
		3	N23	3	IV	2	2	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で、口唇断面は角形である。	口縁直下と3cm下に細い貼付帯。貼付帯上にはRL原体の縦回転、地文はLR原体の横回転で羽状縄文となる。貼付帯間は無文帯(手法A)	灰白10YR8/2 褐灰10YR6/1	横方向のナデによる	にぶい黄橙10YR7/2	38
		4	M24	3	IV	2	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で、口唇断面は角形である。	口縁直下及び2cm下に1cm幅の貼付帯が巡る。貼付帯間は無文で、帯上にはLR原体の横回転、地文はLR原体の縦回転の組み合わせによる羽状縄文(手法A)	にぶい黄橙10YR6/4 褐灰10YR6/1	横方向のナデによる	にぶい黄橙10YR6/4	76
			M25	3	IV	1	1	IVa								
		5	N24	8	IV	3	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で、口唇断面は丸形である。	口縁直下と3.5cm下に2条の貼付帯とこの間の無文帯上に斜めの貼付帯がある。いずれの貼付帯上にもLR原体の横回転による斜行縄文が見られる。	にぶい黄橙 10YR7/2 浅黄橙10YR8/4	斜方向のナデ調整による 輪積み痕が明瞭	にぶい黄橙10YR6/4 灰白10YR8/2	36
		6	M24	3	IV	2	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で、口唇断面は角形である。	口縁直下と3cm下に2条の貼付帯。地文は無文で、貼付帯上にのみR原体の右巻き、左巻きによる網目状燃糸文が施される。	にぶい黄橙10YR7/4 灰黄褐 10YR6/2	縦方向のナデ調整による	にぶい黄橙10YR7/3	24
		7	M26	7	IV	5	2	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で、口唇断面は角形である。	口縁直下と3.5cm下に2条の貼付帯が巡る。両帯上にはLR原体による斜行縄文とLR原体による縄線文が施される。貼付帯間は無文で、地文は不明瞭であるがLR原体の縦回転による斜行縄文である。(手法A)	褐灰10YR5/1 にぶい橙7.5YR7/4	縦方向のナデ調整による	橙 5YR7/6	117
			M27	4	IV	2	3	IVa								
		8	L25	3	IV	2	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で、口唇断面はやや角ばる。	口縁直下と3.5cm下に2条の貼付帯が巡る。両帯上にはLR原体による縄線文が施される。貼付帯間は無文で、地文は不明瞭であるが斜行縄文である。	褐灰10YR5/1 にぶい黄橙10YR6/3	横方向のナデ調整による	褐灰10YR5/1 にぶい黄橙10YR6/4	45
		9	L24	7	IV	4	3	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	口縁は平縁で、口唇断面は丸形である。	口縁直下と3cm下に2条の貼付帯が巡る。両帯上にはLR原体による縄線文が施される。貼付帯間は無文で、地文はLR原体による横走縄文である。	にぶい黄橙10YR7/4 褐灰10YR4/1	横方向のナデ調整による	にぶい黄橙10YR6/3	57
			L24	8	IV	1	3	IVa								
		10	N26	9	IV	5	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形	口縁直下と4cm下に貼付帯2条に縦方向の貼付帯。両帯上にはLR原体の縄線文。貼付帯間と地文は無文	灰白10YR8/2 褐灰10YR4/1	横方向のナデ調整による	橙 7.5YR6/6	51
		11	M23	5	IV	3	3	IVa	小型深鉢形土器	口縁～底部	形状 波状口縁部張り出す。 特徴(表面)折返口縁上無文 地文:LR原体の回転による斜行、横走縄文	口唇丸形 折返口縁 胴部膨らみ、底部張り出す。	にぶい赤橙5YR4/4 橙 7.5YR6/6	縦方向のナデ調整 胴下部に炭化物	橙 7.5YR6/6 にぶい黄褐7.5YR5/4	58
			M24	3	IV	2	3	IVa								
		12	M24	4	IV	2	2	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形 折返口縁 口縁突起痕跡あり	折返口縁上指頭圧痕 地文:LR原体横回転による斜行縄文	暗褐7.5YR3/3 黒褐7.5YR3/2	横方向のナデ調整	にぶい赤褐5YR5/4 にぶい黄褐10YR4/3	66
		13	Q20	4	IV	3	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇尖る 折返口縁	折返口縁上無文 地文:LR原体横回転による斜行縄文	にぶい黄橙10YR7/3 褐灰10YR5/1	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/3 褐灰10YR4/1	47
		14	P25	3	IV	1	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形 折返口縁 大きく外反	折返口縁上無文 地文:LR原体横回転による斜行縄文	にぶい黄橙10YR7/3 黒2.5Y3/1	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR6/3	23
		15	Q25	3	IV	2	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形 折返口縁 口縁部外反	折返口縁上無文 地文:無文 一部縦位燃糸文の痕跡あり	橙5YR6/6 にぶい橙7.5YR6/4	横方向のナデ調整	にぶい赤褐5YR5/4 にぶい黄橙10YR7/4	45
		16	O25	4	IV	2	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形 厚手の折返口縁	折返口縁上は無文 地文:R原体の左巻きによる燃糸文	にぶい橙7.5YR6/4 にぶい橙7.5YR7/4	縦方向のナデ調整	にぶい橙7.5YR7/4 にぶい黄橙10YR7/4	28
		17	P25	1	攪乱	抜根	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 山形突起 口唇丸形 折返口縁	折返口縁上無文 地文:縦位沈線文	にぶい黄橙10YR6/4 橙 7.5YR6/6	横方向のナデ調整	橙7.5YR6/6	25
18	Q25	8	IV	0	2	IVa	小型深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形 折返口縁 やや外反	折返口縁上無文 地文:横走沈線に刺突列	にぶい黄橙10YR7/3	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 ～10YR7/3	11		
19	P21	4	IV	2	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 山形突起 口唇尖る 折返口縁	折返口縁、突起上無文 地文:無文(斜方向のナデ調整) 補修孔	にぶい黄橙10YR7/4 黒褐2.5Y3/1	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/3 黒5Y2/1	24		
20	M21	6	IV	2	4	IVa	大型深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇やや角形で肥厚 折返口縁	地文:折返口縁上も含めて、LR原体縦横回転による斜行縄文	にぶい黄橙10YR6/4 黒褐2.5Y3/1	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR6/3 灰黄褐 10YR4/2	153		
	M21	15	IV	4	1	IVa										
21	N21	10	IV	4	3	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇やや角形 重層折返口縁	重層折返口縁上無文 地文:LR原体縦横回転による羽状縄文	灰黄褐10YR7/4 黄灰2.5Y4/1	横方向のナデ調整 輪積み痕明瞭	にぶい黄橙10YR6/4	44		

表5-2 掲載土器一覧（包含層）（2）

掲載図番号	図版	接合関係						諸特徴														
		番号	グリッド	遺物番号	層位+掘り下り回数	点数	分類	器形	残存部位	形状	特徴（表面）	表面色調	特徴（内面）	内面色調	重量g							
5-1	22		N20	1	IV	上面	1	IVa	深鉢形土器	口縁部 胴部下 半全体 の2/3が 残存	形状 平縁で、口唇丸形である。口縁は貼付帯状の折返口縁である。胴部はほぼ直立し、円筒状である。 特徴[表面]全体に無文、折返口縁に指頭圧痕が見られる	褐灰10YR6/1 浅黄橙10YR8/3	明瞭な縦方向 のナデ調整	黄橙10YR7/2	600							
			N20	2	IV	1	9	IVa														
			N20	4	IV	3	1	IVa														
			N20	6	IV	4	4	IVa														
			N20	7	IV	5	2	IVa														
			N20	12	IV	3	1	IVa														
5-2	1	5-1	L25	5	IV	4	2	IVa	小型深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇角形 貼付帯状の折返口縁	折返口縁上にLR原体の縄線文1条 地文:LR原体の縦横回転（手法B）	にぶい黄橙10YR6/3	縦、横方向に ナデ調整	黄灰 2.5Y5/1	21						
			Q21	2	IV	1	2	IVa	小型深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形、やや外反	口縁直下LR原体の縄線文1条 地文: 無文(縦ナデ)	灰黄褐10YR7/4 にぶい黄橙10YR6/4	横方向のナデ 調整	黄褐10YR5/8 にぶい黄橙10YR5/4	29						
			N18	1	IV	1	1	IVa	小型深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形、やや肥厚する	口縁直下LR原体の縄線文1条 地文: LR原体の横回転による横走縄文(条が かすかに残るのみ)	にぶい赤褐5YR5/4 にぶい黄橙10YR6/3	横方向のナデ 調整	にぶい黄橙 10YR6/3	27						
			L26	1	IV	上面	2	IVa	大型深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形	口縁直下LR原体の縄線文1条 地文: LR原体の縦横回転による羽状縄文 (手法B)	にぶい黄橙10YR6/3 にぶい黄橙 10YR6/4	縦方向のナデ 調整	にぶい黄褐10YR5/3 にぶい黄橙10YR6/3	148						
			L26	2	IV	1	1	IVa														
			L26	3	IV	2	3	IVa														
			5-2	2	5-2	N25	14	IV	5	3	IVa	大型深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇角形	口縁直下LR原体の縄線文1条 地文: LR原体の縦横回転による羽状縄文 (手法B)	黒褐10YR3/2 にぶい黄橙10YR6/4	縦方向のナデ 調整	にぶい黄橙10YR5/4	63			
						N18	5	IV	5	1	IVa	大型深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形	口縁下LR原体の縄線文2条 地文:LR 原体の横回転による斜行縄文 炭化物 付着	明黄褐10YR6/6 にぶい黄橙10YR6/4	縦方向のナデ 調整	にぶい橙7.5YR7/4 にぶい黄褐7.5YR6/4	106			
						Q26	2	IV	1	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇尖る	口縁下LR原体の縄線文2条 地文:LR 原体の横回転による横走縄文	灰黄褐10YR7/4 にぶい黄橙10YR6/4	口縁上部 横 方向、下部 縦 方向のナデ調 整	灰黄褐10YR7/4 明黄褐10YR6/6	72			
						Q26	3	IV	2	1	IVa											
						Q26	6	IV	2	1	IVa											
						Q26	7	IV	2	1	IVa											
						5-2	3	5-2	O20	7	IV	3	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形	口縁下LR原体の縄線文 地文:LR 原体の横回転による斜行縄文	にぶい橙5YR6/4 褐灰10YR4/1	口縁上部 横 方向、下部 縦 方向のナデ調 整	橙5YR6/6 にぶい橙7.5YR6/4	92
									N18	1	IV	1	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形	口縁下LR原体の縄線文2条 地文:LR 原体の横回転による斜行縄文	橙 7.5YR6/6 灰黄褐 10YR4/2	縦方向のナデ 調整	にぶい黄橙10YR6/4 にぶい黄褐10YR5/3	29
									O21	3	IV	1	2	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇角形	口縁下LR原体の縄線文2条 口唇上 に刻み 地文:LR原体の横回転による 横走縄文	黄灰2.5Y5/1 黄灰2.5Y4/1	横方向のナデ 調整	暗黄2.5Y5/2 黄灰2.5Y5/1	33
									P23	3	IV	2	1	IVa	小型深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 山形突起貼付 口唇 やや尖る	口縁下LR原体の縄線文2条 地文:LR 原体の斜回転による横走縄文	灰黄褐 10YR6/2 にぶい黄橙10YR6/4	斜方向のナデ 調整	にぶい橙7.5YR6/4 にぶい褐7.5YR5/4	22
									O22	9	IV	4	1	IVa	小型深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇角形	口縁下LR原体の縄線文3条 口唇面 に縄文刻み 地文:LR原体の横回転による 斜行縄文	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄橙10YR6/4	縦、斜、横方向 のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄橙10YR6/4	68
									O22	10	IV	3	1	IVa								
			O22	16	IV				6	1	IVa											
5-2	4	5-2	P25	3	IV				1	1	IVa	小型深鉢形土器または壺形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形 大きく外反	口縁下 LR 原体の縄線文2条、地文: LR 原体横回転による斜行縄文	にぶい橙7.5YR6/4 にぶい褐7.5YR5/3	口縁直下表面 にLR 原体横 回転の斜行縄 文横、斜方向 のナデ調整	にぶい橙7.5YR6/4 にぶい褐7.5YR5/3	26			
			O25	6	IV				4	6	IVa	深鉢形土器または壺形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形 大きく外反	外反する口縁部の無文帯上にLR 原体 の縄線文2条 地文:LR 原体横回転による 斜行縄文	にぶい橙7.5YR7/4 にぶい橙7.5YR6/4	輪積み痕が明 瞭 横方向の ナデ調整	橙 7.5YR6/6 にぶい褐7.5YR5/4	43			
			M20	1	IV				1	1	IVa	深鉢形土器または壺形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形 大きく外反	外反する口縁部分にLR 原体2条の縄 線文 地文:LR 原体横回転による斜行 縄文に沈線あり 口唇上に縄文痕	橙 7.5YR6/6 にぶい褐7.5YR5/4	横方向のナデ 調整	橙 7.5YR6/6 にぶい橙7.5YR6/4	46			
			N24	46	覆土上層	旧P-14	6	IVa	小型深鉢形土器	胴部のみ	口縁に近い胴部	RL 原体の縄線文1条 地文:RL 原体の縦横回転による斜行縄文	黒5Y2/1 灰黄褐 10YR4/2	縦方向のナデ 調整(平滑)	にぶい黄橙10YR5/4 黒5Y2/1	64						
			P28	1	IV	3	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇角形 折返口縁 状の貼付帯	口縁直下貼付帯1条 LR 原体の縄線文1条 地文:斜行縄文(不明瞭)	オリーブ黒5Y3/1 にぶい黄褐10YR4/3	横方向のナデ 調整(平滑)	にぶい黄褐 10YR5/3	17						
			O26	1	IV	上面	2	IVa	小型深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形	口縁直下にLR 原体の縄線文1条、縦位 の縄線文2条 地文:LR 原体横回転による 斜行縄文	にぶい黄橙10YR6/3	縦方向のナデ 調整(小石粒)	にぶい黄橙 10YR6/4	13						
			M21	6	IV	2	2	IVa	大型深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 折返口 唇角形	折返口縁上無文 口縁下LR 原体の縄 線文横方向に2条、斜方向に2条の組み 合わせ 地文:LR 原体縦横回転による 斜行縄文	にぶい黄橙10YR6/4 にぶい黄橙10YR7/3	横方向のナデ 調整(平滑)	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄橙10YR6/4	44						

表5-2 掲載土器一覧（包含層）(3)

掲載図番号	図版	接合関係						諸特徴							
		挿入番号	遺物番号	層位+掘り下り回数	点数	分類	器形	残存部位	形状	特徴(表面)	表面色調	特徴(内面)	内面色調	重量g	
5-2	20	N24	1	IV	上面	1	IVa	大型深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 折返口縁 口唇角形	折返口縁上無文 口縁下LR原体の縄線文横方向に2条、斜方向に2条の組み合わせ 地文:LR原体縦回転による斜行縄文	褐灰10YR4/1 にぶい黄橙10YR6/4	横方向のナデ調整	褐灰10YR4/1 にぶい黄橙10YR5/4	101
		N24	28	IV	0	3	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形	口縁直下にLR原体の縄線文1条、縦位の縄線文3条 地文:LR原体横回転による斜行縄文	黄灰2.5Y4/1 灰黄2.5Y6/2	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄橙10YR6/3	22
	22	M21	1	IV	上面	1	IVa	小型深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形	口縁直下にLR原体の縄線文1条、口縁からモール状に垂下する縄線2条 地文:LR原体による横走縄文	灰黄褐 10YR4/2 黒褐 10YR3/2	縦方向のナデ調整(線)	にぶい黄橙10YR5/3 灰黄褐 10YR4/2	71
		M21	13	IV	3	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形	口縁直下にLR原体の縄線文1条、縦位の縄線文2条 地文:LR原体横回転による斜行縄文	灰白10YR8/2	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/3	38
	23	P26	5	IV	3	1	IVa	大型深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇角形	口縁直下からモール状に垂下するLR原体による縄線文1条、その下に横走する縄線文2条 地文:LR原体横回転による斜行~横走縄文	にぶい黄橙10YR7/3 褐灰10YR4/1	横方向のナデ調整(ガラガラ)	褐灰10YR5/1 にぶい黄橙10YR7/3	70
		O24	9	IV	3	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇角形	口縁からモール状に垂下するLR原体の縄線文が1条、その下に横位の縄線が1条 地文:LR原体の横回転による斜行縄文	浅黄橙10YR6/3	縦方向のナデ調整	橙5YR6/8 にぶい黄橙10YR7/4	36
	25	N22	6	IV	3	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇尖る	口縁下にLR原体の縄線文2条 口縁からモール状に垂下する縄線2条 地文:無文	灰白10YR8/2	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/3	33
		N22	7	IV	5	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇尖る	口縁下に2条のLR原体による縄線文2条と口縁からモール状に垂下する縄線2条 地文:無文(不明瞭)	にぶい黄橙10YR6/4	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR6/3	33
	27	O24	6	IV	1	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	緩やかな山形口縁 口唇丸形	口縁下にLR原体の縄線文2条、縄線文間に円形刺突列、この組み合わせが口縁下部にもあり。地文:LR原体横回転の斜行縄文	にぶい褐7.5YR5/4	横方向のナデ調整	にぶい橙7.5YR6/4 にぶい黄橙10YR5/3	31
	28	O26	6	IV	2	2	IVa	大型深鉢形土器	胴部のみ	ほぼ直立	LR原体の縄線1条が横走と縦位の縄線が3条 地文:LR原体の回転による横走縄文	にぶい黄橙10YR7/3 黒褐 10YR3/1	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR6/4 にぶい黄橙10YR5/3	179
		O26	7	IV	2	2	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形	地文:LR原体の横回転(口縁部)と縦回転(口縁下部)の羽状縄文(手法B)	にぶい黄橙 10YR7/2 褐灰10YR5/1	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/2 にぶい黄橙10YR6/3	311
		O26	8	IV	1,2	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形	地文:LR原体の横回転(口縁上部)と縦回転(下部)との羽状縄文(手法B)	にぶい黄橙 10YR7/3	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/3	30
5-3	1	L24	4	IV	3	4	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇角形	地文:LR原体の横回転(口縁部)と縦回転(口縁下部)の羽状縄文(手法B)	にぶい黄橙 10YR7/2 褐灰10YR5/1	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/2 にぶい黄橙10YR6/3	311
		L24	7	IV	4	6	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇角形	地文:LR原体の横回転(口縁上部)と縦回転(下部)との羽状縄文(手法B)	にぶい黄橙10YR7/4 褐灰10YR4/1	縦方向のナデ調整	明褐7.5YR5/6 褐灰10YR4/1	96
	2	L24	9	IV	2	3	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形	地文:LR原体の横回転(口縁上部)と縦回転(下部)との羽状縄文(手法B)	浅黄橙10YR8/4 暗褐7.5YR3/3	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 暗褐7.5YR3/3	100
		L25	5	IV	4	1	IVa	小型深鉢形土器	口縁~胴上半部	平縁 口唇丸形	地文:LR原体の回転による斜行(口縁部)と横走(胴部)縄文 補修孔あり(手法B)	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄褐10YR5/3	縦方向のナデ調整 輪積み痕が明瞭	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄褐10YR5/3	64
	3	L25	7	IV	3	2	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形	地文:LR原体の回転による斜行(口縁部)と横走(胴部)縄文 補修孔あり(手法B)	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄褐10YR5/3	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄褐10YR5/3	64
		L25	11	IV	2	4	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形	地文:LR原体の回転による斜行(口縁部)と横走(胴部)縄文 補修孔あり(手法B)	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄褐10YR5/3	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄褐10YR5/3	64
	4	N24	14	IV	5	2	IVa	深鉢形土器	口縁~胴上半部	平縁 口唇丸形	地文:LR原体の横回転(口縁上部)と縦回転(下部)との羽状縄文(手法B)	浅黄橙10YR8/4 暗褐7.5YR3/3	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 暗褐7.5YR3/3	100
		N21	13	IV	1	2	IVa	小型深鉢形土器	口縁~胴下半部	平縁 口唇丸形 口縁がやや外反し、胴部が緩やかに膨らむ	地文:LR原体の回転による斜行(口縁部)と横走(胴部)縄文 補修孔あり(手法B)	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄褐10YR5/3	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄褐10YR5/3	64
	5	N21	15	IV	2	4	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形	地文:LR原体の回転による斜行(口縁部)と横走(胴部)縄文 補修孔あり(手法B)	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄褐10YR5/3	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄褐10YR5/3	64
		N21	17	IV	3	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形	地文:LR原体の回転による斜行(口縁部)と横走(胴部)縄文 補修孔あり(手法B)	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄褐10YR5/3	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄褐10YR5/3	64
	6	N26	5	IV	2	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形	口縁直下は指頭丘痕 地文:LR原体の横回転と縦回転の組み合わせ(手法B)	にぶい黄橙10YR7/3 暗褐7.5YR3/3	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 黄橙10YR7/6	141
		N24	46	覆土上層	旧P-14	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形	口縁直下は指頭丘痕 地文:LR原体の横回転と縦回転の組み合わせ(手法B)	にぶい黄橙10YR7/3 暗褐7.5YR3/3	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 黄橙10YR7/6	141
7	N23	5	IV	2	1	IVa	小型深鉢形土器	口縁~胴下半部	平縁 口唇丸形 胴部は鋭角に立ち上がる	地文:LR原体の回転による横走縄文	橙5YR7/6 灰褐7.5YR4/2	斜方向のナデ調整	橙5YR6/6 褐灰7.5YR4/1	123	
	N23	6	IV	3	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形	地文:LR原体の回転による横走~斜行縄文(手法B)	にぶい黄橙10YR7/3 3灰黄褐10YR7/4	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 灰黄褐10YR7/4	96	
	N23	7	IV	4	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形	地文:LR原体の回転による横走~斜行縄文(手法B)	にぶい黄橙10YR7/3 3灰黄褐10YR7/4	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 灰黄褐10YR7/4	96	
8	N23	11	IV	1	3	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形 厚手	地文:LR原体の回転による横走~斜行縄文(手法B)	にぶい黄橙10YR7/3 3灰黄褐10YR7/4	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 灰黄褐10YR7/4	96	
	N25	11	IV	3	6	IVa	大型深鉢形土器	口縁~胴上半部	平縁 口唇やや角形 胴部緩やかな立ち上がり	地文:LR原体の縦回転、横回転による羽状縄文(口縁部)、斜行縄文(胴部)(手法B)	にぶい橙7.5YR6/4 橙 7.5YR6/6	口縁 横方向のナデ調整 胴部 縦方向のナデ調整	橙7.5YR6/6 にぶい褐7.5YR5/3	188	
9	N25	12	IV	4	2	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形	地文:LR原体の回転による横走~斜行縄文(手法B)	にぶい黄橙10YR7/3 3灰黄褐10YR7/4	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 灰黄褐10YR7/4	96	

表5-2 掲載土器一覧（包含層）（4）

掲載図番号	図版	接合関係						諸特徴								
		番号	グリッド	遺物番号	層位+掘り下げ回数	点数	分類	器形	残存部位	形状	特徴（表面）	表面色調	特徴（内面）	内面色調	重量g	
5-3	10	L24	5	IV	3	4	IVa	深鉢形土器	口縁～胴上半部	平縁 口唇尖る 胴部やや膨らむ	地文:口縁 LR原体の横回転 胴部同原体の縦回転で組み合わせの羽状縄文(手法B)	にぶい黄橙10YR7/4 灰黄褐10YR7/4	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 灰黄褐 10YR6/2	181	
		L24	10	IV	5	10	IVa									
	11	N20	10	IV	1	2	IVa	大型深鉢形土器	口縁～胴下半部	平縁 口唇やや角形 口縁外反、胴部緩やかに膨らむ	口頸部が無文帯 地文:無筋L原体の横回転(頸部下部)と縦回転(胴部)の組み合わせ(手法B)	橙5YR7/8 にぶい黄橙10YR7/4	横方向のナデ調整 輪積み痕が残る	橙5YR7/8 にぶい黄橙10YR7/2	540	
		N24	2	IV	1	2	IVa									
		O20	6	IV	2	1	IVa									
		P25	4	IV	2	1	IVa									
		Q24	4	IV	3	2	IVa									
		N26	4	IV	2	4	IVa									
	12	N26	6	IV	3	4	IVa	胴下半部分～底部	底面平坦 胴部の立ち上がりは100～110度である。底部と胴部の接合部には外側を覆う粘土痕が認められる	上段部分RL原体左巻の撚糸文と下段部分がRL原体の横走縄文が認められる。底部との接合部は横ナデ調整のみの無文である。底面は一部であるが無文である。	にぶい黄橙10YR7/3 橙5YR6/6	縦方向のナデ調整が施されている	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄橙10YR6/3	840		
		N26	8	IV	5	3	IVa									
		N26	9	IV	5	1	IVa									
		O21	6	IV	4	2	IVa									
		O21	7	IV	5	1	IVa									
		O21	8	IV	6	1	IVa									
5-4	1	N25	6	IV	2	7	IVa	小型深鉢形土器	口縁～胴下半部	平縁+山形小突起 口唇丸形 胴部わずかに膨らむ	地文:LR原体回転による横走縄文 胴下半部は無文	にぶい黄橙10YR7/4 灰黄褐10YR7/4	上半部、横方向のナデ調整 下半部、縦方向のナデ調整 炭化物付着	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄褐10YR5/3	203	
		N25	7	IV	4	4	IVa									
	2	N24	8	IV	3	2	IVa	小型深鉢形土器	胴部	器形 平縁、口唇断面丸形。口縁やや外反、胴部上半部が張り出す。底部底面は平坦、底面がわずかに張り出す 特徴(表面)RL原体の縦回転による斜行縄文 底面は無文である。	にぶい橙7.5YR6/4 にぶい褐7.5YR5/3	口縁付近は横方向、胴部以下は縦方向のナデ調整が施される。	橙 7.5YR6/6 にぶい褐7.5YR6/4	206		
		N24	38	覆土上層-一括	旧P-14	3	IVa									
		N24	46	覆土上層	旧P-14	5	IVa									
	3	N24	12	IV	4	1	IVa	大型深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形、一部肥厚、外反	口縁部及び口唇部にLR原体横回転による斜行縄文 地文:LR原体の縦、斜回転による斜行、横走縄文 小石粒が目立つ	橙 5YR6/6 黒 10YR1.7/1	横、斜方向のナデ調整	橙5YR6/6 褐7.5YR4/3	162	
		N24	28	IV	0	6	IVa									
		N24	31	覆土	旧P-14	3	IVa									
	7	4	L26	5	IV	3	1	IVa	大型深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇角形	地文:LR原体の縦回転による斜行縄文	にぶい黄橙 10YR7/4～10YR6/4	口縁部横方向のナデ調整 胴部 縦方向のナデ調整	にぶい黄橙 10YR7/4	63
			L25	11	IV	2	1	IVa								
		5	L25	11	IV	2	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇やや角形 薄手	地文:LR原体の回転による斜行縄文、縦走縄文	にぶい黄橙10YR7/3～10YR7/4	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4～10YR6/3	39
			Q23	9	IV	4	1	IVa								
		6	Q23	9	IV	4	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇角形やや外反	地文:LR原体の回転による横走縄文	にぶい橙7.5YR7/4 にぶい黄橙10YR7/4	口縁 横方向、胴部 縦方向のナデ調整	にぶい橙7.5YR7/4 にぶい橙7.5YR6/4	29
			O22	9	IV	4	1	IVa								
		8	N18	1	IV	1	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 山形小突起 口唇丸形 薄手	地文:LR原体の横回転による斜行縄文	にぶい黄橙10YR6/4 橙5YR6/4	横方向のナデ調整	橙5YR6/6 灰10Y4/1	22
				1	IV	1	1	IVa								
		9	P24	10	IV	4	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 山形小突起 口唇丸形 厚手	地文:LR原体の回転による斜行縄文	橙5YR6/6 褐灰10YR4/1	横方向のナデ調整	浅黄橙10YR6/3 橙5YR6/6	52
				10	IV	4	1	IVa								
10		Q21	10	IV	4	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形 薄手	地文:LR原体の回転による横走縄文	灰黄褐 10YR4/2 暗赤褐2.5Y3/2	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 灰黄褐 10YR4/2	33	
			10	IV	4	1	IVa									
11		O24	3	IV	1	3	IVa	深鉢形土器	口縁～胴上半部	平縁 口唇角形 薄手	地文:LR原体の縦回転による結節縄文	浅黄橙10YR6/3 褐灰10YR5/1	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR6/3 褐灰10YR5/1	158	
	4		IV	1	1	IVa										
	6		IV	1	4	IVa										
	9		IV	3	2	IVa										
	17		IV	5	1	IVa										
12	P19	2	IV	1	3	IVa	小型深鉢形土器	口縁～胴上半部	平縁 口唇尖りやや外反 薄手 胴部ほぼ直立	地文:RL原体の斜回転による縦走縄文	にぶい橙7.5YR6/4 黒褐 7.5YR3/1	縦方向のナデ調整	にぶい橙7.5YR6/4 黒褐 7.5YR3/1	55		
		2	IV	1	3	IVa										
13	N24	23	IV	7	8	IVa	深鉢形土器	胴下半部～底部底面	底面は平坦で、胴部の立ち上がりは100度でやや急である。	地文:RL原体の縦回転による斜行縄文 底面無文	橙5YR6/8 明赤褐 2.5YR5/8	縦方向のナデ調整が施されている。	にぶい褐7.5YR5/3 にぶい赤橙5YR4/4	841		
		38	覆土上層-一括	旧P-14	3	IVa										
		49	覆土上層	旧P-14	28	IVa										
		50	覆土上層	旧P-14	1	IVa										
		O25	2	IV	1	1									IVa	
		O25	4	IV	2	1									IVa	

表5-2 掲載土器一覧（包含層）(5)

掲載図番号	図版	接合関係						諸特徴							
		番号	グリッド	遺物番号	層位+掘り下げ回数	点数	分類	器形	残存部位	形状	特徴(表面)	表面色調	特徴(内面)	内面色調	重量g
5-5	1	M25	9	IV	4	2	IVa	小型深鉢形土器	口縁~胴上半部	平縁 口唇角形 折返口縁 胴部立ち上がり緩やか	折返口縁上を含めた地文:単節R原体の右、左巻きによる網目状燃糸文	にぶい黄橙10YR6/4 にぶい黄橙10YR5/4	横方向のナデ調整 小石粒が目立つ	にぶい黄橙10YR6/4 黒10YR2/1	178
		M25	10	IV	4	16	IVa								
		M25	12	IV	4	2	IVa								
	2	L25	3	IV	2	2	IVa	小型深鉢形土器	胴下半部~底部・底面	底面平坦 胴部の立ち上がりは100~110度である。	地文:単節R原体の右、左巻きによる網目状燃糸文 底面無文	明赤褐 2.5YR5/6 にぶい黄橙10YR6/4	上から縦方向のナデ調整から横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR6/4 にぶい黄橙10YR5/4	192
		L25	5	IV	4	2	IVa								
		L25	6	IV	2	3	IVa								
	3	O18	3	IV	2	1	IVa	小型深鉢形土器	口縁~胴上半部	平縁 口唇角形 や尖る 折返口縁 胴部立ち上がり緩やか	折返口縁上無文帯 地文:単節R原体の右、左巻きによる網目状燃糸文	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄橙10YR6/3	横方向のナデ調整(平滑)	にぶい黄橙10YR6/4	173
		O19	3	IV	3	1	IVa								
		P19	2	IV	1	3	IVa								
		P19	5	IV	4	1	IVa								
	4	N20	6	IV	4	2	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇角形や外反	口縁下横走沈線1条 地文:単節R原体の右、左巻きによる網目状燃糸文(細)	明赤褐5YR5/6 にぶい黄橙10YR6/4	横方向のナデ調整(平滑)	橙5YR6/6 にぶい赤褐5YR5/4	70
		P28	4	IV	0	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇角形	地文:単節R原体の右、左巻きによる網目状燃糸文(細)	にぶい黄橙10YR7/3 褐灰10YR5/1	横方向のナデ調整(こつこつ)	にぶい黄橙10YR7/3	21
	6	O24	2	IV	1	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇角形	地文:単節R原体の右、左巻きによる網目状燃糸文(太)	灰白10YR8/2 にぶい黄橙10YR6/4	横方向のナデ調整(こつこつ)	にぶい黄橙10YR6/4 褐灰10YR6/1	46
		O24	10	IV	4	1	IVa								
	7	M26	3	IV	2	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇角形	地文:単節R原体の右、左巻きによる網目状燃糸文(太)	にぶい黄橙10YR6/4	横方向のナデ調整(こつこつ)	にぶい黄橙10YR7/4	34
		M26	5	IV	3	1	IVa								
		N23	12	IV	2	1	IVa								
	8	O24	10	IV	4	1	IVa	大型深鉢形土器	口縁~胴下半部	平縁 口唇角形 胴部影らむ 外縁	地文:単節R原体の右、左巻きによる網目状燃糸文(太)	にぶい黄橙10YR7/4 黒7.5Y2/1	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR6/4 にぶい黄褐10YR5/3	463
		O25	4	IV	2	1	IVa								
		O25	6	IV	4	1	IVa								
		O25	8	IV	6	1	IVa								
		O26	2	IV	1	1	IVa								
	O26	5	IV	2	8	IVa									
	9	O19	4	IV	4	2	IVa	大型深鉢形土器	胴部	器壁外縁	地文:単節R原体の右、左巻きによる網目状燃糸文(太)	浅黄橙10YR6/3 にぶい橙7.5YR6/4	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 灰黄褐 10YR6/2	79
10	M22	2	IV	1	1	IVa	大型深鉢形土器	胴部	器壁外縁	地文:単節R原体の右、左巻きによる網目状燃糸文(太)	橙 7.5YR7/6	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 褐灰10YR4/1	119	
	M22	9	IV	2	1	IVa									
11	P19	3	IV	2	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇角形 や角形 折返口縁 厚手	折返口縁上 無文帯+指頭圧痕 地文:単節R原体の右、左巻きによる網目状燃糸文(太)	橙5YR6/6 にぶい橙7.5YR6/4	横方向のナデ調整	にぶい橙7.5YR6/4 褐灰10YR6/1	51	
	P19	5	IV	4	1	IVa									
	P19	6	IV	5	1	IVa									
12	P21	3	IV	1	1	IVa	深鉢形土器	胴部下半部	器壁外縁	地文:単節R原体の右、左巻きによる網目状燃糸文(太)	にぶい橙7.5YR7/4 ~7.5YR6/3	斜方向のナデ調整	灰白10YR8/1 にぶい橙7.5YR6/4	155	
	P21	6	IV	3	2	IVa									
	P21	7	IV	3	3	IVa									
13	P19	6	IV	5	1	IVa	深鉢形土器	胴部下半部~底部底面	底面平坦 器壁外縁	地文:単節R原体の右、左巻きによる網目状燃糸文(太) 底面無文	にぶい黄橙10YR7/4 黒褐2.5Y3/1	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR6/3 灰黄褐 10YR4/2	233	
	Q19	3	IV	2	3	IVa									
	Q19	7	IV	0	2	IVa									
14	L23	6	IV	1	2	IVa	小型深鉢形土器	胴部下半部~底部	形状 底部底面は平坦で、大きく張り出す形である。底部から胴部は括れを経て110度広がる器形である 文様(表面) LR原体の右巻き絡糸体による縦位燃糸文	にぶい黄橙10YR7/4 灰黄褐 10YR6/2	縦方向のナデ調整	にぶい橙7.5YR6/4 灰褐7.5YR4/2	193		
	L23	8	IV	2	1	IVa									
	M22	6	IV	2	1	IVa									
	M22	8	IV	2	1	IVa									
	M23	15	IV	4	1	IVa									
	M23	20	IV	0	1	IVa									
15	M20	1	IV	1	3	IVa	深鉢形土器	胴上半部片	外縁	LR原体の右巻き絡糸体による縦位燃糸文	にぶい黄橙10YR6/3 灰黄褐10YR7/4	縦方向のナデ調整	灰黄褐10YR7/4 褐灰10YR4/1	62	
	M20	2	IV	2	1	IVa									
	M20	10	IV	0	2	IVa									
16	N24	4	IV	2	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇角形 やや外反	無節Rの右巻きによる縦位燃糸文	にぶい褐7.5YR5/4 褐灰10YR4/1	縦方向のナデ調整	褐灰10YR4/1 にぶい橙7.5YR6/4	23	
1	P26	2	IV	1	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 わずかな突起あり 口唇丸形	蛇行沈線が垂下 地文:LR原体横回転による横走縄文	にぶい黄橙10YR7/3	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 黒褐10YR3/1	114	
	P26	3	IV	1	1	IVa									
2	N24	11	IV	3	4	IVa	大型深鉢形土器	口縁~胴下半部	平縁+2か所の刻みがある U字状の山形突起 口唇丸形	蛇行沈線が2か所で垂下 地文:LR原体横回転による横走縄文 口唇縄文	明黄褐 10YR7/6	口縁部 横方向のナデ調整 胴部 縦方向のナデ調整	明黄褐10YR7/6 灰黄褐10YR4/2	613	
	N24	14	IV	5	1	IVa									
	N24	28	IV	0	1	IVa									
	N24	39	覆土上層	旧P-14	1	IVa									
	N24	46	覆土上層	旧P-14	2	IVa									

表5-2 掲載土器一覧（包含層）(6)

掲載図番号	図版	接合関係						諸特徴								
		番号	グリッド	遺物番号	層位+掘り下げ回数	点数	分類	器形	残存部位	形状	特徴(表面)	表面色調	特徴(内面)	内面色調	重量g	
5-6	3	M22	4	IV	2	1	IVa	大型深鉢形土器	胴部	ほぼ直立	蛇行沈線が2か所で垂下 地文:LR原体横回転による横走縄文	にぶい黄橙10YR7/4 褐灰10YR4/1	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 灰黄褐10YR7/4	228	
		M25	12	IV	4	1	IVa									
		N23	2	IV	1	1	IVa									
		N23	3	IV	2	1	IVa									
	4	O22	9	IV	4	1	IVa	大型深鉢形土器	胴部	ほぼ直立	蛇行沈線が2か所で垂下 地文:LR原体横回転による横走縄文	橙5YR6/4 褐灰7.5YR5/1	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR6/3 黒10YR2/1	252	
		P26	2	IV	1	1	IVa									
		P26	3	IV	1	3	IVa									
		P26	4	IV	2	1	IVa									
	5-7	5	P27	2	IV	1	1	IVa	大型深鉢形土器	口縁~胴上半部	緩やかな山形 口縁 外反 口唇丸形	地文:無文 口縁無文帯 胴上半部の横走沈線から蛇行沈線が3本1組で垂下する	にぶい黄橙10YR7/4 褐灰10YR4/1	口縁部 横方向のナデ調整 胴部 縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 黒褐10YR3/1	126
			P23	7	IV	3	2	IVa								
5-5		6	P25	5	IV	3	1	IVa	壺形土器	口頸部のみ	平縁 口縁外反 口唇丸形	地文:無文 横方向のナデ調整	浅黄橙10YR8/4 褐灰10YR5/1	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/2	31
			N20	2	IV	1	5	IVa								
		7	Q19	3	IV	2	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 小突起 口唇丸形	地文:無文 輪積み痕を明瞭に残す	にぶい褐7.5YR5/4	横方向のナデ調整	橙5YR6/6 褐灰5YR4/1	17.5
			O23	11	IV	3	2	IVa								
		9	O23	15	IV	4	13	IVa	小型深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形	地文:無文 縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR6/4 褐灰10YR4/1	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/2 灰黄褐 10YR4/2	106
			P23	18	IV	4	1	IVa								
		10	N26	8	IV	5	1	IVa	壺形土器	胴部	屈折点に横位の橋状把手	地文:無文 横方向のナデ調整	浅黄橙10YR8/4 灰黄褐 10YR6/2	横方向のナデ調整	浅黄橙 7.5YR8/6	74
			N21	8	IV	2	10	IVa								
5-7	1	N21	9	IV	3	2	IVa	深鉢形土器	口縁~胴上半部	平縁 口唇丸形 口縁外反 胴部影らむ	地文:無文 頸部下の横走沈線下に曲線主体の沈線文	にぶい黄橙10YR7/4 褐灰7.5YR4/1	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 灰白10YR7/1	163	
		N21	11	IV	4	1	IVa									
		N21	21	IV	3	2	IVa									
		N25	7	IV	4	14	IVa									
	2	N25	23	IV	0	2	IVa	深鉢形土器	口縁~胴上半部	平縁+山形小突起 口縁外反 胴部影らむ	地文:無文 口頸部が無文帯 頸部下に横走沈線1条、沈線下に2本一組の並行沈線による曲線主体の沈線文	にぶい黄橙10YR7/3 褐灰10YR5/1	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR6/4 灰黄褐10YR7/4	256	
		P21	8	IV	1	2	IVa									
	3	P21	8	IV	1	2	IVa	深鉢形土器	口頸部のみ	平縁 口唇丸形 口縁外反	地文:無文 頸部に横走沈線1条 胴上半部に曲線主体の沈線文	にぶい黄橙10YR7/4 褐灰7.5YR4/1	横方向のナデ調整 炭化物付着多	橙5YR6/6	61	
		M22	3	IV	2	1	IVa									
	4	M22	3	IV	2	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形	地文:無文 口縁直下に横走沈線1条 その下に曲線主体の沈線文	にぶい橙7.5YR7/4 にぶい黄橙10YR7/3	横方向のナデ調整	にぶい褐7.5YR5/3	18	
		P21	3	IV	1	1	IVa									
5	P21	3	IV	1	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	波状口縁 口唇丸形	地文:磨消縄文 口縁下2本1組の横走沈線と入組文が描かれる。沈線文間にLR原体横回転の斜行縄文が残る	浅黄橙10YR8/4 橙5YR7/6	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4	16		
	P25	4	IV	2	1	IVa										
6	P25	5	IV	3	1	IVa	小型深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇細く尖る 口縁やや内傾 胴部影らむ	地文:無文 口縁下に並行した横走沈線2条 沈線間に波形の沈線文 沈線下は縄文かと思われるが不明瞭	橙5YR7/6 にぶい黄橙10YR6/3	横方向のナデ調整	浅黄2.5YR7/3 にぶい黄橙10YR6/4	25		
	P25	5	IV	3	1	IVa										
7	P23	13	IV	3	1	IVa	鉢形土器	口縁部のみ	山形突起 口唇丸形	地文:無文 突起の下に細沈線で入組文が描かれる	にぶい黄橙10YR6/3 黒褐10YR3/1	横方向のナデ調整	黒褐 10YR3/1	19		
	Q21	3	IV	2	1	IVa										
8	Q21	5	IV	3	3	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 刻みのある緩やかな山形突起 口唇丸形 口縁外反	地文:無文 口縁下に横走沈線1条 横走沈線下に三角から円形を描いた沈線文	にぶい黄橙10YR6/4 黒10YR2/1	縦方向のナデ調整	明黄褐10YR7/6 にぶい黄褐10YR4/3	57		
	N20	4	IV	3	2	IVa										
9	N20	4	IV	3	2	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	三角形突起 口唇丸形	地文:無文 三角形をモチーフにした渦巻状文	にぶい黄橙10YR7/4 ~10YR6/4	縦方向のナデ調整	明黄褐10YR6/6 黒褐 7.5YR3/1	39		
	M22	1	IV	上面	1	IVa										
5-6	10	M22	2	IV	1	1	IVa	深鉢形土器	口縁 胴上半部(未接合)	平縁 口唇丸形 口縁外反 胴部影らむ	地文:無文 胴上半部 三角形を重ねた形の沈線文	にぶい黄橙10YR7/4 灰黄褐 10YR4/2	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 灰黄褐 10YR4/2	96	
		M22	3	IV	2	11	IVa									
		P26	3	IV	1	1	IVa									
	11	P27	2	IV	1	1	IVa	壺形土器	胴上半部	胴部が影らむ器形	地文:無文 横走沈線と渦巻き状の沈線との組み合わせ	浅黄2.5Y7/4 黄灰2.5Y5/1	斜方向、横方向のナデ調整	にぶい黄橙 10YR6/4	66	
		P27	6	IV	5	1	IVa									

表5-2 掲載土器一覧（包含層）(7)

掲載図番号	図版	接合関係						諸特徴							
		番号	グリッド	遺物番号	層位+掘り下げ回数	点数	分類	器形	残存部位	形状	特徴(表面)	表面色調	特徴(内面)	内面色調	重量g
5-7	12	P23	2	IV	1	1	IVa	鉢形土器	口縁～胴上半部	平縁 口唇尖る 口縁外反 胴上半が膨らむ器形	地文:磨消縄文 口縁及び口唇にLR原体横回転による斜行縄文 口縁下に横走沈線1条 頸部以下は横走沈線下、LR原体横回転による横走縄文とモール状の沈線が2条	にぶい橙7.5YR7/4 にぶい褐7.5YR5/4	口縁直下に沈線文 横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/3 ～10YR4/3	76
		P23	4	IV	0	3	IVa								
	13	P22	3	IV	2	1	IVa	深鉢形土器	口縁～胴下半部	山形口縁 口唇角形 口縁やや外反 胴部膨らむ	口縁に沿ってRL原体による縄線文が2条 器面全体に2本一組の細い沈線が弧を描く組み合わせ 地文:LR縦横回転による斜行縄文	褐灰10YR5/1 にぶい黄橙10YR6/4	横方向のナデ調整 胴下半部で縦方向が加わる	灰黄褐10YR7/4 にぶい黄橙10YR6/4	396
		P22	5	IV	1	13	IVa								
		Q22	3	IV	2	2	IVa								
	14	N21	4	IV	2	1	IVa	大型深鉢形土器	口縁～胴下半部	平縁 口唇丸形 口縁外反 胴上半部がやや張り出す	幅の狭い口頸部は無文地に横走沈線2条 胴部全体に曲線主体の沈線により渦巻き文、入組文が描かれる 地文:LR原体横回転による斜行縄文 胴下半部は縦ナデにより無文	橙7.5YR7/6 明赤褐2.5YR5/6	口頸部 横方向 胴部 縦方向のナデ調整	にぶい橙2.5YR6/4 明赤褐2.5YR5/6	403
		N21	7	IV	3	1	IVa								
		N21	8	IV	2	2	IVa								
		N21	9	IV	3	1	IVa								
		N21	10	IV	4	1	IVa								
		N21	11	IV	4	1	IVa								
		N21	15	IV	2	1	IVa								
	15	O21	5	IV	3	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁+山形突起 口縁やや外反	横走に曲線主体の沈線 地文:LR横回転による横走縄文	橙5YR6/6 褐灰5YR4/1	横方向のナデ調整	にぶい橙7.5YR6/4	22
		N21	10	IV	4	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	刻みのある山形口縁 口唇丸形 口縁やや外反	地文:LR横回転による横走～斜行縄文	橙7.5YR7/6 褐7.5YR4/6	横方向のナデ調整	明赤褐5YR5/6	65
	5-8	1	P21	2	IV	1	1	IVa	大型深鉢形土器	口縁～底部全体の約2/3 底部と胴下半部が未接合	緩やかな波状口縁(5単位) 口唇丸形 口縁やや外反、胴部上半部がやや張り出す 底部底面平坦。	無文地に直線主体の沈線文が組み合わせられる。口縁直下には数条の横走沈線がめぐり、胴上半部全体に工字状文が展開する。 胴下半部は無文である。	にぶい黄橙10YR7/3 褐灰10YR4/1	ナデ調整が不明瞭ではあるが、全体に横方向に施されていると思われる。	にぶい黄橙10YR7/3 黒褐7.5YR3/2
P21			4	IV	2	1	IVa								
P21			5	IV	3	1	IVa								
P21			7	IV	3	1	IVa								
P21			8	IV	1	112	IVa								
2		N21	8	IV	2	1	IVa	小型鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇尖る	地文:無文 沈線文主体 乙字状沈線文帯と方形入組文帯	にぶい黄橙10YR7/3 褐灰10YR6/1	横方向のナデ調整 炭化物付着	にぶい黄橙10YR6/3	46
		3	O24	2	IV	1	1	IVa	小型深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇尖る 口縁折返状痕跡	地文:無文 沈線文主体 乙字状沈線文帯と方形入組文帯	にぶい黄橙10YR6/4 灰黄褐10YR7/4	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR6/4 褐灰10YR5/1
4			N20	2	IV	1	3	IVa	鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇尖る	地文:無文(一部縄文痕跡) 口縁上部横走沈線数条 口縁下部 方形入組文	にぶい黄橙10YR7/4	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 灰黄褐 10YR6/2
		5	N23	11	IV	1	4	IVa	深鉢形土器	口縁～胴上半部	平縁 口唇丸形 口縁やや外反	地文:無文 口縁下 横走沈線1条 口縁下部 方形入組文	浅黄橙10YR8/4 褐灰10YR5/1	横方向のナデ調整	浅黄橙10YR8/4 にぶい黄橙10YR7/4
6			M20	1	IV	1	4	IVa	鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇尖る 口縁やや外反	地文:無文 口縁下 横走沈線2条間に矢羽根状沈線文列 口縁下部 方形入組文帯	にぶい黄橙10YR6/4 にぶい黄褐10YR5/3	口縁からモール状に2条の沈線が垂下 横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR6/4 黒褐 10YR3/1
		M20	3	IV	3	1	IVa								
7		P19	2	IV	1	1	IVa	小型鉢形土器	口縁～胴上半部	平縁 口唇尖る 口縁内傾 胴部やや張り出す	地文:無文 口縁直下 乙字状沈線文列 縦位の方形入組文と弧状沈線の組み合わせ	橙5YR6/6 褐7.5YR4/3	横方向のナデ調整	橙 7.5YR6/6 黒 7.5YR2/1	45
		P19	7	IV	6	2	IVa								
		P19	9	IV	0	1	IVa								
		P20	4	IV	2	2	IVa								
	P20	9	IV	6	1	IVa									
8	N18	2	IV	2	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇角形	地文:LR原体横回転による斜行縄文縄文地に乙字状沈線文列 口縁下部に無文帯	黒褐 10YR3/1 にぶい黄橙10YR6/3	横方向のナデ調整 炭化物の付着	黒褐 10YR3/1	14	
	9	M20	3	IV	3	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇角形やや尖る	地文:LR原体横回転による斜行縄文縄文地に乙字状沈線文列 口縁下部の無文帯を挟んで縄文地の三角形沈線	黒褐 10YR3/1 にぶい黄橙10YR6/3	横方向のナデ調整 炭化物の付着	黒褐 10YR3/1	20
10	P19	2	IV	1	1	IVa	小型鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇角形やや尖る 口縁やや内傾、胴部わずかに張り出す	地文:無文(一部縄文痕跡あり) 口縁直下 乙字状沈線文列 口縁下部渦巻状沈線文	橙 7.5YR6/6 赤褐 5YR4/6	横方向のナデ調整 全面に炭化物の付着	褐 7.5YR4/6 黒 7.5YR2/1	30	
	P20	2	IV	1	2	IVa									
11	P20	5	IV	3	1	IVa	小型鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇尖る	地文:無文 口縁直下 乙字状沈線+横走沈線2条 口縁下部 渦巻状沈線文	にぶい橙7.5YR6/4 橙7.5YR6/6	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR6/4 黒褐10YR3/2	22	
	P19	6	IV	5	1	IVa									
	P20	4	IV	2	1	IVa									

表5-2 掲載土器一覧（包含層）(8)

掲載図番号	図版	接合関係						諸特徴							
		挿入番号	遺物番号	層位+掘り下げ回数	点数	分類	器形	残存部位	形状	特徴(表面)	表面色調	特徴(内面)	内面色調	重量g	
5-8	12	P19	7	IV	6	3	IVa	小型深鉢形土器	口縁～胴上半部	平縁 口唇尖る 口縁部外反 胴部張り出す器形	地文:無文 口縁直下 横走沈線と弧状沈線の組み合わせ 胴部 乙字状沈線文列	黒褐 10YR3/1 におい黄橙10YR6/3	横方向のナデ調整 炭化物の付着	黒褐10YR3/2 灰黄褐10YR6/2	43
		P19	8	IV	6	1	IVa	小型深鉢形土器	胴上半部	口縁との境に括れあり胴上半部がやや張り出す	地文:無文 胴上部 2条の横走沈線間に乙字状沈線文列	におい褐7.5YR5/4 黒褐7.5YR2/2	横～斜方向のナデ調整	におい褐7.5YR5/3 黒褐7.5YR2/2	
		P19	3	IV	2	2	IVa	小型深鉢形土器	胴上半部	口縁～口唇尖る 口唇部外反 頸部括れ 胴上半部張り出す	地文:無文 頸部 横走沈線2条 胴部 矢羽根状沈線文列	におい黄橙10YR7/3 黒10YR2/1	横方向のナデ調整	におい赤褐2.5YR5/3 暗赤灰2.5YR3/1	
		P19	4	IV	3	2	IVa	小型深鉢形土器	胴上半部	山形突起 口唇丸形 口縁外反	地文:無文(一部縄文残る) 口縁直下 並行横走沈線文 菱形の組み合わせ	黒褐7.5YR3/1 黒褐7.5YR3/1	横方向のナデ調整	におい褐7.5YR5/3 黒7.5YR2/1	
		P19	5	IV	4	1	IVa	小型深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇尖る 口縁部外反	地文:無文 口縁下 2本一組の横走沈線2条間に2本1組の沈線で菱形が描かれる	におい橙7.5YR6/4 橙5YR6/6	横方向のナデ調整	灰褐7.5YR4/2 黒7.5YR2/1	
		Q20	5	IV	2	1	IVa	小型鉢形土器	口縁～胴下半部	平縁 口唇尖る 口縁やや外反	地文:無文 胴部上半 横走沈線間 2本1組の沈線で菱形が描かれる	橙7.5YR7/6 におい橙7.5YR6/4	横方向のナデ調整 部分的に炭化物付着	におい褐7.5YR5/3 黒褐 7.5YR3/1	
	14	N20	2	IV	1	2	IVa	深鉢形土器	胴上半部	胴部傾斜立ち上がり	地文:RL原体横回転による斜行縄文と無文帯 縄文地に不等号状の沈線文列	におい黄橙10YR7/3 におい黄褐10YR5/3	縦方向のナデ調整	におい黄橙10YR5/4	50
		N23	19	IV	3	1	IVa	鉢形土器	口縁部のみ	山形突起 口唇丸形 口縁外反	地文:無文(一部縄文残る) 口縁直下 並行横走沈線文 菱形の組み合わせ	黒褐7.5YR3/1 黒褐7.5YR3/1	横方向のナデ調整	におい褐7.5YR5/3 黒7.5YR2/1	
		N23	5	IV	2	1	IVa	小型鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇尖る 口縁部外反	地文:無文 口縁下 2本一組の横走沈線2条間に2本1組の沈線で菱形が描かれる	におい橙7.5YR6/4 橙5YR6/6	横方向のナデ調整	灰褐7.5YR4/2 黒7.5YR2/1	
		N23	6	IV	3	1	IVa	小型鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇尖る 口縁部外反	地文:無文 口縁下 2本一組の横走沈線2条間に2本1組の沈線で菱形が描かれる	におい橙7.5YR6/4 橙5YR6/6	横方向のナデ調整	灰褐7.5YR4/2 黒7.5YR2/1	
		N23	11	IV	1	1	IVa	小型鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇尖る 口縁部外反	地文:無文 口縁下 2本一組の横走沈線2条間に2本1組の沈線で菱形が描かれる	におい橙7.5YR6/4 橙5YR6/6	横方向のナデ調整	灰褐7.5YR4/2 黒7.5YR2/1	
		N23	2	IV	1	3	IVa	小型鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇尖る 口縁部外反	地文:無文 口縁下 2本一組の横走沈線2条間に2本1組の沈線で菱形が描かれる	におい橙7.5YR6/4 橙5YR6/6	横方向のナデ調整	灰褐7.5YR4/2 黒7.5YR2/1	
18	N23	3	IV	2	1	IVa	小型鉢形土器	口縁～胴下半部	平縁 口唇尖る 口縁やや外反	地文:無文 胴部上半 横走沈線間 2本1組の沈線で菱形が描かれる	橙7.5YR7/6 におい橙7.5YR6/4	横方向のナデ調整 部分的に炭化物付着	におい褐7.5YR5/3 黒褐 7.5YR3/1	62	
	N23	5	IV	2	1	IVa	小型鉢形土器	口縁～胴下半部	平縁 口唇尖る 口縁やや外反	地文:無文 胴部上半 横走沈線間 2本1組の沈線で菱形が描かれる	橙7.5YR7/6 におい橙7.5YR6/4	横方向のナデ調整 部分的に炭化物付着	におい褐7.5YR5/3 黒褐 7.5YR3/1		
	N23	6	IV	3	1	IVa	小型鉢形土器	口縁～胴下半部	平縁 口唇尖る 口縁やや外反	地文:無文 胴部上半 横走沈線間 2本1組の沈線で菱形が描かれる	橙7.5YR7/6 におい橙7.5YR6/4	横方向のナデ調整 部分的に炭化物付着	におい褐7.5YR5/3 黒褐 7.5YR3/1		
	N23	6	IV	3	1	IVa	小型鉢形土器	口縁～胴下半部	平縁 口唇尖る 口縁やや外反	地文:無文 胴部上半 横走沈線間 2本1組の沈線で菱形が描かれる	橙7.5YR7/6 におい橙7.5YR6/4	横方向のナデ調整 部分的に炭化物付着	におい褐7.5YR5/3 黒褐 7.5YR3/1		
19	O24	1	IV	上面	1	IVa	鉢形土器	口縁部のみ	緩やかな波状 口縁 口唇丸形 口縁やや外反	地文:無文 口縁下部の横走沈線間 鋸歯状沈線文	におい黄橙10YR6/4 灰黄褐10YR7/4	横～斜方向のナデ調整 縄?の圧痕、補修孔の途中	におい黄橙10YR6/3 におい黄褐10YR5/3	22	
	Q24	7	旧土器開い炉	2	2	IVa	深鉢形土器	胴下半部～底部	底面平坦 やや張り出し 上がり縁	地文:無文 横走沈線と方形入組文 底面無文	におい黄橙10YR6/3 におい黄7.5YR7/4	横方向のナデ調整	褐灰10YR6/1		
5-9	1	M22	9	IV	2	2	IVa	深鉢形土器	口縁～胴上半部	形状 平縁 口唇丸形 口縁やや外反 頸部に括れ 胴上半部張り出す 薄手	特徴(表面) 地文:無文 LR原体の斜行縄文が充填された2本の沈線が横走及び工字文を描く	橙7.5YR6/6 褐灰7.5YR5/1	横方向のナデ調整	におい黄橙10YR6/3 灰黄褐 10YR6/2	51
		N22	6	IV	3	2	IVa	深鉢形土器	口縁～胴上半部	形状 平縁 口唇丸形 口縁やや外反 頸部に括れ 胴上半部張り出す 薄手	特徴(表面) 地文:無文 LR原体の斜行縄文が充填された2本の沈線が横走及び工字文を描く	橙7.5YR6/6 褐灰7.5YR5/1	横方向のナデ調整	におい黄橙10YR6/3 灰黄褐 10YR6/2	
	2	N24	3	IV	1	3	IVa	小型深鉢形土器	口縁～胴上半部	平縁 口唇丸形 折返口縁直立	地文:磨消縄文(LR原体縦横回転) 折返口縁部無文 胴上半部 カニのはさみ状沈線文	におい黄橙10YR7/3 褐灰10YR6/1	横方向のナデ調整	におい黄橙10YR7/3 におい黄橙10YR6/3	77
		N24	53	覆土上層	旧P-14	4	IVa	小型深鉢形土器	口縁～胴上半部	平縁 口唇丸形 折返口縁直立	地文:磨消縄文(LR原体縦横回転) 折返口縁部無文 胴上半部 カニのはさみ状沈線文	におい黄橙10YR7/3 褐灰10YR6/1	横方向のナデ調整	におい黄橙10YR7/3 におい黄橙10YR6/3	
	3	O24	2	IV	1	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇丸形	地文:単筋Lによる斜行縄文 横走沈線 楕円形の区画文	橙2.5YR6/8	横方向のナデ調整	におい橙2.5YR6/6	18
	4	M22	9	IV	2	1	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇やや角形	地文:無文 LR原体横回転の斜行縄文を充填した2本の沈線が横走	におい黄橙10YR6/4 灰黄褐10YR7/4	横方向のナデ調整	におい黄橙10YR6/4 褐灰10YR5/1	
	5	N20	4	IV	3	2	IVa	深鉢形土器	胴上半部	ほぼ直立直立	地文:斜行縄文(不明瞭)縄文地上に曲線入組沈線文	におい黄橙10YR6/4 褐灰10YR5/1	縦方向のナデ調整	におい黄橙10YR5/3 暗褐10YR3/3	54
	6	M23	1	IV	上面	1	IVa	深鉢形土器	胴下半部～底部	底面はやや上げ底 胴部は緩やかな立ち上がり	底面は円形の沈線 地文:磨消縄文(LR原体縦横回転)の斜行縄文 曲線主体の入組沈線文	におい黄橙10YR6/4 褐灰10YR4/1	横方向のナデ調整	におい黄橙10YR6/4 灰黄褐10YR7/4	
	7	P19	4	IV	3	1	IVa	鉢形土器	胴上半部	小片で不明	地文:無文部分と斜行縄文部分あり 無文地上 竹管状工具による円形刺突文列 縄文地には横走沈線	におい黄橙10YR7/4 褐灰10YR4/1	縦方向のナデ調整	橙5YR7/6 橙5YR6/6	8
		P19	5	IV	4	1	IVa	鉢形土器	胴上半部	小片で不明	地文:無文部分と斜行縄文部分あり 無文地上 竹管状工具による円形刺突文列 縄文地には横走沈線	におい黄橙10YR7/4 褐灰10YR4/1	縦方向のナデ調整	橙5YR7/6 橙5YR6/6	
	8	O24	3	IV	1	1	IVa	鉢形土器	口縁部のみ	半円形突起 口唇丸形	地文:無文 棒状工具による円形刺突文列2条 口唇にも刺突列	淡黄2.5Y7/3 におい黄2.5Y6/3	横方向のナデ調整	淡黄2.5Y7/4 暗灰2.5Y4/2	7
9	P19	3	IV	2	1	IVa	鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇細く尖る 薄手	地文:無文 竹管状工具による円形刺突列2条 横走沈線	におい橙7.5YR6/4 灰褐7.5YR4/2	横方向のナデ調整	橙7.5YR7/6 橙5YR6/6		
10	P23	8	IV	3	1	IVa	鉢形土器	口縁部付近	やや内傾する部分	地文:無文 並行する横走沈線間3列に縄端圧痕文列	灰黄2.5Y7/2	横方向のナデ調整	黒褐2.5Y3/1 淡黄2.5Y8/3	8	
	P23	16	IV	0	1	IVa	鉢形土器	口縁部付近	やや内傾する部分	地文:無文 並行する横走沈線間3列に縄端圧痕文列	灰黄2.5Y7/2	横方向のナデ調整	黒褐2.5Y3/1 淡黄2.5Y8/3		
11	N20	10	IV	1	1	IVa	深鉢形土器	口縁～胴上半部	平縁+小突起 口唇丸形 ほぼ直立する 胴部	地文:RL原体横回転による横走縄文 RL原体による並行する横走縄文 口縁突起下に円形貼付が3点縦位に並び、各貼付には円形の刺突あり	におい褐7.5YR5/4 黒7.5YR7/1	横方向のナデ調整	橙 7.5YR6/6 明褐7.5YR5/6	37	
	O20	6	IV	2	1	IVa	深鉢形土器	口縁～胴上半部	平縁+小突起 口唇丸形 ほぼ直立する 胴部	地文:RL原体横回転による横走縄文 RL原体による並行する横走縄文 口縁突起下に円形貼付が3点縦位に並び、各貼付には円形の刺突あり	におい褐7.5YR5/4 黒7.5YR7/1	横方向のナデ調整	橙 7.5YR6/6 明褐7.5YR5/6		

表5-2 掲載土器一覧（包含層）(9)

挿図	番号	番号	接合関係					諸特徴							
			グリッド	遺物番号	層位+掘り下げ回数	点数	分類	器形	残存部位	形状	特徴(表面)	表面色調	特徴(内面)	内面色調	重量g
5-9	12	M25	5	IV	3	3	IVa	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁+小突起 口唇角形	地文:無文 口縁に沿ったLR原体の縄線1条 口唇上にLR原体の斜行縄文 突起下に竹管状工具による円形刺突及び円形貼付上に円形刺突	灰赤 2.5Y6/2 暗赤褐 2.5Y3/2	横方向のナデ調整	灰黄2.5Y7/2 暗灰黄2.5Y5/2	26
	13	M26	8	IV	4	1	IVa	鉢形土器	口縁部のみ	山形口縁 口唇丸形	地文:無文 山形口縁に円形貼付が垂下し、各貼付に円形刺突あり	にぶい黄橙10YR7/3 灰黄褐 10YR4/2	わずかに横方向のナデが見られる	にぶい黄橙10YR7/3 褐灰10YR5/1	14
	14	N26	12	IV	3	1	IVa	鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇角形	地文:RL原体横回転による斜行縄文 縦位に刻まれた貼瘤	浅黄2.5Y7/4 暗赤褐2.5Y3/2	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4	14
	15	N25	26	IV	1	2	IVc	ミニチュア壺形土器	口頸部のみ	壺形の口頸部分 口縁外反頸部張り出す	地文:無文 胴部との肩部に横走沈線と貼瘤が2か所	にぶい黄橙10YR7/4 褐灰10YR6/1	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4	10
	16	M21	5	IV	1	1	IVa	ミニチュア鉢形土器	口縁~底部	平縁 口唇丸形 底面はやや平底	地文:無文 手捏ね	にぶい黄橙10YR7/3 灰黄褐 10YR6/2	手捏ね	にぶい黄橙10YR7/4 褐灰10YR4/1	7
	17	P23	3	IV	2	1	IVa	ミニチュア	胴下半部~底部	底部は二又状	地文:縄文を意識した刺突	灰黄褐 10YR6/2 灰黄褐10YR7/4	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR6/3	6
	18	Q16	1	IV	1	1	IVc	深鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇角形 口縁やや外反	地文:LR原体横回転による斜行縄文 胴部との境に横走沈線に画された無文帯 縄文地上に斜方向の並行沈線5条 口唇上に地文と同じ斜行縄文	灰黄褐10YR7/4 褐灰10YR4/1	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/3 褐灰10YR4/1	25
	19	O12	5	IV	0	26	IVc	壺形土器	口縁~胴下半部 (全体1/4弱)	平縁、丸形口唇、頸部は直立する。胴部が大きく張り出す器形である。	口縁部にはRLとLR原体の横回転による羽状縄文を地文に2条の横走沈線が並行にめぐる。頸部は無文。胴部は羽状縄文を地文にした磨消縄文で、入組文。渦巻状の中心や文様の接点などに貼瘤が付く。胴下半部は無文で磨かれている。	にぶい黄橙10YR6/4	ほぼ全体に横方向のナデ調整が施されている	にぶい黄橙10YR7/4	1300
		O12	6	IV	0	45	IVc								
	20	N20	5	IV	3	1	V	鉢形土器	口縁部のみ	平縁+山形小突起 口唇角形(沈線で刻まれる)	地文:LR原体横回転の斜行縄文 並行する横走沈線が4条 突起直下と3条目の沈線間に小突起あり	にぶい黄橙10YR6/4 7.5YR7/6	突起裏面に三又文と横走沈線2条 横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 黒褐10YR3/1	19
21	M20	1	IV	1	3	V	鉢形土器	口縁部のみ	平縁 口唇角形 口縁内傾し胴部やや張り出す	地文:LR原体横回転の斜行縄文 並行する浅い横走沈線10条	にぶい黄橙10YR7/4 黒10YR2/1	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 橙 7.5YR6/6	23	
	M20	2	IV	2	1	V									
5-10	1	O25	3	IV	1	4	IVa	深鉢形土器	胴下半部~底部底面	形状 底面やや上げ底 やや張出 胴部壁若干の括れ~直角に近い立ち上がり 特徴(表面) 底面 無文 胴部 RL原体横回転の斜行縄文	にぶい黄橙10YR7/4 褐灰10YR5/1	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR6/4 褐灰7.5YR6/1	184	
	2	O20	2	IV	1	2	IVa	深鉢形土器	胴下半部~底部底面	底面平坦 張出 胴部壁 直立に近い括れ~やや開き気味の立ち上がり	底面 無文 括れ部 横ナデ調整 胴部 LR原体横回転の斜行縄文	にぶい黄橙10YR7/4 褐灰7.5YR6/1	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 褐灰10YR4/1	73
	3	P24	2	IV	1	1	IVa	深鉢形土器	胴下半部~底部底面	底面平坦 わずかに張出 若干の括れ~やや開き気味の立ち上がり	底面 無文 ひも状の圧痕あり 胴部 LR原体横回転の斜行縄文	黄褐10YR5/6 褐灰10YR4/1	横方向及び同心円状(底面)のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 褐灰10YR4/1	93
	4	N25	8	IV	5	1	IVa	深鉢形土器	胴下半部~底部底面	底面上げ底 わずかに張出、ほぼ直立の立ち上がり	底面 葉脈状の圧痕 胴部 横方向のナデ調整により無文	橙 2.5YR6/6 褐灰7.5YR5/1	横方向のナデ調整 底部は円形のナデ調整	灰白10YR8/1 褐灰10YR6/1	131
	5	P23	4	IV	0	2	IVa	浅鉢形土器	胴下半部~底部底面	底面平坦 括れなく高台状のわずかな立ち上がりから胴部が大きく開く。	底面 無文 胴部 地文:無文 LR原体斜行縄文の充填された並行横走沈線のみ	橙2.5YR6/8 褐灰10YR4/1	横方向のナデ調整	にぶい橙7.5YR6/4 黒10YR2/1	50

表5-2 掲載土器一覧（包含層）(10)

掲載図番号	図版	接合関係							諸特徴							
		挿入番号	遺物番号	層位+掘り下げ回数	点数	分類	器形	残存部位	形状	特徴(表面)	表面色調	特徴(内面)	内面色調	重量g		
5-10	5-8	6	M26	3	IV	2	1	IVa	深鉢形土器	胴下半部～底部底面	底面平坦 括れなく直立気味の立ち上がり	底面 無文地に葉脈圧痕 胴部 RL原体横回転による斜行縄文	灰白10YR7/1 にぶい橙2.5YR6/4	横方向のナデ調整	灰白10YR8/2 灰黄褐 10YR6/2	63
		7	M26	5	IV	3	1	IVa	深鉢形土器	胴下半部～底部底面	底面平坦 わずかな張出で、括れからやや開き気味の立ち上がり	底面 無文地に葉脈圧痕 胴部 LR原体縦回転による斜行縄文	橙5YR7/6 褐灰10YR5/1	横方向のナデ調整	灰白10YR7/1 明黄褐10YR6/6	39
		8	M20	1	IV	1	2	IVa	小型深鉢形土器	胴下半部～底部底面	底面平坦 楕円形 やや張出、若干の括れ～直立気味の立ち上がり	底面 RL原体による斜行縄文 胴部 RL原体横回転による斜行縄文(不明瞭)	にぶい黄橙10YR7/4 橙5YR6/6	横方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 褐灰10YR5/1	74
		9	N23	3	IV	2	1	IVa	深鉢形土器	胴下半部～底部底面	底面平坦 底部折返部分～ほぼ直立気味の立ち上がり	底面 無文 底部折返部分 無文 胴部 LR原体縦回転の斜行縄文	にぶい黄橙10YR7/3 灰黄褐 10YR4/2	横方向及び斜方向(底面)ナデ調整	にぶい黄橙10YR7/3 褐灰10YR5/1	136
			N23	6	IV	3	1	IVa								
		10	M24	3	IV	2	2	IVa	大型深鉢形土器	胴下半部～底部底面	底面平坦 わずかな垂直の括れ～大きく開く緩やかな立ち上がり	底面 無文 胴部 単脚L原体縦回転による横走縄文	橙5YR6/6 褐灰10YR5/1	横方向のナデ調整	明赤褐5YR5/6 にぶい黄橙10YR7/4	318
			M24	4	IV	2	4	IVa								
			M24	6	IV	5	1	IVa								
		11	M24	6	IV	5	1	IVa	小型深鉢形土器	胴下半部～底部底面	底面平坦 括れなくやや開き気味に立ち上がる	底面 無文 胴部 R原体右巻きによる撚糸文	にぶい黄橙10YR7/4 灰黄褐 10YR6/2	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/3 褐灰10YR4/1	65
		12	M25	4	IV	3	1	IVa	大型深鉢形土器	胴下半部～底部底面	底面平坦 括れなくわずかに直立し、やや開き気味に立ち上がる	底面 RL原体による斜行縄文 胴部 無文 立ち上がり部に横方向のナデ調整	橙5YR6/8 褐灰5YR4/1	横方向及び同心円状(底面)のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 褐灰10YR5/1	167
			M25	9	IV	4	1	IVa								
		13	P24	4	IV	2	7	IVa	小型深鉢形土器	胴下半部～底部底面	底面平坦 立ち上がり部分が直立 胴部が開き気味	底面 無文 胴部 RL原体横回転の横走縄文	橙5YR6/6	縦方向のナデ調整	にぶい黄橙10YR6/4	90
			P24	6	IV	2	2	IVa								
		14	N15	1	IV	上面	3	IVa	深鉢形土器	胴上半部～底部底面	底面平坦 立ち上がり直立 胴部は緩やかに開き、上部で直立	底面無文 胴上半部 RL原体縦回転による斜行縄文 下半部は縦方向のナデ調整	橙7.5YR6/6 黒褐 7.5YR3/1	胴上半部 縦方向のナデ調整 底部付近横方向のナデ調整 底面同心円状のナデ調整	にぶい黄橙10YR4/3 黒10YR2/1	358
			N15	3	IV	1	15	IVa								
			N15	4	IV	2	1	IVa								
15	O26	1	IV	上面	1	IVa	深鉢形土器	胴下半部～底部底面	形状 底面平坦 胴部器壁 底面から垂直または括れ部を経て開いて立ち上がる 特徴(表面) 底面 無文 胴部上部にRL原体の斜行縄文(不明瞭)	橙 2.5YR6/6 黒褐 10YR3/1	横方向及び同心円状のナデ調整	にぶい黄橙10YR7/4 黒10YR2/1	730			
	O26	6	IV	2	4	IVa										
	O26	8	IV	1,2	1	IVa										
	O26	9	IV	3	1	IVa										
16	O14	1	IV	1	1	IVc	浅鉢形土器	胴下半部～底部底面	底面はやや上げ底の丸底 胴部は丸みのある緩やかな立ち上がり	底面 無文 胴部 RL原体の縦横回転による羽状縄文 打ち欠きと思われる人為的な割れ口部分が見られる。	黄橙10YR8/6 黒10YR2/1	横方向及び放射状(底面)のナデ調整	黄橙10YR8/6 黒7.5YR2/1	103		
	P15	6	IV	0	1	IVc										

表5-3 掲載石器等一覧（包含層）(1)

掲載 挿図番号	図版	器種	グリッド 遺構名	遺物番号 (石器・礫)		層位		グリッド	内訳 点数	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状態	諸特徴
				22	1	IV	2									
5-11	5-8	石鏃	L25	22	1	IV	2	L25	1	頁岩	(4.05)	1.52	0.28	(1.4)	完存	凸基有茎鏃 両面に広く剥離面 側縁直線 基部にアスファルト塊付着 薄い
		石鏃	N24	26		IV	5	N24	1	頁岩	(3.85)	1.62	0.41	(2.2)	部分欠損	凸基有茎鏃 先端部欠損 両面剥離 側縁直線 背面左辺に欠損
		石鏃	N26	7		IV	2	N26	1	頁岩	(3.60)	1.60	0.40	(2.1)	部分欠損	凸基有茎鏃 先端部欠損 両面剥離 側縁直線
		石鏃	M25	1		IV	上面	M25	1	頁岩	(3.30)	1.60	0.47	(2.1)	部分欠損	凸基有茎鏃 基部欠損 両面剥離 側縁直線
		石鏃	N24	14	1	IV	3	N24	1	頁岩	(3.38)	1.54	0.50	(2.0)	部分欠損	凸基有茎鏃 先端部欠損 両面全面 剥離 側縁直線
		石鏃	N25	27		IV	5	N25	1	頁岩	3.28	1.17	0.46	1.4	完存	凸基有茎鏃 背面に原石面 腹面に 剥離面残る 側縁直線
		石鏃	O20	21		IV	0	O20	1	頁岩	(3.56)	1.30	0.52	(2.8)	部分欠損	凸基有茎鏃 基部欠損 両面広く 剥離面を残す 周縁を調整 側縁外湾
		石鏃	N22	13		IV	3	N22	1	頁岩	3.61	1.17	0.61	2.1	完存	凸基有茎鏃 両面全面剥離 側縁直線
		石鏃	N20	5	1	IV	1	N20	1	頁岩	(2.87)	1.37	0.48	(1.4)	部分欠損	凸基有茎鏃 先端部欠損 両面剥離 側縁外湾
		石鏃	O26	3	3	IV	1	O26	1	頁岩	2.86	1.17	0.40	1.1	完存	凸基有茎鏃 両面に広い剥離面 側縁直線
		石鏃	O23	41		IV	0	O23	1	頁岩	(3.10)	1.00	0.50	(1.6)	部分欠損	凸基有茎鏃 先端部、基部欠損 両面に広い剥離面 側縁直線
		石鏃	O25	6	1	IV	2	O25	1	頁岩	(3.17)	1.38	0.43	(1.8)	完存	凸基有茎鏃 両面に広い剥離面 背面、腹面右辺の一部剥離調整 未成品
		石鏃	M22	21	1	IV	4	M22	1	頁岩	(2.63)	1.01	0.51	(1.0)	部分欠損	凸基有茎鏃 先端部欠損 両面剥離 側縁直線 基部にアスファルト
		石鏃	N16	5	1	IV	2	N16	1	頁岩	(2.62)	1.12	0.46	(1.2)	部分欠損	凸基有茎鏃 先端部欠損 両面に広い剥離面 側縁下部外湾
		石鏃	N20	11	1	IV	4	N20	1	頁岩(水墨)	(3.60)	1.14	0.44	(1.2)	完存	平基有茎鏃 両面全面剥離 側縁直線
		石鏃	N20	13	1	IV	5	N20	1	頁岩	3.45	1.16	0.46	1.4	完存	平基有茎鏃 両面全面剥離 側縁直線 基部にアスファルト
		石鏃	O25	7		IV	2	O25	1	頁岩	3.10	1.42	0.36	(0.9)	完存	平基有茎鏃 両面全面剥離 側縁直線 先端部側縁欠失
		石鏃	M22	16	1	IV	2	M22	1	頁岩	(2.41)	(1.17)	0.30	0.4	完存	平基有茎鏃 両面全面剥離 側縁直線 側縁一部欠失
		石鏃	P22	6		IV	2	P22	1	頁岩	2.70	1.60	0.22	0.6	完存	平基有茎鏃 両面全面剥離 側縁直線 薄い
		石鏃	O20	14	1	IV	3	O20	1	頁岩	(2.23)	1.37	0.37	(0.9)	部分欠損	平基有茎鏃 基部欠損 両面全面剥離 側縁直線 背面中央部にアスファルト
		石鏃	N24	32	1	IV	2	N24	1	頁岩(白)	3.33	1.05	0.65	2.2	完存	尖基 両面に剥離面 側縁外湾 基部にアスファルト
		石鏃	P21	10	1	IV	3	P21	1	頁岩(青灰)	(3.21)	1.04	0.51	(1.4)	部分欠損	尖基 先端部欠損 両面に剥離面 側縁外湾
		石鏃	N21	24	1	IV	3	N21	1	頁岩	(2.86)	1.48	0.37	(1.6)	部分欠損	凹基 両面広く剥離面 側縁下部外湾 先端部欠損
		石鏃	M25	17		IV	4	M25	1	頁岩(赤)	2.39	1.53	0.24	(0.6)	完存	凹基無茎鏃 二又状 両面全面剥離 側縁やや内湾 付着物あり
5-12	5-9	石鏃	L22	3	1	IV	3	L22	1	頁岩(灰白)	(3.60)	1.40	0.72	(2.9)	完存	石鏃(凸基有茎鏃)転用 先端摩耗 側縁直線 基部にアスファルト 腹面に剥離面
		石鏃	L25	3		IV	上面	L25	1	頁岩	3.74	1.57	0.53	2.8	完存	石鏃(凸基有茎鏃)転用 先端摩耗 側縁直線 腹面に剥離面 基部にアスファルト付着
		石鏃	M22	1	1	IV	上面	M22	1	頁岩	(3.18)	1.35	0.61	(2.5)	完存	石鏃(平基有茎鏃)転用 先端摩耗 側縁外湾 両面全面剥離
		石鏃	M26	9	1	IV	3	M26	1	メノウ質頁岩	2.65	1.26	0.58	1.7	完存	石鏃(凸基有茎鏃)転用 先端摩耗 側縁直線 両面全面剥離
		石鏃	N25	14	1	IV	4	N25	1	頁岩	(2.90)	1.48	0.44	(1.6)	完存	石鏃(平基有茎鏃)転用 機能部作出 先端摩耗 側縁直線 背面に剥離面
		石鏃	O12	6		IV	3	O12	1	黒曜石	(2.90)	(1.97)	0.30	(1.1)	完存	石鏃(平基有茎鏃)転用 先端摩耗 機能部作出 側縁やや内湾 両面全面剥離 被熱
		石鏃	P19	6	1	IV	3	P19	1	頁岩	4.28	1.90	1.10	10.0	完存	素材剥片の断面三角形の角を利用して機能部を調整
		石鏃	P19	18	1	IV	0	P19	1	頁岩	(4.14)	(1.95)	(0.90)	(10.0)	完存	両面調整石器または石槍片を利用して機能部を調整 両面全面剥離
		石鏃	P23	22	3	IV	3	P23	1	頁岩	8.15	4.90	1.55	40.0	完存	スクレイパーまたは両面調整石器の刃縁末端を利用して機能部を作出 両面全面剥離
		石鏃	L23	2	1	IV	1	L23	1	頁岩	4.90	4.30	1.10	20.0	完存	機能部が小さく突出 機能部のみ両面調整
5-12		石鏃	N25	8	1	IV	2	N25	1	頁岩	(7.00)	6.50	1.60	(45.0)	完存	素材剥片の形状活用した機能部作出 背面調整のみ
		石鏃	N23	26	1	IV	2	N23	1	頁岩	6.20	5.55	2.20	40.0	完存	素材剥片の形状活用した機能部作出 厚みのある角利用 機能部のみ両面調整
		石鏃	O13	1	2	IV	1	O13	1	頁岩(灰)	8.70	7.70	1.60	50.0	完存	素材剥片の形状活用した機能部作出 光沢あるスクレイパー転用 背面調整のみ
		石鏃	L23	2	1	IV	1	L23	1	頁岩	4.90	4.30	1.10	20.0	完存	機能部が小さく突出 機能部のみ両面調整

表5-3 掲載石器等一覧 (包含層) (2)

掲載 挿入番号	図版	器種	グリッド 遺構名	遺物番号 (石器・礫)	層位	グリッド	内訳 点数	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状態	諸特徴
5-12	5	つまみ付きナイフ	N20	5 2	IV 1	N20	1	頁岩	6.85	1.90	1.15	10.0	完存	縦型 つまみ部 縁辺部のみ不連続な調整剥離
	6	つまみ付きナイフ	O24	14 1	IV 2	O24	1	頁岩	1.60	2.70	0.30	0.8	完存	横型 両面全面剥離調整 下縁刃部外湾 つまみ部突起状の作出
	7	つまみ付きナイフ	P26	8 1	IV 2	P26	1	頁岩	3.75	4.13	0.70	6.1	完存	斜め型 つまみ部に対して体部長軸が斜め 両面全面調整 下縁刃部直線的 左右両角部に石錐状の加工あり
	8	スクレイパー	P21	2 1	IV 1	P21	1	頁岩	2.83	2.30	0.83	5.0	完存	素材剥片縁辺調整により円盤状に整形
	9	スクレイパー	O22	6 1	IV 1	O22	1	頁岩	2.53	2.40	0.85	5.0	完存	素材剥片縁辺調整により円盤状に整形
	10	スクレイパー	O21	11	IV 5	O21	1	頁岩	3.70	4.56	1.10	20.0	完存	横長剥片素材で腹面の縁辺を調整
	11	スクレイパー	P13	4	IV 4	P13	1	頁岩(星)	2.98	3.30	0.93	5.0	完存	背面縁辺の一部剥離調整 腹面に広く剥離面
5-13	12	スクレイパー	O12	1 1	IV 1	O12	1	頁岩	3.58	4.30	1.14	15.0	完存	横長剥片素材の背面縁辺調整 背面に広く剥離面 腹面ほぼ全面剥離
	13	スクレイパー	M20	17 1	IV 0	M20	1	頁岩	3.60	4.30	1.20	15.0	完存	横長剥片素材の背面縁辺調整 腹面に広く剥離面 背面ほぼ全面剥離
	1	スクレイパー	L25	8 1	IV 3	L25	1	頁岩(黒褐)	4.85	5.50	1.70	50.0	完存	削器 刃部外湾 腹面左側縁を主に刃部調整
	2	スクレイパー	N25	16	IV 5	N25	1	頁岩(水墨)	6.60	5.00	1.50	40.0	完存	削器 刃部外湾 背面両側縁に刃部調整
	3	スクレイパー	O24	20 1	IV 4	O24	1	頁岩	6.50	5.66	2.00	60.0	完存	削器 刃部外湾 背面右側縁に刃部調整 背面左、腹面左側縁に鋸歯状の剥離
	4	スクレイパー	N25	29	IV 5	N25	1	頁岩(水墨)	6.20	5.76	1.85	70.0	完存	削器 刃部外湾 背面右側縁に粗い刃部調整(使用光沢あり) 腹面下端部に剥離調整
	5	スクレイパー	N24	16 1	IV 3	N24	1	頁岩	7.80	7.25	2.16	85.0	完存	削器 刃部外湾 背面左側縁に細かな剥離調整
	6	スクレイパー	M25	16 1	IV 4	M25	1	頁岩	7.50	5.08	1.90	60.0	完存	削器 刃部外湾 腹面左側縁に刃部調整 右側縁に不連続な調整
	7	スクレイパー	M25	13 20	IV 3	M25	1	頁岩(灰白)	6.76	4.50	1.56	35.0	完存	横長剥片素材 削器 刃部外湾 背面左側縁に刃部調整
	8	スクレイパー	M25	16 3	IV 4	M25	1	頁岩風化	7.33	5.03	1.75	40.0	完存	横長剥片素材 削器 刃部外湾 腹面右側縁に刃部調整 下端縁に不連続な剥離
5-14	9	スクレイパー	L27	6 1	IV 4	L27	1	頁岩	6.60	5.40	2.05	60.0	完存	削器 刃部外湾 腹面左側縁に刃部調整
	10	スクレイパー	M25	16 2	IV 4	M25	1	頁岩(風化黄)	7.23	4.80	1.25	35.0	完存	削器 刃部外湾 背面左側縁に刃部調整
	1	スクレイパー	O25	17	IV 5	O25	1	頁岩(水墨)	6.35	3.13	0.70	15.0	完存	削器 刃部外湾 背面右・腹面左側縁調整(使用光沢あり) 腹面右側縁不連続調整
	2	スクレイパー	M25	19 1	IV 4	M25	1	頁岩	7.10	3.50	1.70	30.0	完存	削器 刃部外湾 背面右側縁刃部調整
	3	スクレイパー	Q22	5 1	IV 2	Q22	1	頁岩	6.20	3.10	1.00	20.0	完存	削器 刃部外湾 背面右・腹面左側縁調整 腹面右側縁大きな剥離調整主に背面使用光沢あり
	4	スクレイパー	L25	6 1	IV 2	L25	1	頁岩(灰)	8.00	4.00	1.40	45.0	完存	削器 刃部直線的 背面左側縁調整 下端部分調整
	5	スクレイパー	M24	9 1	IV 5	M24	1	頁岩(水墨)	7.84	4.50	1.90	60.0	完存	削器 刃部外湾 腹面右側縁刃部調整 背面原右面 右側縁急角度調整
	6	スクレイパー	M25	6 1	IV 1	M25	1	頁岩	8.50	3.97	1.20	35.0	完存	削器 刃部内湾 背面左側縁刃部調整
	7	スクレイパー	N21	3 1	IV 1	N21	1	頁岩	7.65	2.90	1.90	25.0	完存	削器 刃部外湾 腹面左側縁刃部調整 背面左側縁散漫な調整 つまみ付きナイフ未成品か
	8	スクレイパー	O26	5 1	IV 2	O26	1	頁岩(水墨)	8.70	4.70	1.90	55.0	完存	削器 刃部外湾 腹面左側縁刃部調整 同下端部剥離調整
	9	スクレイパー	M25	4 2	IV 1	M25	1	頁岩(茶)	7.48	4.80	2.00	55.0	完存	削器 刃部内湾 背面左辺及び右辺調整 背面下端部調整
5-15	10	スクレイパー	O24	16 2	IV 3	O24	1	頁岩(星)	6.82	3.10	1.48	25.0	完存	削器 刃部直線的 背面左側縁調整
	11	スクレイパー	M25	24 1	IV 4	M25	1	頁岩	8.40	4.80	1.68	45.0	完存	削器 刃部外湾 腹面右側縁刃部調整 左側縁一部調整
	1	スクレイパー	N24	29 1	IV 1	N24	1	頁岩	6.30	4.90	1.40	25.0	完存	削器 刃部直線的 背面右下部側縁、腹面下部側縁調整
	2	スクレイパー	N25	30	IV 5	N25	1	頁岩(水墨)	6.20	5.30	1.30	30.0	完存	削器 刃部直線的 腹面左側縁刃部調整
	3	スクレイパー	L25	15 1	IV 3	L25	1	頁岩	6.40	5.12	2.18	55.0	完存	削器 背面左側縁刃部外湾 背面右側縁鋸歯縁
	4	スクレイパー	M25	4 3	IV 1	M25	1	頁岩(白光沢)	8.60	5.80	2.00	45.0	完存	背面左側縁調整 刃部外湾 右側縁調整 刃部内湾
	5	スクレイパー	P21	2 2	IV 1	P21	1	頁岩	15.60	5.85	2.30	80.0	完存	削器 鋸歯縁石器 刃部外湾 背面両側縁
6	スクレイパー	N24	15	IV 3	N24	1	頁岩(白茶織)	5.64	6.30	1.70	60.0	完存	削器 背面左側縁調整 刃部直線的 腹面末端調整 掻器状刃部	
7	スクレイパー	M25	26 1	IV 5	M25	1	頁岩	5.70	6.58	1.30	25.0	完存	横長剥片素材 未端片に直線的刃部背面調整	

表5-3 掲載石器等一覧（包含層）(3)

掲載 挿図番号	図版	器種	グリッド 遺構名	遺物番号 (石器・礫)	層位	グリッド	内訳 点数	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状態	諸特徴
5-15	8	スクレイパー	P22	3 1	IV 1	P22	1	頁岩	7.78	7.84	2.58	105.0	完存	横長剥片素材 母岩D接合資料 末端 辺に刃部 腹面調整
5-16	1	スクレイパー	O13	1 6	IV 1	O13	1	頁岩	3.80	3.67	1.13	15.0	完存	削器 刃部外湾 背面左側縁調整 原石面残る
	2	スクレイパー	P23	22 1	IV 3	P23	1	頁岩	7.76	6.28	2.10	60.0	完存	背面右側縁～末端縁に急角度な刃部 調整 背面左側縁刃部内湾 腹面右末 端縁剥離調整
	3	スクレイパー	O21	5 1	IV 1	O21	1	頁岩	7.75	9.05	2.20	120.0	完存	横長剥片素材 背面右側縁から末端 縁調整 急角度な刃部 腹面末端縁一 部調整
	4	スクレイパー	O24	18 1	IV 3	O24	1	頁岩(白)	5.65	8.85	2.12	100.0	完存	横長剥片素材 背面右末端縁、腹面末 端縁剥離調整
	5	スクレイパー	P21	2 3	IV 1	P21	1	頁岩	4.80	7.32	1.90	55.0	完存	横長剥片素材 鋸歯縁 背面右側縁～ 末端縁調整
5-17	1	笥状石器	N15	3 1	IV 1	N15	1	頁岩	8.45	5.10	2.05	70.0	完存	撥形で三角形 背面両面全面調整 刃部弧状
	2	笥状石器	N21	11 1	IV 3	N21	1	頁岩(青灰)	6.68	3.04	1.20	26.4	完存	撥形で三角形 背面両面ほぼ全面調 整 刃部弧状
	3	笥状石器	N19	1 1	IV 1	N19	1	頁岩	4.27	3.54	1.26	16.2	完存	撥形で三角形 背面全面調整 腹面 左右側縁調整 下端刃部素刃直線的 上端も刃部か
	4	笥状石器	O28	4 1	IV 3	O28	1	頁岩(白)	7.50	4.50	2.25	50.0	完存	撥形で三角形 体部は両面粗い調整 背面右側縁調整 刃部は背面に散漫 な剥離
	5	笥状石器	P11	1 1	IV 1	P11	1	頁岩(白)	7.90	7.40	1.85	75.0	完存	未成品 撥形で三角形 腹面左右両 側縁調整 刃部未調整
	6	笥状石器	O22	6 2	IV 1	O22	1	頁岩	4.94	2.32	1.05	5.0	完存	撥形で洋梨形 石錐転用か 両面全 面調整 刃部弧状 使用光沢あり
	7	笥状石器	N16	1 1	IV 上面	N16	1	頁岩	7.50	5.50	2.20	90.0	完存	撥形で短冊形 背面左側縁調整 末 端刃部細部調整 直線的
	8	笥状石器	Q22	7 1	IV 1	Q22	1	頁岩(水墨)	9.35	3.90	3.00	120.0	完存	撥形で短冊形 厚みのある体部両面 全面調整 刃部素刃で刃こぼれ状の 剥離
5-18	1	両面調整石器	Q22	18	IV 0	Q22	1	頁岩	20.60	5.60	2.60	280.0	完存	大型 紡錘形 背面ほぼ全面調整 腹面には広く剥離面が残る 左右側 縁ともに粗い調整による波状刃部
	2	両面調整石器	N15	3 2	IV 1	N15	1	頁岩	4.63	3.23	1.20	20.0	完存	紡錘形 両面に粗い剥離調整 周縁 に波状刃部
	3	両面調整石器	O13	1 5	IV 1	O13	1	頁岩	4.48	3.20	1.75	20.0	完存	紡錘形 両面に粗い剥離調整 背面 左側縁下部に細かな調整 粗い波状 の刃部
	4	両面調整石器	O23	1 1	IV 上面	O23	1	頁岩	(6.02)	3.62	1.32	(30.0)	部分	紡錘形 両面に粗い剥離調整 鋸歯 状の側縁
	5	両面調整石器	P23	22 2	IV 3	P23	1	頁岩	8.90	4.56	1.23	55.0	完存	紡錘形 両面に粗い剥離調整 両側 縁の一部やや細かい両面調整、波状 刃部
	6	両面調整石器	P24	14 1	IV 3	P24	1	頁岩(水墨)	(5.20)	4.10	1.40	(40.0)	部分	短冊形 腹面に原石面を残すが両面 に粗い剥離調整 下端部に急斜度の 刃部、背面左側縁の一部に波状刃部
	7	Rフレイク	O14	1 2	IV 1	O14	1	頁岩	8.82	5.90	2.22	85.0	完存	外湾する背面右側縁に粗い剥離調整 腹面右側縁上部に粗い剥離調整
	8	Rフレイク	O13	1 1	IV 1	O13	1	黒曜石	4.80	2.60	0.90	10.0	完存	撥形 背面左側縁に細かな両面剥離 調整 背面右側縁、末端縁には原石 面が残る
5-19	1	石核	M19	1 5	IV 1	M19	1	頁岩	5.50	6.88	3.54	115.0	完存	サイコロ状 最終形態で打面を固定、 周縁で剥離 原石面残る
	2	石核	M20	11 10	IV 5	M20	1	頁岩風化	5.35	5.10	2.30	45.0	完存	盤状 小型 剥片素材 打面、作業 面を入れ替えて複数方向から剥離
	3	石核	M21	4 11	IV 1	M21	1	頁岩	9.25	9.00	7.40	495.0	完存	礫素材から剥片剥離 原石面広く残 る
	4	石核	M21	6 5	IV 2	M21	1	頁岩	6.26	5.70	3.55	120.0	完存	サイコロ状 一面に複数方向からの 剥離が集中
5-20	1	石核	Q23	17 1	IV 4	Q23	1	頁岩	6.95	8.10	3.60	160.0	完存	盤状 母岩Dの接合資料内の石核 打面、作業面の入れ替え
	2	石核	M21	6 6	IV 2	M21	1	頁岩(青灰)	6.48	9.45	3.15	195.0	完存	盤状 礫素材からの剥片剥離
	3	石核	N14	1 4	IV 1	N14	1	頁岩(水墨)	4.70	7.74	5.50	195.0	完存	サイコロ状 打面、作業面の入れ替 え後、打面固定で周縁剥離
	4	石核	P26	12 2	IV 4	P26	1	頁岩	6.32	8.15	4.50	270.0	完存	サイコロ状 打面、作業面の入れ替 え後、打面固定で周縁剥離
5-21	1	石核	P22	16 1	IV 3	P22	1	頁岩	11.50	13.65	4.00	370.0	完存	盤状 母岩A接合資料内の石核 剥片素材 複数方向からの剥離
	2	石核	N21	1 4	IV 上面	N21	1	頁岩	7.40	13.80	5.70	405.0	完存	盤状 母岩A接合資料内の石核 剥片素材 複数方向からの剥離
5-22	1	石斧	P13	5 1	IV 4	P13	1	緑色泥岩	7.60	2.65	1.10	45.0	完存	長薄手小型 短冊形 刃部緩やかな 弧状
	2	石斧	P13	5 2	IV 4	P13	1	緑色泥岩	9.40	3.70	1.80	105.0	完存	中厚中型 基部の膨らむ短冊形 刃 部緩やかな弧状 体部正面が平坦で 表面は湾曲する。
	3	石斧	P13	5 3	IV 4	P13	1	緑色泥岩	(8.80)	4.83	2.25	(145.0)	1/2以上	基部欠損 短冊形 中厚中型 刃部 弧状
	4	石斧	O25	13 3	IV 5	O25	1	緑色泥岩	8.55	3.10	1.50	60.0	完存	薄手小型 正面右側面に擦痕跡に より直線的、左側面外湾 両刃偏刃 断面隅丸長方形
	5	石斧	Q20	17	IV 4	Q20	1	青色片岩	7.95	3.00	1.38	60.0	完存	撥形 薄手小型 基部端一部剥落 両刃弧状刃部 断面隅丸長方形

表5-3 掲載石器等一覧（包含層）(4)

掲載 挿図番号	図版	器種	グリッド 遺構名	遺物番号 (石器・礫)	層位	グリッド	内訳 点数	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状態	諸特徴
5-22	6	石斧	O19	4 1	IV 2	O19	1	泥岩	4.73	3.10	1.72	45.0	1/2-1/4	基部破片 薄手小型 撥形 端部再生の敲き痕と研磨面が一部残る
	7	石斧	N22	15	IV 3	N22	1	安山岩	(13.10)	4.40	3.25	(290.0)	1/2以上	基部破片 厚手大型 紡錘形または撥形 断面楕円形
	8	石斧	P23	10 1	IV 0	P23	1	泥岩	(8.50)	(4.10)	2.90	(155.0)	1/2以上	基部破片 厚手中～大型 撥形 断面隅丸方形 敲き痕残る
5-23	1	たたき石	N24	38 1	IV 5	N24	1	安山岩	12.05	6.75	2.80	255.0	完存	長礫(棒状礫) 両端部敲打痕
	2	たたき石	M26	21 1	IV 0	M26	1	砂岩	11.00	4.40	3.50	245.0	完存	長礫(棒状礫) 両端部敲打痕
	3	たたき石	L24	12 1	IV 2	L24	1	砂岩	11.20	6.10	3.60	375.0	完存	長礫(扁平楕円礫) 両端部敲打痕
	4	たたき石	P19	2 1	IV 1	P19	1	砂岩	10.10	6.20	3.10	295.0	完存	長礫(扁平楕円礫) 両端部敲打痕
	5	たたき石	N24	4 2	IV 1	N24	1	安山岩	9.90	9.37	4.80	600.0	完存	長礫(扁平楕円礫) 両端部敲打痕
	6	たたき石	P21	4 1	IV 1	P21	1	安山岩	12.10	7.58	6.80	855.0	完存	長礫(楕円礫) 両端部敲打痕
	7	たたき石	N26	5 1	IV 2	N26	1	砂岩	13.20	(7.46)	6.00	(795.0)	完存	長礫(楕円礫) 両端部敲打痕
	8	たたき石	P22	7 2	IV 2	P22	1	頁岩	6.30	3.95	3.60	115.0	完存	長礫(断面三角礫) 両端部敲打痕
	9	たたき石	P20	9 1	IV 3	P20	1	砂岩	7.50	5.19	3.05	165.0	完存	長礫(扁平楕円礫) 両端部敲打痕 側縁部敲打痕
	10	たたき石	M23	5 1	IV 2	M23	1	安山岩	12.20	7.75	4.70	565.0	一部欠損	長礫(楕円礫) 両端部敲打痕 側面敲打痕
	11	たたき石	N23	36 1	IV 1	N23	1	砂岩	7.35	5.93	3.50	225.0	完存	長礫(楕円礫) 両端部敲打痕 側面敲打痕
5-24	1	たたき石	P20	17 1	IV 6	P20	1	砂岩	9.25	6.80	4.95	400.0	完存	長礫(楕円礫) 両端部敲打痕 側面敲打痕 剥離痕
	2	たたき石	P23	30	IV 4	P23	1	安山岩	8.20	4.80	4.20	265.0	完存	長礫(楕円礫) 両端部敲打痕 側縁部敲打痕 側縁すり痕
	3	たたき石	Q21	10 5	IV 3	Q21	1	砂岩	15.20	10.85	7.60	1730.0	完存	長礫(断面三角礫) 両端部敲打痕 側縁部敲打痕 正面小敲打痕 剥離痕
	4	たたき石	M25	15 1	IV 3	M25	1	砂岩	5.75	10.70	2.55	240.0	完存	長礫(扁平楕円礫) 側面敲打痕 側面すり面
	5	たたき石	L26	2 2	IV 上面	L26	1	砂岩	10.30	8.03	3.72	415.0	完存	長礫(扁平楕円礫) 両端部敲打痕 側面敲打痕 剥離痕 側面すり面
	6	たたき石	P19	8 2	IV 4	P19	1	砂岩	9.70	6.78	3.50	310.0	完存	長礫(扁平楕円礫) 側縁部敲打痕 角部敲打痕 剥離痕
	7	たたき石	O26	19	IV 4	O26	1	砂岩	8.20	5.90	4.10	255.0	完存	長礫(楕円礫) 端部敲打痕 角部敲打痕
	8	たたき石	O25	16 7	IV 6	O25	2	安山岩	(9.70)	(5.50)	(4.40)	(310.0)	一部欠損	長礫(棒状礫) 端部敲打痕 正面敲打痕 2点接合 石棒状
	9	たたき石	O21	4 1	IV 1	O21	1	泥岩	12.80	3.80	2.65	140.0	完存	長礫(棒状礫) 端部敲打痕 正面敲打痕 側縁部敲打痕
	10	たたき石	Q21	10 3	IV 3	Q21	1	砂岩	(10.40)	(5.88)	(5.00)	(320.0)	一部欠損	長礫(楕円礫) 端部敲打痕 正面敲打痕
	11	たたき石	O20	8	IV 1	O20	1	泥岩	8.35	6.15	5.70	425.0	完存	長礫(楕円礫) 端部敲打痕 角部敲打痕 剥離痕
	12	たたき石	O25	5 1	IV 1	O25	1	砂岩	(9.50)	7.45	(5.65)	475.0	一部欠損	長礫(楕円礫) 端部敲打痕 正面敲打痕
5-25	1	たたき石	P12	4 1	IV 2	P12	1	頁岩	7.10	4.80	3.75	175.0	完存	長礫(三角柱状礫側縁) 端部敲打痕 角部敲打痕
	2	たたき石	M25	20 1	IV 4	M25	1	砂岩	8.48	5.58	4.65	305.0	完存	長礫(三角柱状礫側縁) 側面敲打痕 両角部
	3	たたき石	N24	17 1	IV 3	N24	1	砂岩	5.98	4.00	4.10	135.0	完存	長礫(三角柱状礫側縁) 端部敲打痕 側面敲打痕 両角部
	4	たたき石	O20	7 3	IV 1	O20	1	砂岩	5.15	5.16	3.00	105.0	完存	短礫(断面三角礫) 両端部敲打痕 正面敲打痕 完形
	5	砥石	N23	15 1	IV 3	N23	1	砂岩	7.35	4.80	1.95	80.0	完存	扁平楕円礫 表面に筋状のすり痕 表面皿状のすり痕
	6	扁平打製石器	N24	44 2	IV 8	N24	1	泥岩	5.00	8.35	2.20	125.0	一部欠損	扁平長方形礫素材 正面上辺剥離調整 表面敲打痕 使用面はほぼ平坦なすり面 剥離を伴う。
	7	扁平打製石器	N25	32 2	IV 5	N25	1	凝灰岩?	7.95	15.00	3.70	470.0	一部欠損	扁平台形礫片 上辺両面及び正面左辺剥離調整 使用面はほぼ平坦なすり面 剥離を伴う。
	8	すり石	O24	13 1	IV 2	O24	1	砂岩	9.40	11.80	2.50	265.0	完存	扁平方形礫素材 底面及び右側面にはほぼ平坦なすり面
	9	石製品 玉	N26	28	IV 6	N26	1	凝灰岩	1.80	1.76	1.00	2.5	完存	平玉 両面穿孔 自然面あり、研磨などの整形痕跡なし
	10	石製品 異形石器	M27	5 1	IV 2	M27	1	頁岩	4.26	4.85	0.84	15.0	完存	四辺に抉りを入れて四隅が突出する形態を作出。突出する四隅尖端は矢印状
	11	石製品	Q21	10 4	IV 3	Q21	1	閃緑岩	8.52	1.70	1.26	25.0	完存	棒状原素材 断面三角棒状に整形し、一側縁にすり面
	12	土製品 耳栓	N24	10	IV 3	N24	1	土製品	2.90	2.90	(1.70)	(10.0)	一部欠損	白形 正面直径と装着部直径が同じ 正面円形にくぼみ沈線で縁取り 裏面は全体剥落

表5-4 接合資料一覧(1)

母岩	接合資料番号	小番号	種別	グリッド遺構名	遺物番号	ツールNo.	層位	掘り下げ回数	グリッド	分類	内訳数	部位・石材	重量g	備考
A	1	1	包含層	P22	1		IV	上面	P22	剥片	1	頁岩	631	
A	1	1	包含層	P22	3		IV	1	P22	剥片	2	頁岩		
A	1	1	包含層	P22	5		IV	2	P22	剥片	5	頁岩		
A	1	1	包含層	P22	7	1	IV	2	P22	剥片	1	頁岩		
A	1	1	包含層	P22	8	3	IV	2	P22	剥片	1	頁岩1		
A	1	1	包含層	P22	10		IV	1	P22	剥片	1	頁岩		
A	1	1	包含層	P22	14		IV	0	P22	剥片	5	頁岩		フレイク集中2
A	1	合計									16		631	
A	2	1	包含層	N21	1	4	IV	上面	N21	石核	1	頁岩1	405.0	図5-21-2
A	2	1	包含層	N21	3		IV	1	N21	剥片	1	頁岩	157	
A	2	1	包含層	N21	5		IV	2	N21	剥片	3	頁岩		
A	2	1	包含層	N21	9		IV	2	N21	剥片	1	頁岩		
A	2	1	包含層	P22	1		IV	上面	P22	剥片	1	頁岩		
A	2	1	包含層	P22	5		IV	2	P22	剥片	2	頁岩		
A	2	1	包含層	P22	14		IV	0	P22	剥片	1	頁岩		フレイク集中2
A	2	合計									10		562.0	
A	3		包含層	O22	10	1	IV	2	O22	Uフレイク	1	頁岩1	13	
A	3		包含層	P20	22		IV	0	P20	剥片	3	頁岩4	92	
A	3		包含層	P22	3		IV	1	P22	剥片	1	頁岩		
A	3		包含層	P22	5		IV	2	P22	剥片	2	頁岩		
A	3		包含層	P22	16		IV	3	P22	剥片	7	頁岩		
A	3	合計									14		105	
A	4		包含層	M20	1		IV	1	M20	剥片	1	頁岩	224	
A	4		包含層	P22	1		IV	上面	P22	剥片	1	頁岩		
A	4		包含層	P22	3		IV	1	P22	剥片	1	頁岩		
A	4		包含層	P22	16		IV	3	P22	剥片	1	頁岩		
A	4		包含層	P23	3	2	IV	1	P23	剥片	1	頁岩1		
A	4	合計									5		224	
A	5		包含層	P22	3		IV	1	P22	剥片	1	頁岩	143	
A	5		包含層	P22	5		IV	2	P22	剥片	2	頁岩		
A	5		包含層	P22	16	1	IV	3	P22	石核	1	頁岩1	370.0	図5-21-1
A	5	合計									4		513.0	
A	6		包含層	P22	3		IV	1	P22	剥片	4	頁岩	29	
A	6	合計									4			
A	7		包含層	N21	9		IV	2	N21	剥片	1	頁岩	49	
A	7		包含層	P22	3		IV	1	P22	剥片	1	頁岩		
A	7		包含層	P22	5		IV	2	P22	剥片	1	頁岩		
A	7		包含層	P22	14		IV	0	P22	剥片	1	頁岩		フレイク集中2
A	7	合計									4		49	
A	8		包含層	N22	18		IV	1	N22	剥片	1	頁岩	292	
A	8		包含層	N22	29		IV	4	N22	剥片	1	頁岩		
A	8		包含層	P22	5		IV	2	P22	剥片	1	頁岩		
A	8	合計									3		292	
A	9		包含層	P21	2		IV	1	P21	剥片	1	頁岩	52	
A	9		包含層	P22	3		IV	1	P22	剥片	2	頁岩		
A	9	合計									3		52	
A	10		包含層	P21	6	4	IV	3	P21	Uフレイク	1	頁岩1	35	
A	10		包含層	P22	1		IV	上面	P22	剥片	1	頁岩	5	
A	10	合計									2		40	
A	11		包含層	P22	3		IV	1	P22	剥片	2	頁岩	41	
A	11	合計									2		41	
A	12		包含層	P22	1		IV	上面	P22	剥片	1	頁岩	64	
A	12		包含層	P22	3		IV	1	P22	剥片	1	頁岩		
A	12	合計									2		64	
A	13		包含層	P22	5		IV	2	P22	剥片	1	頁岩	24	
A	13		包含層	P22	24		IV	4	P22	剥片	1	頁岩		
A	13	合計									2		24	
A	14		包含層	O21	8		IV	3	O21	剥片	1	頁岩	11	
A	14		包含層	O21	13		IV	6	O21	剥片	1	頁岩		
A	14	合計									2		11	
A	15		包含層	P22	16		IV	3	P22	剥片	2	頁岩	7	
A	15	合計									2		7	
A	16		包含層	P22	3		IV	1	P22	剥片	1	頁岩	8	
A	16		包含層	P22	5		IV	2	P22	剥片	1	頁岩		
A	16	合計									2		8	
A	17		包含層	P22	3		IV	1	P22	剥片	1	頁岩	4	
A	17		包含層	P22	16		IV	3	P22	剥片	1	頁岩		
A	17	合計									2		4	
A	18		包含層	P22	1		IV	上面	P22	剥片	1	頁岩	110	折れ面接合
A	18		包含層	P22	3		IV	1	P22	剥片	1	頁岩		折れ面接合
A	18		包含層	P23	26		IV	2	P23	剥片	1	頁岩		折れ面接合
A	18	合計									3		110	
A	19		包含層	P22	5		IV	2	P22	剥片	2	頁岩	4	
A	19	合計									2		4	
A	20		包含層	P22	3		IV	1	P22	剥片	1	頁岩	6	折れ面接合
A	20		包含層	P22	16		IV	3	P22	剥片	1	頁岩		折れ面接合
A	20	合計									2		6	
A	21		包含層	M20	7		IV	2	M20	剥片	1	頁岩	7	折れ面接合
A	21		包含層	M20	18		IV	0	M20	剥片	1	頁岩		折れ面接合
A	21	合計									2		7	
A	合計										88		2754.0	
A	同一母岩		遺構	F-02	1		覆土上面		O23	剥片	1	頁岩	3	
A	同一母岩		遺構	F-04	1		覆土上面		O22	剥片	1	頁岩	2	
A	同一母岩		遺構	P-01	1		覆土		P22	剥片	1	頁岩	4	
A	同一母岩		包含層	L26	7		IV	3	L26	剥片	1	頁岩4(白)	15	
A	同一母岩		包含層	M19	1	2	IV	1	M19	Rフレイク	1	頁岩2	131	
A	同一母岩		包含層	M22	1	2	IV	上面	M22	Rフレイク	1	頁岩1	166.0	
A	同一母岩		包含層	M23	2		IV	1	M23	剥片	1	頁岩	19	
A	同一母岩		包含層	M25	24		IV	4	M25	剥片	1	頁岩	13	
A	同一母岩		包含層	M26	6		IV	2	M26	剥片	1	頁岩	8	
A	同一母岩		包含層	N19	1		IV	1	N19	剥片	1	頁岩	50	
A	同一母岩		包含層	N20	5		IV	1	N20	剥片	3	頁岩	42	
A	同一母岩		包含層	N20	9		IV	3	N20	剥片	1	頁岩	22	
A	同一母岩		包含層	N21	3		IV	1	N21	Uフレイク	1	頁岩	28	
A	同一母岩		包含層	N21	3		IV	1	N21	剥片	1	頁岩	3	
A	同一母岩		包含層	N21	5		IV	2	N21	剥片	1	頁岩	14	
A	同一母岩		包含層	N21	22		IV	3	N21	剥片	1	頁岩	1	
A	同一母岩		包含層	N22	3		IV	1	N22	剥片	1	頁岩	8	
A	同一母岩		包含層	N22	5		IV	2	N22	剥片	1	頁岩	23	
A	同一母岩		包含層	N29	1		攪乱	抜根	N29,30	剥片	1	頁岩	28	

表5-4 接合資料一覧(2)

母岩	接合資料番号	小番号	種別	グリッド遺構名	遺物番号	ツールNo.	層位	掘り下げ回数	グリッド	分類	内訳数	部位・石材	重量g	備考
A	同一母岩		包含層	O20	9		IV	2	O20	剥片	1	頁岩2	8	
A	同一母岩		包含層	O20	14		IV	3	O20	剥片	1	頁岩	4	
A	同一母岩		包含層	O21	3		IV	1	O21	剥片	1	頁岩	1	
A	同一母岩		包含層	O21	10		IV	4	O21	剥片	1	頁岩	29	
A	同一母岩		包含層	O22	1		IV	上面	O22	剥片	1	頁岩	4	
A	同一母岩		包含層	O22	4	6	IV	1	O22	剥片	1	頁岩1	7	
A	同一母岩		包含層	O22	18	1	IV	3	O22	Rフレイク	1	頁岩4風化	47	
A	同一母岩		包含層	O23	9		IV	3	O23	剥片	1	頁岩	48	
A	同一母岩		包含層	O23	18	1	IV	1	O23	剥片	1	頁岩4	103	
A	同一母岩		包含層	O28	4	1	IV	3	O28	Rフレイク	1	頁岩	52	
A	同一母岩		包含層	P18	9		IV	3	P18	剥片	1	頁岩1	15	
A	同一母岩		包含層	P19	1		IV	1	P19	剥片	1	頁岩	8	
A	同一母岩		包含層	P19	9		IV	4	P19	剥片	1	頁岩	5	
A	同一母岩		包含層	P21	1		IV	上面	P21	剥片	1	頁岩	3	
A	同一母岩		包含層	P21	10		IV	3	P21	剥片	1	頁岩	1	
A	同一母岩		包含層	P22	1		IV	上面	P22	剥片	8	頁岩	44	
A	同一母岩		包含層	P22	3		IV	1	P22	Uフレイク	1	頁岩	14	
A	同一母岩		包含層	P22	3		IV	1	P22	剥片	53	頁岩	234	
A	同一母岩		包含層	P22	5		IV	2	P22	剥片	22	頁岩	124	
A	同一母岩		包含層	P22	8		IV	2	P22	剥片	3	頁岩1	4	
A	同一母岩		包含層	P22	12		IV	2	P22	剥片	1	頁岩	30	
A	同一母岩		包含層	P22	14		IV	0	P22	剥片	31	頁岩	110	フレイク集中2
A	同一母岩		包含層	P22	16		IV	3	P22	剥片	21	頁岩	66	
A	同一母岩		包含層	P22	18		IV	3	P22	剥片	5	頁岩	28	
A	同一母岩		包含層	P22	20		IV	0	P22	剥片	2	頁岩	9	
A	同一母岩		包含層	P22	24		IV	4	P22	剥片	1	頁岩	5	
A	同一母岩		包含層	P22	25		IV	5	P22	剥片	1	頁岩1	2	
A	同一母岩		包含層	P22	27		IV	0	P22	剥片	10	頁岩	21	
A	同一母岩		包含層	P25	6		IV	2	P25	剥片	1	頁岩	26	
A	同一母岩		包含層	P26	1		IV	上面	P26	Rフレイク	1	頁岩1	21	
A	同一母岩		包含層	P26	13	2	IV	4	P26	剥片	1	頁岩1	2	
A	同一母岩		包含層	P27	4		IV	2	P27	剥片	2	頁岩	10	
A	同一母岩		包含層	Q21	3		IV	1	Q21	剥片	1	頁岩	9	
A	同一母岩		包含層	Q22	7		IV	1	Q22	剥片	1	頁岩	12	フレイク集中
A	同一母岩		包含層	Q22	22		IV	0	Q22	剥片	2	頁岩	8	
A	同一母岩		包含層	Q23	1		IV	1	Q23	剥片	1	頁岩	26	
B	1	1	遺構	P-09	8	4	覆土上層		N22	剥片	1	頁岩	1025.0	
B	1	1	包含層	M20	1	1	IV	1	M20	Uフレイク	1	頁岩1縹々	56.0	
B	1	1	包含層	M20	11	3	IV	5	M20	Uフレイク	1	頁岩1	40.0	
B	1	1	包含層	M20	18		IV	0	M20	剥片	1	頁岩		
B	1	1	包含層	M21	6	4	IV	2	M21	Uフレイク	1	頁岩1	114.0	
B	1	1	包含層	M21	6		IV	2	M21	剥片	1	頁岩		
B	1	1	包含層	N20	7		IV	2	N20	剥片	1	頁岩		
B	1	1	包含層	N21	3		IV	1	N21	剥片	4	頁岩		
B	1	1	包含層	N21	5		IV	2	N21	剥片	1	頁岩		
B	1	1	包含層	N21	7		IV	3	N21	剥片	2	頁岩		
B	1	1	包含層	N21	17		IV	1	N21	剥片	1	頁岩		
B	1	1	包含層	N21	19	1	IV	2	N21	Uフレイク	1	頁岩1	13.0	
B	1	1	包含層	N21	19		IV	2	N21	剥片	2	頁岩		
B	1	1	包含層	N21	28		IV	6	N21	剥片	1	頁岩1		
B	1	1	包含層	N21	29		IV	3	N21	剥片	2	頁岩		
B	1	1	包含層	N21	31		IV	6	N21	剥片	1	頁岩		
B	1	1	包含層	N22	8		IV	2	N22	剥片	2	頁岩		
B	1	1	包含層	O18	1		IV	1	O18	剥片	1	頁岩		
B	1	1	包含層	P21	8		IV	3	P21	剥片	1	頁岩		
B	1	1	包含層	P23	21		IV	3	P23	剥片	1	頁岩		
B	1	1	包含層	Q22	3		IV	1	Q22	剥片	1	頁岩		
B	1	1	包含層	Q22	14	1	IV	3	Q22	Uフレイク	1	頁岩1	15.0	
B	1	1	合計								29		1263.0	
B	1	2	包含層	N21	1	2	IV	上面	N21	Uフレイク	1	頁岩1	54	
B	1	2	包含層	N21	5		IV	2	N21	剥片	1	頁岩	390	
B	1	2	包含層	N23	1		IV	上面	N23	剥片	1	頁岩		
B	1	2	包含層	N23	39		IV	2	N23	剥片	1	頁岩		
B	1	2	包含層	O21	11		IV	5	O21	剥片	1	頁岩		
B	1	2	包含層	O24	1		IV	上面	O24	剥片	1	頁岩		
B	1	2	包含層	Q22	14		IV	3	Q22	剥片	1	頁岩		
B	1	2	合計								7		444	
B	1	3	遺構	H-1	46		覆土		Q23	剥片	2	頁岩		
B	1	3	遺構	P-12	1		覆土		N21	剥片	1	頁岩		
B	1	3	包含層	M20	18		IV	0	M20	剥片	1	頁岩		
B	1	3	包含層	M21	17	1	IV	4	M21	Uフレイク	1	頁岩1(白)	50.0	
B	1	3	包含層	M24	5		IV	2	M24	剥片	1	頁岩		
B	1	3	包含層	M25	24		IV	4	M25	剥片	1	頁岩		
B	1	3	包含層	N21	11		IV	3	N21	剥片	1	頁岩		
B	1	3	包含層	N25	14		IV	4	N25	剥片	1	頁岩		
B	1	3	包含層	B測SP60						剥片	1	頁岩		
B	1	3	包含層	N21	16					剥片	1	頁岩	297	
B	1	3	合計								11		347	
B	1	合計									47		2054.0	
B	2		包含層	P23	16		IV	3	P23	剥片	1	頁岩	24	折れ面接合
B	2		包含層	Q22	14		IV	3	Q22	剥片	1	頁岩		折れ面接合
B	2	合計									2		24	
B	合計										49		2078.0	
B	同一母岩		遺構	P-09	4		覆土上層		N22	剥片	1	頁岩	5.0	
B	同一母岩		遺構	P-09	8	4	覆土上層		N22	剥片	1	頁岩	1.0	
B	同一母岩		遺構	P-17	3	10	覆土		N25	Uフレイク	1	頁岩1白	7.0	
B	同一母岩		包含層	M23	1	1	IV	上面	M23	Uフレイク	1	頁岩1(白縹)	110.0	
B	同一母岩		包含層	M30	1		IV	1	M30	剥片	1	頁岩1	15.0	
B	同一母岩		包含層	N21	13		IV	4	N21	剥片	1	頁岩	1.0	
B	同一母岩		包含層	N21	19		IV	2	N21	剥片	1	頁岩	1.0	
B	同一母岩		包含層	O18	5		IV	0	O18	剥片	1	頁岩	7.0	
C	1	1	遺構	H-1	4		覆土		O24	剥片	1	頁岩	1295.0	
C	1	1	遺構	P-03	27	1	覆土		P23	剥片	3	頁岩2		
C	1	1	遺構	P-10	1		IV	4	M21	剥片	2	頁岩1		
C	1	1	遺構	P-10	3		覆土		M21	剥片	1	頁岩1		
C	1	1	遺構	P-10	6		覆土		M21	剥片	1	頁岩1		
C	1	1	遺構	P-10	7		覆土上層		M21	剥片	8	頁岩1+		
C	1	1	遺構	P-10	11		覆土上層		M21	剥片	2	頁岩1		
C	1	1	遺構	P-10	12		覆土上層		M21	剥片	1	頁岩		
C	1	1	遺構	P-10	13		覆土中層		M21	剥片	8	頁岩1		

表5-4 接合資料一覧(3)

母岩	接合資料番号	小番号	種別	グリッド遺構名	遺物番号	ツールNo.	層位	掘り下げ回数	グリッド	分類	内訳数	部位・石材	重量g	備考
C	1	1	遺構	P-10	17		覆土		M21	剥片	6	頁岩1		
C	1	1	遺構	P-10	18		覆土上層		M21	剥片	4	頁岩2		
C	1	1	遺構	P-10	19		覆土中層		M21	剥片	7	頁岩1		
C	1	1	遺構	P-10	20		覆土中層		M21	剥片	1	頁岩		
C	1	1	遺構	P-10	22		覆土中層		M21	剥片	1	頁岩2		
C	1	1	遺構	P-10	25		覆土下層		M21	剥片	4	頁岩1+		
C	1	1	遺構	P-10	28		覆土下層		M21	剥片	1	頁岩1+		
C	1	1	包含層	M21	11		IV	3	M21	剥片	1	頁岩		
C	1	1	包含層	N22	16		IV	5	N22	剥片	1	頁岩		
C	1	1	包含層	O23	44	1	IV	0	O23	剥片	3	頁岩2		
C	1	1	包含層	O23	44	3	IV	0	O23	剥片	2	頁岩2		
C	1	1	包含層	P23	14		IV	2	P23	剥片	2	頁岩		
C	1	1	包含層	Q23	5	1	IV	2	Q23	Uフレイク	1	頁岩1	113.0	
C	1	1	包含層	Q23	5	3	IV	2	Q23	Uフレイク	1	頁岩1	63.0	
C	1	1	包含層	Q23	5		IV	2	Q23	剥片	1	頁岩		
C	1	1	包含層	Q23	7		IV	3	Q23	剥片	3	頁岩		
C	1	1	合計								66		1471.0	
C	1	2	遺構	P-03	27	1	覆土		P23	剥片	1	頁岩	371	
C	1	2	遺構	P-10	6		覆土		M21	剥片	1	頁岩1		
C	1	2	遺構	P-10	7		覆土上層		M21	剥片	2	頁岩1+		
C	1	2	遺構	P-10	12		覆土上層		M21	剥片	1	頁岩		
C	1	2	遺構	P-10	13		覆土中層		M21	剥片	1	頁岩1		
C	1	2	遺構	P-10	17		覆土		M21	剥片	4	頁岩1		
C	1	2	遺構	P-10	18		覆土上層		M21	剥片	2	頁岩2		
C	1	2	遺構	P-10	19		覆土中層		M21	剥片	3	頁岩1		
C	1	2	遺構	P-10	23		覆土中層		M21	剥片	2	頁岩1+		
C	1	2	遺構	P-10	25		覆土下層		M21	剥片	4	頁岩1+		
C	1	2	包含層	M21	11		IV	3	M21	剥片	1	頁岩		
C	1	2	包含層	Q23	5	2	IV	2	Q23	Uフレイク	1	頁岩1	128	
C	1	2	包含層	Q23	5	4	IV	2	Q23	Uフレイク	1	頁岩1	55	
C	1	2	包含層	Q23	7		IV	3	Q23	剥片	2	頁岩		
C	1	2	合計								26		554	
C	1	合計									92		2025.0	
C	2		遺構	P-10	13		覆土中層		M21	剥片	1	頁岩1	8	
C	2		遺構	P-10	18		覆土上層		M21	剥片	1	頁岩2		
C	2		遺構	P-10	28		覆土下層		M21	剥片	1	頁岩1+		
C	2	合計									3		8	
C	3		遺構	P-10	7		覆土上層		M21	剥片	2	頁岩1+	2	
C	3	合計									2		2	
C	合計										97		2035	
C	同一母岩		遺構	H-1	30		覆土上層		P23	剥片	1	頁岩	1	
C	同一母岩		遺構	P-03	1		覆土上層		P23	剥片	3	頁岩	6	
C	同一母岩		遺構	P-10	1		IV	4	M21	剥片	1	頁岩	3	
C	同一母岩		遺構	P-10	6		覆土		M21	剥片	2	頁岩1	10	
C	同一母岩		遺構	P-10	7		覆土上層		M21	剥片	4	頁岩1+	22	
C	同一母岩		遺構	P-10	9		土層記述		M21	剥片	1	頁岩	2	
C	同一母岩		遺構	P-10	12		覆土上層		M21	剥片	2	頁岩	4	
C	同一母岩		遺構	P-10	13		覆土中層		M21	剥片	7	頁岩1	10	
C	同一母岩		遺構	P-10	17		覆土		M21	剥片	3	頁岩1	7	
C	同一母岩		遺構	P-10	19		覆土中層		M21	剥片	14	頁岩1	7	
C	同一母岩		遺構	P-10	23		覆土中層		M21	剥片	2	頁岩1+	7	
C	同一母岩		遺構	P-10	25		覆土下層		M21	剥片	4	頁岩1+	2	
C	同一母岩		遺構	P-10	28		覆土下層		M21	剥片	1	頁岩1+	3	
C	同一母岩		遺構	P-15	1		覆土		P24	剥片	1	頁岩	2	
C	同一母岩		包含層	M21	6	10	IV	2	M21	Rフレイク	1	頁岩2	4.0	
C	同一母岩		包含層	N22	18		IV	1	N22	剥片	1	頁岩	5	
C	同一母岩		包含層	N23	28		IV	3	N23	剥片	1	頁岩	8	
C	同一母岩		包含層	N24	27		IV	5	N24	剥片	1	頁岩	6	
C	同一母岩		包含層	N24	41		IV	7	N24	剥片	1	頁岩	2	
C	同一母岩		包含層	N24	93		IV	0	N24	剥片	1	頁岩	3	
C	同一母岩		包含層	O22	6		IV	1	O22	剥片	1	頁岩	4	
C	同一母岩		包含層	P21	2		IV	1	P21	剥片	1	頁岩	6	
D	1		包含層	N20	5		IV	1	N20	剥片	1	頁岩	161.7	
D	1		包含層	N22	5		IV	2	N22	剥片	1	頁岩		
D	1		包含層	O23	19		IV	2	O23	剥片	1	頁岩		
D	1		包含層	P22	3	1	IV	1	P22	スクレイパー	1	頁岩	105.0	図5-15-8
D	1		包含層	P22	5		IV	2	P22	剥片	1	頁岩		
D	1		包含層	P22	23		IV	5	P22	剥片	1	頁岩		
D	1		包含層	Q23	17	1	IV	4	Q23	石核	1	頁岩4	159.3	図5-20-1
D	1		包含層	Q23	17		IV	4	Q23	剥片	1	頁岩		
D	1		包含層	Q23	22	1	IV	0	Q23	Rフレイク	1	頁岩4	198	フレイク集中1
D	1		包含層	Q23	22	3	IV	0	Q23	Uフレイク	1	頁岩4	51	フレイク集中1
D	1	合計									10		675	
D	同一母岩		包含層	P22	5		IV	2	P22	剥片	1	頁岩	28	
D	同一母岩		包含層	Q21	1		IV	1	Q21	剥片	1	頁岩	25	
D	同一母岩		包含層	Q23	22	2	IV	0	Q23	Uフレイク	1	頁岩4	30	フレイク集中1
D	同一母岩		包含層	Q24	3		IV	1	Q24	剥片	1	頁岩	18	
E	1		包含層	M24	15		IV	0	M24	剥片	1	頁岩1	769.0	
E	1		包含層	M25	23	1	IV	4	M25	剥片	1	頁岩1		
E	1		包含層	N24	35		IV	4	N24	剥片	1	頁岩		
E	1		包含層	N25	1		IV	上面	N25	剥片	1	頁岩		
E	1		包含層	N25	4		IV		N25	剥片	1	頁岩		
E	1		包含層	O23	9		IV	3	O23	剥片	1	頁岩		
E	1		包含層	O24	16		IV	3	O24	剥片	1	頁岩		
E	1		包含層	O24	18		IV	3	O24	剥片	2	頁岩		
E	1	合計									9		769.0	
E	2		包含層	O24	16		IV	3	O24	剥片	1	頁岩		折れ面接合
E	2		包含層	O24	30		IV	4	O24	剥片	1	頁岩1	2.0	折れ面接合
E	2	合計									2		2.0	
E	合計										11		771	
E	同一母岩		包含層	N25	14		IV	4	N25	剥片	1	頁岩	7.0	
E	同一母岩		包含層	N25	14		IV	4	N25	剥片	1	頁岩1	2.0	
F	1		包含層	M25	4		IV	1	M25	剥片	2	頁岩	1030.0	
F	1		包含層	M25	8		IV	3	M25	剥片	8	頁岩		
F	1		包含層	M25	10		IV	3	M25	剥片	1	頁岩		
F	1		包含層	M25	13	9	IV	3	M25	剥片	1	頁岩2オリブ		
F	1		包含層	M25	13	18	IV	3	M25	剥片	1	頁岩2オリブ		
F	1		包含層	M25	14		IV	3	M25	剥片	3	頁岩		
F	1		包含層	M25	16		IV	4	M25	剥片	5	頁岩1		
F	1		包含層	M25	24		IV	4	M25	剥片	2	頁岩		

表5-4 接合資料一覧(4)

母岩	接合資料番号	小番号	種別	グリッド遺構名	遺物番号	ツールNo.	層位	掘り下げ回数	グリッド	分類	内訳数	部位・石材	重量g	備考
F	1		包含層	M25	26		IV	5	M25	剥片	1	頁岩		
F	1	合計									24		1030.0	
G	1		遺構	P-04	2		覆土		Q21	剥片	1	頁岩頁岩2風化		
G	1		包含層	N29	1		攪乱	抜根	N29_30	剥片	1	頁岩		
G	1		包含層	N29	1		攪乱	抜根	N29_30	剥片	1	頁岩		
G	1		包含層	P22	1		IV	上面	P22	剥片	1	頁岩		
G	1		包含層	P22	1		IV	上面	P22	剥片	1	頁岩		
G	1		包含層	P22	18		IV	3	P22	剥片	1	頁岩		
G	1		包含層	P22	18		IV	3	P22	剥片	1	頁岩		
G	1		包含層	P24	9		IV	1	P24	剥片	1	頁岩		
G	1		包含層	P25	3	2	IV	上面	P25	石核	1	頁岩頁岩1風化	329.0	
G	1		包含層	P25	3		IV	上面	P25	石核	1	頁岩	826	
G	1		包含層	Q22	5		IV	2	Q22	剥片	5	頁岩		
G	1		包含層	Q22	10		IV	3	Q22	剥片	2	頁岩	1155.0	
G	1		包含層	Q22	14	5	IV	3	Q22	剥片	1	頁岩		
G	1		包含層	Q22	14		IV	3	Q22	剥片	4	頁岩		
G	1		包含層	Q23	5		IV	2	Q23	剥片	1	頁岩		
G	1	合計									23		2310	
G	2		包含層	P20	2		IV	1	P20	剥片	1	頁岩	88.0	フレイク集中
G	2		包含層	P20	6		IV	2	P20	剥片	2	頁岩		
G	2		包含層	P20	6		IV	2	P20	剥片	2	頁岩		
G	2	合計									5		88.0	
G	3		包含層	P22	3		IV	1	P22	剥片	1	頁岩	84.0	
G	3		包含層	P22	3		IV	1	P22	剥片	1	頁岩		
G	3		包含層	Q22	10		IV	3	Q22	剥片	1	頁岩		
G	3		包含層	Q22	10		IV	3	Q22	剥片	1	頁岩		
G	3		包含層	Q22	24		IV	6	Q22	剥片	1	頁岩		
G	3	合計									5		84.0	
G		合計									33		2482	
G	同一母岩		遺構	F-02	1		覆土上面		Q23	剥片	1	頁岩	18	
G	同一母岩		遺構	F-03	1		覆土上面		Q23	剥片	1	頁岩	1	
G	同一母岩		遺構	F-08	1		IV		N22	剥片	1	頁岩2(風化)	5	
G	同一母岩		遺構	H-1	5		覆土		O24	剥片	1	頁岩	17	
G	同一母岩		遺構	P-17	12	6	点取り		N25	剥片	1	頁岩2	29	
G	同一母岩		包含層	L25	18		IV	4	L25	剥片	1	頁岩	14	
G	同一母岩		包含層	M20	3		IV	2	M20	剥片	1	頁岩	8	
G	同一母岩		包含層	M22	6		IV	2	M22	剥片	2	頁岩	6	フレイク集中1
G	同一母岩		包含層	M23	23		IV	5	M23	剥片	1	頁岩2	4	
G	同一母岩		包含層	M30	2		IV	2	M30	剥片	1	頁岩	87	
G	同一母岩		包含層	N16	8		IV	3	N16	剥片	1	風化頁岩	7	
G	同一母岩		包含層	N20	9		IV	3	N20	剥片	1	頁岩	47	
G	同一母岩		包含層	N20	11		IV	4	N20	剥片	1	頁岩	43	
G	同一母岩		包含層	N21	19		IV	2	N21	剥片	1	頁岩	7	
G	同一母岩		包含層	N21	20	2	IV	2	N21	剥片	1	頁岩2	43	
G	同一母岩		包含層	N22	1		IV	上面	N22	剥片	1	頁岩	52	
G	同一母岩		包含層	N22	4		IV	1	N22	剥片	1	頁岩2	14	
G	同一母岩		包含層	N22	8		IV	2	N22	剥片	1	頁岩	10	
G	同一母岩		包含層	N22	16		IV	5	N22	剥片	1	頁岩	21	
G	同一母岩		包含層	N23	27		IV	2	N23	剥片	2	風化頁岩	6	
G	同一母岩		包含層	N24	42		IV	7	N24	剥片	2	頁岩	29	
G	同一母岩		包含層	O11	1		IV	1	O11	剥片	1	頁岩1風化	18	
G	同一母岩		包含層	O11	3		IV	2	O11	剥片	1	頁岩	10	
G	同一母岩		包含層	O12	3		IV	2	O12	剥片	1	頁岩	4	
G	同一母岩		包含層	O19	5		IV	3	O19	剥片	1	頁岩	7	
G	同一母岩		包含層	O20	10		IV	2	O20	剥片	1	頁岩1	28	
G	同一母岩		包含層	O23	4		IV	2	O23	剥片	1	頁岩	4	
G	同一母岩		包含層	O24	5		IV	1	O24	剥片	1	頁岩	15	
G	同一母岩		包含層	O24	26		IV	3	O24	剥片	1	頁岩	16	
G	同一母岩		包含層	O24	28		IV	4	O24	剥片	1	頁岩	12	
G	同一母岩		包含層	O25	4	1	IV	1	O25	Rフレイク	1	頁岩1	76	点取り番号あり(No.70-80)
G	同一母岩		包含層	O26	20		IV	5	O26	剥片	1	頁岩	12	
G	同一母岩		包含層	P22	1		IV	上面	P22	剥片	1	頁岩	7	
G	同一母岩		包含層	P22	7	1	IV	2	P22	剥片	1	頁岩	14	
G	同一母岩		包含層	P22	18		IV	3	P22	剥片	1	頁岩	3	
G	同一母岩		包含層	P22	21		IV	0	P22	剥片	1	頁岩	9	
G	同一母岩		包含層	P23	3		IV	1	P23	剥片	8	頁岩	7	
G	同一母岩		包含層	P24	3		IV	1	P24	剥片	2	頁岩	80	
G	同一母岩		包含層	Q21	8	1	IV	2	Q21	Uフレイク	1	頁岩	22	
G	同一母岩		包含層	Q21	14		IV	4	Q21	剥片	1	頁岩1風化	44	
G	同一母岩		包含層	Q22	3		IV	1	Q22	剥片	1	頁岩	4	
G	同一母岩		包含層	Q22	5		IV	2	Q22	剥片	1	頁岩	3	
G	同一母岩		包含層	Q22	10		IV	3	Q22	剥片	3	頁岩	35	
G	同一母岩		包含層	Q22	14		IV	3	Q22	剥片	2	頁岩	18	
G	同一母岩		包含層	Q22	16		IV	0	Q22	剥片	1	頁岩	7	
H	1		包含層	M23	10		IV	4	M23	剥片	1	頁岩	1050	
H	1		包含層	N23	26		IV	2	N23	剥片	1	頁岩		
H	1		包含層	N24	1		IV	上面	N24	剥片	1	頁岩		
H	1		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	1	頁岩		
H	1		包含層	N24	5		IV	1	N24	剥片	1	頁岩		
H	1		包含層	N24	9		IV	1	N24	剥片	1	頁岩		
H	1		包含層	N24	11		IV	2	N24	剥片	2	頁岩		フレイク集中1
H	1		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	3	頁岩		
H	1		包含層	N24	18		IV	4	N24	剥片	2	頁岩		
H	1		包含層	N24	20		IV	4	N24	剥片	1	頁岩		
H	1		包含層	N24	27		IV	5	N24	剥片	2	頁岩		
H	1		包含層	N24	32		IV	2	N24	剥片	1	頁岩		
H	1		包含層	O20	6		IV	1	O20	剥片	1	頁岩		
H	1	合計									18		1050	
H	2		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	1	頁岩	416	
H	2		包含層	N24	5		IV	1	N24	剥片	1	頁岩		
H	2		包含層	N24	9		IV	1	N24	剥片	1	頁岩		
H	2		包含層	N24	68		覆土上層	旧P-14	N24	剥片	1	頁岩2		
H	2		包含層	N24	83		IV	0	N24	剥片	1	頁岩		
H	2		包含層	SP60							1	頁岩		
H	2	合計									6		416	
H	3		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	1	頁岩	50	
H	3		包含層	N24	6		IV	1	N24	剥片	1	風化頁岩		
H	3		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	2	頁岩		
H	3	合計									4		50	
H	4		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	2	頁岩	115	

表5-4 接合資料一覧(5)

母岩	接合資料番号	小番号	種別	グリッド遺構名	遺物番号	ツールNo.	層位	掘り下げ回数	グリッド	分類	内訳数	部位・石材	重量g	備考
H	4		包含層	SP60						剥片	1	頁岩		
H	4	合計									3		115	
H	5		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	1	頁岩	103	
H	5		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	1	頁岩		
H	5	合計									2		103	
H	6		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	1	頁岩	65	
H	6		包含層	N24	27		IV	5	N24	剥片	1	頁岩		
H	6	合計									2		65	
H	7		包含層	N24	7		IV	2	N24	剥片	2	頁岩	11	
H	7	合計									2		11	
H	8		包含層	N24	5		IV	1	N24	剥片	1	頁岩	8	
H	8		包含層	N24	16		IV	3	N24	剥片	1	頁岩		
H	8	合計									2		8	
H	9		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	1	頁岩	158	
H	9		包含層	SP60						剥片	1			
H	9	合計									2		158	
H	10		包含層	O23	9		IV	3	O23	剥片	1	頁岩	32	
H	10		包含層	O24	1		IV	上面	O24	剥片	1	頁岩		
H	10	合計									2		32	
H	11		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	1	頁岩	24	折れ面接合
H	11		包含層	N24	43		IV	8	N24	剥片	1	頁岩		折れ面接合
H	11	合計									2		24	
H		合計									45		2032	
H	同一母岩		包含層	N24	1		IV	上面	N24	剥片	1	頁岩	5	
H	同一母岩		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	8	頁岩	102	
H	同一母岩		包含層	N24	5	5	IV	1	N24	石核	1	頁岩1水黒風化	74	
H	同一母岩		包含層	N24	5		IV	1	N24	剥片	6	頁岩	72	
H	同一母岩		包含層	N24	7		IV	2	N24	剥片	3	頁岩	6	
H	同一母岩		包含層	N24	9		IV	1	N24	剥片	3	頁岩	16	フレイク集中1
H	同一母岩		包含層	N24	11		IV	2	N24	剥片	2	頁岩	8	
H	同一母岩		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	11	頁岩	76	
H	同一母岩		包含層	N24	16		IV	3	N24	剥片	1	頁岩	30	
H	同一母岩		包含層	N24	18		IV	4	N24	剥片	1	頁岩	1	
H	同一母岩		包含層	N24	20		IV	4	N24	剥片	1	頁岩	13	
H	同一母岩		包含層	N24	27		IV	5	N24	剥片	4	頁岩	43	
H	同一母岩		包含層	N24	29		IV	1	N24	剥片	3	頁岩	29	
H	同一母岩		包含層	N24	35		IV	4	N24	剥片	1	頁岩	36	
H	同一母岩		包含層	N24	93		IV	0	N24	剥片	1	頁岩	28	
H	同一母岩		包含層	O20	6		IV	1	O20	剥片	2	頁岩	12	
H	同一母岩		包含層	SP60						剥片	4		124	
I	1		包含層	N24	1		IV	上面	N24	剥片	1	頁岩	113	
I	1		包含層	N24	7		IV	2	N24	剥片	1	頁岩		
I	1		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	1	頁岩		
I	1		包含層	N24	16		IV	3	N24	剥片	1	頁岩		
I	1		包含層	N24	18		IV	4	N24	剥片	1	頁岩		
I	1		包含層	N24	27		IV	5	N24	剥片	1	頁岩		
I	1		包含層	N24	43		IV	8	N24	剥片	1	頁岩		
I	1	合計									7		113	
I	2		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	2	頁岩	48	
I	2		包含層	N24	5		IV	1	N24	剥片	1	頁岩		
I	2		包含層	N24	9		IV	1	N24	剥片	1	頁岩		フレイク集中1
I	2		包含層	N24	11		IV	2	N24	剥片	1	頁岩		
I	2		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	1	頁岩		
I	2		包含層	N24	27		IV	5	N24	剥片	1	頁岩		
I	2		包含層	N24	29		IV	1	N24	剥片	1	頁岩		
I	2	合計									8		48	
I	3		包含層	N21	15		IV	4	N21	剥片	1	頁岩	90	
I	3		包含層	N23	7		IV	3	N23	剥片	1	頁岩		
I	3		包含層	N24	9		IV	1	N24	剥片	1	頁岩		
I	3		包含層	N24	11		IV	2	N24	剥片	1	頁岩		
I	3		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	1	頁岩		
I	3	合計									5		90	
I	4		包含層	N23	7		IV	3	N23	剥片	1	頁岩	75	
I	4		包含層	N24	9		IV	1	N24	剥片	1	頁岩		フレイク集中1
I	4		包含層	N24	11		IV	2	N24	剥片	1	頁岩		
I	4		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	2	頁岩		
I	4		包含層	N24	29		IV	1	N24	剥片	1	頁岩		
I	4		包含層	N24	41		IV	7	N24	剥片	2	頁岩		
I	4		包含層	O20	12		IV	2	O20	剥片	1	頁岩		
I	4	合計									9		75	
I	5		包含層	N24	1		IV	上面	N24	剥片	1	頁岩	68	
I	5		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	1	頁岩		
I	5		包含層	N24	7		IV	2	N24	剥片	1	頁岩		
I	5		包含層	N24	9		IV	1	N24	剥片	1	頁岩		
I	5		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	2	頁岩		フレイク集中1
I	5		包含層	N24	16		IV	3	N24	剥片	1	頁岩		
I	5		包含層	N24	27		IV	5	N24	剥片	1	頁岩		
I	5	合計									8		68	
I	6		包含層	M21	4		IV	1	M21	剥片	1	頁岩	75	
I	6		包含層	N24	5		IV	1	N24	剥片	1	頁岩		
I	6		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	1	頁岩		
I	6		包含層	N24	18		IV	4	N24	剥片	1	頁岩		
I	6		包含層	N24	93		IV	0	N24	剥片	1	頁岩		
I	6	合計									5		75	
I	7		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	3	頁岩	12	
I	7		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	1	頁岩		
I	7		包含層	N24	29		IV	1	N24	剥片	1	頁岩		
I	7	合計									5		12	
I	8		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	1	頁岩	65	
I	8		包含層	N24	43		IV	8	N24	剥片	1	頁岩		
I	8		包含層	N24	83		IV	0	N24	剥片	1	頁岩		
I	8	合計									3		65	
I	9		包含層	N24	7		IV	2	N24	剥片	1	頁岩	7	
I	9		包含層	N24	16		IV	3	N24	剥片	1	頁岩		
I	9		包含層	N24	27		IV	5	N24	剥片	1	頁岩		
I	9	合計									3		7	
I	10		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	1	頁岩	8	
I	10		包含層	N24	11		IV	2	N24	剥片	1	頁岩		
I	10		包含層	N24	20		IV	4	N24	剥片	1	頁岩		
I	10	合計									3		8	

表5-4 接合資料一覧(6)

母岩	接合資料番号	小番号	種別	グリッド遺構名	遺物番号	ツールNo.	層位	掘り下げ回数	グリッド	分類	内訳数	部位・石材	重量g	備考
I	11		包含層	N24	9		IV	1	N24	剥片	1	真岩	12	フレイク集中1
I	11		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	1	真岩		
I	11		包含層	N24	93		IV	0	N24	剥片	1	真岩		
I	11	合計									3		12	
I	12		包含層	M21	6		IV	2	M21	剥片	1	真岩	18	
I	12		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	1	真岩		
I	12	合計									2		18	
I	13		包含層	N20	11		IV	4	N20	剥片	1	真岩	31	
I	13		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	1	真岩		
I	13	合計									2		31	
I	14		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	1	真岩	39	
I	14		包含層	N24	27		IV	5	N24	剥片	1	真岩		
I	14	合計									2		39	
I	15		包含層	N24	5		IV	1	N24	剥片	1	真岩	28	
I	15		包含層	N24	41		IV	7	N24	剥片	1	真岩		
I	15	合計									2		28	
I	16		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	1	真岩	3	
I	16		包含層	N24	7		IV	2	N24	剥片	1	真岩		
I	16	合計									2		3	
I	17		包含層	N24	5		IV	1	N24	剥片	1	真岩	15	
I	17		包含層	N24	93		IV	0	N24	剥片	1	真岩		
I	17	合計									2		15	
I	18		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	1	真岩	6	
I	18		包含層	N24	11		IV	2	N24	剥片	1	真岩		
I	18	合計									2		6	
I	19		包含層	N23	7		IV	3	N23	剥片	1	真岩	15	
I	18		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	1	真岩		
I	18	合計									2		15	
I	20		包含層	N24	11		IV	2	N24	剥片	1	真岩	7	
I	18		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	1	真岩		
I	18	合計									2		7	
I	21		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	1	真岩	3	
I	18		包含層	N24	37		IV	5	N24	剥片	1	真岩		
I	18	合計									2		3	
I	22		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	1	真岩	2	
I	22		包含層	N24	7		IV	2	N24	剥片	1	真岩		
I	22	合計									2		2	
I	23		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	1	真岩	2	
I	23		包含層	N24	43		IV	8	N24	剥片	1	真岩		
I	23	合計									2		2	
I	24		包含層	M20	3		IV	2	M20	剥片	1		7	
I	24		包含層	N24	11		IV	2	N24	剥片	1	真岩		
I	24	合計									2		7	
I	25		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	1	真岩	4	
I	25		包含層	N24	5		IV	1	N24	剥片	1	真岩		
I	25	合計									2		4	
I	26		包含層	N24	7		IV	2	N24	剥片	1	真岩	8	
I	26		包含層	N24	11		IV	2	N24	剥片	1	真岩		
I	26	合計									2		8	
I	27		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	1	真岩	14	
I	27		包含層	N24	93		IV	0	N24	剥片	1	真岩		
I	27	合計									2		14	
I	28		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	1	真岩	2	
I	28		包含層	N24	33		IV	3	N24	剥片	1	真岩		
I	28	合計									2		2	
I	29		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	1	真岩	8	折れ面接合
I	29		包含層	N24	20		IV	4	N24	剥片	1	真岩		折れ面接合
I	29	合計									2		8	
I	30		包含層	P19	4		IV	2	P19	剥片	2	真岩	6	折れ面接合
I	30	合計									2		6	
I											97		791	
I	同一母岩		遺構	H-1	4	1	覆土		O24	Rフレイク	1	真岩	22	
I	同一母岩		遺構	H-1	4		覆土		O24	剥片	1	真岩	5	
I	同一母岩		包含層	M20	18		IV	0	M20	剥片	1	真岩	5	
I	同一母岩		包含層	M21	6		IV	2	M21	剥片	3	真岩	21	
I	同一母岩		包含層	M21	11		IV	3	M21	剥片	1	真岩	4	
I	同一母岩		包含層	N21	5		IV	2	N21	剥片	1	真岩	5	
I	同一母岩		包含層	N23	38		IV	1	N23	剥片	1	真岩	1	
I	同一母岩		包含層	N24	1		IV	上面	N24	剥片	6	真岩	15	
I	同一母岩		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	25	真岩	95	
I	同一母岩		包含層	N24	5		IV	1	N24	剥片	4	真岩	12	
I	同一母岩		包含層	N24	9		IV	1	N24	剥片	16	真岩	52	
I	同一母岩		包含層	N24	11		IV	2	N24	剥片	11	真岩	17	
I	同一母岩		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	31	真岩	92	
I	同一母岩		包含層	N24	16		IV	3	N24	剥片	2	真岩	16	
I	同一母岩		包含層	N24	18		IV	4	N24	剥片	8	真岩	17	
I	同一母岩		包含層	N24	20		IV	4	N24	剥片	1	真岩	75	
I	同一母岩		包含層	N24	27		IV	5	N24	剥片	12	真岩	37	
I	同一母岩		包含層	N24	29		IV	1	N24	剥片	3	真岩	6	
I	同一母岩		包含層	N24	33		IV	3	N24	剥片	3	真岩	8	
I	同一母岩		包含層	N24	37		IV	5	N24	剥片	1	真岩	7	
I	同一母岩		包含層	N24	41		IV	7	N24	剥片	5	真岩	23	
I	同一母岩		包含層	N24	43		IV	8	N24	剥片	5	真岩	16	
I	同一母岩		包含層	N24	83		IV	0	N24	剥片	1	真岩	1	
I	同一母岩		包含層	N24	93		IV	0	N24	剥片	3	真岩	12	
I	同一母岩		包含層	N25	14		IV	4	N25	剥片	1	真岩1	8	
I	同一母岩		包含層	O19	5		IV	3	O19	剥片	1	真岩	15	
I	同一母岩		包含層	O20	6		IV	1	O20	剥片	1	真岩1	2	
I	同一母岩		包含層	O20	10		IV	2	O20	剥片	2	真岩1	7	
I	同一母岩		包含層	O22	12		IV	2	O22	剥片	1	真岩1水墨	6	
I	同一母岩		包含層	O24	14		IV	2	O24	剥片	1	真岩	2	
I	同一母岩		包含層	O24	18		IV	3	O24	剥片	1	真岩	3	
I	同一母岩		包含層	O24	20		IV	4	O24	剥片	1	真岩	4	
I	同一母岩		包含層	P19	1		IV	1	P19	剥片	1	真岩	4	
I	同一母岩		包含層	P19	9		IV	4	P19	剥片	1	真岩	3	
I	同一母岩		包含層	P20	16		IV	6	P20	剥片	1	真岩	13	
I	同一母岩		包含層	Q20	12		IV	3	Q20	剥片	1	真岩	14	
I	同一母岩		包含層	Q21	12	1	IV	4	Q21	Rフレイク	1	真岩4	15	
I	1		包含層	O11	3		IV	2	O11	剥片	1	真岩	1460.0	
I	1		包含層	O11	6	1	IV	3	O11	剥片	14	真岩		

表5-4 接合資料一覧(7)

母岩	接合資料番号	小番号	種別	グリッド遺構名	遺物番号	ツールNo.	層位	掘り下げ回数	グリッド	分類	内訳点数	部位・石材	重量g	備考
J	1		包含層	O11	8	1	IV	4	O11	剥片	1	頁岩1		
J	1		包含層	O11	8		IV	4	O11	剥片	2	頁岩		
J	1		包含層	O11	10		IV	4	O11	剥片	1	頁岩2ほか		
J	1	合計									19		1460.0	
J	2		包含層	O11	3		IV	2	O11	剥片	1	頁岩		
J	2		包含層	O11	8		IV	4	O11	剥片	1	頁岩	66.0	
J	2	合計									2		66.0	
J	合計										21		1526	
J	同一母岩		包含層	O11	6	1	IV	3	O11	剥片	11	頁岩	6.0	
J	同一母岩		包含層	O11	8		IV	4	O11	剥片	5	頁岩	12.0	
J	同一母岩		包含層	O11	8		IV	4	O11	剥片	1	頁岩	10.0	
J	同一母岩		包含層	O11	10		IV	4	O11	剥片	3	頁岩2ほか	526.0	
J	同一母岩		包含層	O11	10		IV	4	O11	剥片	1	頁岩2ほか	20.0	
J	同一母岩		包含層	O25	9		IV	3	O25	剥片	1	頁岩	4.0	
J	同一母岩		包含層	P15	8	1	IV	4	P15	剥片	1	頁岩4	42.0	
J	同一母岩		包含層	P23	41		IV	4	P23	剥片	1	頁岩4	5.0	
K	1		包含層	L25	22		IV	2	L25	剥片	1	頁岩	1950.0	
K	1		包含層	M20	11		IV	5	M20	剥片	1	頁岩		
K	1		包含層	M22	6	4	IV	2	M22	原石	1	頁岩4(モザイク)		フレイク集中1
K	1		包含層	M22	6		IV	2	M22	剥片	1	頁岩		フレイク集中1
K	1		包含層	M24	8	13	IV	1	M24	剥片	1	頁岩4		
K	1		包含層	N24	1		IV	上面	N24	剥片	1	頁岩		
K	1		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	6	頁岩		
K	1		包含層	N24	5		IV	1	N24	剥片	2	頁岩		
K	1		包含層	N24	7		IV	2	N24	剥片	1	頁岩		
K	1		包含層	N24	9		IV	1	N24	剥片	11	頁岩		フレイク集中1
K	1		包含層	N24	11		IV	2	N24	剥片	1	頁岩		
K	1		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	6	頁岩		
K	1		包含層	N24	16		IV	3	N24	剥片	3	頁岩		
K	1		包含層	N24	18		IV	4	N24	剥片	1	頁岩		
K	1		包含層	N24	20		IV	4	N24	剥片	1	頁岩		
K	1		包含層	N24	24		IV	4	N24	剥片	1	頁岩		
K	1		包含層	N24	27		IV	5	N24	剥片	3	頁岩		
K	1		包含層	N24	43		IV	8	N24	剥片	2	頁岩		
K	1		包含層	N24	91		IV	0	N24	剥片	2	頁岩		
K	1		包含層	N24	93		IV	0	N24	剥片	2	頁岩		
K	1		包含層	O19	3		IV	2	O19	剥片	1	頁岩		
K	1		包含層	Q20	8		IV	3	Q20	剥片	1	頁岩1		
K	1	合計									50		1950.0	
K	2		遺構	P-10	12		覆土上層		M21	剥片	1	頁岩		
K	2		包含層	M20	11		IV	5	M20	剥片	1	頁岩	487.0	
K	2		包含層	M24	5		IV	2	M24	剥片	1	頁岩		
K	2		包含層	N24	7		IV	2	N24	剥片	1	頁岩		
K	2		包含層	N24	9		IV	1	N24	剥片	1	頁岩		フレイク集中1
K	2		包含層	N24	20		IV	4	N24	剥片	1	頁岩		
K	2		包含層	N24	27		IV	5	N24	剥片	3	頁岩		
K	2		包含層	N24	93		IV	0	N24	剥片	1	頁岩		
K	2		包含層	O19	9		IV	5	O19	剥片	3	頁岩4		
K	2		包含層	Q20	8		IV	3	Q20	剥片	1	頁岩1		
K	2	合計									14		487.0	
K	3		包含層	N21	3		IV	1	N21	剥片	1	頁岩	500.0	
K	3		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	2	頁岩		
K	3		包含層	N24	5		IV	1	N24	剥片	1	頁岩		
K	3		包含層	N24	9		IV	1	N24	剥片	2	頁岩		フレイク集中1
K	3		包含層	N24	11		IV	2	N24	剥片	2	頁岩		
K	3		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	2	頁岩		
K	3		包含層	N24	20		IV	4	N24	剥片	1	頁岩		
K	3		包含層	N24	48		覆土	旧P-14	N24	剥片	1	頁岩		
K	3	合計									12		500.0	
K	4		包含層	N24	9		IV	1	N24	剥片	2	頁岩	95	フレイク集中1
K	4		包含層	N24	11		IV	2	N24	剥片	1	頁岩		
K	4		包含層	N24	16		IV	3	N24	剥片	1	頁岩		
K	4		包含層	N24	18		IV	4	N24	剥片	1	頁岩		
K	4		包含層	N24	41		IV	7	N24	剥片	1	頁岩		
K	4	合計									6		95	
K	5		包含層	N24	11		IV	2	N24	剥片	1	頁岩	136	
K	5		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	2	頁岩		
K	5		包含層	N24	45		覆土	旧P-14	N24	剥片	1	頁岩		
K	5		包含層	N24	93		IV	0	N24	剥片	2	頁岩		
K	5	合計									6		136	
K	6		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	1	頁岩	87	
K	6		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	1	頁岩		
K	6		包含層	N24	16		IV	3	N24	剥片	1	頁岩		
K	6		包含層	N24	29		IV	1	N24	剥片	1	頁岩		
K	6	合計									4		87	
K	7		包含層	N24	7		IV	2	N24	剥片	1	頁岩	56	
K	7		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	1	頁岩		
K	7		包含層	N24	93		IV	0	N24	剥片	1	頁岩		
K	7	合計									3		56	
K	8		包含層	N24	5		IV	1	N24	剥片	1	頁岩	106	
K	8		包含層	N24	7		IV	2	N24	剥片	1	頁岩		
K	8	合計									2		106	
K	9		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	1	頁岩	12	
K	9		包含層	N24	20		IV	4	N24	剥片	1	頁岩		
K	9	合計									2		12	
K	合計										99		3429	
K	同一母岩		遺構	P-17	11		覆土IV層		N25	剥片	1	頁岩1	15	
K	同一母岩		包含層	M21	11		IV	3	M21	剥片	1	頁岩	1	
K	同一母岩		包含層	M24	8		IV	1	M24	剥片	1	頁岩	23	
K	同一母岩		包含層	N21	3		IV	1	N21	剥片	1	頁岩	11	
K	同一母岩		包含層	N24	1		IV	上面	N24	剥片	3	頁岩	3	
K	同一母岩		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	4	頁岩	4	
K	同一母岩		包含層	N24	5		IV	1	N24	剥片	2	頁岩	1	
K	同一母岩		包含層	N24	9		IV	1	N24	剥片	1	頁岩	9	フレイク集中1
K	同一母岩		包含層	N24	11		IV	2	N24	剥片	4	頁岩	7	
K	同一母岩		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	5	頁岩	11	
K	同一母岩		包含層	N24	16		IV	3	N24	剥片	2	頁岩	5	
K	同一母岩		包含層	N24	18		IV	4	N24	剥片	1	頁岩	3	
K	同一母岩		包含層	N24	20		IV	4	N24	剥片	1	頁岩	1	
K	同一母岩		包含層	N24	27		IV	5	N24	剥片	4	頁岩	7	

表5-4 接合資料一覧(8)

母岩	接合資料番号	小番号	種別	グリッド遺構名	遺物番号	ツールNo.	層位	掘り下げ回数	グリッド	分類	内訳数	部位・石材	重量g	備考
K	同一母岩		包含層	N24	33		IV	3	N24	剥片	1	頁岩	2	
K	同一母岩		包含層	N24	41		IV	7	N24	剥片	2	頁岩	4	
K	同一母岩		包含層	N24	43		IV	8	N24	剥片	1	頁岩	4	
K	同一母岩		包含層	N24	83		IV	0	N24	剥片	1	頁岩	1	
K	同一母岩		包含層	N24	93		IV	0	N24	剥片	1	頁岩	1	
K	同一母岩		包含層	O19	1		IV	1	O19	剥片	1	頁岩	1	
K	同一母岩		包含層	P25	4		IV	1	P25	剥片	1	頁岩	7	
K	同一母岩		包含層	P26	4		IV	1	P26	剥片	1	頁岩	2	
L	1		遺構	H-1	82		覆土上層	H-1(P-3)	O23	剥片	1	頁岩	427.0	H-1(P-3)
L	1		遺構	H-1	86	1	覆土中層	H-1(P-3)	O23	石核	1	頁岩1		原因33記載
L	1		包含層	O25	9		IV	3	O25	剥片	1	頁岩		
L	1		包含層	O25	11		IV	4	O25	剥片	1	頁岩		
L	1	合計									4		427.0	
L	同一母岩		包含層	M20	18		IV	0	M20	剥片	1	頁岩	13.0	
M	1		包含層	M23	16		IV	2	M23	剥片	1	頁岩	158.0	
M	1		包含層	N20	9		IV	3	N20	剥片	1	頁岩		
M	1		包含層	N21	3		IV	1	N21	剥片	1	頁岩		
M	1		包含層	N22	1		IV	上面	N22	剥片	1	頁岩		
M	1		包含層	N22	10		IV	3	N22	剥片	2	頁岩		
M	1		包含層	N22	20		IV	2	N22	剥片	1	頁岩		
M	1	合計									7		158.0	
M	同一母岩		包含層	N20	7		IV	2	N20	剥片	1	頁岩	3.0	
N	1		包含層	P22	1		IV	上面	P22	剥片	2	頁岩	888	
N	1		包含層	P22	3		IV	1	P22	剥片	3	頁岩		
N	1		包含層	P22	5		IV	2	P22	剥片	1	頁岩		
N	1		包含層	P22	8	6	IV	2	P22	剥片	1	頁岩1		
N	1		包含層	P22	8		IV	2	P22	剥片	1	頁岩1		
N	1		包含層	P22	14		IV	0	P22	剥片	2	頁岩		フレイク集中2
N	1		包含層	P22	16	2	IV	3	P22	剥片	1	頁岩		
N	1	合計									11		888	
N	2		包含層	P22	1		IV	上面	P22	剥片	1	頁岩	77	
N	2		包含層	P22	3		IV	1	P22	剥片	1	頁岩		
N	2		包含層	P22	5		IV	2	P22	剥片	1	頁岩		
N	2		包含層	P22	14		IV	0	P22	剥片	1	頁岩		フレイク集中2
N	2	合計									4		77	
N	3		包含層	N21	26		IV	5	N21	剥片	1	頁岩1白	173	
N	3		包含層	O24	5		IV	1	O24	剥片	1	頁岩		
N	3		包含層	O24	16		IV	3	O24	剥片	1	頁岩		
N	3	合計									3		173	
N	4		包含層	P22	1		IV	上面	P22	剥片	2	頁岩	21	
N	4	合計									2		21	
N	合計										20		1159	
N	同一母岩		包含層	M22	6	1	IV	2	M22	Rフレイク	1	頁岩1	4.0	フレイク集中1
N	同一母岩		包含層	N20	7		IV	2	N20	剥片	1	頁岩	24	
N	同一母岩		包含層	N20	9		IV	3	N20	剥片	1	頁岩	9	
N	同一母岩		包含層	N24	29		IV	1	N24	剥片	1	頁岩	7	
N	同一母岩		包含層	O21	3		IV	1	O21	剥片	1	頁岩	2	
N	同一母岩		包含層	O21	11		IV	5	O21	剥片	1	頁岩	8	
N	同一母岩		包含層	O22	4	10	IV	1	O22	剥片	1	頁岩2	16	
N	同一母岩		包含層	O25	2		IV	1	O25	剥片	1	頁岩	2	
N	同一母岩		包含層	O25	11		IV	4	O25	剥片	1	頁岩	5	
N	同一母岩		包含層	P18	1	1				Rフレイク	1	頁岩	22	
N	同一母岩		包含層	P21	2		IV	1	P21	剥片	1	頁岩	1	
N	同一母岩		包含層	P22	1		IV	上面	P22	剥片	3	頁岩	18	
N	同一母岩		包含層	P22	3		IV	1	P22	剥片	8	頁岩	23	
N	同一母岩		包含層	P22	8		IV	2	P22	剥片	2	頁岩1	12	
N	同一母岩		包含層	P22	14		IV	0	P22	剥片	4	頁岩	9	フレイク集中2
N	同一母岩		包含層	P22	16		IV	3	P22	剥片	2	頁岩	2	
N	同一母岩		包含層	P22	27		IV	0	P22	剥片	1	頁岩	5	
O	1		包含層	O13	1	8	IV	1	O13	Uフレイク	1	頁岩2	55.0	O11480
O	1		包含層	O13	1	11	IV	1	O13	剥片	1	頁岩2		O11480
O	1		包含層	O13	1		IV	1	O13	剥片	1	頁岩	1425.0	O11480
O	1		包含層	O13	3		IV	2	O13	剥片	1	頁岩		O11480
O	1		包含層	O13	6		IV	3	O13	剥片	1	頁岩		O11480
O	1		包含層	O13	8		IV	0	O13	剥片	1	頁岩1		O11480
O	1	合計									6		1480.0	
P	1		包含層	Q20	6		IV	2	Q20	剥片	1	頁岩1ほか		
P	1		包含層	Q22	13	1	IV	1	Q22	石核	1	頁岩4	587.0	本体319g
P	1		包含層	Q22	13		IV	1	Q22	剥片	8	頁岩4		石核との接合可3点あり
P	1	合計									10		587.0	
母岩別接合資料合計											621		23414	
母岩外	1		包含層	L22	1		IV	1	L22	剥片	1	頁岩2	24	
母岩外	1		包含層	L22	3		IV	3	L22	剥片	1	頁岩		
母岩外	1集計										2		24	
母岩外	2		包含層	L22	1		IV	1	L22	剥片	1	頁岩2	35	
母岩外	2		包含層	L22	4		IV	4	L22	剥片	1	頁岩		
母岩外	2		包含層	L23	9		IV	3	L23	剥片	1	頁岩		
母岩外	2集計										3		35	
母岩外	3		包含層	L22	3		IV	3	L22	剥片	3	頁岩	58	
母岩外	3		包含層	L23	7		IV	2	L23	剥片	1	頁岩		
母岩外	3集計										4		58	
母岩外	4		包含層	L24	2		IV	1	L24	剥片	1	頁岩	489	
母岩外	4		包含層	L28	1		IV	上面	L28	原石	2	頁岩2(モザイク)		
母岩外	4集計										3		489	
母岩外	5		包含層	L25	8		IV	3	L25	剥片	1	頁岩	143	
母岩外	5		包含層	M25	4	14	IV	1	M25	Uフレイク	1	頁岩1水墨		
母岩外	5		包含層	M25	14		IV	3	M25	剥片	1	頁岩		
母岩外	5集計										3		143	
母岩外	6		包含層	L26	3		IV	1	L26	剥片	2	頁岩	40	
母岩外	6		包含層	L26	8		IV	3	L26	剥片	1	頁岩		
母岩外	6集計										3		40	
母岩外	7		包含層	L27	2		IV	1	L27	剥片	1	頁岩1	105	折れ面接合
母岩外	7		包含層	L27	4		IV	2	L27	剥片	1	頁岩1		折れ面接合
母岩外	7集計										2		105	
母岩外	8		包含層	M18	3		IV	2	M18	Rフレイク	1	頁岩1	48	
母岩外	8		包含層	M19	1		IV	1	M19	Uフレイク	1	頁岩		
母岩外	8集計										2		48	

表5-4 接合資料一覧(9)

母岩	接合資料番号	小番号	種別	グリッド遺構名	遺物番号	ツールNo.	層位	掘り下げ回数	グリッド	分類	内訳点数	部位・石材	重量g	備考
母岩外	9		包含層	M22	1		IV	上面	M22	剥片	2	頁岩	66	
母岩外	9		包含層	M22	6		IV	2	M22	剥片	2	頁岩		フレイク集中1
母岩外	9		包含層	N23	7		IV	3	N23	剥片	1	頁岩		
	9集計										5		66	
母岩外	10		包含層	M22	6		IV	2	M22	剥片	2	頁岩	63	フレイク集中1
	10集計										2		63	
母岩外	11		包含層	M22	19		IV	3	M22	剥片	1	頁岩	56	
母岩外	11		包含層	P19	6		IV	3	P19	剥片	1	頁岩		
	11集計										2		56	
母岩外	12		包含層	M23	23		IV	5	M23	剥片	1	頁岩2	22	
母岩外	12		包含層	N24	20		IV	4	N24	剥片	1	頁岩		
	12集計										2		22	
母岩外	13		包含層	M24	5		IV	2	M24	Uフレイク	1	頁岩	42	折れ面接合
母岩外	13		包含層	M24	8		IV	1	M24	剥片	1	頁岩		折れ面接合
	13集計										2		42	
母岩外	14		包含層	M24	8		IV	1	M24	Uフレイク	1	頁岩	26	折れ面接合
母岩外	14		包含層	M25	10		IV	3	M25	剥片	1	頁岩		折れ面接合
	14集計										2		26	
母岩外	15		包含層	M24	9		IV	5	M24	剥片	2	頁岩	43	折れ面接合
	15集計										2		43	
母岩外	16		包含層	M25	19		IV	4	M25	剥片	1	頁岩	46	
母岩外	16		包含層	M25	21		IV	4	M25	剥片	1	頁岩		
	16集計										2		46	
母岩外	17		包含層	M26	9		IV	3	M26	剥片	2	頁岩	20	折れ面接合
母岩外	17		包含層	N23	11	6	IV	2	N23	剥片	1	頁岩	2120	
	17集計										3		2140	
母岩外	18		包含層	M26	11		IV	3	M26	剥片	1	頁岩	39	折れ面接合
母岩外	18		包含層	M26	13		IV	5	M26	剥片	1	頁岩		折れ面接合
母岩外	18		包含層	N24	71		覆土上層	旧P-14	N24	剥片	1	頁岩	125	
	18集計										3		164	
母岩外	19		包含層	M26	13		IV	5	M26	剥片	2	頁岩	18	折れ面接合
	19集計										2		18	
母岩外	20		遺構	H-1	46		覆土		O23	剥片	1	頁岩	75	
母岩外	20		包含層	M26	13	2	IV	5	M26	Uフレイク	1	頁岩1	41	折れ面接合
母岩外	20		包含層	M26	15		IV	4	M26	剥片	1	頁岩		
母岩外	20		包含層	O23	9		IV	3	O23	剥片	1	頁岩		
母岩外	20		包含層	O24	14		IV	2	O24	剥片	1	頁岩		
	20集計										5		116	
母岩外	21		包含層	M26	15		IV	4	M26	剥片	1	頁岩	109	
母岩外	21		包含層	N24	29		IV	1	N24	剥片	2	頁岩		
母岩外	21		包含層	O24	28		IV	4	O24	剥片	1	頁岩		
	21集計										4		109	
母岩外	22		包含層	M27	9		IV	5	M27	剥片	1	頁岩1	619	
母岩外	22		包含層	M27	10	3	IV	5	M27	剥片	1	頁岩1		
母岩外	22		包含層	M27	10		IV	5	M27	剥片	1	頁岩		
	22集計										3		619	
母岩外	23		包含層	N16	4		IV	1	N16	剥片	4	頁岩	510	
母岩外	23		包含層	N16	5		IV	2	N16	剥片	1	頁岩		
	23集計										5		510	
母岩外	24		包含層	N16	4		IV	1	N16	剥片	3	頁岩	355	
母岩外	24		包含層	N16	5		IV	2	N16	剥片	2	頁岩		
	24集計										5		355	
母岩外	25		包含層	O25	4	7	IV	1	O25	剥片	1	頁岩4		点取り (No. 70-80)
母岩外	25		包含層	O25	6		IV	2	O25	剥片	2	頁岩		
母岩外	25		包含層	N19	9					剥片	3			
	25集計										6		287	
母岩外	26		包含層	N19	3		IV	2	N19	剥片	2	頁岩	15	
	26集計										2		15	
母岩外	27		包含層	N20	5		IV	1	N20	剥片	1	頁岩	34	折れ面接合
母岩外	27		包含層	N20	7		IV	2	N20	剥片	1	頁岩		折れ面接合
	27集計										2		34	
母岩外	28		包含層	N22	1		IV	上面	N22	剥片	1	頁岩	249	
母岩外	28		包含層	N22	8		IV	2	N22	剥片	1	頁岩		
	28集計										2		249	
母岩外	29		包含層	N22	8		IV	2	N22	剥片	1	頁岩	25	
母岩外	29		包含層	N23	48		IV	0	N23	剥片	1	頁岩		
	29集計										2		25	
母岩外	30		包含層	N23	5		IV	2	N23	剥片	1	頁岩	57	
母岩外	30		包含層	N23	7		IV	3	N23	剥片	1	頁岩		
	30集計										2		57	
母岩外	31		包含層	N23	20		IV	3	N23	剥片	2	頁岩	108	
	31集計										2		108	
母岩外	32		包含層	N23	20		IV	3	N23	剥片	2	頁岩	13	
	32集計										2		13	
母岩外	33		包含層	N23	26		IV	2	N23	剥片	1	頁岩	37	
母岩外	33		包含層	Q23	17		IV	4	Q23	剥片	1	頁岩		
	33集計										2		37	
母岩外	34		包含層	N23	35		IV	1	N23	剥片	3	頁岩	16	
母岩外	34		包含層	N23	37		IV	1	N23	剥片	1	頁岩		
	34集計										4		16	
母岩外	35		包含層	N24	1		IV	上面	N24	剥片	1	頁岩	124	
母岩外	35		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	1	頁岩		
母岩外	35		包含層	N24	7		IV	2	N24	剥片	1	頁岩		
母岩外	35		包含層	N24	9		IV	1	N24	剥片	2	頁岩		
母岩外	35		包含層	N24	11		IV	2	N24	剥片	1	頁岩		
母岩外	35		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	1	頁岩		
母岩外	35		包含層	N24	20		IV	4	N24	剥片	1	頁岩		
母岩外	35		包含層	N24	27		IV	5	N24	剥片	1	頁岩		
母岩外	35		包含層	N24	43		IV	8	N24	剥片	1	頁岩		
母岩外	35		包含層	O20	1		IV	上面	O20	剥片	1	頁岩		
	35集計										11		124	
母岩外	36		包含層	N24	1		IV	上面	N24	剥片	1	頁岩	18	
母岩外	36		包含層	N24	14		IV	3	N24	剥片	1	頁岩		
	36集計										2		18	
母岩外	37		包含層	N24	3		IV	1	N24	剥片	1	頁岩	76	
母岩外	37		包含層	N24	7		IV	2	N24	剥片	1	頁岩		
	37集計										2		76	
母岩外	38		包含層	N24	5		IV	1	N24	剥片	1	頁岩	57	
母岩外	38		包含層	N24	9		IV	1	N24	剥片	1	頁岩		
母岩外	38		包含層	N24	41		IV	7	N24	剥片	1	頁岩		

表5-4 接合資料一覧(10)

母岩	接合資料番号	種別	グリッド遺構名	遺物番号	層位	掘り下げ回数	グリッド	分類	内訳点数	石材	重量g	
	38 集計								3		57	
母岩外	39	包含層	N24	5	IV	1	N24	剥片	1	頁岩	16	
母岩外	39	包含層	N24	14	IV	3	N24	剥片	1	頁岩		
	39 集計								2		16	
母岩外	40	包含層	N24	5	IV	1	N24	剥片	1	頁岩	21	
母岩外	40	包含層	Q23	11	IV	1	Q23	剥片	1	頁岩		
	40 集計								2		21	
母岩外	41	包含層	N24	11	IV	2	N24	剥片	1	頁岩	58	
母岩外	41	包含層	N24	20	IV	4	N24	剥片	1	頁岩		
	41 集計								2		58	
母岩外	42	包含層	M25	14	IV	3	M25	剥片	1	頁岩	3	
母岩外	42	包含層	N24	11	IV	2	N24	剥片	1	頁岩		
	42 集計								2		3	
母岩外	43	包含層	N24	16	IV	3	N24	剥片	2	頁岩	53	
	43 集計								2		53	
母岩外	44	包含層	N24	16	IV	3	N24	剥片	1	頁岩	46	
母岩外	44	包含層	N24	20	IV	4	N24	剥片	1	頁岩		
	44 集計								2		46	
母岩外	45	包含層	N24	16	IV	3	N24	剥片	1	頁岩	31	
母岩外	45	包含層	N24	27	IV	5	N24	剥片	1	頁岩		
	45 集計								2		31	
母岩外	46	包含層	N24	16	IV	3	N24	剥片	1	頁岩	22	
母岩外	46	包含層	N24	41	IV	7	N24	剥片	1	頁岩		
	46 集計								2		22	
母岩外	47	包含層	N24	20	IV	4	N24	剥片	1	頁岩	44	
母岩外	47	包含層	N24	41	IV	7	N24	剥片	1	頁岩		
	47 集計								2		44	
母岩外	48	包含層	N24	37	IV	5	N24	剥片	1	頁岩	50	
母岩外	48	包含層	N24	55	2	覆土上層一括	N24	Uフレイク	1	頁岩1		
	48 集計								2		50	
母岩外	49	包含層	N24	89	IV	0	N24	剥片	1	頁岩	126	
母岩外	49	包含層	O25	13	IV	5	O25	剥片	1	頁岩		
	49 集計								2		126	
母岩外	50	包含層	N25	14	IV	4	N25	剥片	1	頁岩1	61	
母岩外	50	包含層	N25	31	IV	5	N25	剥片	1	頁岩		
	50 集計								2		61	
母岩外	51	包含層	N26	3	IV	1	N26	剥片	2	頁岩	20	
	51 集計								2		20	
母岩外	52	包含層	N27	6	1	IV	2	N27	剥片	2	頁岩1	7
	52 集計								2		7	
母岩外	53	包含層	N29	1		攪乱 抜根	N29.30	剥片	2	頁岩	59	
	53 集計								2		59	
母岩外	54	包含層	N29	1		攪乱 抜根	N29.30	剥片	1	頁岩	45	
母岩外	54	包含層	P26	8	IV	2	P26	剥片	1	頁岩		
母岩外	54	包含層	P26	14	IV	5	P26	剥片	1	頁岩		
	54 集計								3		45	
母岩外	55	包含層	O11	1	IV	1	O11	剥片	8	頁岩1風化	529	
	55 集計								8		529	
母岩外	56	包含層	O11	1	IV	1	O11	剥片	2	頁岩1風化	260	
	56 集計								2		260	
母岩外	57	包含層	O11	1	IV	1	O11	剥片	2	頁岩1風化	210	
	57 集計								2		210	
母岩外	58	包含層	O11	1	IV	1	O11	剥片	1	頁岩1風化	374	
母岩外	58	包含層	O11	3	IV	2	O11	剥片	1	頁岩		
	58 集計								2		374	
母岩外	59	包含層	O12	1	IV	1	O12	剥片	1	頁岩	215	
母岩外	59	包含層	O12	5	IV	3	O12	剥片	2	頁岩		
	59 集計								3		215	
母岩外	60	包含層	O12	3	IV	2	O12	剥片	1	頁岩	113	
母岩外	60	包含層	O12	5	IV	3	O12	剥片	2	頁岩		
	60 集計								3		113	
母岩外	61	包含層	O13	6	IV	3	O13	剥片	2	頁岩	204	
	61 集計								2		204	

母岩	接合資料番号	種別	グリッド遺構名	遺物番号	層位	掘り下げ回数	グリッド	分類	内訳点数	石材	重量g	
母岩外	62	包含層	O15	3	IV	2	O15	剥片	3	頁岩2ほか	259	
	62 集計								3		259	
母岩外	63	包含層	O15	9	IV	5	O15	剥片	5	頁岩1	397	
	63 集計								5		397	
母岩外	64	包含層	O16	13	IV	上面	O16	剥片	2	頁岩1	9	
	64 集計								2		9	
母岩外	66	包含層	O16	13	IV	上面	O16	剥片	2	頁岩1	2	
	66 集計								2		2	
母岩外	67	包含層	O19	1	IV	1	O19	剥片	2	頁岩	192	
	67 集計								2		192	
母岩外	68	包含層	O20	1	IV	上面	O20	剥片	2	頁岩	48	
	68 集計								2		48	
母岩外	69	包含層	O20	10	IV	2	O20	剥片	2	頁岩1	11	
	69 集計								2		11	
母岩外	70	包含層	O22	8	IV	1	O22	剥片	4	頁岩	41	
	70 集計								4		41	
母岩外	71	包含層	O22	15	IV	4	O22	剥片	1	頁岩	24	
母岩外	71	包含層	O22	18	IV	3	O22	剥片	1	頁岩	0	
	71 集計								2		24	
母岩外	72	包含層	O22	17	IV	1	O22	剥片	2	頁岩4	95	
	72 集計								2		95	
母岩外	73	包含層	O22	17	IV	1	O22	剥片	2	頁岩4	80	
	73 集計								2		80	
母岩外	74	包含層	O22	17	IV	1	O22	剥片	2	頁岩4	99	
	74 集計								2		99	
母岩外	75	包含層	O22	17	IV	1	O22	剥片	2	頁岩4	78	
	75 集計								2		78	
母岩外	76	包含層	O23	42	IV	0	O23	剥片	1	頁岩	63	
母岩外	76	包含層	P22	21	IV	0	P22	剥片	1	頁岩		
	76 集計								2		63	
母岩外	77	包含層	O24	5	IV	1	O24	剥片	2	頁岩	105	
	77 集計								2		105	
母岩外	78	包含層	O25	4	6	IV	1	O25	剥片	1	頁岩1	177
母岩外	78	包含層	O25	6	IV	2	O25	剥片	2	頁岩		
	78 集計								3		177	
母岩外	79	包含層	O25	16	IV	6	O25	剥片	2	頁岩	1	
	79 集計								2		1	
母岩外	80	包含層	O25	6	IV	2	O25	剥片	2	頁岩	22	
	80 集計								2		22	
母岩外	81	包含層	O25	6	IV	2	O25	剥片	2	頁岩	512	
母岩外	81	包含層	O25	9	IV	3	O25	剥片	1	頁岩		
母岩外	81	包含層	O25	13	IV	5	O25	剥片	2	頁岩		
母岩外	81	包含層	O25	15	IV	6	O25	剥片	4	頁岩		
母岩外	81	包含層	O25	19	IV	0	O25	剥片	1	頁岩2		
	81 集計								10		512	
母岩外	82	包含層	O25	15	IV	6	O25	剥片	2	頁岩	37	
	82 集計								2		37	
母岩外	83	包含層	O27	6	IV	2	O27	剥片	2	頁岩	131	
	83 集計								2		131	
母岩外	84	包含層	O28	1	IV	上面	O28	剥片	6	頁岩	68	
	84 集計								6		68	
母岩外	85	包含層	O28	4	IV	3	O28	剥片	2	頁岩2風化	303	
	85 集計								2		303	
母岩外	86	包含層	P19	4	IV	2	P19	剥片	2	頁岩	73	
母岩外	86	包含層	P19	14	IV	6	P19	剥片	1	頁岩		
	86 集計								3		73	
母岩外	87	包含層	P19	9	IV	4	P19	剥片	1	頁岩	86	
母岩外	87	包含層	P19	14	IV	6	P19	剥片	1	頁岩		
	87 集計								2		86	
母岩外	88	包含層	P20	8	IV	3	P20	剥片	2	頁岩	28	
	88 集計								2		28	
母岩外	89	包含層	P23	1	IV	上面	P23	剥片	1	頁岩	69	
母岩外	89	包含層	P23	24	IV	1	P23	剥片	1	頁岩		

表5-4 接合資料一覧(11)

母岩	接合資料番号	種別	グリッド遺構名	遺物番号	層位	掘り下げ回数	グリッド	分類	内訳点数	石材	重量g	
	89 集計								2		69	
母岩外	90	包含層	P27	4	IV	2	P27	剥片	2	頁岩	10	
	90 集計								2		10	
母岩外	91	包含層	Q20	6	IV	2	Q20	剥片	2	頁岩1	101	
	91 集計								2		101	
母岩外	92	包含層	Q22	11	IV	4	Q22	剥片	1	頁岩	27	
母岩外	92	包含層	Q23	19	IV	5	Q23	剥片	1	頁岩		
	92 集計	折れ面接合								2		27
母岩外	93	包含層	Q25	2	IV	1	Q25	剥片	2	頁岩	87	
	93 集計								2		87	
母岩外	95	包含層	O16	13	IV	上面	O16	剥片	2	頁岩1	5	
	95 集計								2		5	
母岩外	100	包含層	O25	4	IV	1	O25	Uフレイク	1	頁岩1	29.0	
母岩外	100	包含層	O25	4	IV	1	O25	Uフレイク	1	頁岩1	21.0	
	100 集計								2		50.0	
母岩外	X1	包含層	P12	1	IV	1	P12	剥片	2	頁岩1	15.5	
	X1 集計								2		15.5	
母岩外	X2	包含層	P16	3	IV	1	P16	剥片	2	頁岩1	32.0	
	X2 集計								2		32.0	
母岩外	X3	包含層	P19	1	IV	1	P19	剥片	2	頁岩1	63.0	
	X3 集計								2		63.0	
母岩外	X4	包含層	P20	2	IV	1	P20	剥片	2	頁岩	20.5	
	X4 集計								2		20.5	
母岩外	X5	包含層	P24	3	IV	1	P24	剥片	2	頁岩	150.0	
	X5 集計								2		150.0	
母岩外	X6	包含層	P30	1	IV	2	P30	剥片	2	頁岩	495.5	
	X6 集計								2		495.5	
母岩外	Z1	包含層	P25	4	IV	1	P25	剥片	2	頁岩2	281.0	
母岩外	Z1	包含層	P25	4	IV	1	P25	剥片	1	頁岩		
	Z1 集計								3		281.0	
母岩外	Z2	包含層	P23	8	IV	2	P23	剥片	1	頁岩3	254.5	
母岩外	Z2	包含層	P23	14	IV	2	P23	剥片	1	頁岩		
	Z2 集計								2		254.5	
母岩外	Z3	包含層	P24	3	IV	1	P24	剥片	2	頁岩	166.5	
母岩外	Z3	包含層	P24	5	IV	2	P24	剥片	1	頁岩		
	Z3 集計								3		166.5	
母岩外	Z4	包含層	P19	6	IV	3	P19	剥片	1	頁岩	97.5	
母岩外	Z4	包含層	P19	7	IV	3	P19	剥片	1	風化頁岩		
母岩外	Z4	包含層	P19	9	IV	4	P19	剥片	1	頁岩		
	Z4 集計								3		97.5	
母岩外	Z5	包含層	N24	41	IV	7	N24	剥片	1	頁岩2	37.5	
母岩外	Z5	包含層	P22	5	IV	2	P22	剥片	1	頁岩		
母岩外	Z5	包含層	P22	5	IV	2	P22	Rフレイク	1	頁岩	25.0	
母岩外	Z5	包含層	P22	5	IV	2	P22	Rフレイク	1	頁岩	121.0	
母岩外	Z5	包含層	P22	5	IV	2	P22	Rフレイク	1	頁岩	67.0	
	Z5 集計								5		250.5	
母岩外	Z6	包含層	P11	1	IV	1	P11	剥片	1	頁岩4	893.5	
母岩外	Z6	包含層	Q11	1	IV	1	Q11	剥片	1	頁岩4風化		
母岩外	Z6	包含層	Q11	3	IV	4	Q11	剥片	2	頁岩2		
	Z6 集計								4		893.5	
母岩外	遺構01	遺構	H-1	4	覆土		O24	剥片	1	頁岩	21.0	
母岩外	遺構01	包含層	N24	27	IV	5	N24	剥片	1	頁岩		
母岩外	遺構01	包含層	N24	43	IV	8	N24	剥片	1	頁岩		
	遺構01 集計								1		21.0	
母岩外	遺構02	包含層	O24	4	IV	1	O24	剥片	1	風化頁岩	0.0	
母岩外	遺構02	包含層	O24	18	IV	3	O24	剥片	1	頁岩	65.0	
	遺構02 集計								2		65.0	
母岩外	遺構03	遺構	H-1	4	覆土		O24	剥片	1	頁岩	82.0	
母岩外	遺構03	包含層	N24	48	IV	1	N24	Uフレイク	1	頁岩3		
母岩外	遺構03	包含層	O24	5	IV	1	O24	剥片	1	頁岩		
母岩外	遺構03	包含層	O24	14	IV	2	O24	剥片	2	頁岩		
	遺構03 集計								5		82.0	

母岩	接合資料番号	種別	グリッド遺構名	遺物番号	層位	掘り下げ回数	グリッド	分類	内訳点数	石材	重量g	
母岩外	遺構04	遺構	H-1	6	覆土	3	O23	剥片	1	頁岩	88.0	
母岩外	遺構04	包含層	P22	20	IV	0	P22	剥片	1	頁岩		
母岩外	遺構04	包含層	Q22	11	IV	4	Q22	剥片	1	頁岩		
	遺構04 集計								3		88.0	
母岩外	遺構05	遺構	H-1	92	覆土上層		O23	剥片	1	頁岩2	234.0	
母岩外	遺構05	包含層	M22	1	IV	上面	M22	剥片	1	頁岩		
母岩外	遺構05	包含層	M22	3	IV	上面	M22	剥片	1	頁岩		
母岩外	遺構05	包含層	M22	6	IV	2	M22	剥片	2	頁岩		
母岩外	遺構05	包含層	M22	16	IV	2	M22	剥片	1	頁岩		
母岩外	遺構05	包含層	M23	14	IV	1	M23	剥片	1	頁岩		
	遺構05 集計								7		234.0	
母岩外	遺構06	遺構	H-1	9	覆土	1	O24	剥片	3	頁岩	16.0	
	遺構06 集計	折れ面接合								3		16.0
母岩外	遺構07	遺構	P-01	1	覆土		P22	剥片	2	頁岩	1.0	
	遺構07 集計	折れ面接合								2		1.0
母岩外	遺構08	遺構	P-09	4	覆土上層		N22	剥片	2	頁岩	29.0	
	遺構08 集計	折れ面接合								2		29.0
母岩外	遺構09	遺構	P-10	4	覆土		M21	剥片	2	頁岩(4白)	1.0	
	遺構09 集計	折れ面接合								2		1.0
母岩外	遺構10	遺構	P-11	1	覆土		M22	剥片	2	頁岩	22.0	
	遺構10 集計								2		22.0	
母岩外	遺構11	遺構	P-11	3	覆土		M22	剥片	2	頁岩	5.0	
	遺構11 集計	折れ面接合								2		5.0
母岩外	遺構12	遺構	P-12	5	覆土上層		M24	剥片	2	頁岩	59.0	
母岩外	遺構12	包含層	M25	4	IV	1	M25	剥片	1	頁岩	0.0	
	遺構12 集計								3		59.0	
母岩外	遺構13	遺構	P-17	1	覆土		N25	剥片	2	頁岩	50.0	
	遺構13 集計								2		50.0	
母岩外	遺構14	遺構	P-17	3	覆土		N25	剥片	1	頁岩	20.0	
母岩外	遺構14	包含層	N25	14	IV	4	N25	剥片	1	頁岩		
	遺構14 集計								2		20.0	
母岩外	遺構15	遺構	P-17	3	覆土		N25	剥片	1	頁岩	86.0	
母岩外	遺構15	包含層	M26	13	IV	5	M26	剥片	1	頁岩		
	遺構15 集計								2		86.0	
母岩外	遺構16	遺構	P-17	3	覆土		N25	剥片	1	頁岩	20.0	
母岩外	遺構16	包含層	N25	14	IV	4	N25	剥片	1	頁岩	0.0	
	遺構16 集計	折れ面接合								2		20.0
母岩外	遺構17	遺構	P-17	7	覆土		N25	剥片	1	頁岩	28.0	
母岩外	遺構17	包含層	M26	6	IV	2	M26	Uフレイク	1	頁岩1水墨	0.0	
	遺構17 集計								2		28.0	
母岩外	遺構18	遺構	P-17	9	覆土III層		N25	Uフレイク	1	頁岩1	78	
母岩外	遺構18	包含層	M26	9	IV	3	M26	Rフレイク	1	頁岩1水墨	27.0	
母岩外	遺構18	包含層	O24	18	IV	3	O24	Uフレイク	1	頁岩1		
	遺構18 集計								3		105.0	
母岩外	遺構19	遺構	F-03	1	覆土上面		O23	剥片	6	頁岩	46.0	
母岩外	遺構19	遺構	F-03	4	覆土		O23	剥片	2	頁岩		
	遺構19 集計								8		46.0	
母岩外総計									343	16,008.0		
接合資料総計									964	39,422.0		

※剥片については接合した重量を計測した。
個々の剥片については計測をしていない。

第6章 分析の成果

本調査においては、5種の自然科学的分析及び鑑定を分析機関等に依頼して実施した。分析内容は放射性炭素年代測定、炭化種実及び炭化材樹種の同定、黒曜石の原産地分析、土器の圧痕調査である。

1 試料採取及び分析内容について（表6-1 図7-1）

放射性炭素年代測定、炭化種実及び炭化材樹種の同定については土壌採取の上フローテーションによって得られた試料を対象とし、黒曜石原産地分析については出土した黒曜石剥片を試料とした。

フローテーション試料については、土坑及び焼土の土から採取した土壌サンプルを対象にフローテーション法による土壌水洗を行った。作業はPROJECT SEEDS MODEL TYPE-1を使用し、篩のサイズは浮遊：1.00mm、0.425mm、沈殿2.00mmのものを用いた。得られた微細の遺物については土器、フレイク、骨片、炭化物に分類した。このうち炭化物について年代測定試料及びとして炭化種実及び炭化材樹種の同定試料として重量、容積等を計測して提出した。

黒曜石原産地分析試料については今回出土した黒曜石製遺物5点のうち抽出した2点の剥片について行った。

土器の圧痕調査については、出土土器のすべてを対象とした。接合作業前の破片の状態でレプリカを作成し分析を行った。

2 釜谷10遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

(株)加速器分析研究所

1 測定対象試料

釜谷10遺跡は、北海道上磯郡木古内町字釜谷260-43番地（北緯41° 43′ 30″、東経140° 31′ 48″）に所在し、標高約80mの河岸段丘上に立地する。測定対象試料は、土坑、焼土から出土した炭化物12点である（表6-2-1）。

試料の時期は、周辺で出土した土器からすべて縄文時代後期前葉と推定されている。

2 測定の意義

試料が出土した遺構の年代を明らかにする。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/ℓ（1 M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001 Mから1 Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1 Mに達した時には「AAA」、1 M未満の場合は「AaA」と表6-2-1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO₂）を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。

表6-1 分析内容及び結果概要一覧

1 放射性炭素年代測定 サンプル数 計12点 委託先(株) 加速器分析研究所

サンプルNo	採取地点		サンプリング方法	測定番号	試料名	試料形態	処理方法	$\delta^{13}C$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}C$ 補正あり	
									Libby Age(yrBP)	pMC(%)
1	土坑	P-1	ハンドピック	IAAA-162316	KA10-1	炭化物	AAA	-26.37±0.45	3,480±20	64.86±0.2
2	土坑	P-3	フローテーション	IAAA-162317	KA10-2	炭化物	AAA	-27.79±0.31	3,690±30	63.2±0.2
3	焼土	F-2	フローテーション	IAAA-162318	KA10-3	炭化物	AAA	-27.49±0.32	3,550±30	64.3±0.2
4	焼土	F-8	フローテーション	IAAA-162319	KA10-4	炭化物	AAA	-26.35±0.39	3,980±20	60.96±0.18
5	焼土	F-12	フローテーション	IAAA-162320	KA10-5	炭化物	AAA	-25.98±0.45	3,490±30	64.74±0.2
6	焼土	F-16	フローテーション	IAAA-162321	KA10-6	炭化物	AAA	-26.3±0.26	3,510±20	64.57±0.2
7	焼土	F-23	フローテーション	IAAA-162322	KA10-7	炭化物	AAA	-29.16±0.39	2,640±20	71.97±0.22
8	焼土	F-24	フローテーション	IAAA-162323	KA10-8	炭化物	AAA	-26.54±0.51	3,730±30	62.82±0.2
9	焼土	F-25	フローテーション	IAAA-162324	KA10-9	炭化物	AAA	-25.51±0.34	3,550±20	64.3±0.2
10	焼土	F-26	フローテーション	IAAA-162325	KA10-10	炭化物	AAA	-26.27±0.46	3,810±20	62.24±0.19
11	焼土	F-27	フローテーション	IAAA-162326	KA10-11	炭化物	AAA	-27.42±0.33	3,220±20	66.99±0.19
12	焼土	F-28	フローテーション	IAAA-162327	KA10-12	炭化物	AAA	-24.75±0.34	3,680±30	63.25±0.2

2 炭化種実同定 サンプル数 計10件 委託先(株) パレオ・ラボ

サンプルNo	採取地点		サンプリング方法	土壌体積(CC)	オニグルミ	クリ		同定不能炭化種実	子囊菌	炭化材	石器	土器
					炭化核	炭化果実	炭化子葉		炭化子囊			
1	土坑	P-3	フローテーション	7980		(13)	(1)	-10	11		(++)	
2	焼土	F-2	フローテーション	3800				-5	22(1)	(+++)	(+)	
3	焼土	F-8	フローテーション	6750	(2)	(14)	(12)	-9	122	(++++)	(+)	(++)
4	炭化物集中	F-8周辺	フローテーション	2000		(1)		-5	79			
5	焼土	F-12	フローテーション	2420		(3)		-2	2	(++)	(++)	(+)
6	焼土	F-24	フローテーション	4500		(5)	(1)	-7	25	(++)	(++)	(++)
7	焼土	F-25	フローテーション	1000				-3	7	(+)		(+)
8	炭化物集中	F-25周辺	フローテーション	4650				-1	11	(+)	(+)	(+)
9	焼土	F-27	フローテーション	2650		(9)		-3	11	(++)	(++)	(+)
10	炭化物集中	F-27周辺	フローテーション	1800			(1)	-3	1	(++)	(+)	(+)

+ :1-9, ++ :10-19, +++ :20-49, ++++ :50-100

3 炭化材樹種同定 サンプル数 計10件 委託先(株) パレオ・ラボ

サンプルNo	採取地点		サンプリング方法	土壌体積(CC)	試料番号	採集地点	樹種	形状	残存径	点数(目録10点抽出)
1	土坑	P-3								
2	焼土	F-2	フローテーション	3800	KA10-2_1 KA10-2_2 KA10-2_3 KA10-2_4	F-2	クリ ブナ属 エゴノキ属 コシアブラ	破片 破片 破片 破片	<0.5cm <1.0cm <0.5cm <0.5cm	4 4 1 1
3	焼土	F-8	フローテーション	6750	KA10-3	F-8	クリ	破片	<1.0cm	10
4	炭化物集中	F-8周辺	フローテーション	2000	KA10-4	F-8周辺	クリ	破片	<1.5cm	10
5	焼土	F-12	フローテーション	2420	KA10-5_1 KA10-5_2	F-12	クリ コナラ属コナラ節	破片 破片	<1.0cm <1.0cm	9 1
6	焼土	F-24	フローテーション	4500	KA10-6_1 KA10-6_2 KA10-6_3	F-24	クリ コナラ属コナラ節 カエデ属	破片 破片 破片	<1.0cm <1.0cm <0.5cm	5 4 1
7	焼土	F-25	フローテーション	1000	KA10-7_1	F-25	クリ	破片	<0.5cm	8

4 黒曜石製遺物原産地分析 サンプル数 計3点 委託先(有)遺物材料研究所

サンプルNo	採取地点(包含層)		種別	調査区	層位	重量(g)	試料番号	分析番号	ホテリングのT2検定結果	判定
1	グリッドO12	IV(3)層								
2	グリッドO12	IV(4)層	剥片	O12	IV(4)層	2.2	KA10-2	127122	赤井川第1群(97%)、赤井川第2群(88%)	赤井川
3	グリッドO15	IV(1)層	剥片	O15	IV(1)層	0.8	KA10-3	127123	赤井川第1群(73%)、赤井川第2群(67%)	赤井川

- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1 mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置 (NEC社製) を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度 (¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度 (¹⁴C/¹²C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度 (¹³C/¹²C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (%) で表した値である (表6-2-1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0 yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表6-2-1に、補正していない値を参考値として表6-2-2に示した。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。pMCが小さい (¹⁴Cが少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (¹⁴Cの量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表6-1-1に、補正していない値を参考値として表6-2-2に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の¹⁴C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の¹⁴C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、¹⁴C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が¹⁴C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない¹⁴C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表6-2-2に示した。暦年較正年代は、¹⁴C年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

6 測定結果

測定結果を表6-2-1、6-2-2に示す。

試料12点の¹⁴C年代は、 $3980 \pm 20\text{yrBP}$ (KA10-4) から $2640 \pm 20\text{yrBP}$ (KA10-7) の間にある。暦年較正年代 (1σ) は、最も古いKA10-4が縄文時代中期末葉頃、最も新しいKA10-7が晩期中葉頃に相当する。推定される後期前葉頃や、それよりやや新しい後期中葉頃までの試料 (KA10-1~3、5、

6、8～10、12) が多いが、それらより古い試料としてKA10-4、新しい試料としてKA10-7、KA10-11 (後期後半頃) も見られる。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion : Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

表6-2-1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-162316	KA10-1	土坑覆土(P-1)	炭化物	AAA	-26.37 ± 0.45	3,480 ± 20	64.86 ± 0.20
IAAA-162317	KA10-2	土坑内焼土(P-3)	炭化物	AAA	-27.79 ± 0.31	3,690 ± 30	63.20 ± 0.20
IAAA-162318	KA10-3	焼土(F-2)	炭化物	AAA	-27.49 ± 0.32	3,550 ± 30	64.30 ± 0.20
IAAA-162319	KA10-4	焼土(F-8)	炭化物	AAA	-26.35 ± 0.39	3,980 ± 20	60.96 ± 0.18
IAAA-162320	KA10-5	焼土(F-12)	炭化物	AAA	-25.98 ± 0.45	3,490 ± 30	64.74 ± 0.20
IAAA-162321	KA10-6	焼土(F-16)	炭化物	AAA	-26.30 ± 0.26	3,510 ± 20	64.57 ± 0.20
IAAA-162322	KA10-7	焼土(F-23)	炭化物	AAA	-29.16 ± 0.39	2,640 ± 20	71.97 ± 0.22
IAAA-162323	KA10-8	焼土(F-24)	炭化物	AAA	-26.54 ± 0.51	3,730 ± 30	62.82 ± 0.20
IAAA-162324	KA10-9	焼土(F-25)	炭化物	AAA	-25.51 ± 0.34	3,550 ± 20	64.30 ± 0.20
IAAA-162325	KA10-10	焼土(F-26)	炭化物	AAA	-26.27 ± 0.46	3,810 ± 20	62.24 ± 0.19
IAAA-162326	KA10-11	焼土(F-27)	炭化物	AAA	-27.42 ± 0.33	3,220 ± 20	66.99 ± 0.19
IAAA-162327	KA10-12	焼土(F-28)	炭化物	AAA	-24.75 ± 0.34	3,680 ± 30	63.25 ± 0.20

[#8405]

表6-2-2 放射性炭素年代測定結果（ $\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用14C年代、較正年代）(1)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC(%)			
IAAA-162316	3,500 \pm 20	64.68 \pm 0.19	3,478 \pm 24	3825calBP - 3791calBP (26.8%) 3770calBP - 3745calBP (17.7%) 3731calBP - 3699calBP (23.7%)	3833calBP - 3691calBP (93.0%) 3659calBP - 3650calBP (2.4%)
IAAA-162317	3,730 \pm 20	62.84 \pm 0.19	3,685 \pm 25	4082calBP - 4031calBP (44.3%) 4009calBP - 3980calBP (23.9%)	4138calBP - 4131calBP (0.9%) 4091calBP - 3961calBP (89.6%) 3949calBP - 3927calBP (5.0%)
IAAA-162318	3,590 \pm 20	63.97 \pm 0.20	3,548 \pm 25	3889calBP - 3827calBP (62.9%) 3787calBP - 3778calBP (5.3%)	3905calBP - 3814calBP (69.8%) 3799calBP - 3722calBP (25.6%)
IAAA-162319	4,000 \pm 20	60.79 \pm 0.18	3,975 \pm 24	4508calBP - 4485calBP (31.1%) 4440calBP - 4418calBP (37.1%)	4520calBP - 4463calBP (49.5%) 4452calBP - 4411calBP (45.9%)
IAAA-162320	3,510 \pm 20	64.61 \pm 0.19	3,492 \pm 25	3827calBP - 3810calBP (13.3%) 3802calBP - 3788calBP (10.8%) 3778calBP - 3720calBP (44.1%)	3838calBP - 3694calBP (95.4%)
IAAA-162321	3,540 \pm 20	64.39 \pm 0.19	3,514 \pm 24	3837calBP - 3819calBP (14.6%) 3794calBP - 3760calBP (29.8%) 3753calBP - 3725calBP (23.8%)	3857calBP - 3705calBP (95.4%)
IAAA-162322	2,710 \pm 20	71.36 \pm 0.21	2,642 \pm 24	2767calBP - 2748calBP (68.2%)	2784calBP - 2741calBP (95.4%)

表6-2-2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用14C年代、較正年代) (2)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC(%)			
IAAA-162323	3,760 \pm 20	62.62 \pm 0.19	3,734 \pm 25	4147calBP - 4114calBP (28.3%) 4100calBP - 4080calBP (15.8%) 4034calBP - 4000calBP (24.2%)	4154calBP - 4060calBP (59.6%) 4054calBP - 3985calBP (35.8%)
IAAA-162324	3,560 \pm 20	64.24 \pm 0.19	3,547 \pm 24	3886calBP - 3828calBP (63.4%) 3787calBP - 3779calBP (4.8%)	3903calBP - 3816calBP (69.5%) 3797calBP - 3723calBP (25.9%)
IAAA-162325	3,830 \pm 20	62.08 \pm 0.18	3,809 \pm 24	4235calBP - 4154calBP (68.2%)	4287calBP - 4271calBP (2.7%) 4259calBP - 4144calBP (85.8%) 4123calBP - 4094calBP (7.0%)
IAAA-162326	3,260 \pm 20	66.66 \pm 0.19	3,217 \pm 23	3454calBP - 3400calBP (68.2%)	3477calBP - 3383calBP (95.4%)
IAAA-162327	3,680 \pm 20	63.28 \pm 0.19	3,679 \pm 25	4082calBP - 4031calBP (43.1%) 4009calBP - 3975calBP (25.1%)	4090calBP - 3923calBP (95.4%)

[参考値]

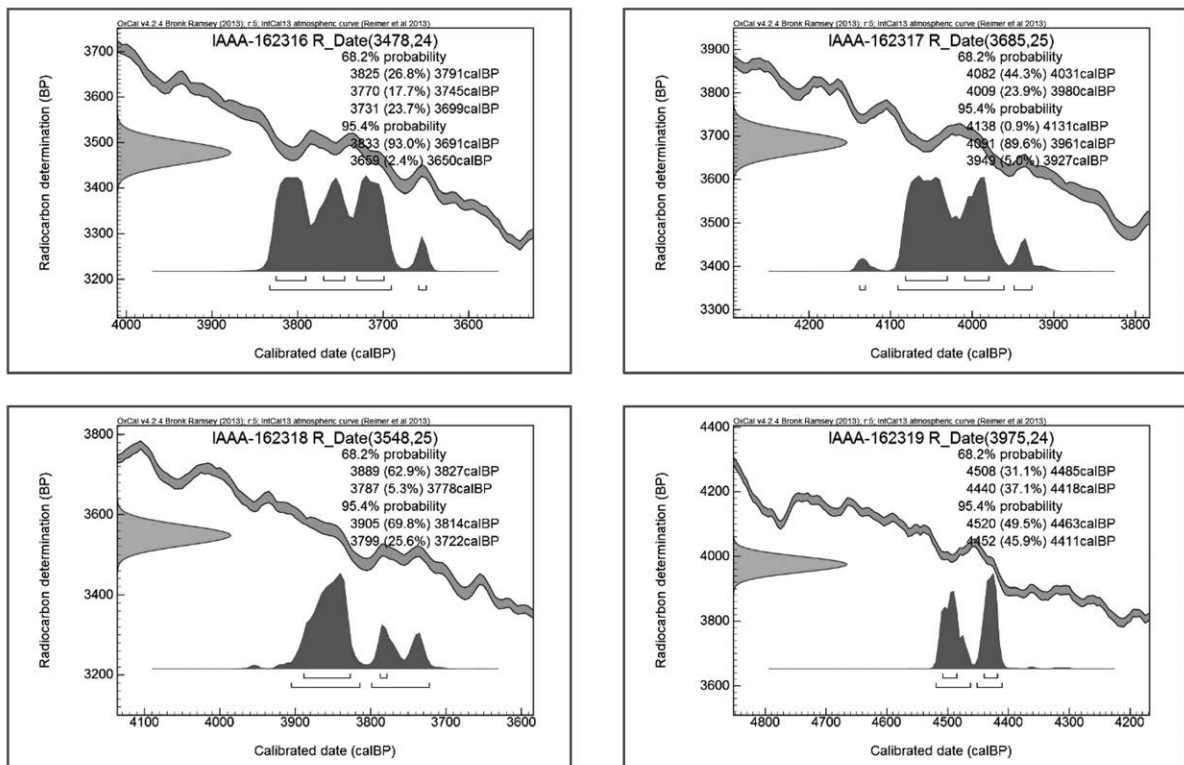


図6-2-1 暦年較正年代グラフ (参考)

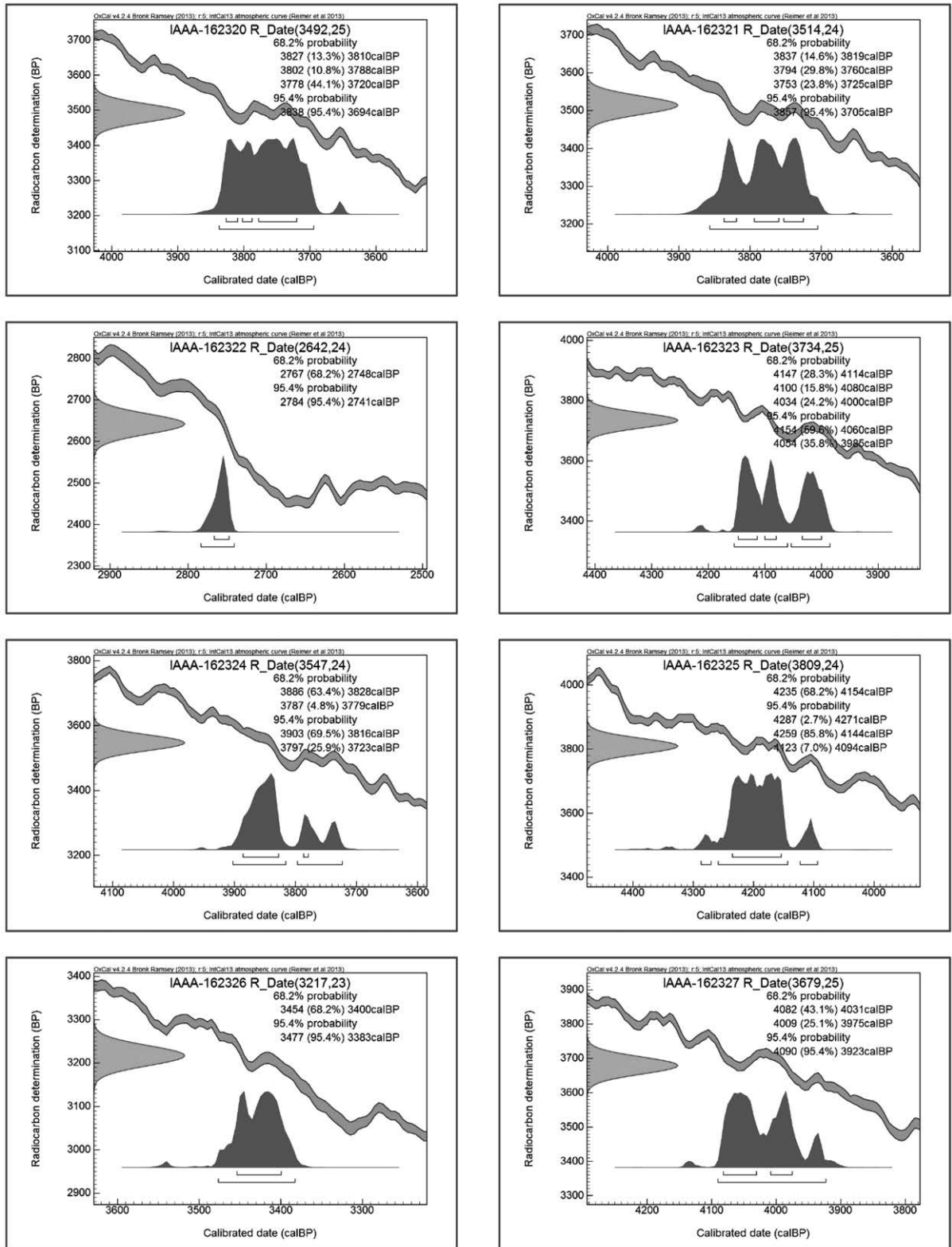


図6-2-1 暦年較正年代グラフ (参考)

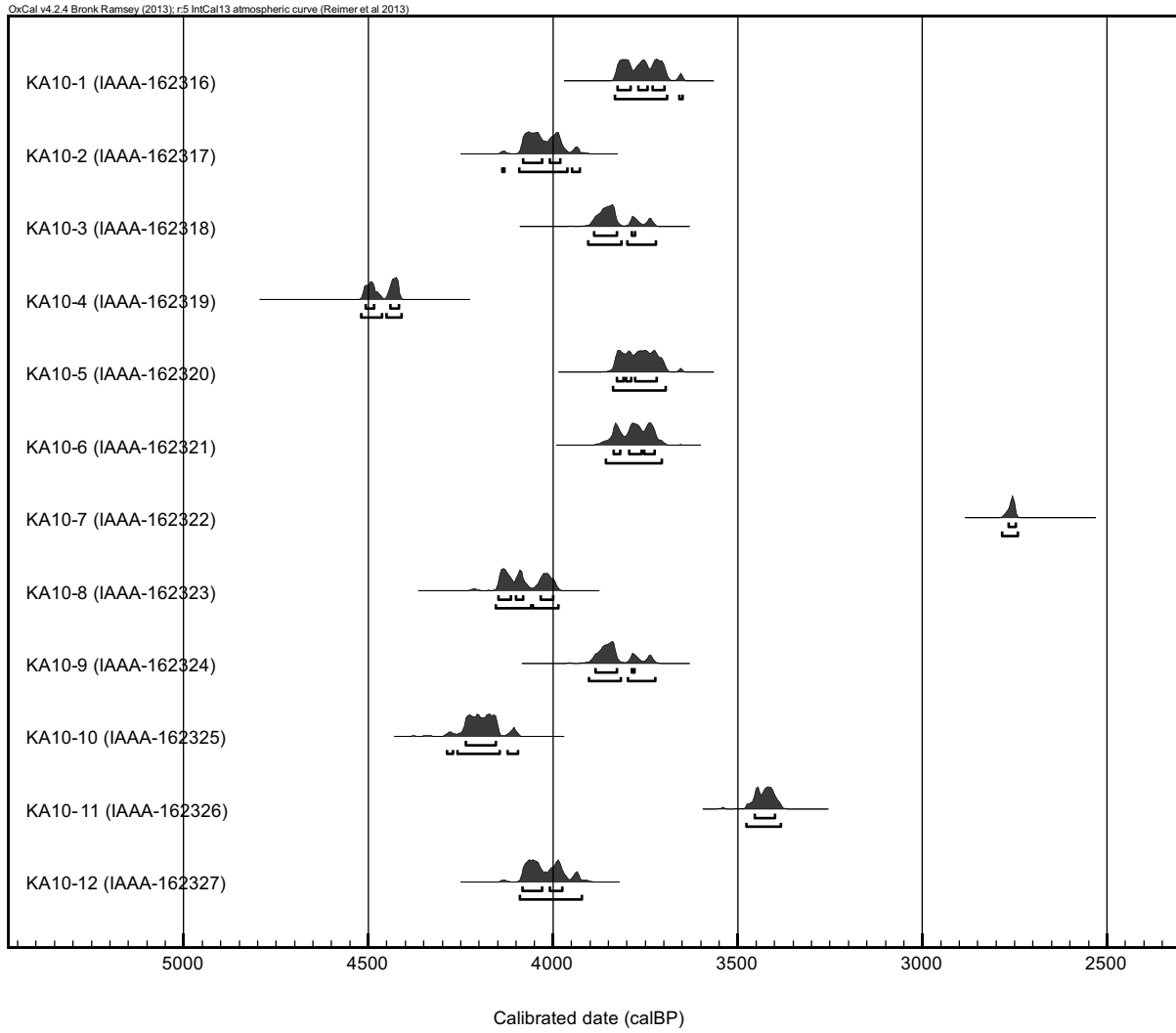


図6-2-2 暦年較正年代グラフ (マルチプロット図、参考)

3 木古内町釜谷10遺跡から出土した炭化種実

佐々木由香・バンダリ スダルシヤン (パレオ・ラボ)

1. はじめに

上磯郡木古内町に位置する釜谷10遺跡は、海岸線から内陸に約2km入った標高80m程の海岸段丘上に立地する縄文時代後期の集落跡である。ここでは、縄文時代後期前葉の遺構から出土した炭化種実の同定結果を報告し、当時の利用植物や植生について検討した。

2. 試料と方法

試料は、水洗選別済みの種実10試料（各3袋、計30袋）である。試料が採取された遺構は、土坑(P)と焼土(F)である。遺構の時期は、縄文時代後期前葉と推定されている。

土壌の採取から水洗までの作業は、北海道埋蔵文化財センターによって行われた。試料は、すべて2.0mmと1.0mm、0.425mm目の篩を用いてフローテーション法により回収された。水洗前の土壌体積(cc)は、表を参照されたい。

同定・計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。計数が困難な分類群は、記号(+)で示した。試料は、(公財)北海道埋蔵文化財センターに保管されている。

3. 結果

同定した結果、木本植物のオニグルミ炭化核とクリ炭化果実・炭化子葉の2分類群が産出した(表6-3-1)。残存が悪く、微細な破片であるため科以上の細分に必要な識別点を欠く一群を同定不能炭化種実とした。炭化種実以外には、炭化した子囊菌が得られた。回収された炭化物の多くは炭化材の破片で、炭化種実の含有量は少なく、いずれも微細な破片であった。

以下に、炭化種実の産出傾向を遺構別に記載する(同定不能炭化種実は除く)。

P-3: クリが少量得られた。

F-2: 同定可能な種実は得られなかった。

F-8: クリが少量とオニグルミがわずかに得られた。

F-8周辺: クリがわずかに得られた。

F-12: クリがわずかに得られた。

F-24: クリがわずかに得られた。

表6-3-1 木古内町釜谷10遺跡から出土した炭化種実 (括弧内は破片数)

分類群	試料番号 採取地点 時期 土壌体積(cc)	KA10-1	KA10-2	KA10-3	KA10-4	KA10-5	KA10-6	KA10-7	KA10-8	KA10-9	KA10-10
		P-3	F-2	F-8	F-8周辺	F-12	F-24	F-25	F-25周辺	F-27	F-27周辺
		縄文時代後 期前葉	縄文時代後 期前葉	縄文時代後 期前葉	縄文時代後 期前葉	縄文時代後 期前葉	縄文時代後 期前葉	縄文時代後 期前葉	縄文時代後 期前葉	縄文時代後 期前葉	縄文時代後 期前葉
オニグルミ	炭化核			(2)							
クリ	炭化果実	(13)		(14)	(1)	(3)	(5)			(9)	
	炭化子葉	(1)		(12)			(1)				(1)
同定不能	炭化種実	(10)	(5)	(9)	(5)	(2)	(7)	(3)	(1)	(3)	(3)
子囊菌	炭化子囊	11	22(1)	122	79	2	25	7	11	11	1
	炭化材	(++)	(+++)	(++++)		(++)	(++)	(+)	(+)	(++)	(++)
	石器		(+)	(+)		(++)	(++)		(+)	(++)	(+)
	土器			(++)		(+)	(++)	(+)	(+)	(+)	(+)

+ :1-9, ++ :10-19, +++ :20-49, ++++ :50-100

F-25：同定可能な種実は得られなかった。

F-25周辺：同定可能な種実は得られなかった。

F-27：クリがわずかに得られた。

F-27周辺：クリがわずかに得られた。

次に、各分類群の記載を行い、図版6-3-1に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は米倉・梶田（2003-）に準拠し、APG IIIリストの順とした。

(1) オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Komatsu) Kitamura 炭化核 クルミ科

破片であるが、完形ならば側面観は広卵形で内部は二室に分かれる。木質で、壁は厚くて硬く、ときどき空隙がある。表面に浅い縦方向の縫合線があり、浅い溝と凹凸が不規則に入る。断面は角が尖る。残存高6.9mm、残存幅3.9mm。

(2) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 炭化果実・炭化子葉 ブナ科

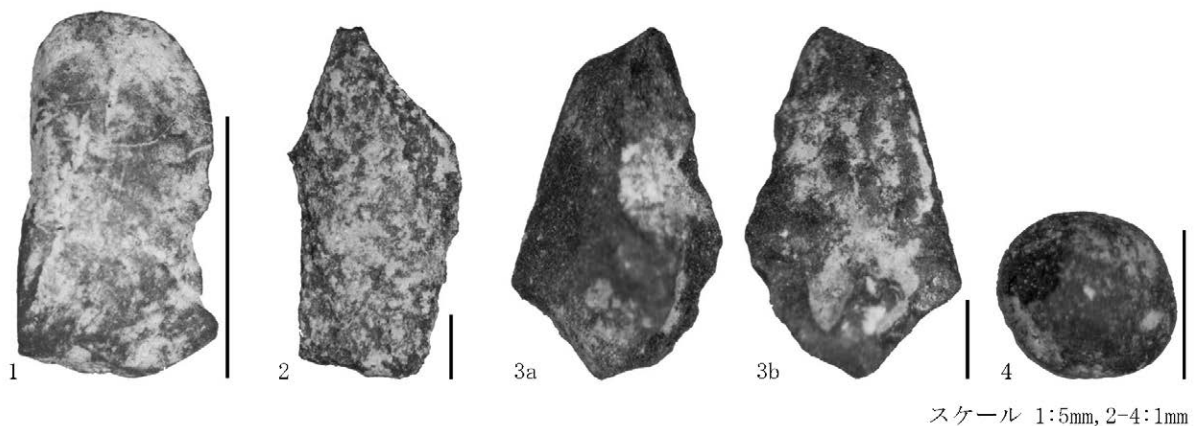
果実は、完形ならば側面観は広卵形。表面は平滑で、細い縦筋がみられる。底面にある殻斗着痕はざらつく。果皮内面にはいわゆる渋皮が厚く付着する。最大の破片で、残存高5.4mm、残存幅2.7mm。子葉は、完形ならば側面観が広卵形で、表面一面に縦方向のしわ状の溝がある。しわ以外の面は平坦でやや光沢があり、硬質。最大の破片で、残存高4.6mm、残存幅2.7mm。

(3) 子囊菌 *Ascomyces* 炭化子囊

球形で、表面には微細な網目状隆線がある。大小さまざまな大きさがあるが、図版に示した子囊菌の大きさは、長さ1.1mm、幅1.2mm。

4. 考察

縄文時代後期前葉の遺構から回収された炭化種実を同定した結果、食用可能なオニグルミとクリが得られた。オニグルミは1遺構、クリは7遺構から得られており、クリは当時頻繁に利用されたと考えられる。しかし、いずれも微細な破片で含有量のごくわずかであり、炭化物はほとんどが木材であった。オニグルミの核やクリの果実などのように食用にされない部位は、食用部位である子葉を取り出した後、不要な残滓を燃やした可能性などが考えられる。子囊菌は、木材に付着していたものが炭化した可能性などが考えられる。



1. オニグルミ炭化核 (KA10-3)、2. クリ炭化果実 (KA10-1)、3. クリ炭化子葉 (KA10-1)、4. 子囊菌炭化子囊 (KA10-4)

図版6-3-1 木古内町釜谷10遺跡から出土した炭化種実

北海道でのクリの利用は、縄文時代前期後葉以降に多く認められるが、早期後半の確実な出土例は確認されておらず、北海道ではクリが自生していなかったと考えられている（山田・柴内, 1997）。釜谷10遺跡から出土したクリがどの程度人間によって管理されていたか、炭化材の樹種同定や花粉分析などによる検証が今後の課題になると思われる。

引用文献

山田悟郎・柴内佐知子（1997）北海道の縄文時代遺跡から出土した堅果類－クリについて－. 北海道開拓記念館研究紀要, 25, 17-30.

米倉浩司・梶田 忠（2003-）BG Plants 和名－学名インデックス（YList）, <http://ylist.info>

4 釜谷10遺跡出土炭化材の樹種同定

黒沼保子（パレオ・ラボ）

1. はじめに

木古内町に所在する釜谷10遺跡から出土した炭化材の樹種同定を行った。

2. 試料と方法

試料は、土坑P-3と、焼土F-2、F-8、F-8周辺、F-12、F-24、F-25、F-25周辺、F-27、F-27周辺の土壌を水洗して得られた炭化材である。F-12は石囲い炉、F-24は土坑覆土に伴う焼土である。1試料内に多くの炭化材破片がみられたため、各試料につき任意に10点を抽出した。なお、同じ土壌の水洗選別で得られた炭化種実も同定が行われている（炭化種実同定の報告参照）。遺構の時期は、いずれも縄文時代後期前葉と推測されている。

樹種同定は、まず肉眼観察と実体顕微鏡観察で形状の確認と残存径の計測を行った。その後、カミソリまたは手で3断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、直径1cmの真鍮製試料台に試料を両面テープで固定した。次に、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製 VE-9800）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。残りの試料は、北海道埋蔵文化財センターに保管されている。

3. 結果 樹種同定の結果、広葉樹のクリとブナ属、コナラ属コナラ節（以下、コナラ節）、カエデ属、エゴノキ属、コシアブラの6分類群が確認された。試料の形状は、いずれも残存径が2cm以下の破片であった。結果の一覧を表6-4-1に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

(1) クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 図版6-4-1 1a-1c (KA10-1_1)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、主に単列である。

クリは暖帯から温帯下部に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

(2) ブナ属 *Fagus* ブナ科 図版6-4-1 2a-2c (KA10-2_2)

小型で単独の道管が密に分布し、晩材部ではやや径を減ずる散孔材である。道管の穿孔は単一のも

のと階段状の2種類がある。放射組織はほぼ同性で、単列のもの、2～数列のもの、広放射組織の3種類がある。

ブナ属は温帯に分布する落葉高木で、ブナとイヌブナがある。材は、堅硬および緻密で、靱性があるが保存性は低い。

(3) コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Prinus* ブナ科 図版6-4-1 3a-3c (KA10-1_2)

大型の道管が年輪のはじめに1列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の2種類がある。

コナラ節は暖帯から温帯下部に分布する落葉高木で、カシワとミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は全体的に重硬で、加工困難である。

(4) カエデ属 *Acer* ムクロジ科 図版6-4-2 4a-4c (KA10-6_3)

径が中型の道管が、単独もしくは放射方向に数個複合して分布する散孔材である。横断面において木部繊維の壁厚の違いによる雲紋状の模様がみられる。道管の穿孔は単一で、道管壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織はほぼ同性で、1～5列幅である。

カエデ属は主に温帯に分布する落葉高木で、オオモミジやハウチワカエデ、イタヤカエデなど26種がある。木材組織からはチドリノキーカジカエデ以外は識別困難なため、この2種を除いたカエデ属とする。材は全体的に緻密で、靱性がある。

(5) エゴノキ属 *Styrax* エゴノキ科 図版6-4-2 5a-5c (KA10-2_3)

小型の道管が、放射方向に数個複合して分布する散孔材で、晩材部で道管が小型になり、数も減る。軸方向柔組織は短接線状となる。道管の穿孔は10段程度の階段状である。放射組織は1～4列幅で、異性である。

エゴノキ属は熱帯から温帯にかけて分布する落葉小高木で、エゴノキやハクウンボク、コハクウンボクの3種がある。材はやや重硬で、緻密である。

表6-4-1 樹種同定結果

試料番号	採集地点	樹種	形状	残存径	点数 (1試料10点抽出)
KA10-1_1	P-3	クリ	破片	<1.5cm	9
KA10-1_2		コナラ属コナラ節	破片	<1.5cm	1
KA10-2_1	F-2	クリ	破片	<0.5cm	4
KA10-2_2		ブナ属	破片	<1.0cm	4
KA10-2_3		エゴノキ属	破片	<0.5cm	1
KA10-2_4		コシアブラ	破片	<0.5cm	1
KA10-3	F-8	クリ	破片	<1.0cm	10
KA10-4	F-8周辺	クリ	破片	<1.5cm	10
KA10-5_1	F-12	クリ	破片	<1.0cm	9
KA10-5_2		コナラ属コナラ節	破片	<1.0cm	1
KA10-6_1	F-24	クリ	破片	<1.0cm	5
KA10-6_2		コナラ属コナラ節	破片	<1.0cm	4
KA10-6_3		カエデ属	破片	<0.5cm	1
KA10-7_1	F-25	クリ	破片	<0.5cm	8
KA10-7_2		エゴノキ属	破片	<0.5cm	2
KA10-8	F-25周辺	クリ	破片	<2.0cm	10
KA10-9	F-27	クリ	破片	<1.5cm	10
KA10-10_1	F-27周辺	クリ	破片	<1.0cm	9
KA10-10_2		コナラ属コナラ節	破片	<1.0cm	1

(6) コシアブラ *Chengioplanax sciadophylloides* (Franch. et Sav.) C.B.Shang et J.Y.Huang ウコギ科
図版2 6a-6c (KA10-2_4)

年輪のはじめにやや大型の道管がまばらに配列し、晩材部では小型の道管が単独もしくは放射方向に数個複合して分布する半環孔材である。道管の穿孔は単一である。放射組織は1～4列幅程度で、上下に1つずつ方形細胞が連なる異性である。

コシアブラは、暖帯上部から温帯に分布する落葉高木である。材は軽軟で、割裂しやすい。

4. 考察

全体ではクリが最も多く、すべての試料で確認された。土坑P-3ではクリとコナラ節、焼土F-2ではクリとブナ属、エゴノキ属、コシアブラ、F-8とF-8周辺ではクリ、F-12ではクリとコナラ節、F-24ではクリとコナラ節、カエデ属、F-25ではクリとエゴノキ属、F-25周辺とF-27ではクリ、F-27周辺ではクリとコナラ節が確認された。いずれも用途は不明であるが、土坑や焼土から出土しているため、燃料材の可能性が考えられる。なお、同じ土壌試料で行われた種実同定でも、P-3とF-8、F-8周辺、F-12、F-24、F-27、F-27周辺でクリの炭化果実や炭化子葉が産出しており、F-8ではオニグルミ炭化核も確認されている（炭化種実同定の報告参照）。本遺跡では、クリは果実が食用にされ、木材は主に燃料材として利用されていたと思われる。

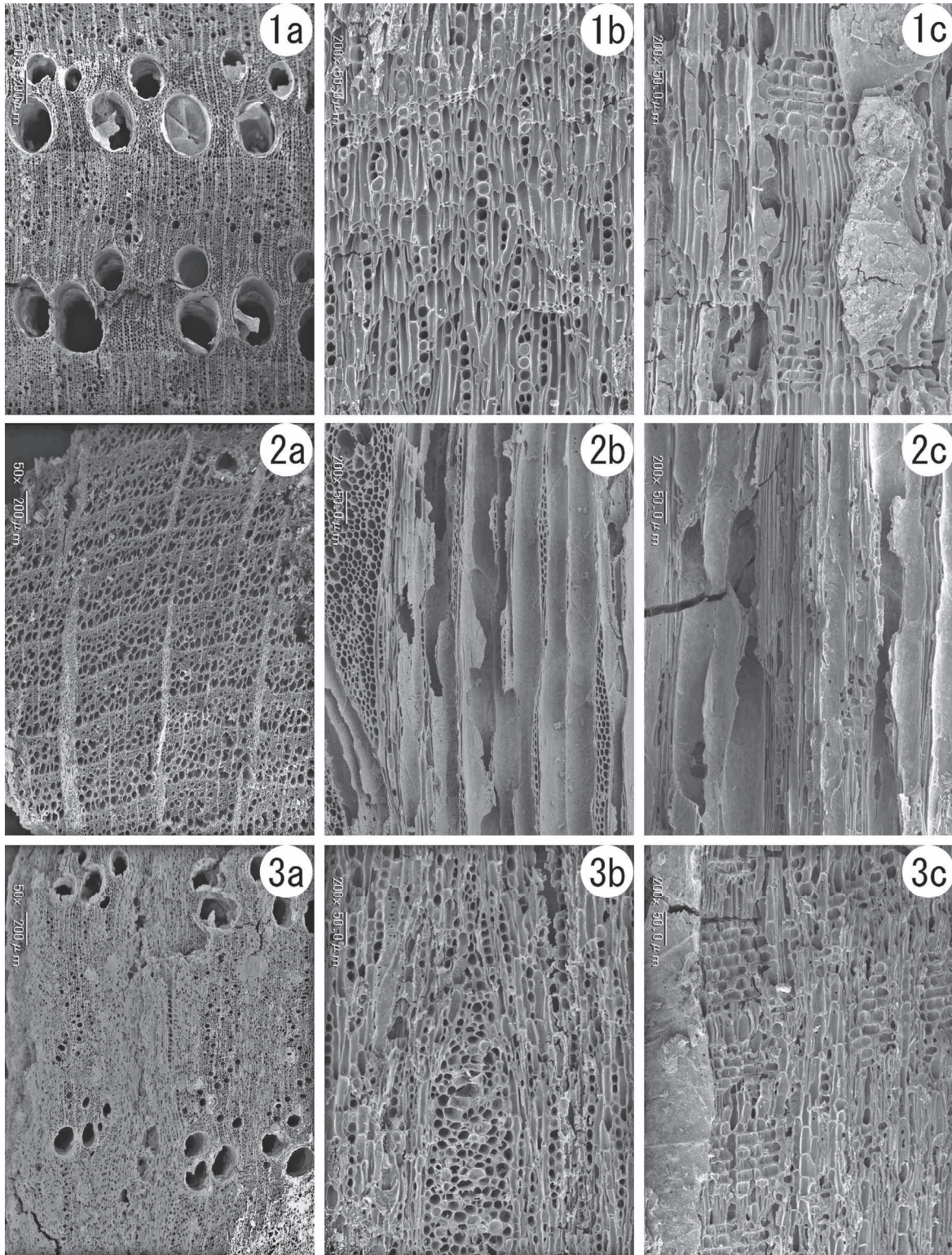
縄文時代～続縄文時代において、道南ではクリの利用が突出している（三浦・田口、2012）。木古内町の周辺でも北斗市の矢不來7遺跡で縄文時代後期後葉の住居跡から出土した炭化材はクリが最も多く、その他にコナラ節、クマシデ節、エゴノキ属などの落葉広葉樹が確認されている（植田、2006）。クリが多用される今回の傾向は、この地域にみられる木材利用傾向と一致している。

参考・引用文献

平井信二（1996）木の太百科. 394p, 朝倉書店.

三浦正人・田口 尚（2012）北海道. 伊東隆夫・山田昌久編「木の考古学－出土木製品用材データベース－」：133-146, 海青社.

植田弥生（2006）矢不來7遺跡住居跡出土炭化材の樹種同定. 北海道埋蔵文化財センター編「北斗市矢不來7遺跡・矢不來8遺跡」：227-237, 北海道埋蔵文化財センター.

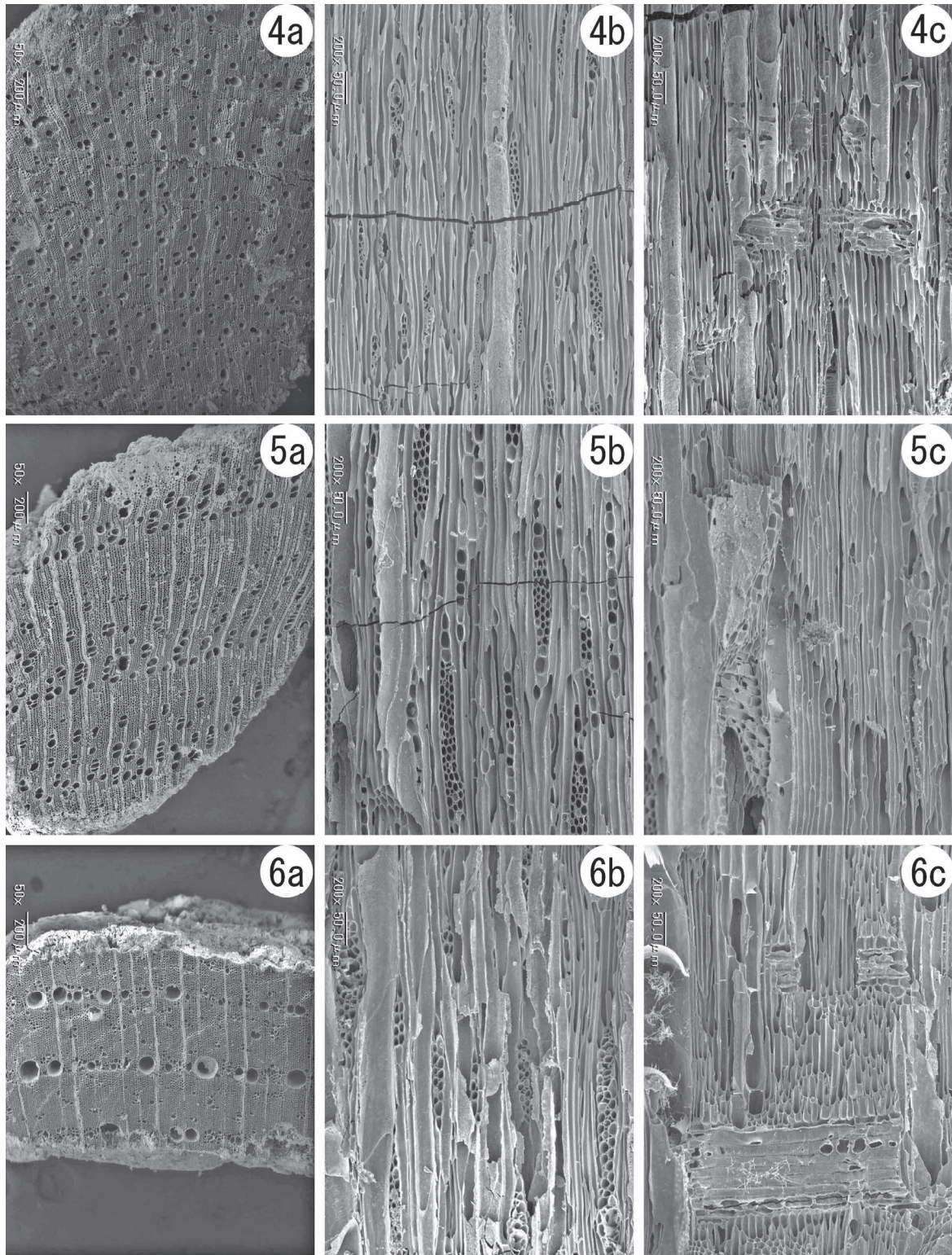


図版1 釜谷10遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(1)

1a-1c. クリ (KA10-1_1)、2a-2c. ブナ属 (KA10-2_2)、3a-3c. コナラ属コナラ節 (KA10-1_2)

a : 横断面、b : 接線断面、c : 放射断面

図版6-4-1 釜谷10遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(1)



図版2 釜谷10遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(2)

4a-4c. カエデ属 (KA10-6_3)、5a-5c. エゴノキ属 (KA10-2_3)、6a-6c. コシアブラ (KA10-2_4)

a : 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

図版6-4-2 釜谷10遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(2)

5 木古内町釜谷10遺跡出土黒曜石製遺物の原産地分析

有限会社 遺物材料研究所

はじめに

石器、玉類など石製品の考古学的石材産地推定を行なっている1、2、3)。一般的には肉眼観察で岩石の種類を決定し、それが真実のように思われているのが実態である。これら石製品については岩石の命名定義に従って岩石名を決定するが、非破壊で命名定義を求めるには限度があり、若干の傷を覚悟して硬度、光沢感、比重、結晶性、主成分組成などを求めるぐらいであり、非破壊では命名の主定義の結晶構造、屈折率などを正確には求められない。また原石名が決定されたのみでは考古学の資料としては不完全で、何処の原産地遺跡の原石が使用されているかの産地分析が行われて初めて、考古学に寄与できる資料となるのである。遺跡から出土する石器、玉類など石製品の産地分析というのは、地質学的産地（石製品と同じ成分の原石を産出しているが、先史人がそこから原石が採取された痕跡がない産地）の中から、最初に先史人が原石を手にした産地を求め、原石採取から製品製作、製品分配、製品消費の流れを明らかにすることを目的に産地分析を行っている。石製品などを区別するための指標は鉱物組成の組み合わせ、比重の違い、元素組成の違いなどにより、遺物がもつ情報（土器なら様式）を求める。製品遺物の分類の指標が求めれば、次に遺跡から出土する加工工程の遺物の指標と比較し製作遺跡を求め、次に製品遺物に使用した原石の考古学的原産地（白滝原産地のような、先史人が最初に原石を採取した地点の産地）の指標と比較し一致すればその地点が本研究の求める考古学的産地であることが考古学分野の決定で産地分析は完了する。このとき重要なことは、一致した産地の結果の信頼性が問題で、信頼性は、一致しない各遺跡の石製品の指標（遺物群）および、一致しない地質学的、考古学的原産地（原石群）を明確にした上で、一致する考古学的原産地の原石が使用されていると判定する。また、地質学的原産地を求めることにより、最初に先史人が原石を手にした考古学的原産地遺跡の発見のための資料を提供する。成功するかどうかは、とにかくおこなってみなければわからない。黒曜石遺物の伝播に関する研究では、伝播距離は千数百キロメートルは（図1）一般的で文系考古学（様式学）では更に広い範囲の様式伝搬が推測されてきた。様式伝播に石材が伴ったかは、理系考古学（自然科学）の結果を取り入れ、真の考古学研究で先史を明らかにする必要がある。6千キロメートルを推測する学者もでてきている。このような研究結果が出てきている現在、正確に産地を判定すると言うことは、原理原則に従って同定を行うことである。原理原則は、同じ元素組成の黒曜石が異なった産地では生成されないという理論がないために、少なくとも遺跡から半径数千キロメートルの内にある石器の原産地の原石と遺物を比較し、必要条件と十分条件を満たす必要がある。ノーベル賞を受賞された益川敏英博士の言を借りれば、科学とは、仮説をたて正しいか否かあらゆる可能性を否定することにある。即ち十分条件の証明が非常に重要であると言い換えられると思われる。『遺物原材とある産地の原石が一致したという「必要条件」を満たしても、他の産地の原石にも一致する可能性が残っているから、他の産地には一致しないという「十分条件」を満たして、一致した産地の原石が使用されているとはじめて言い切れる。また、十分条件を求めることにより、一致しなかった産地との交流がなかったと結論でき、考古学に重要な資料が提供される。

産地分析の方法

まず原石採取であるが、本来、先史・古代人が各産地の何処の地点で原石を採取したか？不明であるために、一カ所の産地から産出する全ての原石を採取し分析する必要があるが不可能である。そこで、産地から抽出した数十個の原石でも、産地全ての原石を分析して比較した結果と同じ結果が推測される方法として、理論的に証明されている方法で、マハラノビスの距離を求めて行う、ホテリング

のT2乗検定がある。ホテリングのT2乗検定法の同定とクラスター判定法（同定ではなく分類）、元素散布図法（散布図範囲に入るか否かで判定）を比較すると。クラスター判定法は判定基準が曖昧である。クラスターを作る産地の組み合わせを変えることにより、クラスターが変動する。例えば、A原石製の遺物とA、B、C産地の原石でクラスターを作ったとき遺物はA原石とクラスターを作るが、A原石を抜いて、D、E産地の原石を加えてクラスターを作ると、遺物がE産地とクラスターを作ると、A産地が調査されていないと、遺物はE原石製遺物と判定される可能性があり結果の信頼性に疑問が生じる。A原石製遺物と分かっているならば、E原石とクラスターを作らないように人為的にクラスターを操作できる。元素散布図法は肉眼で原石群元素散布の中に遺物の結果が入るか図示した方法で、原石の含有元素の違いを絶対定量値を求めて地球科学的に議論するには、地質学では最も適した方法であるが、産地分析からみると、クラスター法より、さらに後退した方法で、何個の原石を分析すればその産地を正確に表現されているのか不明で、分析する原石の数で、原石数の少ないときには、A産地とB産地が区別できていたのに、原石数を増やすと、A産地、B産地の区別ができなくなる可能性があり（クラスター法でも同じ危険性がある）判定結果に疑問が残る。産地分析としては、地質学の常識的な知識（高校生）さえあればよく、火山学、堆積学など専門知識は必要なく、分析では非破壊で遺物の形態の違いによる相対定量値の影響を評価しながら、同定を行うことが必要で、地球科学的なことは関係なく、如何に原理原則に従って正確な判定を行うかである。クラスター法、元素散布図法の欠点を解決するために考え出された方法が、理論的に証明された判定法でホテリングのT2乗検定法である。仮に調査した331個の原石・遺物群について散布図を書くと、各群40個の元素分析結果を元素散布図にプロットすると、335群X40個=13400点の元素散布図になり、これが8元素比では28個の2元素比の散布図となり、この図の中に遺物の分析点をプロットして産地を推測することは、想像できては実用的でなく。もし、散布図で判定するならば、あらかじめ遺物の原石産地を決めて、予想した産地のみで散布図を書き産地を決定する。これでは、一致する産地のみを探すのみで、科学的分析のあらゆる可能性を否定することが科学分析であると言うことに反し科学的産地分析と言えない。ある産地の原石組成と遺物組成が一致すれば、その産地の原石と決定できるという理論がないために、多数の産地の原石と遺物を比較し、必要条件と十分条件を満たす必要がある。考古学では、人工品の様式が一致すると言う結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの人手が加わった調合素材があり一致すると言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、一致すると言うことは、古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する重要な意味をもつ結果である。石製品の様式による分類ではなく、自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類では、石製品製作時に分割された割れ面の形が一致すると同時に割れ面の元素成分も一致すると考えて産地分析を行っていて、その結果の信頼性は何ヶ所の地質学的、考古学的原産地の原石および原産地未発見の遺物で作った遺物群と客観的に比較して得られたかにより、比較した原石群、遺物群が少なければ、信頼性の低い結果と言える。黒曜石、安山岩などの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比して、各平均値からの離れ具合（マハラノビスの距離）を求める。次に、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地と異なる地点の可能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限の個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングのT2乗検定を行

う。この検定を全ての産地について行い、ある遺物原材がA産地に10%の確率で必要条件がみたされたとき、この意味はA産地で10個原石を採取すると1個が遺物と同じ成分だと言うことで、現実により得ることであり、遺物はA産地原石と判定する。しかし、他の産地について、B産地では0.01%で一万個中に一個の組成の原石に相当し、遺跡人が1万個遺跡に持ち込んだとは考えにくい、従って、B産地ではないと言う十分条件を満足する。またC産地では百万個中に一個、D産地では・・・一個と各産地毎に十分条件を満足させ、客観的な検定結果から必要条件と十分条件をみたしたA産地の原石を使用した可能性が高いと同定する。即ち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。

今回分析した遺物は北海道木古内町に位置する釜谷10遺跡から出土した黒曜石フレイクチップについて産地分析の結果が得られたので報告する。

黒曜石原石の分析

黒曜石原石の自然面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X線分析装置によって元素分析を行なう。分析元素はAl、Si、K、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの12元素をそれぞれ分析した。塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。黒曜石は、Ca/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zrの比の値を産地を区別する指標としてそれぞれ用いる。黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に黒曜石の原産地は分布している。調査を終えている原産地の一部を図6-5-2に示す。元素組成によってこれら原石を分類し表6-5-1に示すこの原石群に原石産地が不明の遺物で作った遺物群を加えると331個の原石群・遺物群になる。ここでは北海道地域および一部の東北地域の産地について記述すると、白滝地域の原産地は、北海道紋別郡白滝村に位置し、鹿砦北方2kmの採石場の赤石山の露頭、鹿砦東方約2kmの幌加沢地点、また白土沢、八号沢などより転礫として黒曜石が採取できる。赤石山の産地の黒曜石は色に関係無く赤石山群（旧白滝第1群）にまとまる。また、あじさいの滝の露頭からは赤石山と肉眼観察では区別できない原石が採取でき、あじさい滝群を作った（旧白滝第2群）、また、八号沢の黒曜石原石と白土沢、十勝石川沢の転礫は梨肌の黒曜石で元素組成はあじさい滝群に似るが石肌で区別できる。幌加沢からの転礫の中で70%は幌加沢群になりあじさい滝群と元素組成から両群を区別できず、残りの30%は赤石山群に一致する。置戸地域産原石は、北海道常呂郡置戸町の清水の沢林道より採取された原石であり、その元素組成は置戸・所山群にまとまり、また同町の秋田林道で採取される原石は置戸山群にまとまる。また、同町中里地区の露頭の黒原石（最大約3cm）は、置戸山群、常呂川の転礫で作った常呂川第5群に一致し、同町安住地区の黒原石の中には常呂川第3群に一致する原石がみられた。留辺蘂町のケショマップ川一帯で採取される原石はケショマップ第1、第2およびチマキナウシ林道から採取される黒曜石原石から新たにケショマップ第0群（旧ケショマップ第3群に似る）分類される。また、白滝地域、ケショマップ、置戸地域産原石は、湧別川および常呂川に通じる流域にあり、両河川の流域で黒曜石の円礫が採取され、湧別川下流域から採取した黒曜石円礫247個の元素組成分類結果を表6-5-2に示した。また、中ノ島、北見大橋間の常呂川から採取した658個の円礫の中には、独特の元素組成の原石も見られ、新しい原石群を追加し分類結果を表6-5-1と表6-5-3に示した。また、湧別川の上流地域の遠軽町社名測地域のサナブチ川流域からも独特の元素組成の原石が見られ、表6-5-1と表6-5-4に示した。表6-5-5に示す金華地区から採取した20個の黒曜石円礫は社名測群、赤石山群などの他に何処の産地にも一致しない黒曜石があり金華群を作った。表6-5-6の生田原川支流支線川から採取した19の黒曜石円礫では社名測群、白滝地区産黒曜石および

金華群などが見られた。また同支流の大黒沢採取の5個は社名渕群の黒曜石であった。十勝三股産原石は、北海道河東郡上士幌町の十勝三股露頭があり、また露頭前の十三ノ沢の谷筋および沢の中より原石が採取され、この原石の元素組成は十勝三股群にまとまる。この十勝三股産原石は十勝三股を起点に周辺の河川から転礫として採取され十三ノ沢、タウシュベツ川、音更川、芽登川、美里別川、サンケオルベ川さらに十勝川に流れた可能性があり、十勝川から採取される黒曜石円礫の元素組成は、十勝三股産の原石の元素組成と相互に近似している。これら元素組成の近似した原石の原産地は相互に区別できず、もし遺物石材の産地分析でこの遺物の原石産地が十勝三股群に同定されたとしても、これら十勝三股を起点にした周辺の河川の複数の採取地点を考えなければならない。しかし、この複数の産地をまとめて十勝地域としても、古代の地域間の交流を考察する場合、問題はないと考えられる。釧路・上阿寒地域の礫層から最大3.5cmの大きさの円礫状黒曜石原石が産出し、成分組成は十勝三股産と一致した。また、清水町、新得町、鹿追町にかけて広がる美蔓台地から産出する黒曜石から2つの美蔓原石群が作られた。この原石は産地近傍の遺跡で使用されている。名寄地域では、朝日川、金沢川、上名寄地区、忠烈布地区、智恵文川、智南地区から円礫状の黒曜石が採取できる。これら名寄地域産出の黒曜石を元素組成で分類すると、名寄第1群と名寄第2群に分類できそれぞれ87%と13%の率になる。旭川市の近文台、台場、嵐山遺跡付近および近文台北部などから採集される黒曜石の円礫は、20%が近文台第1群、69%が近文台第2群、11%が近文台第3群にそれぞれ分類され、それから台場の砂礫採取場からは近文台諸群に一致するもの以外に、黒、灰色系円礫も見られ、台場第1、2群を作った。また、滝川市江別乙で採集される親指大の黒曜石の礫は、元素組成で分類すると約79%が滝川群にまとまり、21%が近文台第2、3群に元素組成が一致する。滝川群に一致する元素組成の原石は、北竜市恵袋別川培本社からも採取される。秩父別町の雨竜川に開析された平野を見下す丘陵中腹の緩斜面から小円礫の黒曜石原石が採取される。産出状況と礫の状態は滝川産黒曜石と同じで、秩父別第1群は滝川第1群に元素組成が一致し、第2群も滝川第2群に一致しさらに近文台第2群にも一致する。赤井川産原石は、北海道余市郡赤井川村の土木沢上流域およびこの付近の山腹より採取できる。ここから採取される原石の中で小球果の列が何層にも重なり石器の原材として良質とはいえないもので赤井川第1群を作り、また、球果の非常に少ない握り拳半分大の良質なものなどで赤井川第2群を作った。これら第1、2群の元素組成は非常に似ていて、遺物を分析したときしばしば、赤井川両群に同定される。豊泉産原石は豊浦町から産出し、元素組成によって豊泉第1、2群の両群に区別され、豊泉第2群の原石は斑晶が少なく良質な黒曜石である。豊泉産原石の使用圏は道南地方に広がり、一部は青森県に伝播している。また、青森県教育庁の斉藤岳氏提供の奥尻島幌内川産黒曜石の原石群が確立されている。最近の北見市教育委員会太田敏量氏による原石産地調査で、上足寄地域から上足寄群、津別・相生から相生群、釧路市埋蔵文化財センターの石川朗氏による釧路空港、上阿寒地域からピッチストーン様の黒曜石が調査され、相互に似た組成を示し、それぞれ相生群、釧路空港群を作った。また雄武地域・音稲府川から名寄第2群に組成の似た音稲府群、鶴居・久著呂川から久著呂川群群を作り原石群に新たに登録した。出来島群は青森県西津軽郡木造町七里長浜の海岸部より採取された円礫の原石で作られた群で、この出来島群と相互に似た元素組成の原石は、岩木山の西側を流れ鱒ヶ沢地区に流入する中村川の上流で1点採取され、また、青森市の鶴ヶ坂および西津軽郡森田村鶴ばみ地区より採取されている。青森県西津軽郡深浦町の海岸と同町の六角沢およびこの沢筋に位置する露頭より採取された原石で六角沢群を作り、また、八森山産出の原石で八森山群を作った。これら深浦町の両群と相互に似た群は、青森市戸門地区より産出する黒曜石で作られた戸門第2群である。戸門第1群、成田群、浪岡町県民の森地区より産出の大釈迦群（旧浪岡群）は赤井川

産原石の第1、2群と弁別は可能であるが原石の元素組成は比較的似ている。戸門、大釈迦産黒曜石の産出量は非常に少なく、希に石鏃が作れる大きさのものがみられるが、鷹森山群は鷹森山麓の成田地区産出の黒曜石で中には5 cm大のものもみられる。また、考古学者の話題になる下湯川産黒曜石についても原石群を作った。産地分析は、日本、近隣国を含めた産地の合計335個の原石群・遺物群と比較し、必要条件と十分条件を求めて遺物の原石産地を同定する。

結果と考察

遺跡から出土した黒曜石製石器、石片は風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。縄文時代の黒曜石製遺物は表面から約3ミクロン程度の厚さで風化層ができています。分析はこの風化層を通して遺物の内部の新鮮面をいかに多く測定するかが重要であり蛍光X線分析法の中の電子線励起方式のEPMA分析は表面の分析面積1～数百ミクロン分析されているが、深さ約1ミクロンの風化層しか分析を行っていないために、得られた結果は原石で求めた新鮮面のマトリックスと全く異なった可能性の風化層のみの分析結果になるために、黒曜石遺物は破壊して新鮮面を出して分析する必要があります。従って、非破壊分析された黒曜石製遺物のEPMA測定された産地分析結果は全く信用できないX線励起(50KeV)でマトリックスをシリカとしてモデル計算を行うと、表面から、カリウム元素など軽元素で数ミクロンから10ミクロン、鉄元素で約300ミクロン、ジルコニウムで約800ミクロンの深さまで分析され、鉄元素より重い元素では風化層の影響は相当無視できると思われる。風化層以外に表面に固着した汚染物が超音波洗浄でも除去できないときはその影響を受ける。また、被熱黒曜石の風化層は厚く、表面ひび割れ層に汚染物が入り込んでいるときも分析値に大きく影響する。風化層が厚い場合、軽い元素の分析ほど表面分析になるため、水和層の影響を受けやすいと考えられ、Ca/K、Ti/Kの両軽元素比量を除いて産地分析を行なう。軽元素比を除いて場合、また除かずに産地分析を行った場合、いずれの場合にも同定される産地は同じである。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやゝ不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。一方、安山岩製石器、石片は、黒曜石製遺物に比べて風化の進行が早く、非破壊で原石産地が特定される確率は黒曜石製遺物に比べて相当低くなる。サヌカイト製は風化の進行が早く完全非破壊分析での産地分析ができる確率は黒曜石に比べて相当低くなる。サヌカイト製遺物の表面が白っぽく変色し部分は新鮮な部分と異なった元素組成になっていると考えられる。このため遺物の測定面の風化した部分に、圧縮空気によってアルミナ粉末を吹きつけ風化層を取り除き新鮮面を出して測定を行なっている。今回分析した釜谷10遺跡出土の黒曜石製遺物の分析はセイコーインスツルメンツ社のSEA2110Lシリーズ卓上型蛍光X線分析計で行い分析結果を表6-5-8に示した。

石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群、遺物群との比較をする。説明を簡単にするためRb/Zrの一変量だけを考えると、表6-5-8の試料番号127123番の遺物ではRb/Zrの値は0.998であり、赤井川第1群に比較すると、赤井川第1群の[平均値] ± [標準偏差値]は、 0.969 ± 0.060 である。遺物と原石群の差を赤井川第1群の標準偏差値(σ)を基準にして考えると遺物は原石群の平均値から 0.48σ 離れている。ところで赤井川第1群原産地から100ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から $\pm 0.48\sigma$ のずれより大きいものが63個ある。すなわち、この遺物が赤井川第1群の原石から作られていたと仮定しても、 0.48σ 以上離れる確率は63%であると言える。だから、赤井川第1群の平均値から 0.48σ しか離れていないときには、この遺物が赤井川第1群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。次にこの遺物を所山群に比較すると、所山群の[平均値] ± [標準偏差値]は、 0.823 ± 0.023 であるので上記と同様に所山群の標準偏差値

(σ) を基準にして考えると、この遺物の所山群の平均値からの隔たりは 8σ である。これを確率の言葉で表現すると、所山群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から 8σ 以上離れている確率は、千万分の一であると言える。このように、千万個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、所山群の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は赤井川第1群に63%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから赤井川第1産原石が使用されていると同定され、さらに所山群に十万分の一の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%に満たないことから所山群の原石でないと同定される」。遺物が一ヶ所の産地（赤井川産地）と一致したからと言って、例え赤井川第1群と所山群の原石は成分が異なっているとしても、分析している試料は原石でなく遺物であり、さらに分析誤差が大きくなる不定形（非破壊分析）であることから他の産地に一致しないとは言えない。また同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地（赤井川第1産地）に一致し必要条件を満足したと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表6-5-1の335個すべての原石群・遺物群について行ない十分条件を求め、低い確率で帰属された原石群の原石は使用していないとして可能性を消していくことにより、はじめて赤井川第1産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はRb/Zrといった唯1つの変量だけでなく、前述した8つの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならない。例えば、A産地のA群でCa元素とRb元素との間に相関がありCaの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量だけが少しずれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのT²乗検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて産地を同定する(4、5)。産地の同定結果は1個の遺物に対して、黒曜石製のものについては335個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略しているが、本研究ではこれら産地の可能性が非常に低いことを確認したという非常に重要な意味を含んでいる。すなわち赤井川第1産原石と判定された遺物に対して、カムチャッカ産原石とかロシア、北朝鮮の遺跡で使用されている原石および信州和田峠産の原石の可能性を考える必要がないという結果であり、ここでは高い確率で同定された産地のみの結果を表6-5-9に記入した。ここで大切なことは、遺物材料研究所で行った結果で、赤井川第1群と判定された遺物を使って、先史時代の交流を考察するときには、表6-5-9に記入された赤井川第1群以外の表1の335個の原石産地と交流がなかったと言うことを証明している点である。北海道の先史人は北海道と東北範囲のみでしか交流がなかったと仮定して、遺物と比較する産地を北海道、東北の主な産地だけで十分であると考えて遺物の原材産地を求め、赤井川第1産原石が使用されているとの結果は、先史時代の交易を一部の範囲に限定することになる（広い地域の範囲の黒曜石と比較していないから、広い範囲との交流は言えない、即ち日本の限定的地域にのみ有効で、東アジア、極東ロシア地域では通用しない結果である）。考古学者の主観的な石器の様式分類が北海道、東北地域に限定されていたとしても、分析された石器がもつ自然科学的結果が何処までの範囲に通用するかが、考古学の交易を考える上に非常に重要で、自分の主観的考察が満足されれば良いとの狭い見では真の考古学的研究とは言えない。他の広い交易範囲を考えている考古学者にも通用する産地分析結果が必要である。論外は、個人知識による肉眼観察を含め、赤井川第1産原石が使用されているとの判定を、比較をしていないロシア産黒曜石、ロシア遺跡で使

用されてる遺物の、肉眼観察とか組成（遺物群）ではないと評価することで、ないと評価するには実際に比較し確認するしかない。また、産地分析の結果を評価するとき、比較する原石群は新鮮面であり、また遺物群は風化面を測定し作った群が表6-5-1に示している。風化の程度の差はあるものの風化していない遺物はなく、遺物を分析して原石産地が同定されない場合は、1：風化の影響で分析値が変動し、新鮮面と分析値が大きくことなったとき。2：遺物の厚さが薄く、厚さの影響が分析値に現れたとき。3：未発見の原石産地の原石が使用されているときなど。風化の影響を受けている遺物は黒曜石は光沢なく表面が曇っていて、分析するとカリウムの分析値が大きく分析される。風化の影響が少ないときは軽元素比を抜くことにより同定が行える。風化が激しく、軽元素以外の他の元素まで風化の影響がおよぶと、遺物の産地は同定できなくなったり、また、新鮮面分析と異なった原石産地に同定されることがあり注意が必要である。原石群を作った原石試料は直径3 cm以上で5 mm以上の厚さであるが、細石刃などの小さな遺物試料の分析では、遺物の厚さが1.5mm以下の薄い部分を含んで分析すると、厚さの影響を受けて、重い元素は小さく測定され、分析値には大きな誤差範囲が含まれるために、分析値に実験で求めた厚さ補正值を乗じて同定を行わなければならない。分析平均厚さが0.3mm以下になると補正が困難になり同定できない。細石刃は厚さが薄く、縄文時代の遺物より風化の進んだ遺物もあり、厚さ補正と軽元素を抜いて同定を行っている。

蛍光X線分析では、分析試料の風化による化学的変化（カリウムが大きく観測される）、表面が削られる物理的変化、不定形の試料では薄い部分を完全に避けて分析できないとき、分析面が遺物の極端な曲面しか分析できない場合など、分析値に影響が残り、また、装置による分析誤差も加わり、分析値は変動し判定結果は一定しない。特に元素比組成の似た原産地同士では区別が困難で、遺物の原石産地が原石・遺物群の複数の原石産地に同定されるとき、および、定量的信頼（記載）限界の5%より低い定性的限界として0.1%（赤井川第1（96%）のみ記載では、信州、霧ヶ峰産地に（6%）かどうか不明で考古学者が安心して引用できないから、0.1%までに設定している）を判定境界にして、0.09%に位置する場合は、分析場所を変えて3～12回分析し最も多くの回数同定された産地を判定の欄に記している。風化、厚さ、不定形など比較原石群分析とは異なる誤差が遺物の分析値に含まれるために、産地分析では、一致する産地（必要条件）の結果だけでは信頼性が小さく、他の産地には一致しない（十分条件）ことを満足しなければならない。また、判定結果には推定確率が求められているために、先史時代の交流を推測するとき、低確率（5%以下）の遺物はあまり重要に考えないなど、考古学者が推定確率をみて選択できるために、誤った先史時代交流を推測する可能性がない。

ホテリングのT2乗検定の定量的な同定結果から、石材の成分組成以外の各産地特有の原石の特徴を考慮して遺物の原石産地を判定を行とき、鉱物組成などの特徴を肉眼観察で求めた場合、キラキラ光る鉱物が多い、少ない、また輝石か、雲母かなど個人的な知識、経験などの主観が加わり判定される。白滝地域産黒曜石の中で、赤石山産原石の割れ面はガラス光沢を持っているが、元素組成が相互に似たあじさい滝、八号沢、白土沢、幌加沢、十勝石川沢などの群の原石は、あじさい滝、幌加沢産はガラス光沢を示し、八号沢、白土沢、十勝石川産は梨肌を示すため、原石産地の判定に梨肌か、梨肌でないかを指標に加えた。また、赤井川および十勝産、上阿寒礫層産原石を使用した遺物の判定は複雑になる場合がある。これは青森市戸門、鷹森山地区、浪岡町大釈迦より産出する黒曜石で作られた戸門第1、鷹森山、大釈迦の各群の元素組成が赤井川第1、2群、赤井川第1群、上阿寒礫層群に比較的似ているために、遺物独特の風化の影響、不定形による影響を受けた分析値は、分析値への受け方の程度により戸門原産地と赤井川または十勝・上阿寒礫層産地、これら複数の原産地に同時に同定される場合がしばしば見られる。赤井川第1群、上阿寒礫層群、赤井川諸群、大釈迦群、戸門第

1群、鷹森山群に同定された遺物を定量的に弁別する目的で、元素比の組み合わせを探し、新たに、K/Si、Fe/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Sr/Rb、Y/Rb、Ti/Fe、Si/Feの組み合わせによるホテリングのT2乗検定を行う。また、従来の元素比の組み合わせで同定されなかった原石・遺物群は十分条件となる。従って、判定の必要条件と十分条件は新元素比と従来元素比の両ホテリングのT2乗検定結果の組み合わせで判定する。また、戸門産地の原石が使用されたか否かは、一遺跡で多数の遺物を分析し戸門第1群と第2群に同定される頻度を求め、これを戸門産地における第1群（50%）と第2群（50%）の産出頻度と比較し戸門産地の原石である可能性を推定する。多数分析した遺物のなかに全く戸門第2群に帰属される遺物が見られないときは、戸門産地からの原石は使用されなかったと推測できる。また浪岡町大釈迦産原石は非常に小さい原石が多く使用された可能性は低いと思われる。新たな元素比の組み合わせでも、十勝三股群と上阿寒礫層群は区別ができず、上阿寒礫層群の原石は最大3.5cm以下のローリング痕のない円礫で、遺物の大きさが3.5cm以上の場合十勝産と特定できる。また石器作成にロスする原石長さを考えると、かなり小さな石器でも上阿寒礫層群の原石は使用できない可能性があるなど、元素分析以外の情報をも取り入れて原石産地を絞り込んでいる。また、自然面を残す石器については、角礫は露頭地域から、円礫は河川・河川堆積層から原石が採取された推測した。今回の使用した産地分析方法から言えることは、赤井川産地との交流が推測され、産地地域との生活、文化情報の交換があったと推測できて、そして日本についてはほぼ全土、外国については、表6-5-1で調査された原石産地と外国遺跡で使用されている黒曜石原材料の範囲内に限定されるが、石器様式が日本に伝搬したと推測されている東アジア、極東ロシアからの伝搬が石器原材料をともなっていないことも証明されたと推測しても産地分析の結果と矛盾しない。また、今回分析した結果は、沿海州地域の遺物群、原石と直接比較していることから、沿海州地域の考古学の参考資料として使用できる報告書になっている。

表6-5-2 湧別川河口域の河床から採取した247個の黒曜石円礫の分類結果

原石群名	個数	百分率	備 考
赤石山群	90個	36%	白滝産地赤石山群に一致
八号沢・白土沢群	120個	49%	割れ面が梨肌の黒曜石
あじさい滝群、幌加沢	31個	13%	割れ面が梨肌でないもの
ケショマップ第2群	5個	2%	
KS3遺物群	1個	0.04%	

注：8号沢、白土沢、あじさい滝、幌加沢の一部は組成が酷似し、分類は割れ面の梨肌か否かで区別した。

表6-5-3 常呂川（中ノ島～北見大橋）から採取した661個の黒曜石円礫の分類結果

原石群名	個数	百分率	備 考
所山群	321個	49%	常呂川第4群に似る
置戸山群	75個	11%	常呂川第2群、常呂川第5群、HS2遺物群に似る
ケショマップ第1群	65個	10%	FR1、FR2遺物群に似る
ケショマップ第2群	96個	9%	同時にケショマップ第0群に0.5～0.001%に同定、FR1、FR2遺物群に似る
八号沢群	1個	0.2%	割れ面梨肌
常呂川第2群	14個	2%	置戸山群、高原山群、HS2遺物群に似る
常呂川第3群	3個	0.5%	
常呂川第4群	70個	11%	KS1遺物群、所山群に似る
常呂川第5群	10個	2%	置戸山群、HS2遺物群に似る
常呂川第6群	1個	0.2%	FH1遺物群に似る
常呂川第7群	2個	0.3%	FR2遺物群に似る
常呂川第8群	1個	0.2%	名寄第2群に似る
十勝	1個	0.2%	戸門第1群、鷹森山群、大釈迦群に似る
台場第2群	1個	0.2%	美蔓第1群に似る

注：常呂川第2群は分析場所を変えて複数回測定して作る。

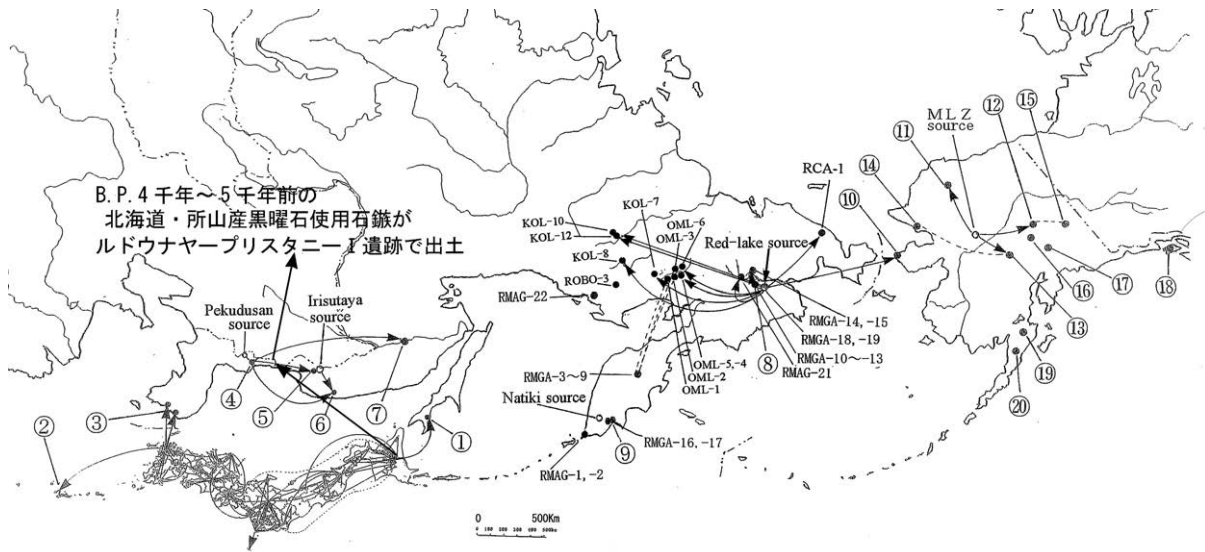


図6-5-1 日本・朝鮮半島・極東ロシア・アラスカ州における表6-5-1使用の石器原材伝播図

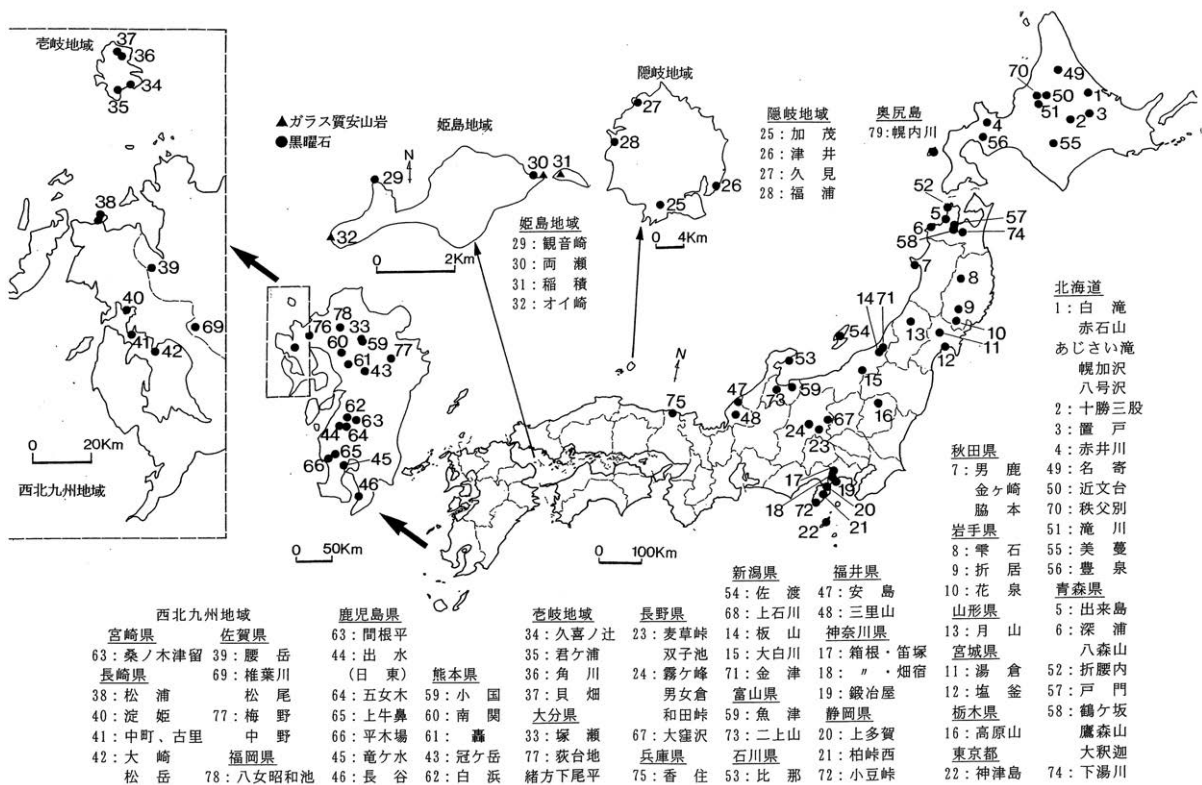


図6-5-2 黒曜石原産地

表6-5-1 黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差

各地遺物群名	分析 個数	元素比									
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
HIS1遺物群	67	0.241±0.021	0.107±0.005	0.018±0.006	1.296±0.077	0.430±0.016	0.153±0.009	0.140±0.015	0.08±0.013	0.018±0.012	0.325±0.042
HIS2遺物群	60	0.453±0.011	0.135±0.008	0.041±0.008	1.765±0.075	0.448±0.021	0.419±0.019	0.130±0.015	0.015±0.019	0.034±0.010	0.500±0.015
FR1遺物群	51	0.643±0.012	0.124±0.008	0.052±0.007	2.547±0.143	0.530±0.032	0.689±0.032	0.156±0.015	0.034±0.008	0.029±0.004	0.378±0.047
FR2遺物群	59	0.535±0.061	0.106±0.012	0.053±0.009	1.557±0.138	0.557±0.051	0.685±0.029	0.165±0.021	0.016±0.022	0.027±0.009	0.373±0.043
FR3遺物群	37	0.380±0.037	0.084±0.007	0.052±0.009	2.548±0.145	0.586±0.056	0.681±0.033	0.164±0.021	0.017±0.023	0.023±0.006	0.292±0.037
FR4遺物群	44	0.261±0.043	0.074±0.010	0.018±0.008	2.500±0.117	0.639±0.057	0.679±0.032	0.155±0.021	0.009±0.017	0.018±0.008	0.258±0.036
FRH1遺物群	32	0.898±0.032	0.221±0.007	0.084±0.006	2.540±0.101	0.426±0.018	0.802±0.023	0.109±0.013	0.017±0.021	0.037±0.003	0.447±0.011
K11遺物群	56	1.013±0.050	0.146±0.007	0.081±0.008	1.557±0.138	0.314±0.053	0.775±0.082	0.133±0.016	0.019±0.021	0.043±0.007	0.516±0.015
K12遺物群	32	0.275±0.007	0.107±0.005	0.047±0.010	1.751±0.051	0.836±0.038	0.468±0.021	0.180±0.019	0.023±0.028	0.025±0.007	0.345±0.010
K22遺物群	62	0.244±0.011	0.070±0.004	0.056±0.013	1.749±0.168	1.080±0.108	0.424±0.036	0.327±0.042	0.037±0.031	0.023±0.011	0.379±0.011
K33遺物群	48	0.154±0.008	0.041±0.002	0.080±0.013	2.265±0.126	1.460±0.057	0.162±0.019	0.385±0.042	0.069±0.038	0.024±0.002	0.337±0.015
K19遺物群	48	0.185±0.007	0.049±0.003	0.081±0.013	2.162±0.122	1.031±0.041	0.435±0.025	0.263±0.028	0.050±0.019	0.023±0.002	0.260±0.009
N19遺物群	51	5.445±0.122	2.301±0.074	0.207±0.024	13.151±1.113	0.151±0.018	1.839±0.134	0.207±0.022	0.007±0.011	0.069±0.006	0.622±0.021
HY1遺物群	31	0.238±0.011	0.131±0.006	0.048±0.008	1.636±0.066	0.418±0.028	1.441±0.015	0.482±0.024	0.029±0.028	0.020±0.015	0.481±0.068
SN1遺物群	33	0.287±0.006	0.167±0.004	0.033±0.005	1.597±0.037	0.244±0.011	0.258±0.011	0.281±0.012	0.009±0.012	0.021±0.006	0.339±0.006
SN2遺物群	29	0.209±0.006	0.116±0.006	0.076±0.008	1.571±0.082	0.716±0.035	0.392±0.017	0.264±0.029	0.028±0.030	0.023±0.009	0.383±0.015
SN4遺物群	45	0.287±0.003	0.147±0.003	0.095±0.004	1.909±0.073	0.912±0.033	0.480±0.024	0.255±0.014	0.160±0.047	0.024±0.001	0.511±0.013
KN遺物群	107	0.351±0.011	0.121±0.006	0.053±0.007	1.581±0.071	0.347±0.020	0.219±0.010	0.216±0.014	0.056±0.017	0.029±0.011	0.475±0.040
TB遺物群	60	0.252±0.014	0.113±0.007	0.124±0.015	1.845±0.088	0.875±0.056	0.663±0.038	0.272±0.029	0.083±0.037	0.028±0.008	0.378±0.021
AH1遺物群	41	0.629±0.008	0.067±0.013	0.078±0.006	2.646±0.063	0.741±0.028	0.293±0.016	0.331±0.021	0.064±0.019	0.036±0.003	0.444±0.010
AH2遺物群	61	3.141±0.074	0.572±0.021	0.080±0.009	2.752±0.062	0.094±0.009	0.716±0.019	0.242±0.011	0.008±0.014	0.083±0.029	1.353±0.049
AIS1遺物群	61	0.960±0.013	0.215±0.004	0.117±0.009	4.306±0.100	0.114±0.008	0.909±0.028	0.248±0.012	0.014±0.016	0.028±0.006	0.390±0.009
AIS2遺物群	122	0.850±0.059	0.474±0.025	0.077±0.007	4.037±0.047	0.081±0.006	0.187±0.006	0.177±0.013	0.011±0.013	0.044±0.004	0.415±0.015
AIS3遺物群	122	3.167±0.092	0.696±0.027	0.101±0.009	3.787±0.108	0.114±0.010	0.892±0.026	0.241±0.012	0.006±0.012	0.091±0.020	1.234±0.052
FS1遺物群	45	0.272±0.090	0.097±0.029	0.053±0.007	1.191±0.083	0.327±0.019	0.453±0.024	0.207±0.018	0.029±0.027	0.017±0.011	0.339±0.011
SD遺物群	48	2.900±0.050	0.741±0.016	0.118±0.010	3.922±0.077	0.117±0.012	0.906±0.026	0.246±0.013	0.008±0.017	0.083±0.013	1.195±0.029
UN1遺物群	45	9.833±0.121	1.914±0.094	0.104±0.011	10.194±0.116	0.082±0.032	0.854±0.032	0.082±0.032	0.024±0.004	0.024±0.004	0.416±0.016
AC1遺物群	63	0.479±0.014	0.192±0.006	0.054±0.008	1.561±0.075	0.400±0.017	0.440±0.019	0.169±0.019	0.061±0.015	0.033±0.005	0.427±0.016
AC2遺物群	48	0.251±0.007	0.081±0.003	0.112±0.013	2.081±0.076	0.904±0.035	0.406±0.020	0.409±0.024	0.108±0.023	0.036±0.003	0.419±0.007
AC3遺物群	36	0.657±0.016	0.144±0.005	0.083±0.010	1.891±0.051	0.202±0.010	0.381±0.017	0.286±0.018	0.041±0.012	0.049±0.005	0.616±0.013
IN1遺物群	56	0.320±0.016	0.082±0.015	0.063±0.005	1.997±0.139	0.903±0.035	0.712±0.033	0.212±0.010	0.064±0.010	0.027±0.001	0.353±0.006
IN2遺物群	48	0.745±0.013	0.110±0.014	0.140±0.015	3.176±0.212	0.728±0.039	1.582±0.080	0.104±0.030	0.038±0.013	0.036±0.003	0.386±0.010
IN3遺物群	45	0.311±0.015	0.089±0.026	0.061±0.003	2.037±0.204	0.887±0.030	0.736±0.053	0.170±0.010	0.057±0.025	0.027±0.001	0.326±0.016
IN4遺物群	45	0.233±0.006	0.044±0.002	0.058±0.002	1.841±0.056	0.935±0.030	0.754±0.024	0.182±0.011	0.057±0.029	0.018±0.001	0.214±0.003
NK遺物群	57	0.566±0.019	0.163±0.007	0.086±0.011	1.685±0.084	0.467±0.031	1.691±0.064	0.102±0.031	0.041±0.028	0.038±0.002	0.500±0.014
UH63遺物群	48	0.308±0.018	0.118±0.004	0.118±0.004	2.646±0.063	0.176±0.008	0.176±0.008	0.137±0.021	0.138±0.025	0.037±0.005	0.468±0.016
UH66遺物群	48	0.310±0.019	0.075±0.005	0.064±0.014	1.980±0.082	0.901±0.051	0.841±0.040	0.159±0.038	0.054±0.020	0.041±0.018	0.378±0.025
UH35遺物群	44	0.297±0.005	0.115±0.003	0.050±0.014	1.580±0.045	0.567±0.017	0.502±0.023	0.120±0.017	0.025±0.014	0.021±0.001	0.346±0.006
FU113遺物群	50	0.730±0.108	0.270±0.023	0.155±0.017	4.326±0.434	0.777±0.125	1.809±0.206	0.477±0.124	0.038±0.089	0.039±0.003	1.724±0.089
大野54風化群	48	0.172±0.002	0.088±0.003	0.074±0.002	0.014±0.001	0.014±0.001	0.014±0.001	0.014±0.001	0.014±0.001	0.014±0.001	0.014±0.001
大野54風化群	44	0.137±0.005	0.136±0.007	0.014±0.001	0.820±0.019	0.304±0.006	0.144±0.005	0.060±0.002	0.144±0.005	0.020±0.001	0.234±0.008
原田36遺物群	43	0.173±0.002	0.097±0.002	0.015±0.001	0.868±0.012	0.217±0.005	0.002±0.002	0.048±0.002	0.119±0.004	0.020±0.001	0.232±0.004
YM遺物群	56	0.381±0.016	0.138±0.005	0.038±0.012	1.611±0.102	0.717±0.039	0.497±0.026	0.128±0.022	0.047±0.016	0.023±0.003	0.331±0.013
山口1遺物群	40	0.330±0.010	0.103±0.003	0.066±0.011	1.048±0.057	0.948±0.057	0.148±0.017	0.148±0.017	0.024±0.004	0.024±0.004	0.388±0.016
MK-1遺物群	48	0.087±0.008	0.059±0.002	0.010±0.003	0.677±0.023	0.370±0.097	0.006±0.002	0.125±0.012	0.292±0.010	0.022±0.002	0.337±0.010
MK-2遺物群	48	0.258±0.010	0.026±0.002	0.055±0.013	1.745±0.121	1.149±0.092	0.297±0.029	0.202±0.037	0.177±0.022	0.021±0.002	0.268±0.007
T1遺物群	54	0.794±0.070	0.202±0.009	0.061±0.013	1.774±0.132	0.380±0.030	1.350±0.096	0.076±0.032	0.079±0.022	0.040±0.004	0.434±0.015
HB1遺物群	48	0.197±0.035	0.074±0.005	0.098±0.002	7.099±0.844	0.431±0.062	0.975±0.130	0.365±0.079	0.126±0.079	0.083±0.022	0.312±0.035
HT1遺物群	48	0.414±0.104	0.104±0.004	0.110±0.014	2.110±0.044	0.176±0.008	0.176±0.008	0.176±0.008	0.176±0.008	0.176±0.008	0.176±0.008
HT1遺物群	46	0.297±0.013	0.107±0.005	0.053±0.010	1.638±0.104	1.012±0.056	0.736±0.039	0.168±0.027	0.034±0.028	0.024±0.011	0.390±0.014
KU4遺物群	48	1.871±0.365	1.018±0.094	3.790±0.705	14.990±4.008	0.673±0.081	2.043±0.233	0.066±0.045	0.060±0.045	0.090±0.017	4.302±0.246
KH1遺物群	45	0.383±0.012	0.101±0.005	0.061±0.024	1.913±0.158	0.965±0.057	0.527±0.038	0.197±0.030	0.079±0.028	0.028±0.002	0.409±0.009
KH2遺物群	46	0.402±0.012	0.146±0.003	0.043±0.002	2.486±0.128	0.492±0.088	0.667±0.046	0.211±0.036	0.184±0.028	0.027±0.002	0.285±0.016
KI3遺物群	48	1.545±0.154	0.557±0.045	0.074±0.011	3.746±0.455	0.284±0.018	0.783±0.044	0.106±0.021	0.025±0.011	0.047±0.006	0.499±0.021
KI4遺物群	56	2.625±0.109	0.871±0.136	0.093±0.007	5.623±0.602	0.255±0.010	0.906±0.074	0.107±0.009	0.031±0.015	0.062±0.007	0.587±0.038
KI5遺物群	52	0.206±0.012	0.064±0.007	0.061±0.004	1.510±0.073	1.213±0.063	0.728±0.036	0.224±0.013	0.044±0.030	0.014±0.001	0.259±0.025
KI8遺物群	46	0.447±0.011	0.148±0.003	0.061±0.004	1.687±0.068	0.487±0.028	0.689±0.042	0.189±0.036	0.038±0.029	0.022±0.001	0.343±0.016
KI8遺物群	48	0.655±0.009	0.151±0.009	0.026±0.001	1.515±0.020	0.332±0.011	0.340±0.011	0.102±0.005	0.051±0.011	0.032±0.001	0.431±0.007
SG遺物群	48	1.668±0.034	0.778±0.038	0.082±0.010	4.106±0.222	2.002±0.114	0.699±0.025	0.133±0.013	0.015±0.019	0.027±0.001	0.553±0.033
OK遺物群	32	1.371±0.074	0.687±0.025	0.061±0.008	3.109±0.161	2.002±0.012	0.270±0.027	0.122±0.014	0.009±0.014	0.027±0.018	0.518±0.021
KJ1遺物群	48	0.347±0.010	0.081±0.002	0.081±0.002	1.885±0.155	0.887±0.038	1.487±0.038	0.187±0.038	0.187±0.038	0.187±0.038	0.187±0.038
KJ2遺物群	46	0.521±0.012	0.122±0.004	0.076±0.011	1.625±0.229	0.872±0.048	0.207±0.048	0.109±0.034	0.040±0.023	0.035±0.004	

表6-5-4 サナブチ川から採取した80個の黒曜石円礫の分類結果

原石群名	個数	百分率	備 考
社名測群	69個	86%	
赤石山群	5個	6.3%	白滝産地赤石山群に一致
八号沢・白土沢群	3個	3.8%	割れ面が梨肌の黒曜石
常呂川第5群	1個	1.3%	
ケショマップ第2群	1個	1.3%	
社名測第2群	1個	1.3%	

表6-5-5 金華地区から採取した20個の黒曜石円礫の分類結果

原石群名	個数	百分率	備 考
社名測群	13個	65%	サナブチ川の社名測群に一致
金華群	3個	15%	十勝三股に似るが一致せず
赤石山群	2個	10%	白滝産地赤石山群に一致
置戸山群	1個	5%	常呂川第2群、常呂川第5群、HS2遺物群に似る
常呂川第5群	1個	5%	

表6-5-6 生田原川支流支線川から採取した19個の黒曜石円礫の分類結果

原石群名	個数	百分率	備 考
社名測群	8個	42%	サナブチ川の社名測群に一致
赤石山群	6個	32%	白滝産地赤石山群に一致
八号沢・白土沢群	2個	10.5%	割れ面が梨肌の黒曜石
あじさい滝群、幌加沢	2個	10.5%	割れ面が梨肌でないもの
金華群	1個	5.3%	十勝三股に似るが一致せず

表6-5-7 生田原川支流大黒沢川から採取した5個の黒曜石円礫の分類結果

原石群名	個数	百分率	備 考
社名測群	5個	100%	サナブチ川の社名測群に一致

表6-5-8 木古内町釜谷10遺跡出土黒曜石フレイクチップの元素比分析結果

分析番号	元 素 比									
	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
127121	0.254	0.069	0.090	2.378	1.020	0.445	0.255	0.075	0.023	0.321
127122	0.253	0.071	0.089	2.301	1.027	0.417	0.260	0.060	0.025	0.355
127123	0.254	0.070	0.091	2.271	0.998	0.391	0.239	0.078	0.025	0.350
JG-1	0.780	0.208	0.072	4.113	0.969	1.260	0.310	0.047	0.031	0.317

JG-1: 標準試料-Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochimical Journal, Vol.8 175-192 (1974)

表6-5-9 木古内町釜谷10遺跡出土黒曜石フレイクチップの産地分析結果

試料番号	器種	調査区	層位	重さ(g)	時代	分析番号	ホテリングのT検定結果	判定	備考
KA10-1	フレイクチップ	O12	IV(3)層	8.1	縄文時代後期	127121	赤井川第1群(96%)、赤井川第2群(76%)	赤井川	角礫
KA10-2	フレイクチップ	O12	IV(4)層	2.41	縄文時代後期	127122	赤井川第1群(97%)、赤井川第2群(88%)	赤井川	
KA10-3	フレイクチップ	O12	IV(1)層	6.95	縄文時代後期	127123	赤井川第1群(73%)、赤井川第2群(67%)	赤井川	

注意：近年産地分析を行う所が多くなりましたが、判定根拠が曖昧にも関わらず結果のみを報告される場合があります。本報告では日本における各遺跡の産地分析の判定基準を一定にして、産地分析を行っています。判定基準の異なる研究方法(土器様式の基準も研究方法で異なるように)にも関わらず、似た産地名のために同じ結果のように思われるが、全く関係(相互チェックなし)ありません。本研究結果に連続させるには本研究法で再分析が必要です。本報告の分析結果を考古学資料とする場合には常に同じ基準で判定されている結果で古代交流圏などを考察する必要があります。

参考文献

- 1) 藁科哲男・東村武信(1975), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(II)。考古学と自然科学, 8: 61-69
- 2) 藁科哲男・東村武信・鎌木義昌(1977), (1978), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(III)。(IV)。考古学と自然科学, 10, 11: 53-81: 33-47
- 3) 藁科哲男・東村武信(1983), 石器原材の産地分析。考古学と自然科学, 16: 59-89
- 4) 東村武信(1976), 産地推定における統計的手法。考古学と自然科学, 9: 77-90
- 5) 東村武信(1990), 考古学と物理化学。学生社

6 釜谷10遺跡出土土器の圧痕調査報告

熊本大学大学院人文社会科学研究所 小畑弘己

I. 対象資料および調査法

1. 調査対象

圧痕調査の対象とした資料は、本遺跡から出土した縄文時代後期前葉の復元土器約60個体分および土器片2785点である。調査は、2017年6月8・9日および6月29・30日の2回にわたって実施した。レプリカを作成したもののうち、種実や昆虫と思われる9点をピックアップし、SEM写真を撮影、同定を行った。

2. レプリカ法の作業手順

本遺跡で行った圧痕調査および調査後の作業手順は、レプリカ作成時に使用したシリコーンゴムにブルーミックスソフト（㈱アグサジャパン製）を使用した以外は、福岡市埋蔵文化財センター方式（比佐・片多 2005）と同じである。

- ① 土器を1点ずつ観察し、植物種実・昆虫・貝などの圧痕の可能性のあるものを肉眼と実体顕微鏡で抽出する。
- ② 圧痕部を水で洗浄し、土器全体写真および実体顕微鏡による圧痕部の拡大写真を撮影する。
- ③ 離型剤（パラロイドB-72 5%アセトン溶液）を圧痕部に塗布し、シリコーンゴム：アグサジャパン株式会社製ブルーミックスソフトを圧痕部に充填する。
- ④ やや硬化したシリコーンゴムをマウント（走査型電子顕微鏡用ピンタイプ試料台）に盛り、圧痕部と接合して硬化させる。
- ⑤ 硬化後、レプリカを取り外し、圧痕部の離型剤をアセトンで洗浄する。
- ⑥ 作製したレプリカを走査型電子顕微鏡（日本電子製JCM-5700型）で観察・撮影・同定する。
- ⑦ デジタルマイクロスコープ（KEYENCE VHX-2000）の2点間計測機能を用いて種実の長さ・幅・厚さを計測する。

II. 調査結果（図6-6-1・2・表6-6-1）

レプリカを作成した10点のうち、9点の種実・貝類の圧痕を確認した。

図6-6-1：1はニワトコ属 *Sambucus* sp. 種子の小核である。背面に丸みのある狭楕円形を呈し、腹面の正中線は鈍稜をなす。側面は半狭楕円形（扁平）である。粗い突起列が認められる。図6-6-1：2は堅果類と思われる果実の皮片である。3は半分に裂けているが、端部に主脈が認められ、葉の破片の裏面側と思われる。長さ7mmほどの小さな葉である。図6-6-1：4は長さ3.4mmほどの丸みを帯びた紡錘形の種実である。端部にやや窪んだ着点があり、アサ果実にも似るが特定できない。図6-6-1：5は長さ3.5mm、直径1mm弱の草本類の茎と思われるものである。表面に縦方向の列状の隆起が認められる。ただし、切断面は平滑であり、茎の特徴を残していない。図6-6-1：6は直径5.5mmほどのカタツムリに似た小巻貝である。図6-6-1：7は直径7.5mmほどでやや窪んだ面をもち、裏面へ向けて円錐状の形態をもつもので、巻貝の蓋と推定した。図6-6-2：8・9は楕円形の体部をもち、先端部に花柱状の突起をもつ。8はその部分が欠損している。ただし、座なども認められずコナラ属やシイ属の種実ではない。種は特定できなかった。

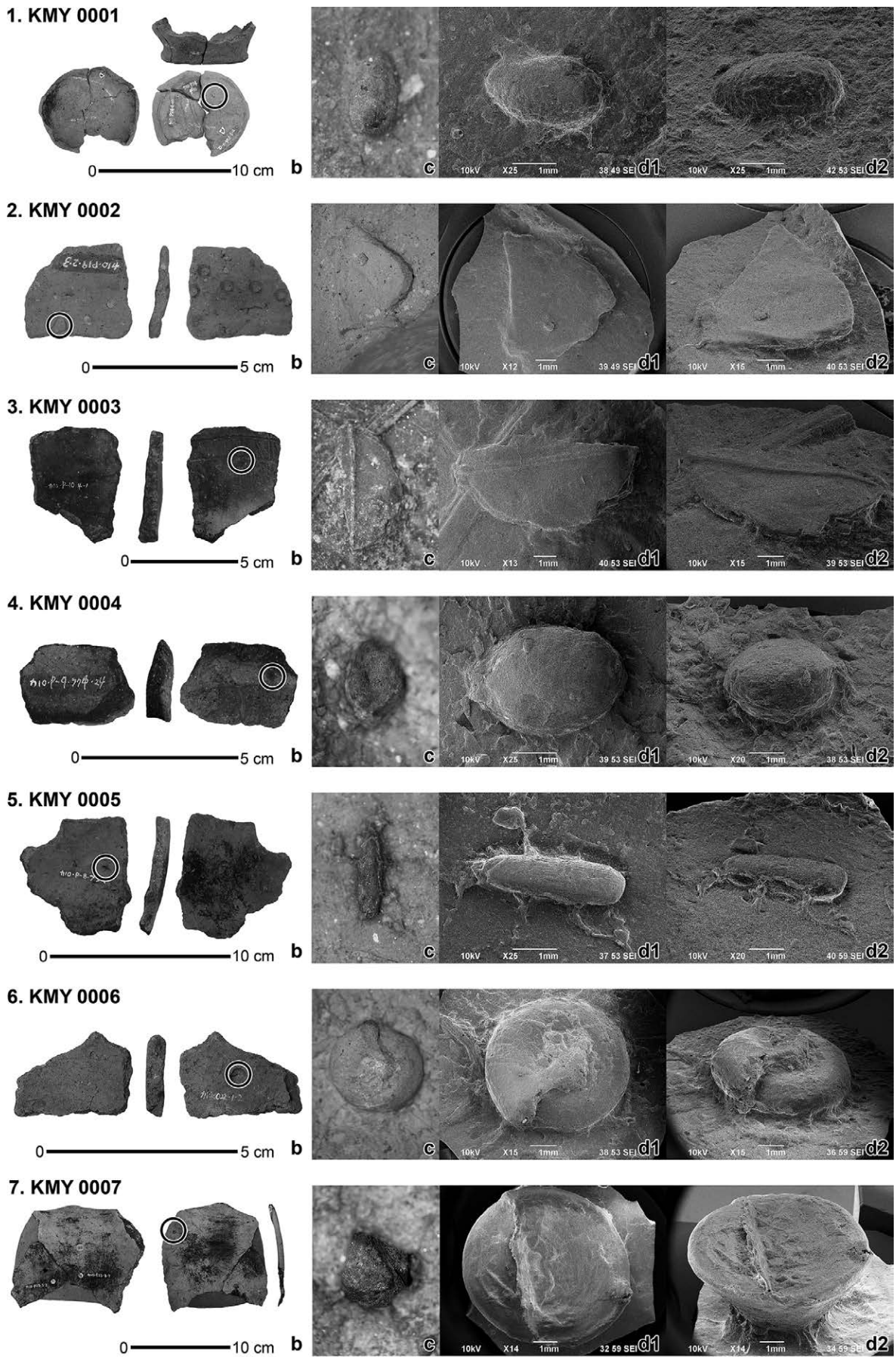
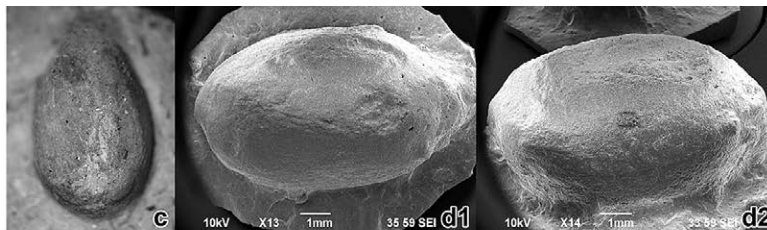
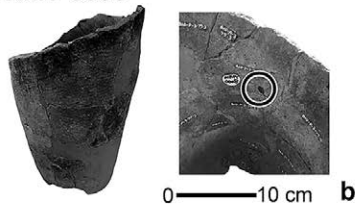


図6-6-1 釜谷10遺跡土器圧痕 レプリカSEM画像1

8. KMY 0008



9. KMY 0009

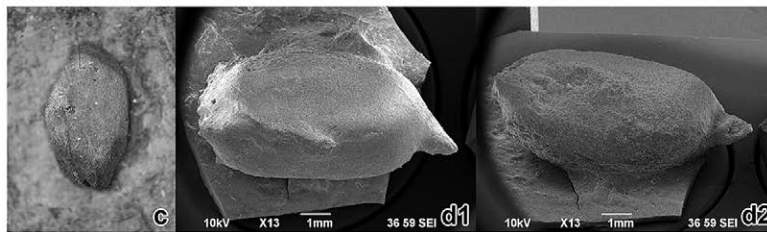
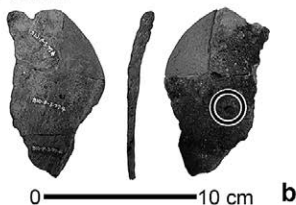


図6-6-2 釜谷10遺跡土器圧痕 レプリカSEM画像2

表6-6-1 釜谷10遺跡から検出した圧痕の属性

図	枝番号	資料番号	注記	出土遺構・層位	精粗	器形	型式/時期	部位	検出面	圧痕の種類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	備考
1	1	KMY 0001	カ10・P24・3・12 カ10・P24・4・10	遺物包含層IV層3 回目・4回目	精	深鉢	縄文後期前葉 (IVa)	底部	外面	不明種実	2.56	1.57	1.20※	
	2	KMY 0002	カ10・P19・2・3	遺物包含層IV層2 回目	精	深鉢	縄文後期前葉 (IVa)	口縁部	内面	堅果類?皮	5.92※	5.55※	0.86	
	3	KMY 0003	カ10・P・10・4・1	土坑P-10遺構確認面 (IV層4回目)	精	深鉢	縄文後期前葉 (IVa)	胴部	外面	葉片	7.34※	3.50※	0.98	
	4	KMY 0004	カ10・P・9・フク中24	土坑P-9覆土中層	精	深鉢	縄文後期前葉 (IVa)	胴部	外面	不明種実	3.43	2.41	1.57※	
	5	KMY 0005	カ10・P・8・フク・1	土坑P-8覆土	精	深鉢	縄文後期前葉 (IVa)	胴部	内面	草本茎?	3.50※	0.99	0.97	
	6	KMY 0006	カ10・022・1・2	遺物包含層IV層1 回目	精	深鉢	縄文後期前葉 (IVa)	胴部	内面	巻貝	5.51	5.50	3.46	
	7	KMY 0007	カ10・P23・3・7	遺物包含層IV層3 回目	精	深鉢	縄文後期前葉 (IVa 涌元式)	胴部	内面	巻貝蓋	7.44	7.30	3.00	図5-6-5
2	8	KMY 0008	カ10・P3・フク・3	土坑P-3覆土	精	深鉢	縄文後期前葉 (IVa 涌元式)	胴部	内面	大型不明種 実	9.01	5.45	3.68	図4-19-5
	9	KMY 0009	カ10・P-3フク4	土坑P-3覆土	精	深鉢	縄文後期前葉 (IVa)	胴部	外面	大型不明種 実	8.50	4.32	4.55	

※は欠損品

Ⅲ. 圧痕調査の成果とその意義

今回の圧痕調査では種実4点と果皮や葉や茎の破片3点の植物圧痕と2点の貝類の圧痕を検出した。うち種を特定できたのは1種のみであった。圧痕調査を実施した土器の量はさほど少なくなかったが、圧痕の検出数は少なく、しかも同期の福島町館崎遺跡(小畑 2017)や青森県三内丸山遺跡(小畑・真邊 2014)と比べ人為的に利用された種が植物ではニワトコ以外は存在しないなど、期待通りの結果にはならなかった。このような遺跡ごとの圧痕組成の質的・量的な差が何を反映しているのか、今後追及していく必要がある。

<引用・参考文献>

- 小畑弘己 2017「館崎遺跡出土土器の圧痕調査報告」『福島町館崎遺跡』, 北海道埋蔵文化財センター 発掘調査報告書333集, 202-212頁
- 小畑弘己・真邊 彩 2014「三内丸山遺跡北盛土出土土器の圧痕調査の成果とその意義」『特別史跡 三内丸山遺跡年報』17, pp. 22-53, 青森県教育委員会
- 比佐陽一郎・片多雅樹 2005『土器圧痕レプリカ法による転写作業の手引き』, 福岡市埋蔵文化財センター

第7章 調査の成果

1 遺構群について

【遺構の性格と分布の特徴】(図4-1・2)

遺構の分布は、南北に細長い調査区内の中央部に集中する。この中央部は標高84~85mの尾根筋上にあたり、その北側と南側は標高82~84mの斜面となる。北側の斜面は傾斜が緩やかで、遺構が2か所、中央部に比べ少ないものの遺物も確認された。南側の斜面は傾斜が急で、遺構はなく、遺物も少ない。

竪穴住居跡は2軒確認された。1軒(H-1)は標高約85mの調査区中央部で確認され、時期は縄文時代後期前葉である。もう1軒(H-2)は調査区北部の緩斜面上で確認され、時期は縄文時代晩期のものである。

土坑は16基確認され、中央部に集中して分布する。時期は全て縄文時代後期前葉である。これらはその規模から4つに分類することができた。直径1.5~2.0mの大型土坑(5基)、径1m前後の中型土坑(2基)、径1m~50cmの小型土坑(6基)、径50cmの柱穴状小ピット(3基)である。また、大型土坑のうち3基はフラスコ状ピットである。これらの分布をみると、柱穴状小ピット及び小~中型土坑の大半が標高85m以上で尾根筋の高い部分に集中する。中~大型土坑群は標高84m前後で、小土坑群よりもやや低い尾根上に立地する。

覆土に大型礫などの遺物を伴う土坑が多いのも特徴の一つである。土坑9か所(P-1・2・3・4・9・10・12・17・18)では覆土上面または覆土中から礫石器や土器個体が出土している。特に土坑P-1では確認面上に全長1m近い大型の加工痕のある礫が出土し、またP-9では確認面上に石斧が直立状態で3点出土した。P-9の覆土中には円錐台形をした加工痕のある礫も出土した。P-1出土の礫とともに花崗閃緑岩製のもので、遺跡周辺に産出しない石が遠方から持ち込まれたものと考えられる。

焼土は27カ所で確認された。縄文時代中期末(F-8)、後期後半(F-27)、晩期(F-23)の3か所以外は年代測定の結果から後期前葉の時期と考えられる。調査区中央部に集中して分布し、規模は大小さまざまであるが、計30~50cmの小型のものが最も多い。50cm~1m程度の大型のものは5カ所あり、丘陵の縁辺部に長径1mの大型のものが見られる。中央部には長径50cmの小型のものが集中する傾向がある。単独で存在するものがほとんどであるが、H-1と重複するF-2、3、P-2と重複するF-20、P-17と重複するF-24、H-2の炉跡と考えられるF-23については住居跡、土坑との関連を考慮する必要もある。

調査区北東部では竪穴住居跡H-2に代表されるように、数は少ないが縄文後期後半から晩期にかけての遺構・遺物も見られることが注目される。中央部と北東部との比較は本章2~4にも触れるが、その間には何らかの境があることも考えられる。

【遺構と炭化種子、炭化材との関係】(図7-1)

焼土中の炭化種子、炭化材についての分析結果からは炭化種子にはクリやオニグルミ、炭化材にはクリ、コナラが確認された。これらが確認された焼土P-3、F-8・12・24・27の分布に偏りはなく、調査区中央部分全体に及んでいる。この結果によると食材としてクリやオニグルミが利用され、燃焼材としてクリ、コナラが利用されていたことが考えられ、生活環境を復元するのに重要な手がかりである。また、同時期の道南地域の遺跡に見られるクリの多用という傾向とも調和し、他遺跡との比較においても重要である。

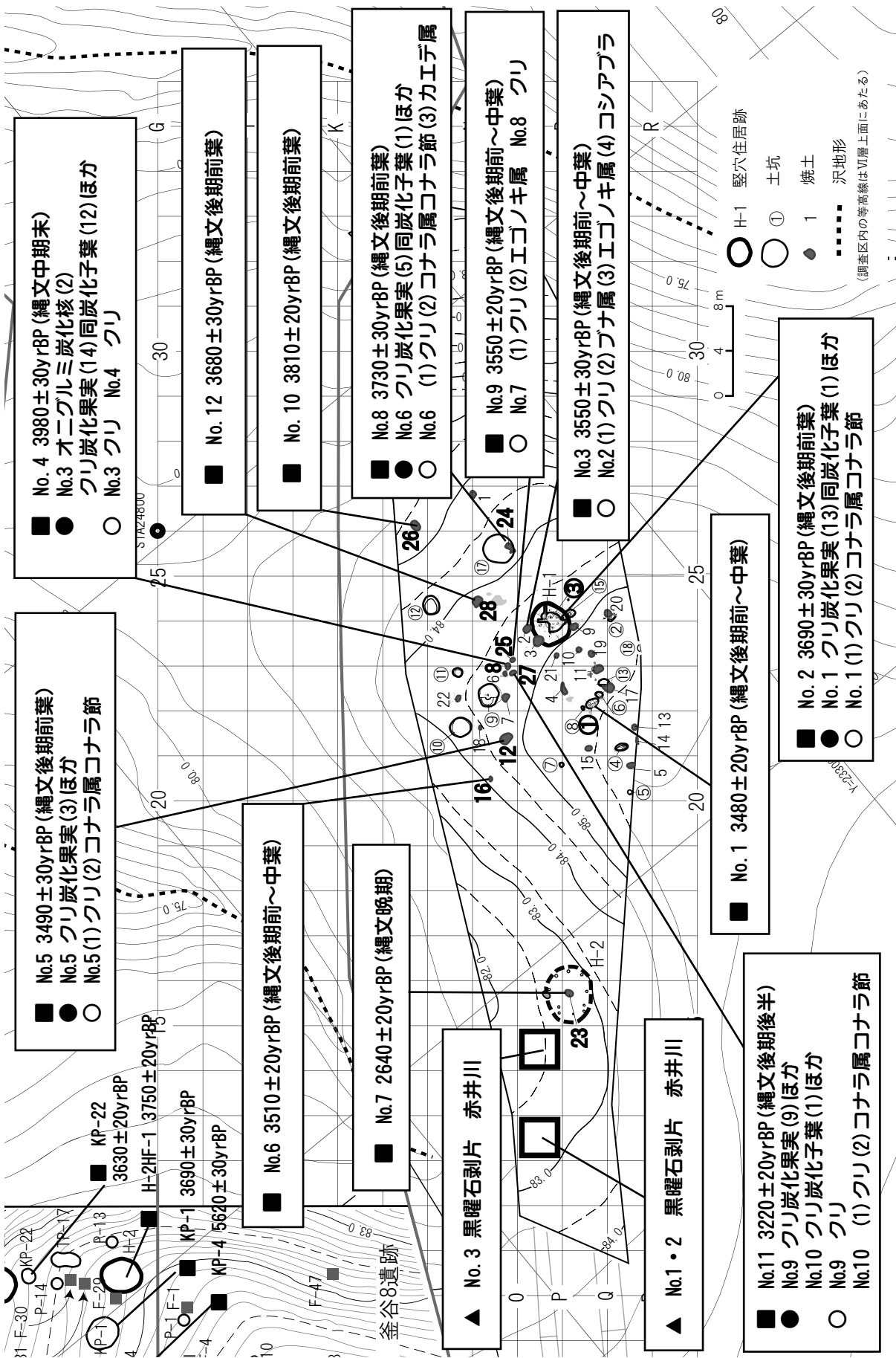


図7-1 主な分析同定特定結果及び対象遺構位置図 (■年代測定 ●炭化種同定 ○炭化材樹種同定 ▲黒曜石原産地分析)

2 土器群について

【出土状況と分布】(図7-4)

土器は33,107点出土し、そのほとんどが縄文時代後期前葉、IV群a類の時期である。出土状態は破片がほとんどであるが、土坑P-17出土の1点(図4-20-15)が完形に近い状態で出土した。復元個体も口縁から底部まで接合したものは数点のみである。

出土分布については、最も多いのが発掘区N25で、約2500点出土し、これを中心にほぼ同心円状の分布となる。圧倒的な差はあるものの分布は調査区北東部にも及ぶ。また、北東部においてのみ後期後半から晩期の遺物が部分的に見られる。

数多くの土器の出土状態または遺構内での出土状況や分布などからは、土器が生活道具としてあった状態よりも廃棄後の状態であることが強く意識された。これは土器片の遺構間接合や離れた出土位置間接合が目立ったことから裏付けられる。接合関係に関わる結果は本章4にまとめた。

【文様構成と変遷】

口縁から底部まで復原できたものは少なかったが、数多くの土器片から貼付帯、折返口縁、縄線文、網目状撚糸文、蛇行沈線文、円形刺突文、入組沈線文など縄文後期前葉を特徴づける様々な文様構成を確認できた。

これらの文様構成については貼付帯に代表されるものが後期前葉では最も古い「天祐寺式」に相当し、縄線文あるいは蛇行沈線文などについては「涌元式」、方形入組文などの沈線文については「トリサキ式」「大津式」の土器型式を特徴づけるものと考えた。

これを隣接する釜谷8遺跡出土の様相と比較すると、釜谷8遺跡の土器には折返口縁、縄線文、網目状撚糸文、円形刺突文などの文様構成が見られ、これらを「涌元式」として位置付けている。先の釜谷10遺跡における文様構成の変遷に沿ってみると、後期初頭に釜谷10に定着し、途中「涌元式」の段階で釜谷8遺跡と共存し、その後再び後期中葉までは釜谷10のみになる。その後、後期中葉に動きは見られず、後期末から晩期にかけては調査区北東部でのみ若干の動きが見られる。

【年代測定結果との比較】(図7-1)

焼土等についての放射性炭素年代測定の結果は、上記の文様構成の変遷を裏付けるものとして考えられた。調査区中央部では最も古い縄文中期末(F-8 3980±30yrBP)にはじまり、後期前葉に相当する3800から3600yrBPと後期中葉にかかる3500~3400 yrBPが最も多く、最も新しいのは後期後半(F-27 3220±20yrBP)になる。その後は調査区北東部に縄文晩期(2640±20yrBP)が見られるという結果である。

3 石器群について

【出土状況と分布】(図7-8)

石器・礫類は17,143点出土した。石器は11,534点で、この内のほとんどが頁岩製の剥片である。石器の分布は発掘区N24で2,000点近く出土したのが最多である。このN24を中心にした同心円状に分布する。

現地での剥片の出土状況は、いくつかのまとまりとして把握することが出来た。その範囲は不明瞭であり、土器や礫なども含まれていたため、結果的には包含層の出土として扱ったが、中でも発掘区M22、N24、O23、O22、Q23、P・Q22には剥片を多く含む遺物の集中地区として見られた。

【剥片の接合作業】

上記剥片集中地区を中心に接合作業を進めた結果、総点数964点が接合し、総重量39,422gとなった。この内母岩として把握できたものは16種で、母岩別の接合資料は93点に及んだ。総重量は23,414

gとなった。

これらのことから、本遺跡では石器製作が行われていたものと考えられる。本章-5で詳述するが、遺跡周辺は石器素材となる頁岩の原産地であり、身近で豊富な資源を背景にこの地で石器製作が行われていたと考えられる。

【石器の出土状況】(図7-4~8)

剥片石器としては石鏃、石錐、つまみ付きナイフ、篋状石器、スクレイパー、両面調整石器、Rフレイク、Uフレイクがあり、礫石器としては石斧、たたき石、扁平打製石器、すり石、台石・石皿がある。器種別の出土分布は調査区中央部を中心に全体的に見られる。

現地調査の段階から気がついていたことであるが、スクレイパーとたたき石は他種に比べると多く見られた。同じく出土点数の多いRフレイクについてはスクレイパーの未成品である可能性が高く、スクレイパーの生産または利用がさらに多かったことも考えられる。遺跡の性格を考えるための手がかりの一つになるものと思われる。

また、石核が多く見られたのも特徴的で、石器が製作された遺跡としての性格を反映するものと考えられる。

遺構との関連においては、土坑P-9における石斧の出土状況を先に記したが、石斧の完形出土は数少ないにかかわらず、調査区北東部の発掘区P13で完形の石斧が3点出土した。遺構の確認はできなかったが、P-9の出土例のように何らかの遺構に伴っていた可能性も考えられる。

【黒曜石製遺物について】

石器11,534点の内、黒曜石製遺物は5点である。この内の2点について原産地同定を行い、赤井川産という結果が得られた。黒曜石製遺物がO12、O13、O15の調査区北東部のみで出土していることも注目される。O12から3点出土したので、ほぼこの周辺に集中していると言える。分類は石錐が1点(図5-11-30)、Rフレイクが1点、剥片が3点である。

4 接合作業の成果(図7-2 表7-2 表5-4)

本遺跡の調査では土器、石器、礫のすべてについて接合作業を行うことが出来た。その結果、遺構間の出土遺物の接合や離れたグリッド間での接合など、遺物の広範囲な動き、各遺構の関係等が明らかになったので整理した。

遺構間における代表的な接合関係は下記のとおりである。

竪穴住居跡H-1と土坑P-9(母岩B接合資料1)

竪穴住居跡H-1と土坑P-10(母岩C接合資料1)

竪穴住居跡H-1と土坑P-12(②土器、母岩B接合資料1)

竪穴住居跡H-1と土坑P-13(①土器)

土坑P-2と土坑P-17(⑩台石・石皿)

土坑P-10と焼土F-12(⑱接合礫)

これらの関係からは、竪穴住居跡H-1が各遺構間接合の中核となる可能性もうかがえる。また、包含層出土の遺物について離れたグリッド間の接合を2グリッド以上離れたものについて抜き出し、表7-2に掲載した。これによるとグリッドN19とO25、M19とO25、O20とN24とN19、P19とM22に見られるような尾根筋を挟んで北側と南側の遺物が接合するという傾向が見られる。

また、これらの特徴的な接合関係が調査区中央部分から南側斜面部に限られることも注目される。北部と中央部との接合関係及び北部内での広範な接合関係が見られないことから、北部と中央部との間には何らかの境界がある可能性も考えられる。

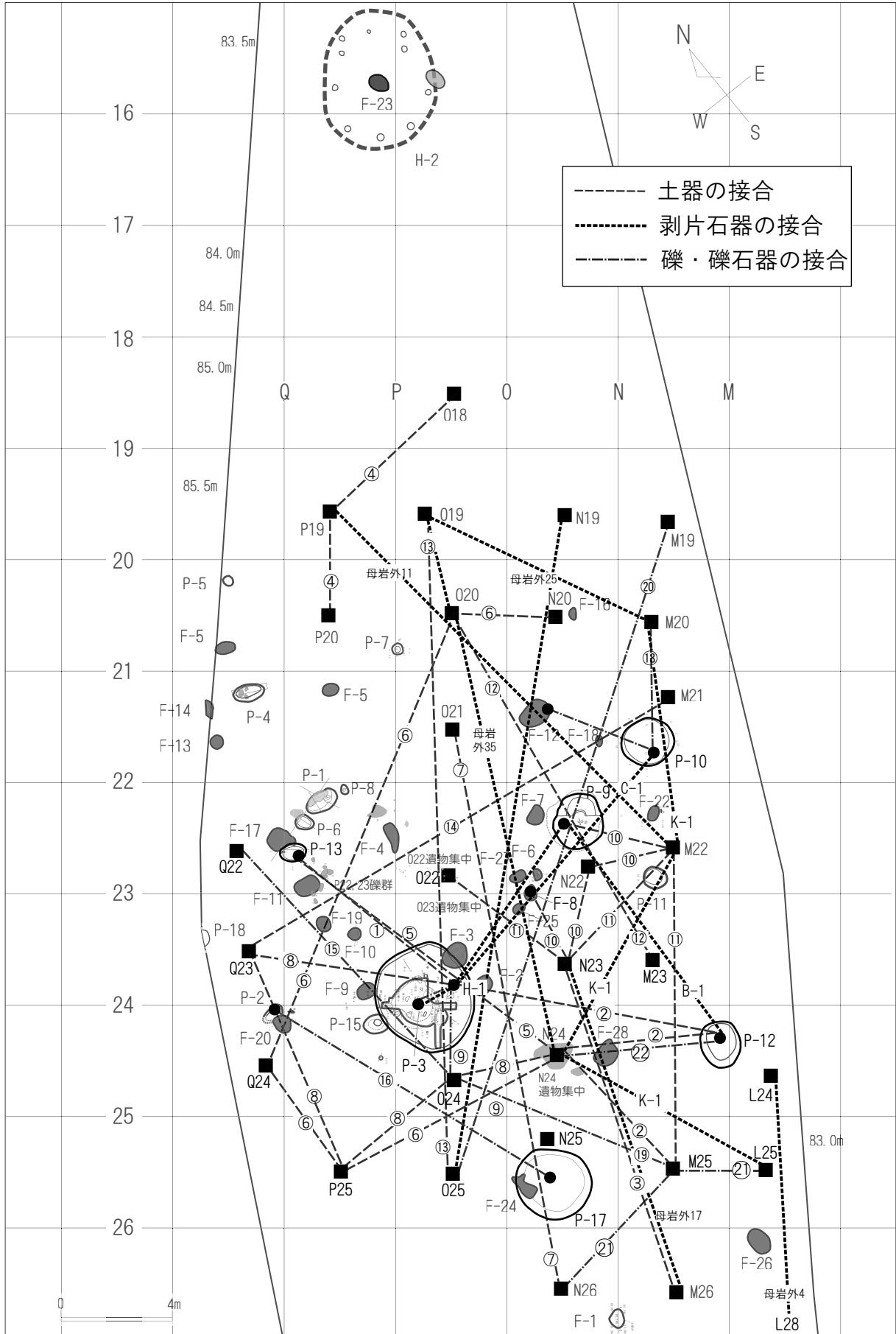


図7-2 特徴的な遺物接合関係図

表7-1 特徴的な接合関係一覧(1)

図7-2 掲載番号	接合 整理番号	種別	遺構 種別	グリッド 遺構名	遺物番号	層位	掘り下げ 回数	グリッド	取り上げ番 号、場所など	日付	大分類	遺物名	分類	細分	点数	部位・石材	備考	
土器の接合																		
①	図4-4-15	遺構	H	H-1	9			O24	C区	2016/7/25	土器類	土器	IVa	IVa	3	口縁		
		遺構	P	P-13	2				P22	トレンチ	2016/9/28	土器類	土器	IVa	IVa	3	口縁	
②	図4-4-13	遺構	H	H-1	12				P23	D区トレンチ3	2016/7/26	土器類	土器	IVa	IVa	1	口縁	
		遺構	P	P-12	3				M24		2016/9/1	土器類	土器	IVa	IVa	2	底部	
		遺構	P	P-03	3				P23	2	2016/9/16	土器類	土器	IVa	IVa	1	底部	原因34記載
		遺構	P	P-03	10				P23		2016/9/22	土器類	土器	IVa	IVa	1	底部	網目状熱糸文
		包含層	M	M25	12		IV	4	M25		2016/9/27	土器類	土器	IVa	IVa	1	口縁	小片多
		包含層	M	M25	14		IV	6	M25		2016/9/28	土器類	土器	IVa	IVa	1	胴部	
		包含層	N	N24	3		IV	1	N24		2016/6/15	土器類	土器	IVa	IVa	1	胴部	
③	図5-5-7	包含層	M	M26	3		IV	2	M26		2016/5/30	土器類	土器	IVa	IVa	1	底部	
		包含層	M	M26	5		IV	3	M26		2016/5/31	土器類	土器	IVa	IVa	1	底部	小片多
		包含層	N	N23	12		IV	2	N23	基本土層ベルト	2016/9/5	土器類	土器	IVa	IVa	1	口縁	
④	図5-5-3	包含層	O	O18	3		IV	2	O18		2016/9/7	土器類	土器	IVa	IVa	1	口縁	
		包含層	O	O19	3		IV	3	O19		2016/9/9	土器類	土器	IVa	IVa	1	口縁	
		包含層	P	P19	2		IV	1	P19		2016/9/14	土器類	土器	IVa	IVa	3	口縁	
		包含層	P	P19	5		IV	4	P19		2016/9/15	土器類	土器	IVa	IVa	1	口縁	
		包含層	P	P20	7		IV	5	P20		2016/7/29	土器類	土器	IVa	IVa	1	口縁	
⑤	図4-20-11	遺構	P	P-13	2				P22	トレンチ	2016/9/28	土器類	土器	IVa	IVa	3	口縁	
		包含層	N	N24	23		IV	7	N24		2016/9/29	土器類	土器	IVa	IVa	2	口縁	
		包含層	N	N24	57		覆土上層	HP-14	N24	38	2016/10/5	土器類	土器	IVa	IVa	3	口縁2	
⑥	図5-3-11	包含層	N	N20	10		IV	1	N20	基本土層ベルト	2016/9/30	土器類	土器	IVa	IVa	2	口縁	
		包含層	N	N24	2		IV	1	N24		2016/6/15	土器類	土器	IVa	IVa	2	口縁 底部	
		包含層	O	O20	6		IV	2	O20		2016/7/29	土器類	土器	IVa	IVa	1	口縁 底部	
		包含層	P	P25	4		IV	2	P25		2016/7/25	土器類	土器	IVa	IVa	1	口縁	
		包含層	Q	Q24			IV	3	Q24		2016/6/3	土器類	土器	IVa	IVa	2	口縁	
⑦	図5-3-12	包含層	N	N26	4		IV	2	N26		2016/6/16	土器類	土器	IVa	IVa	4	口縁	
		包含層	N	N26	6		IV	3	N26		2016/8/26	土器類	土器	IVa	IVa	4	口縁 底部	
		包含層	N	N26	8		IV	5	N26		2016/8/29	土器類	土器	IVa	IVa	3	口縁	
		包含層	N	N26	9		IV	5	N26		2016/8/30	土器類	土器	IVa	IVa	1	胴部	
		包含層	O	O21	6		IV	4	O21		2016/7/13	土器類	土器	IVa	IVa	2	口縁	
		包含層	O	O21	7		IV	5	O21		2016/8/2	土器類	土器	IVa	IVa	1	胴部	
		包含層	O	O21	8		IV	6	O21		2016/8/2	土器類	土器	IVa	IVa	1	底部	
⑧	図4-5-5	遺構	H	H-1	3				O24	トレンチ2 B区	2016/7/25	土器類	土器	IVa	IVa	3	口縁	
		遺構	H	H-1	23				O23	ベルトA	2016/8/10	土器類	土器	IVa	IVa	1	口縁	
		包含層	N	N24	16		IV	1	N24		2016/9/26	土器類	土器	IVa	IVa	1	胴部	
		包含層	N	N24	17		IV	2	N24		2016/9/27	土器類	土器	IVa	IVa	1	口縁	
		包含層	O	O24	10		IV	4	O24		2016/7/7	土器類	土器	IVa	IVa	1	口縁	
		包含層	P	P25	6		IV	4	P25		2016/7/25	土器類	土器	IVa	IVa	3	口縁	
		包含層	Q	Q23			IV	2	Q23		2016/6/22	土器類	土器	IVa	IVa	1	口縁	
⑨	図4-4-14	遺構	H	H-1	26				O23	ベルトC	2016/8/10	土器類	土器	IVa	IVa	1	胴部	
		包含層	N	N25	9		IV	1	N25	基本土層ベルト	2016/9/14	土器類	土器	IVa	IVa	1	胴部	
		包含層	O	O24	10		IV	4	O24		2016/7/7	土器類	土器	IVa	IVa	3	胴部	
⑩	図4-20-3	遺構	P	P-09	20				N22		2016/10/4	土器類	土器	IVa	IVa	1	胴部	斜行縄文 沈線文
		遺構	F	F-08	2				N22		2016/9/30	土器類	土器	IVa	IVa	2	胴部	
		包含層	M	M22	1		IV	上面	M22		2016/5/25	土器類	土器	IVa	IVa	1	胴部	
		包含層	N	N22	3		IV	2	N22		2016/6/21	土器類	土器	IVa	IVa	1	胴部	
		包含層	N	N22	14		IV	4	N22	基本土層ベルト	2016/9/30	土器類	土器	IVa	IVa	1	胴部	
		包含層	N	N22	15		IV		N22	基本土層ベルト	2016/9/30	土器類	土器	IVa	IVa	1	胴部	

表7-1 特徴的な接合関係一覧(2)

図7-2 掲載番号	接合 整理番号	種別	遺構 種別	グリッド 遺構名	遺物番号	層位	掘り下げ 回数	グリッド	取り上げ番 号、場所など	日付	大分類	遺物名	分類	細分	点数	部位・石材	備考	
⑩	図4-20-3	包含層	N	N23	12	IV	2	N23	基本土層ベルト	2016/9/5	土器類	土器	IVa	IVa	1	口縁		
		包含層	N	N23	22	IV	0	N23		2016/9/30	土器類	土器	IVa	IVa	1	口縁		
⑪	図5-6-3	包含層	M	M22	4	IV	2	M22	フレイク集中2	2016/6/6	土器類	土器	IVa	IVa	1	胴部		
		包含層	M	M25	12	IV	4	M25		2016/9/27	土器類	土器	IVa	IVa	1	口縁	小片多	
		包含層	N	N23	2	IV	1	N23		2016/6/16	土器類	土器	IVa	IVa	1	口縁	底部が見られない	
		包含層	N	N23	3	IV	2	N23		2016/6/16	土器類	土器	IVa	IVa	1	口縁		
		包含層	O	O22	9	IV	4	O22		2016/7/15	土器類	土器	IVa	IVa	1	口縁	大片多い	
⑫	図5-9-6	包含層	M	M23	1	IV	上面	M23		2016/5/25	土器類	土器	IVa	IVa	1	口縁	赤彩片あり	
		包含層	M	M23	2	IV	1	M23		2016/6/8	土器類	土器	IVa	IVa	3	口縁		
		包含層	O	O20	5	IV	2	O20		2016/6/28	土器類	土器	IVa	IVa	1	胴部		
⑬	未掲載 接合	包含層	O	O19	2	IV	2	O19		2016/9/9	土器類	土器	IVa	IVa	2	口縁	無文胴部片多い	
		包含層	O	O25	7	IV	5	O25		2016/7/4	土器類	土器	IVa	IVa	1	口縁1 底部2 (小片)		
⑭	未掲載 接合	包含層	M	M21	10	IV	3	M21		2016/8/11	土器類	土器	IVa	IVa	1	底部		
		包含層	Q	Q23		IV	4	Q23		2016/7/12	土器類	土器	IVa	IVa	1	底部		
礫石器の接合																		
⑮	図4-6-10	包含層	Q	Q22	17	1	IV	0	Q22	トレンチ	2016/7/25	石器・礫類	礫	台石・石皿	台石・石皿 片	1	安山岩	
		包含層	O	O24	29		IV	4	O24		2016/9/14	石器・礫類	礫	台石・石皿	台石・石皿 片	1	安山岩	
		遺構	H	H-1	88		覆土中層	H-1 (P-3)	O23	10	2016/10/10	石器・礫類	石器	台石・石皿	台石・石皿 片	1	安山岩	原因33記載
		遺構	P	P-03	8		覆土		P23	4	2016/9/16	石器・礫類	石器	台石・石皿	台石・石皿 片	2	安山岩	
		遺構	P	P-03	21		覆土中層		P23	No4	2016/10/4	石器・礫類	石器	台石・石皿	台石・石皿 片	1	安山岩	原因32記載
⑯	図4-26-5	遺構	P	P-17	10	2	覆土Ⅲ層		N25		2016/10/4	石器・礫類	石器	台石・石皿	台石・石皿 片	1	安山岩	P-2-1と接合
		遺構	P	P-02	1		覆土		Q24	17	2016/7/29	石器・礫類	石器	台石・石皿	台石・石皿 片	1	砂岩	P-17-10-2と接合
礫の接合																		
⑰	礫11	包含層	P	P22	26		IV	0	P22	礫1	2016/8/11	石器・礫類	礫	大礫	大礫片	1	安山岩	礫群
		包含層	P	P22	27		IV	0	P22	礫3	2016/8/11	石器・礫類	礫	大礫	大礫片	1	安山岩	礫群
		包含層	P	P22	28		IV	0	P22	礫4	2016/8/11	石器・礫類	礫	大礫	大礫片	1	安山岩	礫群
		包含層	P	P23	39		IV	0	P23	礫6	2016/8/11	石器・礫類	礫	大礫	大礫片	1	安山岩	礫群
⑱	礫13	遺構	F	F-12	5		覆土		N21	3	2016/10/5	石器・礫類	礫	礫	礫片	2	安山岩	台石片
		包含層	M	M20	4	2	IV	2	M20		2016/7/4	石器・礫類	礫	礫	礫片	1	安山岩	
		包含層	M	M20	19	2	IV	0	M20		2016/10/18	石器・礫類	礫	礫	礫片	1	安山岩	
⑲	礫2	遺構	P	P-10	14		覆土		M21	1	2016/10/3	石器・礫類	礫	大礫	大礫片	1	安山岩	安山岩 アイサイト
		包含層	M	M25	5	6	IV	1	M25		2016/6/10	石器・礫類	礫	小礫	小礫片	1	安山岩	
		包含層	O	O24	2	4	IV	上面	O24		2016/5/25	石器・礫類	礫	小礫	小礫片	1	安山岩	
⑳	礫3	包含層	O	O24	19	5	IV	3	O24		2016/7/5	石器・礫類	礫	小礫	小礫片	1	安山岩	
		包含層	M	M19	2	3	IV	1	M19		2016/9/21	石器・礫類	礫	礫	中礫片	1	安山岩	
㉑	礫4	包含層	O	O25	12	2	IV	4	O25		2016/7/1	石器・礫類	礫	礫	中礫片	1	安山岩	
		包含層	L	L25	26	2	IV	0	L25		2016/9/29	石器・礫類	礫	大礫	大礫片	1	安山岩	
㉒	礫9	包含層	M	M25	11	1	IV	3	M25		2016/6/13	石器・礫類	礫	礫	中礫片	1	安山岩	
		包含層	N	N26	12	2	IV	3	N26		2016/8/26	石器・礫類	礫	小礫	小礫片	1	安山岩	
		包含層	N	N24	94	1	IV	0	N24		2016/10/18	石器・礫類	礫	礫	礫片	1	安山岩	
㉓	礫9	遺構	P	P-12	8	①	覆土上層		M24		2016/9/12	石器・礫類	礫	礫	中礫片	1	安山岩	
		遺構	P	P-12	16		覆土上層		M24	14	2016/9/22	石器・礫類	礫	大礫	大礫片	1	安山岩	接合礫片
剥片石器の接合																		
表5-4 接合資料一覧を参照																		

留意すべきは、これらの遺物と遺構との関係は、遺物が遺構の埋積途中か埋積後のものであることになる。遺構構築時と埋積時とで遺跡の様相が異なることを考慮する必要があるが、今回の接合関係に見られるような本遺跡の遺構埋積時の遺物出土状況は同時期の盛土遺構に似た状況とも考えられる。先に記した石器製作の行われた遺跡としての性格とこの状況とが、縄文後期前葉という時期幅の中でどのように重なるのか今後の課題である。(第7章1～4 藤井)

5 遺跡周辺の石材環境

発掘調査の結果、釜谷10遺跡では頁岩を中心とした多量の石器類が出土した。遺跡の周辺にどのような質の原石がどの程度分布するのかを把握することは非常に重要である。そのため、遺跡周辺の石材環境と遺跡内で消費された石材との関連性を把握することを目的として簡便的な石材調査を行った。

道南地域は先史時代を通じて頁岩地帯と言われるほど石器石材の豊富な地域として捉えられてきた。また、地質図幅を概観しても石材としての頁岩が含まれるであろう泥岩層(桧山層)が域内に広く分布していることが分かる。これまで地域内で様々な石材に関する調査が行われてきた。木古内町でも鈴木(2004)によって、町内全体の河口部を中心とした石材の分布状況が調査されている。しかし、いずれも各河川中での細かな石材の特徴や産状に関しては不明な点が多く、遺跡内で出土した石器との対比は大まかにしか行うことができない現状である。ここではそれらの点に留意し、釜谷10遺跡周辺の沢部を中心とする範囲における石材の産出状況を細かく把握するよう心掛けた。

【調査地点】(図7-3 図版7-1～4)

石材調査を行った河川は、遺跡の南側の沢部が合流するミヤノ沢川と北側の大坪沢川が合流する大釜谷川である。遺跡と近接する沢部との比高差は前者が5m、後者が40m程で、大きな違いが見取れる。ここでは二つの河川を便宜的に以下の範囲に区切って報告する(図7-3)。

1. ミヤノ沢川

- 1-① 釜谷10遺跡南西側の沢(ミヤノ沢川との合流点まで)
- 1-② 釜谷10遺跡2本南西側の沢(ミヤノ沢川との合流点まで)
- 1-③ 釜谷10遺跡南東側の沢(1-①との合流点まで)
- 1-④ 釜谷8遺跡南東側の沢(ミヤノ沢川との合流点まで)
- 1-⑤ ミヤノ沢川中流(1-②との合流点～林道橋まで)
- 1-⑥ ミヤノ沢川下流(林道橋～農道橋付近)

2. 大釜谷川

- 2-① 大坪沢川と大釜谷川の合流点
- 2-② 釜谷8遺跡東側の沢(大釜谷川との合流点まで)
- 2-③ 大釜谷川中流(2-①との合流点～林道橋まで)
- 2-④ 大釜谷川下流(林道橋～農道橋付近)

【調査の方法と評価】

石材調査の方法と評価に関しては沢田・高橋(2015)、中村(2015)を参考とした。今回は比較的流域が短いため、遺跡眼下の沢の他、同様の地質が広がる近隣の沢・小河川に関しても可能な限り調査範囲に含めた。そのため1か所での石材探索に時間をかけることをせず、調査範囲全体について踏査を行い、細かな状況変化の把握に努めた。

産出量の評価については当該石材1個を発見するのに要した時間や次の石材を発見するまでの平均的な距離を目安とし、以下のとおりに分類した。極多量(時間を要しない、1m程)、潤沢(1分程度、5～10m程)、多量(5分程度、50m程)、中量(10分程度、100m程)、少量(30分程度300m程)、

極少量（一時間以上、500m以上）。

大きさに関しては極大（1m）、大（50cm）、中（30cm）、小（10cm）、極小（5cm）に分けた。

形状に関しては円磨度を元に角礫、亜角礫、亜円礫、円礫に分類した。

【調査結果】

踏査の結果、ミヤノ沢川及び大釜谷川においては全体的に続成作用が弱い泥岩質の岩石が主体である。また、河床に泥岩の岩体が露出している場所も少なくない（図版7-4-2）その中で珩質分が高く石器石材として利用可能な頁岩もみられ、以下の5つのタイプに分類可能であった（図版7-1～5）。また、釜谷10遺跡南東側の沢や大釜谷川河口付近では多孔質の安山岩がわずかにみられた（図版7-4-8）。

頁岩Aタイプ：他のタイプより珩化度が高く、硬質、石英脈などによる節理が多く発達している。剥離面は暗灰色～黒色で光沢を持つ。表皮は滑らかで橙色～明褐色。

頁岩Bタイプ：岩石中の珩化度は均一だが、場所によって粗密が異なる。比較的上流部に珩化度の高いものが見られた。節理面は少ない。剥離面は暗灰色～薄い黒色だが珩化度が低いと灰色のものが多い。表皮は平滑で風化した大きな剥離面、褐色で扁平な形状のものが多い。

頁岩Cタイプ：岩石中の珩化度は均一だが、場所によって粗密が異なる。比較的上流部に珩化度の高いものが見られた。節理面は少ない。剥離面は暗灰色～薄い黒色だが珩化度が低いと灰色のものが多い。表皮はあばた状で浅黄橙・灰白・褐灰色などがある。一般にノジュールと呼称されているものと考えられる。

頁岩Dタイプ：珩化度は高く、AタイプとBタイプの間で、石英による脈状の節理がやや発達している。剥離面は褐灰色～薄い黒色。表皮は平滑で青味のある灰白色。

頁岩Eタイプ：均一な珩化度で、節理面が少ない。剥離面は暗灰色～黒色。表皮は平滑で風化した大きな剥離面。黒褐色で扁平な形状のものが多い。

各タイプの頁岩の産状は表7-2のとおりである。全体的に頁岩Aタイプが豊富に見られることが判明した。しかもこれらは河口部まで大型の形状を保っており現地において最も発見しやすい状況であった。しかし節理が発達する部分が多く大型のため、そのままでは石器石材として適していない。分割等により不純物のない均一に珩質化した部位が適度な大きさで得られれば十分素材となり得るものである。また頁岩B・Cタイプは、採取した段階ですでに石器石材として適しており、釜谷10遺跡南西の沢（調査範囲1-①）に最も産出することが判明した。これに対し釜谷10遺跡の南東側の3本の沢（調査範囲1-③・④、2-②）では調査範囲1-①の沢に近接する場所にもかかわらず、頁岩Aタイプが少量しか採取できず、頁岩B・Cタイプについてはほとんど採取できないことが判明した。

大釜谷川では特に下流域で多様な原石が採取可能で、少量であるが頁岩D・Eタイプや安山岩などが採取可能である。全体的に頁岩Aタイプが多く確認されており、調査範囲1-①で見られたような頁岩B・Cタイプは少ない。釜谷10遺跡の北側を流れる大坪沢川全体の調査はできなかったが、本流との合流点において（2-①）、頁岩Aタイプが調査範囲全体の中で最も濃密に確認されている。

これらのことから同様の地域でも地点によって頁岩の産出状況が異なることが確認できた。特に石器石材に適している頁岩A・B・Cタイプが多く産出する沢の源流部に釜谷10遺跡が立地していることは注目され、釜谷8遺跡とともに、このような場所に遺跡が立地した要因の一つとして指摘することができる。今後は遺跡内で利用される石材とのさらなる関連性を把握することが重要である。

（第7章5 直江）

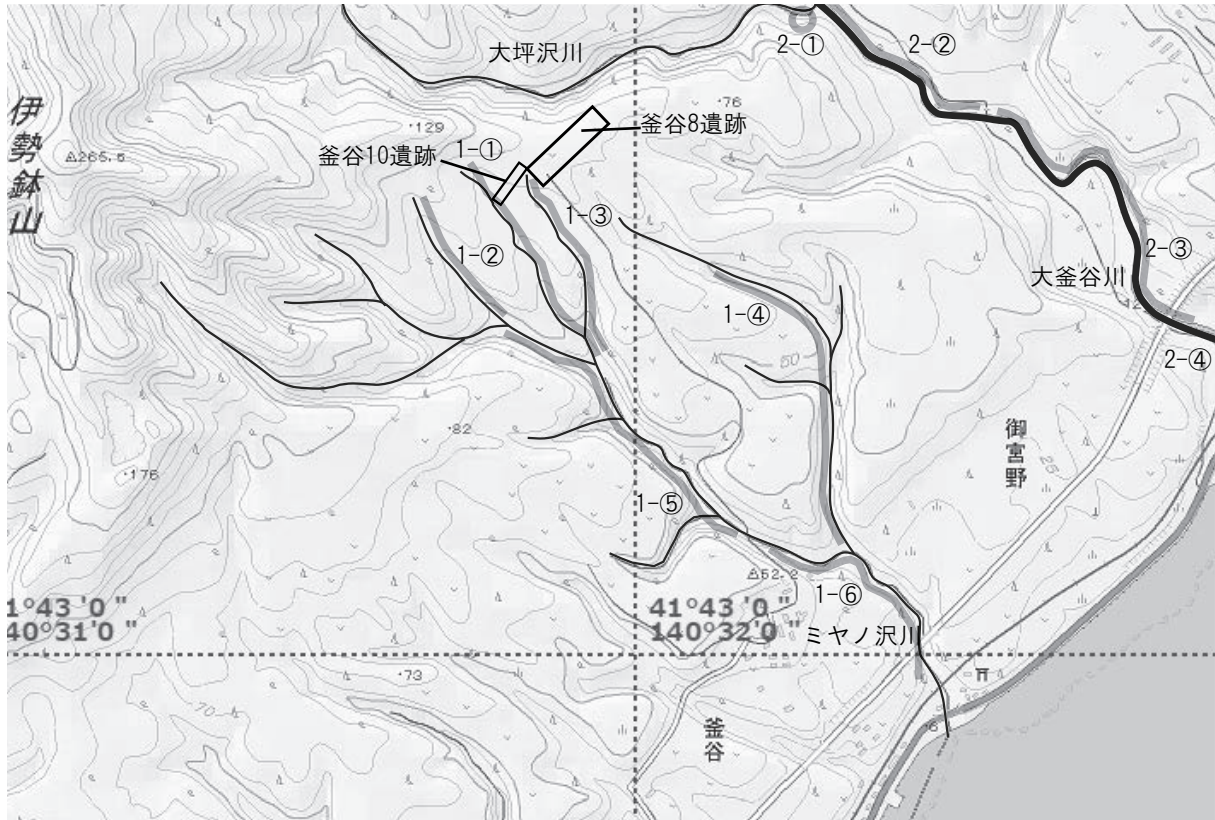


図7-3 石材の調査地点

表7-2 石材の産出量と形状の状況

原石形状/地点	1						2			
	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④
産出量	潤沢	潤沢	少量	少量	潤沢～多量	多量	極多量	多量(合流点)	潤沢～多量	多量
頁岩A 大きさ	極大～大	極大～大	大	大～中	大	大～中	大～中	中	極大～大	大
形状	亜角～亜円	亜角～亜円	亜角	亜角～亜円	亜角～亜円	亜円	亜円	亜角～亜円	亜円	亜円
産出量	多量～中量	少量	なし	極少量	少量	極少量	少量	極少量(珪化低)	なし	極少量
頁岩B 大きさ	中～小	中～小	-	小	中～小	中～小	中～小	中	-	小
形状	角～亜角	角～亜角	-	亜角	亜角	亜角	亜角	角	-	亜角
産出量	中量～少量	少量	なし	なし	少量	極少量	なし	なし	なし	少量
頁岩C 大きさ	中～小	中～小	-	-	小	小	-	-	-	小
形状	亜円～円	亜円～円	-	-	円	円	-	-	-	亜角
産出量	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	少量	極少量
頁岩D 大きさ	-	-	-	-	-	-	-	-	大	中
形状	-	-	-	-	-	-	-	-	亜円	亜円
産出量	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	中量
頁岩E 大きさ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	小
形状	-	-	-	-	-	-	-	-	-	亜角
産出量	なし	なし	極少量	なし	なし	なし	なし	なし	中量	中量
安山岩 大きさ	-	-	小	-	-	-	-	-	中	中
形状	-	-	円	-	-	-	-	-	亜円	亜円～円



1 調査範囲1-①釜谷10遺跡南東側



2 調査範囲1-①



3 調査範囲1-①頁岩Aタイプ



4 調査範囲1-①頁岩B・Cタイプ



5 調査範囲1-①頁岩B粗粒タイプ



6 調査範囲1-①頁岩Cタイプ



7 調査範囲1-①頁岩Cタイプ

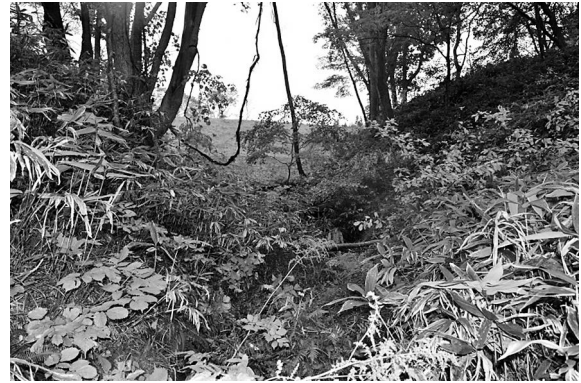


8 調査範囲1-②高規格道路下流部

図版7-1 石材の産出量と形状の状況(1)



1 調査範囲1-②頁岩タイプA



2 調査範囲1-③高規格道路下流部



3 調査範囲1-③頁岩Aタイプ



4 調査範囲1-④



5 調査範囲1-④頁岩Aタイプ



6 調査範囲1-⑤



7 調査範囲1-⑤頁岩Aタイプ



8 調査範囲1-⑤頁岩Bタイプ

図版7-2 石材の産出量と形状の状況(2)



1 調査範囲1-⑤頁岩Cタイプ



2 調査範囲1-⑥



3 調査範囲1-⑥農道橋付近



4 調査範囲1-⑥頁岩Aタイプ



5 調査範囲2-①



6 調査範囲2-①



7 調査範囲2-①頁岩Aタイプ

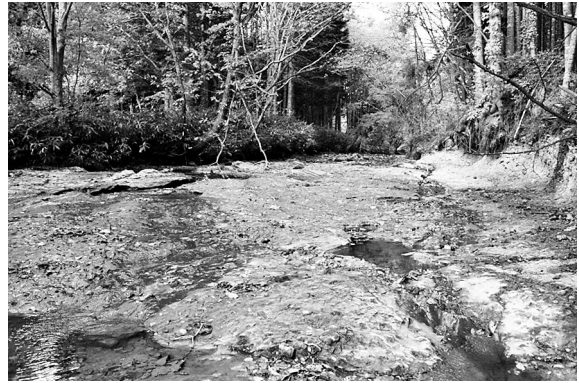


8 調査範囲2-③

図版7-3 石材の産出量と形状の状況(3)



1 調査範囲2-③頁岩 Aタイプ



2 調査範囲2-④



3 調査範囲2-④農道橋付近



4 調査範囲2-④頁岩 Aタイプ



5 調査範囲2-④頁岩 Cタイプ



6 調査範囲2-④頁岩 Dタイプ



7 調査範囲2-④頁岩 Eタイプ



8 調査範囲2-④安山岩

図版7-4 石材の産出量と形状の状況(4)

	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
L												29	58	64	420	817	357	76	2				
M								2	22	77	752	849	911	781	886	2616	1723	226	20		9		20
N				15	83	185	160	31	164	109	1202	1135	577	2163	4862	1589	709	82	2	96		1	
O	6	157	239	128	68	132	890	72	132	250	1140	604	740	1091	2504	1232	578	40	86	32	32		
P	35	133	114	16	26	86	78	22	113	890	936	739	922	838	1032	583	662	194	35	15	17		
Q	19	25	7			5	15	0	8	271	277	293	581	559	293	129	46						

包含層出土遺物合計点数分布

	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
L												16	37	38	332	628	250	52					
M								2	17	58	547	525	639	621	732	2077	1195	164	13		2		1
N				2	16	114	51	12	72	69	839	795	346	1551	2583	1161	508	58	1	57			
O	3	24	151	35	24	43	74	22	73	153	796	345	573	739	1872	909	449	23	26	15	3		
P	15	8	17	3	5	22	38	16	84	575	655	530	375	561	657	384	377	112	12	9			
Q	7	14					5	5	6	224	188	194	335	396	187	81	24						

包含層 土器点数分布

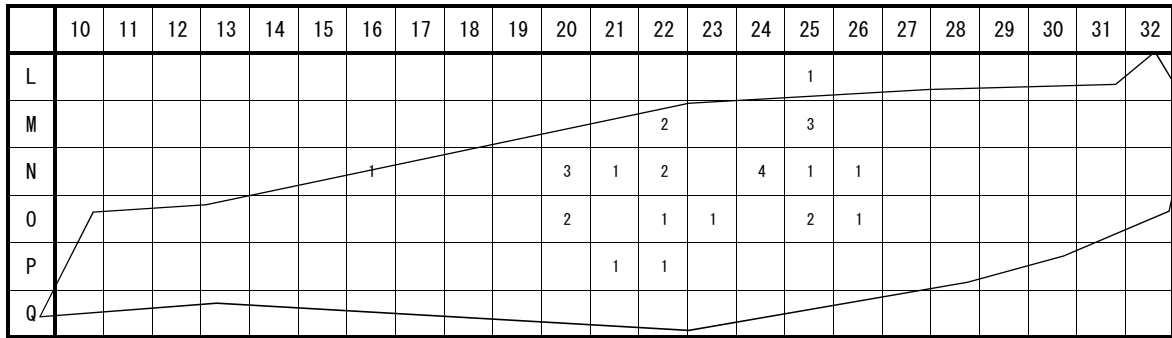
	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
L												6	21	19	42	132	60	15	2				
M									2	12	124	214	195	91	108	379	210	39	7		6		19
N				11	41	39	80	13	21	26	251	248	166	347	1889	284	109	13	1	34		1	
O	3	112	59	68	38	60	313	4	34	64	259	210	124	247	392	235	81	10	58	16	25		
P	18	86	79	10	9	21	15	5	10	214	179	153	483	189	273	151	92	29	10	4	17		
Q	7	8	6			5	2	2	1	34	69	73	196	135	73	41	4						

包含層 石器出土点数分布

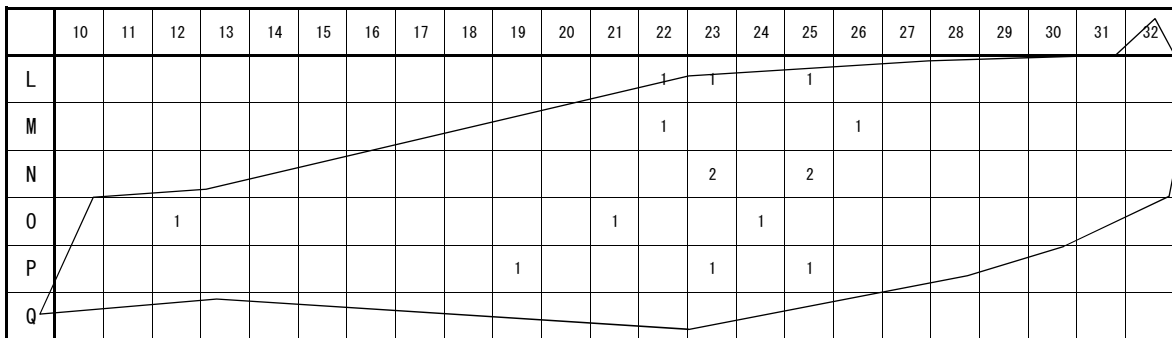
	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
L												7		7	46	57	47	9					
M									3	7	79	95	75	64	46	159	85	19			1		
N				2	26	32	29	6	71	14	112	92	65	265	390	144	91	11		5			
O		21	29	25	6	29	503	46	25	33	85	49	42	106	236	87	47	7	2	1	4		
P	2	39	18	3	12	43	25	1	19	101	101	55	64	88	102	47	193	53	13	2			
Q	5	3	1				8	1	1	13	20	22	49	27	34	7	16						

包含層 礫出土点数分布

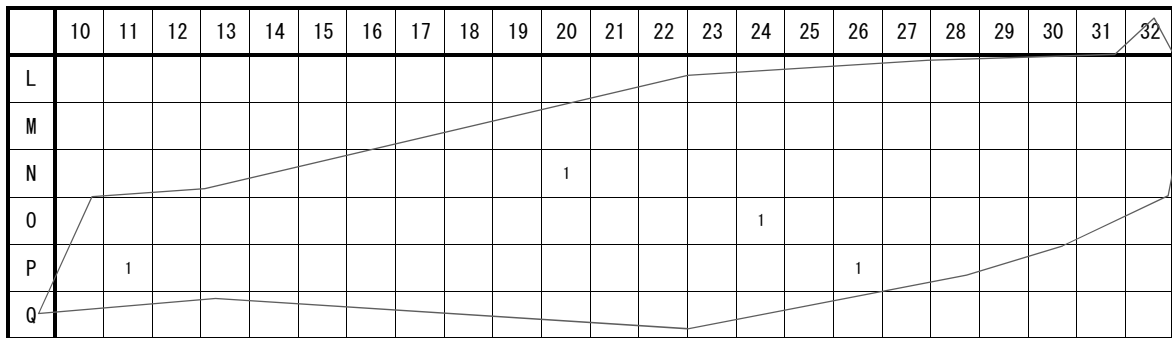
図7-4 発掘区出土遺物分布(1)



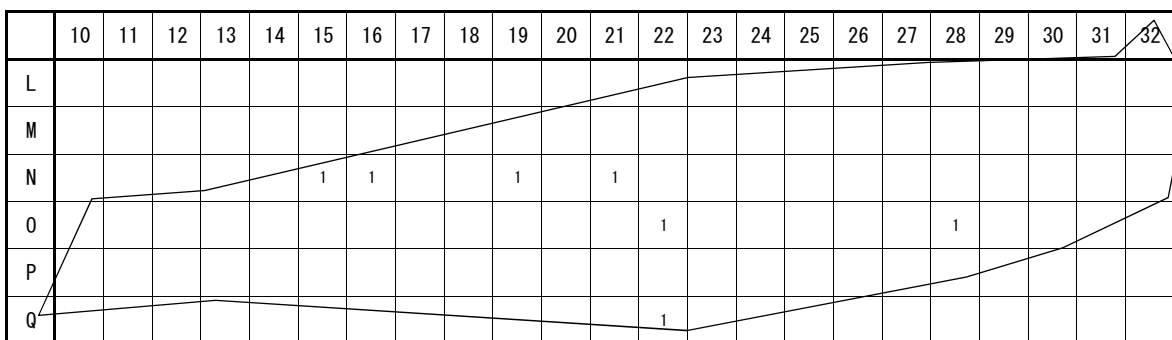
包含層 石鏃出土点数分布



包含層 石錐出土点数分布

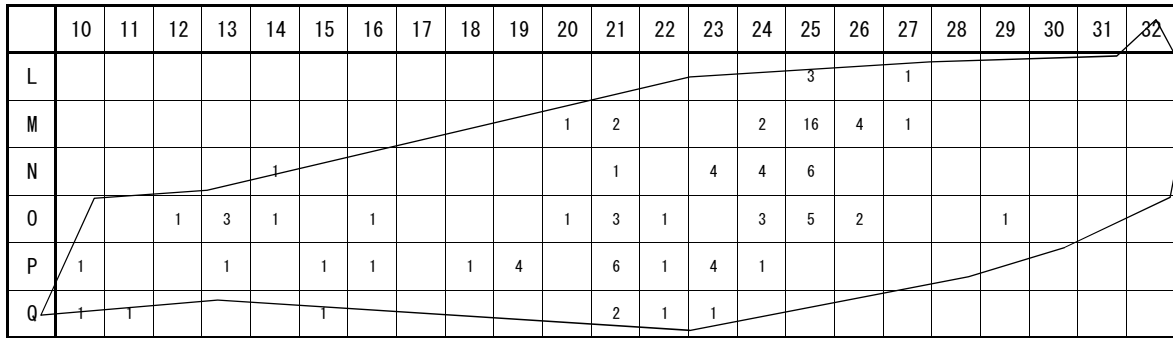


包含層 つまみ付きナイフ点数分布

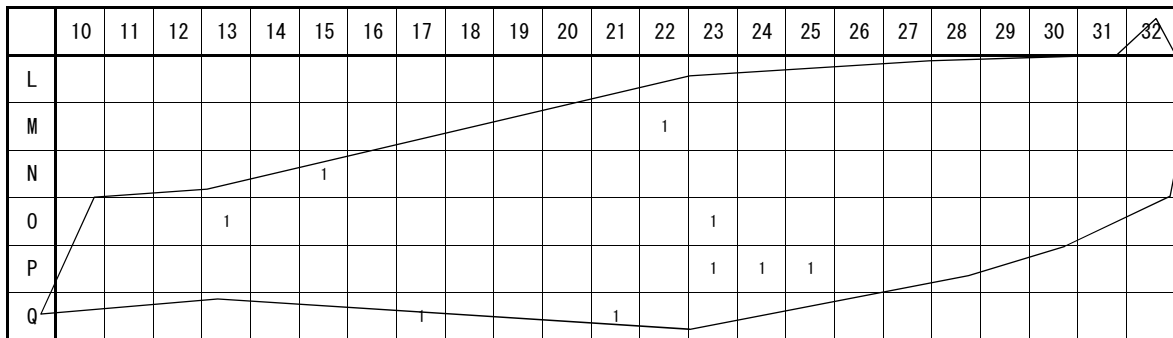


包含層 篋状石器出土点数分布

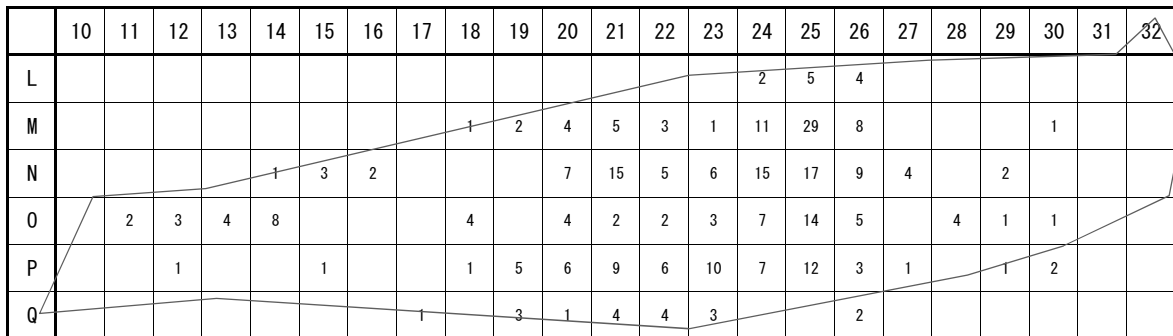
図7-5 発掘区出土遺物分布(2)



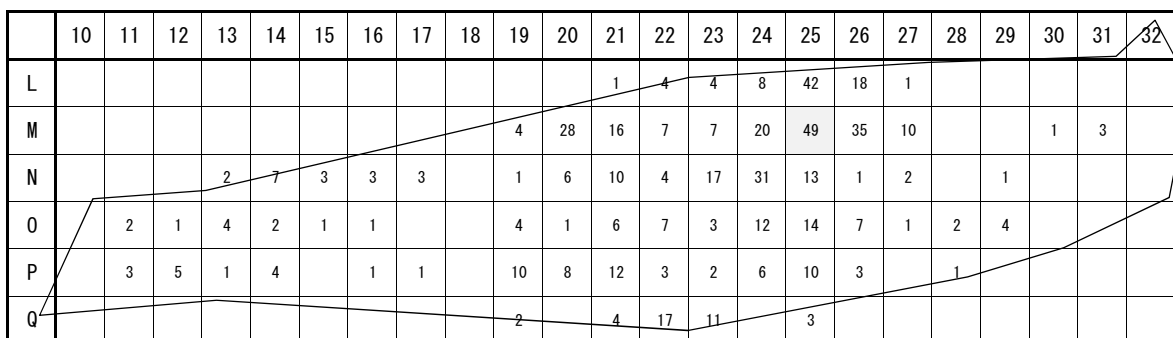
包含層 スクレイパー出土点数分布



包含層 両面調整石器 出土点数分布

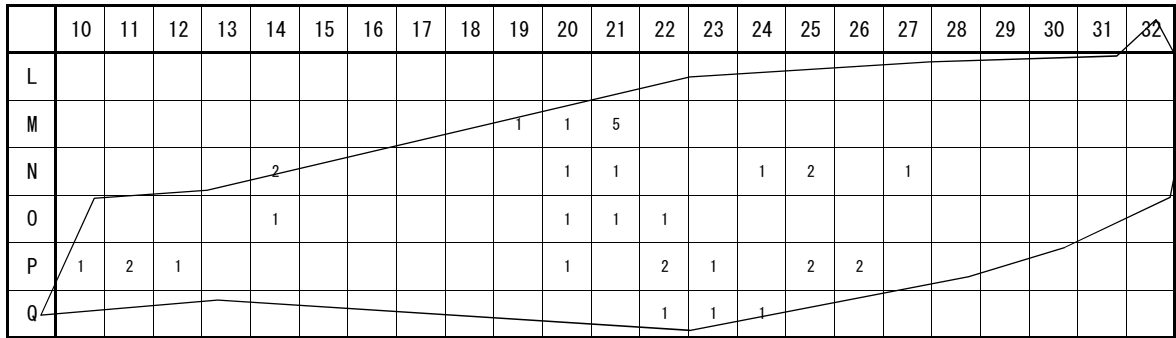


包含層 Rフレイク出土点数分布

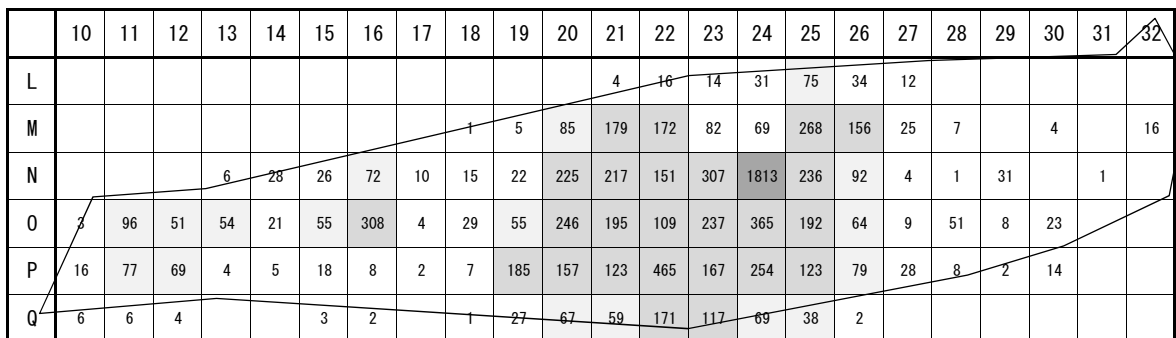


包含層 Uフレイク出土点数分布

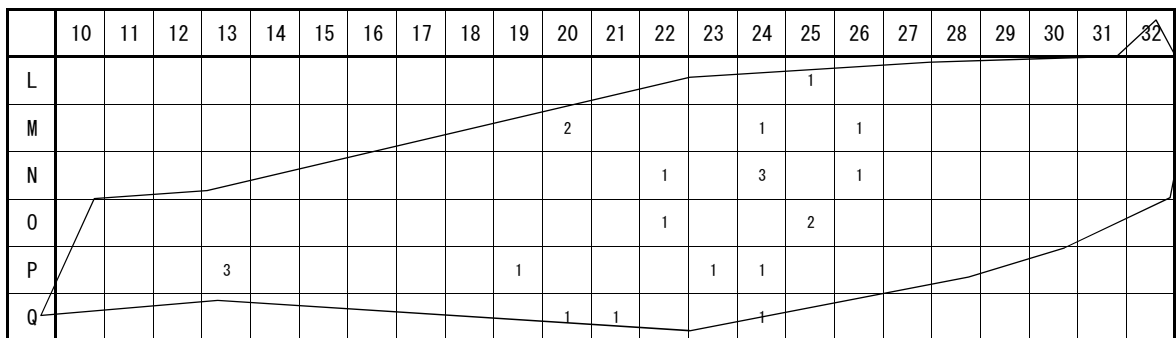
図7-6 発掘区出土遺物分布(3)



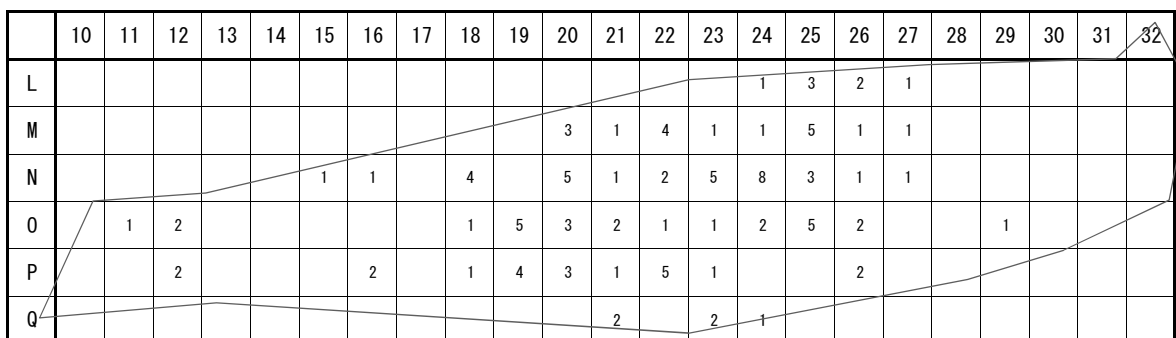
包含層 石核出土点数分布



包含層 剥片点数分布

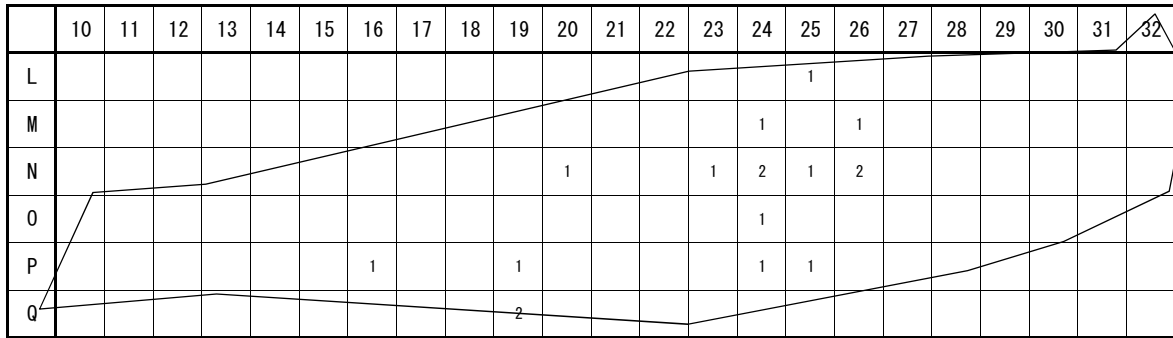


包含層 石斧出土点数分布

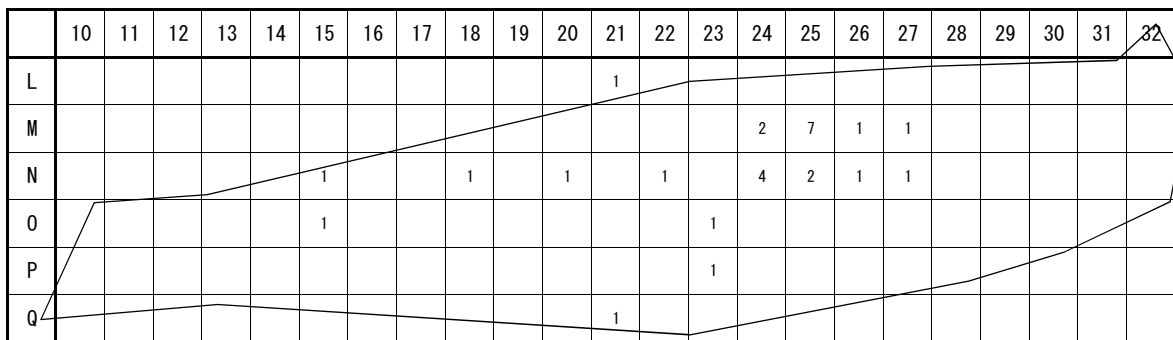


包含層 たたき石出土点数分布

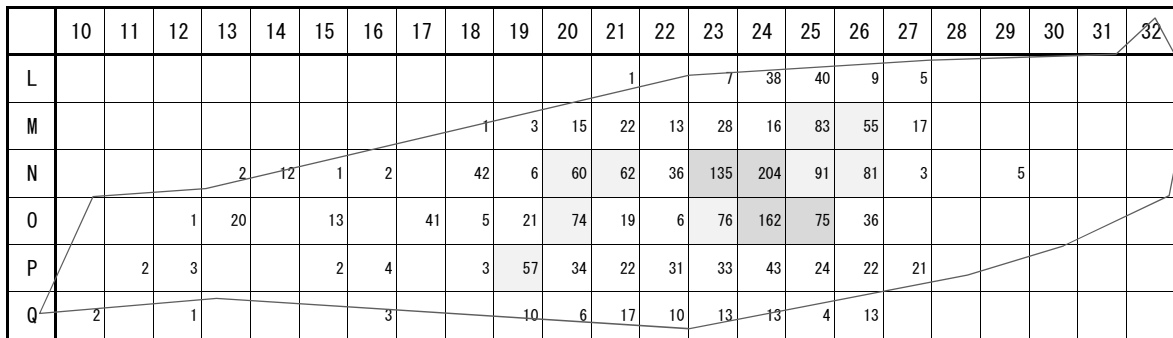
図7-7 発掘区出土遺物分布(4)



包含層 すり石出土点数分布



包含層 台石・石皿出土点数分布



包含層 礫（円礫）出土点数分布

図7-8 発掘区出土遺物分布(5)

引用参考文献

【引用文献】

(第3章)

註1 図3-1は農林水産省ホームページ 都道府県施肥基準 新潟県における土づくりのすすめ方
1、土壤の基礎知識から引用作成したものである。

(第5章)

註1 「手法A・B」については、北埋調報312集『北斗市押上1遺跡』の分類に倣ったものである。
手法Aは口縁部などに貼付帯が横環し、貼付帯上の縄文と胴部地文の縄文とが羽状縄文を構成する施文方法を言う。

註2 手法Bは口縁部で原体が横回転、胴部では同じ原体が縦回転するなどして、羽状縄文が構成される施文方法を言う。

(第7章5)

註2 菅野修広2004「北海道噴火湾沿岸における縄文時代の生業と集落の関係について」『北海道考古学』第40輯

沢田敦・高橋春栄 2015「阿賀野川水系三川地域の珪質頁岩産地」『第29回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』69～74頁

鈴木正語 2004「木古内町における河川の川原礫について」『故石本省三氏追悼論集 土・酒・海・山』46～50頁

中村由克 2015「珪質頁岩の産地と採集他の研究法」『第29回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』85～88頁

山田和史 2005「細石刃石器群前半期の石材獲得戦略 一特に北海道西部の頁岩原産地について一」『Aru:k』第1号65～78頁

【参考文献】

(報告書)

『コタン温泉遺跡』1992 八雲町教育委員会

『釜谷4遺跡 南渡島地区広域営農団地農道整備事業に伴う発掘調査報告書』1991 木古内町教育委員会

『釜谷5遺跡 南渡島地区広域営農団地農道整備事業に伴う発掘調査報告書2』1995 木古内町教育委員会

『釜谷遺跡 南渡島地区広域営農団地農道整備事業に伴う発掘調査報告書』1999：木古内町教育委員会

『大釜谷3遺跡 南渡島地区広域営農団地農道整備事業に伴う発掘調査報告書』2003 木古内町教育委員会

北埋調報305集 『木古内町釜谷8遺跡』2014 公益財団法人北海道埋蔵文化財センター

北埋調報312集 『北斗市押上1遺跡』2015 公益財団法人北海道埋蔵文化財センター

北埋調報208集 『森町濁川左岸遺跡-A地区-』2004 財団法人北海道埋蔵文化財センター

(論文等)

鈴木克彦 2001『北日本の縄文後期土器編年の研究』雄山閣

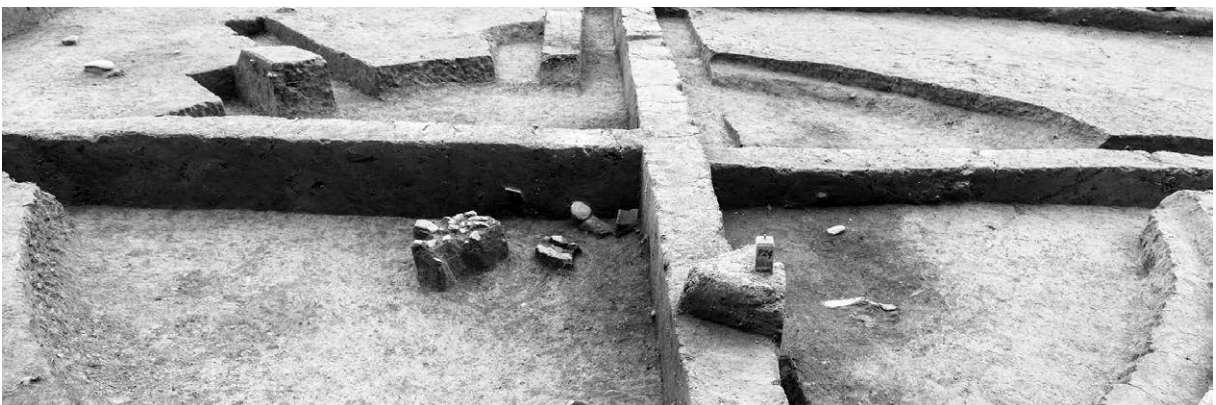
写真図版



1 覆土中遺物出土状況 (SW →)



2 土層断面 (A-B) (SW →)



3 土層断面 (C-D) (NW →)



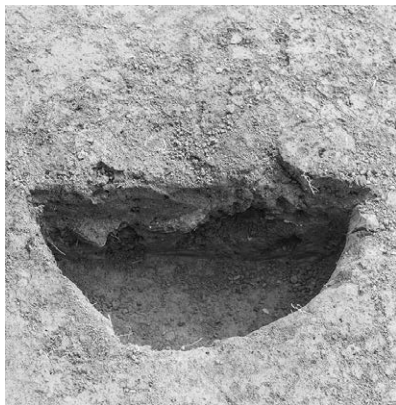
1 完掘状況 (SW →)



2 床面上遺物出土状況 (SW →)



3 HP-1 土層断面 (SE →)



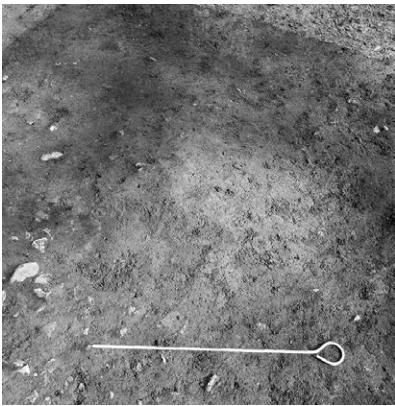
4 HP-3 土層断面 (SE →)



5 HP-4 土層断面 (SE →)



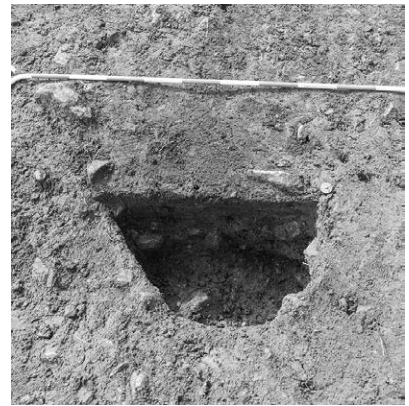
1 完掘状況 (S →)



2 F-23 (H-2 炉跡) 確認 (SW →)



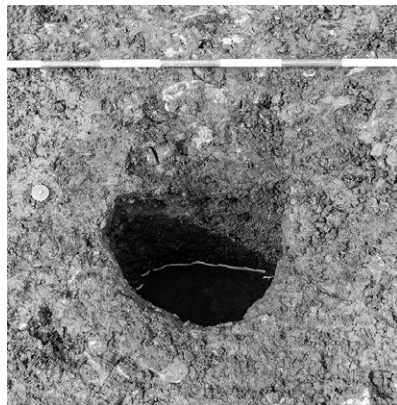
3 F-23 (H-2 炉跡) 土層断面 (S →)



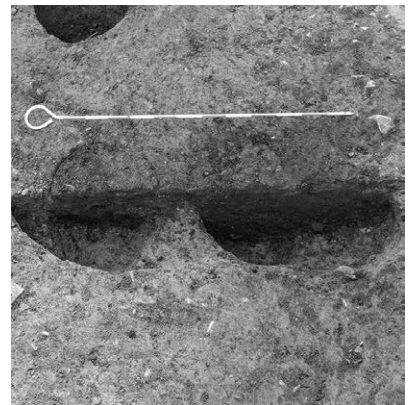
4 HP-3 土層断面 (NE →)



5 HP-5 土層断面 (SE →)



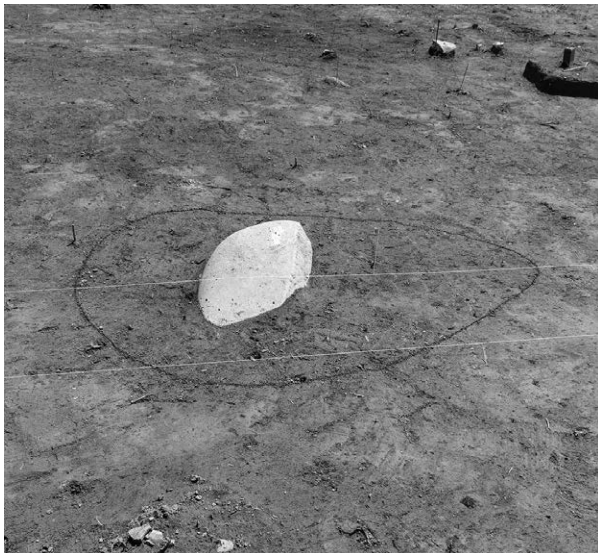
6 HP-7 土層断面 (SE →)



7 HP-10 土層断面 (E →)



1 土坑 P-1 土層断面及び遺物出土状況 (SE →)



2 土坑 P-1 確認状況 (W →)



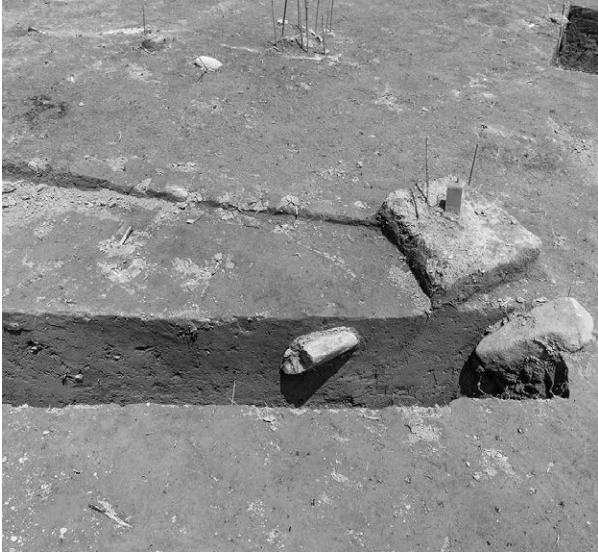
3 土坑 P-1 完掘状況 (S →)



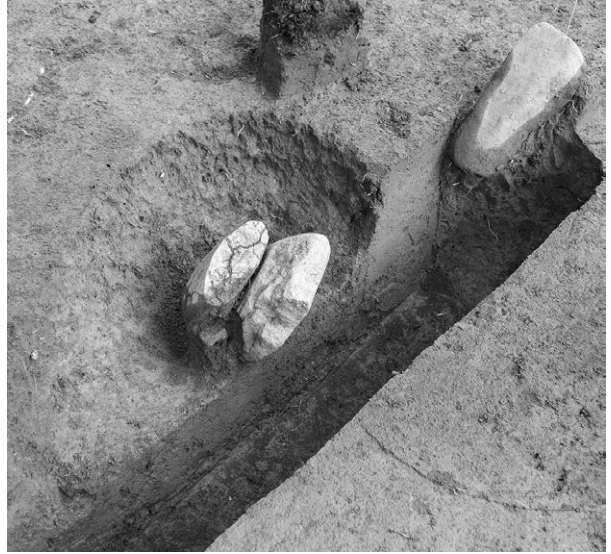
4 土坑 P-5 土層断面 (SE →)



5 土坑 P-5 完掘状況 (SE →)



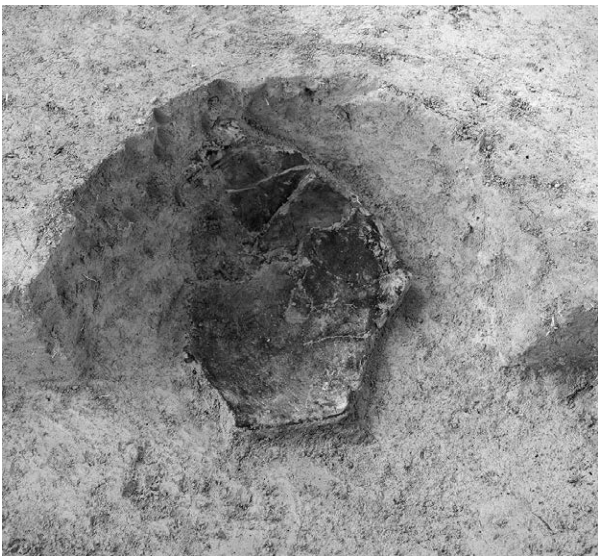
1 土坑 P-2 確認状況 (SW →)



2 土坑 P-2 遺物出土状況 (W →)



3 土坑 P-2 完掘状況 (SW →)



4 土坑 P-7 遺物出土状況 (SE →)



5 土坑 P-7 完掘状況 (SE →)



1 覆土上層遺物出土状況 (SE →)



2 土層断面、遺物出土状況 (N →)



3 焼土及び土層断面 (NE →)



4 覆土中層遺物出土状況 (NE →)



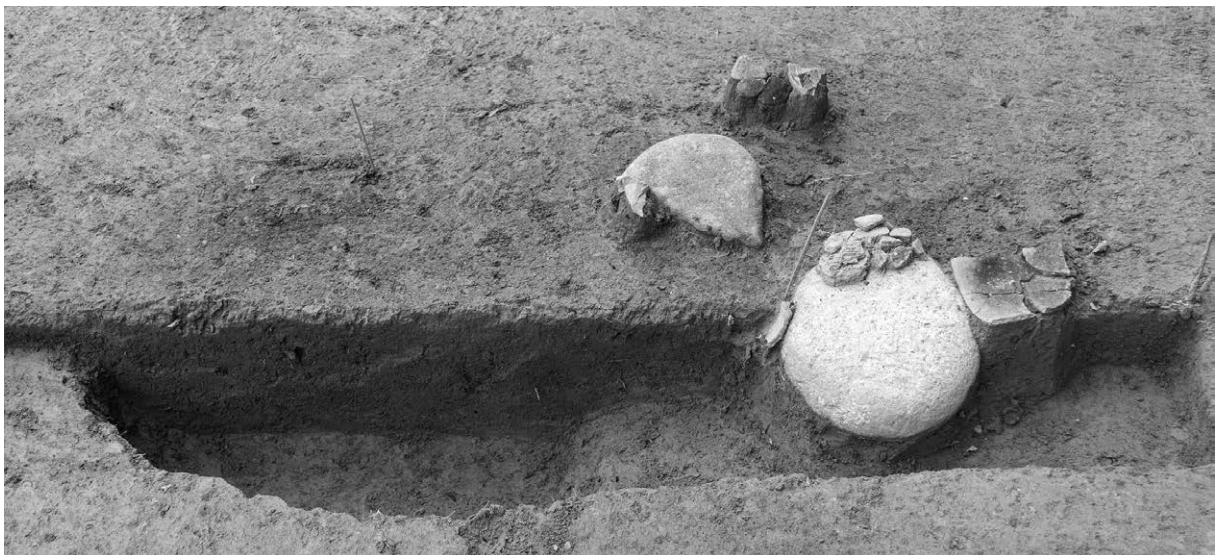
5 完掘状況 (NW →)



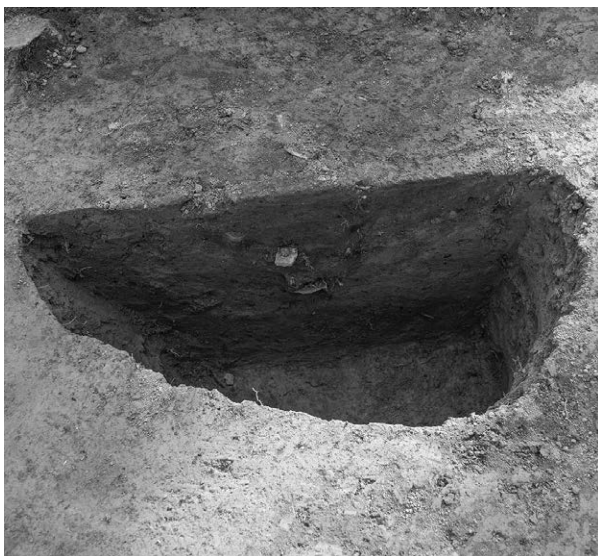
1 土坑 P-4 確認状況 (NE →)



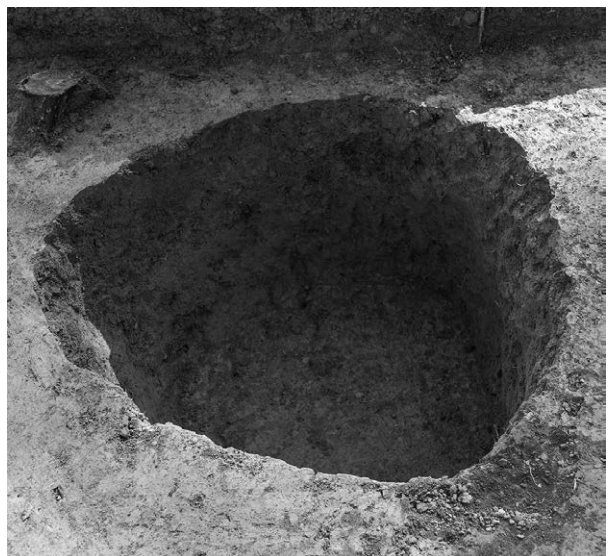
2 土坑 P-4 完掘状況 (SE →)



3 土坑 P-4 遺物出土状況及び土層断面 (NE →)



4 土坑 P-11 土層断面 (NE →)



5 土坑 P-11 完掘状況 (NE →)



1 確認状況 (NE →)



2 確認面石斧出土状況 (S →)



3 覆土上層遺物出土状況 (SW →)



4 覆土下層遺物出土状況 (SW →)



5 土層断面 (SW →)



6 完掘状況 (W →)



1 遺物出土状況 (1) (NE →)



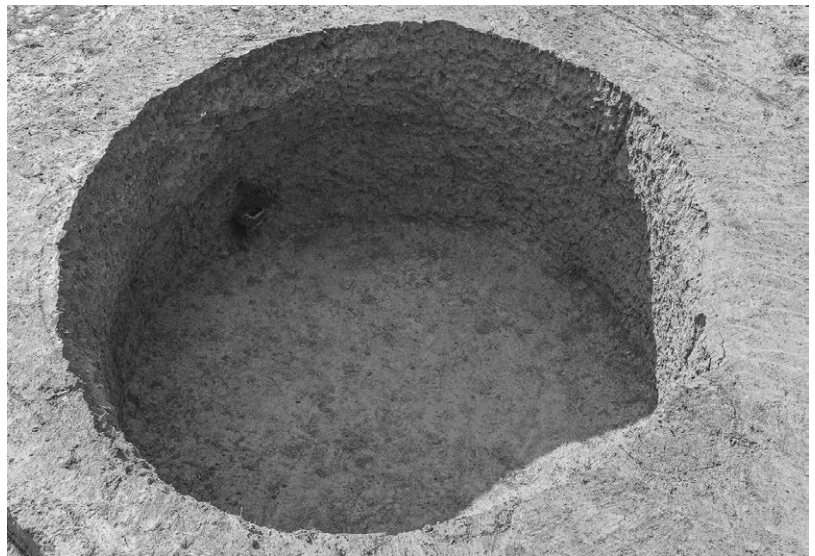
2 遺物出土状況 (2) (SE →)



3 土層断面 (NE →)



4 遺物出土状況 (NW →)



5 完掘状況 (E →)



1 確認状況 (NE →)



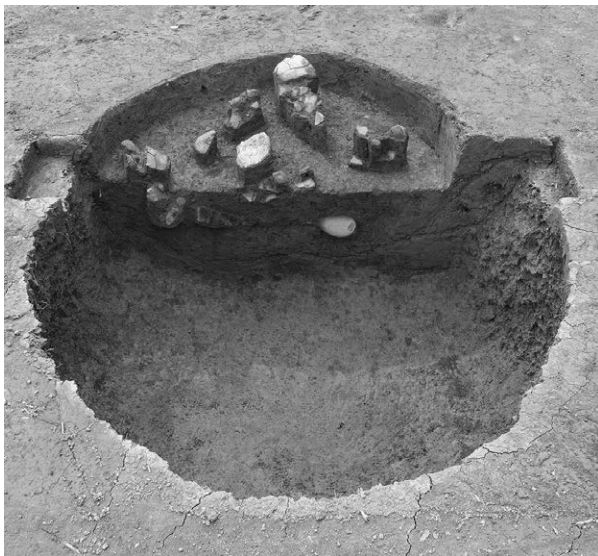
2 土層及び遺物出土状況 (NE →)



3 覆土上層遺物出土状況 (NE →)



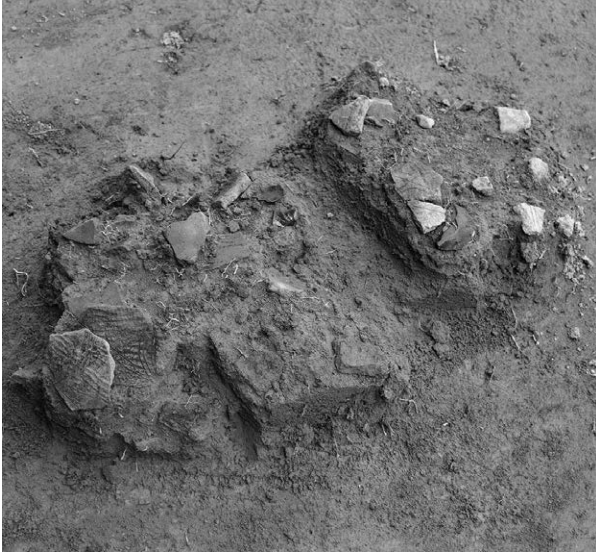
4 覆土下層遺物出土状況 (NE →)



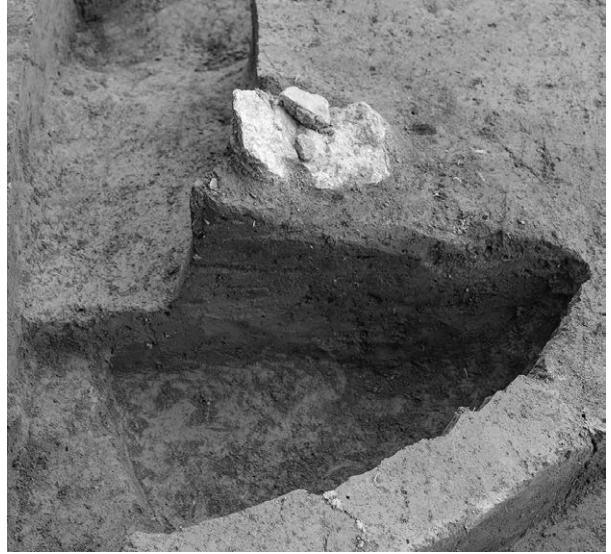
5 土層断面及び遺物出土状況 (NE →)



6 完掘状況 (SW →)



1 土坑 P-6 確認面遺物出土状況 (W →)



2 土坑 P-6 遺物出土及び土層断面 (SW →)



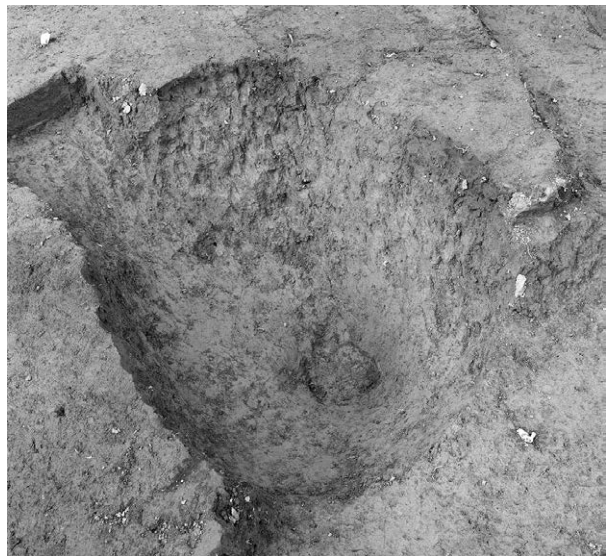
3 土坑 P-6 完掘状況 (NW →)



4 土坑 P-13 遺物出土状況及び完掘状況 (SE →)



5 土坑 P-15 土層断面 (S →)



6 土坑 P-15 完掘状況 (SE →)



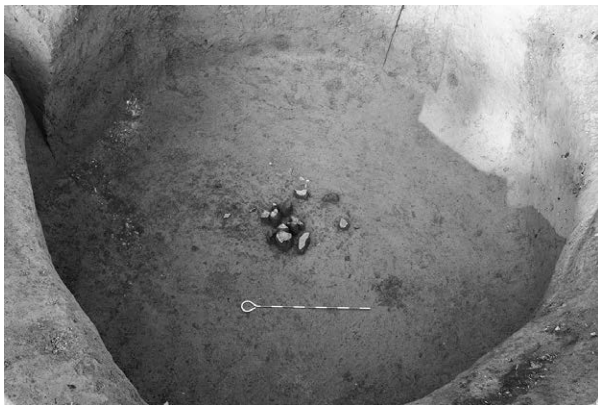
1 完掘状況 (SE →)



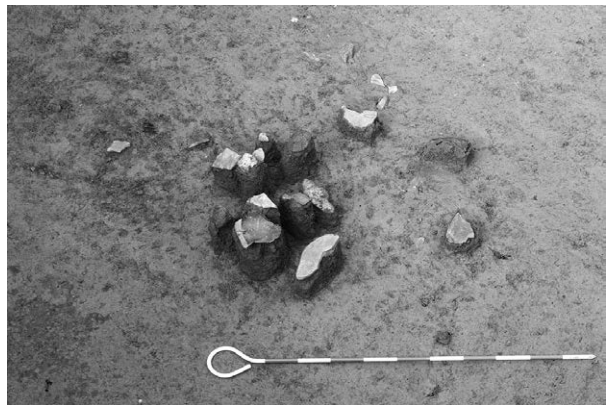
2 土層断面 (SE →)



3 土層断面 (SW →)



4 坑底遺物出土状況 (S →)



5 坑底遺物出土状況 (詳細) (S →)



1 土坑 P-8 P-1 土層断面 (S →)



2 土坑 P-18 完掘 (SE →)



3 N24 (旧土坑 P-14) 遺物出土状況 (NE →)



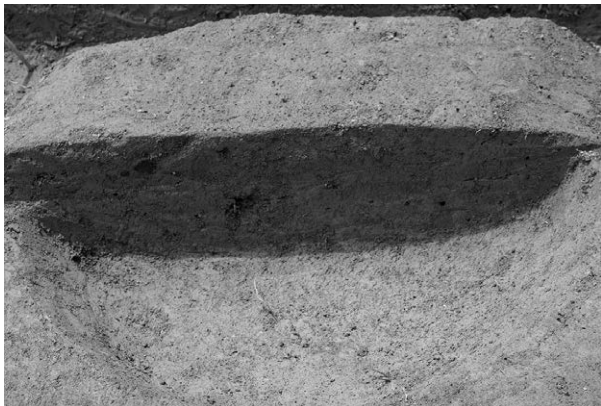
4 土坑 P-9・10・11 調査状況 (S →)



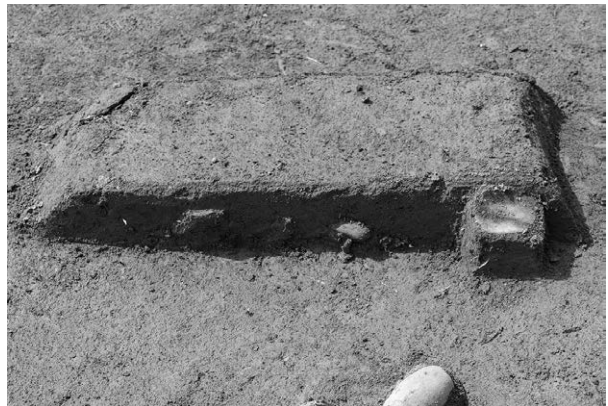
1 焼土 F-1 確認状況 (NE →)



2 焼土 F-2・3 確認状況 (E →)



3 焼土 F-2 土層断面 (NE →)



4 焼土 F-3 土層断面 (E →)



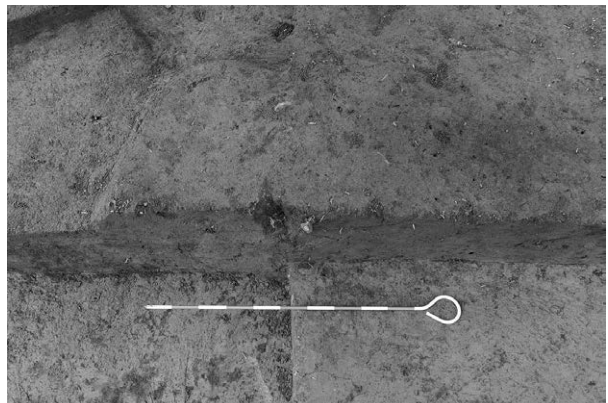
5 焼土 F-4 土層断面 (SE →)



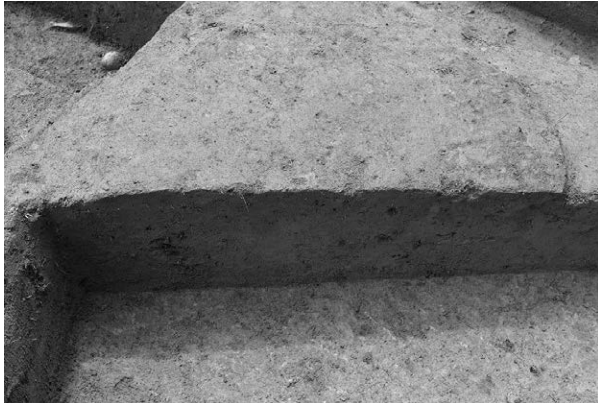
6 焼土 F-6 土層断面 (SE →)



7 焼土 F-7 土層断面 (S →)



8 焼土 F-8 土層断面 (SE →)



1 焼土 F-9 土層断面 (N →)



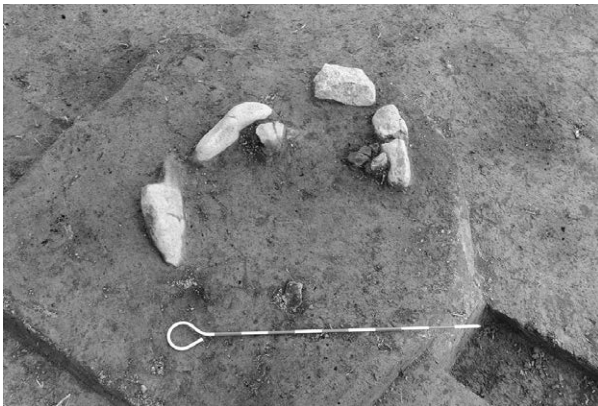
2 焼土 F-10 確認状況 (SE →)



3 焼土 F-11 確認状況 (NE →)



4 焼土 F-19 土層断面 (SW →)



5 焼土 F-12 確認状況 (W →)



6 焼土 F-12 土層断面 (W →)



7 焼土 F-5 確認状況 (SE →)



8 焼土 F-13 確認状況 (SE →)



1 焼土 F-14 確認状況 (SE →)



2 焼土 F-15 確認状況 (SE →)



3 焼土 F-16 確認状況 (W →)



4 焼土 F-16 土層断面 (SE →)



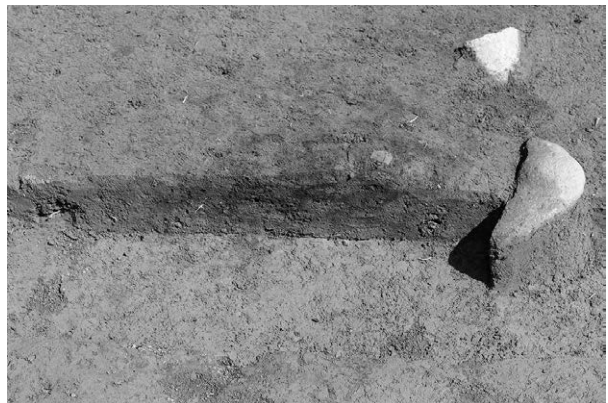
5 焼土 F-17 確認状況 (SE →)



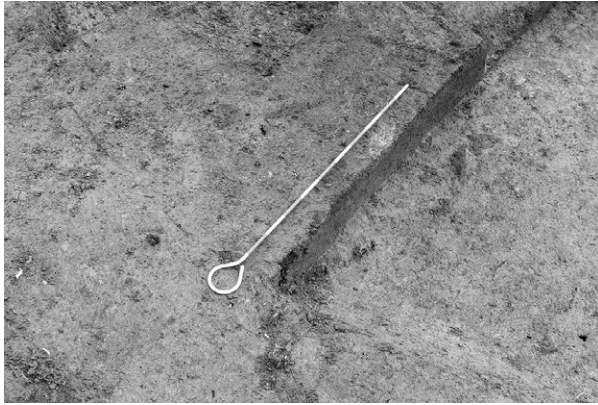
6 焼土 F-18 確認状況 (NE →)



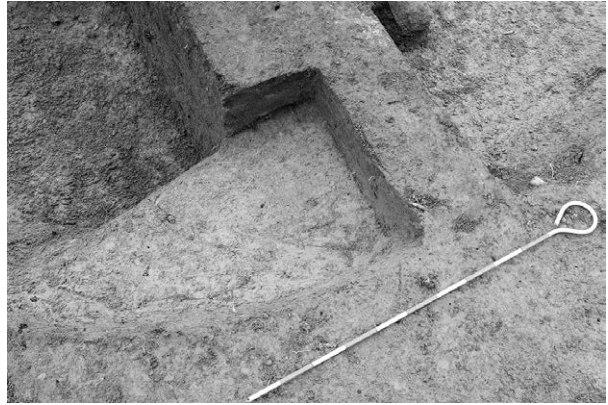
7 焼土 F-20 確認状況 (SW →)



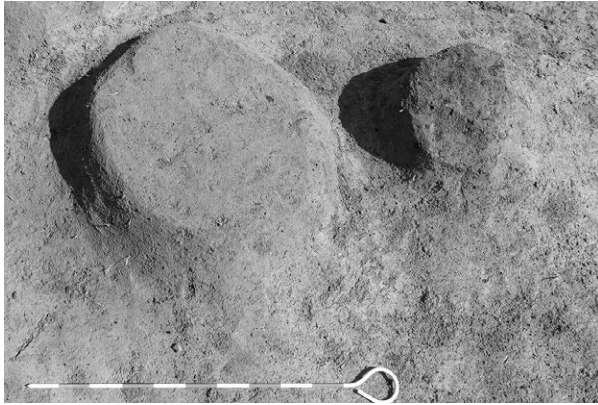
8 焼土 F-22 土層断面 (S →)



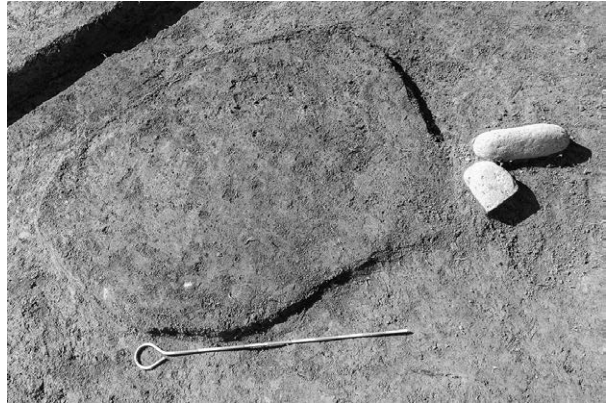
1 焼土 F-24(1) 確認状況 (W →)



2 焼土 F-24(2) 確認状況 (N →)



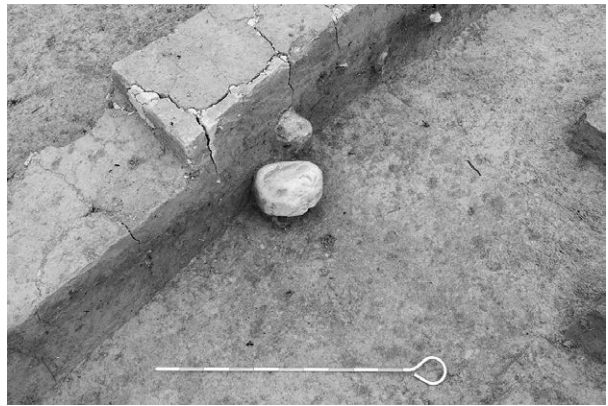
3 焼土 F-25 確認状況 (NW →)



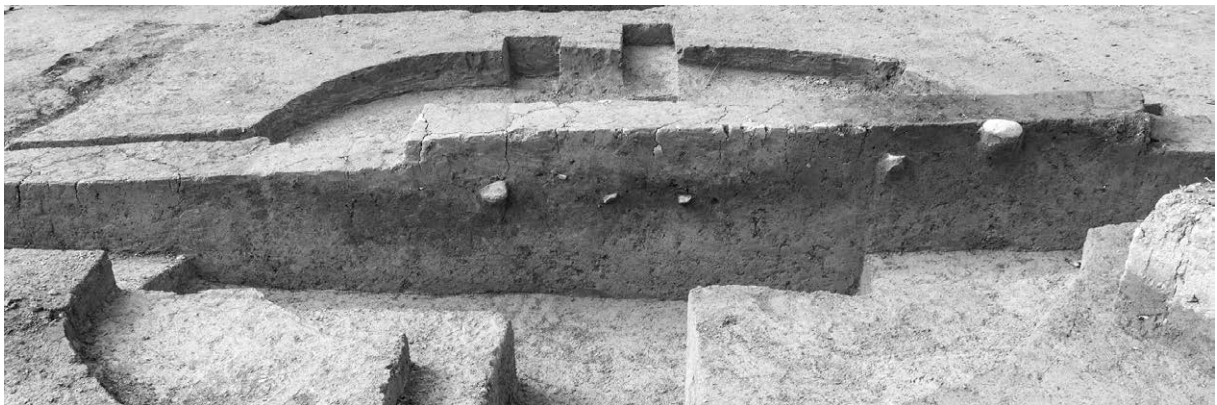
4 焼土 F-26 確認状況 (SE →)



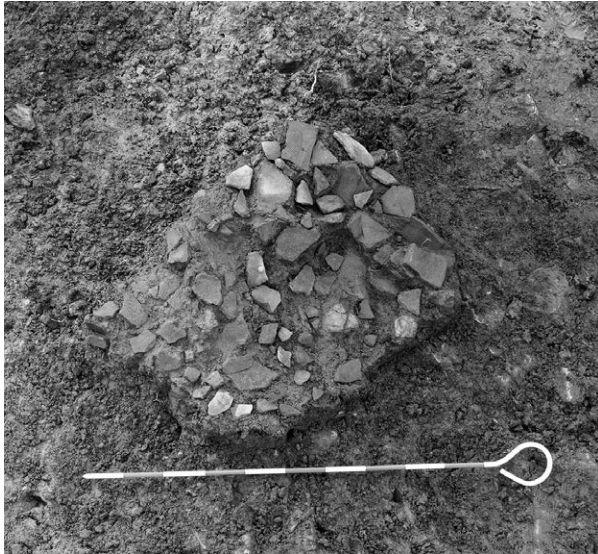
5 焼土 F-27 土層断面 (S →)



6 焼土 F-28 確認状況 (S →)



7 焼土 F-28 土層断面 (SE →)



1 一括土器 (図 5-9-19) 出土状況上層 (E →)



2 一括土器 (図 5-9-19) 出土状況下層 (E →)



3 両面調整石器 (図 5-18-1) 出土状況 (W →)



4 Q23 剥片集中 (図 4-30) 出土状況 (NW →)



5 一括土器 (図 5-8-1) 出土状況 (SE →)



6 礫群 (図 4-30) 出土状況 (NW →)



1 P・Q22 遺物出土状況 (NE →)



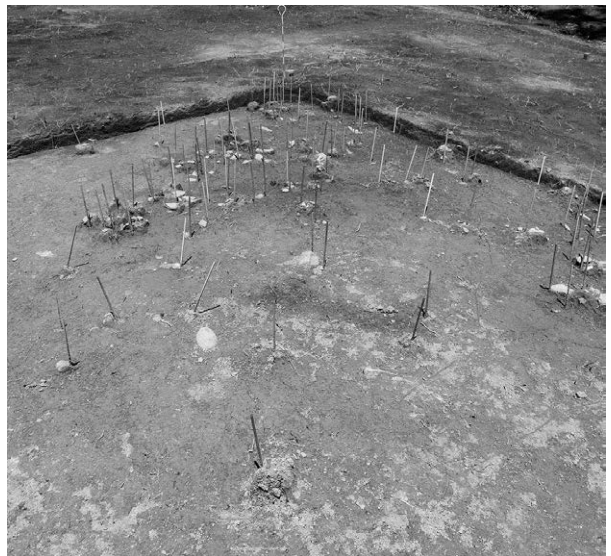
2 N24 剥片等出土状況 (N →)



3 O23 剥片等出土状況 (NW →)



4 O22 剥片等出土状況 (NW →)



5 M22 剥片等出土状況 (S →)



1 南西斜面部分 (N →)



2 中央部分 (W →)



3 北東低地部分 (W →)



4 北東斜面部分 (N →)



5 Q22 調査区壁土層 (SE →)



6 024 ペルト土層 (N →)



1 南西斜面部分 (S →)



2 中央部分 (SE →)

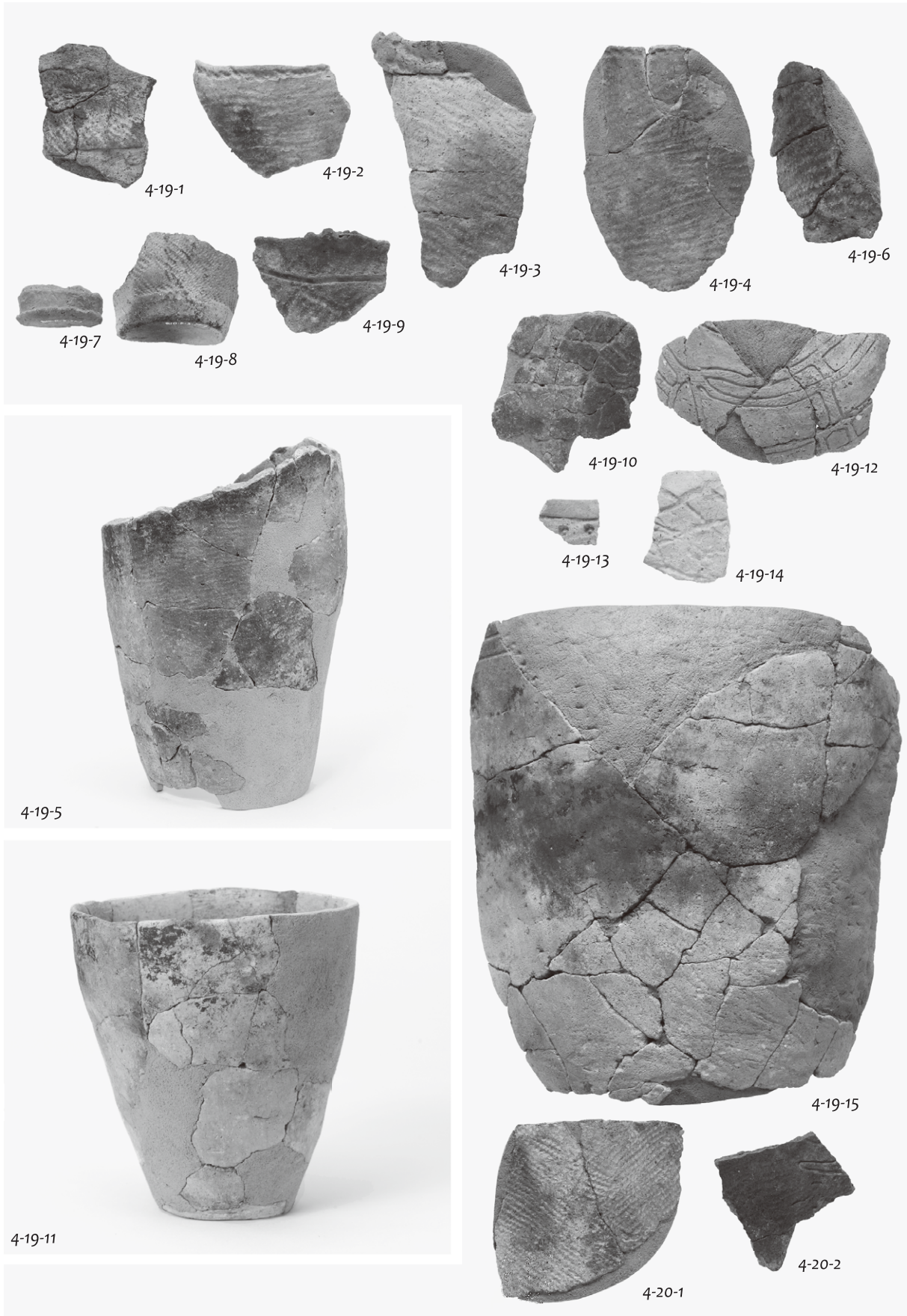


3 北東斜面～低地部分 (E →)

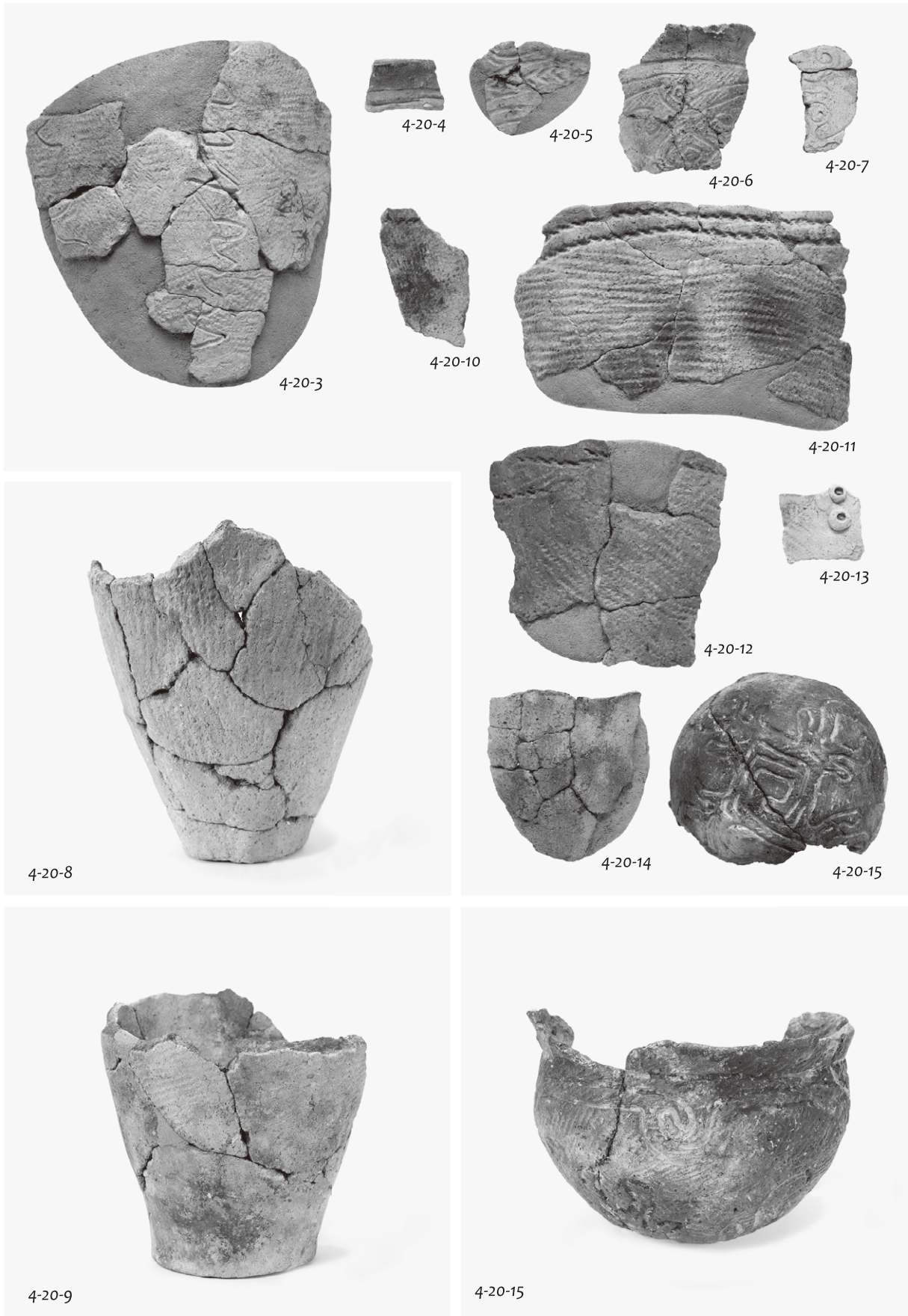
図版 4-22 遺構の遺物 (1)



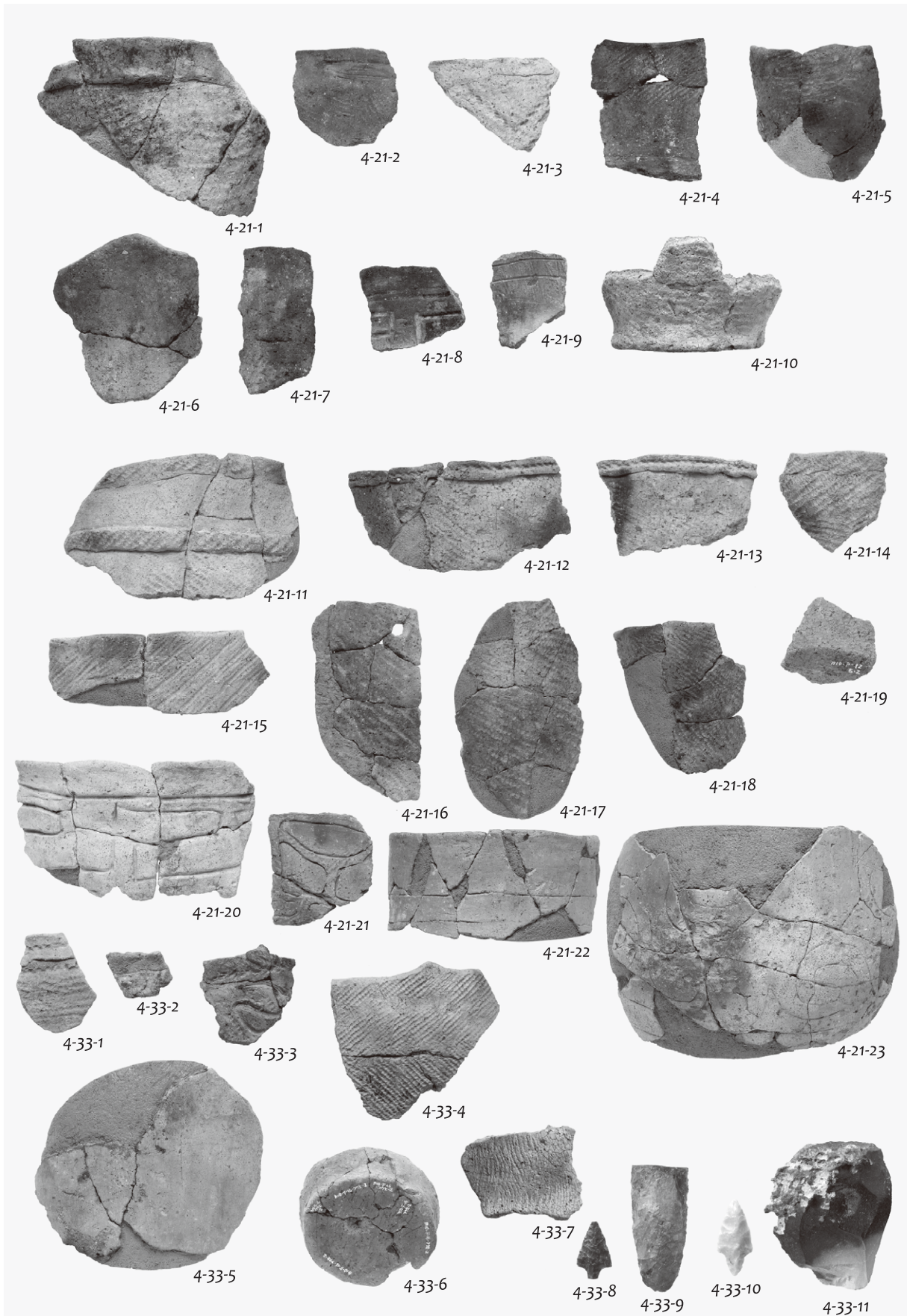
竪穴住居跡 H-1 出土の土器



土坑 (P-3・4・5・7・9・11) 出土の土器

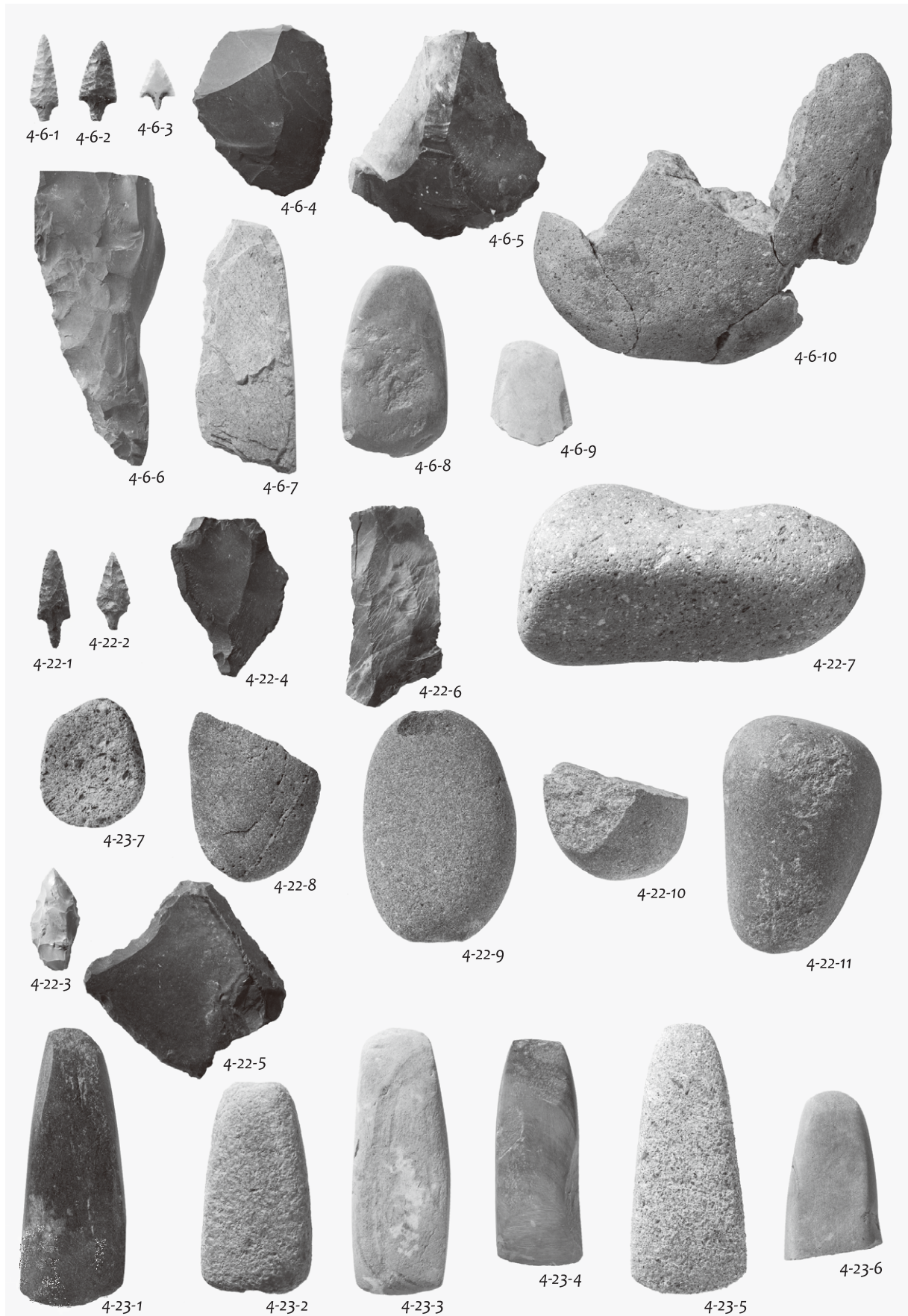


土坑 (P-9・13・17) 出土の土器

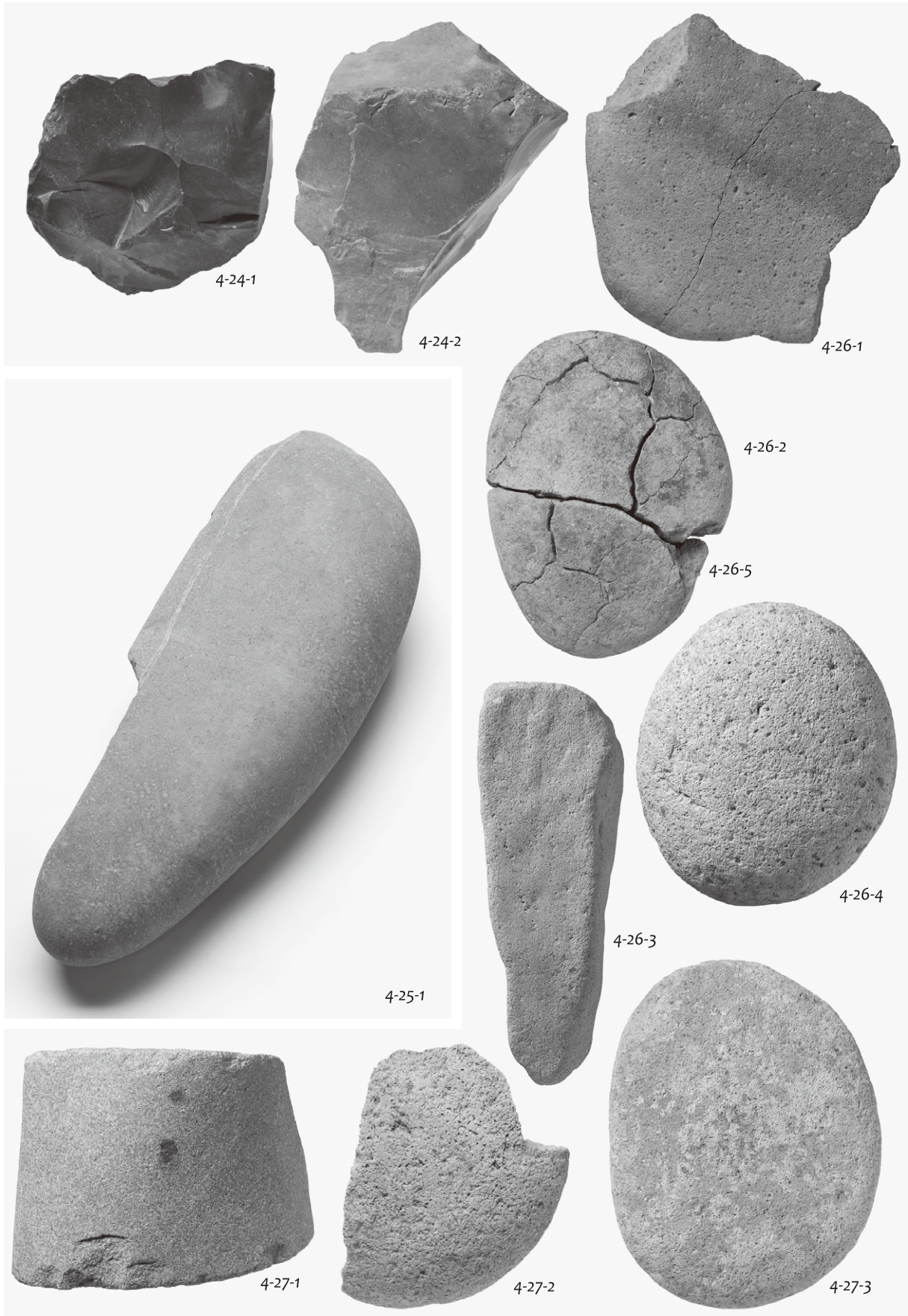


土坑 (P-10・12) 出土の土器、焼土出土の遺物

図版 4-26 遺構の遺物 (5)

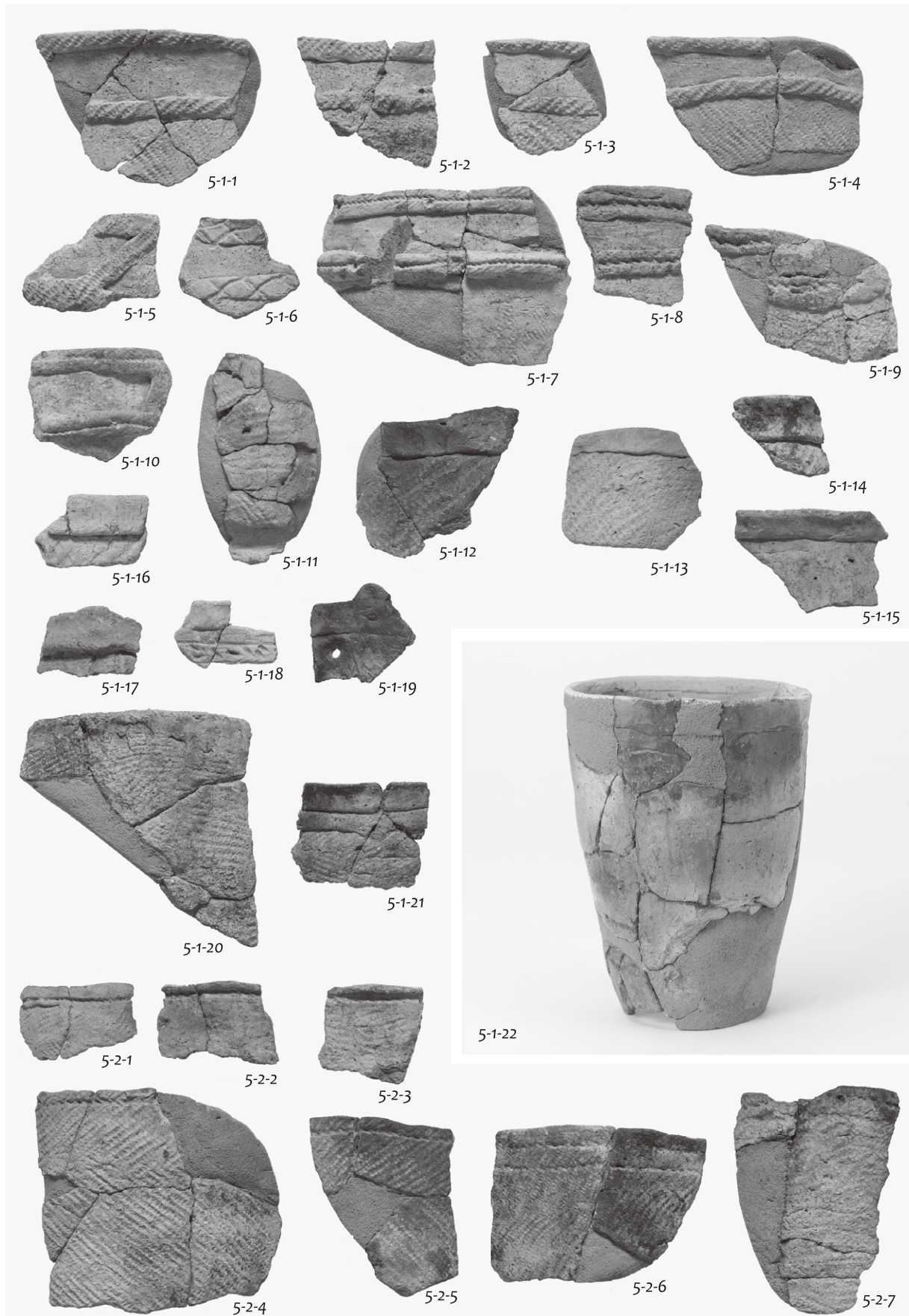


竪穴住居跡、土坑出土の石器 (1)

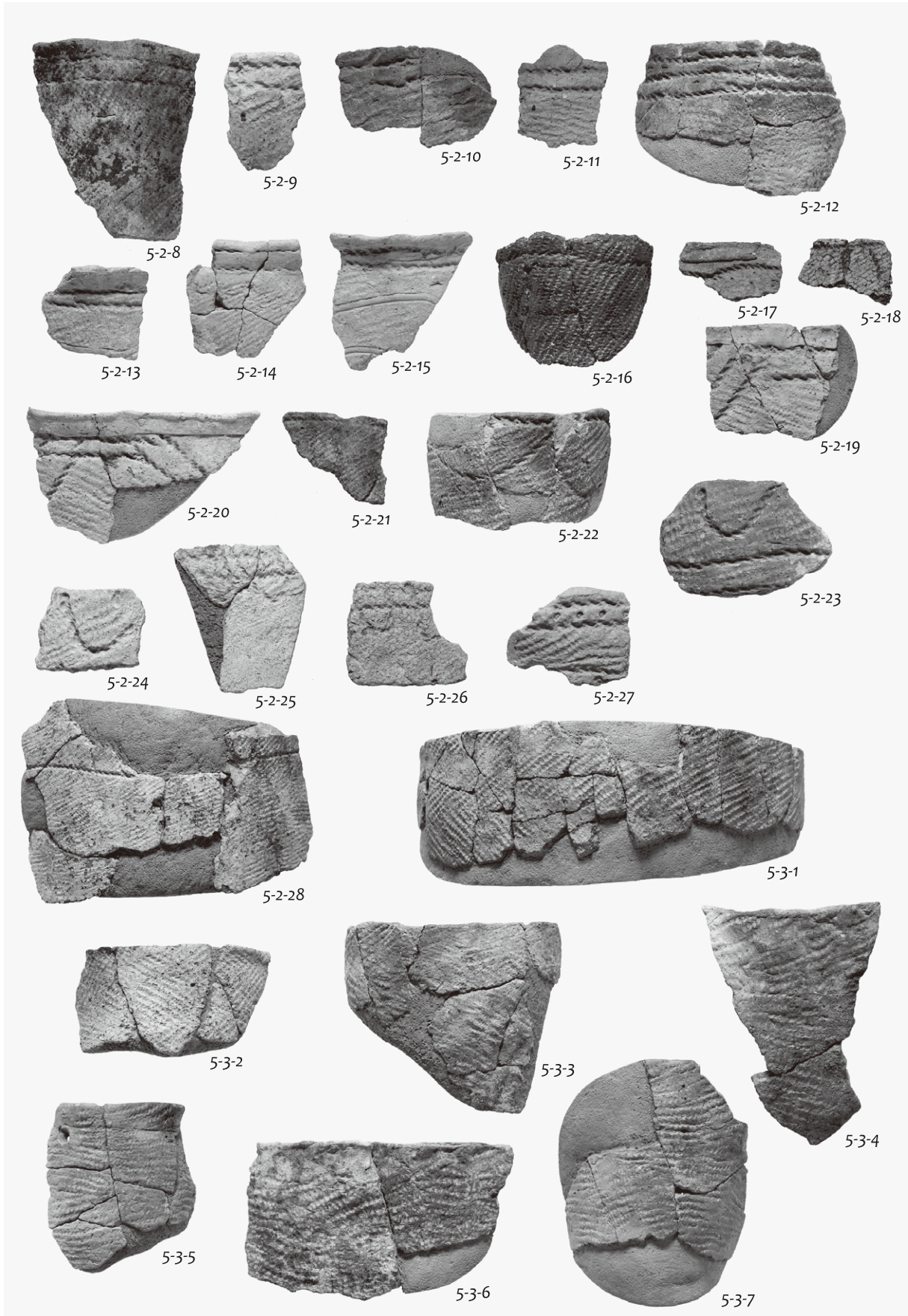


土坑出土の石器 (2)

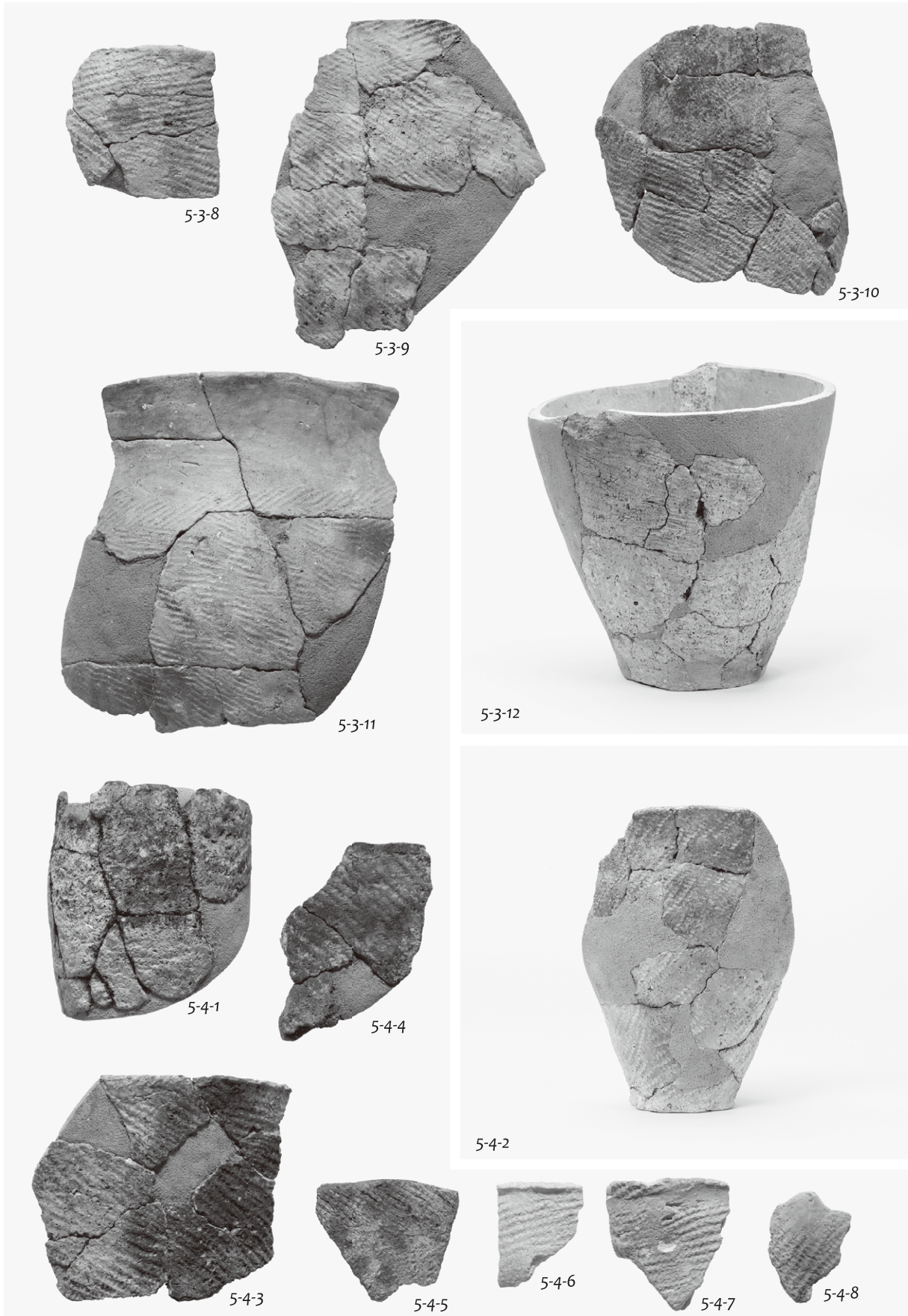
図版 5-1 包含層の遺物 (1)



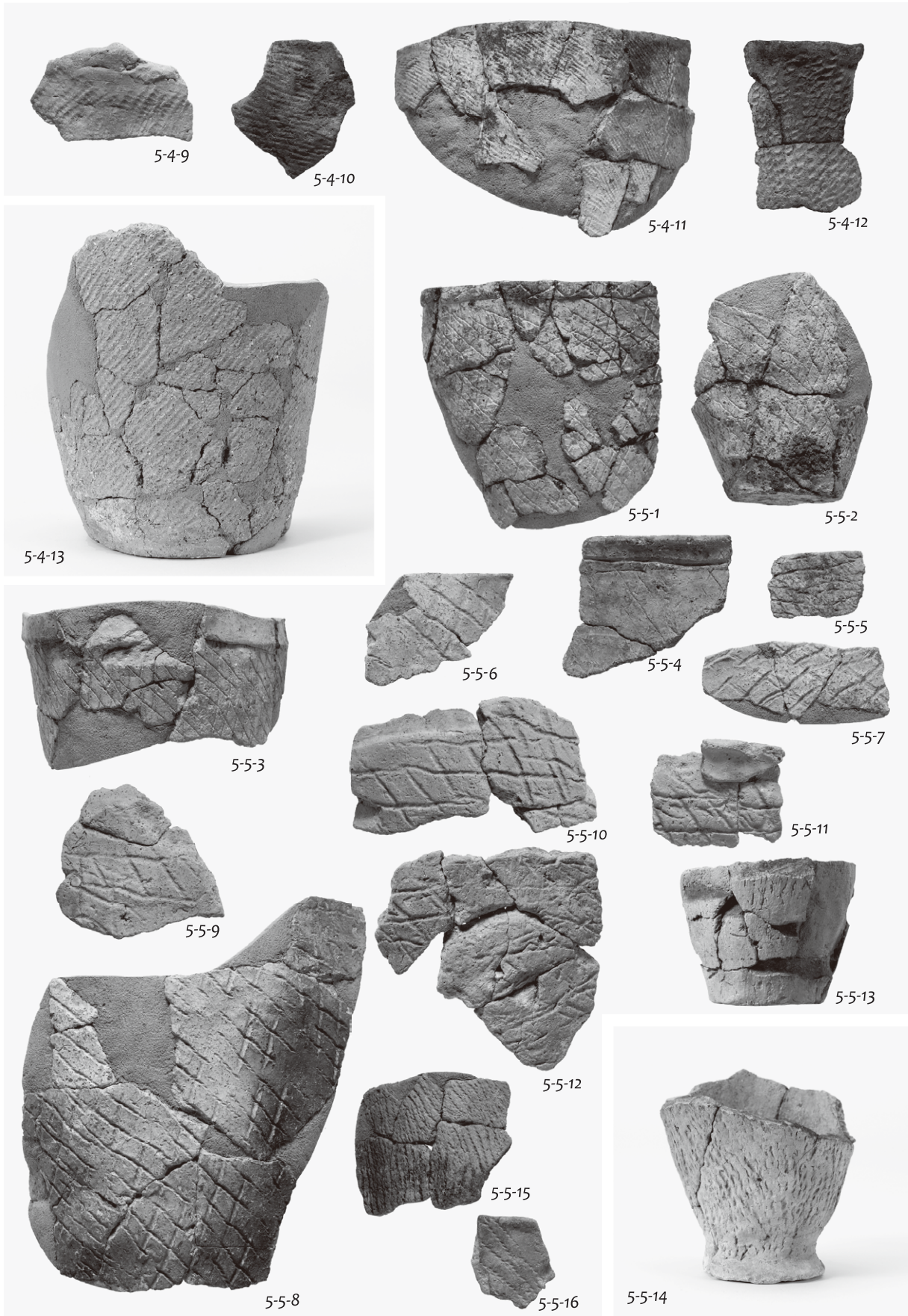
貼付帯及び折返口縁を特徴とする土器 縄線文を特徴とする土器 (1)



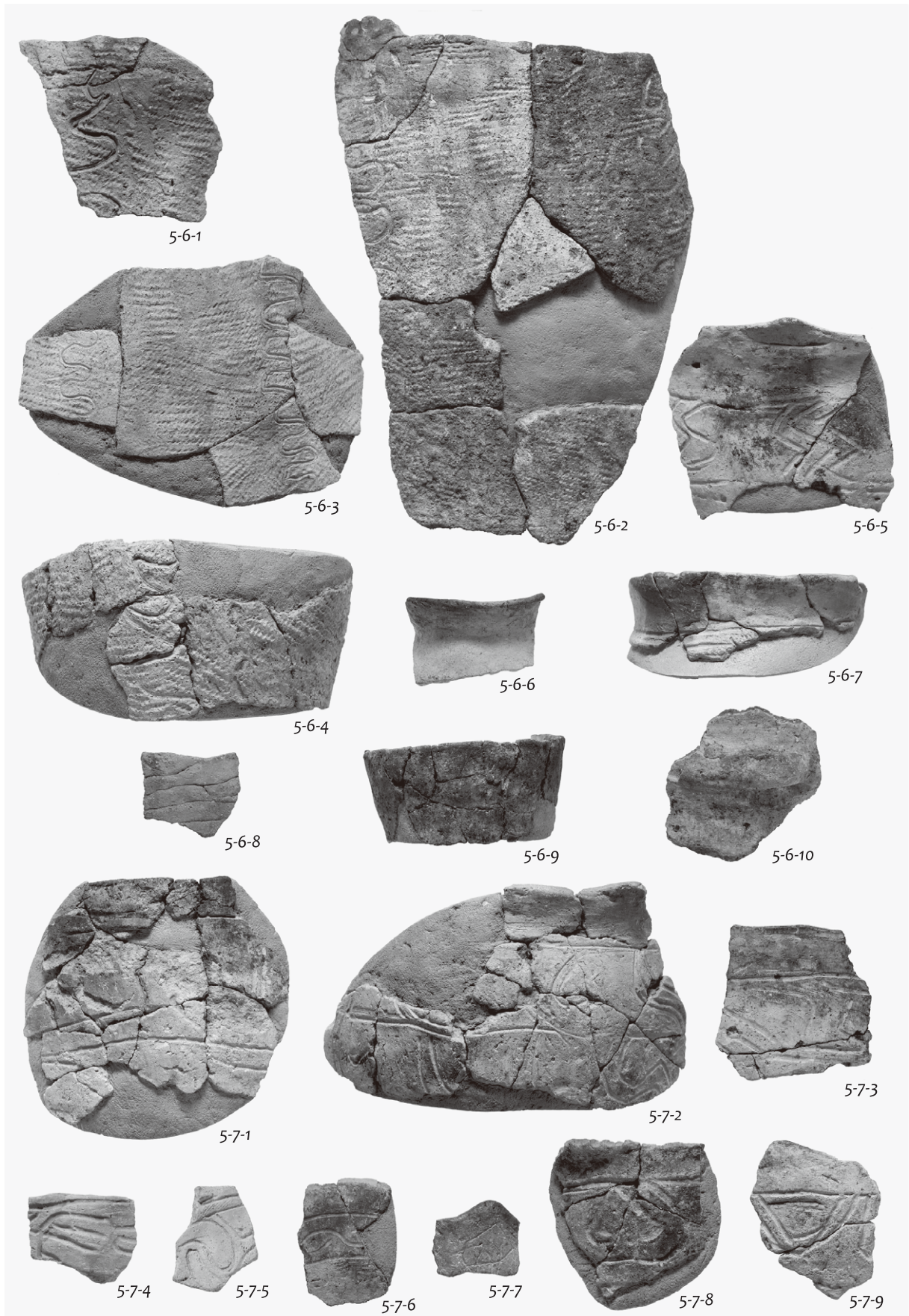
縄線文を特徴とする土器 (2) 縄文を特徴とする土器 (1)



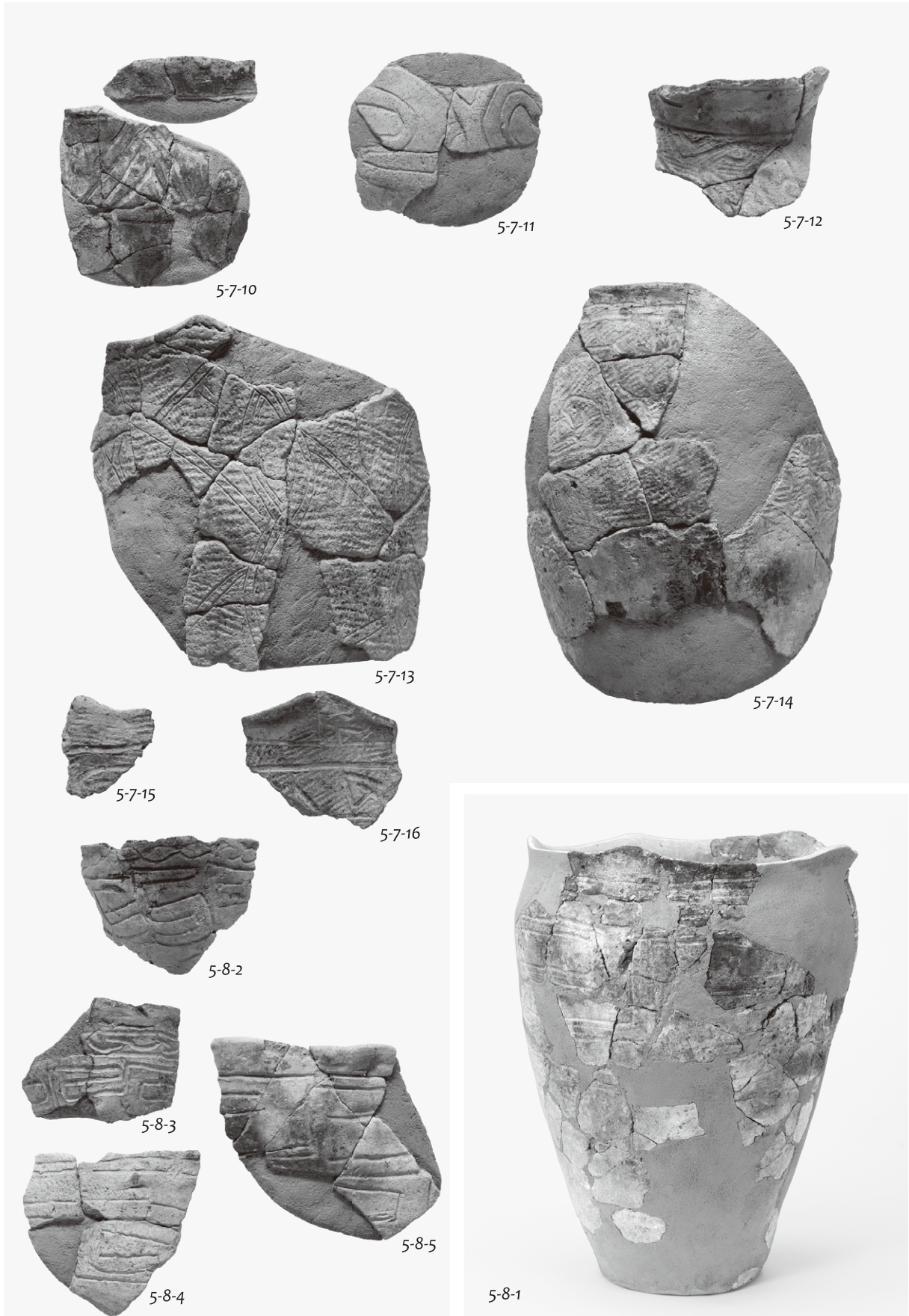
縄文を特徴とする土器 (2)



縄文を特徴とする土器 (3) 撚糸文を特徴とする土器

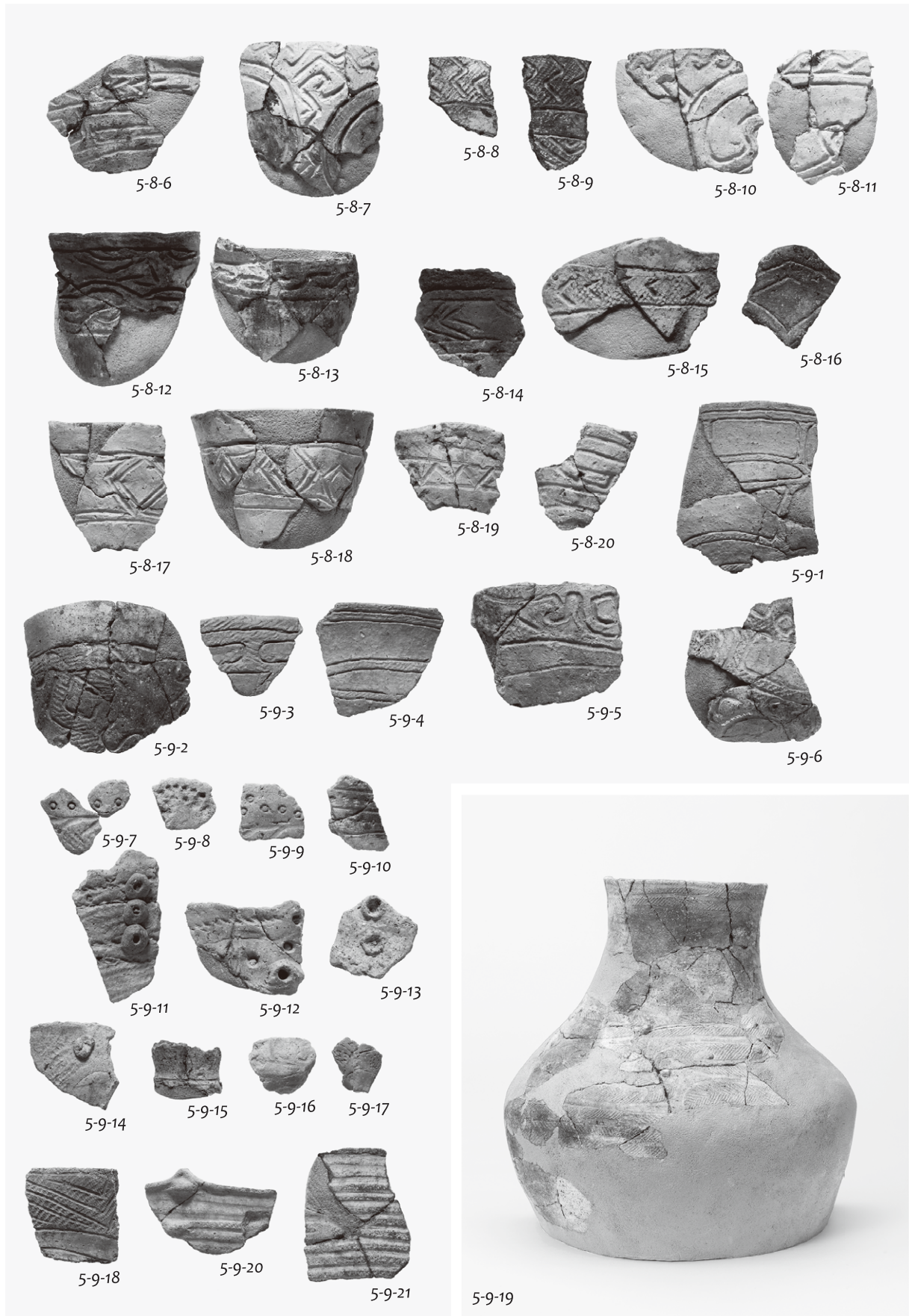


蛇行沈線及び無文を特徴とする土器 沈線文を特徴とする土器 (1)

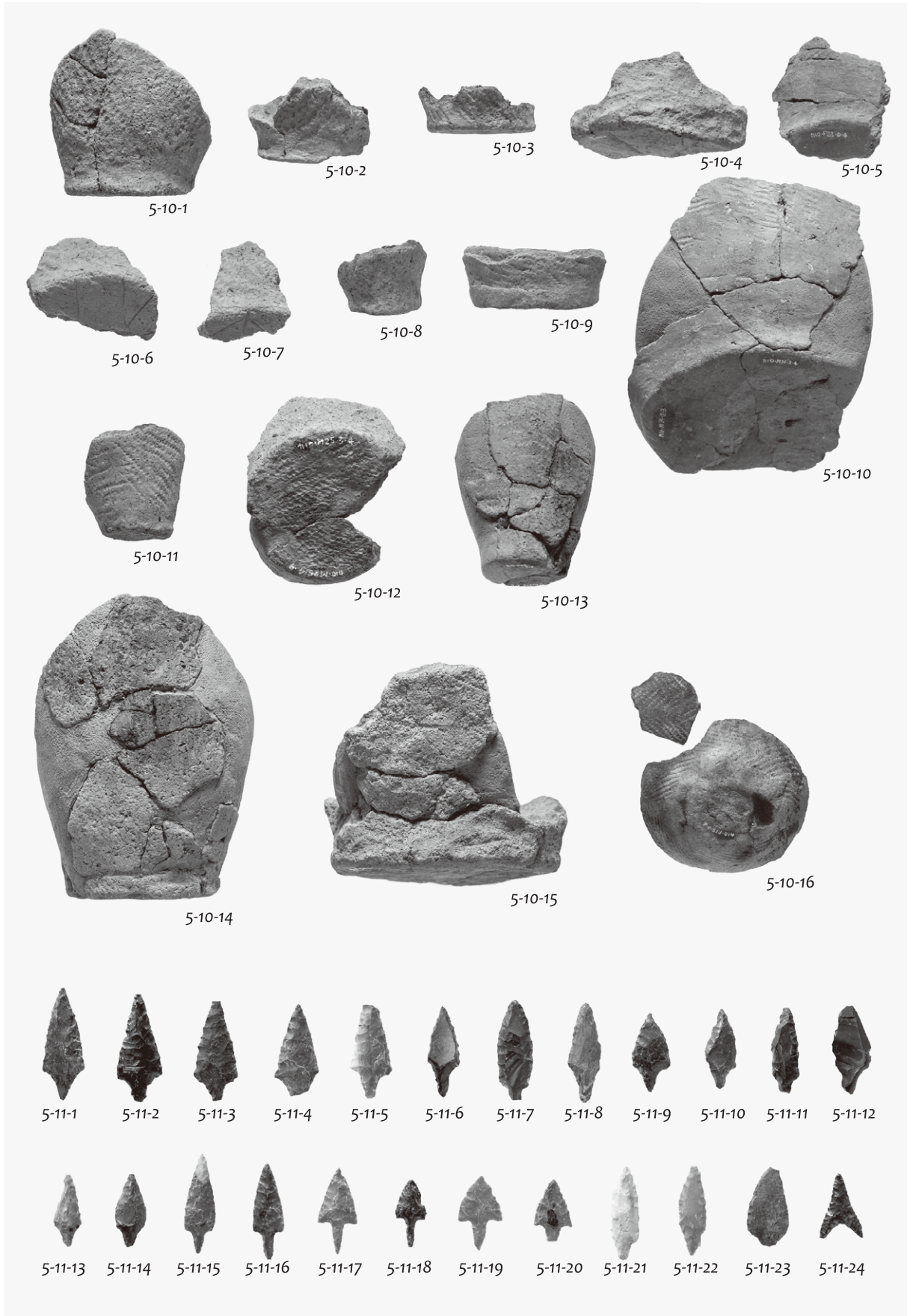


沈線文を特徴とする土器 (2)

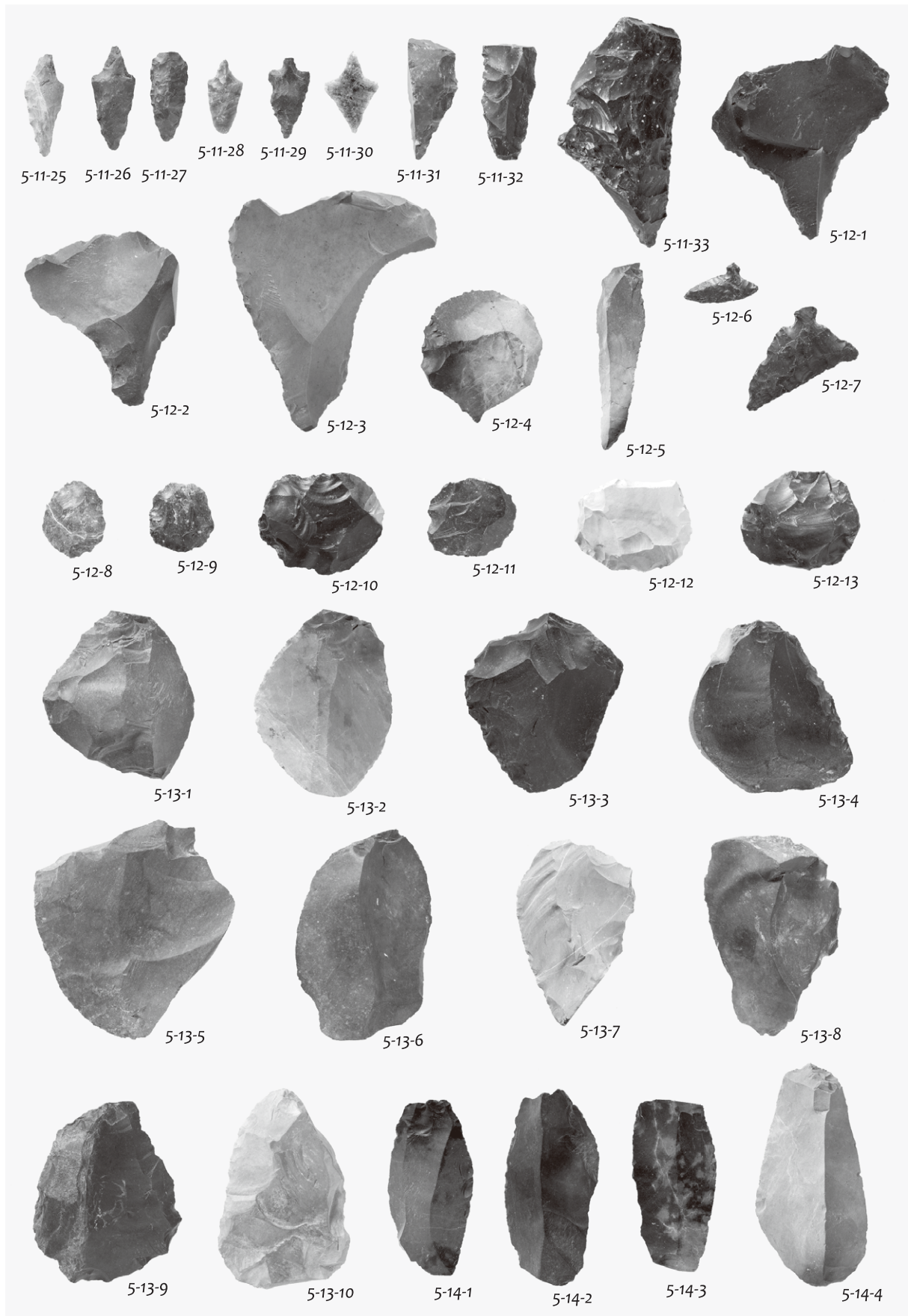
図版 5-7 包含層の遺物 (7)



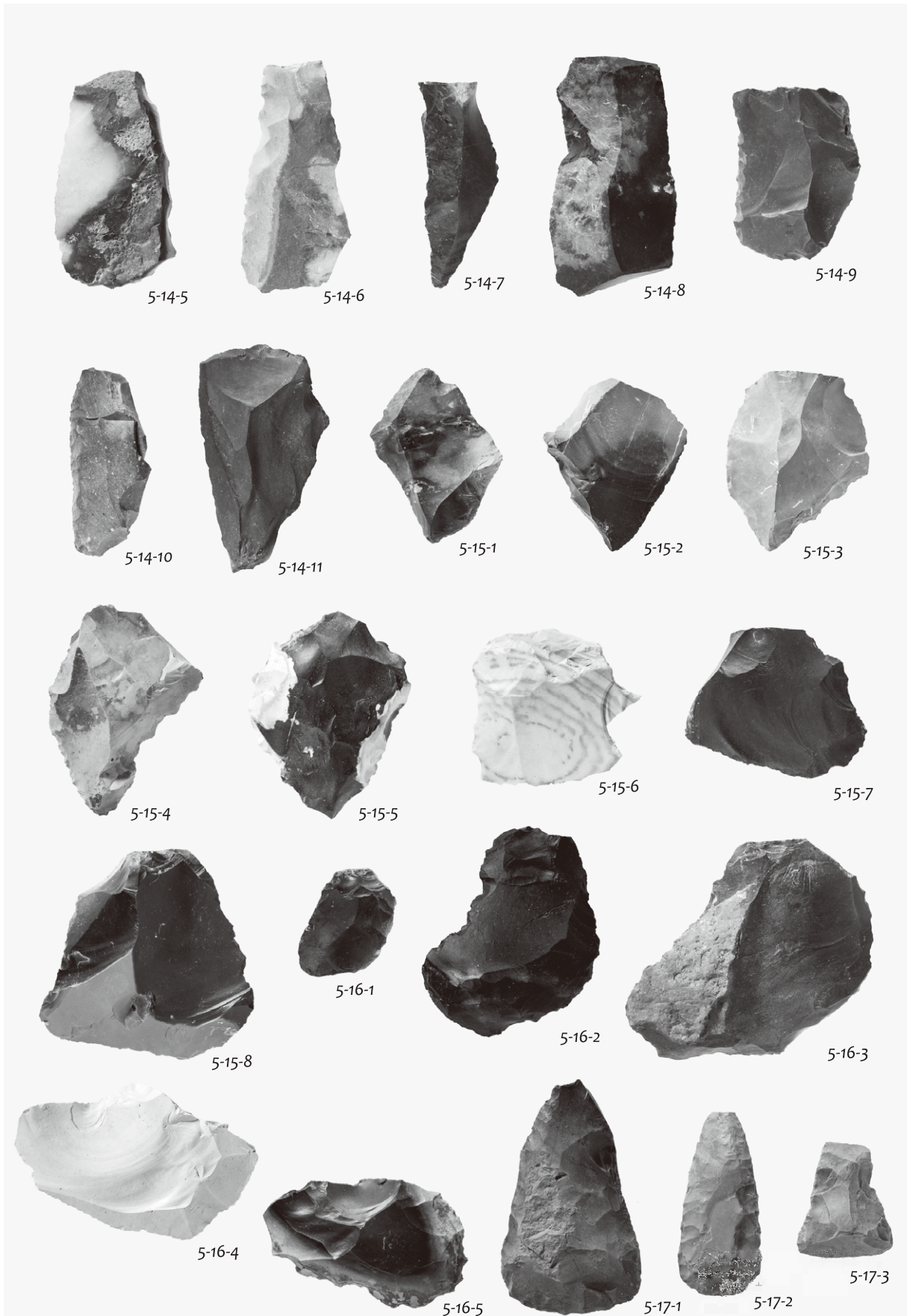
沈線文を特徴とする土器 (3) ほか



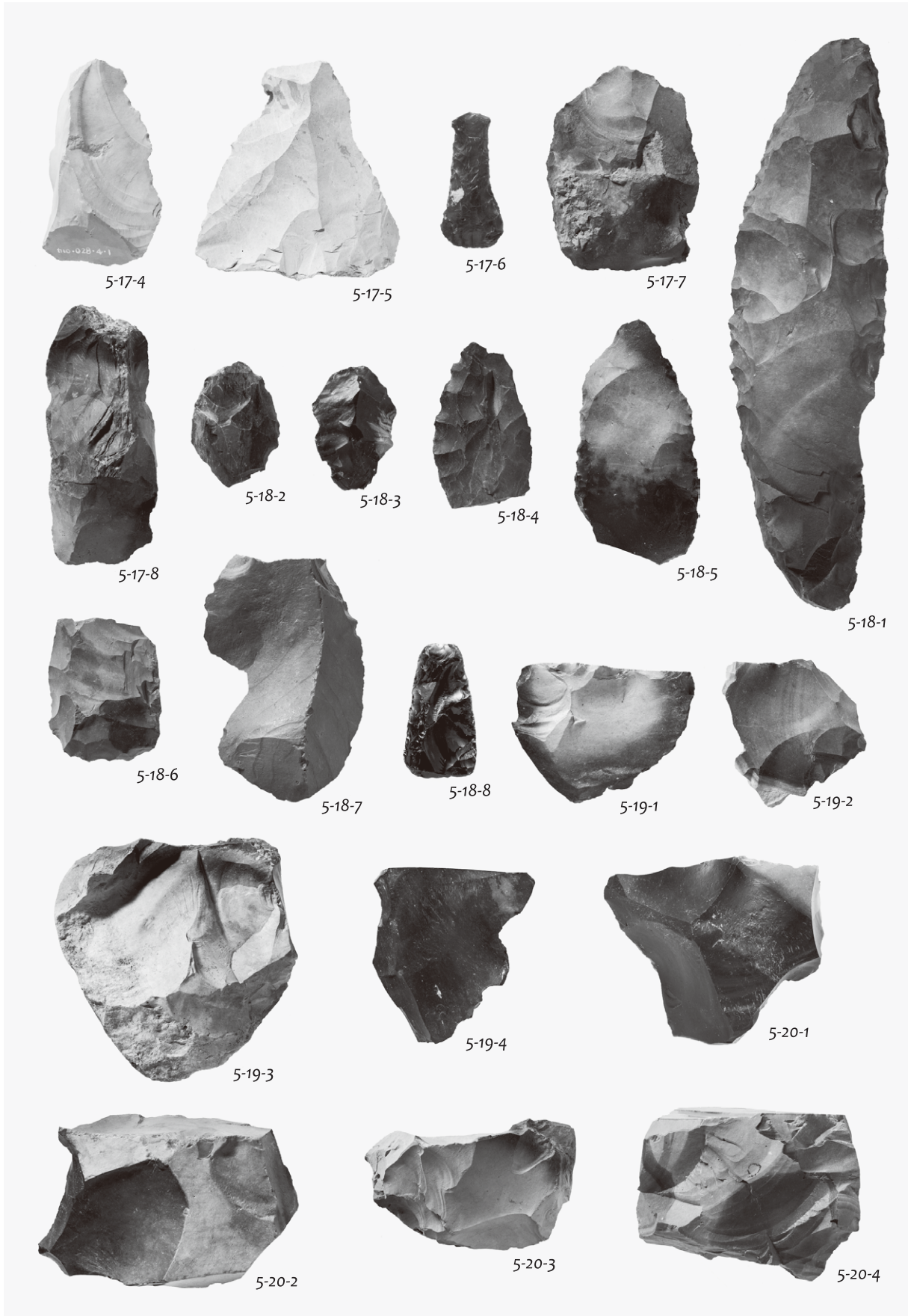
特徴のある土器底部 石器 (1) 石鏃



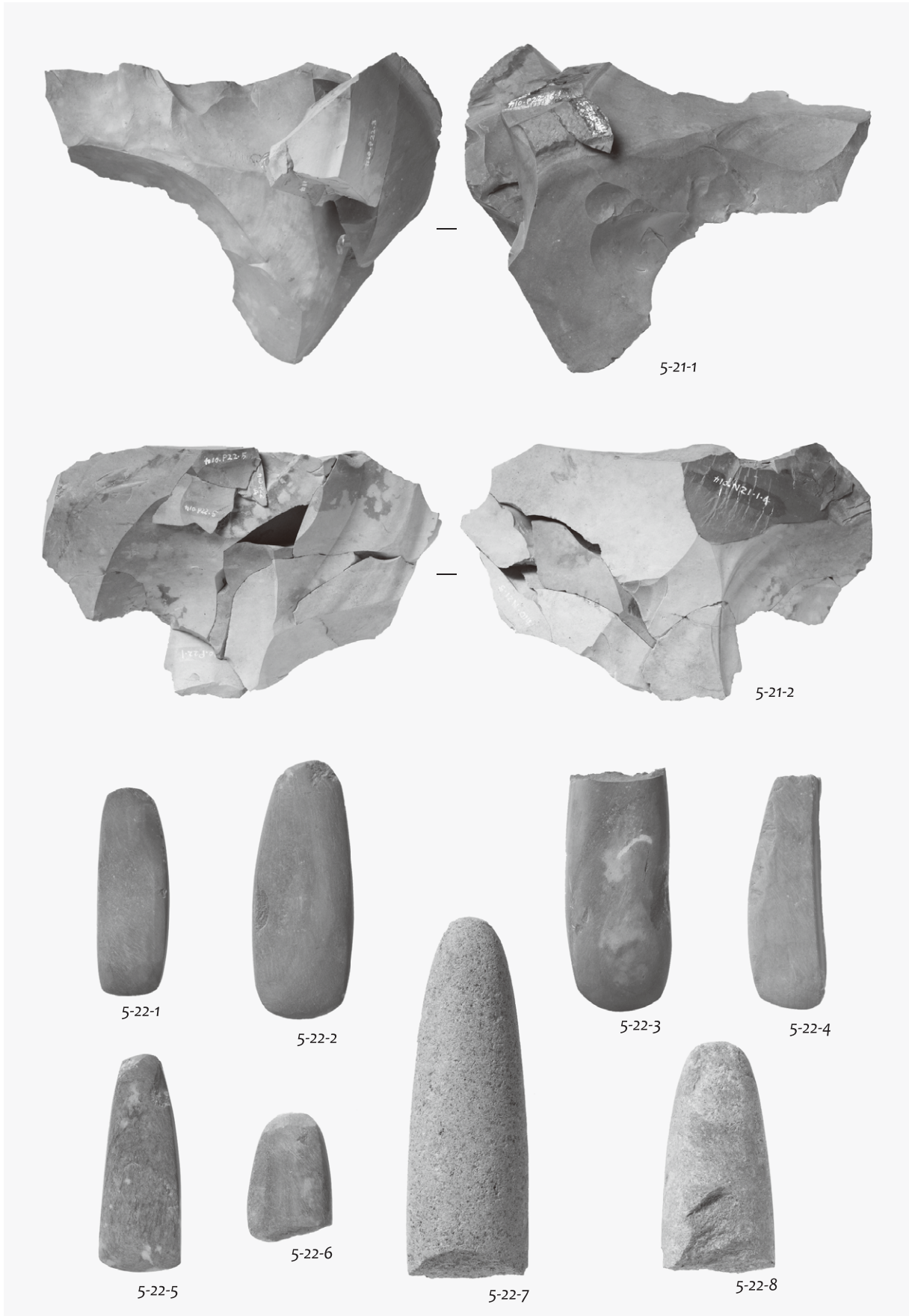
石器 (2) 石錐・つまみ付きナイフ・スクレイパー (1)



石器 (3) スクレイパー (2)・篋状石器 (1)



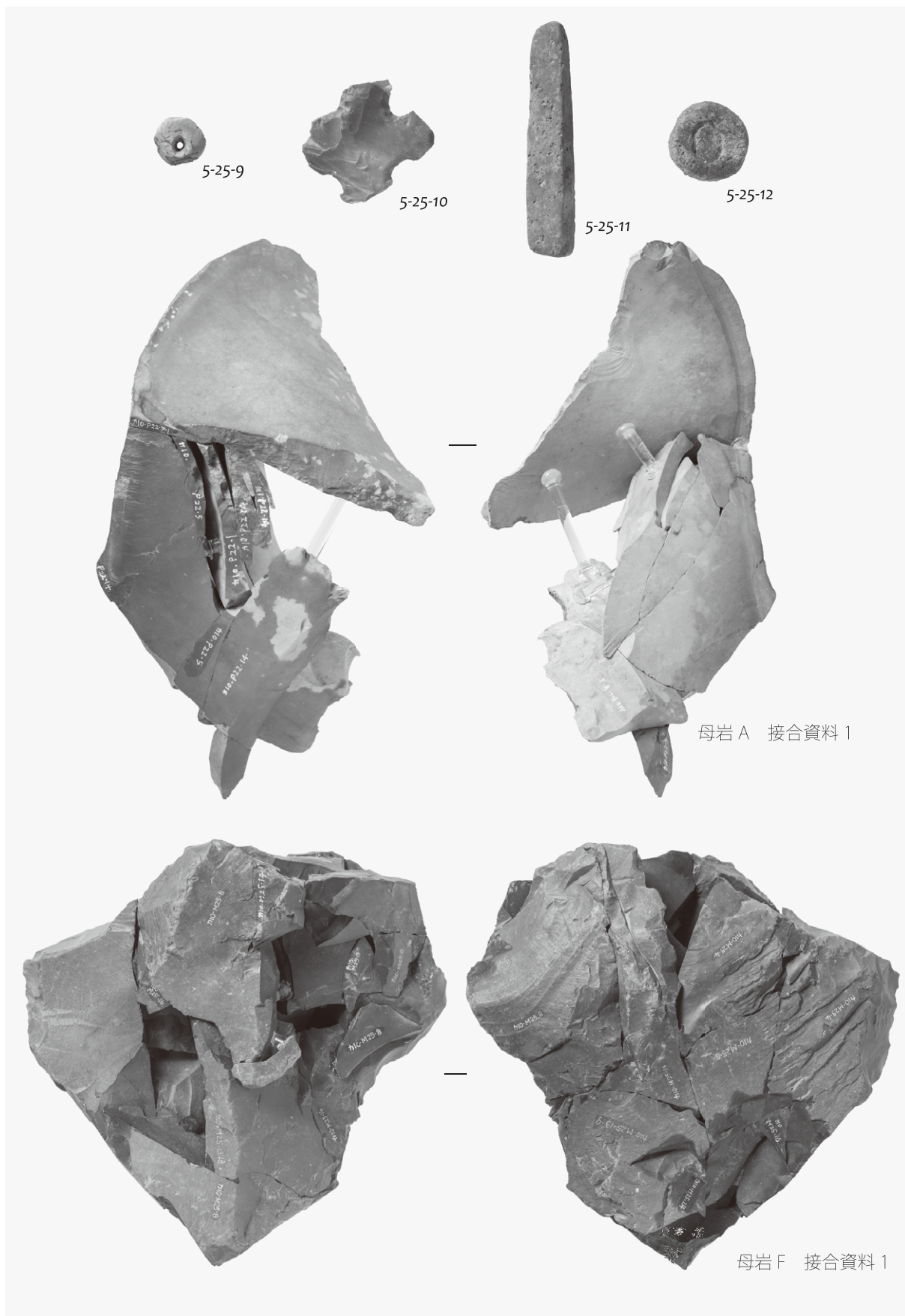
石器 (4) 篋状石器 (2)・両面調整石器・R フレイク・石核 (1)



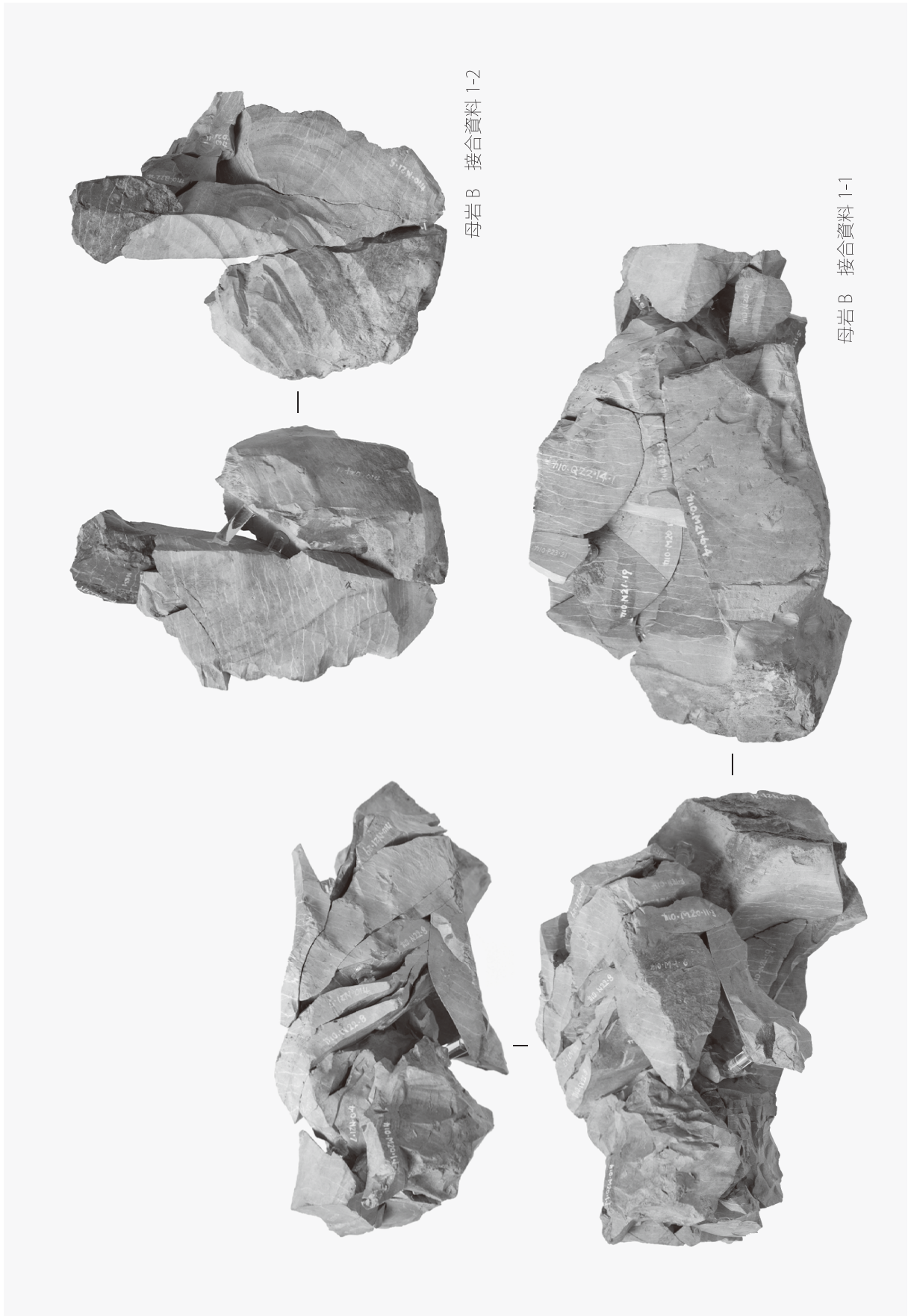
石器 (5) 石核 (2)・石斧



石器 (6) たたき石・すり石・扁平打製石器



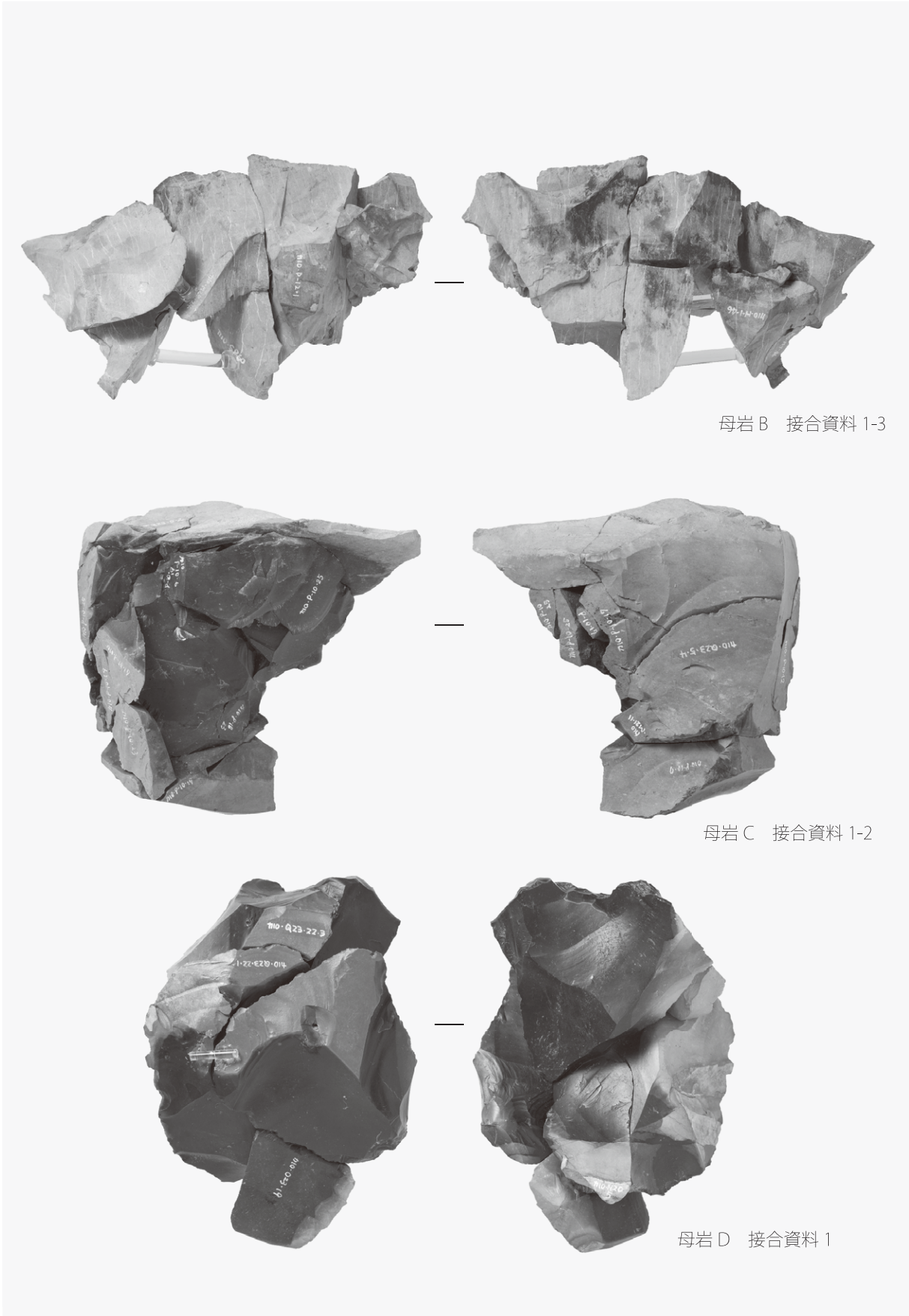
土・石製品 母岩 A・母岩 F



母岩 B

母岩 B 接合资料 1-2

母岩 B 接合资料 1-1

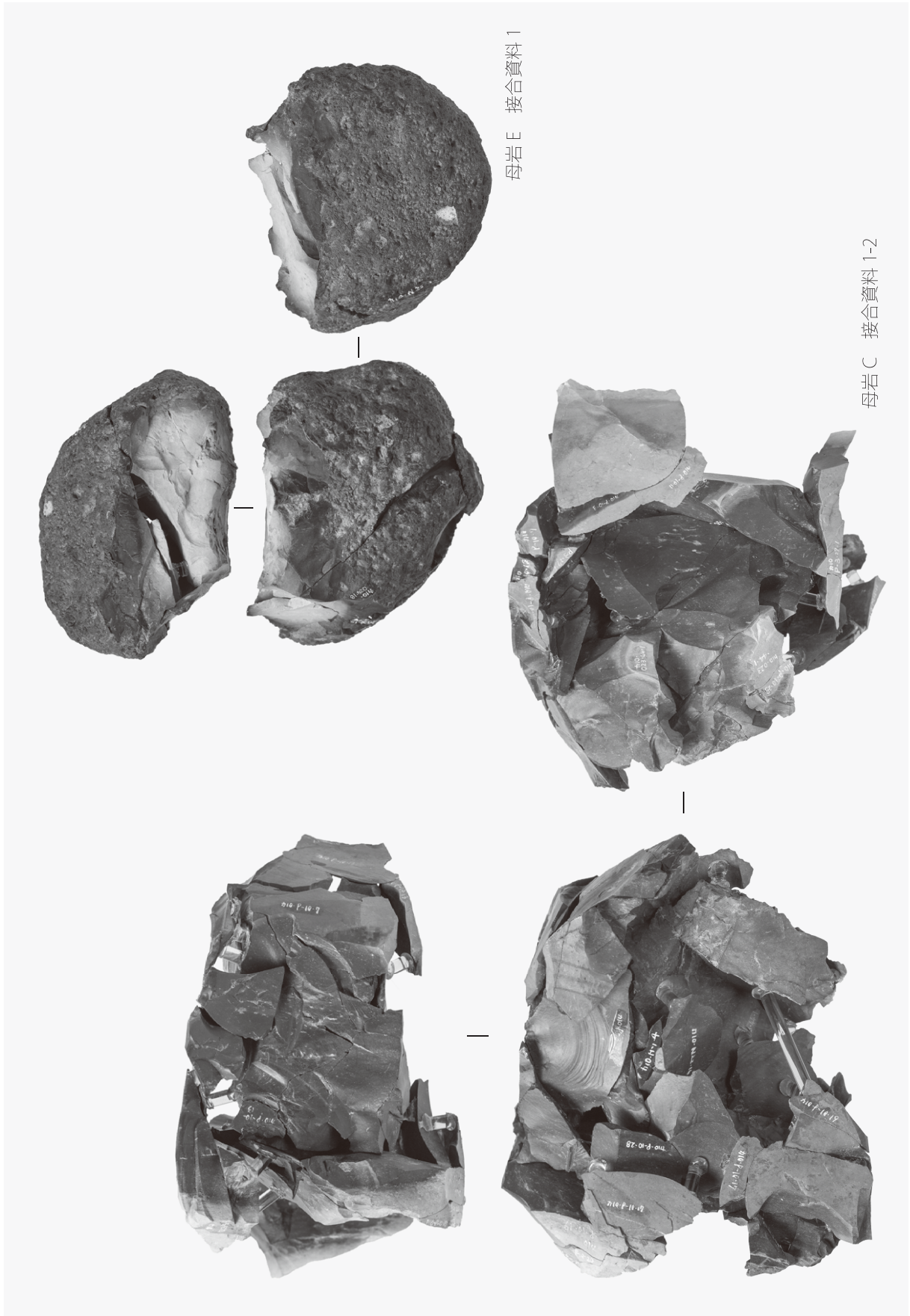


母岩 B 接合資料 1-3

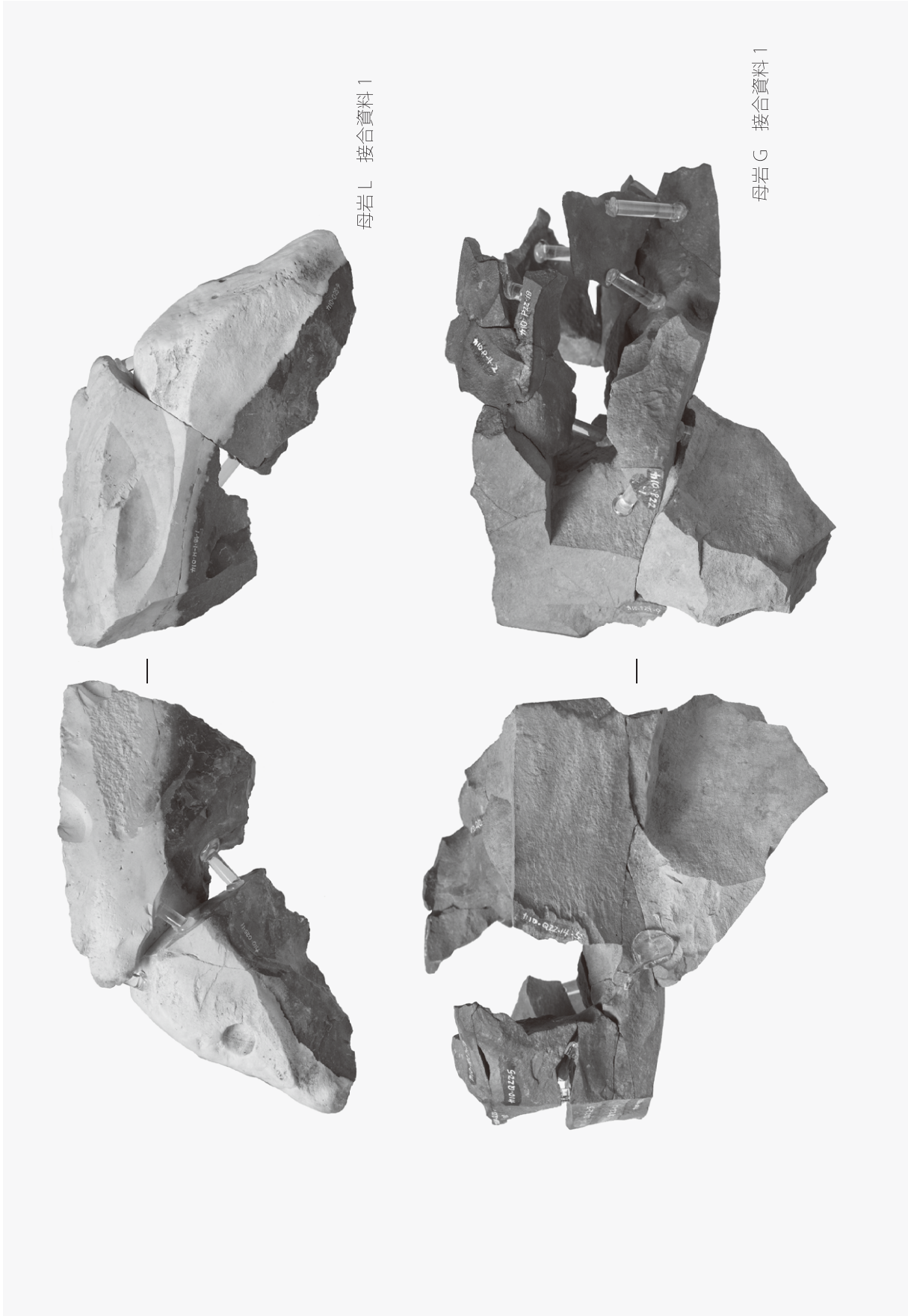
母岩 C 接合資料 1-2

母岩 D 接合資料 1

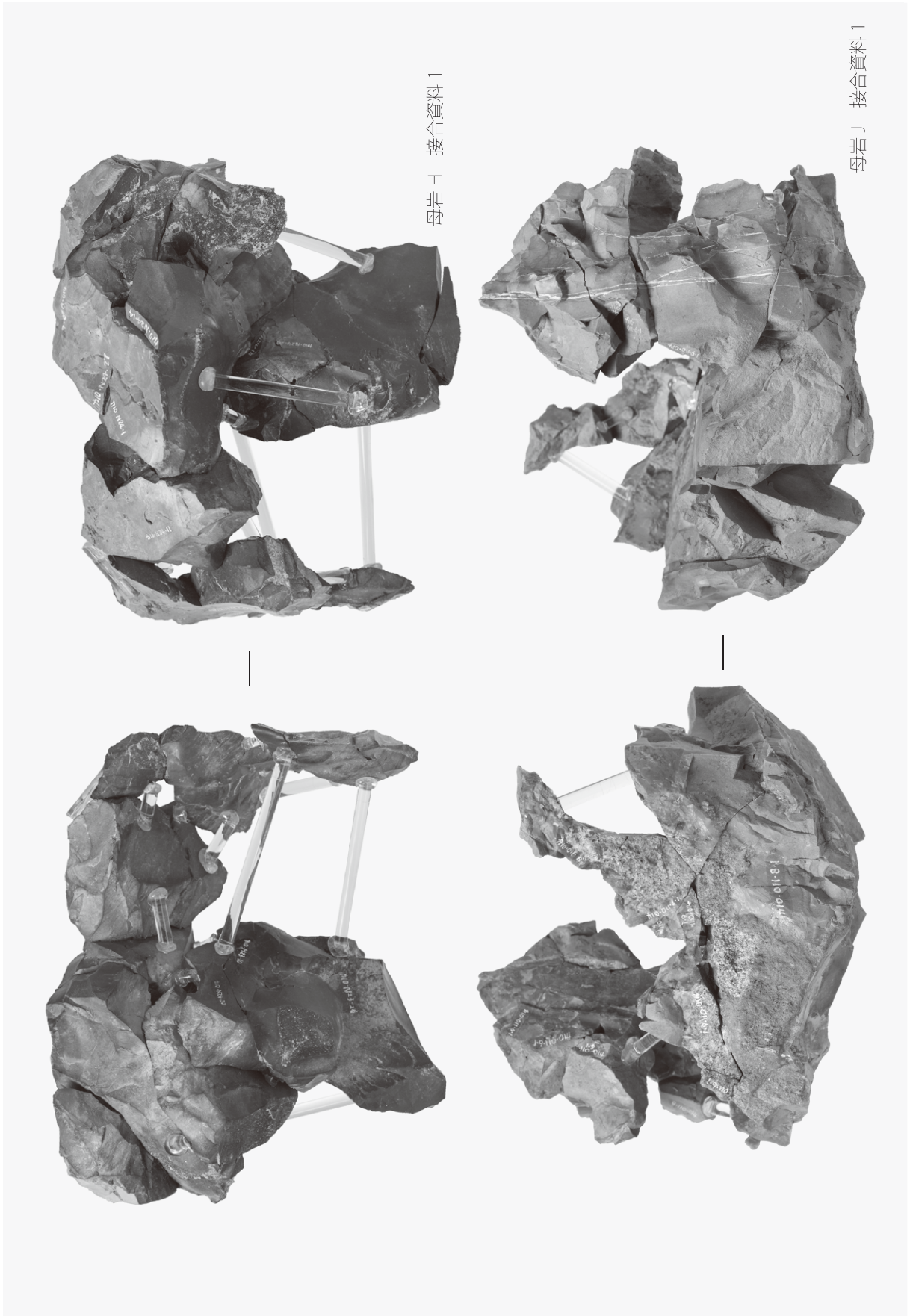
母岩 B · 母岩 C · 母岩 D



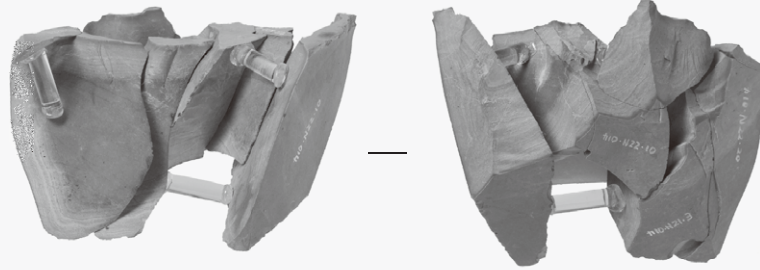
母岩 C · 母岩 E



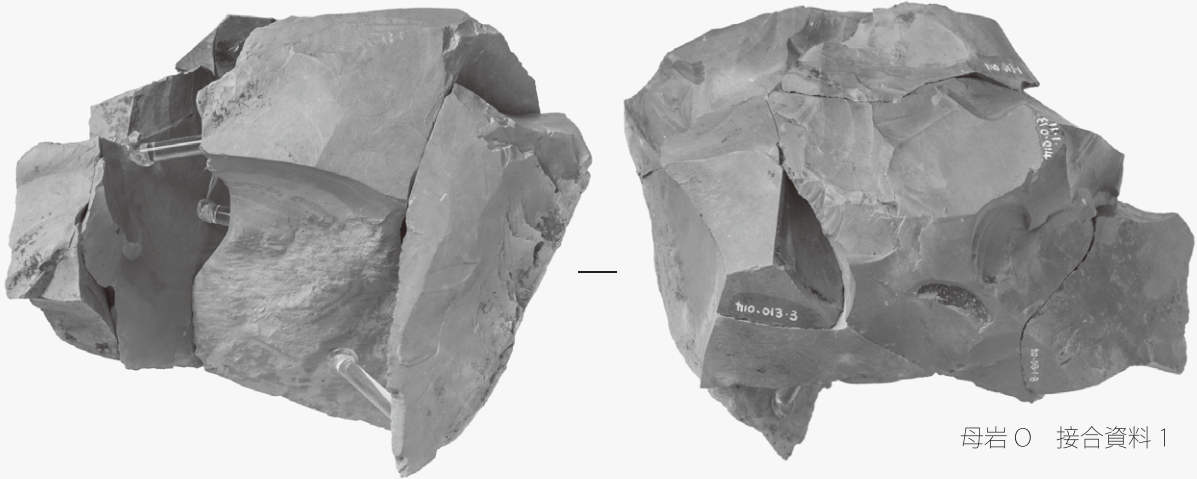
母岩 G · 母岩 L



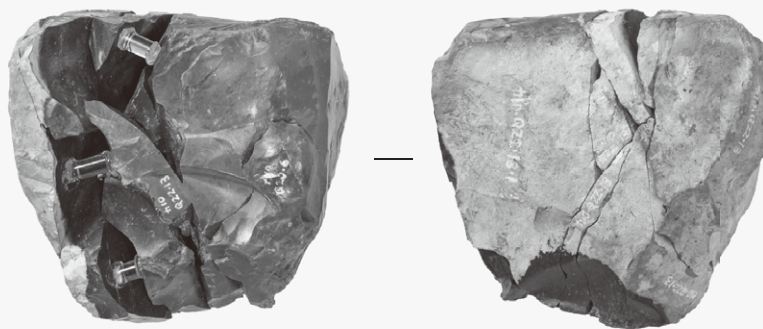
母岩 H · 母岩 J



母岩 M 接合資料 1



母岩 O 接合資料 1



母岩 P 接合資料 1

母岩 M · 母岩 O · 母岩 P



母岩 K · 母岩 N

報告書抄録

ふりがな	きこないちょう かまや10いせき							
書名	木古内町釜谷10遺跡							
副書名	高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書(北埋調報344集)							
シリーズ番号	第344集							
編著者名	藤井浩・直江康雄							
編集機関	公益財団法人北海道埋蔵文化財センター (http://www.domaibun.or.jp)							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1 TEL 011-386-3231							
発行年月日	平成30(西暦2018)年3月29日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かまや いせき 釜谷10遺跡	ほっかいどうかみいそぐん 北海道上磯郡 きこないちょうあざかまや 木古内町字釜谷 ばんち 260番地43	01334	B-05-58	41度 43分 30秒	140度 31分 48秒	2016 0512 ～ 2016 1028 (発掘調査)	1430㎡	高規格幹線道路函館江差自動車道建設に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
釜谷10遺跡	集落跡	縄文時代後期前葉	堅穴住居跡 2軒 土坑 16基 焼土 27か所	縄文土器(縄文後期前葉) 石器(石鏃、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、篋状石器、石斧、たたき石、すり石、扁平打製石器など、特にスクレイパー、たたき石が多く出土) 加工痕のある礫(花崗閃緑岩に見られる搬入と思われる石材が特徴)				
要約	<p>遺跡は木古内町の北東部に位置し、標高約80mの海岸段丘上に立地する。平成23・24年度調査の釜谷8遺跡に近接する。調査区は南北に細長く、尾根筋上にあたる中央部と北側、南側の斜面部からなる。最も高い中央部分を中心に多くの遺構、遺物が出土した。</p> <p>遺構は堅穴住居跡(H)2軒、土坑(P)16基、焼土(F)27か所の計45か所で確認した。</p> <p>堅穴住居跡は縄文時代後期前葉が1軒、縄文晩期が1軒である。</p> <p>土坑は16基すべてが縄文時代後期前葉のもので、フラスコ状ピットを含む径1.5m以上の大型土坑が5か所、径約1mの中型土坑が2か所、直径1m以下の小型土坑が6か所、径約50cm以下の柱穴状小ピットが3か所確認された。</p> <p>焼土は27か所で、大きさや形状も様々で、堅穴住居跡の炉跡、石組炉に伴うものも含まれる。時期は縄文時代中期末から縄文時代晩期にわたり、縄文時代後期前葉が最も多い。</p> <p>遺物は土器・石器・礫等が約50,250点出土した。土器は33,107点出土した。そのほとんどが縄文時代後期前葉のものである。</p> <p>石器、礫等は17,143点を数えた。石器は石鏃、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石斧、すり石、たたき石、台石・石皿などがあり、特に、スクレイパーとたたき石の数の多さが際立つ。遺構に伴う石器が多いことも特徴の一つで。般入品と考えられる大型の石器も出土した。</p> <p>剥片石器については接合作業を行い、数多くの接合資料を得ることができた。本遺跡周辺が頁岩を産出する地域でもあり、この遺跡が石器製作地としての性格も有することが考えられた。</p>							

(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第344集

木古内町 釜谷10遺跡

－高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書－
発行 平成30年（2018年）3月29日

編 集 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685番地1
TEL (011)386-3231 FAX (011)386-3238
<http://www.domaibun.or.jp/>

印 刷 富士プリント株式会社
〒060-0003 札幌市中央区北3条西17丁目2-33-4
TEL (011)623-1777 FAX (011)623-1778